

公益財団法人鹿児島県文化振興財団  
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 (18)

東九州自動車道建設（鹿屋串良 JCT～曾於弥五郎 IC間）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

# 天神段遺跡 3

（曾於郡大崎町）

縄文時代早期編

第3分冊

2018年3月

鹿児島県教育委員会  
公益財団法人鹿児島県文化振興財団  
埋蔵文化財調査センター

# 総目次

## 【第1分冊】

巻頭図版1
巻頭図版2
序文
報告書抄録
天神段遺跡位置図
例言・凡例
目次

## 第I章 発掘調査の経過

第1節 調査に至るまでの経緯
第2節 整理・報告書作成作業
1 作業内容
2 作業体制

## 第II章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境
第2節 歴史的環境

## 第III章 調査の方法と層序

第1節 調査の方法
1 発掘調査の方法
2 遺構の認定と検出方法

3 整理・報告書作成作業の方法
-----------------

## 第2節 層序

## 第IV章 発掘調査の成果

第1節 縄文時代早期の概要
第2節 遺構

## 【第2分冊】

第3節 遺物
1 土器（I類土器～XV類土器）

## 【第3分冊】

第3節 遺物
1 土器（XVI類土器～XX類土器）
2 土製品
3 石器

## 第V章 自然科学分析

第1節 概要
第2節 テフラ分析
第3節 放射性炭素年代測定

## 第VI章 総括

## 【第4分冊】

## 写真図版

# 第3分冊目次

## 目次

## 第IV章 発掘調査の成果

第3節 遺物	1
1 土器	1
(16) XVI類土器	1
(17) XVII類土器	35
(18) XVIII類土器	42
(19) XIX類土器	50
(20) XX類土器	58

2 土製品	68
-------	----

3 石器	76
------	----

VII層出土の石器	80
-----------	----

VI層出土の石器	131
----------	-----

## 第V章 自然科学分析

第1節 自然科学分析の概要	236
---------------	-----

第2節 テフラ分析	236
-----------	-----

第3節 放射性炭素年代測定	247
---------------	-----

## 第VI章 総括

# 挿図目次

第404図 XVI類土器出土分布図	2
第405図 XVI類土器(1)	3
第406図 XVI類土器(2)	4
第407図 XVI類土器(3)	5
第408図 XVI類土器(4)	7
第409図 XVI類土器(5)	8
第410図 XVI類土器(6)	9
第411図 XVI類土器(7)	10
第412図 XVI類土器(8)	12
第413図 XVI類土器(9)	13
第414図 XVI類土器(10)	14
第415図 XVI類土器(11)	15

第416図 XVI類土器(12)	16
第417図 XVI類土器(13)	17
第418図 XVI類土器(14)	18
第419図 XVI類土器(15)	19
第420図 XVI類土器(16)	20
第421図 XVI類土器(17)	21
第422図 XVI類土器(18)	23
第423図 XVI類土器(19)	24
第424図 XVI類土器(20)	25
第425図 XVI類土器(21)	26
第426図 XVI類土器(22)	27
第427図 XVI類土器(23)	29

第 428 图	XVI 類土器 (24)	30	第 488 图	VII 層出土石器 (25)	103
第 429 图	XVI 類土器 (25)	31	第 489 图	VII 層出土石器 (26)	104
第 430 图	XVI 類土器 (26)	32	第 490 图	VII 層出土石器 (27)	105
第 431 图	XVI 類土器 (27)	33	第 491 图	VII 層出土石器 (28)	106
第 432 图	XVI 類土器 (28)	34	第 492 图	VII 層出土石器 (29)	107
第 433 图	XVI 類土器 (29)	35	第 493 图	VII 層出土石器 (30)	108
第 434 图	XVII 類土器出土分布图	36	第 494 图	VII 層出土石器 (31)	109
第 435 图	XVII 類土器 (1)	37	第 495 图	VII 層出土石器 (32)	111
第 436 图	XVII 類土器 (2)	38	第 496 图	VII 層出土石器 (33)	112
第 437 图	XVII 類土器 (3)	39	第 497 图	VII 層出土石器 (34)	113
第 438 图	XVII 類土器 (4)	40	第 498 图	VII 層出土石器 (35)	114
第 439 图	XVII 類土器 (5)	41	第 499 图	VII 層出土石器 (36)	115
第 440 图	XVIII 類土器出土分布图	43	第 500 图	VII 層出土石器 (37)	116
第 441 图	XVIII 類土器 (1)	44	第 501 图	VII 層出土石器 (38)	117
第 442 图	XVIII 類土器 (2)	45	第 502 图	VII 層出土石器 (39)	118
第 443 图	XVIII 類土器 (3)	47	第 503 图	VII 層出土石器 (40)	119
第 444 图	XVIII 類土器 (4)	48	第 504 图	VII 層出土石器 (41)	120
第 445 图	XVIII 類土器 (5)	49	第 505 图	VII 層出土石器 (42)	121
第 446 图	XIX 類土器出土分布图	51	第 506 图	VII 層出土石器 (43)	122
第 447 图	XIX 類土器 (1)	52	第 507 图	VII 層出土石器 (44)	123
第 448 图	XIX 類土器 (2)	53	第 508 图	VII 層出土石器 (45)	124
第 449 图	XIX 類土器 (3)	54	第 509 图	VII 層出土石器 (46)	125
第 450 图	XIX 類土器 (4)	55	第 510 图	VII 層出土石器 (47)	126
第 451 图	XIX 類土器 (5)	56	第 511 图	VII 層出土石器 (48)	127
第 452 图	XIX 類土器 (6)	57	第 512 图	VI 層出土石器出土分布图 (石鏃)	128
第 453 图	XX 類土器出土分布图	59	第 513 图	VI 層出土石器出土分布图 (石鏃以外)	129
第 454 图	XX 類土器 (1)	61	第 514 图	VI 層出土石器 (1)	130
第 455 图	XX 類土器 (2)	62	第 515 图	VI 層出土石器 (2)	131
第 456 图	XX 類土器 (3)	63	第 516 图	VI 層出土石器 (3)	132
第 457 图	XX 類土器 (4)	65	第 517 图	VI 層出土石器 (4)	133
第 458 图	XX 類土器 (5)	66	第 518 图	VI 層出土石器 (5)	134
第 459 图	XX 類土器 (6)	67	第 519 图	VI 層出土石器 (6)	135
第 460 图	土製品出土分布图	68	第 520 图	VI 層出土石器 (7)	136
第 461 图	土製品	69	第 521 图	VI 層出土石器 (8)	137
第 462 图	VII 層出土石器出土分布图 (石鏃)	77	第 522 图	VI 層出土石器 (9)	138
第 463 图	VII 層出土石器出土分布图 (石鏃以外)	78	第 523 图	VI 層出土石器 (10)	139
第 464 图	VII 層出土石器 (1)	79	第 524 图	VI 層出土石器 (11)	140
第 465 图	VII 層出土石器 (2)	80	第 525 图	VI 層出土石器 (12)	141
第 466 图	VII 層出土石器 (3)	81	第 526 图	VI 層出土石器 (13)	142
第 467 图	VII 層出土石器 (4)	82	第 527 图	VI 層出土石器 (14)	143
第 468 图	VII 層出土石器 (5)	83	第 528 图	VI 層出土石器 (15)	144
第 469 图	VII 層出土石器 (6)	84	第 529 图	VI 層出土石器 (16)	145
第 470 图	VII 層出土石器 (7)	85	第 530 图	VI 層出土石器 (17)	146
第 471 图	VII 層出土石器 (8)	86	第 531 图	VI 層出土石器 (18)	147
第 472 图	VII 層出土石器 (9)	87	第 532 图	VI 層出土石器 (19)	148
第 473 图	VII 層出土石器 (10)	88	第 533 图	VI 層出土石器 (20)	149
第 474 图	VII 層出土石器 (11)	89	第 534 图	VI 層出土石器 (21)	150
第 475 图	VII 層出土石器 (12)	90	第 535 图	VI 層出土石器 (22)	151
第 476 图	VII 層出土石器 (13)	91	第 536 图	VI 層出土石器 (23)	152
第 477 图	VII 層出土石器 (14)	92	第 537 图	VI 層出土石器 (24)	153
第 478 图	VII 層出土石器 (15)	93	第 538 图	VI 層出土石器 (25)	154
第 479 图	VII 層出土石器 (16)	94	第 539 图	VI 層出土石器 (26)	155
第 480 图	VII 層出土石器 (17)	95	第 540 图	VI 層出土石器 (27)	156
第 481 图	VII 層出土石器 (18)	96	第 541 图	VI 層出土石器 (28)	157
第 482 图	VII 層出土石器 (19)	97	第 542 图	VI 層出土石器 (29)	158
第 483 图	VII 層出土石器 (20)	98	第 543 图	VI 層出土石器 (30)	159
第 484 图	VII 層出土石器 (21)	99	第 544 图	VI 層出土石器 (31)	160
第 485 图	VII 層出土石器 (22)	100	第 545 图	VI 層出土石器 (32)	161
第 486 图	VII 層出土石器 (23)	101	第 546 图	VI 層出土石器 (33)	162
第 487 图	VII 層出土石器 (24)	102	第 547 图	VI 層出土石器 (34)	163

第 548 図	VI層出土石器 (35) .....	164	第 587 図	VI層出土石器 (74) .....	204
第 549 図	VI層出土石器 (36) .....	165	第 588 図	VI層出土石器 (75) .....	205
第 550 図	VI層出土石器 (37) .....	167	第 589 図	VI層出土石器 (76) .....	206
第 551 図	VI層出土石器 (38) .....	168	第 590 図	VI層出土石器 (77) .....	207
第 552 図	VI層出土石器 (39) .....	169	第 591 図	VI層出土石器 (78) .....	208
第 553 図	VI層出土石器 (40) .....	170	第 592 図	VI層出土石器 (79) .....	209
第 554 図	VI層出土石器 (41) .....	171	第 593 図	VI層出土石器 (80) .....	210
第 555 図	VI層出土石器 (42) .....	172	第 594 図	VI層出土石器 (81) .....	211
第 556 図	VI層出土石器 (43) .....	173	第 595 図	VI層出土石器 (82) .....	212
第 557 図	VI層出土石器 (44) .....	174	第 596 図	VI層出土石器 (83) .....	213
第 558 図	VI層出土石器 (45) .....	175	第 597 図	VI層出土石器 (84) .....	214
第 559 図	VI層出土石器 (46) .....	176	第 598 図	VI層出土石器 (85) .....	215
第 560 図	VI層出土石器 (47) .....	177	第 599 図	VI層出土石器 (86) .....	216
第 561 図	VI層出土石器 (48) .....	178	第 600 図	比較試料採取地点の位置 .....	240
第 562 図	VI層出土石器 (49) .....	179	第 601 図	暦年較正年代グラフ .....	248
第 563 図	VI層出土石器 (50) .....	180	第 602 図	暦年較正年代グラフ .....	250
第 564 図	VI層出土石器 (51) .....	181	第 603 図	暦年較正年代グラフ .....	252
第 565 図	VI層出土石器 (52) .....	182	第 604 図	暦年較正年代グラフ (1) .....	254
第 566 図	VI層出土石器 (53) .....	183	第 605 図	暦年較正年代グラフ (2) .....	255
第 567 図	VI層出土石器 (54) .....	184	第 606 図	暦年較正年代グラフ (3) .....	256
第 568 図	VI層出土石器 (55) .....	185	第 607 図	暦年較正年代グラフ .....	257
第 569 図	VI層出土石器 (56) .....	186	第 608 図	暦年較正年代グラフ (1) .....	259
第 570 図	VI層出土石器 (57) .....	187	第 609 図	暦年較正年代グラフ (2) .....	260
第 571 図	VI層出土石器 (58) .....	188	第 610 図	暦年較正年代グラフ (1) .....	261
第 572 図	VI層出土石器 (59) .....	189	第 611 図	暦年較正年代グラフ (2) .....	262
第 573 図	VI層出土石器 (60) .....	190	第 612 図	暦年較正年代グラフ (1) .....	264
第 574 図	VI層出土石器 (61) .....	191	第 613 図	暦年較正年代グラフ (2) .....	265
第 575 図	VI層出土石器 (62) .....	192	第 614 図	暦年代の分布図 .....	265
第 576 図	VI層出土石器 (63) .....	193	第 615 図	暦年較正年代グラフ (1) .....	268
第 577 図	VI層出土石器 (64) .....	194	第 616 図	暦年較正年代グラフ (2) .....	269
第 578 図	VI層出土石器 (65) .....	195	第 617 図	暦年較正年代グラフ (3) .....	269
第 579 図	VI層出土石器 (66) .....	196	第 618 図	五角形鏃の出土状況図 .....	271
第 580 図	VI層出土石器 (67) .....	197	第 619 図	D~L-22区 土器出土状況図(垂直分布) .....	273
第 581 図	VI層出土石器 (68) .....	198	第 620 図	D~N-11~25区 XIII・XIV類土器出土状況図 .....	275
第 582 図	VI層出土石器 (69) .....	199	第 621 図	天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 (1) .....	276
第 583 図	VI層出土石器 (70) .....	200	第 622 図	天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 (2) .....	277
第 584 図	VI層出土石器 (71) .....	201	第 623 図	天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 (3) .....	278
第 585 図	VI層出土石器 (72) .....	202	第 624 図	天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 (4) .....	279
第 586 図	VI層出土石器 (73) .....	203			

## 表目次

第 50 表	XVI類土器観察表 (1) .....	70	第 63 表	VII層出土石器観察表 (1) .....	217
第 51 表	XVI類土器観察表 (2) .....	71	第 64 表	VII層出土石器観察表 (2) .....	217
第 52 表	XVI類土器観察表 (3) .....	72	第 65 表	VII層出土石器観察表 (3) .....	218
第 53 表	XVII類土器観察表 .....	72	第 66 表	VII層出土石器観察表 (4) .....	218
第 54 表	XVIII類土器観察表 (1) .....	72	第 67 表	VII層出土石器観察表 (5) .....	219
第 55 表	XVIII類土器観察表 (2) .....	73	第 68 表	VII層出土石器観察表 (6) .....	219
第 56 表	XIX類土器観察表 (1) .....	73	第 69 表	VII層出土石器観察表 (7) .....	220
第 57 表	XIX類土器観察表 (2) .....	74	第 70 表	VII層出土石器観察表 (8) .....	220
第 58 表	XX類土器観察表 (1) .....	74	第 71 表	VII層出土石器観察表 (9) .....	221
第 59 表	XX類土器観察表 (2) .....	75	第 72 表	VII層出土石器観察表 (10) .....	221
第 60 表	土製品観察表 .....	75	第 73 表	VII層出土石器観察表 (11) .....	222
第 61 表	天神段遺跡における石材分類 .....	76	第 74 表	VII層出土石器観察表 (12) .....	222
第 62 表	VII・VI層出土石器組成表 .....	76	第 75 表	VII層出土石器観察表 (1) .....	223

第 76 表	VI層出土石器観察表 (2).....	223	第 104 表	テフラ分析試料一覧.....	242
第 77 表	VI層出土石器観察表 (3).....	224	第 105 表	テフラ組織分析試料一覧.....	244
第 78 表	VI層出土石器観察表 (4).....	224	第 106 表	測定試料及び処理.....	248
第 79 表	VI層出土石器観察表 (5).....	225	第 107 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 ...	248
第 80 表	VI層出土石器観察表 (6).....	225	第 108 表	測定試料及び処理.....	249
第 81 表	VI層出土石器観察表 (7).....	226	第 109 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 ...	250
第 82 表	VI層出土石器観察表 (8).....	226	第 110 表	測定試料及び処理.....	251
第 83 表	VI層出土石器観察表 (9).....	227	第 111 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 ...	251
第 84 表	VI層出土石器観察表 (10).....	227	第 112 表	測定試料及び処理.....	253
第 85 表	VI層出土石器観察表 (11).....	228	第 113 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 (1) ...	253
第 86 表	VI層出土石器観察表 (12).....	228	第 114 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 (2) ...	254
第 87 表	VI層出土石器観察表 (13).....	229	第 115 表	測定試料及び処理.....	256
第 88 表	VI層出土石器観察表 (14).....	229	第 116 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 ...	257
第 89 表	VI層出土石器観察表 (15).....	230	第 117 表	測定試料及び処理.....	258
第 90 表	VI層出土石器観察表 (16).....	230	第 118 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 ...	259
第 91 表	VI層出土石器観察表 (17).....	231	第 119 表	放射性炭素年代測定結果.....	261
第 92 表	VI層出土石器観察表 (18).....	231	第 120 表	放射性炭素年代測定結果.....	261
第 93 表	VI層出土石器観察表 (19).....	232	第 121 表	測定試料及び処理.....	263
第 94 表	VI層出土石器観察表 (20).....	232	第 122 表	放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 ...	264
第 95 表	VI層出土石器観察表 (21).....	233	第 123 表	放射性炭素年代測定結果.....	267
第 96 表	VI層出土石器観察表 (22).....	233	第 124 表	放射性炭素年代測定結果.....	267
第 97 表	VI層出土石器観察表 (23).....	234	第 125 表	放射性炭素年代測定結果.....	268
第 98 表	VI層出土石器観察表 (24).....	234	第 126 表	遺構検出の炭化物の年代測定結果.....	270
第 99 表	VI層出土石器観察表 (25).....	235	第 127 表	天神段遺跡の五角形鏃.....	271
第 100 表	VI層出土石器観察表 (26).....	235	第 128 表	天神段遺跡出土の土器型式分類と出土点数 ...	272
第 101 表	自然科学分析実施一覧表.....	236	第 129 表	XIV類土器胴部縄文施文組成表.....	274
第 102 表	調査区層序と試料採取層位.....	237	第 130 表	XV類土器胴部縄文施文組成表.....	275
第 103 表	テフラ組成分析試料一覧.....	240			

## 第四章 発掘調査の成果

### 第3節 遺物

#### 1 土器 (XVI～XX類土器)

##### (16) XVI類土器 (第404～433図 1297～1410)

XVI類土器は貝殻腹縁部による貝殻刺突文、貝殻条痕文を主な文様とする一群である。口縁部が外反し、胴部中央でやや膨らみ、平底の底部にむけてすぼまる器形を主体とする。わずかに外傾するもの、やや外反もしくは直口気味に立ち上がる円筒形状の器形のものも含む。文様は多くが口縁部、胴部の2帯構成である。ただし、円筒形状の器形のもので口縁部から胴部下半まで同一の文様構成のものもある。外面には刺突文、沈線文、条痕文等を施す。施文具は貝殻以外のものもある。

本類土器は器形、文様ともに多様であるため、分類の概要を略述する。

まず、器形による大別を行った。口縁部が外反する一群、口縁部がわずかに外傾する一群、口縁部がやや外反もしくは直口気味に立ち上がる円筒形状の器形の一群の3つに分類した。

口縁部が外反する一群は、口縁部に貝殻刺突文のみを施す一群と口縁部に貝殻刺突文以外に沈線文や条痕文を付加し施文する一群の2つに分類した。口縁部に貝殻刺突文のみを施す一群はさらに胴部文様による細分を行った。口縁部に貝殻刺突文以外に沈線文や条痕文を付加し施文する一群は、さらに口縁部文様のモチーフや文様の組み合わせ等による細分を行った。

口縁部がわずかに外傾する一群は、それ以上の細分は行っていない。

口縁部がやや外反もしくは直口気味に立ち上がる円筒形状の器形の一群は、さらに口縁部上位と口縁部下位から胴部下半までの2帯に文様構成が分かれる一群と口縁部から胴部下半まで同一の文様構成の一群とに細分した。

1297～1351は口縁部が外反する一群である。

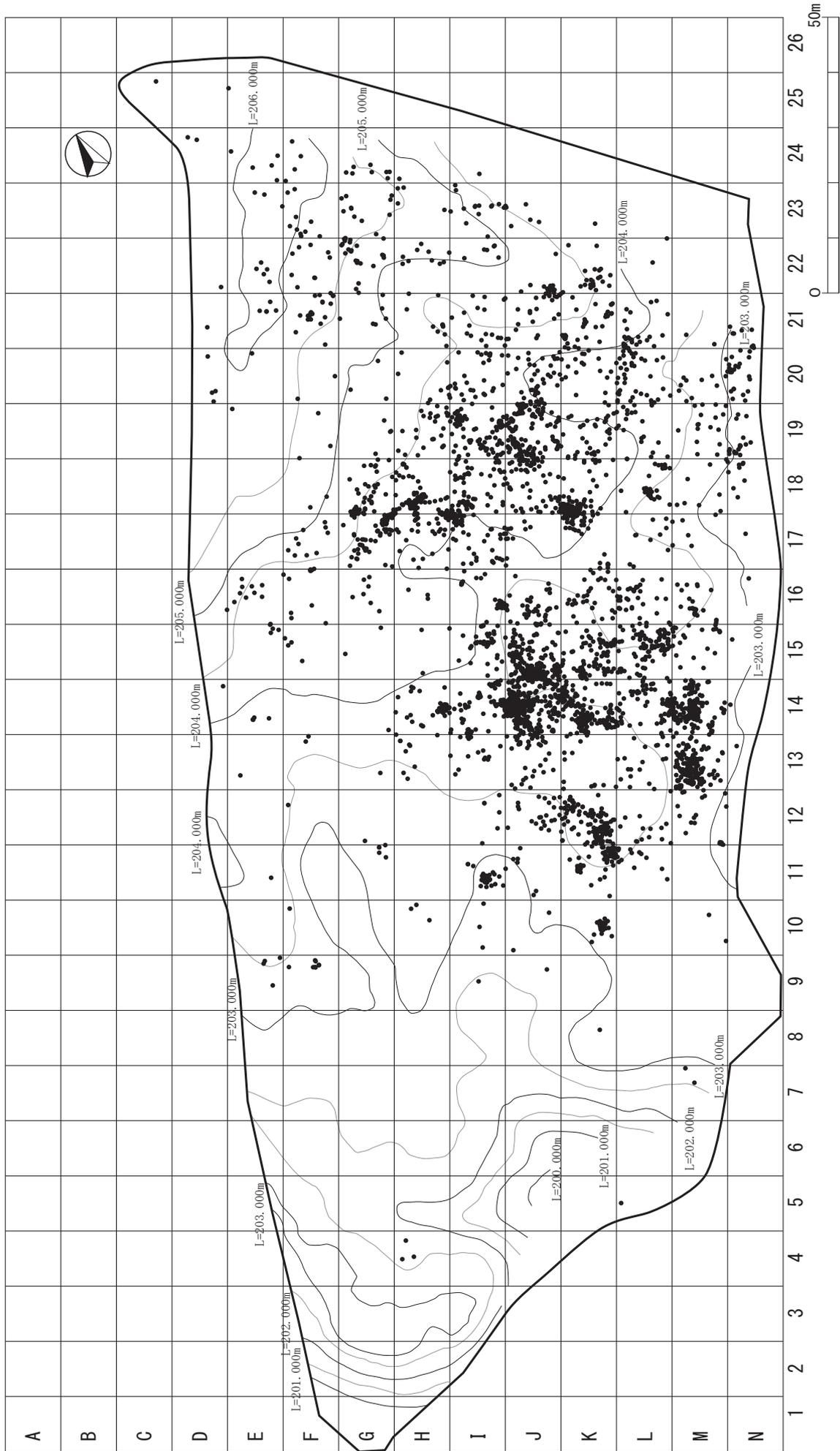
1297～1314は口縁部に横位の貝殻刺突文のみを施す一群である。

胴部文様は貝殻条痕文を施した後、両端に沈線を施し区画する一群、貝殻条痕文のみを施す一群、貝殻刺突文のみを施す一群に細分した。

1297・1298は胴部に貝殻条痕文を施した後、両端に沈線を施し区画する一群である。いずれも口縁部から胴部中央付近の土器片である。口縁部に貝殻腹縁部を縦位の状態で器面に対してやや寝かせるように深く押し当て、押し引くように横位の刺突を施す。口唇部にも同様の施文具で刻目を入れる。1298は口唇部外端部に刻目を

入れる。胴部は貝殻条痕文を帯状に斜位に施す。その後、貝殻条痕文の両端に沈線を施し区画する。沈線よりはみ出した条痕は、ナデ消している。1297は口縁部内面に貝殻条痕が一部確認できる。1298は胴部外面に煤状の炭化物が確認できる。

1299～1308は胴部に貝殻条痕文のみを施す一群である。1302～1304は口縁部付近のみであるが、1299等と口縁部形態、文様が類似することから、ここに含めた。1299～1304は口縁部がわずかに屈曲する。1299・1300は口縁部中位、屈曲部、頸部に横位の貝殻刺突文を1段ずつ施す。同様の施文具で口唇部外端部から平坦面に刻目を入れる。頸部と胴部境付近に、貝殻条痕文を横位に施す。1299は胴部に横長の菱形状のモチーフを貝殻条痕文で描き、1300も菱形状のモチーフの一部と考えられる横位、斜位の貝殻条痕文を施す。いずれも内面にナデを行っている。1301は口縁部から胴部下半まで復元することができた。口縁部中位、屈曲部、屈曲部下から頸部、頸部に貝殻刺突文を横位に施す。胴部は貝殻条痕文を横位、斜位に施す。内面は口縁部付近を中心に丁寧なナデを行っている。1302・1303は口縁部に横位、斜位の貝殻刺突文を施す。口唇部外端部に同様の施文具で刻目を入れる。1303は胎土に金雲母を多く含む。1304は口縁部がやや内傾し、わずかに屈曲する波状口縁を呈する器形である。口縁部に貝殻刺突文を横位に施した後、縦位、斜位の沈線を施文する。1305～1314は口縁部がラップ状に外反する。1305は口縁部から胴部下半まで復元することができた。口縁部中央、頸部、頸部と胴部の境付近に貝殻刺突文を1段ずつ施す。口唇部にも同様の施文具で刻目を入れる。胴部は貝殻条痕文を横位、斜位に施す。内面は丁寧なナデを行っている。1306は口縁部から胴部上半まで復元することができた。口縁部上位のやや下がった位置から頸部と胴部の境付近まで、横位の貝殻刺突文を3段施す。口唇部に刻目を入れる。胴部は横位の貝殻条痕文を施す。口縁部には焼成後に外面から穿孔したと考えられる補修孔が1か所確認できる。1307はほぼ完形に復元することができた。口縁部がやや外反し、胴部もさほど膨らまず、底部に向けて直線的にすぼまる縦長の器形である。口縁部から頸部に貝殻の腹縁部による押し引き状の貝殻刺突文を横位に4段施す。口唇部外端部にも同様の施文具で刻目を入れる。胴部は棒状工具の先端を細く加工したもので、底面境付近まで縦位に浅い沈線を施し、器面の割付けを行う。その後、縦位の沈線間に同様の施文具で斜位の浅い沈線を行う。内面は頸部から胴部にかけて、指おさえ痕が多数確認できる。



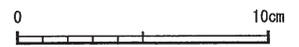
第 404 图 XV 類土器出土分布図



1297



1298

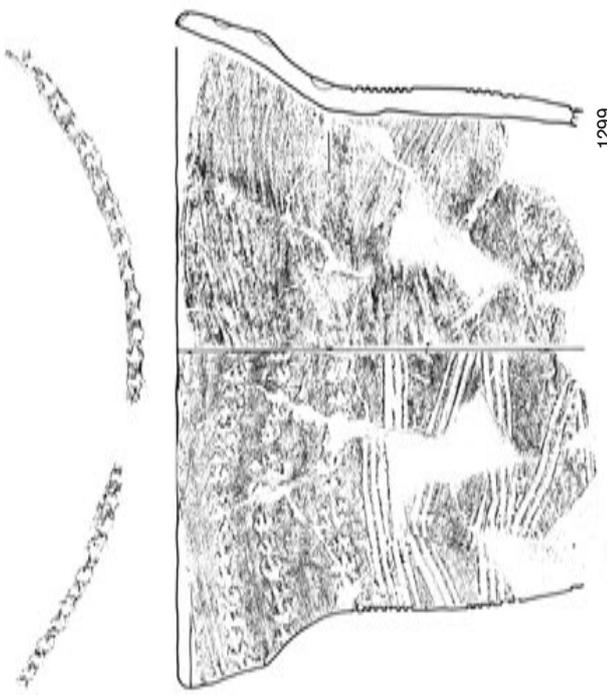


第 405 図 XVI類土器 (1)

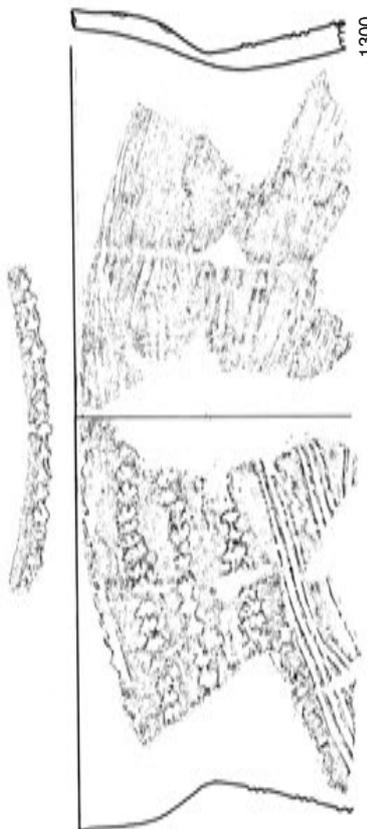




1301



1299



1300



1304



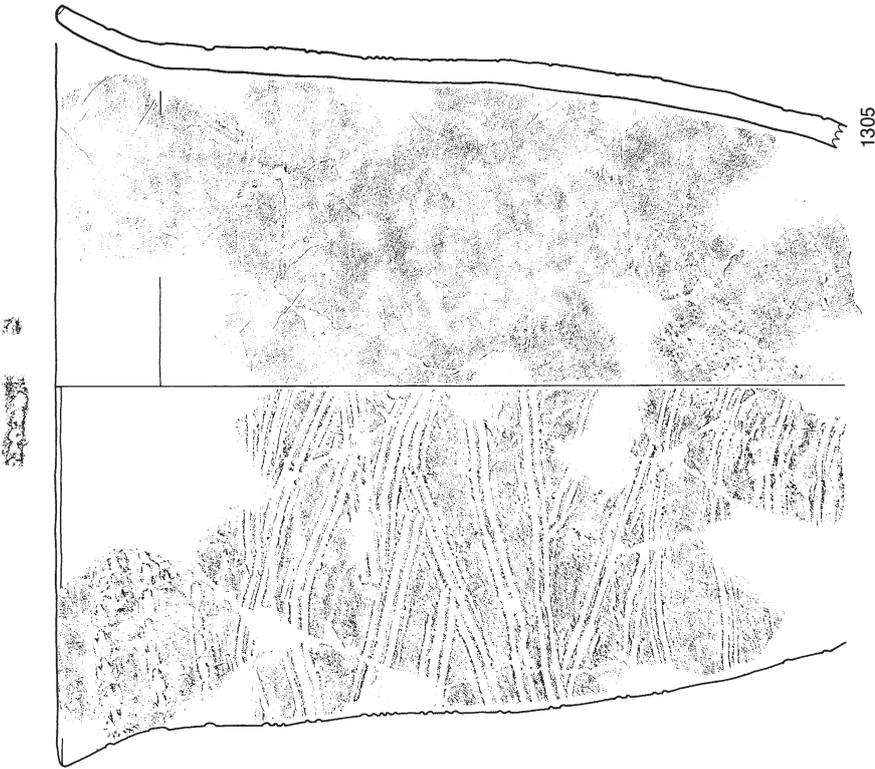
1303



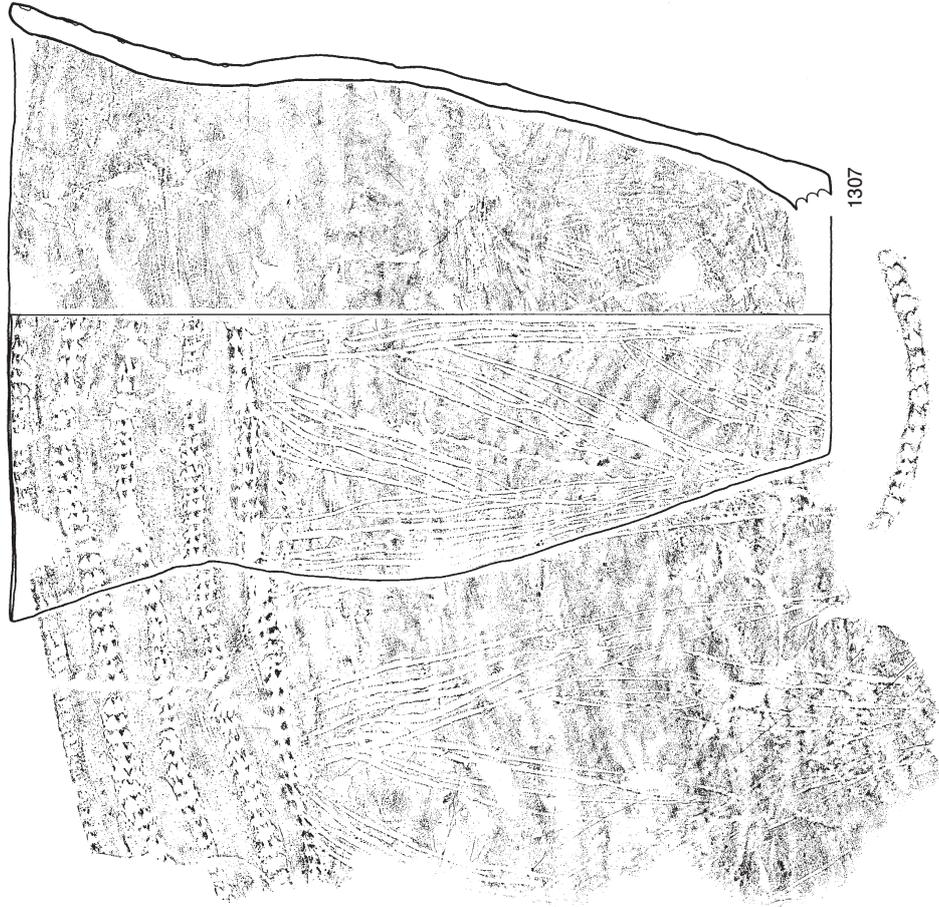
1302



第 406 図 XV類土器 (2)



1305



1307



1306



1308



第 407 図 XV 類土器 (3)

1308 は口縁部から胴部下半まで復元することができた。口縁部上位に貝殻刺突文を1段施す。同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。頸部に横位の沈線を2条施し、胴部は斜位の沈線で「V」字状のモチーフを描く。内面は横位のケズリを行った後、ナデを行う。

1309・1310 は胴部に貝殻刺突文のみを施す一群である。1310 は口縁部付近のみであるが、1309 の口縁部形態及び文様と類似することからここに含めた。1309 は口縁部上位と頸部付近に、幅広の押しき状の貝殻刺突文を横位に1段ずつ施した後に、横位の貝殻刺突文間に斜位の貝殻刺突文で横長の菱形状のモチーフを描く。口唇部にも同様の施文具で刻目を入れる。胴部にも同様の貝殻刺突文を横位に施す。1310 も押しき状の貝殻刺突文で口縁部に菱形状のモチーフを描いたと考えられる。

1311～1314 は口縁部付近のみであるが、胴部に貝殻条痕、貝殻刺突を施文する一群の一部と考えられる。1311 は口縁部に横位の貝殻刺突文を施す。口唇部外端部にも同様の施文具で刻目を入れる。1312 はやや大振りの貝殻腹縁部を施文具として用いている。口縁部上位と頸部に横位の貝殻刺突文を施し、横位の貝殻刺突文間に斜位の貝殻刺突文を施している。内面に横位、斜位のケズリを行っている。1313・1314 は貝殻腹縁部を器面に対して直行するように当て、施文を行っている。口唇部の刻目も貝殻腹縁部を用いて施している。いずれも内面はナデを行い、指おさえ痕が多数確認できる

1315～1345 は口縁部から頸部に貝殻刺突文と沈線を施文する一群である。一部横位の押しき状の貝殻刺突文と貝殻条痕文を施文するものも含む。

口縁部に貝殻刺突文を施し、さらに斜位の沈線で直線状の施文を行う一群と沈線等で曲線状の施文を行う一群、押しき状の貝殻刺突文や貝殻条痕文で横位の施文を行う一群、横位の貝殻刺突文と貝殻条痕文を施す一群、沈線等で縦位の施文を行う一群の4つに分類した。

1315～1333 は口縁部に貝殻刺突文に加え、斜位の沈線で直線状の施文を行う一群である。口縁部形態と口縁部上位の横位の貝殻刺突文の有無で細分した。口縁部がわずかに屈曲する一群、口縁部がラップ状に外反し口縁部上位と頸部に横位の貝殻刺突文を施し、貝殻刺突文間に斜位の沈線もしくは細条線を施す一群、口縁部がラップ状に外反し、頸部付近に横位の貝殻刺突文を施し、同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。さらに口縁部に斜位の沈線もしくは貝殻条痕文を施す一群の3つに分類した。

1315～1319 は口縁部がわずかに屈曲する一群である。1315 は口縁部から胴部下半まで復元することができた。口縁部中位、頸部に横位の貝殻刺突文を1段ずつ施す。その後、貝殻刺突文間に先端を細く加工した棒状工具で斜位の浅い沈線を斜格子状に施す。胴部は横位の貝殻条

痕文を施す。内面は横位、斜位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。1316 は屈曲部、頸部と胴部の境付近に横位の貝殻刺突文を施す。同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。口縁部は刻目と屈曲部の横位の貝殻刺突文の間に斜位の貝殻刺突文を施す。頸部には先端を細く加工した棒状工具で、斜位の浅い沈線を斜格子状に施す。胴部上半に横位の浅い沈線と貝殻条痕文が一部確認できる。胎土に金雲母を多く含む。1317 は文様、調整、胎土等が1316 と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1318 は口縁部に横位の貝殻刺突文を2段施し、頸部に先端を細く加工した棒状工具を器面に深く押し当て、斜位の明瞭な沈線で斜格子状のモチーフを描く。内面は横位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。1319 は屈曲部、頸部に横位の貝殻刺突文を1段ずつ施す。同様の施文具で口唇部外端部に刻目を入れる。刻目と屈曲部の貝殻刺突との間に先端を細く加工した棒状工具による浅い沈線で菱形状のモチーフを描く。胴部は縦位の貝殻条痕文で器面の割付けを行った後、横位の貝殻条痕文を間隔を空けて施す。内面は横位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。

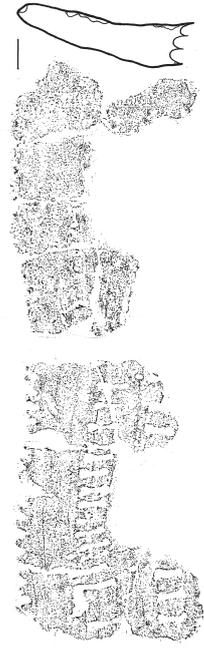
1320～1324 は口縁部がラップ状に外反する。口縁部上位と頸部に横位の貝殻刺突文を施し、貝殻刺突文間に斜位の沈線もしくは細条線を施す一群である。1320 は口縁部から胴部下半まで復元することができた。胴部中央で緩やかに膨らみ、底部に向けて曲線的にすぼまる器形である。口縁部上位に1段、頸部付近に2段、横位の貝殻刺突文を施す。同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。横位の貝殻刺突文間に櫛歯状工具による細条線で鋸歯状のモチーフを描く。胴部は貝殻の腹縁部による条痕を横位に間隔を空けて施文する。内面はケズリを行った後、ナデを行う。口縁部外面に煤状の炭化物が確認できる。1321 は口縁部から胴部下半まで復元することができた。頸部でわずかにくびれ、口縁部が外反する。胴部中央で膨らみ、底部に向けて直線的にすぼまる器形である。口縁部上位に貝殻刺突文を1段、頸部から胴部上半に押しき状の貝殻刺突文を3段施す。同様の施文具で口唇部の刻目を入れる。口縁部の貝殻刺突文間には、貝殻条痕で菱形状のモチーフを描く。胴部中央から下半には、横位の貝殻条痕文を間隔を空けて施す。1322・1323 は口縁部上位、頸部に横位の貝殻刺突文を施す。同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。横位の貝殻刺突文間には先端を鋭く加工した棒状工具による明瞭な斜位の沈線で菱形状のモチーフを描く。いずれも2本1単位の沈線である。1322 の口縁部に施される斜位の沈線は、右上がり施文が先である。1323 はその逆である。1324 は口縁部上位に1段、頸部付近に2段、横位の貝殻刺突文を施す。横位の貝殻刺突文間には、棒状工具による浅い沈線で斜格子のモチーフを描く。胴部は横位の貝殻条痕文を施す。



1312



1313



1314



1309



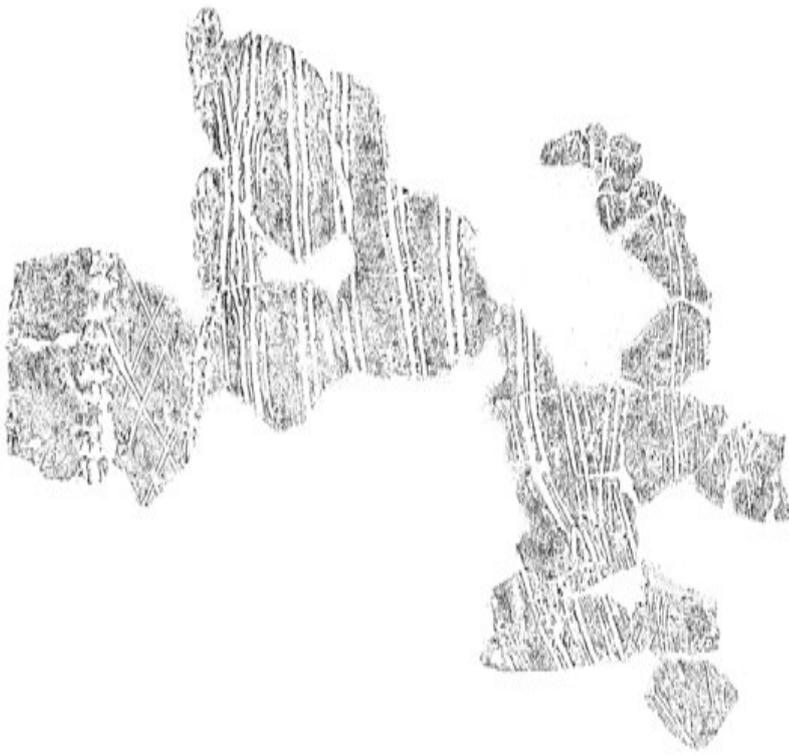
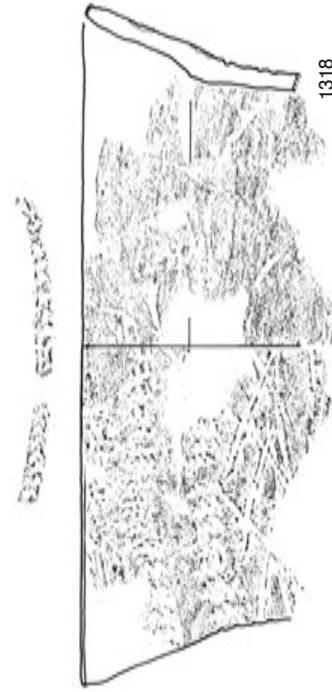
1310



1311



第 408 図 XV 類土器 (4)



第 409 図 XV類土器 (5)

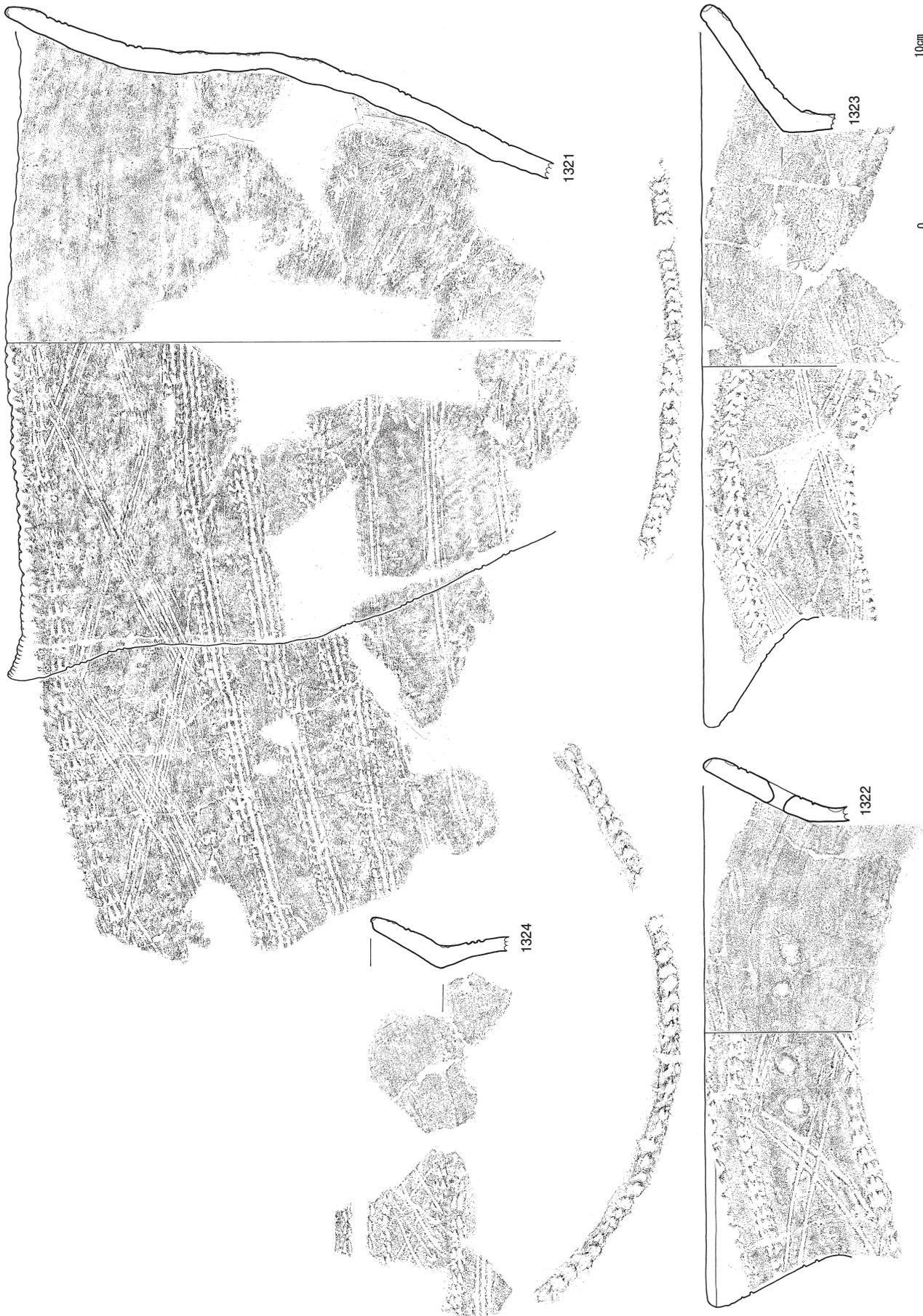


1320



1319

第 410 図 XV 類土器 (6)



第 411 図 XV 類土器 (7)

1325～1333は口縁部がラッパ状に外反し、頸部付近に横位の貝殻刺突文を施し、同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。さらに口縁部に斜位の沈線もしくは貝殻条痕文を施す一群である。棒状工具による横位の刺突を施すものも含む。また、口縁部文様が胴部に及ぶものも含む。1325は口縁部から胴部中央まで復元することができる。頸部に横位の貝殻刺突文を1段施す。口唇部外端部に同様の施文具で刻目を入れる。口縁部から胴部に棒状工具による浅い沈線で斜位の帯状の区画を描く。その後、区画内に斜位の浅い沈線を充填する。内面は横位のケズリを行った後、ナデを行う。1326は口縁部から胴部下半まで復元することができる。文様、調整、胎土等が1325と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1327は口縁部から胴部下半まで復元することができる。4単位の波状口縁を呈すると考えられる。頸部付近から胴部上半にかけて横位の貝殻刺突文を3段施し、同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。口縁部上位に横位の貝殻条痕文を施した後、斜位の貝殻条痕文で菱形状のモチーフを描く。胴部中央から下半にかけて貝殻条痕文を横位、斜位に施す。内面は指おさえ痕が多数確認できる。1328は口縁部から胴部中央付近まで復元することができた。頸部付近に棒状工具による横位の刺突を施す。口唇部に刻目を入れる。口縁部は先端を細く加工した棒状工具による明瞭な斜位の沈線で鋸歯状のモチーフを描く。胴部は横位の貝殻条痕文を施し、内外面に指おさえ痕が多数確認できる。内面に横位のケズリを行う。1329は文様、調整、胎土が1328と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1330は浅い沈線で鋸歯状のモチーフを描いたと考えられる。内面に横位のケズリを行う。1331・1332は口縁部下位から頸部付近に横位の貝殻刺突文を施す。1331は3段、1332は1段である。同一の施文具で口唇部に刻目を入れる。口縁部は浅い沈線で斜格子状のモチーフを描く。胴部に横位の貝殻条痕文を施す。いずれも胎土に金雲母を多く含む。内面に横位のケズリを行い、1331はケズリの後に丁寧なナデを行う。1333はほぼ完形に復元することができた。胴部中央付近で緩やかに膨らみ、幅狭の底部に向けて曲線的にすぼまる器形である。波状口縁を呈すると考えられるが、波頂部等の対称的な部分間の高さが一律でないため単位数が判然としない。上面観は口唇部、頸部内面、底部内面でかなり歪んだ楕円形状を呈し、底部内面から同心円状に広がっていない。外面の文様は口唇部の刻目を除いて、器面を縦位に分割した6割程度が棒状工具を用いた斜位の沈線を主体とした文様で、残り4割程度が刷毛状工具を用いた細条線を主体とした文様である。文様が転換する箇所にも明瞭な割付けの痕跡は確認できない。斜位の沈線を主体とした文様の部分は、頸部に棒状工具で3段の横位の刺突を施した後、口縁部に「×」状のモチー

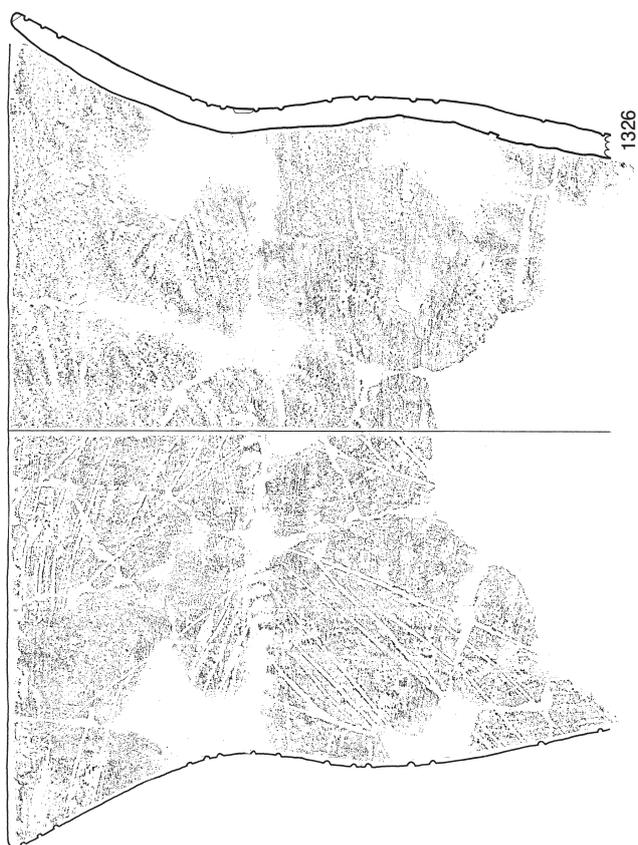
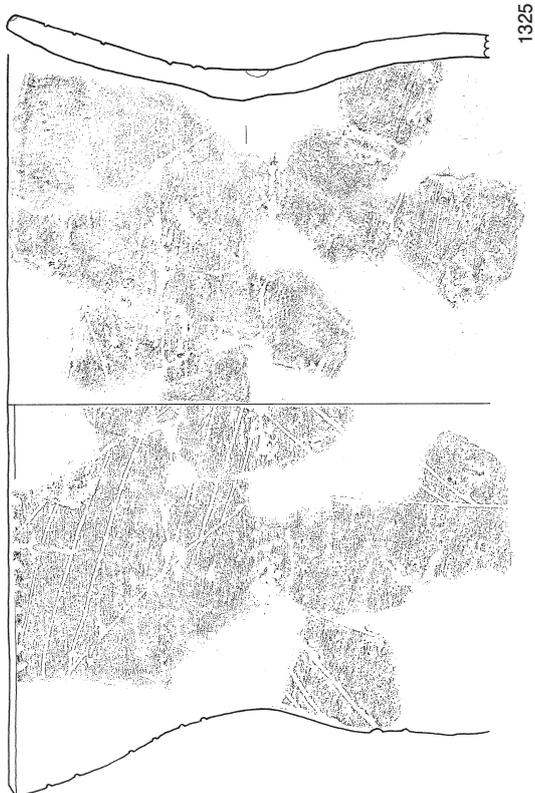
フを描く。胴部は斜格子状のモチーフを描く。胴部下半の一部に横位の貝殻条痕状の施文を行う箇所があるが施文具が判然としない。細条線を主体とした文様の部分は、頸部に刺突は見られず、口縁部に「×」状のモチーフを描く。胴部は胴部中央付近まで、横位の細条線を間隔を空けて施文する。頸部付近で一部施文の幅が短く、短沈線状の箇所がある。胴部下半は無文である。内面は横位のケズリを行った後、ナデを行う。

1334～1339は沈線または、貝殻条痕で曲線状の施文を行う一群である。頸部付近に横位の貝殻刺突文を施す一群と口縁部上位、頸部付近に横位の短沈線状の貝殻刺突文と横位の貝殻条痕を施し、口縁部を区画する一群とに細分できる。

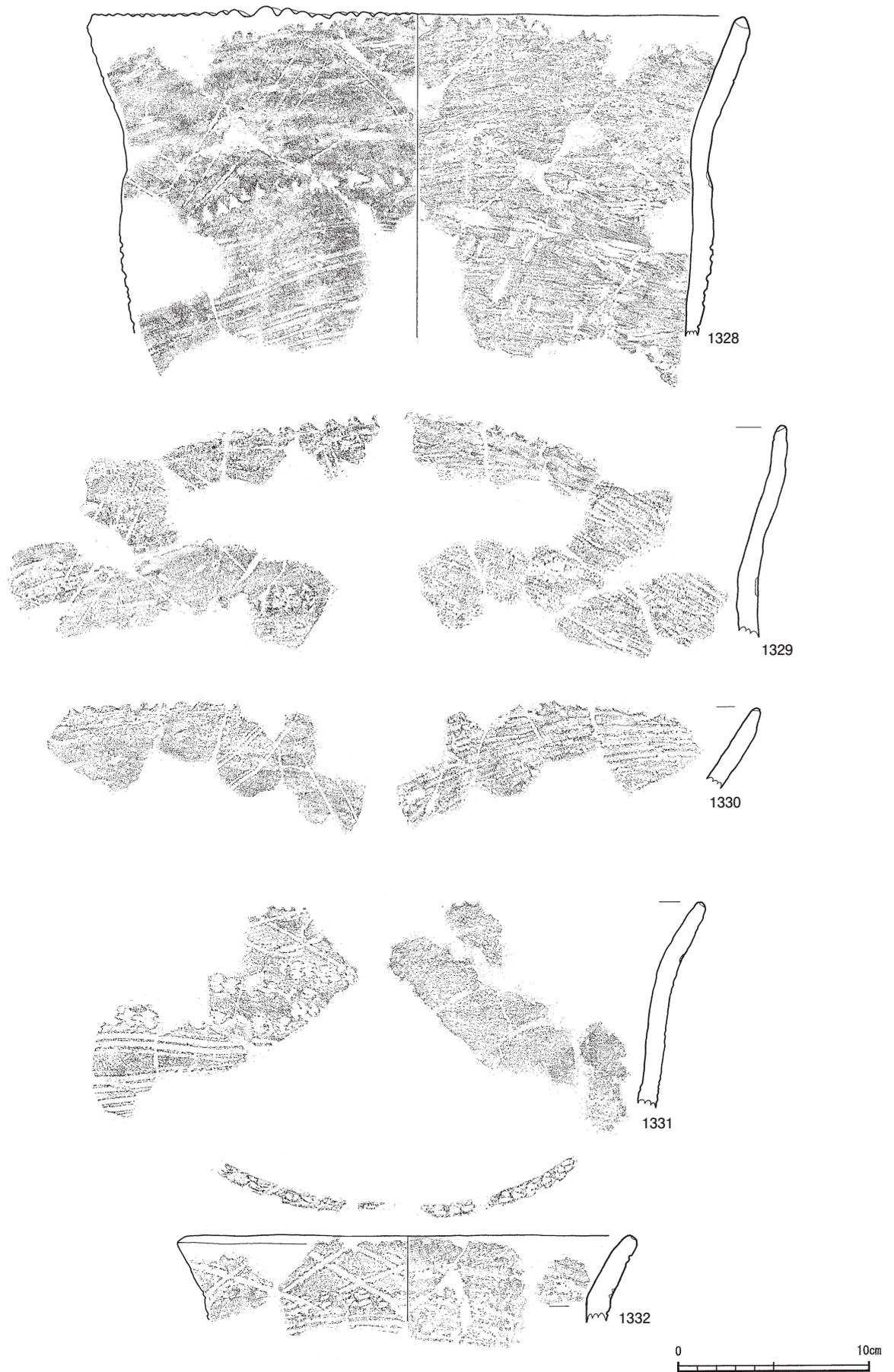
1334～1337は頸部付近に横位の貝殻刺突文を施し、同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。刻目と横位の貝殻刺突文間に沈線、もしくは貝殻条痕で曲線状のモチーフを描く一群である。1334はほぼ完形に復元することができる。頸部が緩やかにくびれ、胴部上半でやや膨らみ、底部に向けて曲線的にすぼまる器形である。横位の貝殻刺突文を口縁部上位に1段、頸部から胴部上半に4段施す。その後、口縁部上位と頸部の貝殻刺突文間に、貝殻条痕文で縦長の楕円状、円弧状のモチーフを描く。胴部中央から胴部下半には、横位の貝殻条痕文を間隔を空けて施文する。底部円盤の外周上のやや内側に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。内面はナデを行う。1335・1337は口縁部から胴部下半まで復元することができた。1335は頸部から胴部上半付近に横位の貝殻刺突文を間隔を空けて施した後、貝殻刺突文間に貝殻条痕文を施す。口縁部は口唇部の刻目と頸部に施された横位の貝殻刺突文間に、縦長の渦文状のモチーフを貝殻条痕文で描く。一部斜格子状のモチーフを描く箇所もある。胴部下半は、口縁部と同様に貝殻条痕文を格子状に施す。内面に丁寧なナデを行う。1336は完形に復元することができた。口縁部中位、頸部に横位の貝殻刺突文を1段ずつ施す。その後、口縁部に沈線で円弧状のモチーフを描く。胴部上半は縦長の指頭状のモチーフを浅い沈線で描く。胴部下半には、横位の貝殻条痕文を施す。底部円盤の外周上のやや内側に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。1337は頸部が緩やかにくびれる器形である。頸部から胴部上半に横位の貝殻刺突文を施す。口縁部は貝殻条痕文で菱形状のモチーフを描き、その内部にも円形のモチーフを描く。口縁部上位に、縦長の円弧状のモチーフを描く箇所がある。内外面に指おさえ痕が多数確認できる。胎土に雲母を多く含む。

1338・1339は口縁部上位、頸部付近に横位の短沈線状の貝殻刺突文と横位の貝殻条痕を施し、口縁部を区画する一群である。施文具が器面を離れずに貝殻条痕文となる箇所もある。口縁部に貝殻条痕文で縦長の楕円形状、





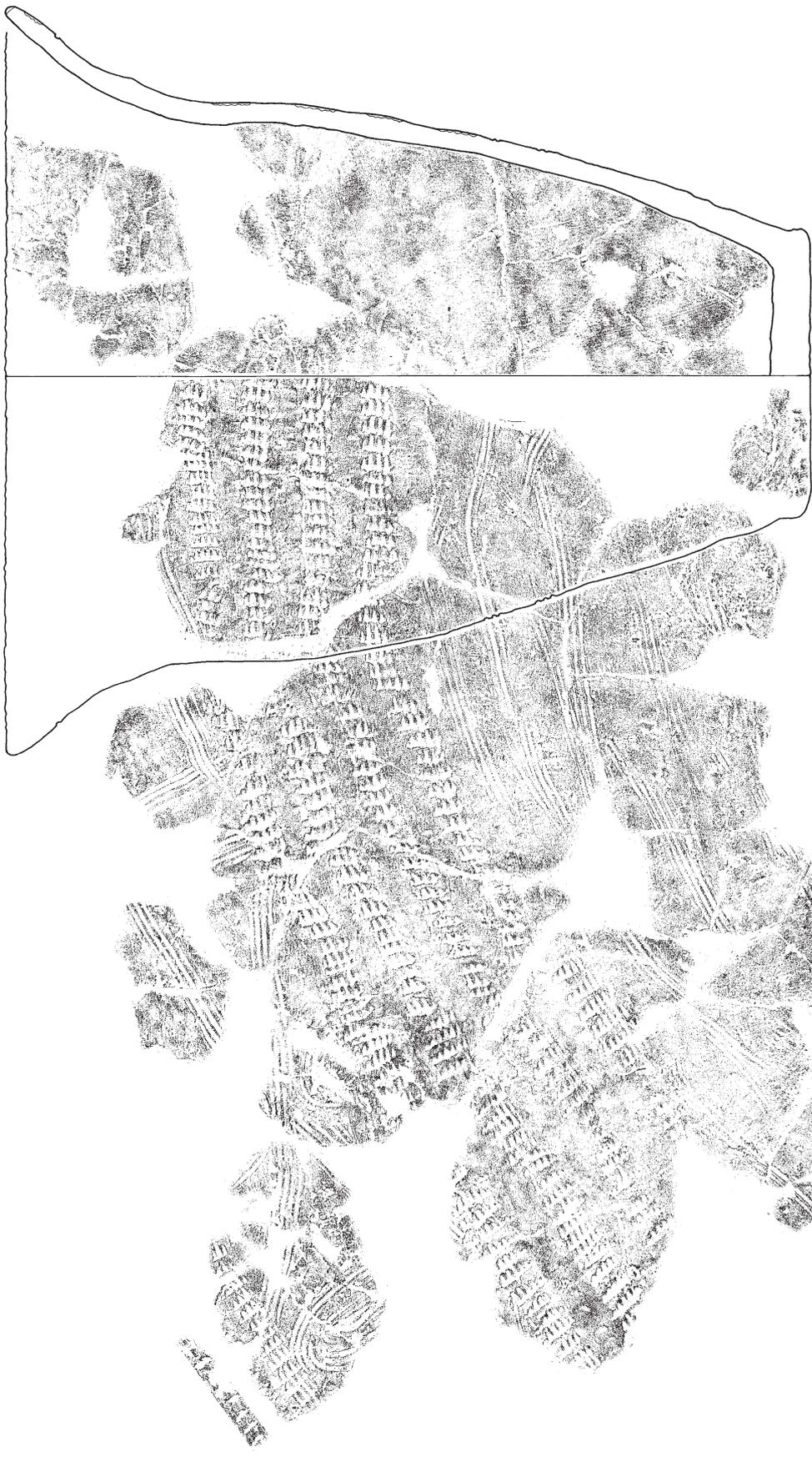
第 412 図 XV類土器 (8)



第 413 図 XVI類土器 (9)



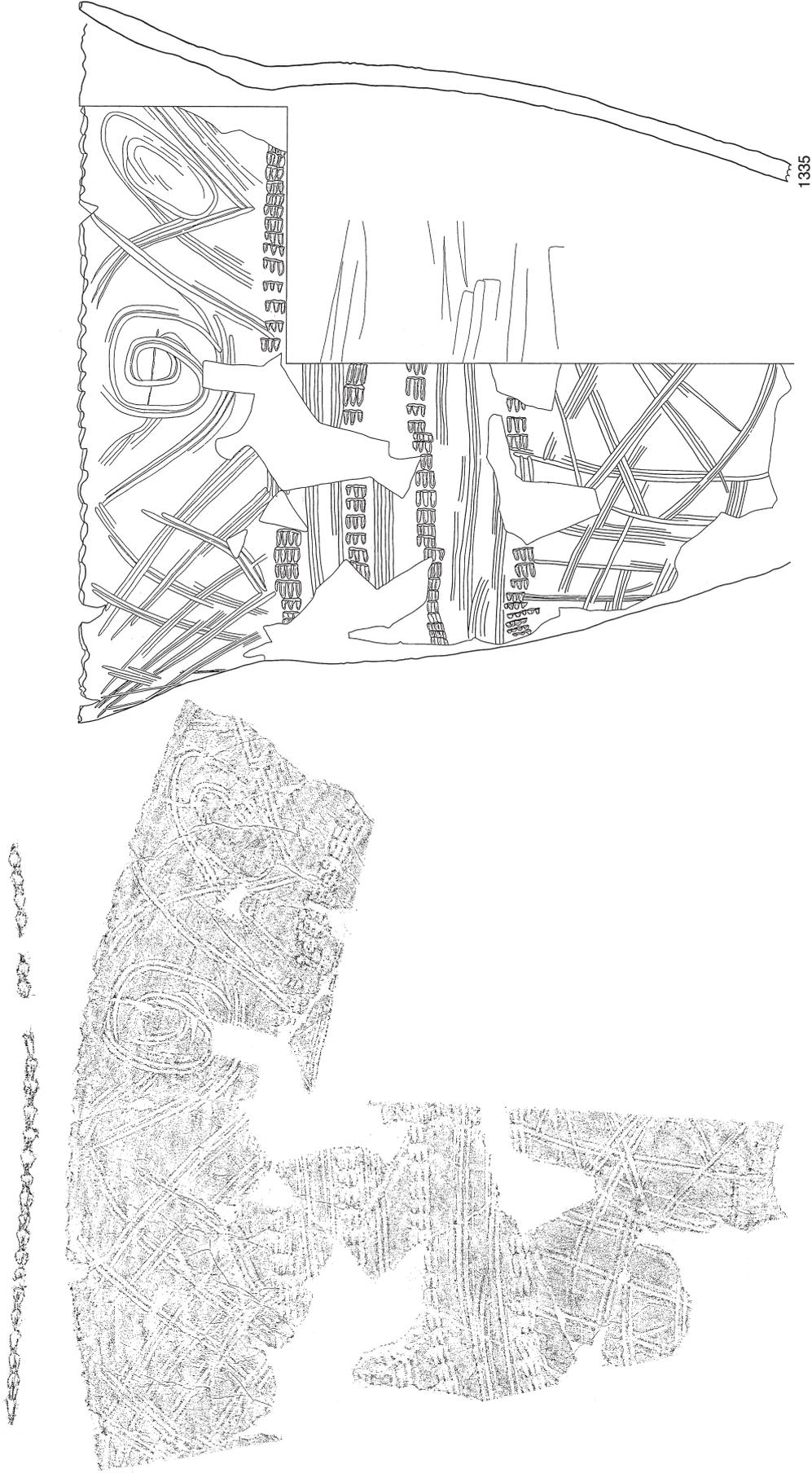
第414图 ⅩⅧ类土器(10)



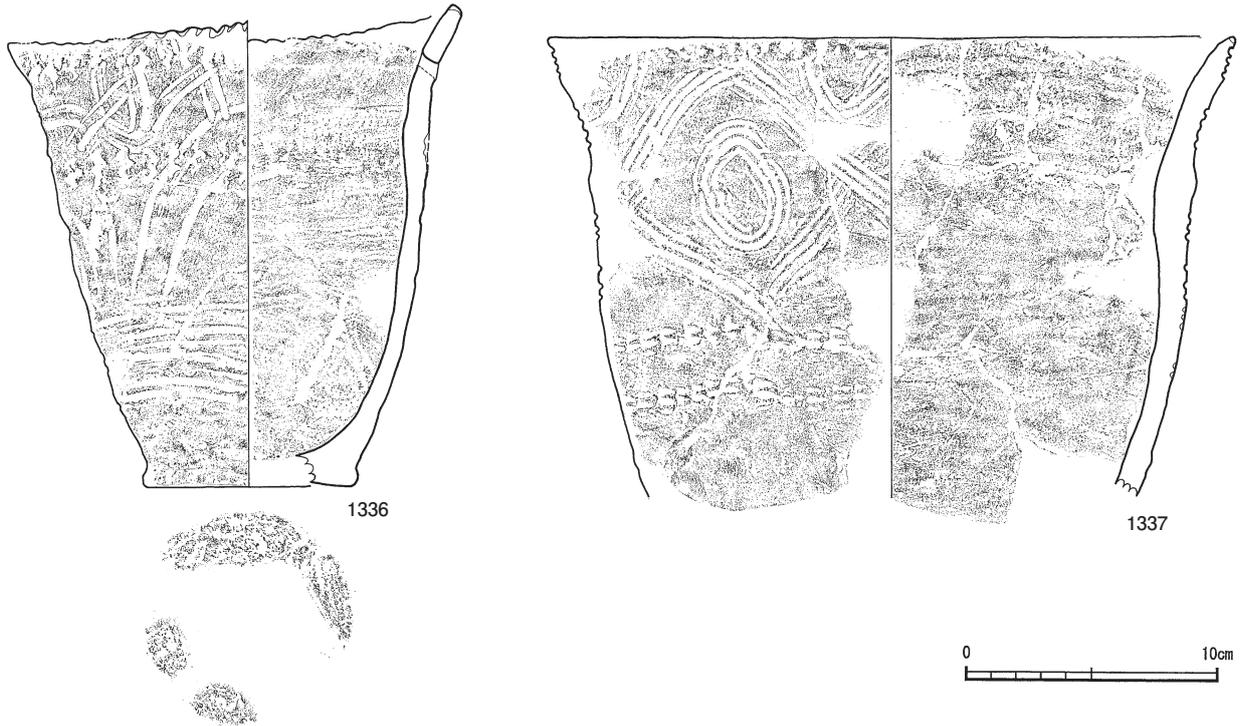
1334



第415图 ⅩⅧ類土器(11)



第416图 XVI類土器(12)



第417図 XVI類土器(13)

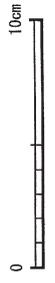
斜格子状のモチーフを描く。1338は口縁部から胴部下半まで復元することができる。4単位の波状口縁を呈すると考えられる。幅広の口縁部はやや外側に開き、頸部でわずかにくびれ、底部に向けて曲線的にすぼまる器形であると考えられる。口縁部上位に横位の短沈線状の貝殻刺突文を1段施すが、一部貝殻条痕文の箇所もある。頸部付近には間隔をやや空けて横位の貝殻条痕文を2条施している。幅広の口縁部は、波頂部下に縦位の貝殻条痕文で器面の割付けを行った後、貝殻条痕文で楕円形状、斜格子状のモチーフを描く。胴部は貝殻条痕文を斜格子状に施す。内面はケズリを行った後、丁寧なナデを行う。1339は1338と文様、調整、胎土等が類似するものの、頸部は横位の短沈線状の貝殻刺突文で施される点が異なる。

1340～1344は口縁部から頸部付近に、押し引き状の貝殻刺突文や貝殻条痕文で横位の施文を主に施す一群である。刺突に用いた同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。1340・1341は口縁部から胴部下半まで復元することができた。1340は口縁部がわずかに屈曲し、外反する器形である。口縁部上位のやや下がった位置から頸部と胴部の境付近まで、横位の押し引き状の貝殻刺突文を4段施す。貝殻刺突文は施文具を器面から離さずに施されたと考えられる。その後、口縁部には押し引き状の貝殻刺突文を斜位に施す。一部貝殻条痕文状を呈する箇所がある。胴部中央から下半は、貝殻条痕文を間隔を空けて横位に施す。内面は横位のケズリを行った後、口縁部付近

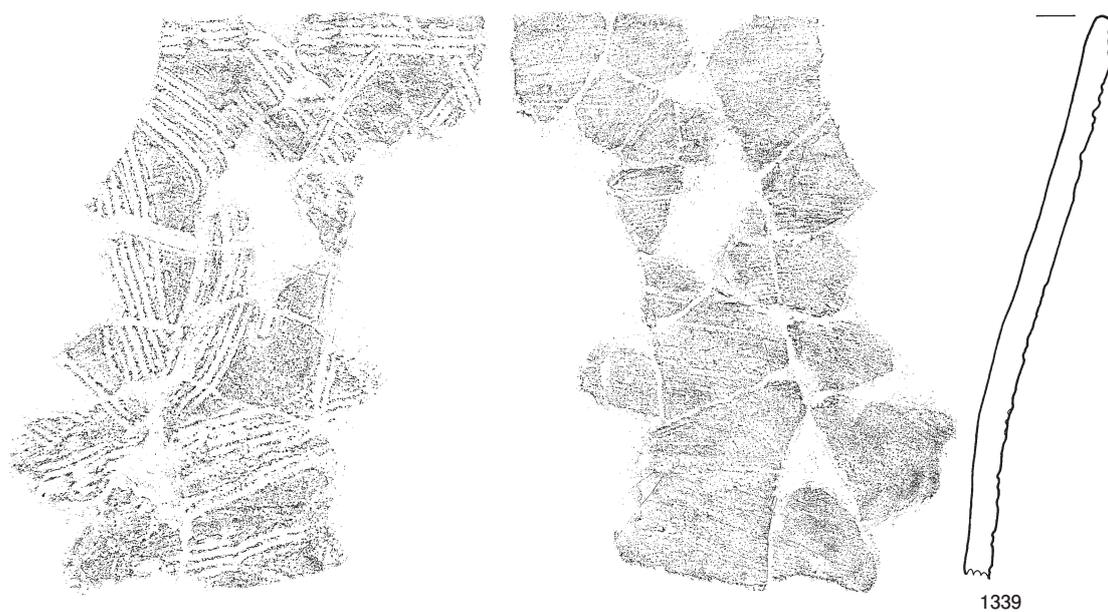
を中心に丁寧なナデを行う。1341は口縁部上位と頸部にやや明瞭な押し引き状の横位の貝殻刺突文を1段ずつ施した後、横位の貝殻刺突文間に斜位の貝殻条痕状の施文で山形のモチーフを描く。胴部上半に横位の貝殻条痕文を施した後、縦位の貝殻条痕文を施し器面の割付けを行う。その後、横位、縦位の貝殻条痕文で区画された内部に斜位の貝殻条痕文を施す。内面に指おさえ痕が確認できる。1342は1341と同様の施文を行う。焼成後に外面から穿孔したと考えられる補修孔が1か所確認できる。1343・1344は口縁部に横位の押し引き状の貝殻刺突文を施す。斜位の貝殻条痕状の施文は見られないが、押し引き状の貝殻刺突文を施すことからここに含めた。

1345は口縁部に横位の貝殻刺突文と貝殻条痕文を施す。口縁部から胴部上半付近まで復元することができた。口縁部から胴部まで貝殻条痕文を間隔を空けて横位に施した後、口縁部には貝殻条痕文間に横位の貝殻刺突文を2段施す。口唇部にも同様の施文具で刻目を入れる。内面は横位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。

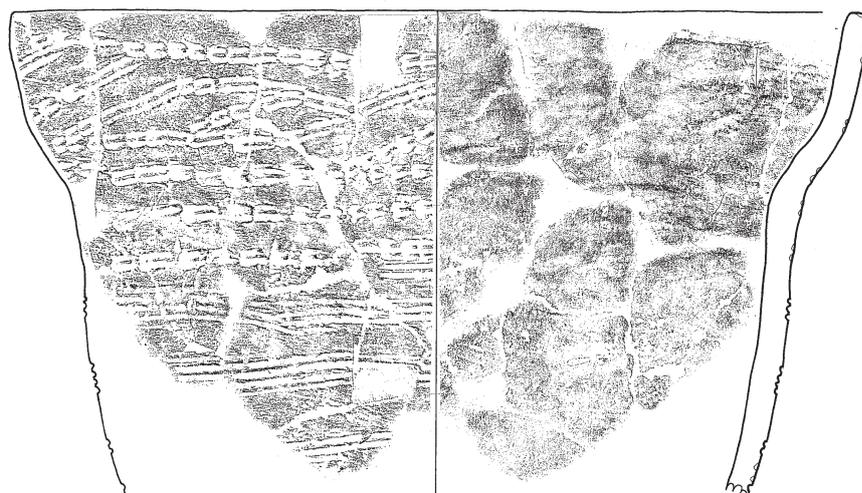
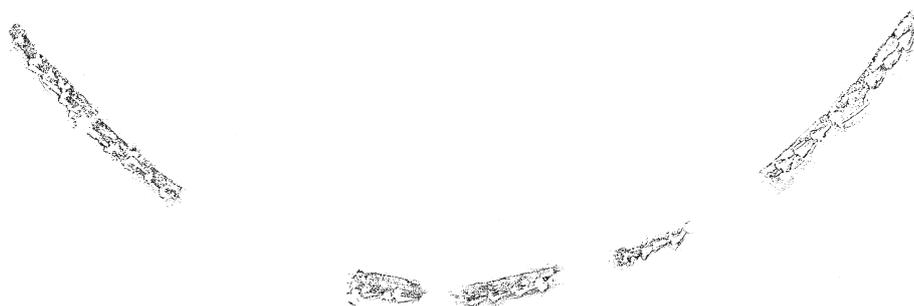
1346～1351は頸部付近に横位の貝殻刺突文を施し、同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。刻目と横位の貝殻刺突文間に沈線、貝殻刺突、細条線を縦位、もしくはやや斜位に施文する一群である。頸部に貝殻刺突文を施さないものも含む。1346は完形に復元することができた。頸部でわずかにくびれ胴部上半で膨らみ、底部にむけて曲線状にすぼまる器形である。頸部から胴部上半に横位の貝殻刺突文を間隔を空けて施す。その後、口縁部に棒



第418图 ⅩⅦ类土器 (14)



1339

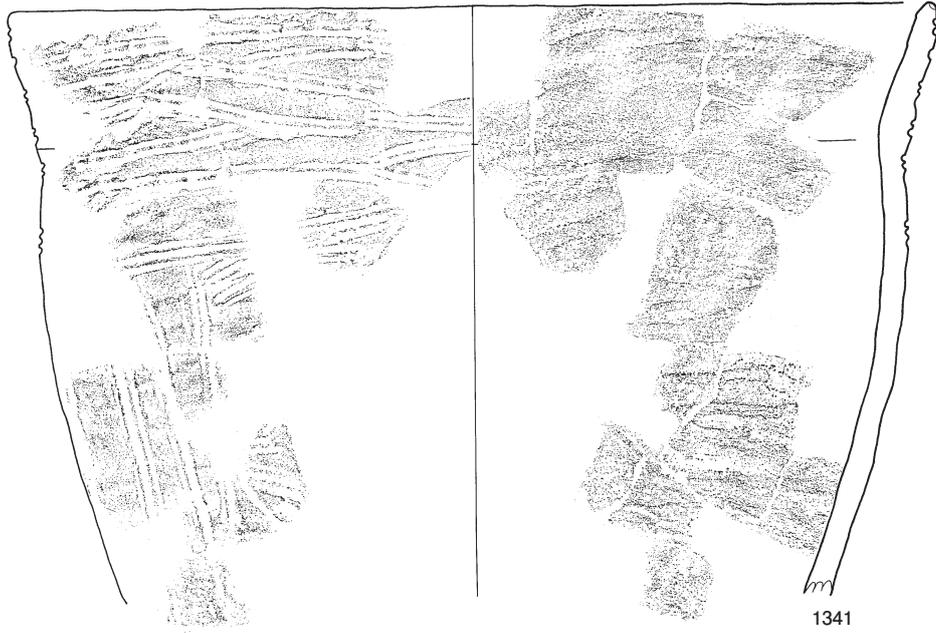


1340

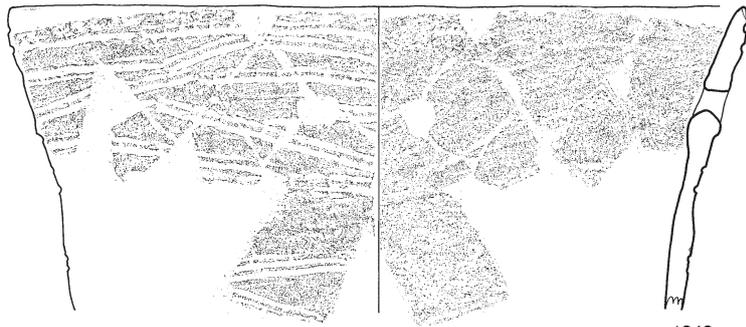


第 419 図 XVI類土器 (15)

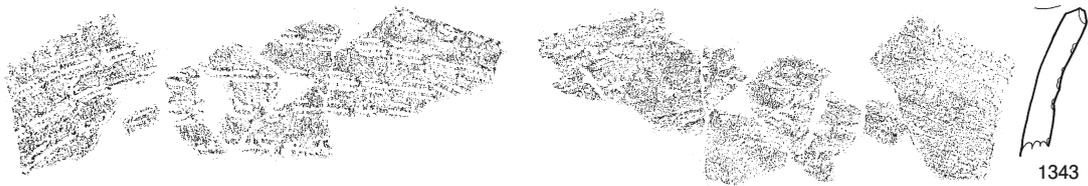




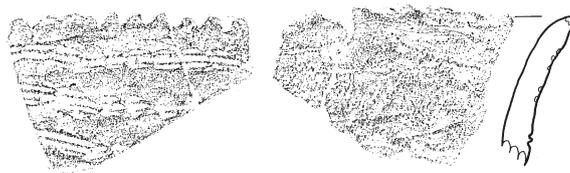
1341



1342



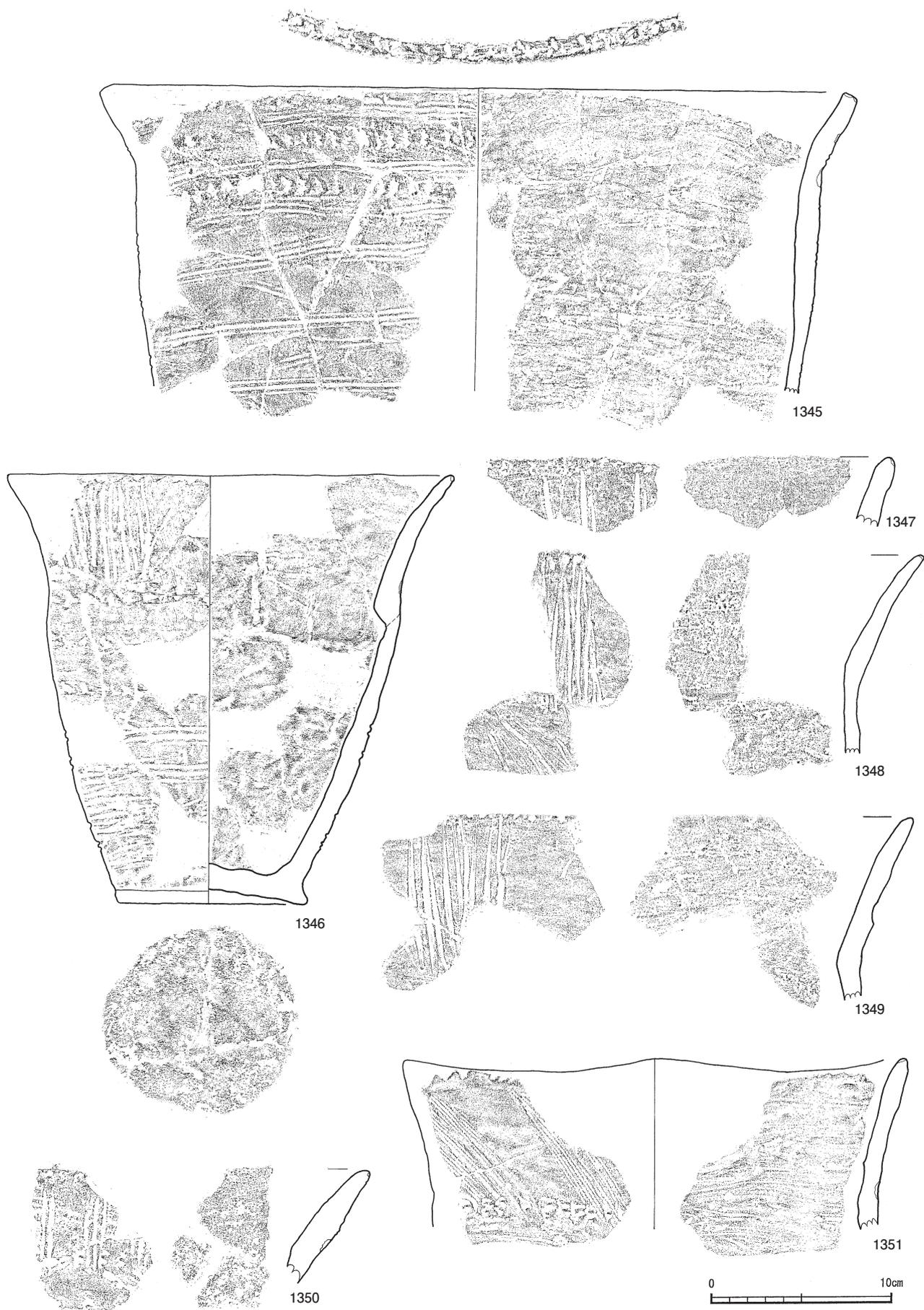
1343



1344



第 420 図 XVI類土器 (16)



第 421 図 XVI類土器 (17)

状工具による浅い縦位の沈線を施す。胴部中央から下半には横位の貝殻条痕文を施す。内外面に指おさえ痕が多数確認できる。胴部は底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、輪積み成形したと考えられる。底面境付近には底部から胴部を立ち上げる際の成形痕が確認できる。底部は底部外面から指頭で押し出すようにして、上げ底状の底部を成形したと考えられる。内面は外反が始まる頸部付近に段状の内傾接合の痕跡が確認できる。内面はナデを行っている。1349は口縁部に棒状工具による浅い縦位の沈線を施し、口唇部に貝殻の腹縁部による刻目を入れる。内面にはケズリを行う。1348は胴部上半に斜位の浅い沈線を施す。文様、調整、胎土等が1349と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1350は口縁部下位に貝殻刺突文を横位に2段施し、縦位の貝殻条痕文を間隔を空けて施す。一部に横位に施文する箇所がある。1347は口唇部外端部に貝殻腹縁部による刻目を入れる。口縁部には棒状工具による明瞭な縦位の沈線を施す。内面は丁寧なナデを行う。1351は口縁部に刷毛状工具による斜位の細条線を間隔を空けて施す。内面は横位のケズリを行った後、ナデを行う。

1352～1360は口縁部がわずかに外傾する一群である。

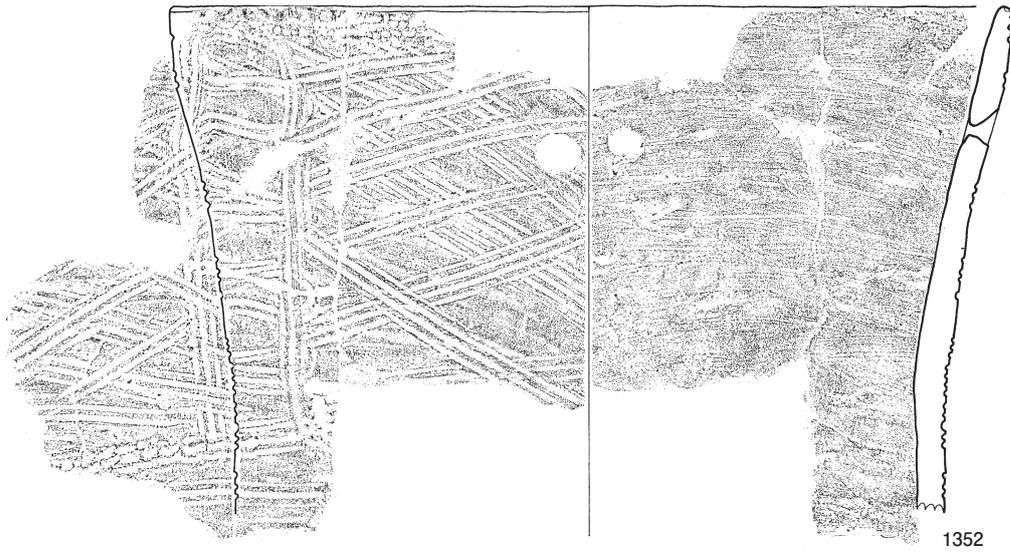
1352～1356は口縁部上位に横位の貝殻刺突文を施した後、貝殻条痕文もしくは沈線を施す。1352は口縁部上位と外傾が始まる頸部付近に、横位の押し引き状の貝殻刺突文をそれぞれ1段ずつ施す。その後、口縁部に斜位の貝殻条痕文を斜格子状に施す。一部縦位に貝殻条痕文を施す箇所があるが、斜位の貝殻条痕文との施文順序は一樣でない。胴部は横位の貝殻条痕文を施す。口縁部には焼成後に外面から穿孔した補修孔が1か所確認できる。内面には横方向の細い繊維質の擦痕が多く、丁寧なナデを行う。内外面に煤状の炭化物が付着している。1353の内面にも1352と同様の擦痕が確認できる。1355は口縁部上位に横位の押し引き状の貝殻刺突文を1段施す。同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。口縁部は斜位の貝殻条痕文を斜格子状に施す。外面に煤状の炭化物が多く付着している。内面には指おさえ痕が確認でき、丁寧なナデを行う。1354は波状口縁を呈すると考えられる。口縁部上位に貝殻刺突文を1段施した後、棒状工具による斜位の沈線で山形のモチーフを描く。内面にへら状の工具痕が確認でき、丁寧なナデを行う。胎土に金雲母を含む。1356は4単位の波状口縁を呈すると考えられる。口縁部上位に横位の押し引き状の貝殻刺突文を1段施す。同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。その後、口縁部に縦位の縦位の貝殻条痕文を施す。1357・1358は口縁部から頸部に横位の貝殻刺突文を施した後、口縁部上位に斜位の貝殻刺突文を施す。口唇部には刻目を入れる。胴部は横位の貝殻条痕文を施したと考えられる。1357は口縁部から胴部上半付近まで復元することができる。外面

には横方向のへら状工具痕が一部確認でき、内面は横方向の貝殻条痕調整後、ナデを行う。1358は文様、調整、胎土が1357と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1359は波状口縁を呈すると考えられる。口縁部に先端を細く加工した棒状工具で横位、斜位の沈線を施す。波頂部付近は沈線で「V」字状のモチーフを描く。頸部付近は横位の沈線が確認できる。口唇部にへら状工具による斜位の刻目を入れる。内面は横位のケズリを行った後、ナデを行う。1360は口縁部がやや外反する器形である。口縁部に幅の狭いへら状工具による浅い沈線で、逆「U」字状のモチーフを描く。沈線には細い繊維状の擦痕が確認できる。口唇部に同様の施文具で明瞭な刻目を入れる。内面には内傾接合の痕跡が確認できる。口縁部内面に横方向の繊維状の細い擦痕が確認でき、丁寧にナデを行っている。胎土に白色粒子を多く含む。外面に煤状の炭化物が確認できる。

1361～1368は口縁部が外反もしくは直口気味に立ち上がる円筒形状の器形を呈する一群である。

1361～1365は口縁部上位と口縁部下位から胴部下半までの2帯に文様構成が分かれる一群である。口縁部上位に貝殻刺突文を施す。1361・1362は口縁部から胴部下半まで復元することができた。1361は口縁部付近はレモン形、胴部は円筒形の器形である。口縁部から胴部上半にかけて貝殻刺突文を横位に5段施した後、貝殻刺突文間に横位の貝殻条痕文を施す。胴部下半には櫛歯状工具による細条線を斜位に施す。内外面に指おさえ痕を多数確認できる。内面に丁寧なナデを行う。1362は口縁部上位に貝殻刺突文を1段施した後、胴部下半まで横位の貝殻条痕文を施す。胴部下半に、斜位の細い沈線状の擦痕が一部確認できる。口唇部、内面に丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1363は口縁部上位に押し引き状の横位の貝殻刺突文を1段施す。その後、口唇部外端部や貝殻刺突文より下に横位、斜位の貝殻条痕文を施す。口縁部上位の貝殻刺突文は、下端が波状を呈する。口唇部内面に内傾接合の痕跡が確認できる。口縁部内面を中心に指おさえ痕が確認できる。横位のケズリを行った後、ナデを行う。1364は文様、調整、胎土が1365に類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1365は口縁部上位に横位の押し引き状の貝殻刺突文を施す。1362等と同様に貝殻刺突文の下端は波状である。貝殻刺突文の両端に接するように口唇部外端部付近と、口縁部上位に横位の貝殻条痕文を施し、それより下は、やや間隔をあけて横位、斜位の貝殻条痕文を施す。口縁部内面を中心に指おさえ痕が確認できる。横位、斜位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。

1366～1368は口縁部から胴部下半まで同一の文様構成の一群である。貝殻条痕文もしくは沈線を斜格子状に施す。1366は完形に復元することができた。貝殻条痕



1352



1353



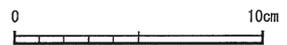
1354



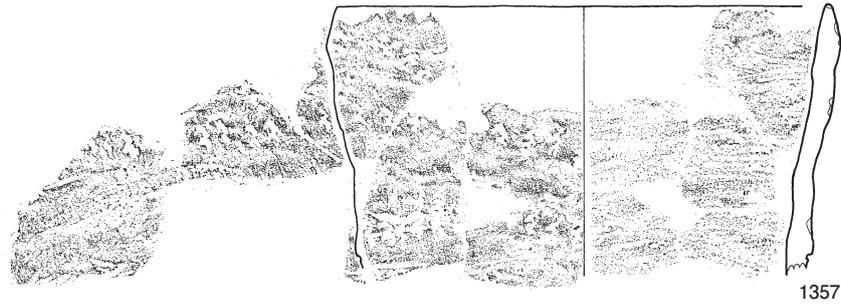
1355



1356



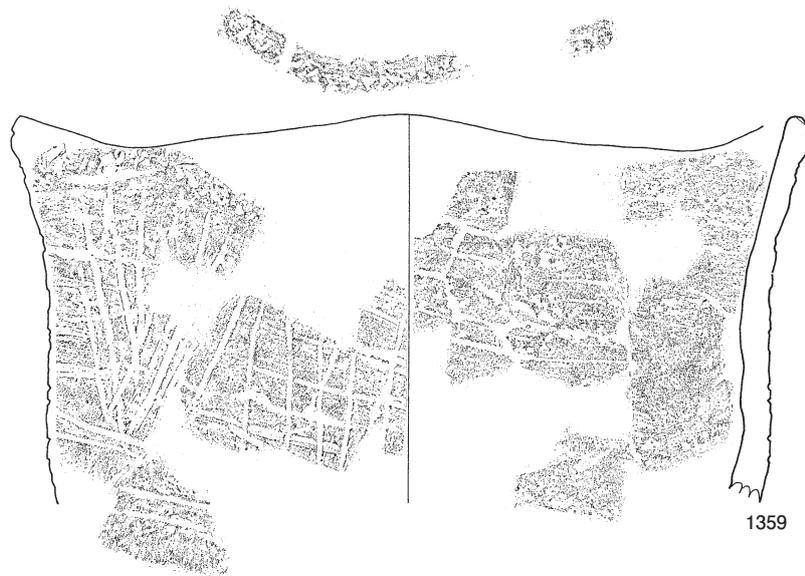
第 422 図 XVI類土器 (18)



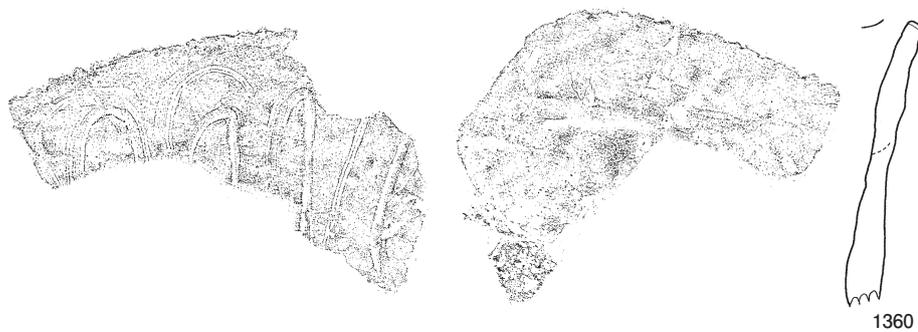
1357



1358



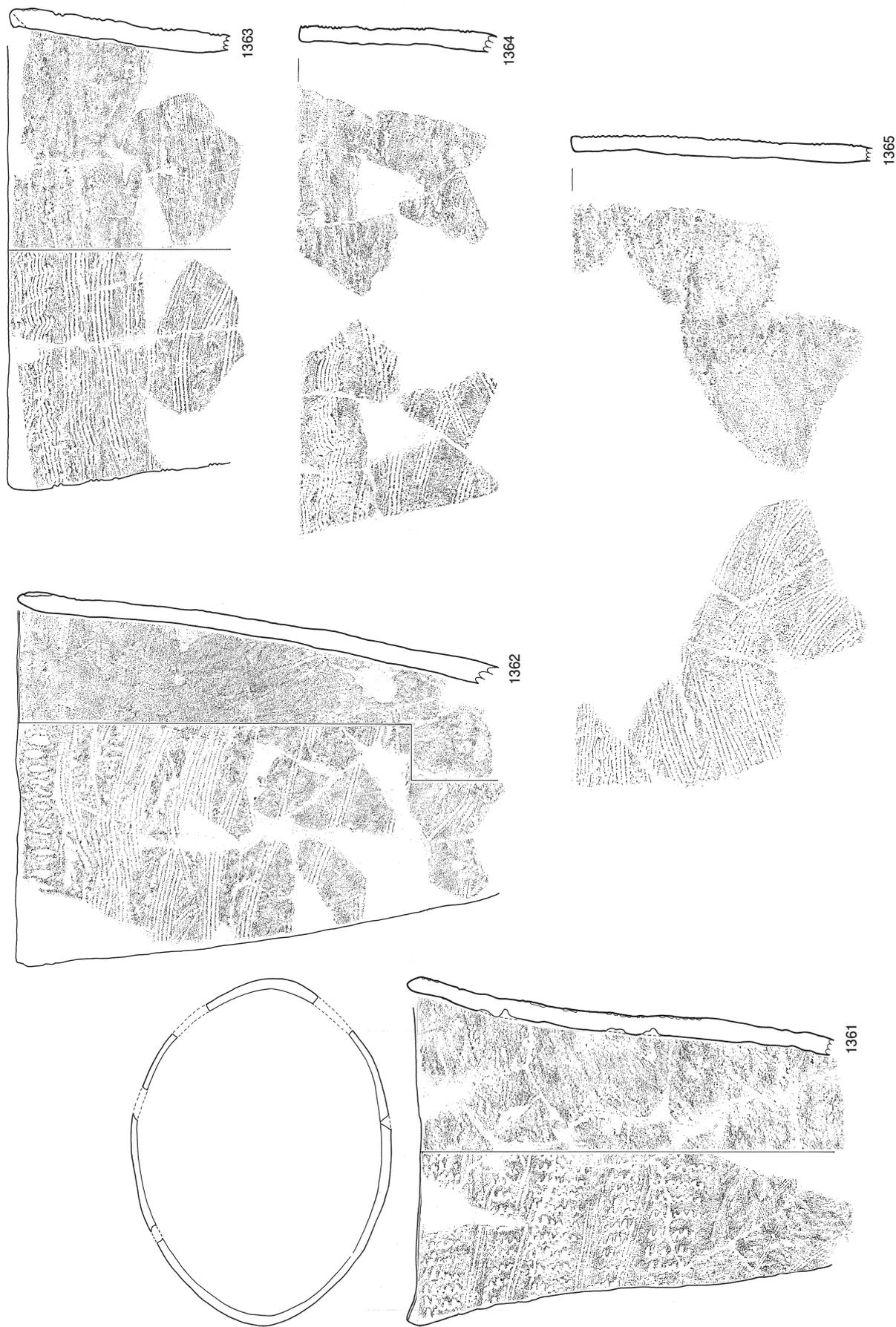
1359



1360



第 423 図 XVI類土器 (19)



第 424 図 XV 類土器 (20)



第 425 図 XVI類土器 (21)

文を斜格子状に施すが、一部施文が乱れ、斜位格子状を呈しない箇所もある。底部円盤の外周上のやや内側に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。1367は口縁部上位より先端を細く加工した棒状工具による沈線を斜格子状に施している。多くが2本1単位で施文されている。内外面ともに指おさえ痕が多数確認でき、丁寧なナデを行う。内面に横方向のへら状工具による調整痕が確認できる。1368は貝殻条痕文を横長の斜格子状に施す。口唇部外端部に煤状の炭化物が確認できる。内面に横方向の繊維状の擦痕が多数確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。

1369～1397は胴部である。

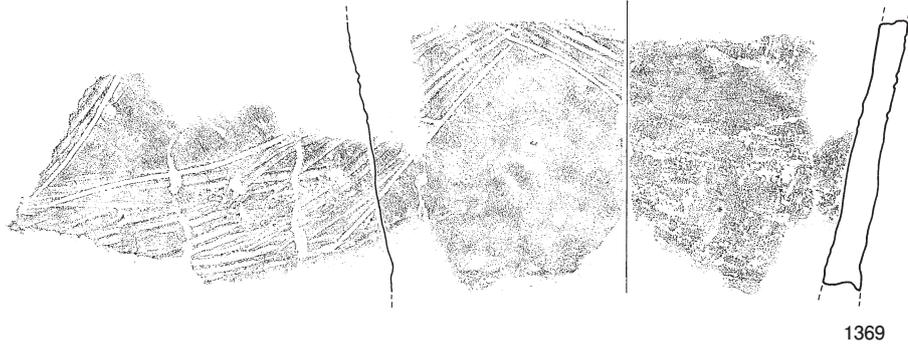
1369は胴部下半付近である。貝殻条痕文を斜位に幾何学状に施文した後、貝殻条痕文の両端を先端を細く加工した棒状工具による浅い沈線で区画する。外面には指おさえ痕が多数確認できる。内面は横位、斜位のケズリを行い、その後ナデを行う。胎土に小礫、白色粒子、金雲母を多く含む。

1370～1372は頸部付近に横位の貝殻刺突文を施し、胴部上半に斜位の貝殻条痕文を施す一群である。1370は頸部から胴部上半付近である。頸部に押し引き状の横位

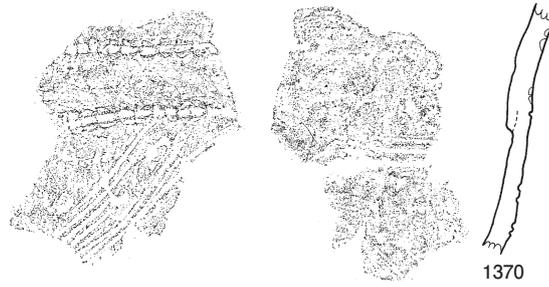
の貝殻条痕文を施した後、胴部に斜位の貝殻条痕文を施す。一部沈線状の施文を行った箇所は確認できるものの、1369のような沈線による明確な区画は見られない。内面に内傾接合の痕跡や指おさえ痕が確認できる。胎土に金雲母を多く含む。1371は口縁部下位から胴部下半付近まで復元することができた。比較的大型の器形である。頸部付近に横位の貝殻刺突文を3段施した後、口縁部に櫛歯状の工具で細条線を縦位に間隔を空けて施す。胴部は横位の貝殻条痕文を施した後、胴部上半に貝殻条痕文を斜位に鋸歯状に施す。内面にケズリを行う。

1372は口縁部下位から胴部下半付近まで復元することができた。頸部から胴部上半付近に横位の貝殻刺突文を2段施した後、口縁部に斜位の貝殻条痕文を施す。胴部は斜位の貝殻条痕文で菱形のモチーフを描いたと考えられる。1373は1372と接合する胴部片である。外面に葉脈状の圧痕が一部確認できる。

1374～1383は横位の貝殻刺突文と貝殻条痕文を施す一群である。1374は口縁部下位から胴部下半付近まで復元することができた。口縁部に斜位の貝殻条痕文を施す。頸部から胴部上半に横位の押し引き状の貝殻刺突文を3段施す。胴部下半に横位の貝殻条痕文を間隔を空けて



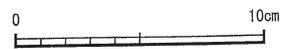
1369



1370



1371



第 426 図 XVI類土器 (22)



施す。内面に横位、斜位のケズリを行い、口縁部付近に丁寧なナデを行う。胎土に小礫を多く含む。1375は頸部付近から胴部上半付近と考えられる。横位の押しき状の貝殻刺突文を施すが、下段の貝殻刺突文は一部連続刺突を止め、貝殻条痕状に施文する箇所がある。やや間隔を空けて横位の貝殻条痕文を施す。1376は横位の貝殻条痕文を間隔を空けて施文した後、貝殻条痕文間に短沈線状の貝殻刺突文を斜位に施す。内面に横位のケズリを行う。胎土に小礫を多く含む。1377は胴部中央から下半付近まで復元することができる。横位の貝殻刺突文を間隔を空けて施文した後、貝殻刺突文間に横位の貝殻条痕文を施す。下位付近で一部曲線状のモチーフを描く箇所がある。内面は丁寧なナデを行う。1378は胴部下半付近である。横位の押しき状の貝殻刺突文を間隔を空けて施した後、横位の浅い貝殻条痕文を施す。内面は横方向の繊維状の細い擦痕が確認できる。丁寧なナデを行う。1379・1380は胴部中央付近である。横位の押しき状の貝殻刺突文を大きく間隔を空けて施す。その内部に横位、斜位の貝殻条痕文を施す。内面に指おさえ痕が多数確認できる。横位のケズリを行った後、ナデを行う。1380は胎土に金雲母を多く含む。1381～1383は上位に横位の貝殻刺突文を施し、下位に横位の貝殻条痕文を施す。1381は内面にナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。1382は内面に横位のケズリを行った後、ナデを行う。胎土に金雲母を多く含む。1383は円筒形状の器形である。内面に指おさえ痕が確認できる。ナデを行っている。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。

1384～1386は横位、縦位の貝殻条痕文、もしくは沈線文を施す一群である。1384は胴部中央から底部に近い胴部下半付近と考えられる。底部に向けて曲線的にすばまっている。横位、斜位の貝殻条痕文を施した後、やや間隔の空いた中央付近の貝殻条痕文間に縦位の沈線を施す。胎土に金雲母を多く含む。1385は頸部付近から胴部下半まで復元することができる。頸部から胴部上半に横位の貝殻条痕文を施した後、胴部中央から下半に縦位の貝殻条痕文を施す。内面に指おさえ痕が多数確認できる。横位のケズリを行った後、ナデを行う。胎土に金雲母を多く含む。1386は底部に近い胴部下半付近と考えられる。縦位の貝殻条痕文を施し、器面の割付けを行った後、横位、斜位の貝殻条痕文を施す。内面に横方向の繊維状の細い擦痕や指おさえ痕が確認できる。ナデを行っている。胎土に金雲母を多く含む。

1387～1395は横位の貝殻条痕文を施す一群である。一部斜位に施すものもある。条痕状の沈線を施すものも含む。1387～1389は内面にナデを行う。胎土に金雲母を多く含む。1390・1388は文様、調整、胎土等が類似するため、同一個体の可能性が高いと考えられる。1390・1391は横位、斜位に貝殻条痕文を施す。外面に指おさえ

痕が多数確認できる。1392は内面にケズリを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1393・1394は半截竹管状の工具で沈線を横位、斜位に施す。1393は内面に横方向のヘラ状の工具痕が確認できる。ケズリを行った後、ナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1394は底面境付近と考えられる。内面に横方向のヘラ状の工具痕や指おさえ痕が確認できる。胎土に小礫を多く含む。

1395は胴部上半から底部に近い胴部下半付近まで復元することができる。外面に縦方向の繊維状の擦痕が多数確認できる。横位の貝殻条痕文は、繊維状の擦痕の後に施されている。内面に斜位のケズリを行う。

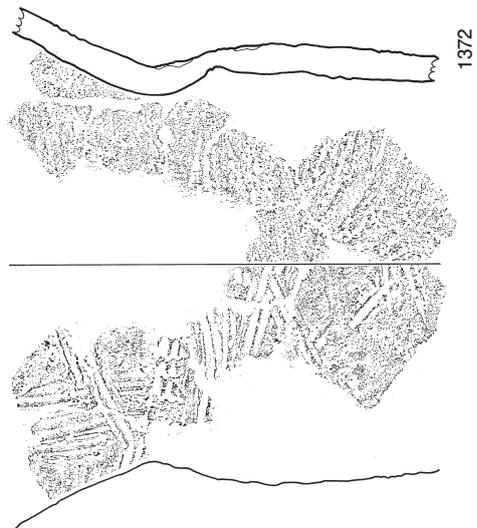
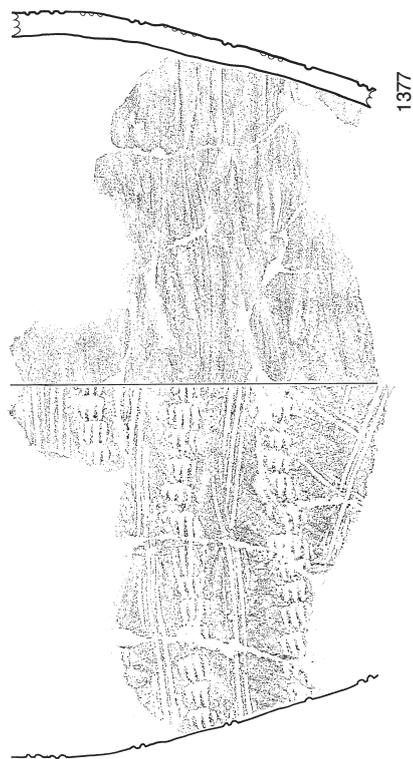
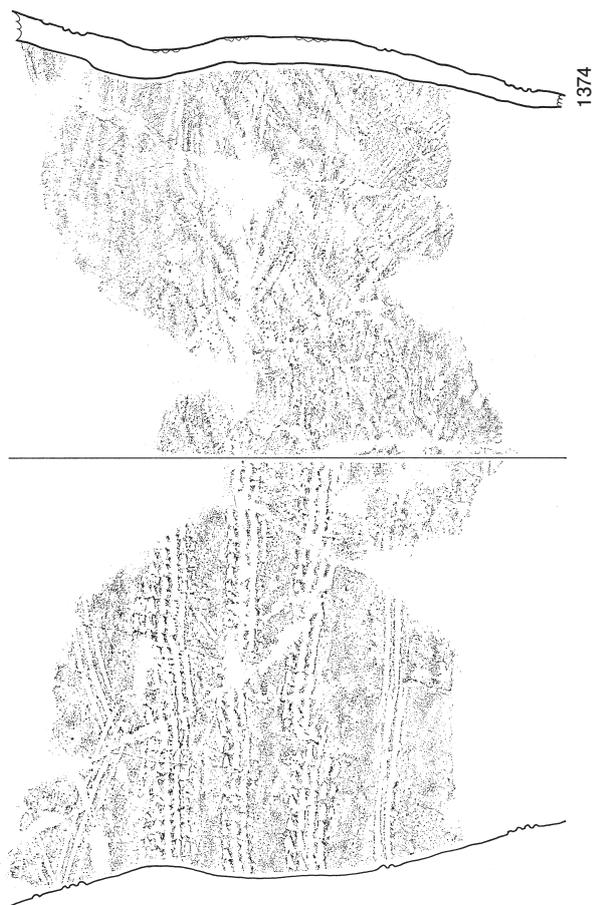
1396・1397は横位、斜位の押しき状の貝殻刺突文を施す一群である。1396は頸部から胴部上半付近と考えられる。頸部付近に横位の押しき状の貝殻刺突文を施した後、胴部上半に斜位の押しき状の貝殻刺突文を施す。外面にヘラ状工具による調整痕が確認できる。内面は横位のケズリを行う。胎土に小礫を多く含む。1397は横位の横位の押しき状の貝殻刺突文を施した後、斜位の押しき状の貝殻刺突文部分的に施す。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。

1398～1410は底部である。

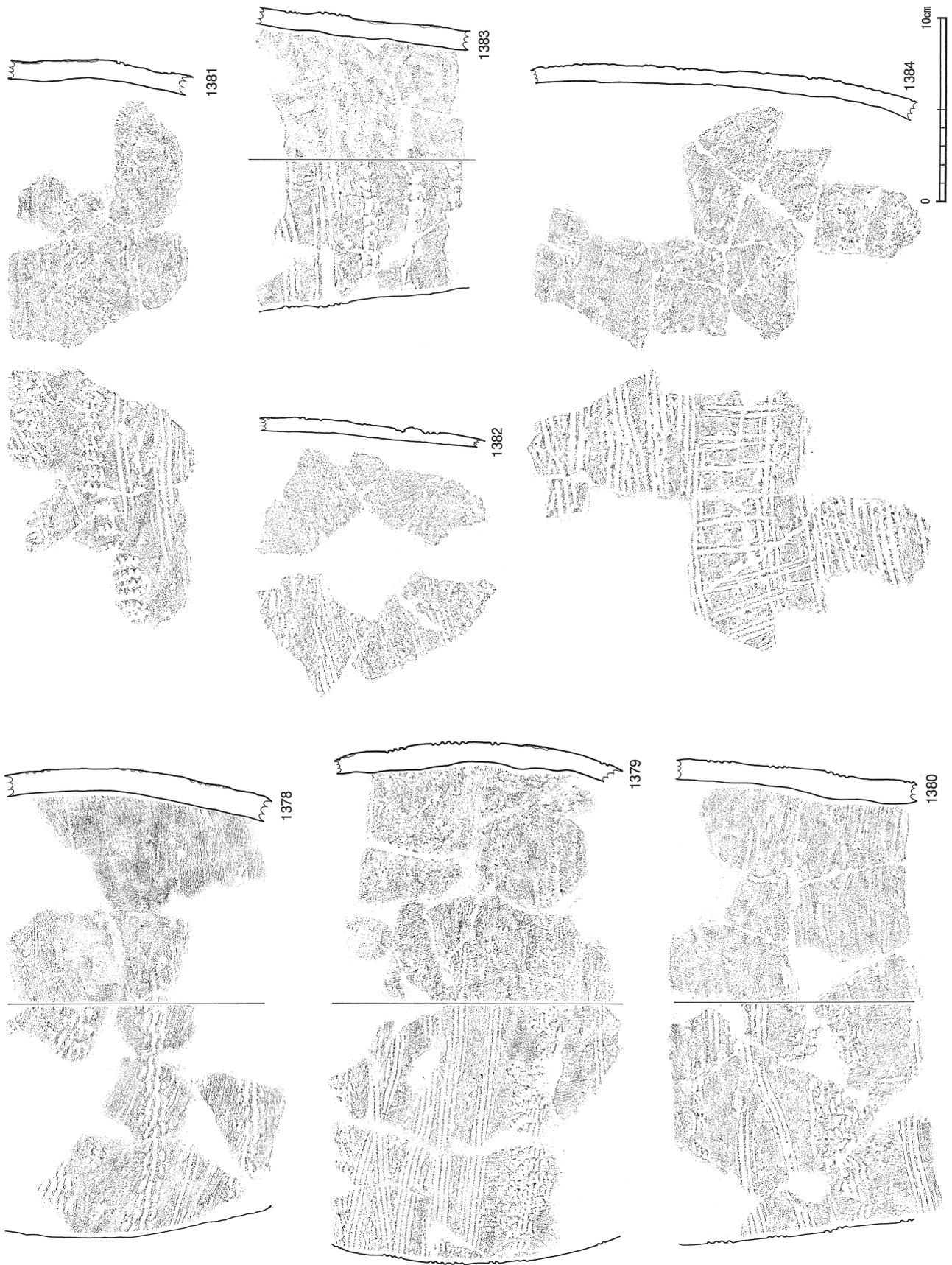
1398～1407は横位の貝殻条痕文を施す一群である。

1398～1403は底面境付近まで横位の貝殻条痕文を施す一群である。1398は胴部中央付近から底部まで復元することができた。底部に向けて曲線的にすばまる器形である。横位の貝殻条痕文を間隔を空けて底面境付近まで施す。上位に一部斜位の貝殻条痕文を施す箇所がある。内面は横位、斜位のケズリを行った後、ナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1399は底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部を輪積み成形したと考えられる。胎土に小礫、金雲母を多く含む。1400は一部斜位に貝殻条痕文を施す箇所もある。胴部は底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、輪積み成形したと考えられる。内面は横位のケズリを行った後、非常に丁寧なナデを行う。胎土に金雲母を多く含む。1401は浅い横位の貝殻条痕文を施す。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け高台状に成形し、上げ底状の底部を作り出している。内面はケズリを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1402は内外面に指おさえ痕が確認できる。底部円盤の外周上よりやや内側に粘土紐を乗せ胴部を輪積み成形したと考えられる。内面に縦位のケズリを行う。1403は器壁厚が非常に薄い。底部外面より指頭で押し出すようにして上げ底状の底部を成形している。内面にケズリを行う。胎土に白色粒子を多く含む。

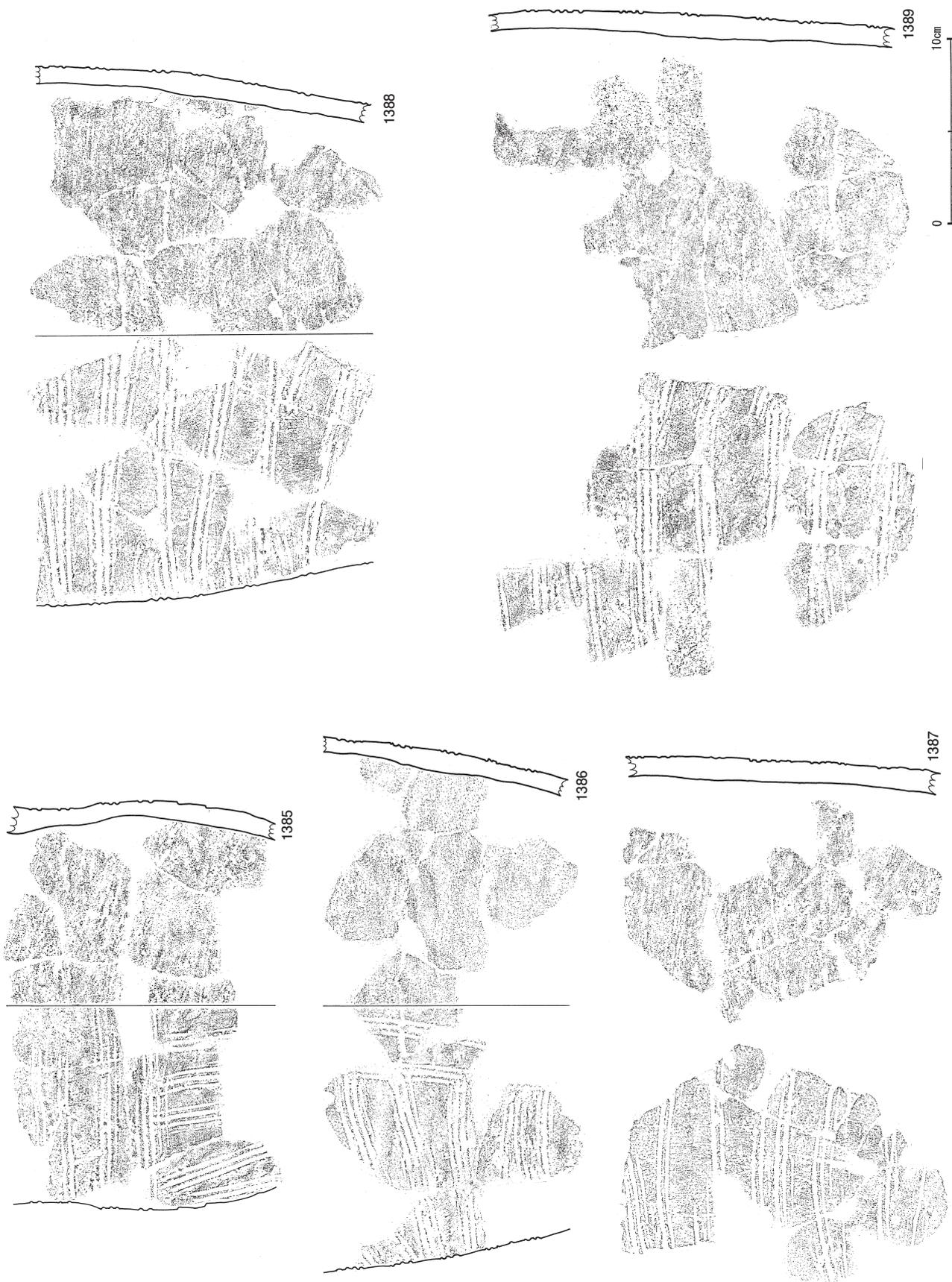
1404～1407は横位の貝殻条痕文を施し、底面境付近が無文の一群である。1404は胴部中央付近から底部まで復元することができる。横位の貝殻条痕文を施し、底部境付近は無文で、丁寧なナデを行う。底部円盤の外周



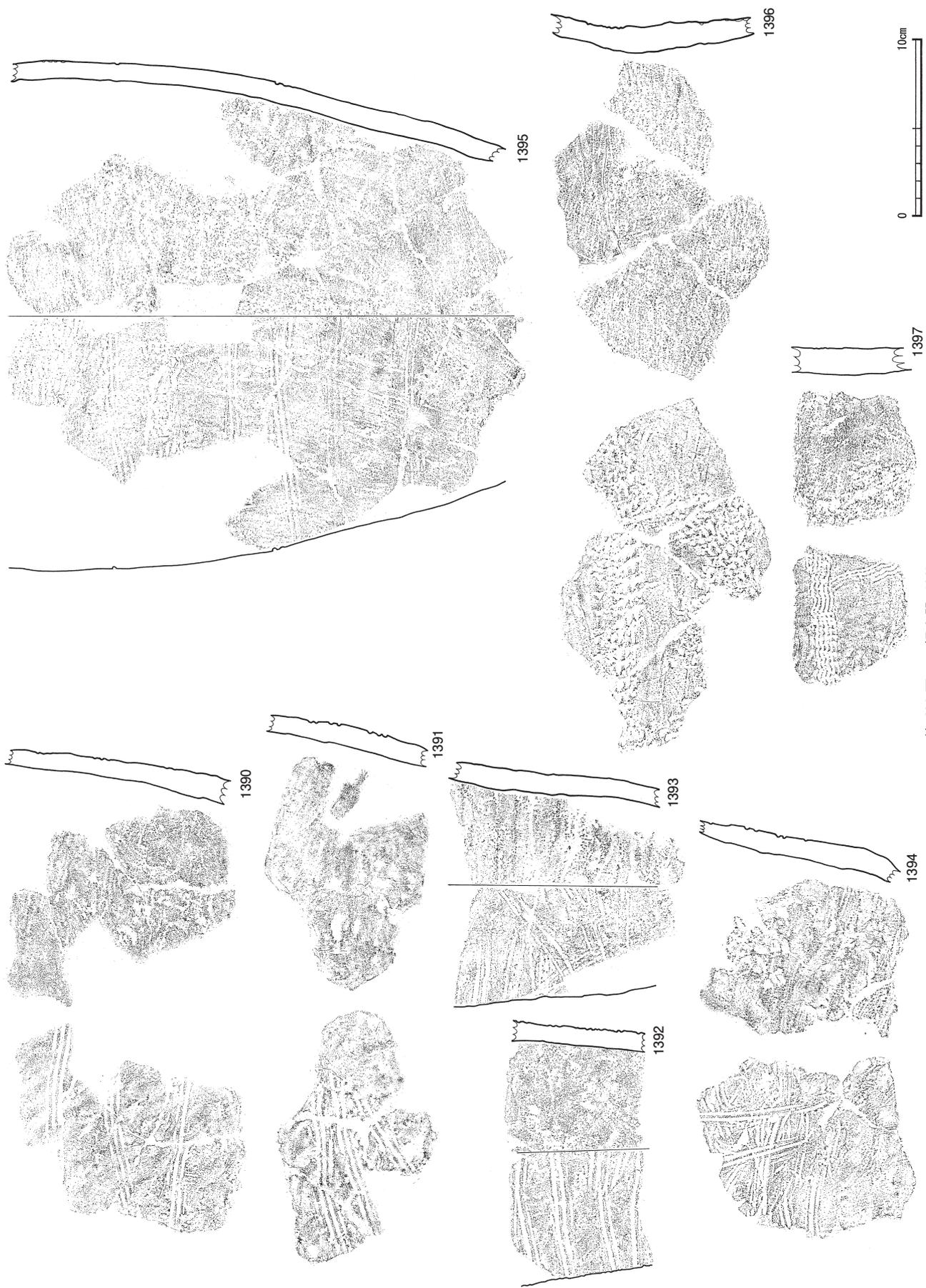
第 427 図 XV 類土器 (23)



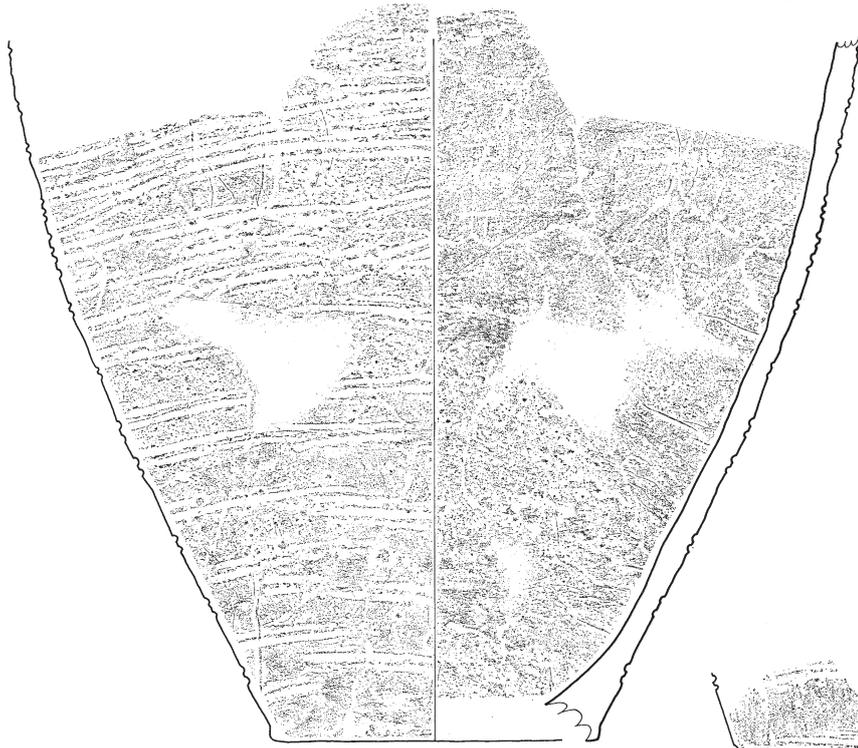
第 428 図 XV 類土器 (24)



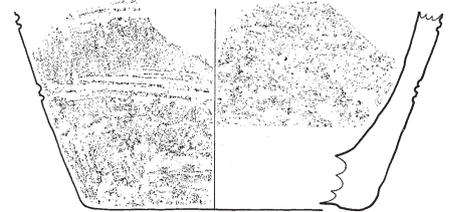
第 429 図 XV 類土器 (25)



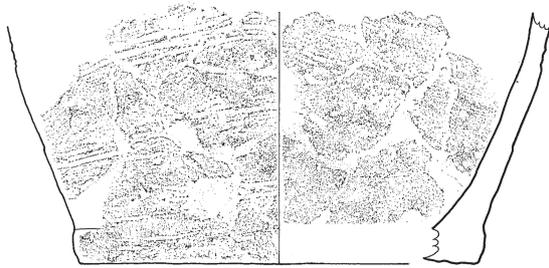
第 430 图 XIV 類土器 (26)



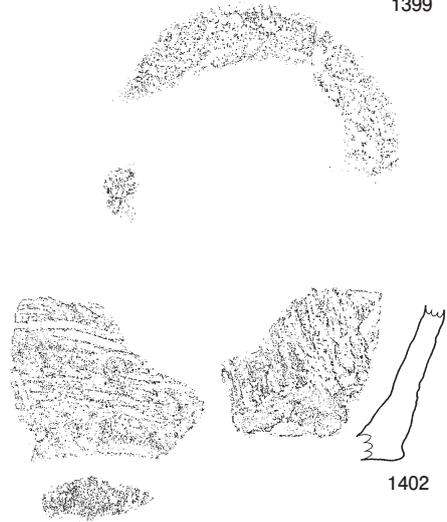
1398



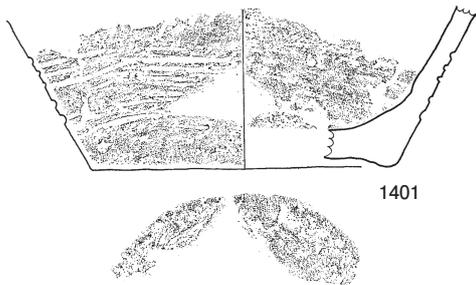
1399



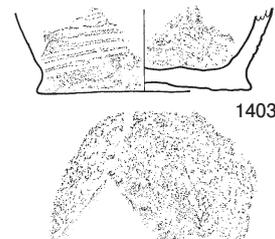
1400



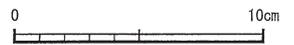
1402



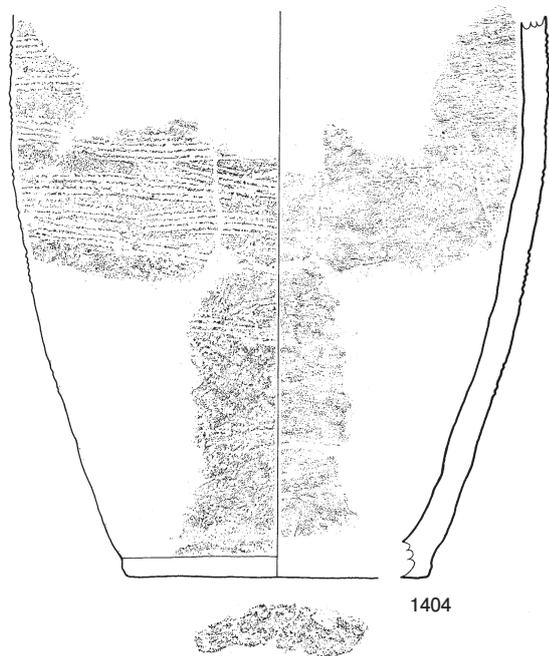
1401



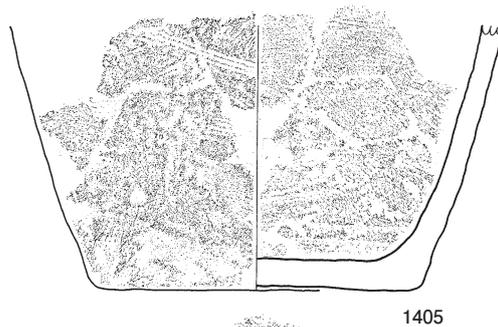
1403



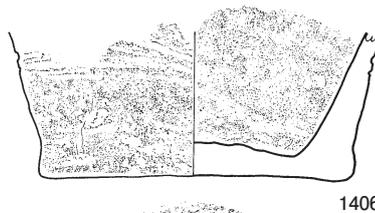
第 431 图 XVI 类土器 (27)



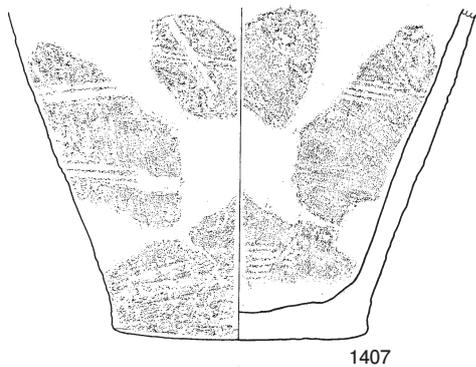
1404



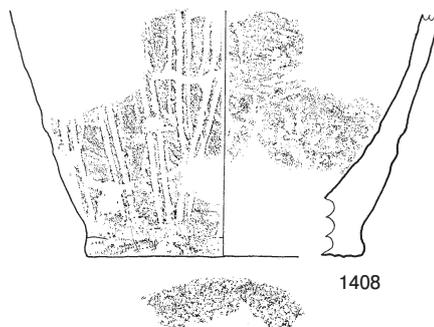
1405



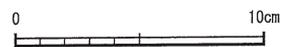
1406



1407



1408



第 432 図 XVI類土器 (28)



第 433 図 XVII類土器 (29)

上のやや内側に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。内外面に指おさえ痕が多数確認できる。内面に横方向の繊維状の細かい擦痕が見られ、丁寧なナデを行う。1405 は底面境よりやや高い位置で施文が終わり、多数の指おさえ痕が確認できる。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部を輪積み成形したと考えられる。内面に横位、斜位のケズリを行った後、ナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1406 は胴部下半から底部まで復元することができる。底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。外面の底面境付近にケズリ痕が確認できる。内面は横位のケズリを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1407 は底部、胴部共に指おさえ痕が多数確認できる。内外面に丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。

1408 ～ 1410 は縦位の貝殻条痕文もしくは沈線を施す一群である。1408 は胴部下半から底部まで復元することができる。縦位、斜位の貝殻条痕文を底面境付近まで施す。底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。内面は丁寧なナデを行っている。胎土に小礫、金雲母を多く含む。1409 は底面境まで縦位の沈線を施し器面の割付けを行った後、横位の貝殻条痕文を施している。胎土に白色粒子、金雲母を多く含む。1410 は胴部下半から底部まで復元することができた。縦位の浅い貝殻条痕文を施した後、横位の浅い貝殻条痕文を施す。底面境付近に非常に丁寧なナデを行う。器壁厚さは 0.5 cm 程度でやや薄い。底部円盤の外周上のやや内側に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。内面は横位のケズリを行い、丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。

なお、1321 に付着していた炭化物を年代測定した結果、7959-7840 cal BP の値が得られた。

(17) XVII類土器 (第 435 ～ 439 図 1411 ～ 1428)

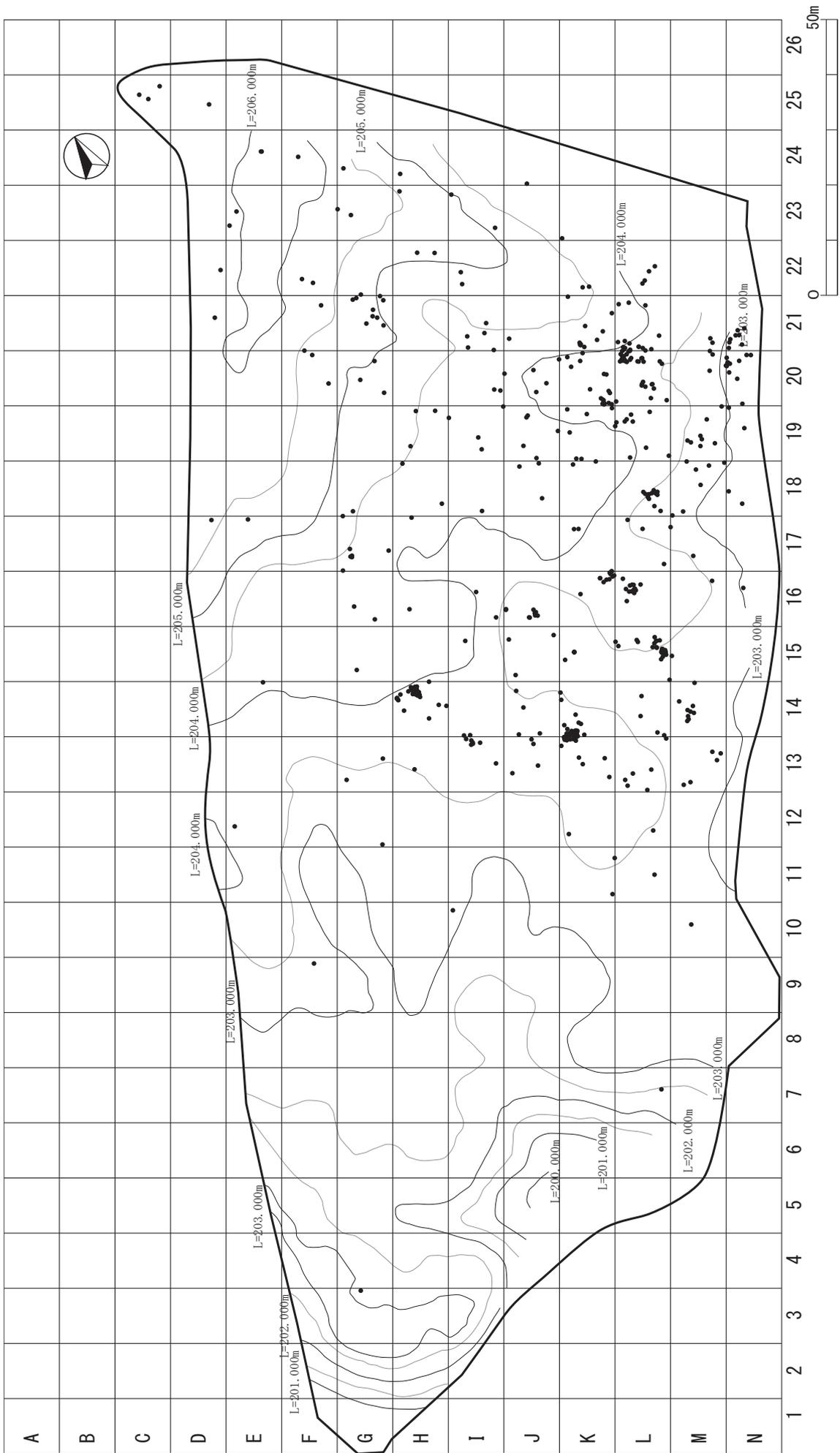
XVII土器は外面に貝殻条痕を施文後、刻目突帯を施す一群である。口縁部が外反し、底部にむけて曲線的にすぼまる器形である。

文様には刻目突帯文、瘤状突起、貝殻条痕文、沈線文等がある。

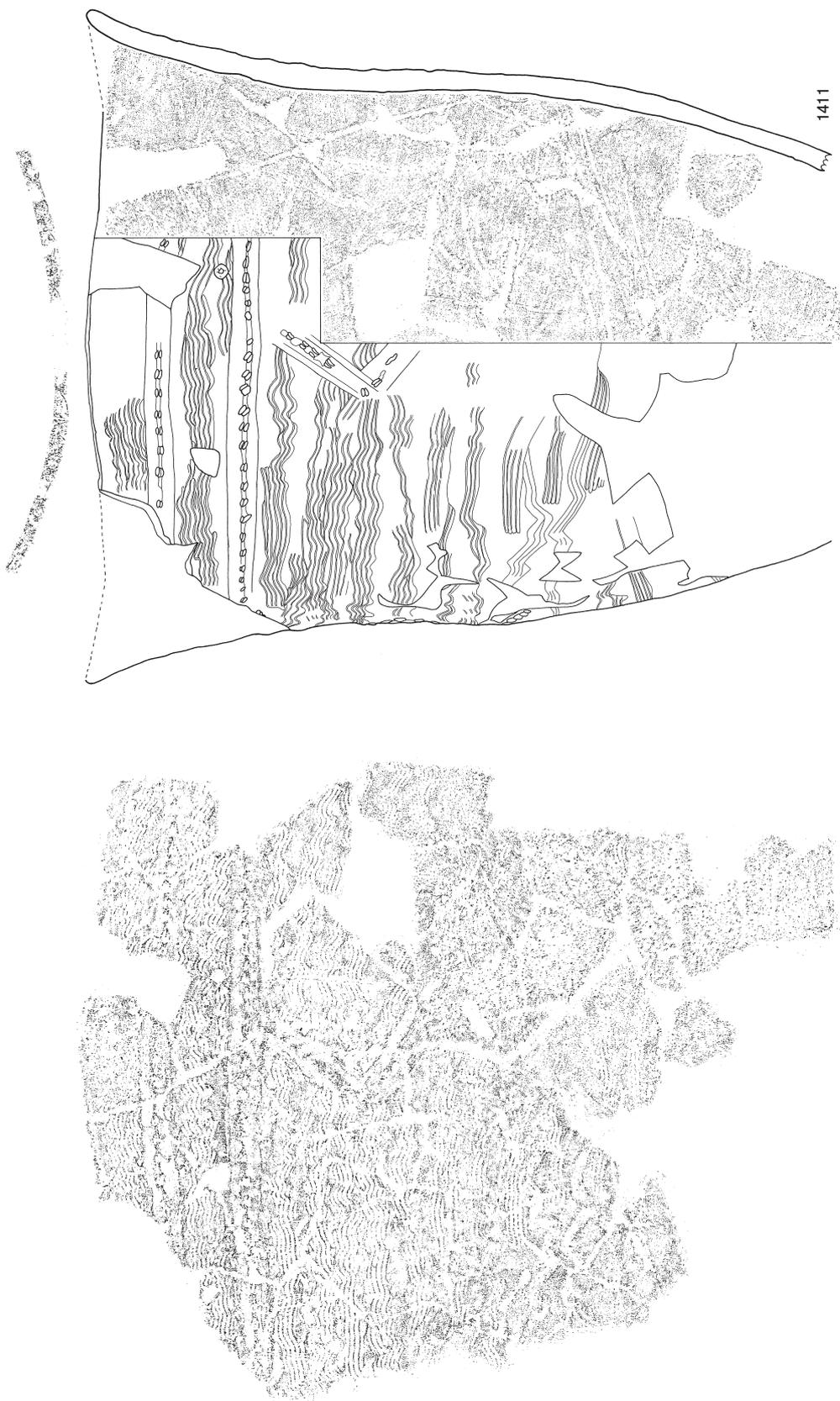
1411 ～ 1417 は口縁部である。1411 ～ 1413, 1416, 1417 は、口縁部から胴部下半まで復元することができた。

1411 は波状口縁を呈すると考えられる。口唇部を舌状に成形し、浅い刻目を入れる。口縁部から胴部中央付近まで波状の貝殻条痕文を横位に施す。胴部下半は直線状の貝殻条痕文を横位に間隔を空けて施す。口縁部に幅 0.5 cm 程度のヘラ状工具を器面に強く押し当て、横位の微隆起線文を 2 段作り出す。その後、貝殻腹縁部を器面に対して縦位に当て、微隆起線文に刻目を入れる。内面は横位、斜位のヘラ状工具痕が多く確認できる。口縁部付近を中心に丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1412 は 4 単位の波状口縁を呈すると考えられる。外面に横位、斜位の貝殻条痕を施す。口縁部から胴部上半にかけて波状に施文する箇所がある。その後、断面が三角形を呈する微隆起線を口縁部に横位 3 段、胴部には縦位に施す。胴部の微隆起線は波頂部の延長線上付近に 2 列施している。微隆起線の両端に棒状工具で沈線を施す。胴部に同様の施文具による沈線を縦位、斜位に施す。その後、貝殻腹縁部で微隆起線上に刻目を入れる。口唇部は舌状に成形した箇所と、平坦面をやや外傾するように成形した箇所がある。舌状に成形した箇所は貝殻腹縁部

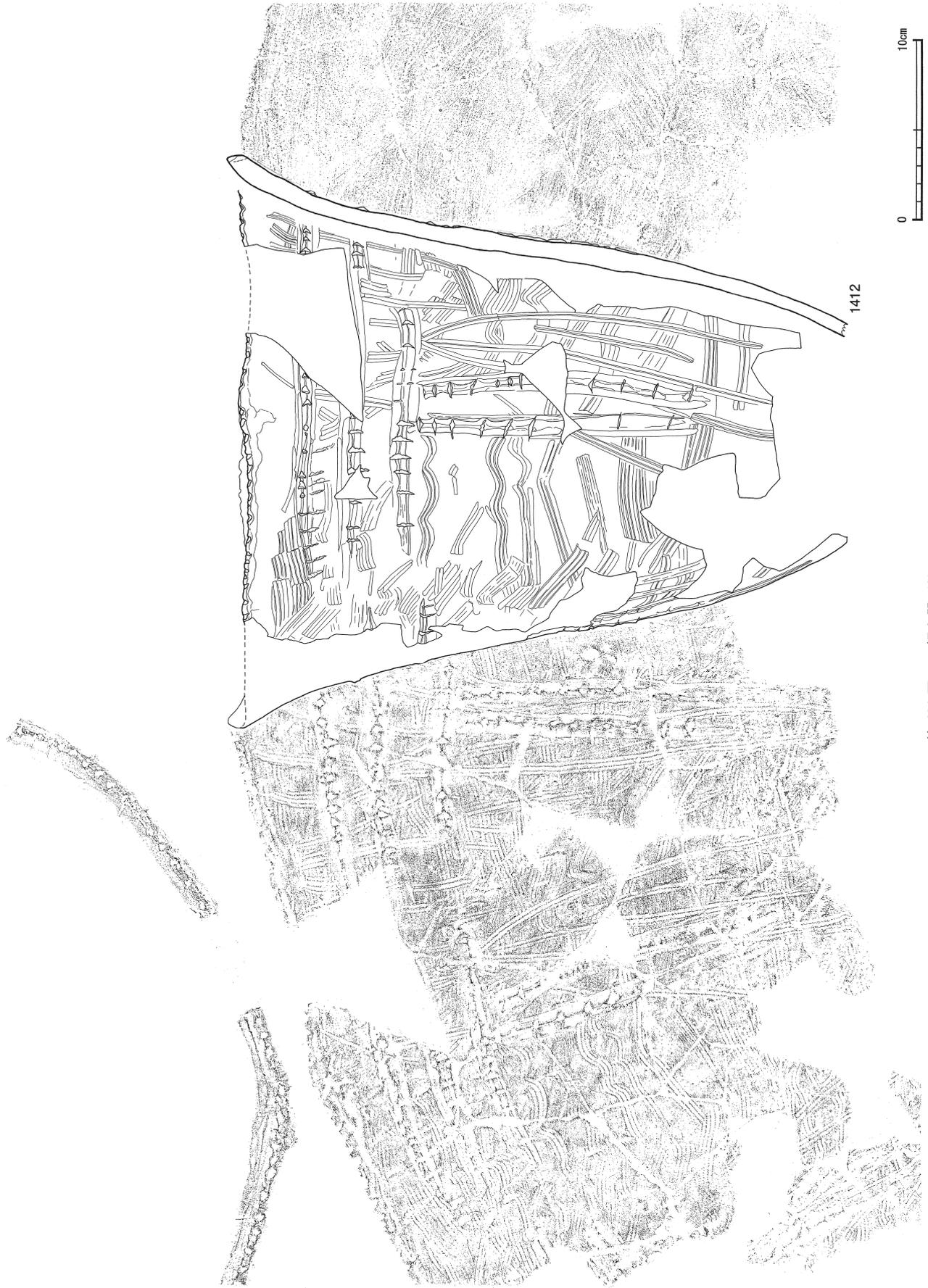




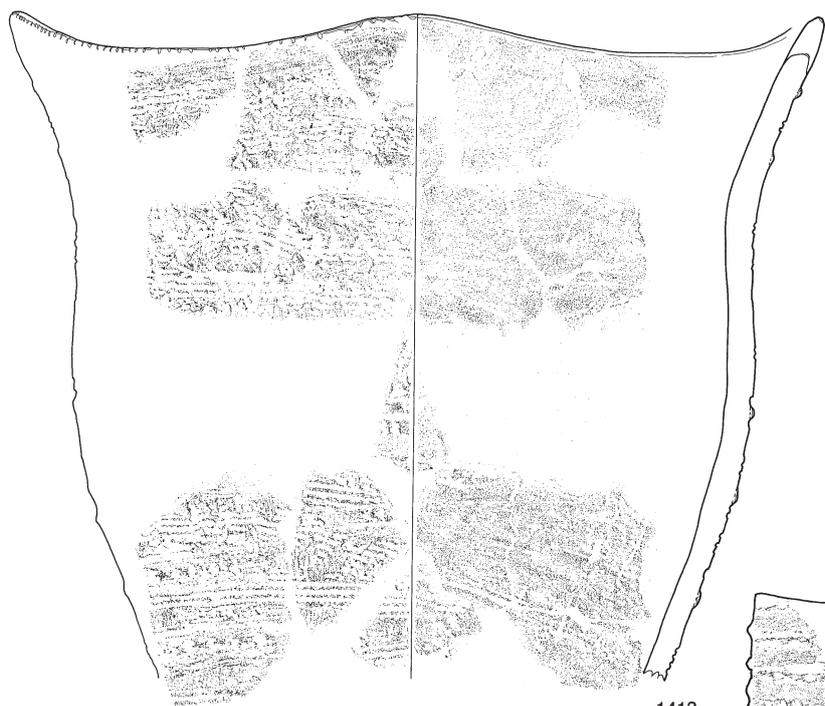
第 434 图 XⅡ類土器出土分布图



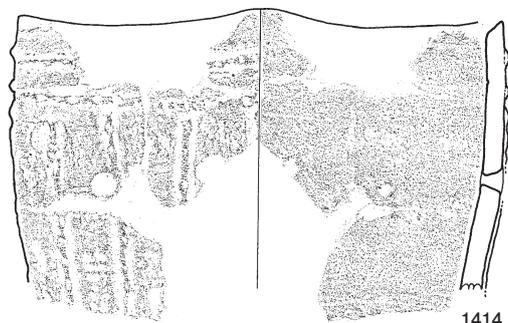
第 435 图 XⅦ類土器 (1)



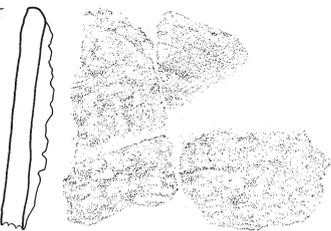
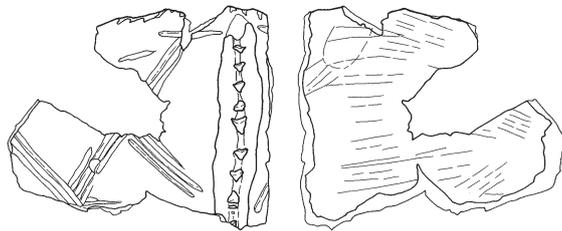
第 436 図 XVII 類土器 (2)



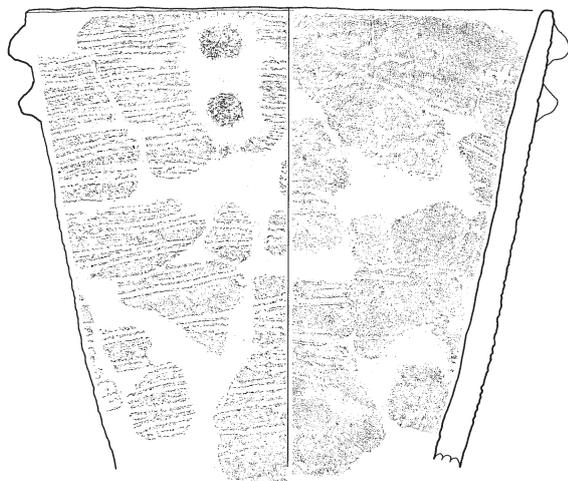
1413



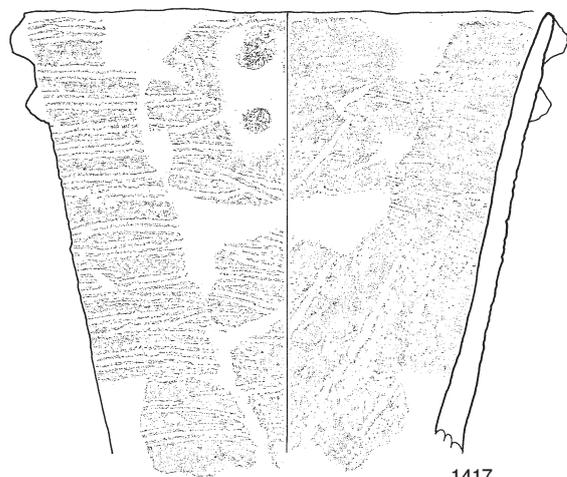
1414



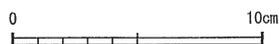
1415



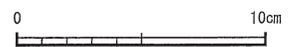
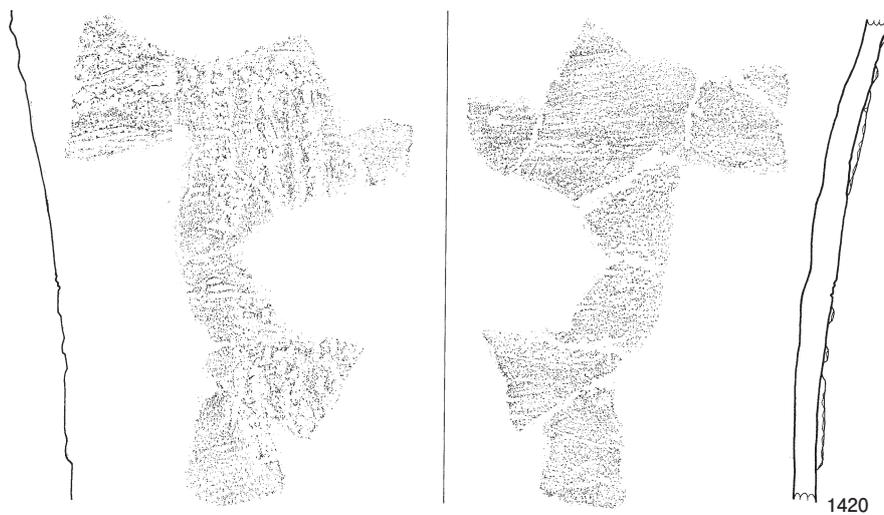
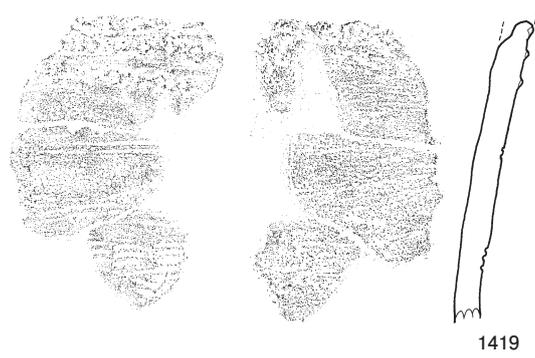
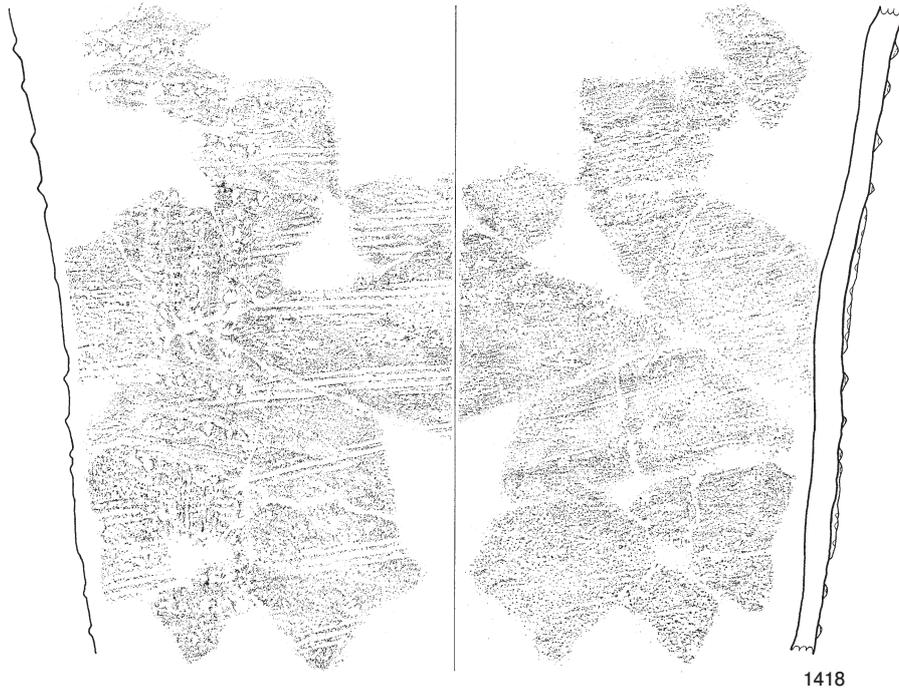
1416



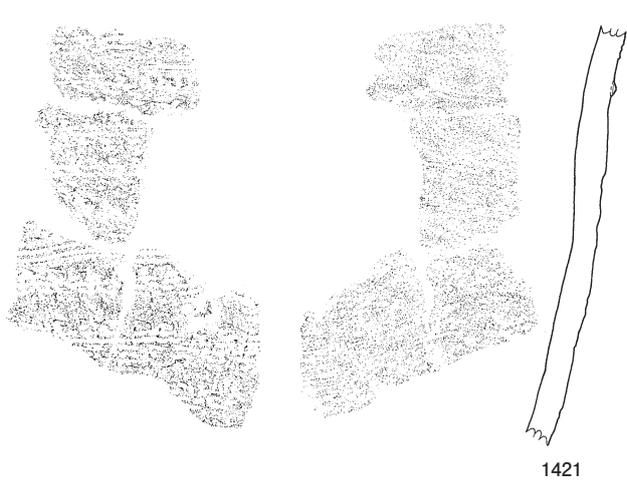
1417



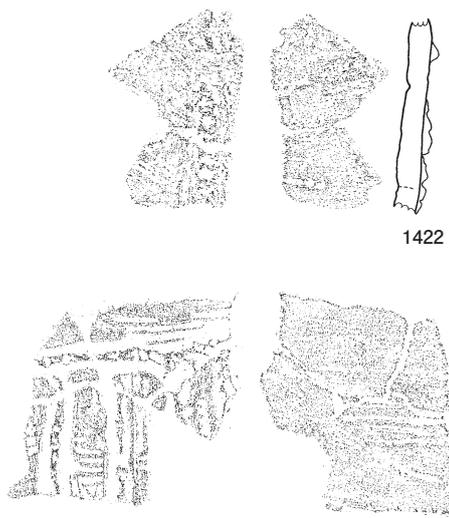
第 437 图 XVI 类土器 (3)



第 438 图 XVII 类土器 (4)



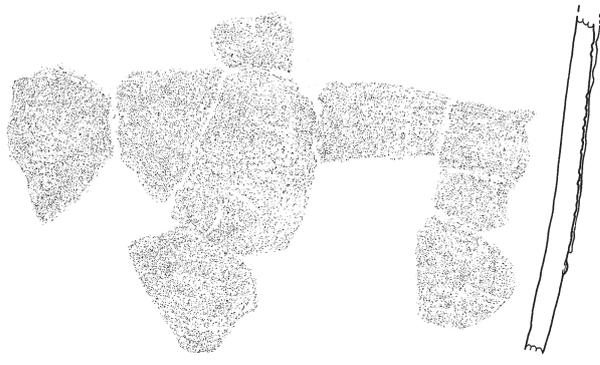
1421



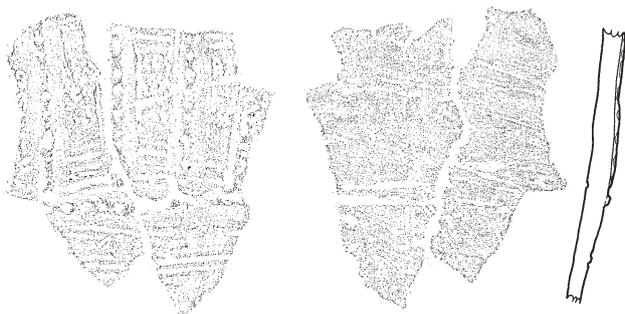
1422



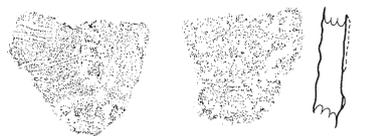
1423



1424



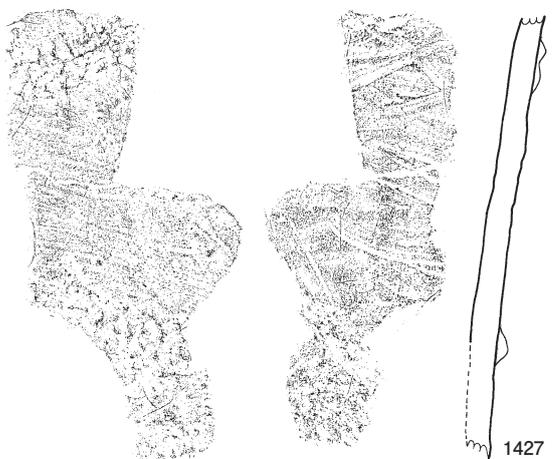
1425



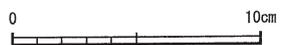
1426



1428



1427



第 439 图 XVI 类土器 (5)

を口唇部の上方より押し当て刻目を施している。一方、平坦面がやや外傾する箇所は、口唇部外端部に刻目を入れている。内面は繊維状の擦痕が多く確認できる。丁寧なナデを行っている。1413は波状口縁を呈すると考えられる。口縁部から胴部中央付近まで押し引き状の横位の貝殻刺突文を施し、胴部下半は横位の貝殻条痕文を施す。口縁部、胴部中央付近に横位の刻目突帯を部分的に施し、両端にヘラ状工具による沈線を施す。口唇部外端にも貝殻腹縁部による刻目を入れる。その下の口縁部上位にヘラ状工具によるナデを行う。内面は横方向の繊維状の擦痕が確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子、角閃石を含む。1414は4単位の波状口縁を呈すると考えられる。外面は横位の貝殻条痕文を施した後、口縁部に横位に2段、胴部は縦位に微隆線状の突帯を貼り付ける。その後、縦位の突帯の両端をヘラ状工具で丁寧なナデを行う。口唇部は平坦面が内傾するように成形する。突帯上と口唇部外端部にヘラ状工具で明瞭な刻目を施す。内面は横方向の繊維状の細い擦痕が一部確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を含む。1415は波状口縁を呈すると考えられる。斜位の貝殻条痕文を鋸歯状に施し、太めの刻目突帯を波頂部より縦位に施す。刻目は逆「C」字状に加工した施文具で行っている。同様の施文具で口唇部に刻目を施す。内面に非常に細い繊維状の擦痕が確認できる。口縁部内面付近に非常に丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1416は口縁部が直線的に外反する円筒形状の器形を呈すると考えられる。口縁部に縦位に瘤状突起を貼り付け、その後横位の貝殻条痕文を全面に施す。内面は繊維状の細い擦痕、棒状工具による調整痕が確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1417は文様、調整、胎土が1416と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。

1418～1428は胴部である。1418は口唇部は残存していないものの、口縁部から胴部中央付近と考えられる。横位の貝殻条痕文を間隔を空けて施した後、口縁部上位に微隆線状の横位の刻目突帯を2段施す。刻目は貝殻腹縁部を器面に縦位に当て施す。口縁部下位から胴部には、口縁部上位と同様の長さ4.0～5.3cmの刻目突帯を横位に2段、縦位に3列の順で交互に施文する。内面に横方向の細い繊維状の擦痕が確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子、角閃石を多く含む。1419は口縁部付近と考えられるが、口唇部は残存していない。擬口縁状の接合痕が確認できる。外面は貝殻条痕文や押し引き状の貝殻刺突文を施し、丁寧に文様をナデ消した箇所がある。横位に3段の微隆線状の刻目突帯を施す。1420は口縁部下位から胴部中央付近と考えられる。口縁部の横位の微隆線状の刻目突帯を施した後、胴部に縦位3列、横位3段の順で微隆線状の刻目突帯を施す。文様、調整、

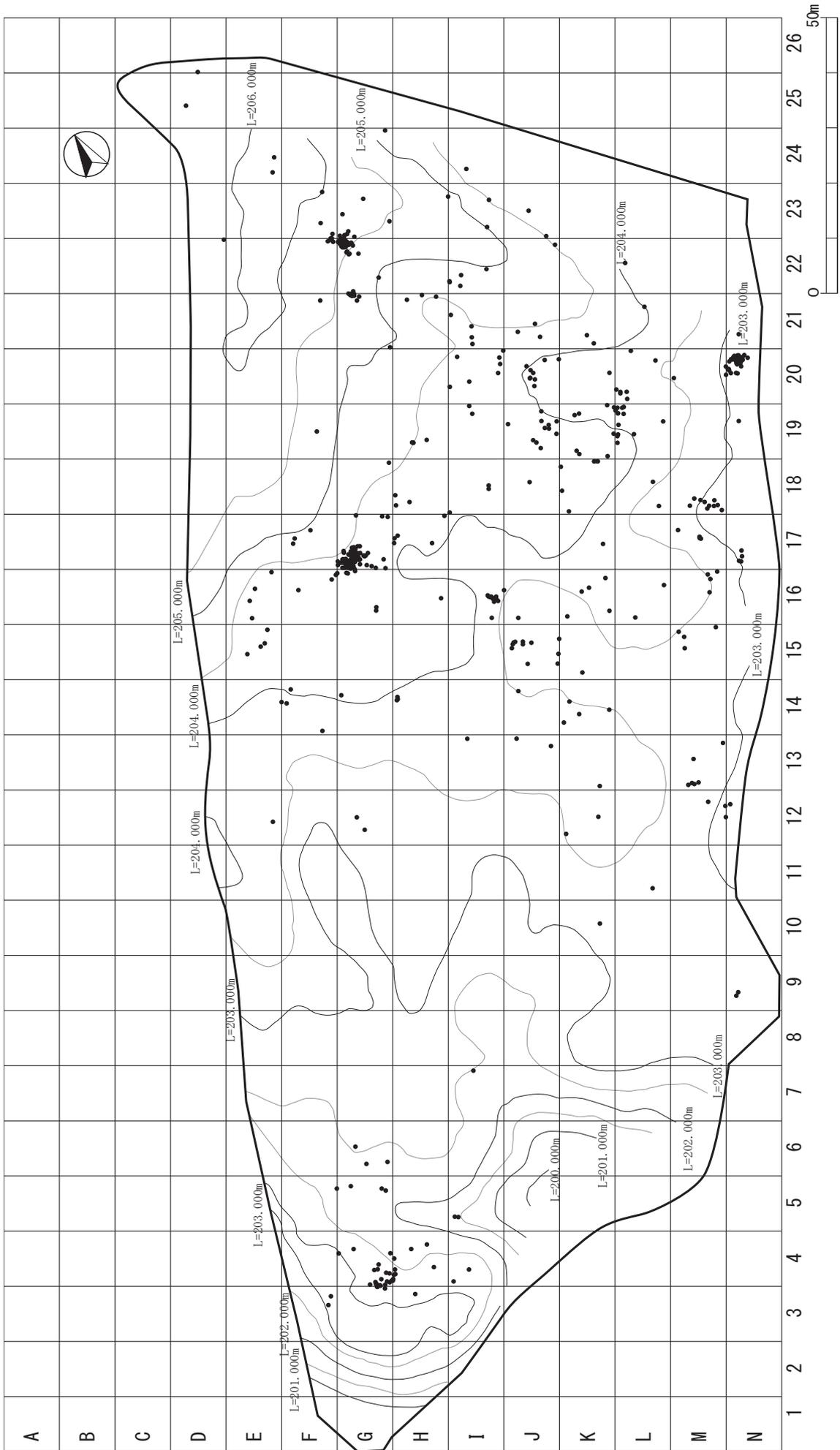
胎土が1419と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1421は押し引き状の横位の貝殻刺突文を施す。その後、刻目突帯を部分的に施し両端にヘラ状工具による沈線を施す。内面は一部横方向の繊維状の擦痕が確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子、角閃石を含む。文様、調整、胎土が1413と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1422は外面に波状の貝殻条痕文を横位に施した後、丁寧なナデを行う。その後、縦位、横位の刻目突帯を施す。内面に内傾接合の痕跡が確認でき、ナデを行っている。胎土に白色粒子を多く含む。1423～1425は文様、調整、胎土等が1414と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1423は外面に横位の貝殻条痕文を施した後、横位、縦位の微隆線状刻目突帯を施す。縦位の刻目突帯の両端はヘラ状工具でナデを行う。内面に丁寧なナデを行う。1424は胴部下半付近と考えられる。縦位、横位の刻目突帯を施すが、1423と同様に縦位の刻目突帯の両端のみヘラ状工具によるナデが施されている。縦位の刻目突帯間に貝殻腹縁部を器面に対して直行するように当て施文した貝殻刺突文を部分的に確認することができる。1426は外面に貝殻条痕文を施した後、横位、縦位の刻目突帯を施す。内面はナデを行う。1427は内外面に横方向の細い繊維状の擦痕が確認でき、丁寧なナデを行う。外面は斜位、横位の太めの刻目突帯を施す。刻目はヘラ状工具により明瞭に施される。胎土に白色粒子、金雲母を多く含む。1428は文様、調整、胎土が1427と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられるが、外面の刻目突帯の下端に沈線を施している。

#### (18) XⅢ類土器（第440～445図 1429～1451）

XⅢ土器は口唇部外端に刻目を入れ、外面に貝殻条痕を施文する一群である。多くが口縁部が直口もしくはやや外反し、底部にむけて直線的にすぼまる器形である。口径に対して底径が極端に短く急にすぼまるものもある。内面に貝殻条痕調整を行うものもある。貝殻条痕を模した細条線や沈線を施すものも含む。

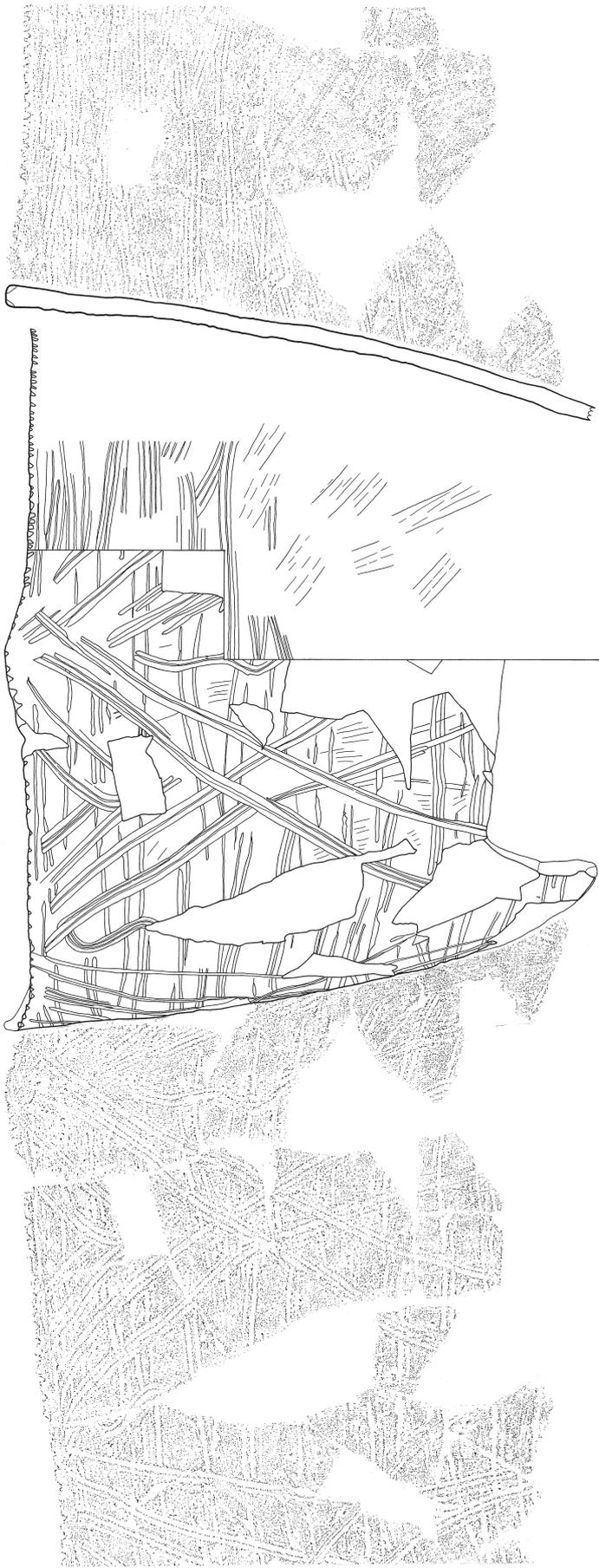
文様は貝殻条痕文、細条線文、沈線文、刺突文、微隆線状の刻目突帯等を施す。

1429～1434は外面に貝殻条痕を横位に施した後、斜位の貝殻条痕文を施す一群である。貝殻条痕を模して、櫛歯状工具による細条線を施すものも含む。1429・1430は4単位の波状口縁を呈すると考えられる。1429は口縁部から胴部下半まで、1430は口縁部から胴部中央付近まで復元することができる。外面に横位の貝殻条痕文を間隔を空けて施した後、斜位の貝殻条痕文を施す。一部曲線状の施文を行う箇所がある。口唇部内外端にヘラ状工具で明瞭な細い刻目を入れる。内面に横位、斜位の貝殻条痕を施す。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1431は文様、調整、胎土等が1430と類似することから、同一個

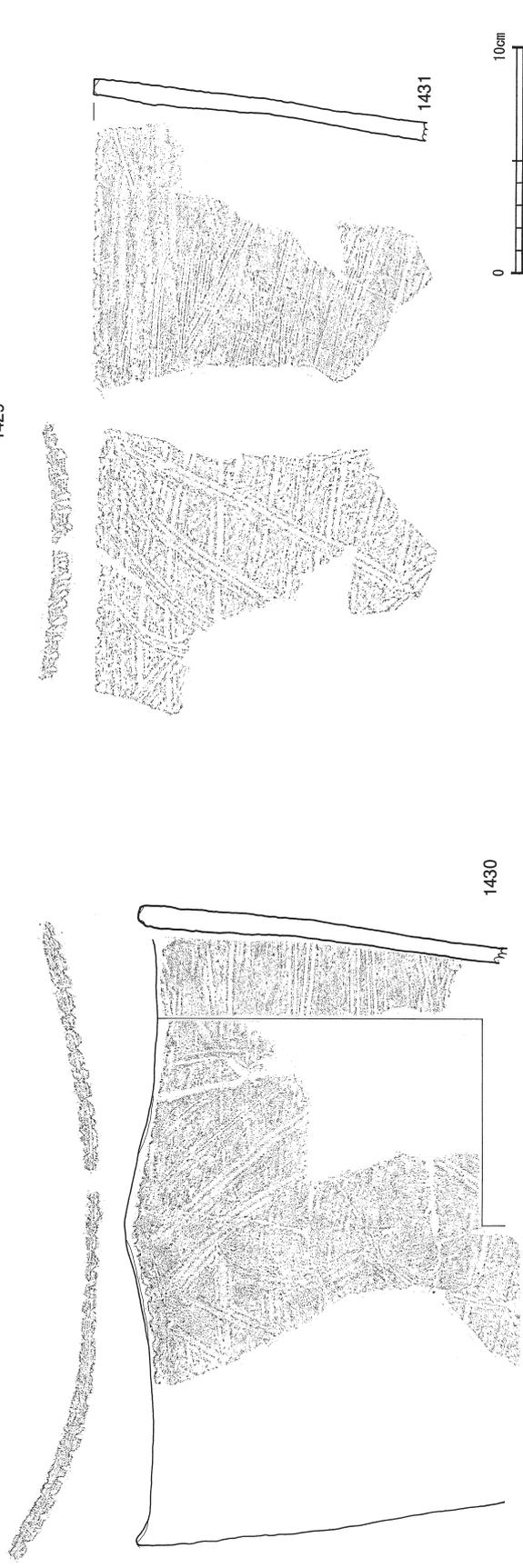


第 440 図 XⅢ類土器出土分布図





1429

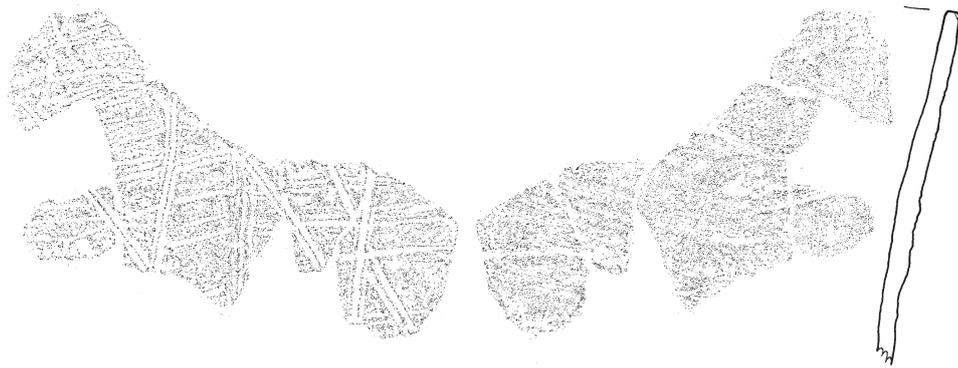


1431

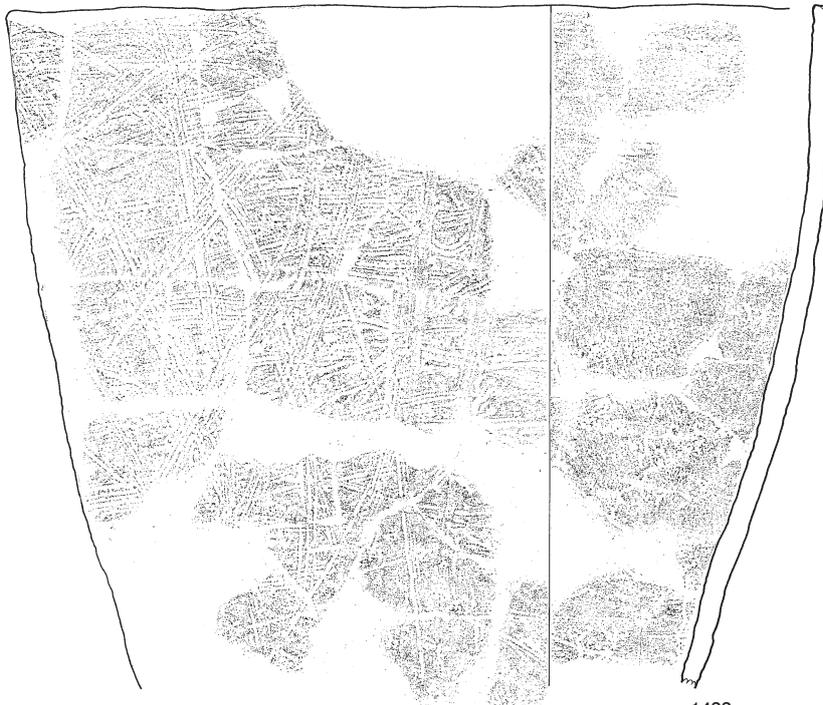
1430



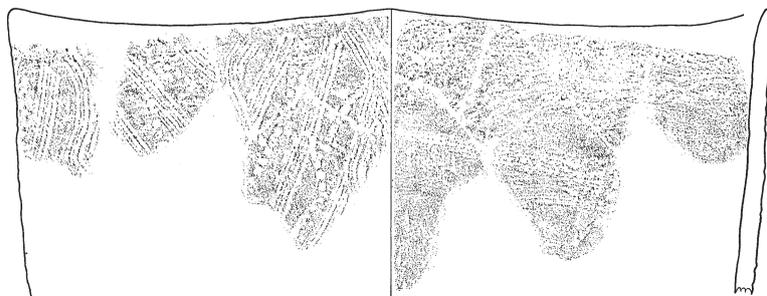
第 441 図 XⅡ類土器 (1)



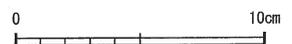
1432



1433



1434



第 442 図 XVIII 類土器 (2)

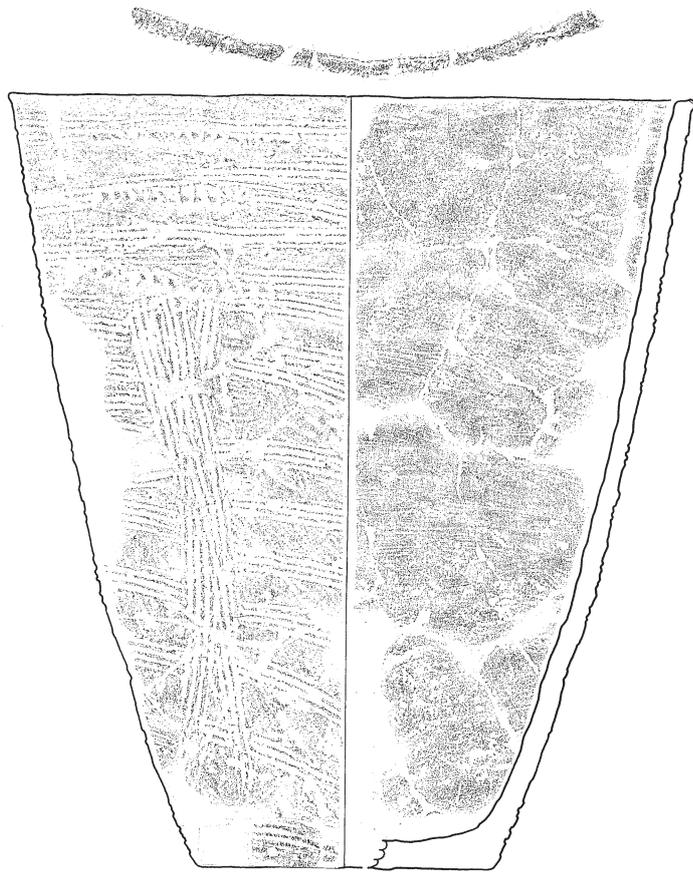
体の可能性が高いと考えられる。1432は口縁部が外反する器形である。外面に横位の貝殻条痕文を施した後、斜位の貝殻条痕文をやや間隔を空けて斜格子状に施すと考えられる。口唇部内外端に浅い刻目を入れる。内面は横位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1433は口縁部から胴部下半まで復元することができる。外面に櫛歯状工具による横位の細条線を施した後、斜位の細条線を施す。口唇部外端に浅い刻目を入れる。内面には横方向の繊維状の擦痕が多く確認できる。丁寧なナデを行っている。1434は4単位の波状口縁を呈すると考えられる。外面に櫛歯状工具による斜位の細条線を施す。一部曲線状の施文を行う箇所がある。細条線間に貝殻腹縁部を器面に対して直行するように押圧した縦位、斜位の貝殻刺突文を施す。口唇部外端に棒状工具で刻目を入れる。内面は横位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。外面に煤状の炭化物が確認できる。

1435～1440は主に横位の貝殻条痕を施文する一群である。一部貝殻刺突文を施すものもある。1435はほぼ完形に復元することができた。安定した平底の底部から口縁部に向けて直線的に広がる器形である。外面は横位の貝殻条痕文を施す。胴部に間隔を空けて縦位の貝殻条痕文を施す箇所もある。口縁部下位付近に微隆起線状の刻目のある横位の突帯が部分的に施される。XVII類の刻目突帯に比べ非常に細い粘土紐を用いている。口唇部は平坦に成形し外端に細い刻目を入れる。内面は横方向の繊維状の擦痕が確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1436・1437は4単位の波状口縁を呈すると考えられる。1436は口縁部から胴部上半に押し引き状の貝殻刺突文を横位に施す。口縁部上位の貝殻刺突は特に密接して施文を行っており、2段目以下との差が明瞭である。胴部下半に横位の貝殻条痕文を間隔を空けて施文する。口唇部外端部に刻目を入れる。内面は横方向の細い繊維状の擦痕が多く確認できる。非常に丁寧なナデを行う。外面文様はXVI類にやや類似するが、口唇部の施文、内面調整等がXVII類に類似することからここに含めた。1437は外面に横位の貝殻条痕文を波状に施す。口唇部外端に棒状工具で明瞭な刻目を入れる。内面は丁寧なナデを行う。一部繊維状の細い擦痕が確認できる。1438は横位の貝殻条痕文を弧状に施す。舌状に成形した口唇部外端にへら状工具で刻目を入れる。1439は横位の貝殻条痕文を密接に施した後、平坦に成形した口唇部の外端に刻目を入れる。内面に丁寧なナデを行う。1440は外面に横位、斜位の貝殻条痕文を施す。舌状に成形した口唇部外端に縦長の細く明瞭な刻目を入れる。内面に横位の貝殻条痕を施す。

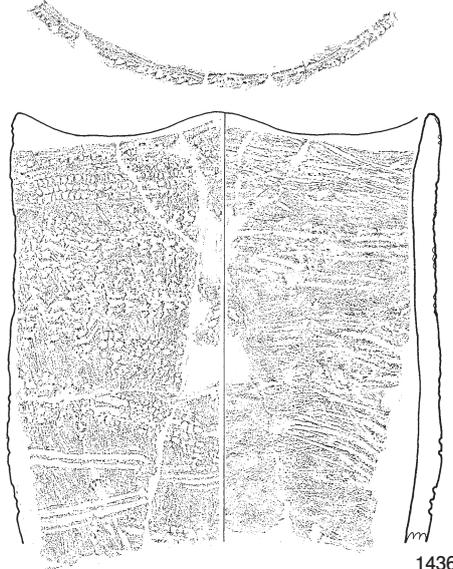
1441～1447は斜位の貝殻条痕文を施す一群である。1441は横位の貝殻条痕文を施した後、斜位の貝殻条痕文

を斜格子状に施す。口唇部に円形の刺突を施す。口縁部付近に煤状の炭化物がわずかに確認できる。内面に横位の浅い貝殻条痕を施す。1442は外面に斜位の貝殻条痕文を不規則に施す。口唇部に1441と同様の円形の刺突を施す。口唇部外端部がやや肥厚している点が1441と異なる。内面に横位の貝殻条痕を施す。1443は外面に非常に浅い斜位の貝殻条痕文を施す。内面には横位、斜位の貝殻条痕を施す。1444は外面に沈線を斜位に施す。口唇部に浅い刻目を入れる。内面は丁寧なナデを行っている。胎土に金雲母を多く含む。外面に煤状の炭化物が広く確認できる。1445は外面に縦位、斜位の浅い沈線を不規則に施す。一部櫛歯状工具による斜位の細条線を施す箇所もある。浅い沈線、細条線の施文を行った後、先端を細く加工した棒状工具による明瞭な沈線で弧状に施文する。口唇部外端には浅い刻目を入れる。内面に横位の貝殻条痕を施す。1446・1447は棒状工具による非常に明瞭で凹部の深い沈線を斜格子状に施す。1446は舌状に成形した口唇部内端に斜位の刻目を入れる。1447は口唇部外端に刻目を入れる。内面は横方向の浅い沈線状の擦痕が確認できる。1446は胎土に白色粒子、金雲母を多く含む。1447は胎土に小礫、白色粒子を多く含む。

1448～1451は口縁部が残存しないものの、胴部から底部にかけて良好な残存状況を示す土器である。1448は胴部中央から底部まで復元することができる。胴部中央付近でやや膨らみ、曲線的に平底の底部にすぼまる器形である。外面は斜位の貝殻条痕文を施す。内面は横位の貝殻条痕を施す。底部は中央部分が若干内側へ窪んではいるが、上げ底とまではいかない。底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。1449は外面が丸みを帯びた径の小さな底部である。胴部は底部に向けて直線的に急にすぼまる器形である。胴部外面は櫛歯状工具による細条線を斜位に施す。底面境付近は無文で、丁寧なナデを行う。底部は粘土塊をやや丸底状に成形する。内面をやや凹ませ、底部の外周上に粘土紐を巻き付け、胴部が外傾するように成形しながら輪積みを行ったと考えられる。胴部は内面は斜位のケズリを行った後、丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。1450は胴部中央付近から底部まで復元することができる。底部に向けて曲線的にすぼまる器形である。外面にへら状工具による斜位の条痕文を施す。底面境付近のみ横位に施す。条痕文を施した後、ナデを行う。底部円盤に外周上に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形する。内面に横方向の繊維状の擦痕が確認できる。丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1451は胴部下半付近から底部まで復元することができる。内外面に横位、斜位の貝殻条痕を施す。外面は底面境まで施文が及ぶ箇所がある。断面に接合痕が確認でき、底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部が外傾するように輪



1435



1436



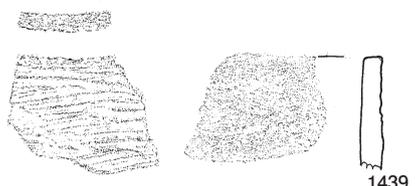
1437



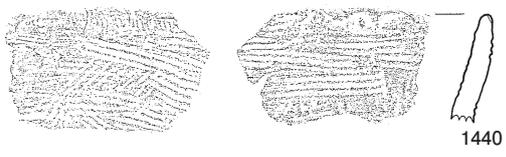
1438



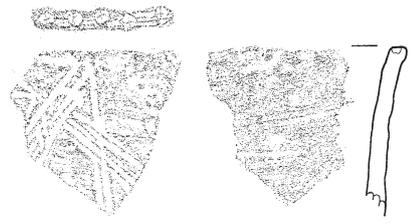
1441



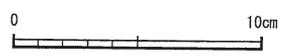
1439



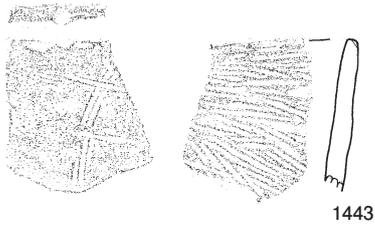
1440



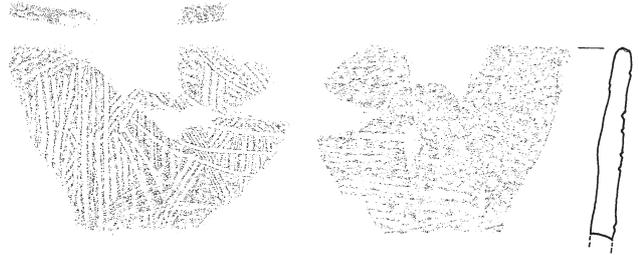
1442



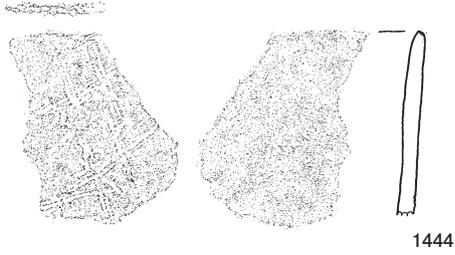
第 443 图 XIII 类土器 (3)



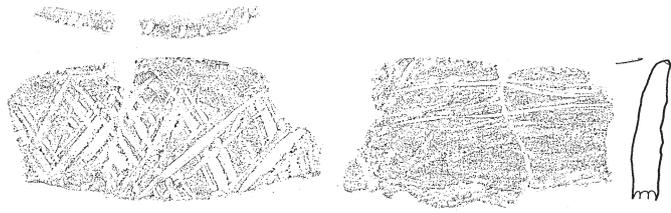
1443



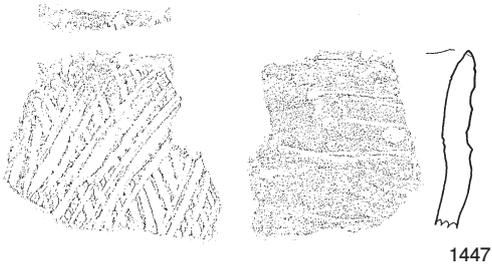
1445



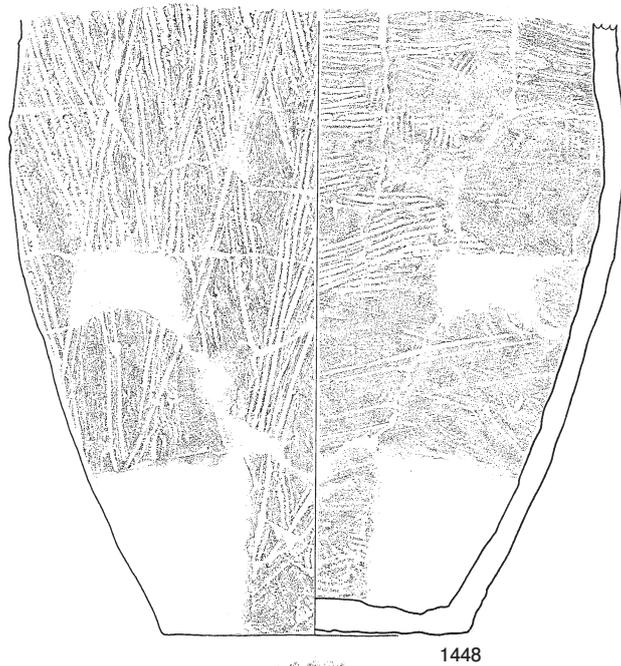
1444



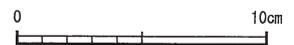
1446



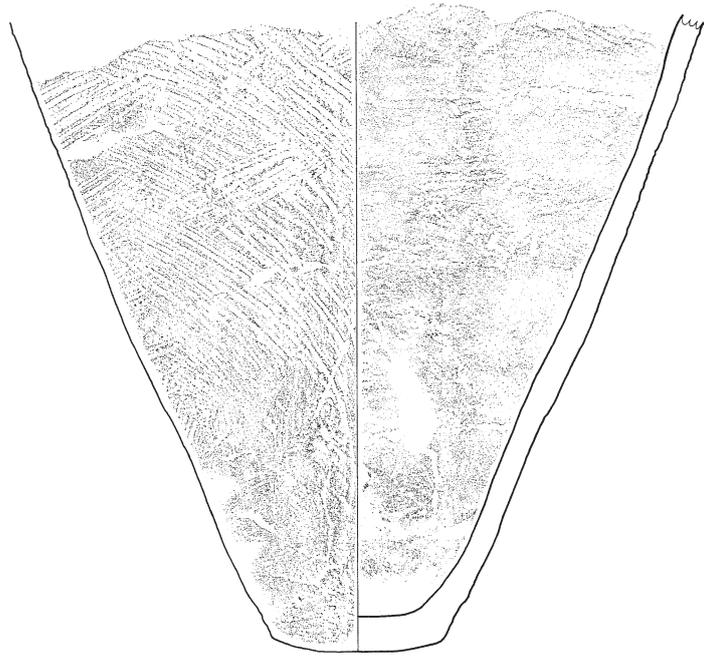
1447



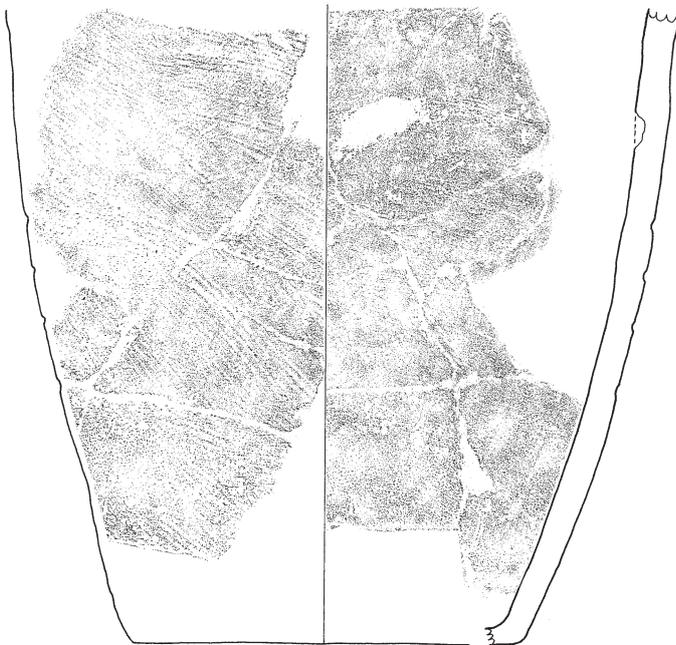
1448



第 444 図 XVIII 類土器 (4)



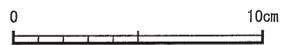
1449



1450



1451



第 445 图 XIII 类土器 (5)

積み成形を行ったと考えられる。内外面に指おさえ痕が多数確認できる。

#### (19) XIX類土器 (第446～452図 1452～1503)

XIX土器は無文土器である。口唇部に刻目を入れるものも含む。

1452～1454は口縁部が肥厚する一群である。XIV類土器と形態、調整、胎土等が類似する。1452は口縁部上位外面に粘土を貼り付け、折り返し状の肥厚する口縁部を作り出したと考えられる。内外面に指おさえ痕が確認でき、丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子、角閃石を多く含む。1453は調整、胎土等が1452と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1454の成形、胎土は1452に類似するが、内面に横方向の繊維状の細かい擦痕が確認できる。

1455～1460は頸部で曲線的にくびれ、口縁部が外反する一群である。内外面に丁寧なナデを行う。XV類土器と形態、調整、胎土等が類似する。1455・1456は波状口縁を呈する。1455は内面に指おさえ痕が確認できる。胎土に白色粒子、金雲母を含む。1456は口縁部下位をへら状工具でわずかに段を作り出している。1456・1457は内外面に繊維状の細かい擦痕が確認できる。胎土に白色粒子を含む。1458は口縁部が大きく外反し、胴部が膨らむ器形と考えられる。口縁部外面に横方向のへら状工具による調整痕が確認できる。内面はケズリを行った後、丁寧なナデを行う。1459・1460は内外面の調整、胎土等が1458と類似する。

1461・1462は口縁部がやや外反し、内外面ともにケズリを行った後、ナデを行う一群である。1461は口縁部から胴部下半まで復元することができる。口縁部がやや外反し、底部に向けて曲線的にすぼまる器形である。口縁部外面の上位にわずかな稜を有する。胎土に小礫、金雲母を多く含む。1462は内面に内傾接合の痕跡や指おさえ痕が多数確認できる。

1463・1464は口縁部が「く」の字状に外反し、口唇部に刻目を入れる一群である。内外面ともに丁寧なナデを行う。XV類土器と形態、調整、胎土等が類似する。1463は口唇部に羽状の刻目を入れる。胎土に白色粒子を多く含む。1464は口縁部から胴部下半付近まで復元することができる。口縁部外面にへら状工具による調整痕が確認できる。内面はケズリを行った後、丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子、金雲母を多く含む。

1465～1468は口縁部が緩やかに外反し、口唇部に刻目を入れる一群である。繊維状の細かい擦痕が確認できる。XVI類土器と形態、調整、胎土等が類似する。1465・1466は口唇部に棒状工具による横位の刻目を入れる。1467は口唇部に縦位の刻目を入れる。内面にへら状工具による調整痕が確認できる。1468は波状口縁を呈すると考えられる。口唇部には貝殻腹縁部による刻目を入れてい

る。

1469～1471は口縁部が直線的に外反する一群である。形態、調整、胎土等からXVI～XVII類土器に類似すると考えられる。1469・1470は内外面にへら状工具による調整痕や指おさえ痕が多数確認できる。胎土に白色粒子を多く含む。調整、胎土等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1471は緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。外面に繊維状の細かい擦痕が確認できる。内外面に指おさえ痕が多数確認できる。胎土に小礫、白色粒子、金雲母を多く含む。

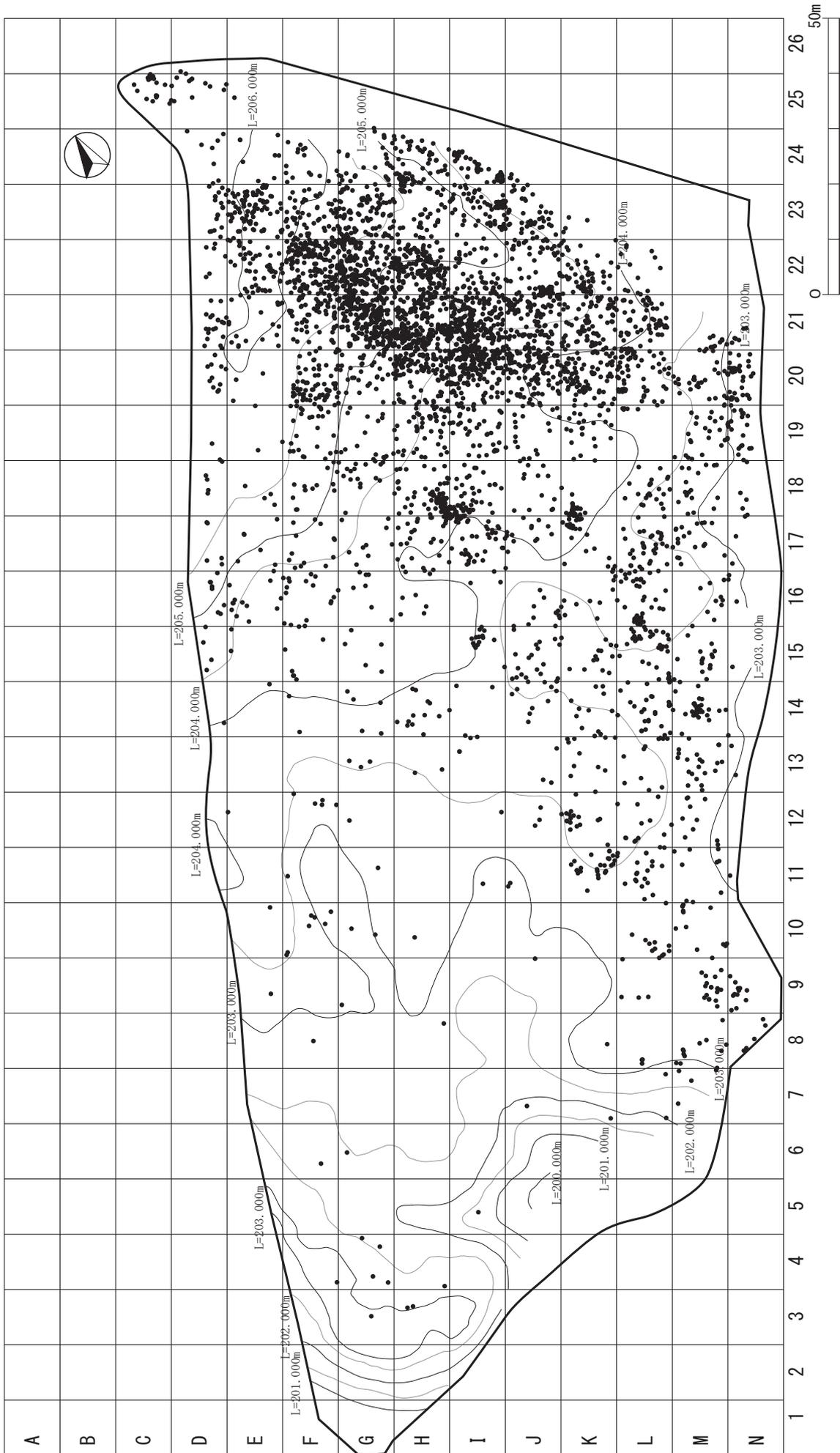
1472は口縁部が直口する円筒形状の器形である。内面に繊維状の細かい擦痕や指おさえ痕が確認できる。内外面ともにナデを行う。1473は調整、胎土等が1472と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。

1474～1477は胴部である。1474は頸部から胴部上半付近と考えられる。内外面に繊維状の細かい擦痕が確認できる。丁寧なナデを行う。形態、調整、胎土等がXV～XVI類土器に類似する。1475～1477は胴部下半付近と考えられる。1475は内外面に指おさえ痕が多数確認でき、丁寧なナデを行う。内面には繊維状の擦痕が一部確認できる。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1476は内面にケズリを行った後、ナデを行う。胎土に白色粒子、金雲母を多く含む。1477は内外面に指おさえ痕が確認できる。内面には横位、斜位の繊維状の擦痕のあるへら状工具による調整痕が多数確認できる。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。外面に煤状の炭化物が確認できる。

1478～1499は底部である。

1478～1482は上げ底状の底部である。有文土器の施文の及ばない無文部分の可能性もある。調整、胎土等はXIV～XV類土器に類似すると考えられる。1478・1479は内外面ともにケズリを行った後、ナデを行う。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部が外反するように輪積み成形したと考えられる。底部外面より押し出すように成形し、上げ底状の底部を作り出している。胎土に白色粒子を多く含む。1480は胴部内外面ともにナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1481は底面のみである。外面ともに丁寧なナデを行う。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部を輪積み成形したと考えられる。その際、粘土紐を高台状に成形しわずかに上げ底状にしている。1482はやや上げ底状の底部である。底面境付近の胴部外面は、縦位のへら状工具による調整痕が確認できる。胴部内面に指おさえ痕が多数確認できる。内外面ともにナデを行う。底部外面にへら状工具によるケズリが外周部分に沿うように行われている。灰褐色の付着物が一部確認できる。

1483～1489は胴部下半が直線的に開く一群である。1483～1485は底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、胴部が外反するように輪積み成形していると考えられる。



第 446 图 双类型土器出土分布图

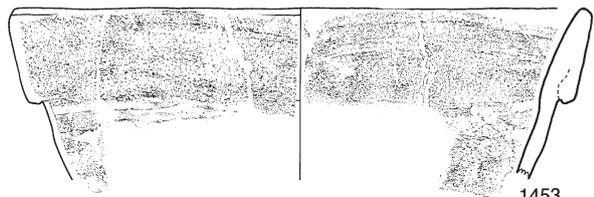




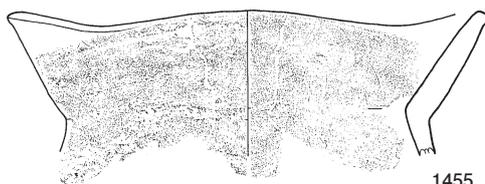
1452



1454



1453



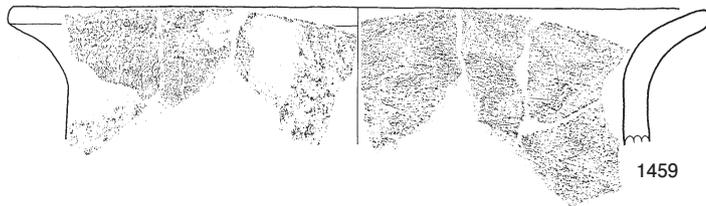
1455



1456



1457



1459



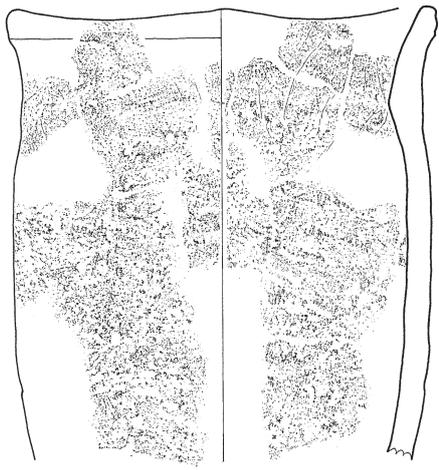
1458



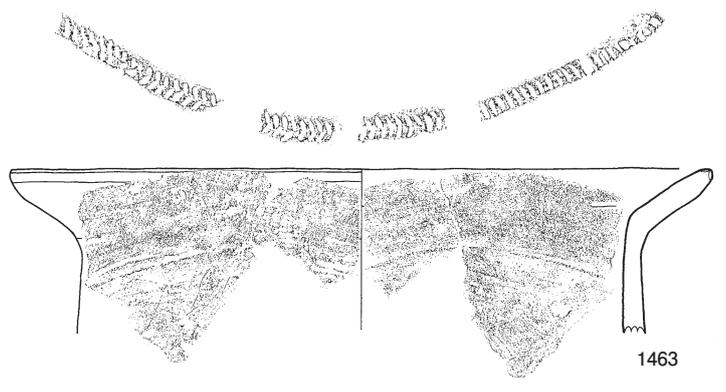
1460



第 447 図 XIX類土器 (1)



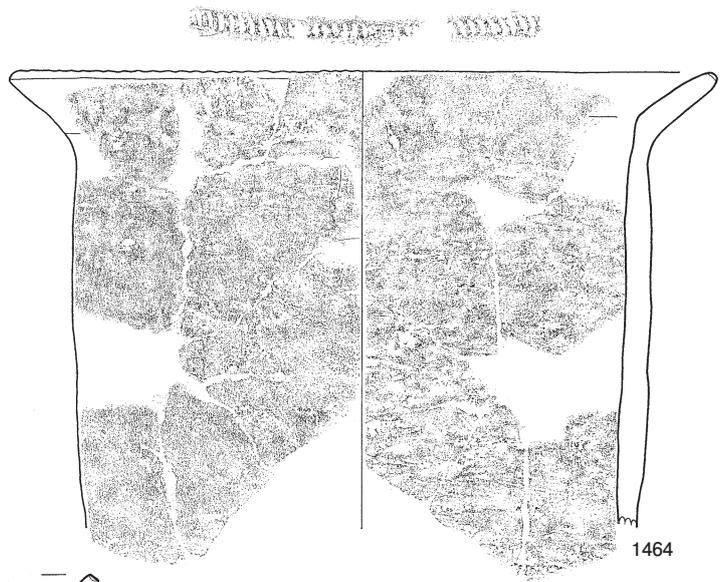
1461



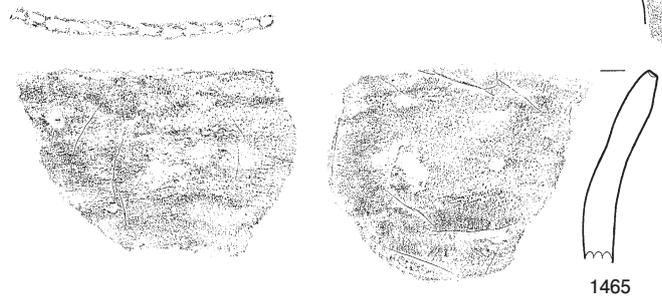
1463



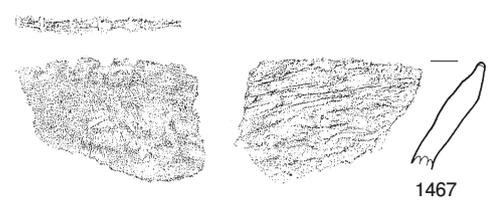
1462



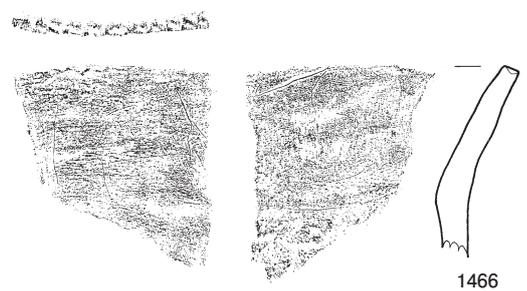
1464



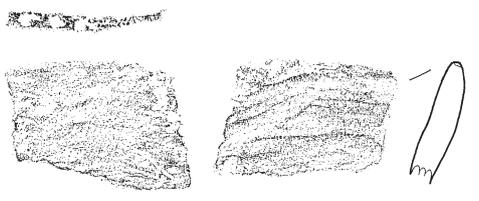
1465



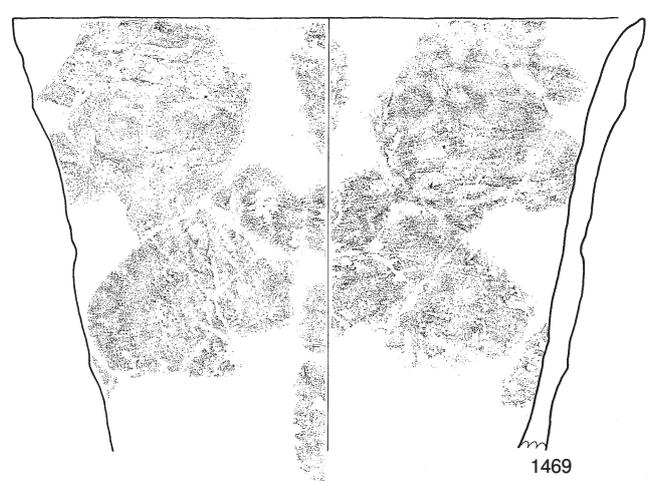
1467



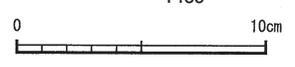
1466



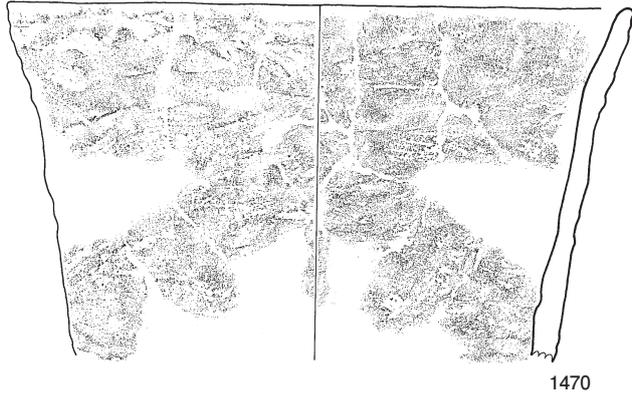
1468



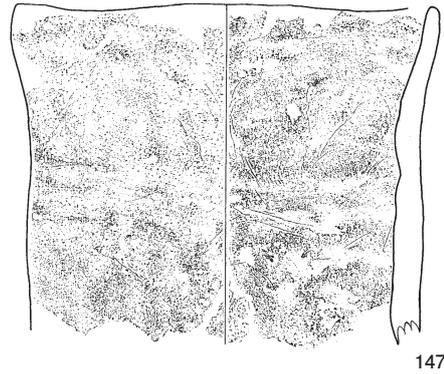
1469



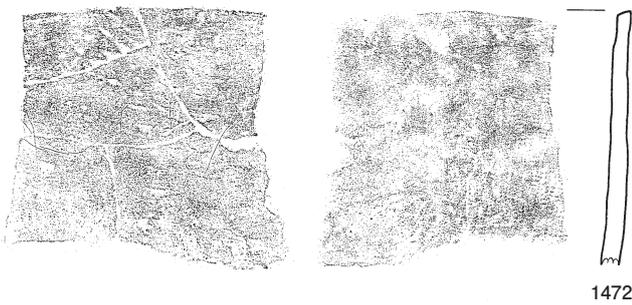
第 448 图 XIX 类土器 (2)



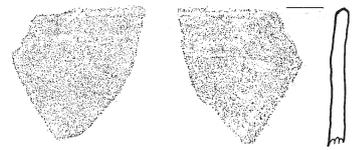
1470



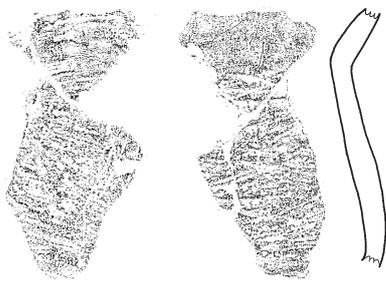
1471



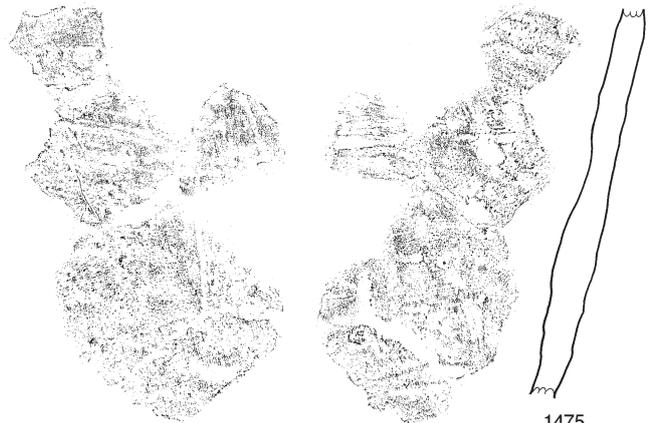
1472



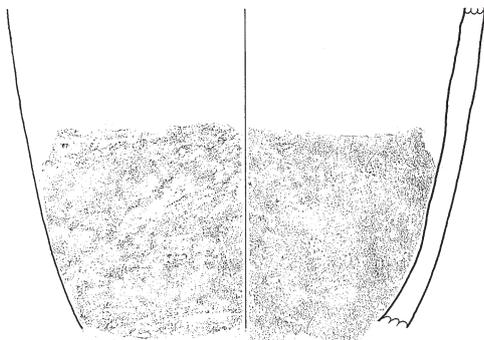
1473



1474



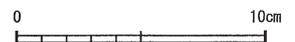
1475



1476



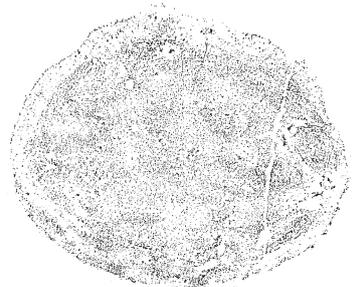
1477



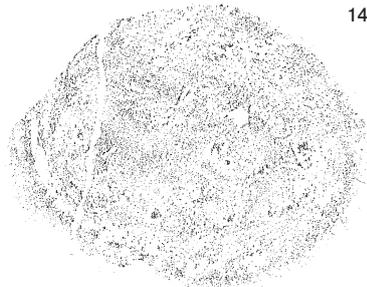
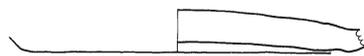
第 449 図 XIX類土器 (3)



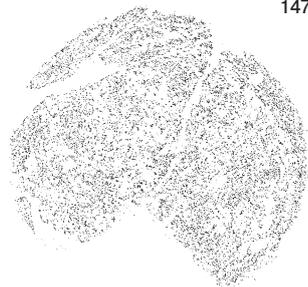
1478



1481



1479



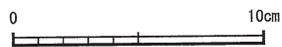
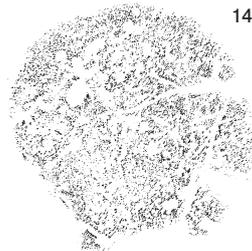
1482



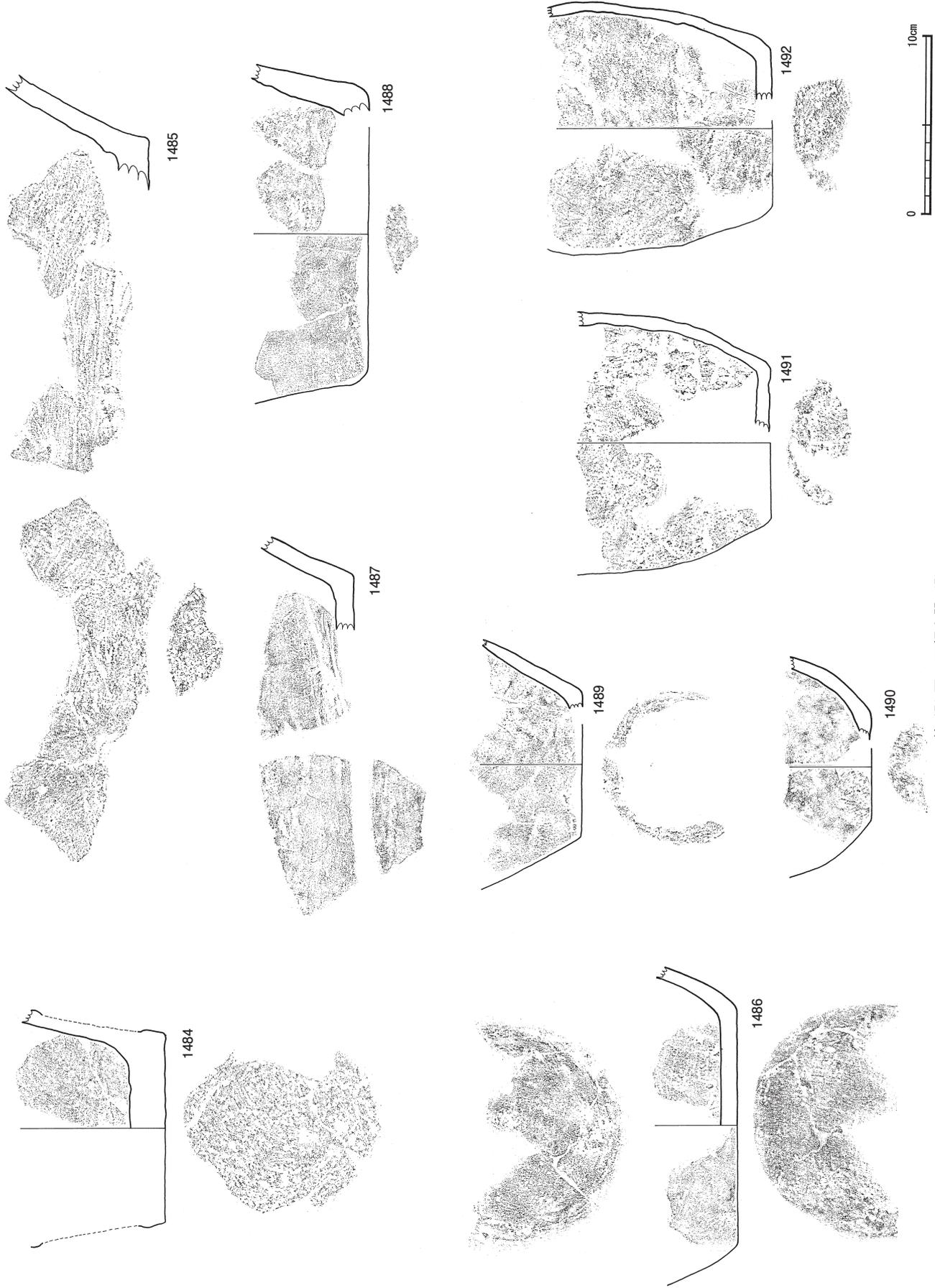
1480



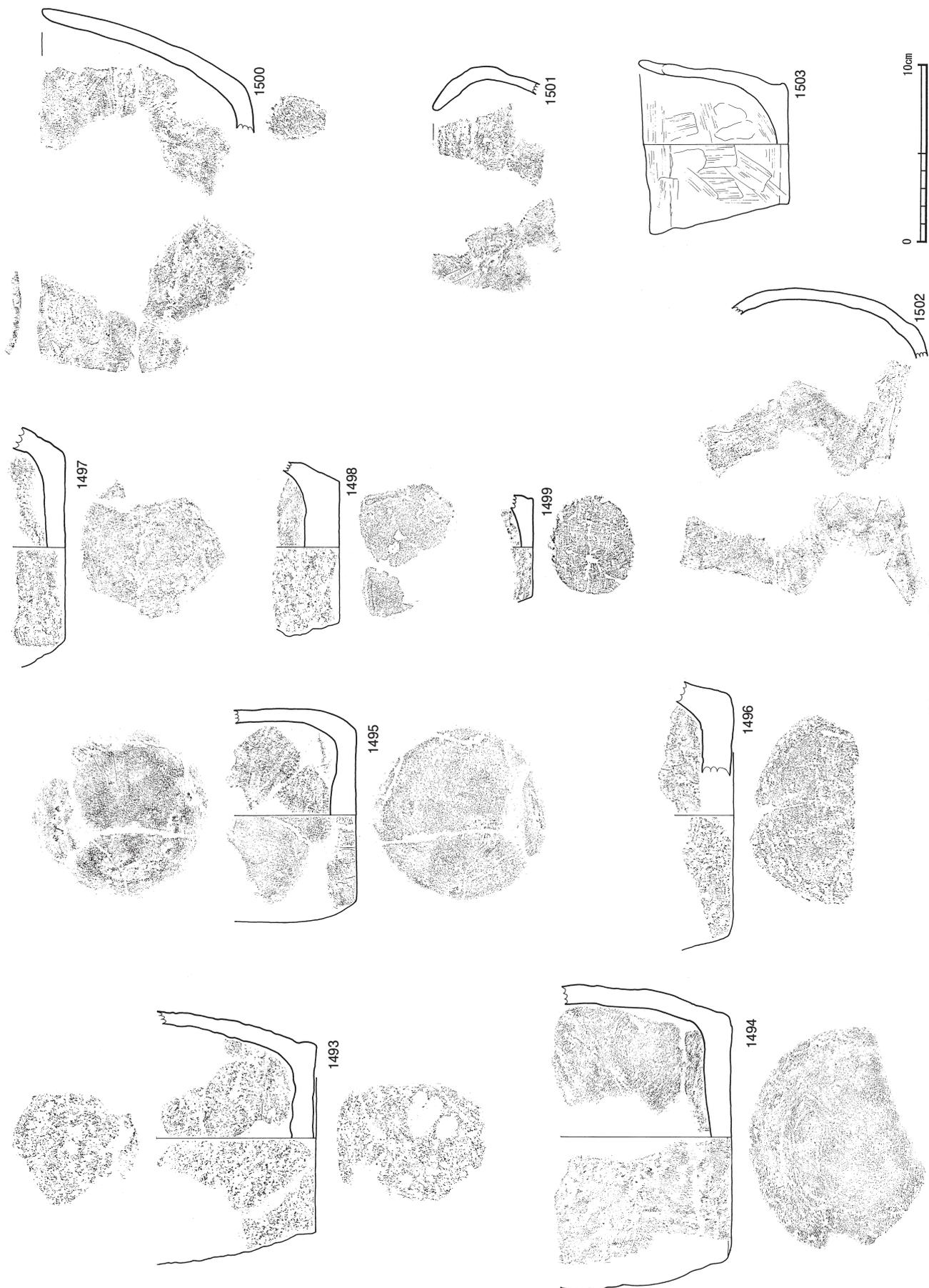
1483



第 450 图 XIX 类土器 (4)



第 451 図 双類土器 (5)



第 452 図 XX類土器 (6)

1483は胴部外面に指おさえ痕が多数確認できる。胴部内面はケズリを行った後、ナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1484は胴部外面が剥落している。胴部内面にナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1483・1484は調整、胎土等がXVI類土器に類似すると考えられる。1485は胴部内外面に繊維状の擦痕が多く確認できる。丁寧にナデを行う。胎土に小礫を多く含む。1485は調整、胎土等がXVI～XVII類土器に類似すると考えられる。1486・1487は安定した平底で、内外面ともにケズリを行った後、丁寧にナデを行う。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部が外反するように輪積み成形したと考えられる。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。調整、胎土等がXIV～XV類土器に類似すると考えられる。1488は胴部外面に指おさえ痕が確認でき、丁寧にナデを行う。胴部内面はナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1489の底面はほとんど残存していないが、底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部を輪積み成形したと考えられる。内外面ともに非常に丁寧にナデを行う。胎土に金雲母を多く含む。調整、胎土等がXIV～XV類土器に類似すると考えられる。

1490～1493は胴部下半が曲線状の器形を呈する一群である。1490は胴部外面に指おさえ痕が確認できる。内面は丁寧にナデを行う。胎土に小礫、角閃石を含む。調整、胎土等がXIV～XV類土器に類似すると考えられる。1491は内外面ともに繊維状の擦痕が一部確認でき、ナデを行う。1492は胴部外面に輪積み成形の痕跡と考えられる緩やかな凹凸が確認できる。内外面ともに丁寧にナデを行う。1492・1493は底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、輪積み成形したと考えられる。胴部外面に煤状の炭化物が確認できる。1493は内外面ともにケズリを行う。胎土に小礫、白色粒子を非常に多く含む。1491～1493は調整、胎土等がXVI～XVII類土器に類似すると考えられる。1494・1495は安定した平底の底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。1494は胴部外面に指おさえ痕が確認できる。内外面ともにナデを行う。胎土に小礫、角閃石を含む。底部外面に灰褐色の付着物が確認できる。1495は内外面ともに丁寧にナデを行う。胎土に小礫、角閃石を含む。調整、胎土等がXIV類土器に類似すると考えられる。

1496～1499は底面を中心とした部分である。1496～1498は底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部を輪積み成形したと考えられる。1496は内外面ともに非常に丁寧にナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。調整、胎土等がVI～VIII類土器に類似すると考えられる。底面に灰褐色の付着物が一部確認できる。1497は内外面ともに丁寧にナデを行う。底面に灰褐色の付着物が広く確認できる。胎土に白色粒子を含む。1498は胴部外面にケズリを行った後、ナデを行う。内面、底部

外面は丁寧にナデを行う。胎土に小礫を多く含む。1499は内面はケズリ後、ナデを行う。底部外面は丁寧にナデを行う。胎土に小礫を含む。

1500は鉢形の器形である。内外面ともに繊維状の細かい擦痕、指おさえ痕が確認でき、丁寧にナデを行う。わずかに曲線的な底部円盤の外周部分から上位にかけて粘土紐を巻き付け、外反するように胴部を輪積み成形したと考えられる。口唇部も丁寧にナデを行う。調整、胎土等がXIV～XV類土器に類似すると考えられる。

1501・1502は調整、胎土等が類似することから、同一個体と考えられる。口縁部が内傾する鉢形の器形である。内面はケズリを行った後、丁寧にナデを行う。外面は指おさえ痕が確認でき、丁寧にナデを行う。胎土に小礫、白色粒子、金雲母を多く含む。調整、胎土等がXIV類土器に類似すると考えられる。

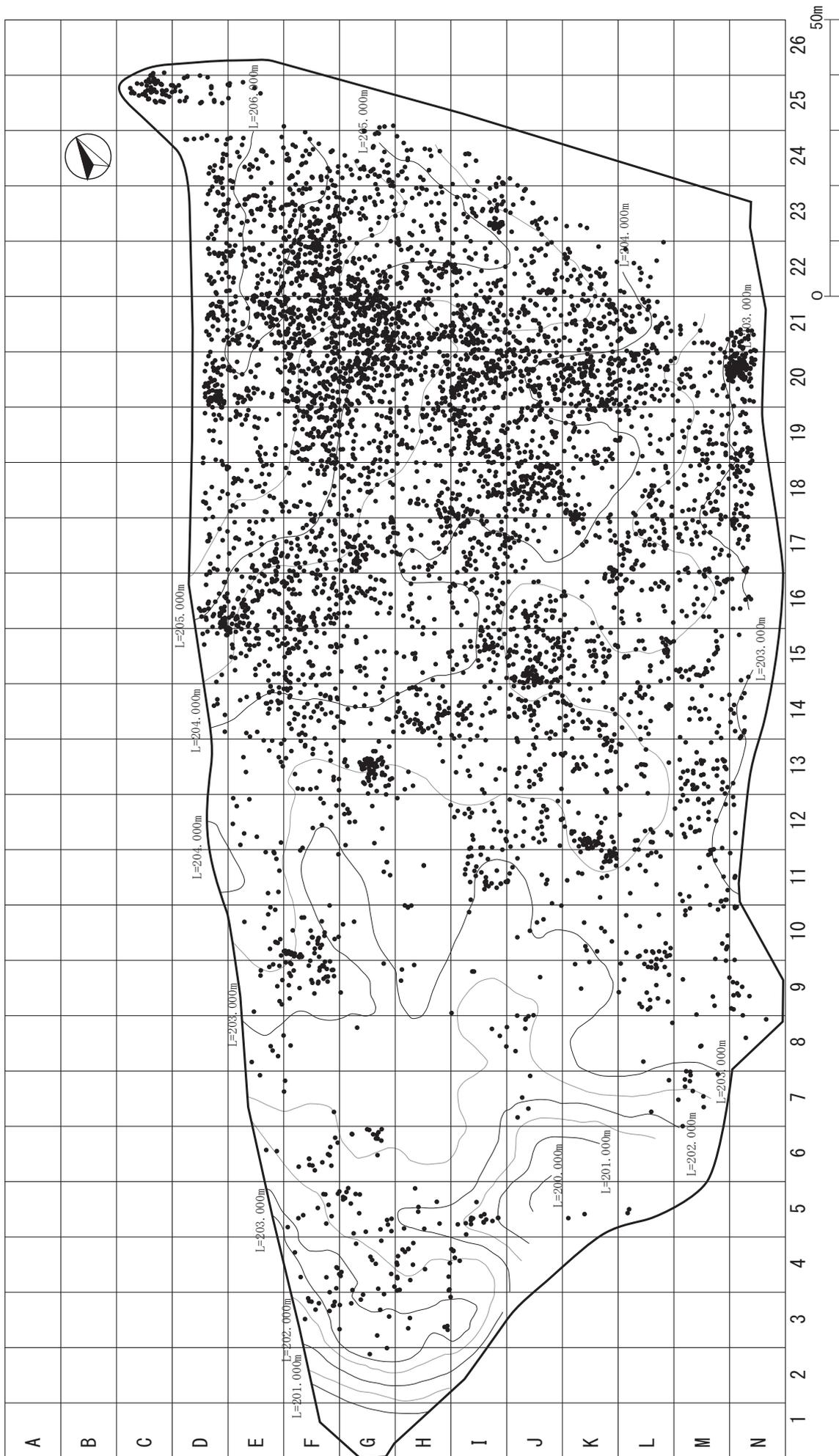
1503は小型の深鉢形土器である。平底の底部円盤に胴部の粘土紐を巻きつけて輪積み成形を行っていると考えられる。底部は口縁部にかけてやや開いた形状である。内外面ともにナデを行う。外面に指おさえ痕、ヘラ状工具による調整痕が確認できる。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。調整、胎土等がXVI類土器に類似すると考えられる。

#### (20) XX類土器 (第453～459図 1504～1565)

XX類土器はI～XIX類土器に分類できない一群である。器形、文様、調整等で比較的まとまりのあるものごとに分類した。

1504～1518は櫛歯状工具等による細条線を主な文様とする一群である。

1504～1507は横位の細条線で割付けを行い、内部に波状の横位、直線状の縦位の細条線を施文する一群である。1504は口縁部から胴部下半付近まで復元することができた。口唇部を舌状に成形し、口縁部が外反し頸部でわずかにくびれる。胴部中央で膨らみ、底部に向けて曲線的にすぼまる器形である。幅0.5cm程度の櫛歯状工具による横位の細条線を口縁部上位、頸部に施し、口縁部の割付けを行う。その後、同様の施文具で口縁部に波状の横位の細条線を施す。胴部上半、胴部中央、胴部下半に横位の細条線を間隔を空けて施文し、胴部の割付けを行う。頸部から胴部下半に縦位の細条線を密接に施す。口唇部から内面は非常に丁寧にナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を非常に多く含む。色調は褐色である。土器付着の炭化物を年代測定した結果、9,318-9,090calBPの値が得られた。1505・1506は文様、調整、胎土等が1504と類似するため、同一個体の可能性が高いと考えられる。1505は胴部中央から下半付近と考えられる。波状の横位の細条線を間隔を空けて施文した後、波状の横位の細条線間に縦位の細条線を下位まで施す。1506は平底の底部である。底面境付近まで縦位の細条線を施文している。



第 453 图 XX 类土器出土分布图



波状の横位の細条線の一部が確認できる。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部が外反するように輪積み成形したと考えられる。1507は底面境近くの胴部下半と考えられる。1504等と調整、胎土、色調等が類似するものの、外面の細条線の施文幅や波状のモチーフ等が異なる。

1508・1509は櫛歯状工具による横位の細条線を施文後に、細条線間に横位、斜位の貝殻刺突文を施す一群である。文様、調整、胎土等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1508は口縁部が内傾する器形と考えられる。口唇部の平坦面に非常に丁寧なナデを行い、外端が舌状に肥厚する。外面に横位の細条線を施文した後、細条線の上端部分に横位の貝殻刺突文を2段施す箇所がある。その後、斜位の貝殻刺突文で鋸歯状のモチーフを描く。内面は非常に丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を非常に多く含む。色調は褐灰色である。1509は横位の細条線を施文後に、一部上端部分に横位の貝殻刺突文を1段施す箇所がある。その後、斜位の貝殻刺突文を鋸歯状に施す。内面は非常に丁寧なナデを行う。内面調整、胎土等はVI～VIII類土器に類似すると考えられる。

1510は貝殻刺突文を施した後、口縁部上位に縦位の細条線を施す。口唇部を舌状に成形し、口縁部が直口する器形を呈すると考えられる。口縁部上位より間隔を空けて横位の貝殻刺突文を施した後、口唇部外端部より一部縦位の貝殻刺突文を施し、口縁部上位の割付けを行い、その後櫛歯状工具により縦位の細条線を施す。口縁部下位から胴部は、横位の貝殻刺突文間に斜位の貝殻刺突文を鋸歯状に施す。内面はケズリを行った後、非常に丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。

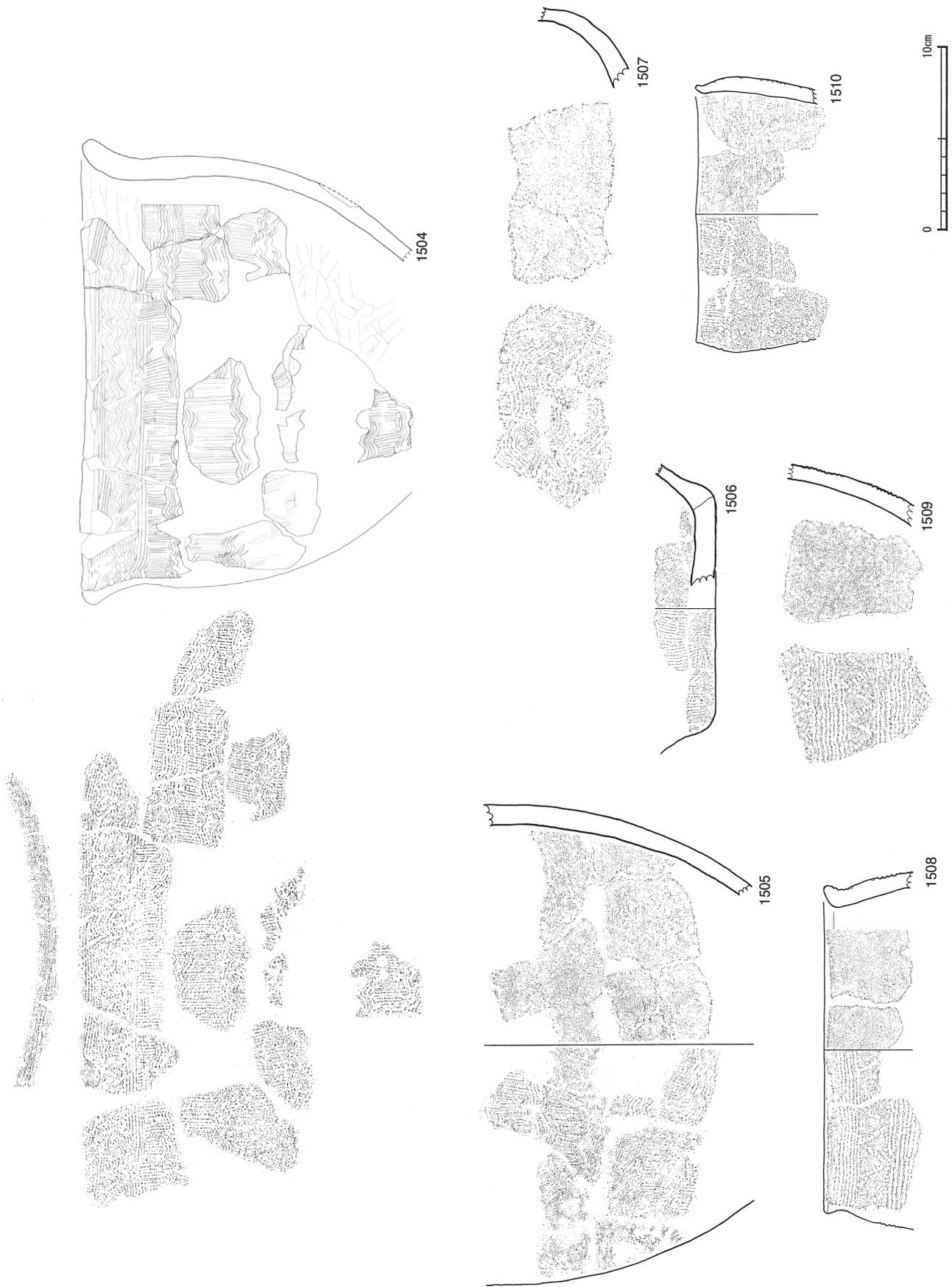
1511は口唇部を舌状に成形し、口縁部が外反する器形を呈すると考えられる。櫛歯状工具による横位の細条線を施す。口唇部、内面ともに非常に丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。

1512～1515は櫛歯状工具による細条線を斜位、曲線状に施す一群である。1512～1514は文様、調整、胎土等が類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1512は口縁部がやや外反する器形を呈すると考えられる。幅0.9cmの櫛歯状工具による細条線を斜位、曲線状に施す。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1513は頸部から胴部下付近と考えられる。細条線を大きく曲線状に施文した後、斜位の細条線を短く施文している。内面はケズリを行った後、丁寧なナデを行う。1514は底部である。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部を輪積み成形したと考えられる。底面境付近まで斜位の細条線を施す。底部外面は非常に丁寧なナデを行う。1515は底部である。1514と調整、胎土等は類似するが、外面の細条線の施文幅や器壁厚が異なる。

1516～1518は櫛歯状工具による細条線を縦位、斜位に施す一群である。1516は口縁部から胴部中央付近まで復元することができた。口唇部が内傾するように成形し、非常に丁寧なナデを行う。幅広の櫛歯状工具による細条線を縦位、斜位に施文する。内面はケズリを行った後、非常に丁寧にナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。調整、胎土等がVI～VIII類土器に類似すると考えられる。1517は文様、調整、胎土等が1516と類似することから、同一個体の可能性が高いと考えられる。1518は縦位の明瞭な細条線をやや短く施文する。口唇部は舌状に成形し、非常に丁寧なナデを行う。内面はケズリを行った後、非常に丁寧にナデを行う。胎土に小礫、白色粒子、金雲母を多く含む。

1519～1527は条線状の沈線を施す一群である。1519は先端を細く加工した棒状工具による条線状の沈線を間隔を空けて横位に施文する。1519～1521は胎土に小礫、白色粒子を含み、調整、胎土等がVI～VIII類土器に類似すると考えられる。1519は口唇部を内傾するように成形し、非常に丁寧なナデを行う。内面は横位、斜位のケズリを行った後、非常に丁寧なナデを行う。1520は口縁部がやや内湾する器形を呈すると考えられる。口縁部上位に条線状の浅い沈線を施した後、少し間隔を空けて縦位の浅い沈線を施す。口唇部、内面ともに非常に丁寧なナデを施す。1521は口縁部上位に先端を細く加工した棒状工具で横位の押し引き状の浅い連続刺突を2段施した後、縦位の条線状の浅い沈線を施文する。内面に丁寧なナデを行う。1522は波状口縁を呈すると考えられる。やや太めの棒状工具で明瞭な条線状の沈線を縦位に施す。内面はケズリを行った後、ナデを行う。1523の文様、内面調整は1522に類似する。口唇部に非常に丁寧なナデを行う。1524は外面に棒状工具による条線状の沈線を縦位に施す。同様の施文具で口唇部、内面に横位の沈線を施す。内面に指おさえ痕が確認でき、ナデを行う。1525は口縁部が外反する器形を呈すると考えられる。外面に棒状工具で条線状の浅い沈線を縦位に施し、同様の施文具で口唇部に刻目を入れる。内面に横方向の繊維状の細い擦痕が確認でき、ナデを行う。器形、調整、胎土等がXI類土器に類似すると考えられる。1526・1527は外面に明瞭な条線状の沈線を縦位に施文する。内面はケズリを行った後、ナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。

1528～1532は縦位の短沈線を密接に施す一群である。1528・1529・1531は波状口縁を呈すると考えられる。棒状工具による縦位の浅い短沈線を器面全体に施す。口唇部に非常に丁寧なナデを行う。内面に横方向の繊維状の細い擦痕や指おさえ痕が確認でき、丁寧なナデを行う。1530は口縁部上位に刺突状の縦位の短沈線を1段施した後、縦位の浅い短沈線を密接に施文する。内面に横方向の繊維状の細い擦痕が確認でき、非常に丁寧なナデを



第 454 図 XX 類土器 (1)



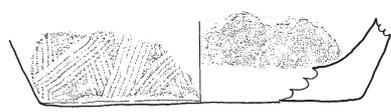
1511



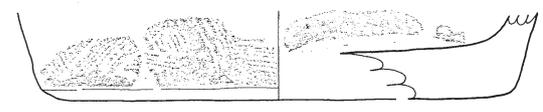
1512



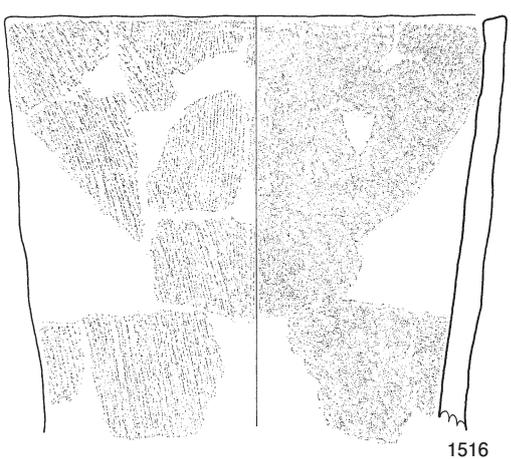
1513



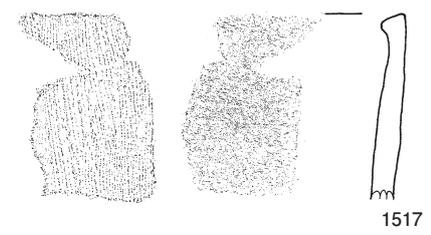
1514



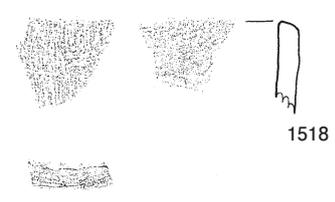
1515



1516



1517



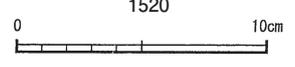
1518



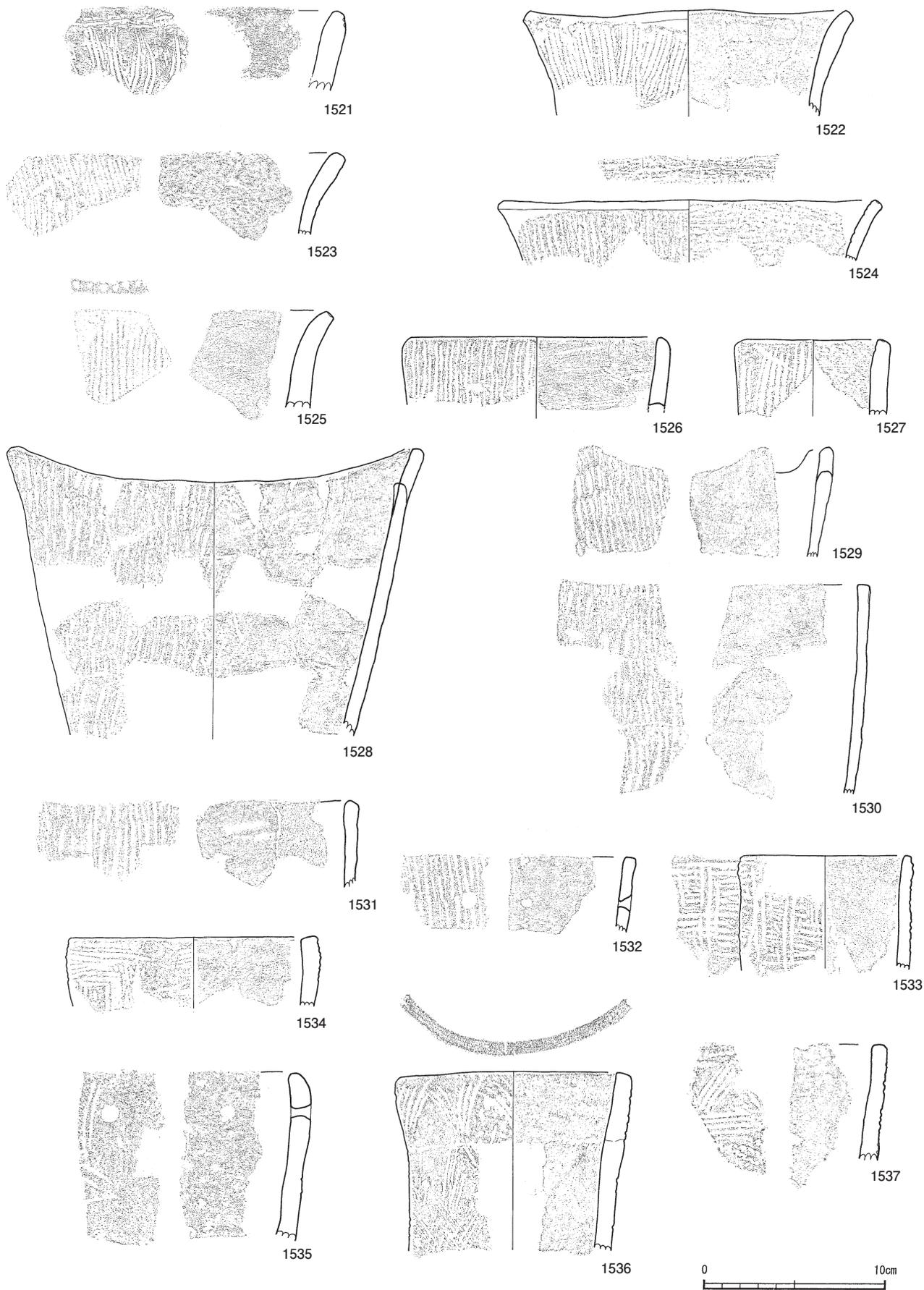
1519



1520



第 455 图 XX 类土器 (2)



第 456 图 XX 類土器 (3)

行う。胎土に小礫、白色粒子を含む。1531・1532は縦位の浅い短沈線を密接に施す。内外面ともに丁寧なナデを施す。1531は胎土に白色粒子を多く含む。1532は焼成後に外面から穿孔した円形の補修孔が1か所確認できる。

1533・1534は浅い沈線を横位、縦位に施す一群である。1533は口縁部が直口すると考えられる。口縁部上位に横位の浅い沈線を1条施した後、縦位の浅い沈線を間隔を空けて施文し、器面の割付けを行う。その後、横位の浅い短沈線を施文する。内面はケズリを行った後、ナデを行う。1534は口唇部がわずかに内傾するように成形し、非常に丁寧なナデを行う。外面は口縁部上位に横位の浅い沈線を密接に施した後、縦位の浅い沈線を施す。内面は非常に丁寧なナデを行う。器形、調整、胎土等がVI～VIII類土器に類似すると考えられる。

1535・1536は曲線状の沈線を施す一群である。1535は口縁部が内湾する器形と考えられる。口縁部に先端を細く加工した棒状工具を器面に深く当て、明瞭で細い沈線を斜位、弧状に施文する。内面はケズリを行った後、非常に丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。器形、調整、胎土等がVI～VIII類土器に類似すると考えられる。1536は口縁部がわずかに外反する器形であるとされる。口縁部に明瞭な沈線で縦長の本葉状のモチーフを描く。内面はケズリを行った後、丁寧なナデを行う。胎土に小礫を多く含む。内面に煤状の炭化物が確認できる。曲線状の沈線で本葉状のモチーフを描く点や調整、胎土等がXVI類土器と類似する部分も多いと考えられる。

1537・1538は斜位の沈線を施す一群である。1537は口縁部が直口すると考えられる。口縁部上位に横位の貝殻刺突文を2段施す。やや間隔を空けて横位の貝殻条痕文を施す。横位の貝殻刺突文と貝殻条痕文の間に斜位の貝殻条痕文で山形のモチーフを描く。横位の貝殻条痕文の下には斜位の貝殻刺突文を施す。内面はケズリを行う。胎土に小礫を多く含む。1538は口縁部が外反する器形と考えられる。口縁部外面に斜位の浅い沈線で山形のモチーフを描く。口唇部に刻目を入れる。口縁部内面に縦位の浅い沈線を施す。内面は丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。焼成後、主に外面から穿孔した円形の補修孔が1か所確認できる。器形、調整、胎土等がXIV類土器に類似すると考えられる。

1539・1540は器面に沈線が施された土器である。1539は胴部上半から底部まで復元することができた。外面に明瞭な斜位の沈線を施す。内外面ともに指おさえ痕が多数確認できる。内面は繊維状の細い擦痕が確認でき、ナデを行う。器形、調整、胎土等がXV類土器に類似すると考えられる。1540は口径8.6cm、底径5.6cm、器高12cmの小型ではあるが、完形に復元できた深鉢形土器である。口縁部が外反し、頸部でわずかにくびれ、胴部上半

でやや膨らみながら、底部に向けて直線的にすぼまる器形である。口縁部から胴部上半に斜位の明瞭な沈線を施す。内外面に指おさえ痕が多数確認でき、ナデを行う。器形、調整、胎土等がXVI類土器に類似すると考えられる。

1541～1547はVI～VII類土器に多く見られる貝殻腹縁部による刺突文を模した棒状工具による刺突文を施す一群である。1541・1542は波状口縁を呈すると考えられる。先端を細く加工した棒状工具で円形の刺突を口縁部上位に横位に数段施した後、1541は縦位に、1542は斜位に施文する。口唇部、内面に非常に丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。1543も1542と同様の施文、調整、胎土である。1544～1547は胴部である。1542等と同様に外面に斜位の刺突を施す。貝殻腹縁部を模したようにわずかに弧状に施文している箇所もあるが一様でない。内面はケズリを行った後、丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1544は斜位の刺突で「く」の字状のモチーフを描く。内面にヘラ状工具による調整痕が確認でき、ナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。

1548～1554は棒状工具による列点状の刺突を縦位に施す一群である。内面は丁寧なナデを施す。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。器形、調整、胎土等がVI～VIII類土器に類似すると考えられる。

1548～1551は口縁部である。1548・1549は口唇部を内傾するように成形する。1548は一部斜位に施す箇所がある。1550・1551は内面にケズリを行った後、ナデを行う。

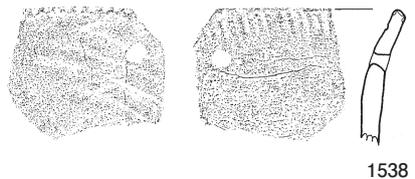
1552・1553は胴部である。1552はやや縦長の列点状の刺突を行う。内面はケズリを行った後、ナデを行う。1553は胴部下半付近と考えられる。列点状の刺突を縦位に施すが、一部施文が乱れる箇所がある。内面はヘラ状工具による調整痕が確認でき、ナデを行う。

1554は底部である。底部円盤の外周上よりやや内側に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。胴部外面に縦位の列点状の刺突を施すが、底面境付近は非常に丁寧なナデを行い、無文である。内面はケズリを行った後、ナデを行う。

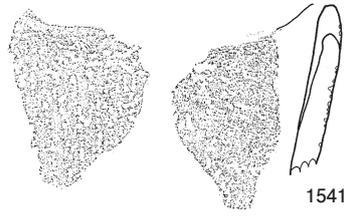
1555は口縁部が外反する器形と考えられる。外面に竹管状の工具の端部を器面に対して直行するように当て、円形の刺突を縦位に密接に施す。内面はナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。器形、調整、胎土等がXI類土器に類似すると考えられる。

1556は口縁部がわずかに外反する器形と考えられる。外面に棒状工具によるやや大きめの刺突文を縦位に施す。口縁部内面に明瞭な稜を成形し、稜より下はケズリを行う。胎土に小礫、金雲母を多く含む。器形、調整、胎土等がXI類土器の短枝回転施文を行う一群に類似すると考えられる。

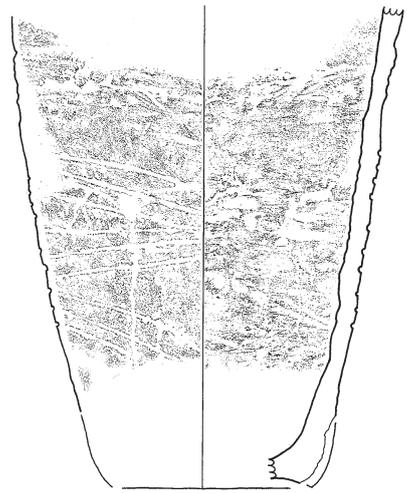
1557は口縁部から胴部下半まで復元することができ



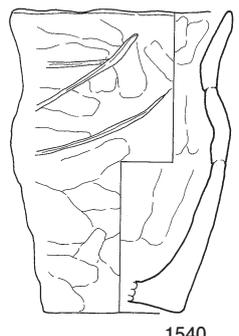
1538



1541



1539



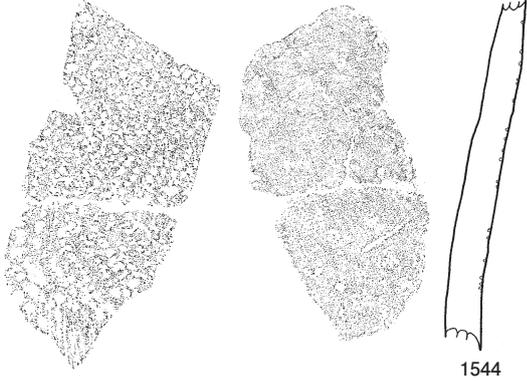
1540



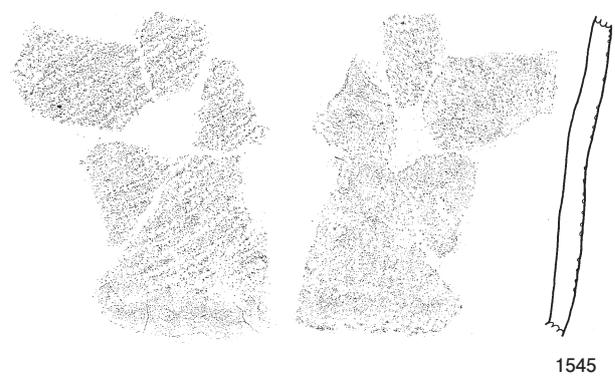
1543



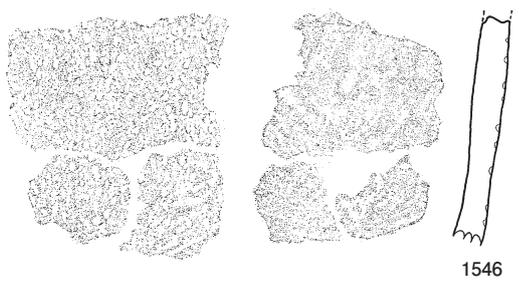
1542



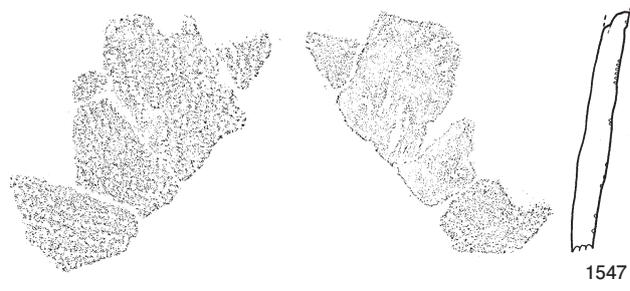
1544



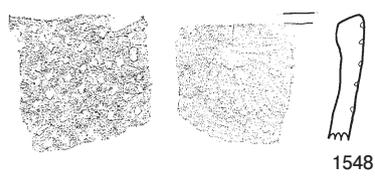
1545



1546



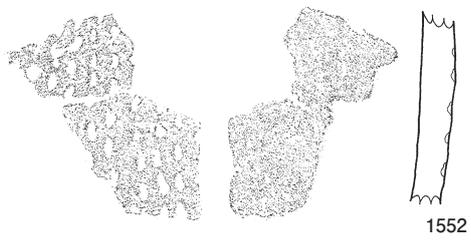
1547



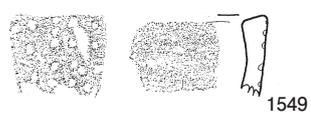
1548



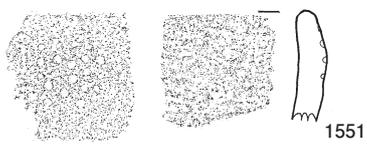
1550



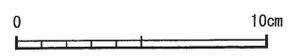
1552



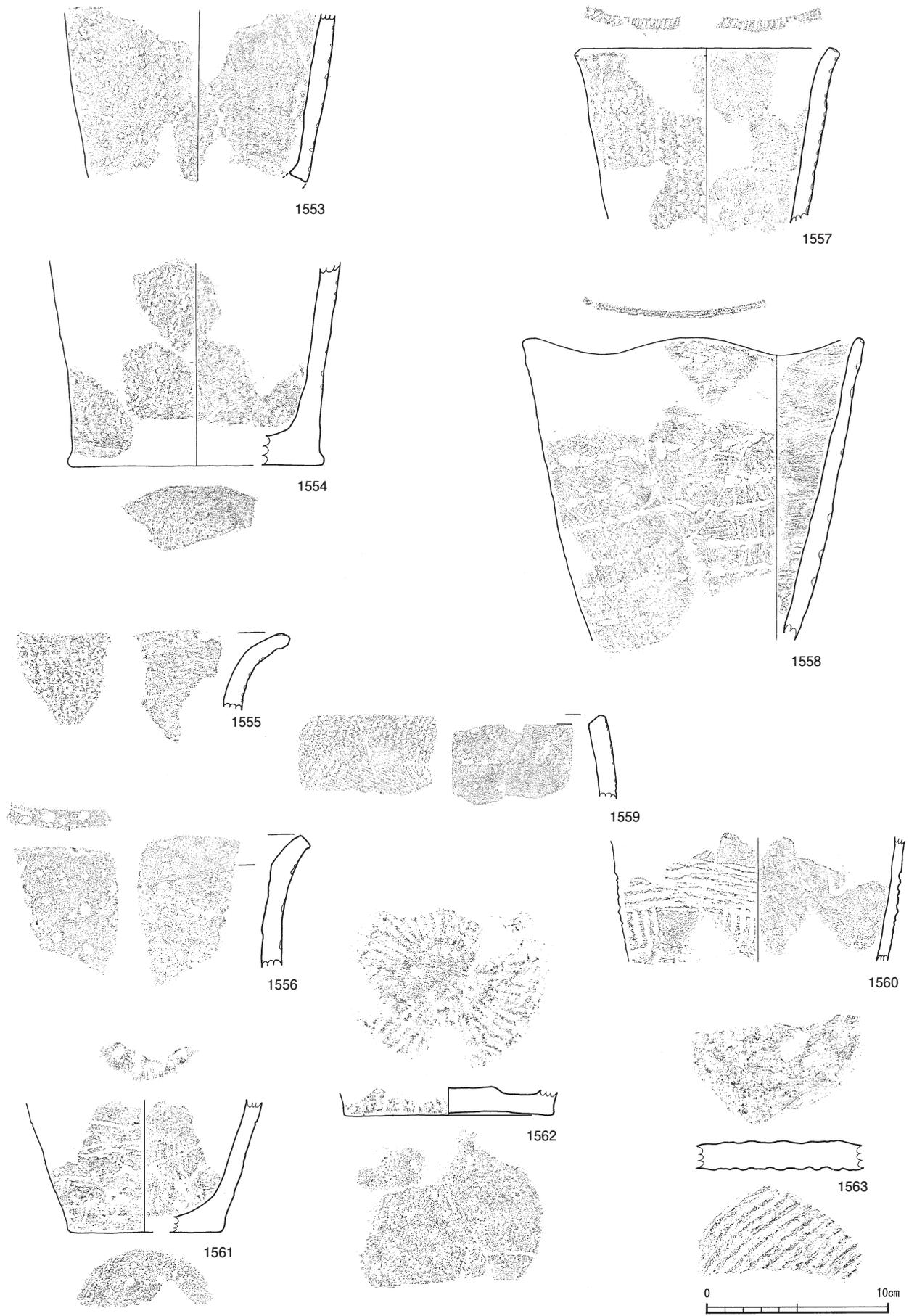
1549



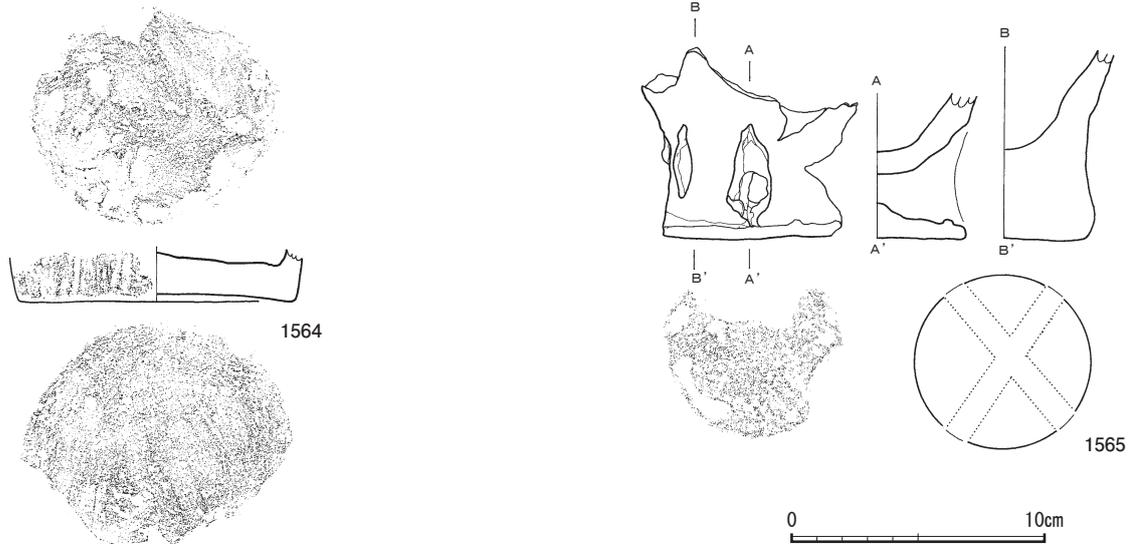
1551



第 457 图 XX 类土器 (4)



第 458 图 XX 类土器 (5)



第 459 図 XX類土器 (6)

る。口縁部がわずかに外反し、頸部でやや膨らみ直線的にすぼまる器形と考えられる。口縁部にやや斜位の、胴部に縦位の貝殻刺突文を密接に施す。口唇部にヘラ状工具による縦位の浅い刻目を入れる。内面は丁寧なナデを行う。器形、調整、胎土等からV類土器に類似すると考えられる。

1558 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。4単位の波状口縁を呈すると考えられる。口縁部から底部に向けて直線的にすぼまる器形と考えられる。外面に斜位の繊維状の擦痕が多く確認できる。口縁部上位は棒状工具による押し引き状の短沈線を横位に1段施し、それより下は同じ施文具による横位の短沈線を間隔を空けて施文する。内面は貝殻条痕を横位、斜位に施す。口唇部外端に浅い刻目を入れる。器形、調整、胎土等からXVII類土器に類似すると考えられる。

1559 は口唇部を内傾するように成形し、非常に丁寧なナデを行う。口縁部上位に貝殻の腹縁部を縦に当て横方向へ刺突を1段～2段行う。貝殻刺突を逆「く」の字状に施す。その下に無節斜縄文Rを横位に施す箇所がある。内面はケズリを行った後、非常に丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。

1560 は胴部下半付近と考えられる。原体はやや判然としないが、太めの0段1の撚りを軸に右巻き後、左巻きした網目状撚糸文を横位に施した後、縦位に施したと考えられる。内面は丁寧なナデを行う。胎土に白色粒子を多く含む。調整、胎土等がXV類土器と類似すると考えられるが、網目状撚糸文の原体はXV類土器と異なり非常に大振りである。

1561～1565 は底部である。

1561 は胴部下半から底部である。外面に浅い横位の沈線を施す。底部円盤の外周上に粘土紐を乗せ、胴部を輪積み成形したと考えられる。内面は丁寧なナデを行う。胎土に小礫、白色粒子を含む。色調が明褐灰色を呈する。

1562 は底部内面に貝殻刺突文を円形に施し、ナデを行っている。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。1563 は底部外面に明瞭な貝殻条痕文を施す。内面に指おさえ痕やヘラ状工具により調整痕が確認できる。胎土に小礫、白色粒子を多く含む。

1564 は胴部外面に一部貝殻条痕文が確認できる。底部内面はヘラ状工具による調整痕が確認できる。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け、胴部を輪積み成形したと考えられる。わずかに上げ底状を呈している。底部外面はケズリを行った後、ナデを行っている。

1565 は脚台付の深鉢形土器である。VI層から出土しているが、地層横転の影響を受けていることや形状・胎土等から縄文時代後期該当の土器とも考えられる。ここでは、型式不明土器として取り扱うこととした。脚台部分と胴部の一部と考えられる。底径は6.4cm、残存高は7.7cmである。脚台部分に、径1cm程度の丸い棒状工具を底部側面に突き刺して貫通させることで、4か所の透かし孔を作り出している。その結果、脚台的な底部を形成することとなったと考えられる。棒状工具は2方向から突き刺し、底部中央部で交差している。また、棒状工具の先端を鋭利に加工していた痕跡が透かし孔部分の調整痕から確認できる。



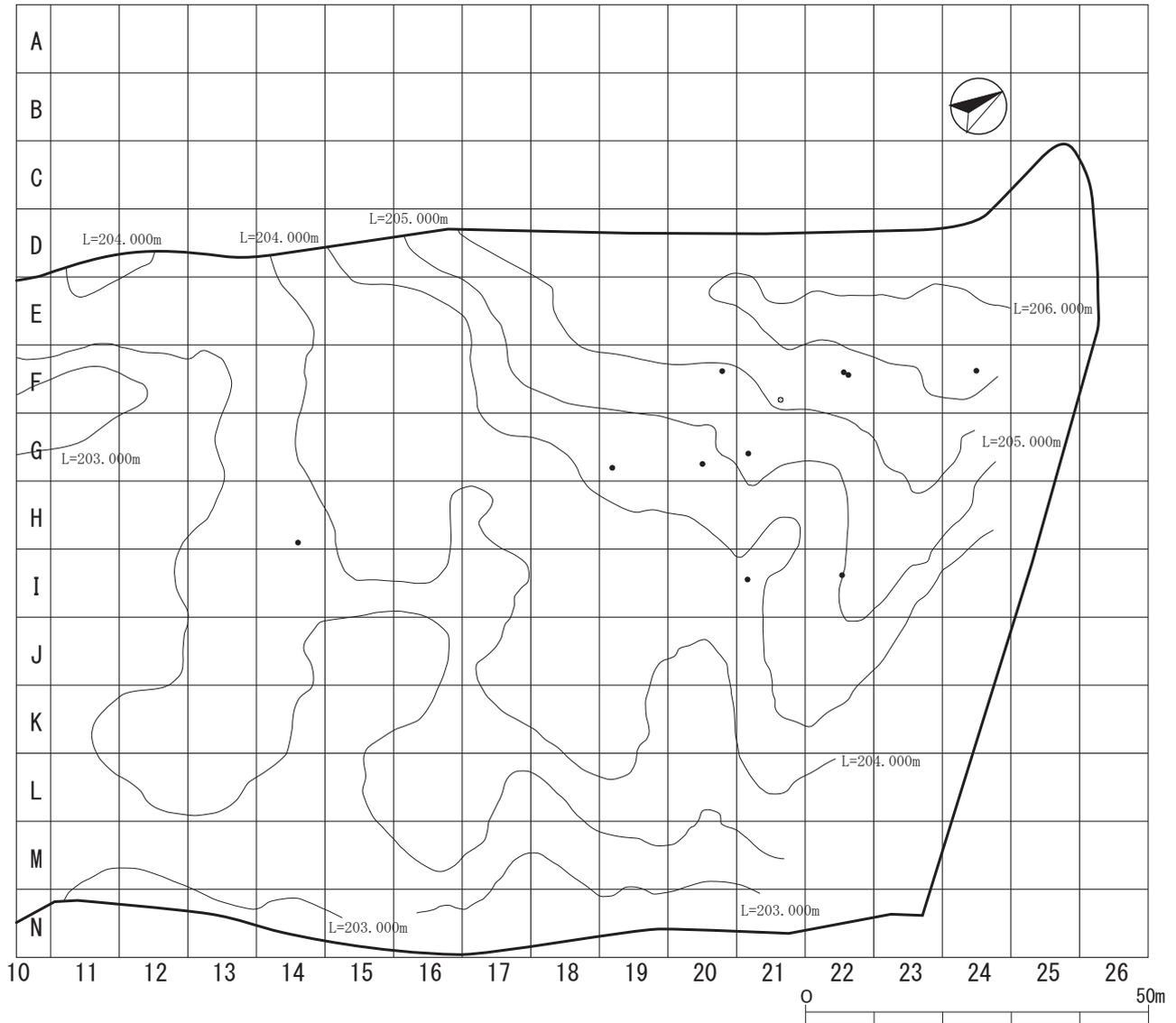
## 2 土製品

### (1) 耳栓状土製品 (第 461 図 1566 ~ 1568)

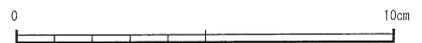
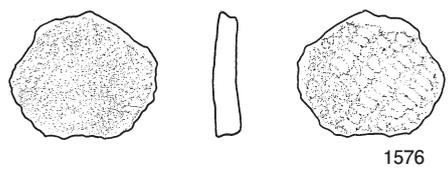
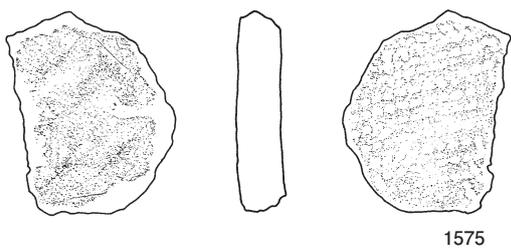
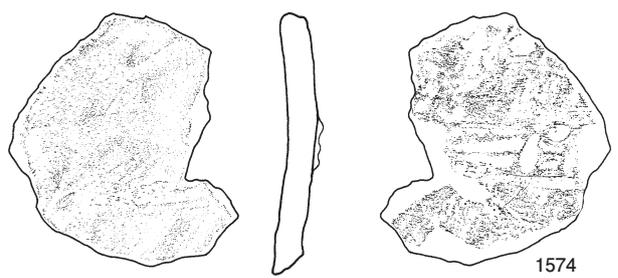
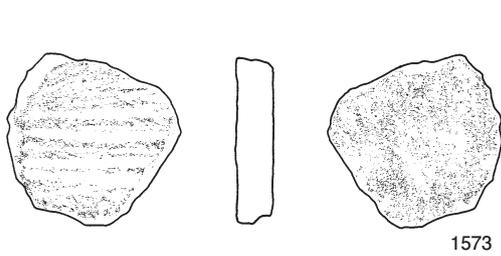
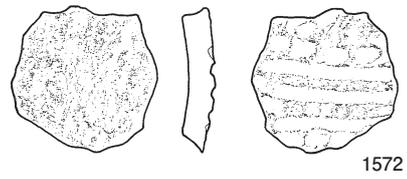
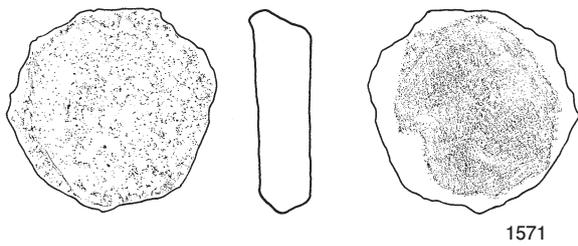
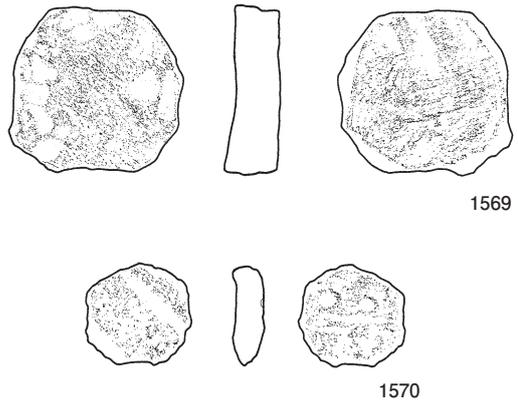
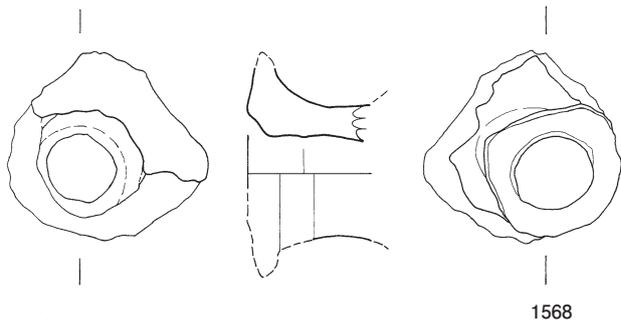
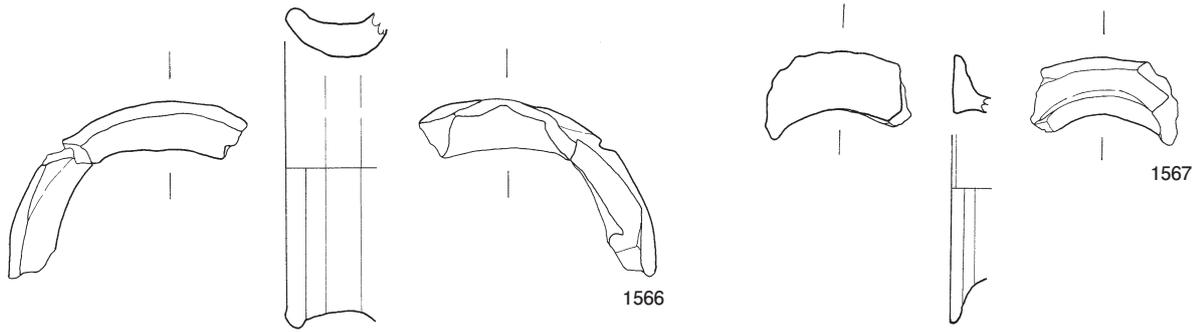
耳栓状土製品は3点出土した。いずれも環状を呈する輪状耳栓である。有孔の滑車形であるが、大半を欠損しており、全容は明らかではない。1566 と 1567 は器壁が薄く、外面には抉りをもち内面には稜を有する。1568 は器壁が厚く、外面には抉りをもち、内面には上下に稜を有する。

### (2) 円盤状土製加工品 (第 461 図 1569 ~ 1576)

土器片を再利用した円盤状土製加工品は8点出土した。周辺部を円形に打ち欠いて、二次加工したものである。利用部位は1569 と 1571 が底部であり、1573 は無文の頸部で、その他5点については胴部である。1570 は刺突文、1572 は刺突文と沈線文、1573 は条痕文、1574 は刻目突帯文、1575 は貝殻刺突文、1576 は単節斜縄文LRを施す。文様要素が1570、1572、1574 はXIV類土器、1575 はVI類土器と共通すると考えられる。



第 460 図 土製品出土分布図



第 461 図 土製品

第50表 XVI類土器観察表(1)

※( )は推定

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区		層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調		備考			
								口径	底径	器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面	内面				
405	1297	XVI	深鉢	M	19	Ⅶ	口縁～胴部	33.3		(21.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕				○	○				灰黄褐	にぶい褐		
	1298	XVI	深鉢	N	19	Ⅶ	口縁～胴部			(24.8)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕				○	○	○			暗灰黄	灰褐	スス付着	
406	1299	XVI	深鉢	J	14	Ⅵ	口縁～胴部	26.0		(16.0)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○			褐	にぶい黄褐		
	1300	XVI	深鉢	J	14	Ⅵ	口縁～胴部	32.6		(10.9)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ	○			○	○	○			灰褐	灰褐		
	1301	XVI	深鉢	J	14	V	口縁～胴部	32.8		(35.5)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○		○	○	○	○			にぶい褐	にぶい黄褐		
	1302	XVI	深鉢	J	14	V a	口縁部			(5.4)	貝殻刺突文	ナデ					○	○			黒褐	にぶい黄褐		
	1303	XVI	深鉢	M	13	Ⅵ	口縁部			(5.8)	貝殻刺突文	ナデ					○	○	○			灰黄褐	にぶい褐	
	1304	XVI	深鉢	J	19	Ⅵ	口縁部			(4.9)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ			○	○		○			にぶい黄橙	暗灰黄		
407	1305	XVI	深鉢	M	13	Ⅵ	口縁～胴部	28.9		(31.0)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕				○	○	○			にぶい赤褐	灰褐		
	1306	XVI	深鉢	L	14	Ⅵ	口縁～胴部	19.4		(12.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○			○	○	○			にぶい褐	にぶい黄褐	補修孔有り	
	1307	XVI	深鉢	K	21	Ⅵ	口縁～底部	23.8	11.0	(32.4)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					橙	明褐		
	1308	XVI	深鉢	E	9	Ⅵ	口縁～胴部	14.0		(13.5)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・指おさえ痕			○	○		○			にぶい橙	にぶい黄橙		
408	1309	XVI	深鉢	K	18	Ⅵ	口縁～胴部	20.8		(12.8)	貝殻刺突文	ナデ	○			○		○			灰褐	褐		
	1310	XVI	深鉢	K	18	Ⅵ	口縁部	25.8		(5.3)	貝殻刺突文	ナデ	○			○		○			褐	灰黄褐		
	1311	XVI	深鉢	K	21	Ⅵ	口縁部	25.6		(7.9)	貝殻刺突文	ナデ・指おさえ痕			○	○					橙	にぶい黄褐		
	1312	XVI	深鉢	K	21	Ⅵ下	口縁部			(12.9)	貝殻刺突文	ナデ・指おさえ痕			○	○		○			灰褐	灰褐		
	1313	XVI	深鉢	H	17	Ⅵ	口縁部			(6.9)	貝殻刺突文	ナデ・指おさえ痕	○			○	○	○			灰褐	灰黄褐		
	1314	XVI	深鉢	I	19	Ⅵ	口縁部			(7.0)	貝殻刺突文	ナデ・指おさえ痕	○				○	○			褐	にぶい褐		
409	1315	XVI	深鉢	K	14	Ⅵ	口縁～胴部			(27.9)	貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕					○	○			にぶい褐	褐		
	1316	XVI	深鉢	K	15	Ⅵ	口縁部	19.7		(5.7)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・指おさえ痕					○	○			にぶい褐	褐	スス付着	
	1317	XVI	深鉢	M	15	Ⅵ	胴部			(5.9)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・指おさえ痕					○	○			褐灰	にぶい黄褐	スス付着	
	1318	XVI	深鉢	K	11	Ⅵ	口縁～胴部	26.2		(8.6)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕				○	○				赤褐	明黄褐		
410	1319	XVI	深鉢	J	15	Ⅵ	口縁部	31.3		(16.0)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○			○	○	○			にぶい褐	明赤褐	スス付着	
	1320	XVI	深鉢	K	12	V	口縁～胴部	36.1		(41.1)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	○	○	○	○					橙	灰褐	スス付着	
411	1321	XVI	深鉢	F	21	Ⅵ	口縁～胴部	36.3		(29.6)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					にぶい黄橙	黒褐	スス付着	
	1322	XVI	深鉢	K	12	Ⅵ	口縁部	29.4		(8.0)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○		○			橙	にぶい黄橙	補修孔有り	
	1323	XVI	深鉢	J	15	Ⅵ	口縁部	38.2		(7.3)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・ケズリ			○	○		○			橙	橙		
	1324	XVI	深鉢	K	14	Ⅵ	口縁部			(7.4)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ	○			○		○				橙	橙	
412	1325	XVI	深鉢	J	20	Ⅵ	口縁～胴部	30.0		(19.0)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○	○		○	○				橙	にぶい褐		
	1326	XVI	深鉢	J	19	Ⅵ	口縁～胴部	32.6		(23.7)	貝殻刺突文・沈線文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○			橙	明褐		
	1327	XVI	深鉢	M	14	Ⅵ	口縁～胴部	31.5		(27.5)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・指おさえ痕		○		○	○				にぶい褐	にぶい褐		
413	1328	XVI	深鉢	I	19	Ⅵ	口縁部	33.6		(16.8)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ	○		○	○		○			橙	暗灰黄		
	1329	XVI	深鉢	I	18	Ⅵ	口縁部			(10.5)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ	○		○	○		○			黄灰	暗灰黄		
	1330	XVI	深鉢	J	19	Ⅳ	口縁部			(4.6)	沈線文	ケズリ	○		○	○		○			褐灰	灰黄		
	1331	XVI	深鉢	I	14	Ⅵ	口縁～胴部			(10.9)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ				○	○	○				黒褐	にぶい褐	
	1332	XVI	深鉢	L	14	Ⅵ	口縁部	23.2		(4.6)	沈線文	ケズリ	○				○	○			にぶい褐	明褐		
414	1333	XVI	深鉢	K	14	Ⅵ	口縁～底部	30.0	9.9	33.9	貝殻刺突文・沈線文・細条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○			○			にぶい橙	にぶい黄橙		
415	1334	XVI	深鉢	K	15	Ⅵ	口縁～底部	35.0	11.6	38.0	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○					明赤褐	灰褐		
416	1335	XVI	深鉢	L	18	Ⅵ	口縁～胴部	35.0		(34.4)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕	○			○					明赤褐	黒褐		
417	1336	XVI	深鉢	L	11	Ⅵ上	口縁～底部	17.3	8.0	19.0	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ				○	○	○			にぶい黄橙	灰黄褐	補修孔有り・スス付着	
	1337	XVI	深鉢	J	22	Ⅵ	口縁～胴部	27.2		(18.2)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○				灰褐	にぶい褐		
418	1338	XVI	深鉢	H	18	V	口縁～胴部	42.0		(37.8)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○					にぶい黄橙	灰黄褐		
419	1339	XVI	深鉢	H	18	Ⅵ	口縁～胴部			(22.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ			○	○		○			黒褐	にぶい橙		
	1340	XVI	深鉢	K	16	Ⅵ	口縁～胴部	32.5		(19.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○			橙	にぶい褐		
420	1341	XVI	深鉢	J	14	V	口縁～胴部	35.9		(23.7)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○				○	○			にぶい橙	にぶい黄橙		
	1342	XVI	深鉢	J	14	Ⅵ	口縁部	29.0		(12.0)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○				○	○			灰黄褐	にぶい黄褐	補修孔有り	
	1343	XVI	深鉢	J	14	V	口縁部			(5.9)	貝殻刺突文	ナデ・ケズリ				○	○	○			灰褐	褐		
	1344	XVI	深鉢	K	15	V	口縁部			(6.0)	貝殻刺突文	ナデ・ケズリ				○	○	○			明赤褐	橙	スス付着	
421	1345	XVI	深鉢	G	17	Ⅵ	口縁～胴部	40.0		(16.7)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ			○	○		○			灰黄褐	褐		
	1346	XVI	深鉢	L	14	Ⅵ	口縁～底部	24.0	10.0	23.7	貝殻刺突文・貝殻条痕文・沈線文	ナデ・指おさえ痕	○	○	○	○					にぶい橙	にぶい橙		
	1347	XVI	深鉢	G	18	Ⅵ	口縁部			(3.8)	沈線文	ナデ	○			○	○				灰黄褐	にぶい黄褐		

第 51 表 XVII類土器観察表（2）

※（ ）は推定

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区		層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調		備考			
				口径	底径			器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面	内面						
421	1348	XVI	深鉢	K	17	VI	口縁部			(10.9)	貝殻条痕文・沈線文	ケズリ			○	○					灰褐	にぶい黄褐	スス付着	
	1349	XVI	深鉢	J	18	VI	口縁部			(10.1)	沈線文	ナデ・ケズリ			○	○					にぶい黄褐	にぶい褐	スス付着	
	1350	XVI	深鉢	G	18	VI	口縁部			(7.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○				○	○			灰黄褐	にぶい黄褐		
	1351	XVI	深鉢	J	14	VI	口縁～胴部	27.4		(9.5)	貝殻刺突文・細条線文	ナデ・ケズリ			○	○					灰黄褐	にぶい褐		
422	1352	XVI	深鉢	J	19	VI	口縁部	32.6		(20.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○					橙	にぶい褐	補修孔有り ・スス付着	
	1353	XVI	深鉢	M	13	VI	口縁～胴部			(9.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○					黒褐	黒褐		
	1354	XVI	深鉢	I	14	VI	口縁部			(4.4)	貝殻押引文・沈線文	ナデ・指おさえ痕			○	○	○				黒褐	黒褐		
	1355	XVI	深鉢	N	19	VI	口縁～胴部	32.9		(12.7)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○			○	○	○			黒褐	灰黄褐	スス付着	
	1356	XVI	深鉢	J	20	VII	口縁部			(3.4)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕			○			○			浅黄	浅黄		
423	1357	XVI	深鉢	I	17	VI	口縁～胴部	19.1		(10.7)	貝殻刺突文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					橙	にぶい黄橙		
	1358	XVI	深鉢	J	17	V a	口縁部			(7.2)	貝殻刺突文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					橙	にぶい黄橙		
	1359	XVI	深鉢	M	14	VI	口縁部	30.9		(15.4)	沈線文	ナデ・ケズリ				○	○	○			褐	灰黄褐		
	1360	XVI	深鉢	M	12	VI	口縁部			(11.4)	沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○			○		○			にぶい黄褐	にぶい褐	スス付着	
424	1361	XVI	深鉢	M	14	IV a	口縁～胴部	18.3		(22.7)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・細条線文	ナデ・指おさえ痕			○	○					橙	灰黄褐		
	1362	XVI	深鉢	H	14	VI 下	口縁～胴部	19.3		(24.7)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○		○			橙	にぶい褐		
	1363	XVI	深鉢	K	19	VI	口縁部	25.1		(11.8)	貝殻条痕文・貝殻刺突文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					明赤褐	にぶい褐		
	1364	XVI	深鉢	K	18	VI	口縁部			(10.6)	貝殻条痕文・貝殻刺突文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					明赤褐	にぶい褐		
	1365	XVI	深鉢	L	19	VI	口縁部			(16.1)	貝殻条痕文・貝殻刺突文	ナデ・ケズリ			○	○					明赤褐	にぶい褐		
425	1366	XVI	深鉢	K	10	VI	口縁～底部	21.2	8.9	23.6	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					にぶい橙	にぶい橙		
	1367	XVI	深鉢	I	22	VI	口縁部	20.0		(12.7)	沈線文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					明赤褐	明赤褐		
	1368	XVI	深鉢	M	13	VI	口縁部			(9.2)	沈線文	ナデ・ケズリ	○		○	○					灰褐	黒褐	スス付着	
426	1369	XVI	深鉢	L	20	VI	胴部～底部			(10.8)	貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ	○		○	○					明赤褐	灰黄褐		
	1370	XVI	深鉢	I	19	VI	胴部			(10.0)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕			○	○	○				黒褐	灰褐		
427	1371	XVI	深鉢	J	15	VI	胴部			(33.7)	貝殻刺突文・貝殻条痕文・細条線文	ケズリ	○		○	○					橙	灰褐		
	1372	XVI	深鉢	K	18	VI	胴部			(16.2)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○	○				明赤褐	黒褐		
	1373	XVI	深鉢	K	18	VI	胴部			(2.5)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○	○				明赤褐	黒褐		
	1374	XVI	深鉢	F	21	VI	口縁～胴部			(21.8)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					橙	にぶい黄橙	スス付着	
	1375	XVI	深鉢	H	21	VI	胴部			(10.4)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○				灰褐	灰黄褐	
	1376	XVI	深鉢	G	22	VII	胴部			(8.7)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ケズリ			○	○					橙	にぶい黄橙		
	1377	XVI	深鉢	L	18	VI	胴部			(14.4)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕	○		○	○						にぶい褐	黒褐	
428	1378	XVI	深鉢	J	19	VI	胴部			(14.3)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○						明赤褐	にぶい黄褐	スス付着	
	1379	XVI	深鉢	M	15	VI	胴部			(15.5)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○			○					橙	橙		
	1380	XVI	深鉢	I	16	横転	口縁～胴部	26.2		(12.9)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕				○	○				にぶい褐	にぶい褐		
	1381	XVI	深鉢	I	11	V	胴部			(10.0)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○					にぶい褐	にぶい黄褐	
	1382	XVI	深鉢	K	15	VI	胴部			(12.1)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ				○	○	○				にぶい褐	にぶい褐	
	1383	XVI	深鉢	M	13	VI	胴部			(11.4)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕	○		○	○						にぶい橙	にぶい黄橙	
429	1384	XVI	深鉢	J	14	VI	胴部			(20.8)	貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ	○			○	○				にぶい褐	にぶい褐		
	1385	XVI	深鉢	L	15	VII	胴部			(14.3)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ				○	○	○			褐	褐		
	1386	XVI	深鉢	I	14	VI	胴部			(13.0)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○				にぶい黄褐	明褐		
	1387	XVI	深鉢	I	14	VI	胴部			(16.7)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ				○	○	○				にぶい褐	にぶい褐	
	1388	XVI	深鉢	J	14	V	胴部			(17.8)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ				○	○	○				にぶい褐	明赤褐	
	1389	XVI	深鉢	J	14	VI	胴部			(21.7)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○				にぶい黄褐	にぶい褐	
430	1390	XVI	深鉢	M	16	VI 下	胴部			(12.4)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ									橙	灰黄褐		
	1391	XVI	深鉢	N	19	VI	胴部			(8.9)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ			○	○					橙	黒褐		
	1392	XVI	小型 浅鉢	I	11	VI	胴部			(7.6)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○				明褐	明褐		
	1393	XVI	深鉢	I	16	VI	胴部			(11.7)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○					橙	褐灰		
	1394	XVI	深鉢	K	21	VI	胴部			(11.1)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○					橙	にぶい黄橙		
	1395	XVI	深鉢	L	21	VI	胴部			(27.5)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○					橙	にぶい黄橙		
	1396	XVI	深鉢	K	21	VI	頸部			(11.2)	貝殻刺突文	ナデ・ケズリ	○		○	○					灰褐	黒褐		
431	1398	XVI	深鉢	G	17	VI	胴部～底部	12.6		(27.9)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○			にぶい褐	にぶい褐		

第 52 表 XVI類土器観察表（3）

※（ ）は推定

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区	層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土					色調		備考				
							口径	底径	器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面		内面			
431	1399	XVI	深鉢	J	16	VI	底部	10.2	(7.9)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○	○	○	にぶい黄褐	灰黄褐	
	1400	XVI	深鉢	K	11	VI	胴部～底部	15.8	(10.0)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○				○	○			赤褐	黒褐	
	1401	XVI	深鉢	J	13	VI	底部	12.0	(6.3)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○				○	○			にぶい褐	灰褐	
	1402	XVI	深鉢	N	16	VI	底部		(6.2)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ			○		○	○			にぶい褐	にぶい褐	
	1403	XVI	深鉢	K	14	VI	底部	8.2	(3.3)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○			にぶい褐	明褐	
432	1404	XVI	深鉢	M	19	VI下	胴部～底部	11.9	(22.4)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕			○	○		○			明赤褐	にぶい褐	
	1405	XVI	深鉢	L	16	VI	口縁～胴部	11.8	(10.7)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○		○			橙	橙	
	1406	XVI	深鉢	K	18	VI	底部	11.6	(5.9)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○			○	○	○			橙	にぶい黄褐	
	1407	XVI	深鉢	G	22	VI	胴部～底部	10.0	(13.3)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○					橙	にぶい黄橙	
433	1408	XVI	深鉢	L	15	VI	胴部～底部	10.8	(9.8)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ・指おさえ痕				○	○	○			褐	褐	
	1409	XVI	深鉢	J	14	VI	口縁～胴部	364.0	12.0	(4.6)	貝殻条痕文・沈線文	ナデ・ケズリ	○				○	○			にぶい褐	にぶい褐	
	1410	XVI	深鉢	K	16	VI	胴部～底部	9.0	(13.3)		貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○		○	○			にぶい褐	にぶい赤褐	スス付着

第 53 表 XVI類土器観察表

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区	層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土					色調		備考				
							口径	底径	器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面		内面			
435	1411	XVII	深鉢	K	14	VII	口縁～胴部	31.5		(35.0)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○		○			橙	橙	
436	1412	XVII	深鉢	J	16	V	口縁～胴部	31.0		(33.7)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ			○	○					橙	にぶい黄褐	
437	1413	XVII	深鉢	N	20	VI	口縁～胴部	32.0		(26.6)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○		○			橙	にぶい黄橙	
	1414	XVII	深鉢	L	20	VI	口縁～胴部	19.0		(10.7)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕	○			○		○			明赤褐	にぶい黄褐	補修孔有り
	1415	XVII	深鉢	L	14	VI	口縁部			(8.9)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕	○		○			○			にぶい橙	にぶい黄褐	
	1416	XVII	深鉢	L	15	VI	口縁～胴部	20.6		(18.3)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○			にぶい赤褐	灰褐	
438	1417	XVII	深鉢	L	15	VI	口縁～胴部	20.4		(17.7)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○	○	○			にぶい赤褐	黒褐	
	1418	XVII	深鉢	K	20	VI	胴部			(25.8)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○		○			にぶい黄橙	灰黄褐	
	1419	XVII	深鉢	L	20	VI	胴部			(12.0)	刻目突帯・貝殻条痕文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ			○	○					にぶい橙	にぶい黄褐	
439	1420	XVII	深鉢	L	20	VI	胴部			(19.4)	刻目突帯・貝殻条痕文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ			○	○		○			橙	灰褐	
	1421	XVII	深鉢	N	21	VI	胴部			(16.8)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○		○			にぶい橙	にぶい黄橙	
	1422	XVII	深鉢	K	16	VI	胴部			(7.8)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ	○			○	○				にぶい黄褐	灰黄褐	
	1423	XVII	深鉢	K	19	VI	胴部			(7.9)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ				○	○				にぶい褐	褐	
	1424	XVII	深鉢	K	20	VI	胴部			(13.4)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○					○			明赤褐	にぶい黄褐	
	1425	XVII	深鉢	L	20	VI	胴部			(10.9)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ				○		○			明赤褐	にぶい黄褐	
	1426	XVII	深鉢	K	17	VI	胴部			(4.8)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○		○			にぶい黄褐	灰黄褐	
	1427	XVII	深鉢	L	19	VI	胴部			(17.8)	刻目突帯	ナデ・指おさえ痕	○			○	○				にぶい黄橙	にぶい黄褐	
	1428	XVII	深鉢	L	19	VI	胴部			(6.4)	刻目突帯	ナデ・指おさえ痕	○			○	○				橙	橙	

第 54 表 XVII類土器観察表（1）

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区	層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土					色調		備考				
							口径	底径	器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面		内面			
441	1429	XVII	深鉢	G	22	VI	口縁～胴部	34.0		(26.9)	貝殻条痕文	貝殻条痕文				○		○			黒褐	にぶい褐	
	1430	XVII	深鉢	G	23	VI	口縁～胴部	27.8		(16.2)	貝殻条痕文	貝殻条痕文	○			○		○			灰褐	橙	
	1431	XVII	深鉢	F	22	VI	口縁～胴部			(14.6)	貝殻条痕文	貝殻条痕文・ナデ	○	○	○						灰褐	にぶい褐	
442	1432	XVII	深鉢	J	15	VI	口縁～胴部			(14.0)	貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○			○		灰褐	にぶい黄橙	
	1433	XVII	深鉢	G	17	VI	口縁～胴部	31.7		(27.4)	細条線文	ナデ	○		○	○					にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	1434	XVII	深鉢	L	19	Vc	口縁部	30.0		(11.4)	貝殻刺突文・細条線文	ナデ・ケズリ			○	○		○			灰褐	灰褐	スス付着
443	1435	XVII	深鉢	N	20	VII	口縁～底部	26.8	11.6	(30.8)	刻目突帯・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○		○	○		○			にぶい橙	にぶい橙	
	1436	XVII	深鉢	I	16	V	口縁～胴部	16.4		(17.0)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ナデ・ケズリ	○			○		○			橙	黒褐	
	1437	XVII	深鉢	G	21	VI	口縁～胴部	11.2		(9.1)	貝殻条痕文・口唇部刻目	ナデ・ケズリ	○		○	○					にぶい黄橙	灰黄褐	スス付着
	1438	XVII	深鉢	G	21	Vb	口縁部			(4.2)	貝殻条痕文	ナデ			○			○			にぶい黄橙	暗灰黄	
	1439	XVII	深鉢	L	19	VII	口縁部			(4.6)	貝殻条痕文	ナデ			○	○		○			にぶい橙	にぶい黄橙	
	1440	XVII	深鉢	G	6	VI	口縁部			(4.3)	貝殻条痕文	貝殻条痕文			○	○					灰黄	にぶい黄橙	
1441	XVII	深鉢	H	14	Va	口縁～胴部			(14.7)	貝殻条痕文	貝殻条痕文				○		○			灰褐	灰黄褐	スス付着	

第 55 表 XVII類土器観察表（2）

※（ ）は推定

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区		層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調		備考		
				口径	底径			器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面	内面					
443	1442	XVII	深鉢	H	14	V a	口縁部			(6.8)	貝殻条痕文	貝殻条痕文・指おさえ痕			○	○					灰黄褐	暗灰黄	
444	1443	XVII	深鉢	D	26	IV a	口縁部			(6.1)	貝殻条痕文	貝殻条痕文				○					黒褐	灰黄褐	スス付着
	1444	XVII	深鉢	L	11	VII上	口縁部			(7.3)	沈線文	ナデ					○	○			にぶい黄橙	暗灰黄	スス付着
	1445	XVII	深鉢	H	19	IV	口縁部			(7.7)	沈線文・細条線文	貝殻条痕文				○		○			にぶい褐	にぶい褐	
	1446	XVII	深鉢	L	20	VI	口縁部			(5.7)	沈線文	ナデ	○				○	○			灰褐	褐灰	
	1447	XVII	深鉢	L	20	VI	口縁部			(7.1)	沈線文	ナデ	○				○	○	○		明褐	明褐	
	1448	XVII	深鉢	M	17	VI上	胴部～底部	12.0	(24.6)			貝殻条痕文	貝殻条痕文	○		○	○					橙	橙
445	1449	XVII	深鉢	I	7	VI	胴部～底部	6.2	(25.3)		細条線文	ナデ・ケズリ	○				○	○			にぶい褐	にぶい黄	スス付着
	1450	XVII	深鉢	G	4	VII	胴部～底部	15.2	(25.5)		条痕文	ナデ	○		○	○					橙	にぶい黄橙	
	1451	XVII	深鉢	J	20	VI	胴部～底部	8.8	(8.8)		貝殻条痕文	貝殻条痕文		○	○						明赤褐	明褐	

第 56 表 XIX類土器観察表（1）

※（ ）は推定

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区		層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調		備考		
				口径	底径			器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面	内面					
447	1452	XIX	深鉢	I	24	VI	口縁～胴部	23.3		(7.3)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕	○		○	○	○				明赤褐	褐	
	1453	XIX	深鉢	F	20	V a	口縁～胴部	22.2		(6.8)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕	○		○	○	○				明赤褐	明赤褐	
	1454	XIX	深鉢	I	21	VI	口縁部	17.6		(6.5)	ナデ	ナデ			○	○					にぶい橙	灰黄褐	
	1455	XIX	深鉢	H	24	VII a	口縁部	18.1		(5.7)	ナデ	ナデ・指おさえ痕	○			○	○				黒褐	にぶい黄褐	
	1456	XIX	深鉢	H	23	VI	口縁部	32.9		(9.0)	ナデ	ナデ	○			○	○				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	1457	XIX	深鉢	G	21	VI	口縁部	20.4		(8.3)	ナデ	ナデ	○			○	○				にぶい橙	褐	
	1458	XIX	深鉢	H	20	VI	口縁～胴部	31.7		(11.9)	ナデ	ナデ・ケズリ				○	○				にぶい褐	橙	
	1459	XIX	深鉢	F	20	VII	口縁部	27.2		(5.4)	ナデ	ナデ・ケズリ				○	○				灰褐	にぶい黄橙	
448	1460	XIX	深鉢	F	20	VI	口縁～胴部			(8.6)	ナデ	ナデ・ケズリ				○	○				橙	にぶい黄橙	
	1461	XIX	深鉢	L	12	VI	口縁～胴部	16.7		(18.0)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○			○	○				明赤褐	明赤褐	
	1462	XIX	深鉢	N	19	VII上	口縁～胴部			(10.7)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ・指おさえ痕	○			○	○				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	1463	XIX	深鉢	F	22	VI	口縁部	27.8		(6.6)	ナデ	ナデ	○			○					黄褐	暗灰黄	
	1464	XIX	深鉢	H	21	V a	口縁～胴部	27.4		(18.2)	ナデ	ナデ・ケズリ	○			○	○				にぶい黄	暗灰黄	
	1465	XIX	深鉢	J	17	VI	口縁部			(7.6)	ナデ	ナデ・指おさえ痕				○	○				にぶい黄橙	暗灰黄	
	1466	XIX	深鉢	L	19	V	口縁部			(7.6)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕				○	○				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	1467	XIX	深鉢	I	18	VI	口縁部			(4.2)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕				○	○				黒褐	黒褐	
	1468	XIX	深鉢	K	19	VI	口縁部			(4.8)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕				○	○				にぶい黄橙	にぶい黄褐	
	1469	XIX	深鉢	I	17	VI	口縁～胴部	25.0		(17.3)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕	○			○	○				にぶい黄橙	灰黄褐	
449	1470	XIX	深鉢	H	18	VI	口縁～胴部	25.0		(14.0)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕	○			○	○				にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	1471	XIX	深鉢	N	19	VI	口縁～胴部	16.6		(13.4)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕	○			○	○				明赤褐	灰黄褐	
	1472	XIX	深鉢	M	17	VII	口縁部			(10.1)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕				○	○				灰褐	暗オリーブ 褐	
	1473	XIX	深鉢	K	13	VII	口縁部			(5.3)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕				○	○				黒褐	黒褐	
	1474	XIX	深鉢	F	20	VI	口縁～胴部			(10.3)	ナデ	ナデ				○	○				橙	にぶい黄橙	
	1475	XIX	深鉢	J	17	VI	胴部			(15.5)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕	○			○	○				にぶい褐	黒褐	
	1476	XIX	深鉢	J	23	VI	胴部			(12.8)	ナデ	ナデ	○			○	○				にぶい黄橙	灰黄褐	
	1477	XIX	深鉢	I	15	VI	胴部			(11.4)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・指おさえ痕	○			○	○	○			灰褐	にぶい赤褐	スス付着
450	1478	XIX	深鉢	E	24	VI	底部	13.6		(7.8)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○			○	○				にぶい黄橙	にぶい黄褐	
	1479	XIX	深鉢	G	21	VI	底部	11.3		(4.7)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○		○	○					にぶい赤褐	にぶい褐	
	1480	XIX	鉢	I	18	VII	底部	12.0		(6.0)	ナデ	ナデ	○	○	○	○					橙	橙	
	1481	XIX	深鉢	F	21	VI	底部	12.5		(1.7)	ナデ	ナデ	○		○	○					橙	明赤褐	
	1482	XIX	深鉢	M	11	VI	底部	11.6		(6.7)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○			○	○				橙	灰褐	
	1483	XIX	深鉢	K	16	VI	胴部～底部	10.4		(7.7)	ナデ・指おさえ痕	ナデ・ケズリ	○			○	○				にぶい黄橙	灰黄褐	
451	1484	XIX	深鉢	N	19	VII a 上	胴部～底部	10.4		(8.0)	剥離しているため不明	ナデ	○			○	○				橙	明褐	
	1485	XIX	深鉢	L	16	VI	底部			(8.0)	ナデ・指おさえ痕	ナデ	○			○	○	○			明赤褐	灰黄褐	
	1486	XIX	鉢	-	-	VI	底部	13.0		(4.5)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○			○	○				明赤褐	明赤褐	
	1487	XIX	深鉢	F	20	VII	底部			(5.2)	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	○			○					にぶい橙	にぶい橙	



第 59 表 XX類土器観察表（2）

※（ ）は推定

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区		層位	部位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調		備考				
								口径	底径	器高	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面	内面					
456	1534	XX	深鉢	H	23	Ⅶ	口縁部	13.4		(3.8)	沈線文	ナデ					○					にぶい黄褐	黒褐		
	1535	XX	深鉢	D	18	Ⅶ	口縁部			(9.3)	沈線文	ナデ・ケズリ	○				○	○	○			暗灰黄	暗灰黄	補修孔有り	
	1536	XX	深鉢	M	12	Ⅶ	口縁～胴部	11.9		(9.8)	沈線文	ナデ・ケズリ					○	○				にぶい黄橙	褐灰	スス付着	
	1537	XX	深鉢	F	23	Ⅶ	口縁部			(6.4)	貝殻刺突文・貝殻条痕文	ケズリ	○	○						○		にぶい黄褐	黒褐		
457	1538	XX	深鉢	M	16	Ⅶ下	口縁部			(5.5)	沈線文	ナデ	○				○		○			黒褐	浅黄	補修孔有り	
	1539	XX	深鉢	N	18	Ⅶ	胴部		8.0	(19.1)	沈線文	ナデ・指おさえ痕	○				○					橙	灰黄褐		
	1540	XX	小型	M	10	Ⅵ	口縁～底部	8.6	5.6	12.0	沈線文	ナデ・指おさえ痕	○				○	○				にぶい褐	にぶい褐		
	1541	XX	深鉢	D	18	Ⅶ	口縁部			(6.8)	刺突文	ナデ	○				○	○	○			にぶい黄褐	黒		
	1542	XX	深鉢	L	17	Ⅶ	口縁部			(4.2)	刺突文	ナデ	○					○	○			褐灰	褐灰		
	1543	XX	深鉢	K	12	Ⅵ	口縁部			(4.1)	刺突文	ナデ						○	○	○		黒褐	灰黄褐		
	1544	XX	深鉢	L	16	Ⅶ	胴部			(14.0)	刺突文	ナデ	○					○	○			にぶい黄橙	灰黄褐		
	1545	XX	深鉢	J	13	Ⅶ	胴部			(12.8)	刺突文	ナデ						○	○	○		にぶい褐	にぶい褐		
	1546	XX	深鉢	G	19	Ⅶ	胴部			(9.2)	刺突文	ナデ						○		○		橙	黒褐		
	1547	XX	深鉢	K	11	Ⅵ	胴部			(9.6)	刺突文	ナデ	○					○	○	○		褐灰	灰黄褐		
	1548	XX	深鉢	F	9	Ⅶ上	口縁部			(5.0)	刺突文	ナデ	○					○	○			黒褐	黒褐		
	1549	XX	深鉢	F	10	Ⅵ	口縁部			(3.3)	刺突文	ナデ	○					○	○	○		にぶい褐	灰褐		
	1550	XX	深鉢	H	19	Ⅶ	口縁部	11.0		(4.5)	刺突文	ナデ・ケズリ	○									にぶい黄橙	黒褐		
	1551	XX	深鉢	H	21	Ⅵ	口縁部			(4.5)	刺突文	ナデ・ケズリ	○						○	○		明黄褐	暗灰黄		
	1552	XX	深鉢	I	22	Ⅵ	胴部			(7.7)	刺突文	ナデ・ケズリ	○						○			明赤褐	黒褐		
458	1553	XX	深鉢	E	10	Ⅶ上	胴部			(9.3)	刺突文	ナデ	○					○	○			にぶい褐	灰褐		
	1554	XX	深鉢	H	19	Ⅵ	底部	13.8		(11.2)	刺突文	ナデ・指おさえ痕	○				○	○				橙	暗灰黄		
	1555	XX	深鉢	D	25	Ⅶb	口縁～胴部			(4.3)	刺突文	ナデ	○					○		○		黒褐	にぶい褐		
	1556	XX	深鉢	F	25	Ⅶa	口縁部			(7.3)	刺突文	ケズリ							○	○		暗灰黄	灰黄褐		
	1557	XX	深鉢	H	17	Ⅶ	口縁～胴部	13.6		(9.6)	刺突文	ナデ						○	○			橙	橙		
	1558	XX	深鉢	H	22	Ⅵ	口縁～胴部	18.0		(16.6)	刺突文	貝殻条痕文							○	○		橙	にぶい黄橙		
	1559	XX	深鉢	E	19	Ⅵ	口縁部			(4.6)	刺突文・縄文	ナデ・ケズリ	○						○	○	○		黒褐	褐	
	1560	XX	深鉢	G	13	V a	胴部			(7.9)	網目状擦糸文	ナデ	○						○	○	○		にぶい褐	褐灰	
	1561	XX	深鉢	N	18	Ⅶ	底部	8.4		(7.3)	沈線文	ナデ	○						○	○		明褐灰	灰黄褐		
459	1562	XX	深鉢	G	22	Ⅶ	底部	11.4		(1.6)	ナデ	貝殻刺突文	○						○	○		にぶい黄褐	浅黄		
	1563	XX	深鉢	H	20	Ⅶ	底部			(1.6)	貝殻条痕文	ナデ・指おさえ痕	○						○	○		黄灰	明褐		
	1564	XX	深鉢	G	21	Ⅶ	底部	10.8		(2.1)	貝殻条痕文	ナデ								○	○		にぶい赤褐	にぶい赤褐	
	1565	XX	深鉢	H	22	Ⅵ	底部	6.4		(7.7)	ナデ	ナデ	○							○	○	○	橙	橙	透かし孔

第 60 表 土製品観察表

※（ ）は推定

挿図 番号	掲載 番号	分類	器種	出土区		層位	法量 (cm)			主文様・調整		胎土						色調		備考					
							表面径	厚さ	重量 (g)	外面	内面	白色 粒子	黒色 粒子	角閃 石	石英	雲母	長石	外面	内面						
461	1566	—	耳栓状土製品	G	20	Ⅵ	(8.0)	(2.4)	25.5	ナデ	ナデ	○			○	○						橙色	橙色		
	1567	—	耳栓状土製品	G	21	V b	(7.2)	(1.0)	6.2	ナデ	ナデ	○			○	○	○					橙	橙		
	1568	—	耳栓状土製品	F	22	Ⅵ	(6.0)	(3.3)	43.7	ナデ	ナデ	○										にぶい黄橙	にぶい黄橙		
	1569	—	円盤状土製品	I	22	Ⅶ	4.5	1.2	38.0	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○							にぶい赤褐	にぶい黄褐	
	1570	—	円盤状土製品	H	21	横転	2.7	0.8	7.9	刺突文	ナデ	○	○										橙	にぶい黄橙	一部欠損小型
	1571	—	円盤状土製品	F	20	Ⅶ	4.9	1.4	52.9	ナデ	ナデ	○											灰黄褐	橙	
	1572	—	円盤状土製品	F	22	Ⅵ	4.1	0.7	15.2	刺突文・沈線文	ナデ	○	○										にぶい橙	黒褐	
	1573	—	円盤状土製品	H	14	Ⅶ	4.5	1.0	23.2	条痕文	ナデ	○	○	○	○	○							橙	にぶい黄橙	
	1574	—	円盤状土製品	F	24	Ⅵ	5.3	0.9	38.8	刻目突帯・刺突文	ナデ	○	○	○	○	○							にぶい黄橙	にぶい黄橙	一部欠損
	1575	—	円盤状土製品	I	21	Ⅵ	5.3	1.2	34.5	貝殻刺突文	ナデ												にぶい黄橙	にぶい黄橙	
	1576	—	円盤状土製品	G	19	Ⅵ	3.7	0.7	12.3	縄文	ナデ	○											橙	にぶい橙	



### 3 石器

石器はⅦ・Ⅵ層とも調査区の北東側を中心に出土した。調査区内には数箇所の石器集中域がみられるが、エリア認定には至らなかったため、ここでは層位及び器種ごとに報告する。

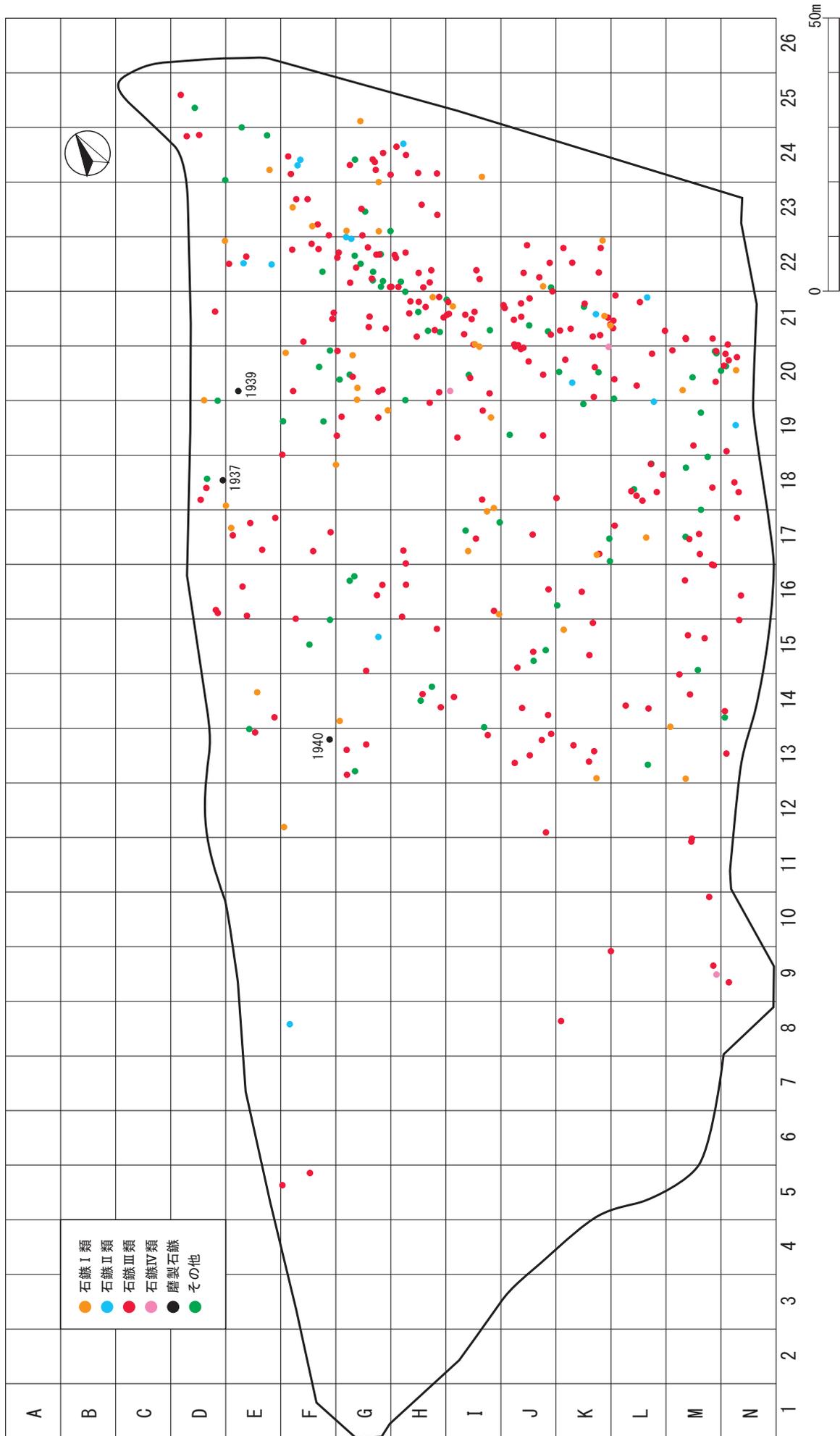
また、石材分類及び石器組成は第 61・62 表、出土状況はⅦ層が第 462・463 図、Ⅵ層が第 512・513 図のとおりである。

第 61 表 天神段遺跡における石材分類

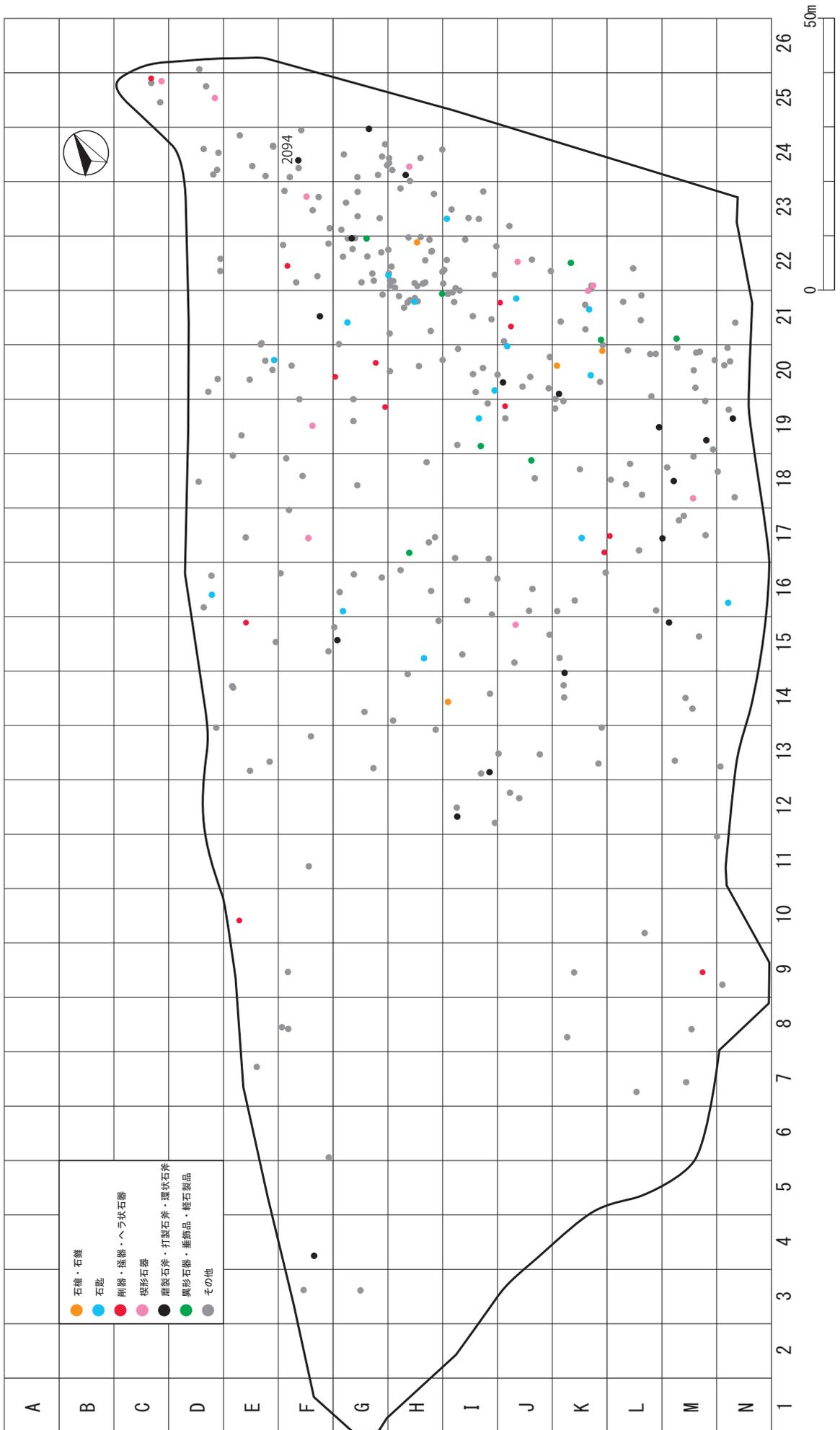
石 材	分 類	特 徴
黒曜石	OB 1	黒色でほとんど光を透過せず、透明感がないもの。わずかに不純物を含む。上牛鼻
	OB 2	粒径の小さい不純物が均一に入る。黒色～灰色で縞状の構造を有するものもある。日東・五女木
	OB 3	粒径のやや大きい不純物がまばらに入る。黒色～灰色を基本とし、わずかにアメ色を帯びるものもある。三船
	OB 4	不純物を少量あるいはほとんど含まず、透明度が高い。アメ色～黒色を呈する。桑ノ木津留
	OB 5	不純物をほとんど含まず、良質。黒色でガラス質の光沢を有する。腰岳
	OB 6	不純物をほとんど含まず、良質。青灰色を呈し、透明度は低い。針尾・淀姫
	OB 7	不純物をほとんど含まず、良質。乳白～灰色を呈し、やや透明感がある。姫島
	OB 8	上記の分類に当てはまらず、判別が困難なもの。不明
安山岩	AN	黒灰色を主体に色調は様々で、緻密なものや多孔質のものがあり、共通して斑晶が目立つ。
チャート	CH	黒灰・灰・青灰色。油脂光沢があり、黒色・灰色・白色の筋が入る。
玉髓	CC 1	赤褐色あるいは明黄褐色で硬質。節理面に結晶構造が残存するものはあるが、ほとんどが不純物を含まず、硬質かつ良質で光沢をもつ。メノウ、鉄石英を含む。
	CC 2	灰白・乳白色。不純物をほとんど含まず、硬質。筋状あるいは斑状に黒～灰色の色調を含むものもある。
	CC 3	灰白・乳白・赤白色。結晶構造が明瞭で、不均質。節理面には石英が発達する。
頁岩	SH	黒～暗灰色。硬質で緻密なものや、節理が発達するものなど様々である。
ホルンフェルス	HF	黒灰～青灰色。やや粒子の粗く、節理が発達し層状に剥落するもの。
粘板岩	CL	灰～青灰色。層状構造をなし、薄く剥落するもの。
水晶	CR	基質が透明もしくは白色で透明感があり、良質なものや、基質が白色でやや粗質なもの。
花崗岩	GR	石英・カリ長石・雲母・角閃石・輝石などを主成分鉱物として含む。
砂岩	SA	砂粒・石英粒が集合して固まった堆積岩の一種。
凝灰岩	TU	気泡を多く含み、密度が低く軽い。軟質。

第 62 表 Ⅶ・Ⅵ層出土石器組成表

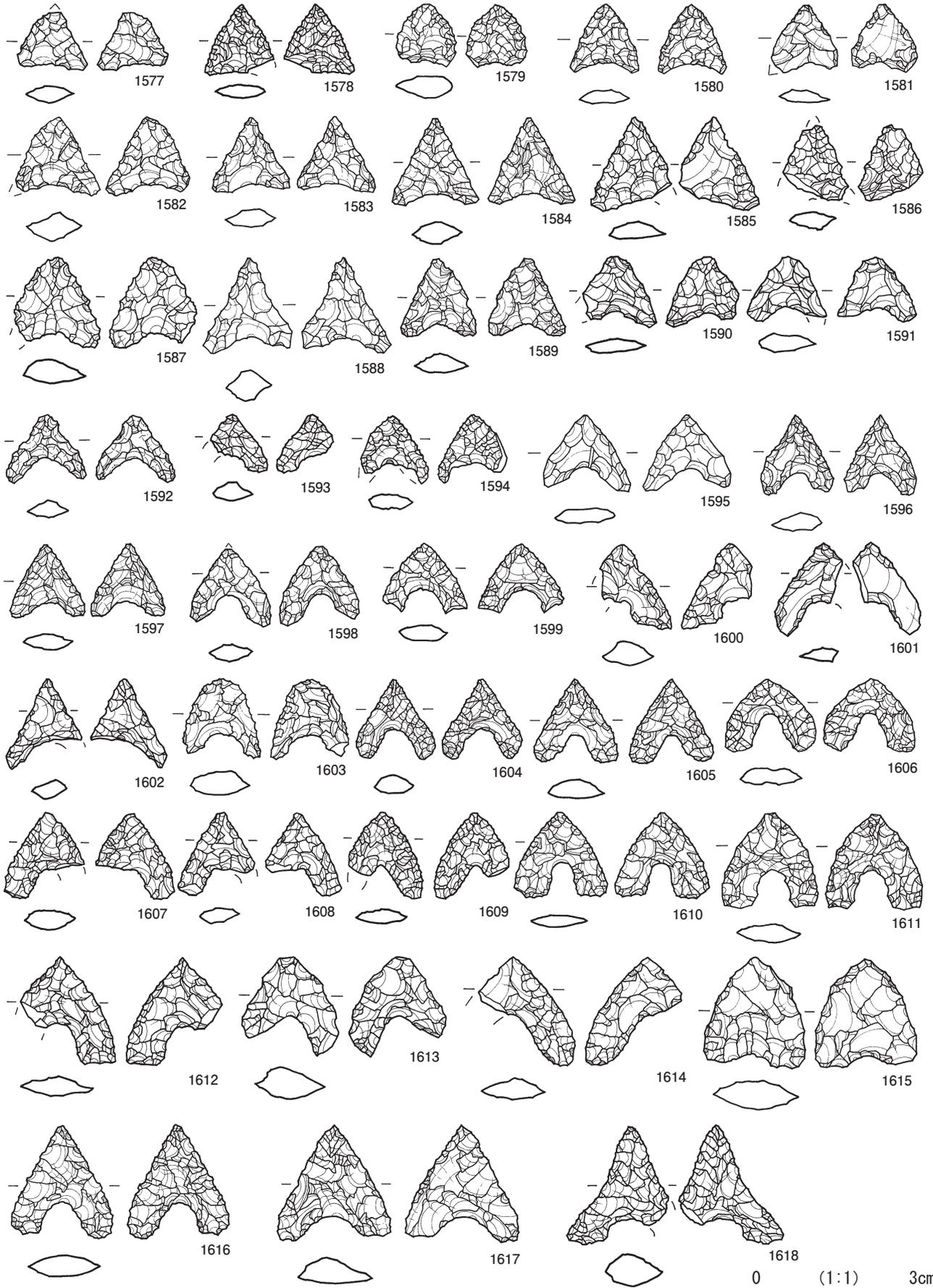
器種	Ⅶ層													Ⅵ層												
	OB	AN	CH	CC	SH	HF	CL	CR	GR	SA	TU	その他	OB	AN	CH	CC	SH	HF	CL	CR	GR	SA	TU	その他		
打製石鏃	111	106	93	16	31			2			1		308	353	209	23	54	2		5						
磨製石鏃				1	3									1			1									
石槍		2												2			1									
石錐	2												3	3			1									
小型両面加工石器													2	2	2	1	4			2						
石匙	2	11	3										3	41	12	2	5	2	1							
削器		3	3	1	1	1							4	13	4	1	1	3								
搔器					1						1		1		1											
ツマミ状石器													1													
彫器																	1									
ヘラ状石器		1												2	2			1								
楔形石器	3	2	4			1		1					7	5	3											
二次加工剥片	11	15	17	1	6					1			26	41	16	1	7	2								
礫器		4				7				2				4			1	5					4			
石核類	17	4		3	2	1		1					14	2	1		4	1		1		1				
磨製石斧		2			4	7											3	14				1		1		
打製石斧					1	4								1			1	4								
環状石斧					1																					
石皿		2							2	1	6										4	1	13			
砥石																					1	3				
石錘					1																	3				
敲石		39			3	1		1	2					10			1	1					5			
磨・敲石		23							6	12	1			55							2	12	1			
磨石		51							2	11	1			55							3	2	2			
異形石器	2	2											1	4				1								
垂飾品					3																			1		
ベットストーン														1												
軽石製品											1													3		
合計	148	267	120	22	57	22	0	5	12	27	10	1	370	595	250	28	85	36	1	8	10	32	16	5		



第462図 VII層出土石器出土分布図（石鏃）

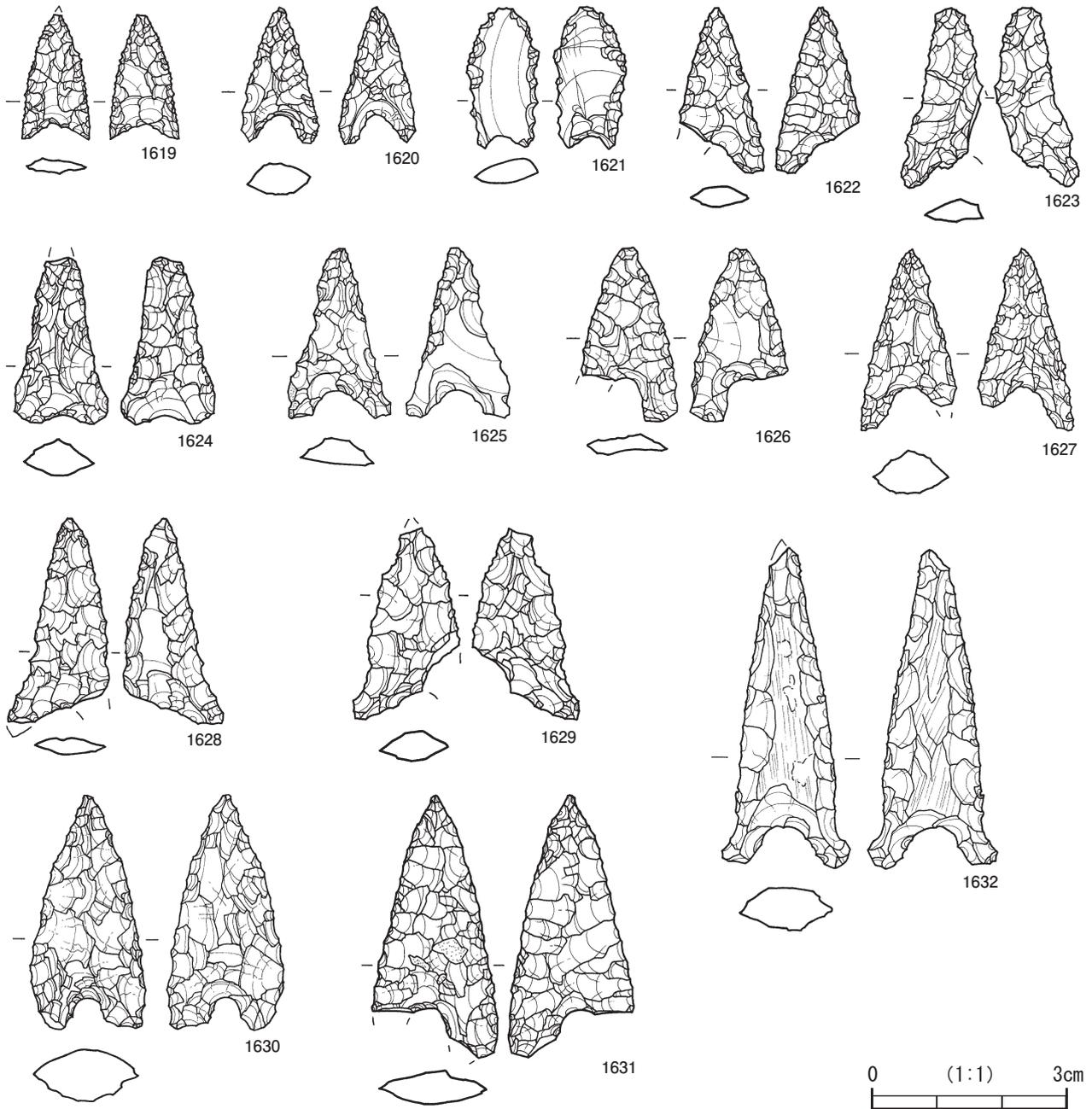


第 463 図 VII層出土石器出土分布図（石鏃以外）



0 (1:1) 3cm

第 464 图 VII 层出土石器 (1)



第 465 図 VII層出土石器 (2)

Ⅶ層出土の石器 (第 464 ~ 511 図)

(1) 打製石鏃 (第 464 ~ 477 図 1577 ~ 1936)

剥片を素材とし、両側縁部に両面から押圧剥離を施す、小型から中型の三角形状の石器群を石鏃とした。そのうち、打製石鏃は欠損品や未製品も合わせて 360 点図化した。形態的な特徴や大きさなどから、以下のように分類した。この分類はⅥ層出土の打製石鏃も共通する。

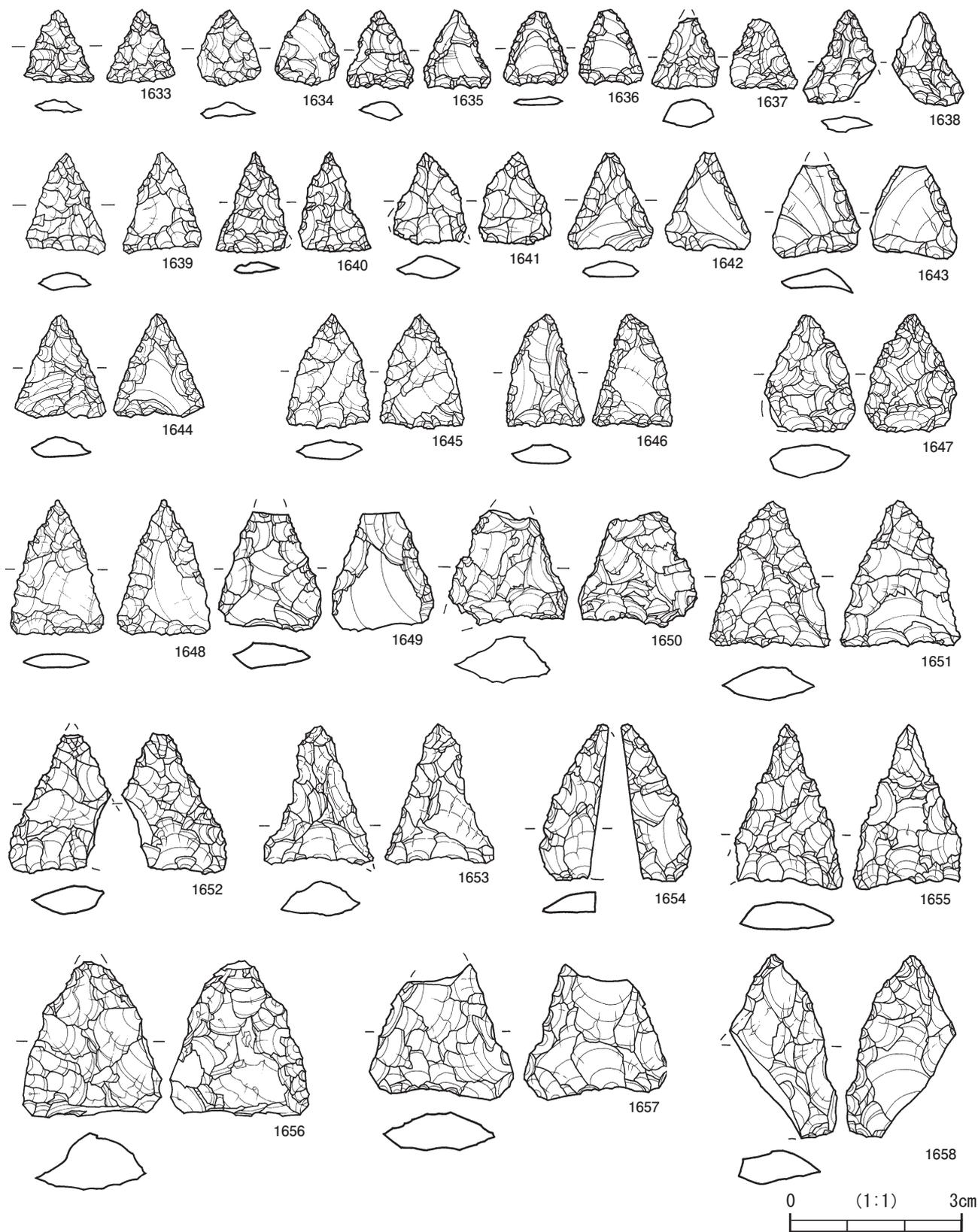
- I 類 正三角形鏃
- II 類 長身鏃
- III 類 二等辺三角形鏃
- IV 類 五角形鏃

V 類 欠損品

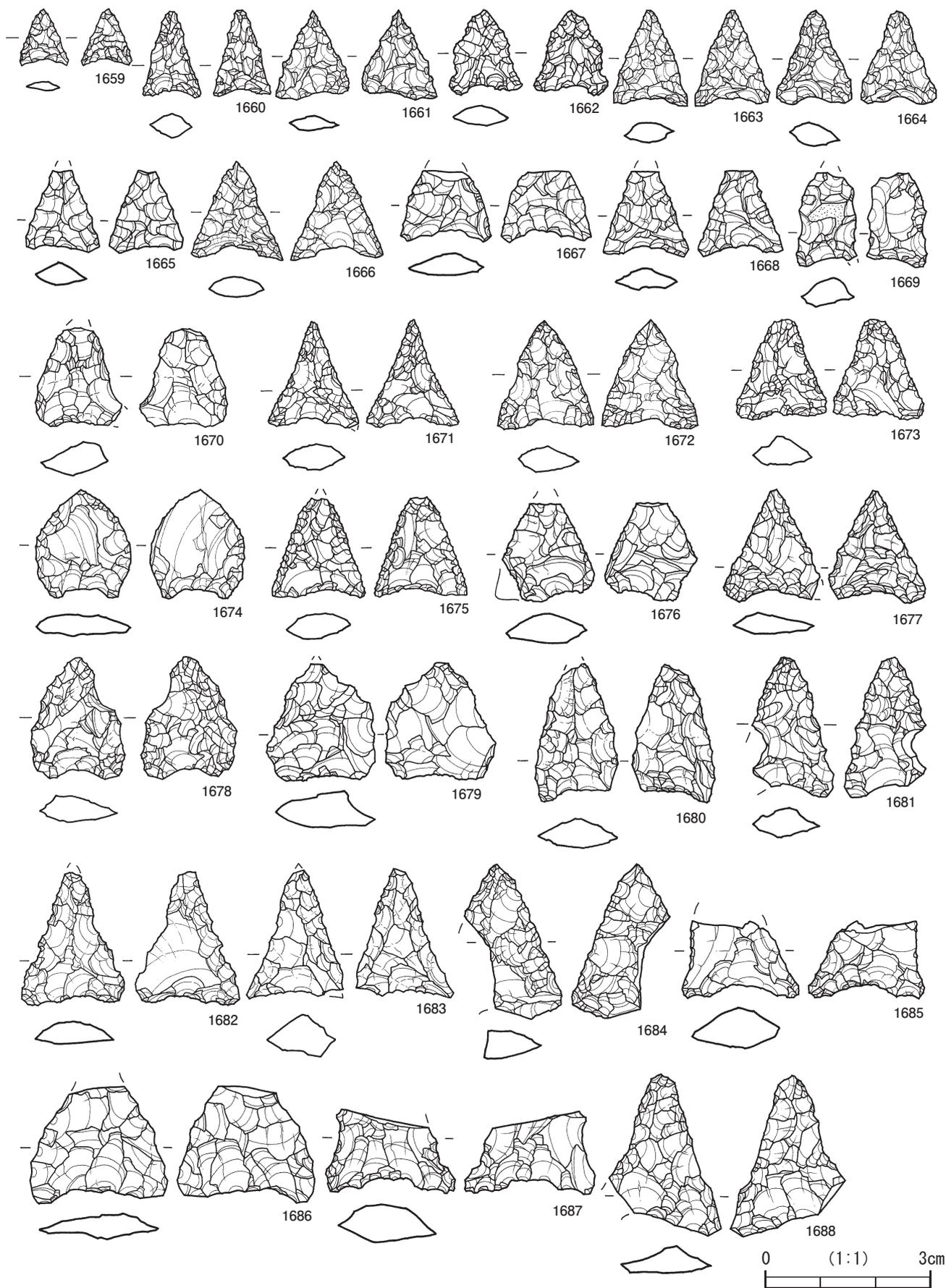
VI 類 未製品

さらに、I ~ IV 類は基部の形態から 5 つに細分した。

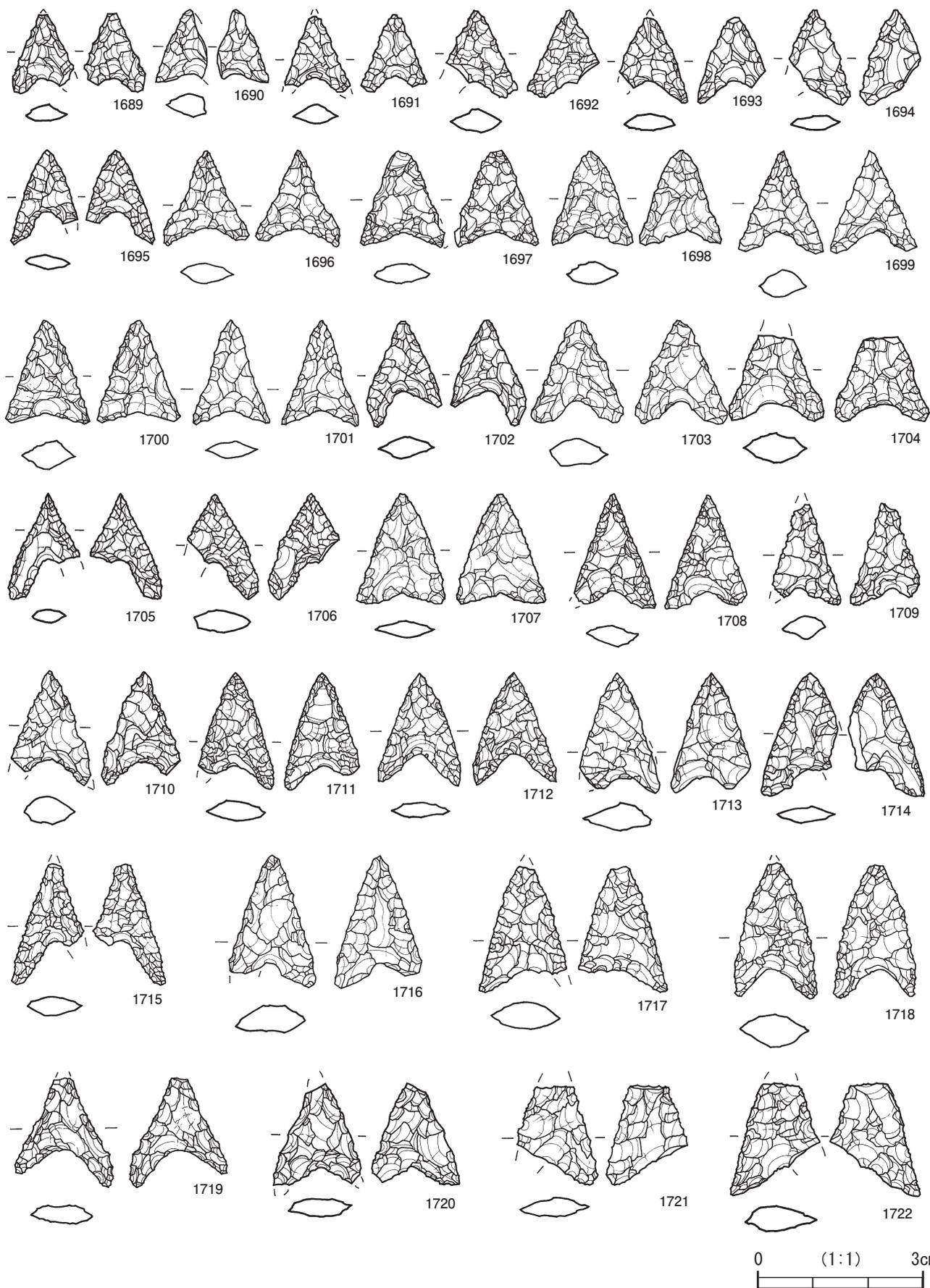
- a 基部が平坦で抉りのないもの
- b 基部の抉りが浅いもの
- c 基部の抉りが外に開き、脚部の先端が尖るもの
- d 基部の抉りが「U」字形で、脚部の先端が平らなもの
- e 基部の抉りが「U」字形で、脚部の先端が尖るもの



第 466 图 VII 层出土石器 (3)

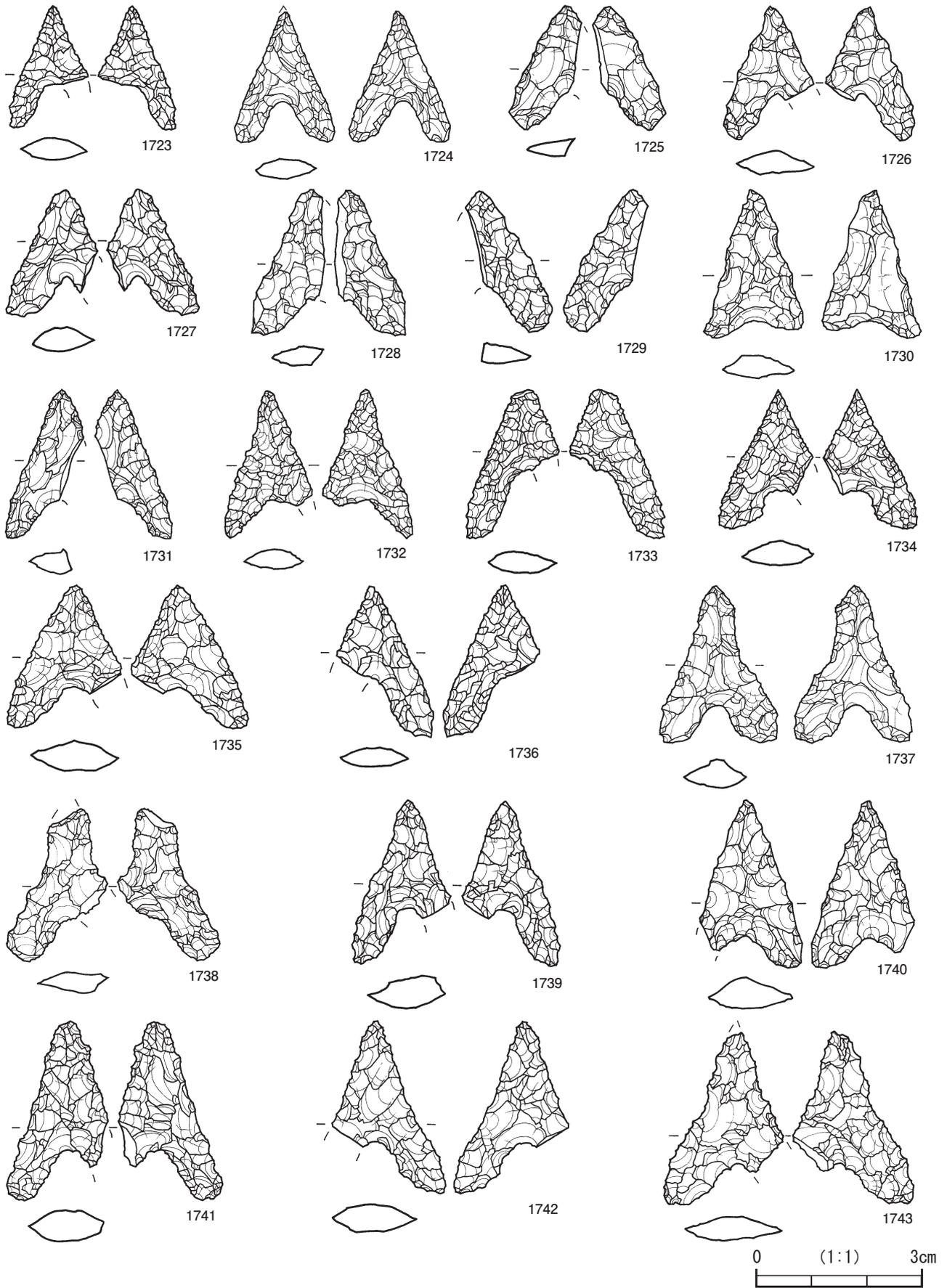


第 467 图 VII 层出土石器 (4)

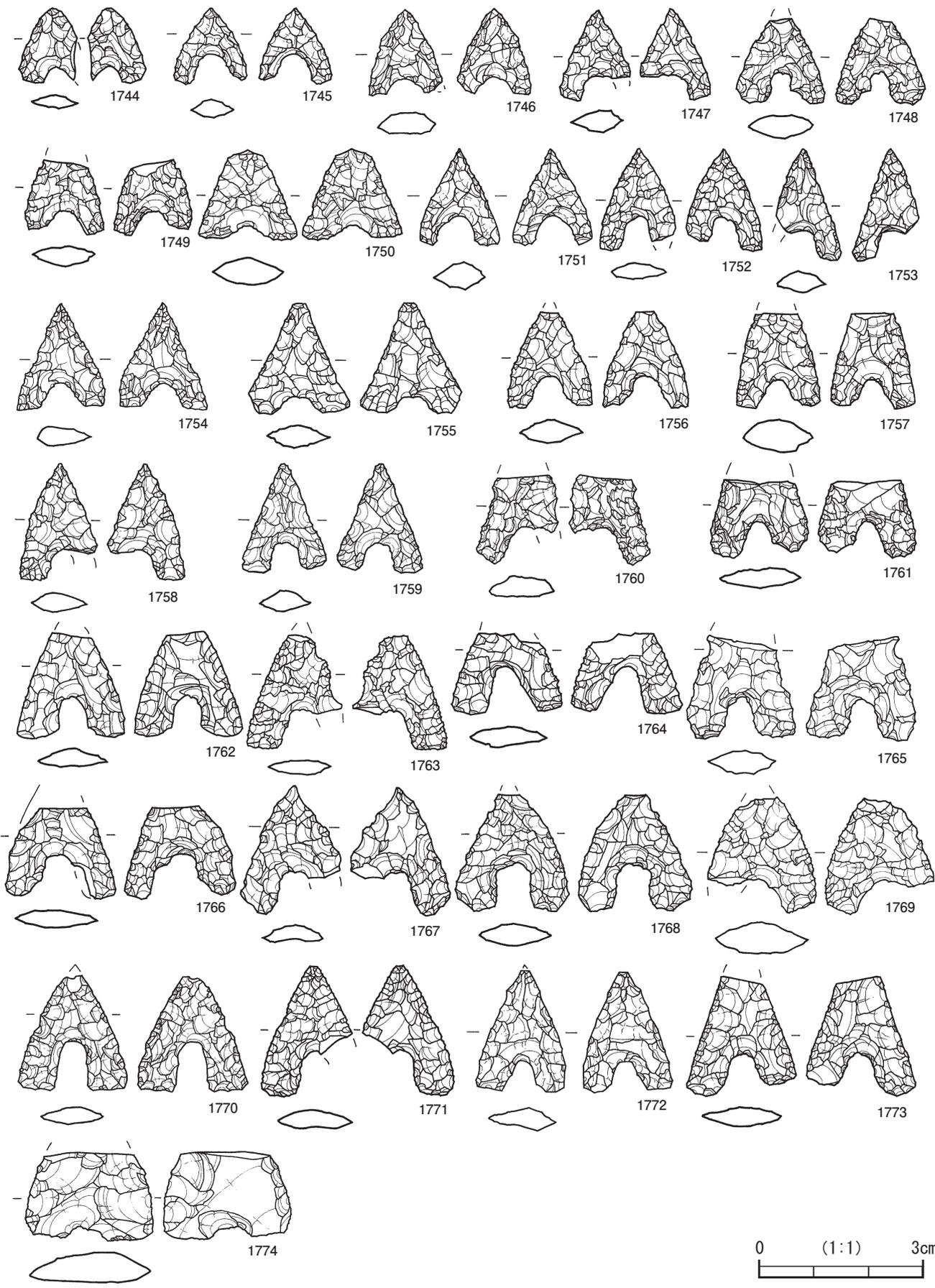


第 468 图 VII 层出土石器 (5)

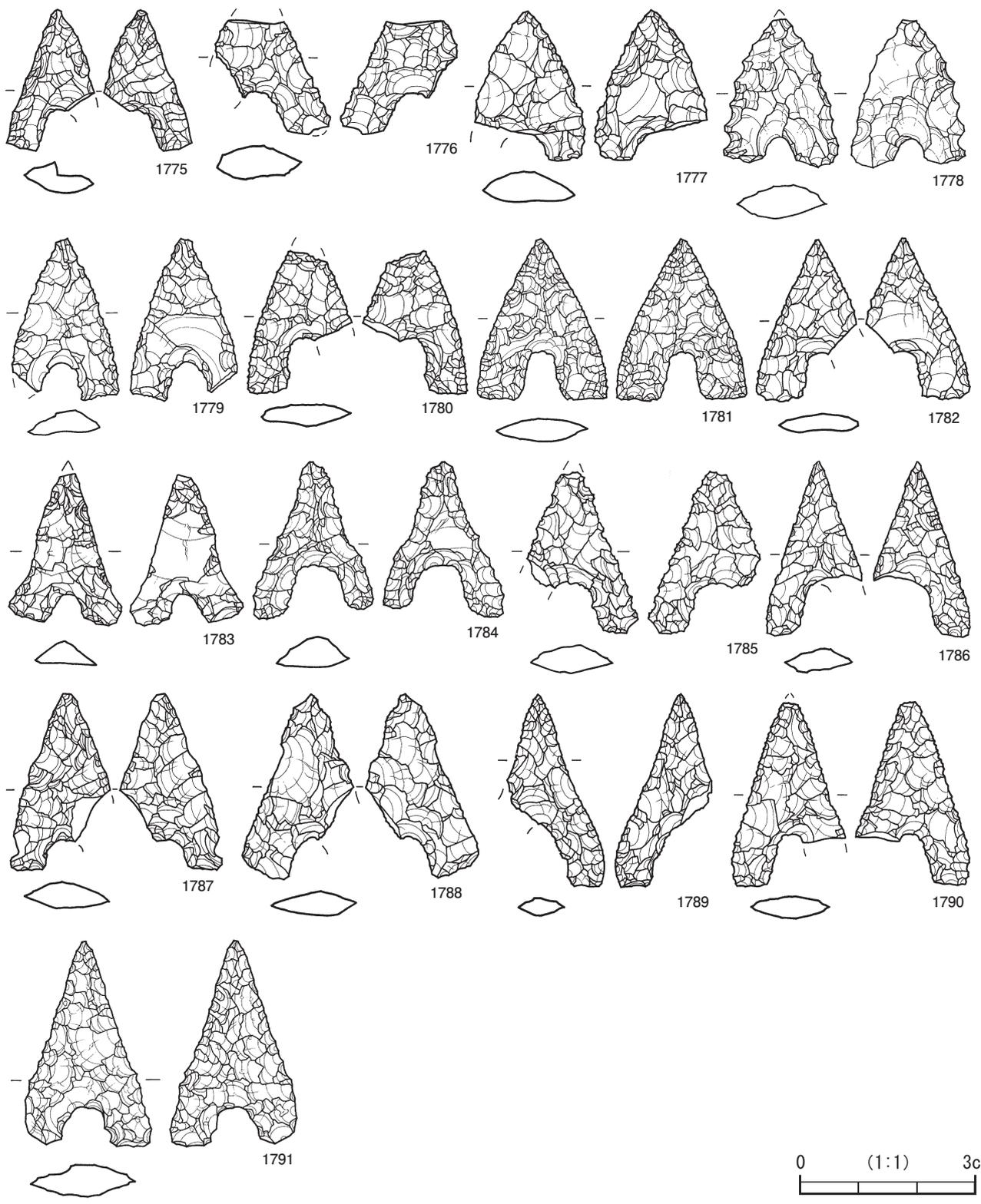




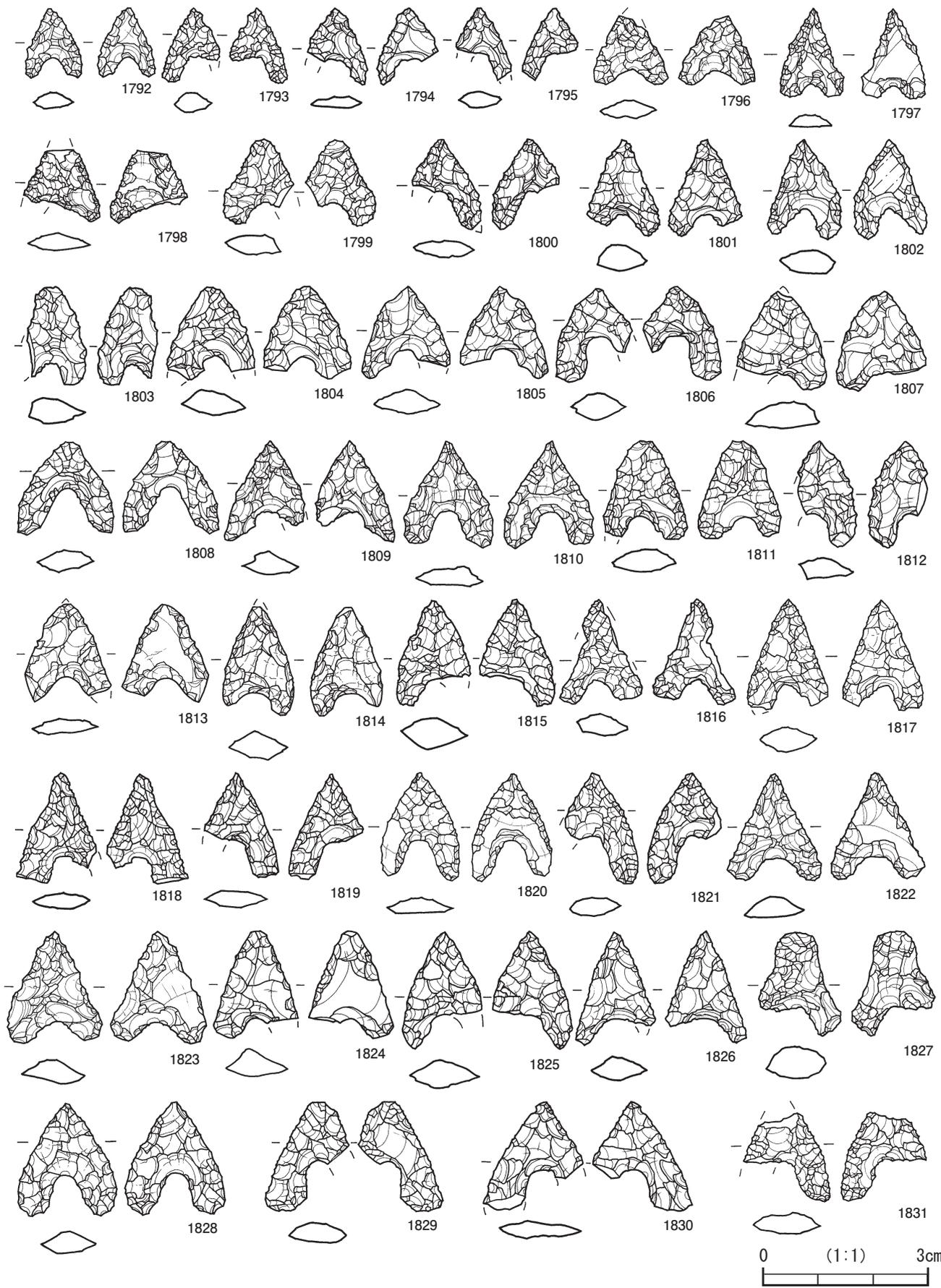
第 469 图 VII 层出土石器 (6)



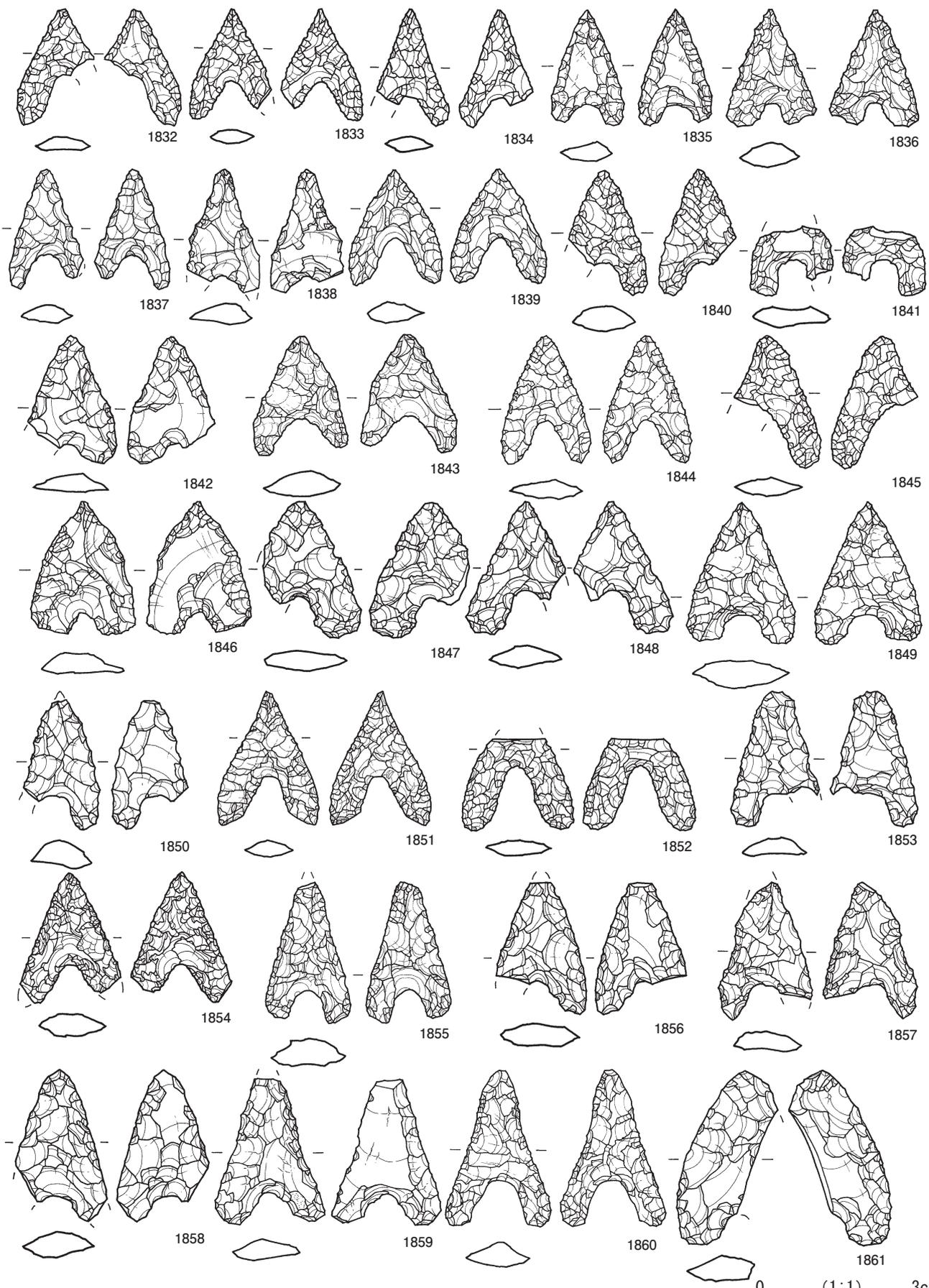
第 470 图 VII 层出土石器 (7)



第 471 图 Ⅶ层出土石器 (8)

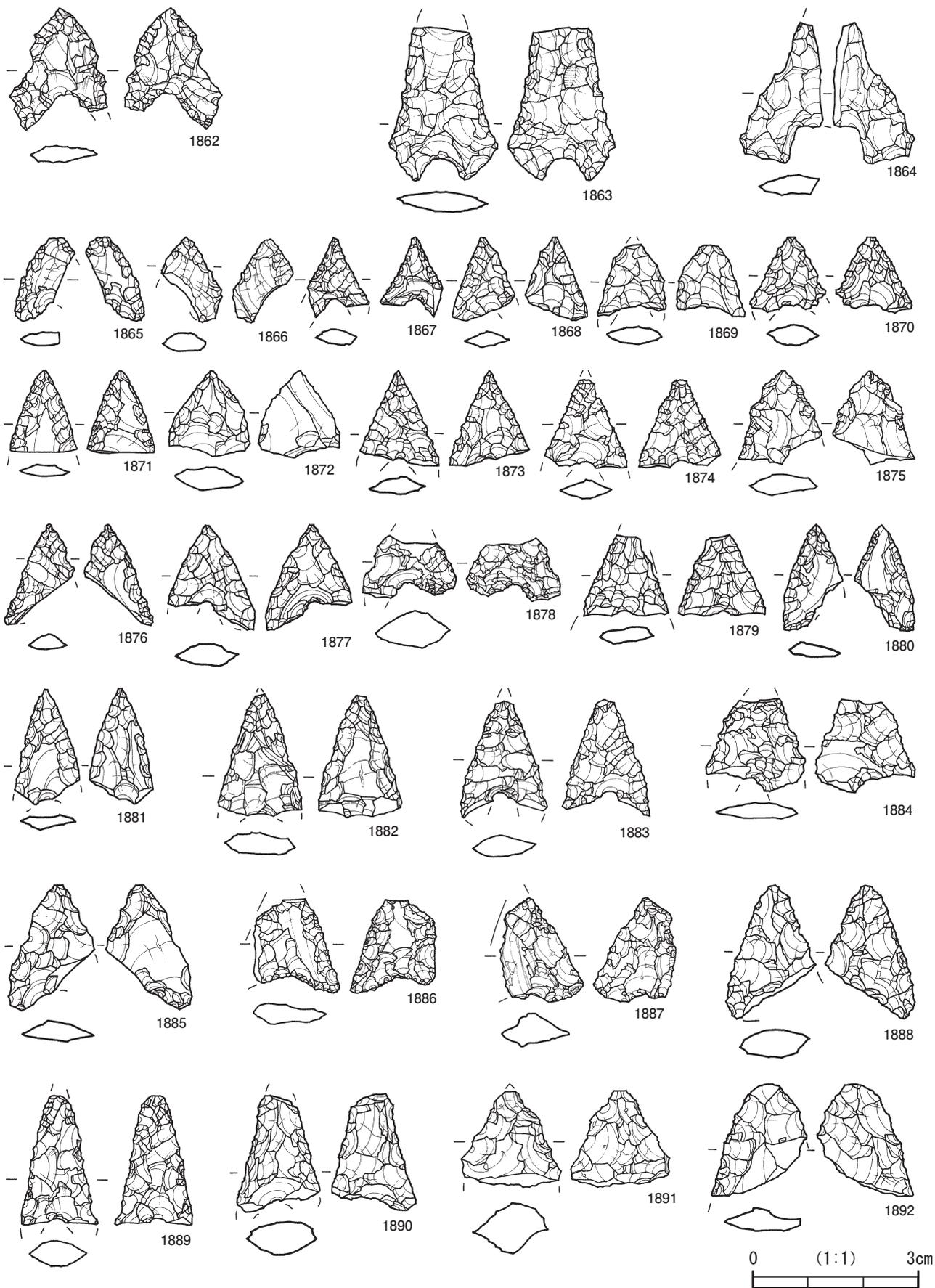


第 472 图 VII 层出土石器 (9)

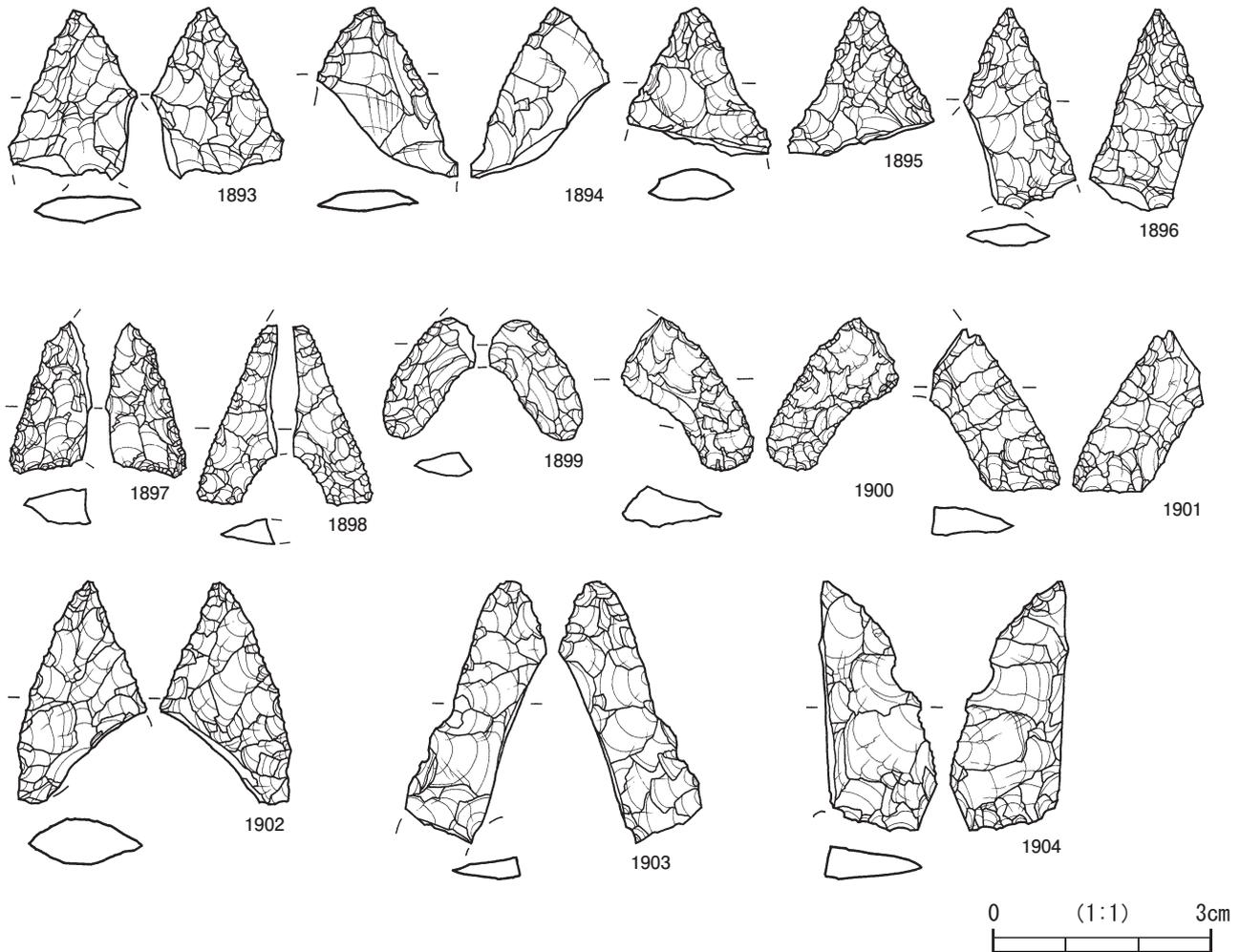


第 473 图 VII 层出土石器 (10)

0 (1:1) 3cm



第 474 图 VII 层出土石器 (11)



第 475 図 VII層出土石器 (12)

### I 類 (第 464 図 1577 ~ 1618)

I 類は全体の形状が正三角形を呈するもので、42 点図化した。桑ノ木津留や上牛鼻、針尾・淀姫、腰岳産の黒曜石のほか、安山岩やチャート、玉髓等を素材とする。基部の形態は 1577 ~ 1579 は a 類、1580 ~ 1591・1615 は b 類、1592 は c 類、1610 ~ 1612・1618 は d 類、残りは e 類である。側縁部が直線的なものだけでなく、1606・1610 ~ 1615 のように丸味を帯びるものや、1618 のようにくびれるものも見られる。1603 の先端部は丸く作出し、1610・1612 はチャート製の鍬形鏃である。

### II 類 (第 465 図 1619 ~ 1632)

II 類は側縁部の長さが幅の 2 倍以上あるもので、全体の形状が二等辺三角形を呈するものを長身鏃とし、14 点図化した。安山岩を素材とするものが多く、a 類は見られない。1632 は先端部が欠損しているものの、長さが 4.94 cm あり、V・VI 類を除くと最大長である。基部は「U」字状の抉りを持ち、脚部の先端は丸く作り出すことから、トロトロ石器の可能性はある。

### III 類 (第 466 ~ 473 図 1633 ~ 1861)

III 類は側縁部の長さが幅を上回る形状で、全体の形状は二等辺三角形を呈するものを二等辺三角形鏃とし、229 点図化した。安山岩とチャートを素材とするものが多いが、上牛鼻や日東、三船、桑ノ木津留、腰岳、針尾・淀姫、姫島産黒曜石も使用し、玉髓と頁岩は少ない。

#### III a 類 (第 466 図 1633 ~ 1658)

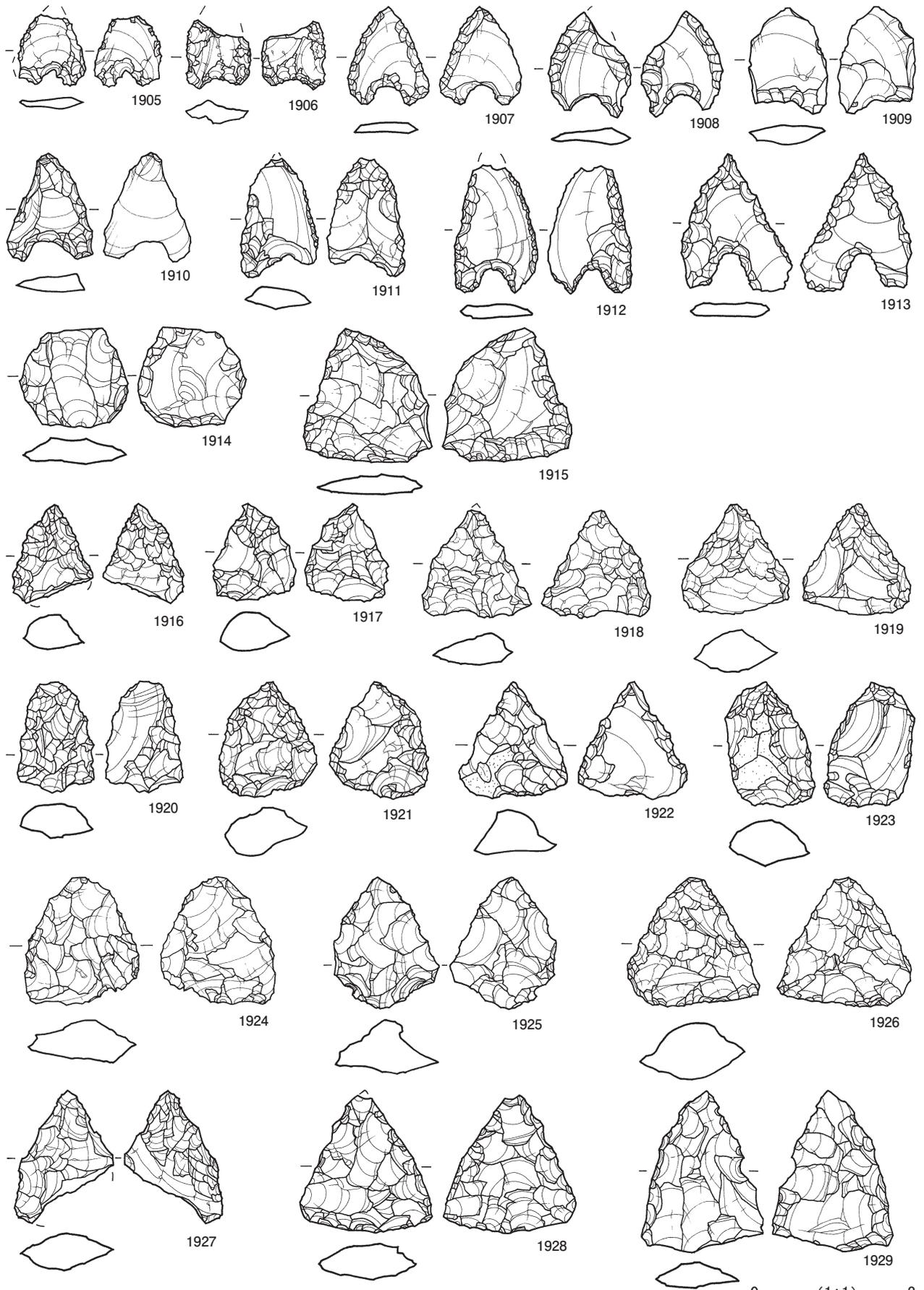
1633 ~ 1658 は基部が平坦で、抉りが浅いものである。1633 ~ 1635 は桑ノ木津留産黒曜石を使用する。1641・1646 は非対称である。1656 は基部の一部が欠損し、基部の厚みも 1.1cm あるため、III a 類ではない可能性がある。

#### III b 類 (第 467 図 1659 ~ 1688)

1659 ~ 1688 は基部の抉りが浅いものである。1659 は VII・VI 層出土の石鏃の中で最小であり、長さは 1.0cm である。1674 は側縁部が丸味を帯び、押圧剥離は表面に集中し、裏面は主要剥離面を残す。

#### III c 類 (第 468・469 図 1689 ~ 1743)

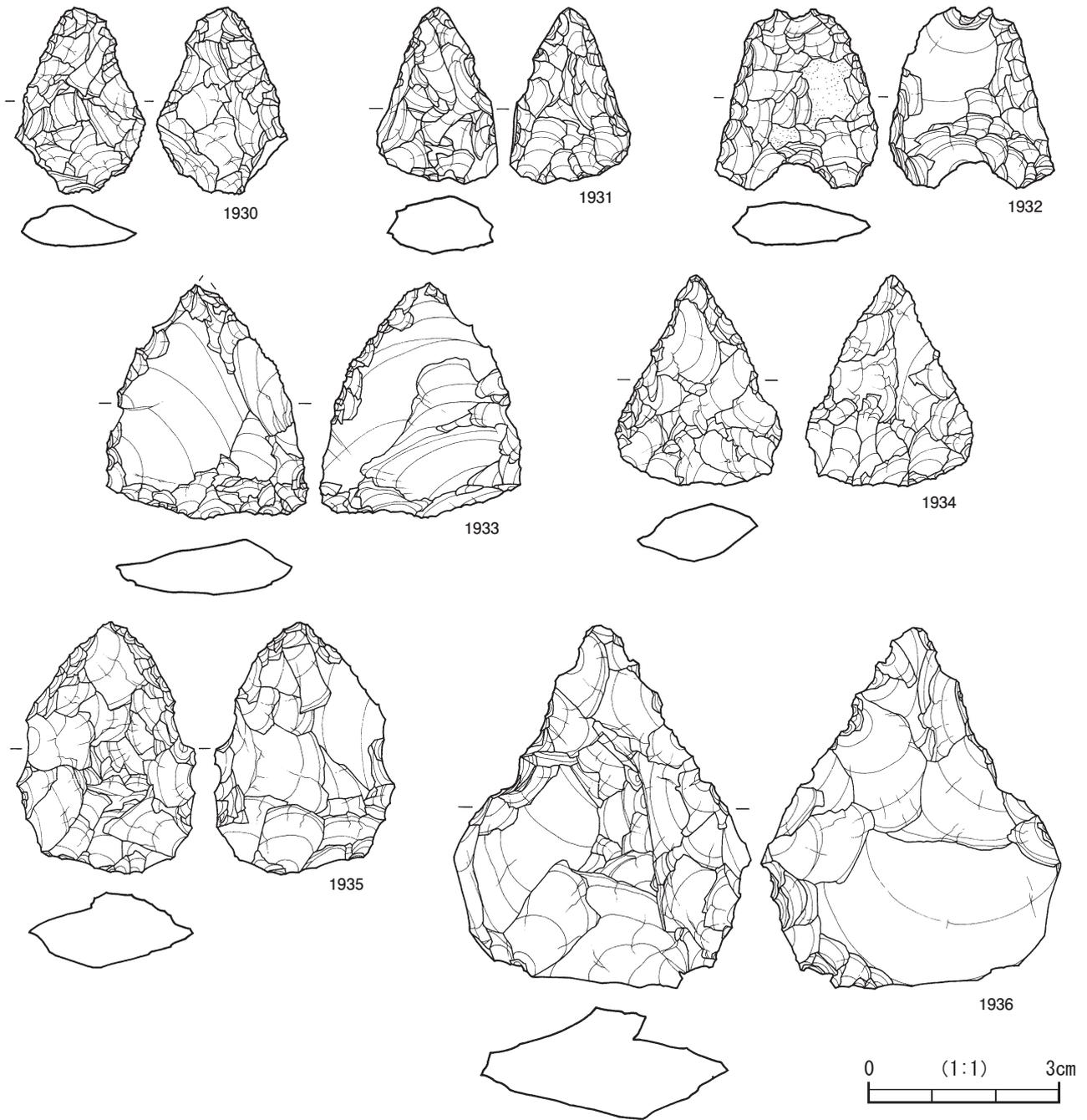
1689 ~ 1743 は基部の抉りが外に開き、脚部の先端が尖るものである。長さ 2cm 前後のものも多く、側縁部も直線的である。1702 は非対称で、1718 は厚みがある。



第 476 图 VII 层出土石器 (13)

0 (1:1) 3cm





第 477 図 VII層出土石器 (14)

Ⅲ d 類 (第 470・471 図 1744 ~ 1791)

1744 ~ 1791 は基部の挟りが「U」字状で、脚部の先端が平らなもので、鋏形鏃を含む。安山岩とチャート以外では、針尾・淀姫産黒曜石を素材とするものが多い。先端部は鋭いものも多く、側縁部は直線的だが、脚部付近では丸味を帯びる。また、基部の挟りは 1774 のように浅いものから、深いものまである。1778 は側縁部が鋸歯状になる。

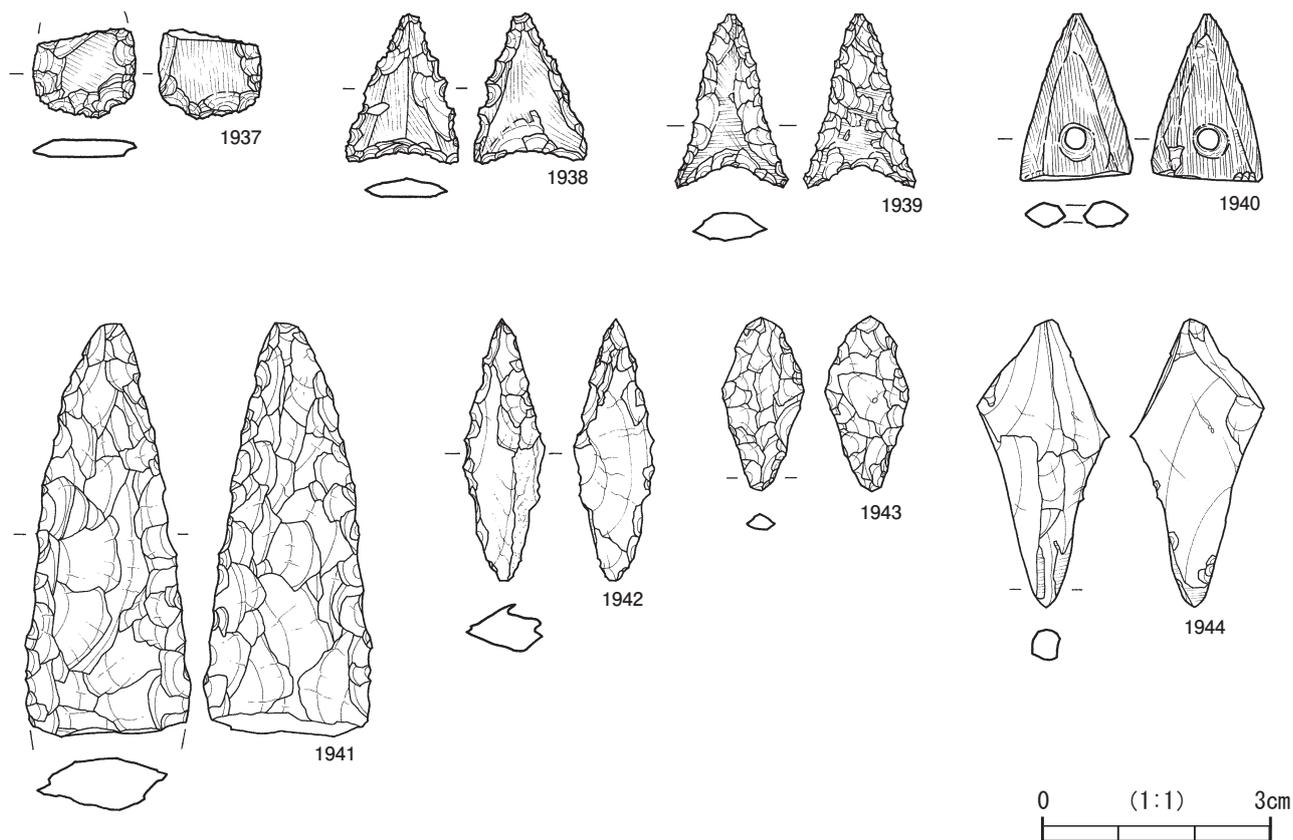
Ⅲ e 類 (第 472・473 図 1792 ~ 1861)

1792 ~ 1861 は基部の挟りが「U」字状で、脚部の先

端が尖るものである。側縁部は直線的なものも多く、先端部は錐状に鋭いものもある。1800 と 1810 は相似し、1811 と 1827 は先端部が丸い。1824 や 1859 のように裏面に主要剥離面を大きく残すものもある。1843 は左右非対称で、1844 は赤褐色の玉髓を素材とする。

Ⅳ類 (第 474 図 1862 ~ 1864)

Ⅳ類は全体の形状が五角形を呈するものである。3 点図化した。1862 は腰岳産黒曜石の五角形鏃で、基部のほか側縁部にも挟りをもつ。1863 は頁岩を使用し、先端部は欠損している。1864 は大部分を欠損するが、腰部の位



第 478 図 VII層出土石器 (15)

置等から五角形鏃に含めた。

**V類 (第 474・475 図 1865～1904)**

V類は I～IV類に当てはまらないもの及び欠損のため全体の形状が不明なものを一括した。1865～1896・1902～1904 は基部や脚部等が欠損し、1897～1901 は脚部のみ残存する。

**VI類 (第 476・477 図 1905～1936)**

VI類は未製品の資料で、1905～1910 は体部は薄く、剥離面を多く残し、剥片鏃に近い。1905～1913 は基部に抉りをもち、1914・1915 は平基である。1911～1913 は脚部の形状が左右で異なる。

1916～1936 は体部に厚みがあり、剥離面を多く残す。1922・1923・1932 は表面に自然面を残す。1925・1930 は基部が凸基となる。1936 は頁岩を素材とし、長さ 5.75cm、厚さ 1.8cm を測り、VII・VI層出土の打製石鏃の中で最大である。

**(2) 磨製石鏃 (第 478 図 1937～1940)**

磨製石鏃は剥片を素材とし、そのまま研磨して仕上げたものと、剥離調整を施した後に研磨仕上げを行うものがある。4点図化し、1937～1939 は局部磨製石鏃である。1937 は先端部が欠損し、1937・1938 は頁岩、1939 は玉髓を素材とする。表裏面とも丁寧に研磨され、両側縁及び基部は鋸歯状に加工が施される。1940 は頁岩を使用し、

両面は丁寧に研磨され、体部に穿孔を施す。

**(3) 石槍 (第 478 図 1941・1942)**

剥片を素材とし、両面調整加工により断面凸レンズ状に仕上げ、先端部を作出したものを石槍とし、2点図化した。1941・1942 は安山岩を使用し、1941 は下部を欠損するが、柳葉状を呈すると考えられる。1942 はナイフ形石器の可能性もある。

**(4) 石錐 (第 478 図 1943・1944)**

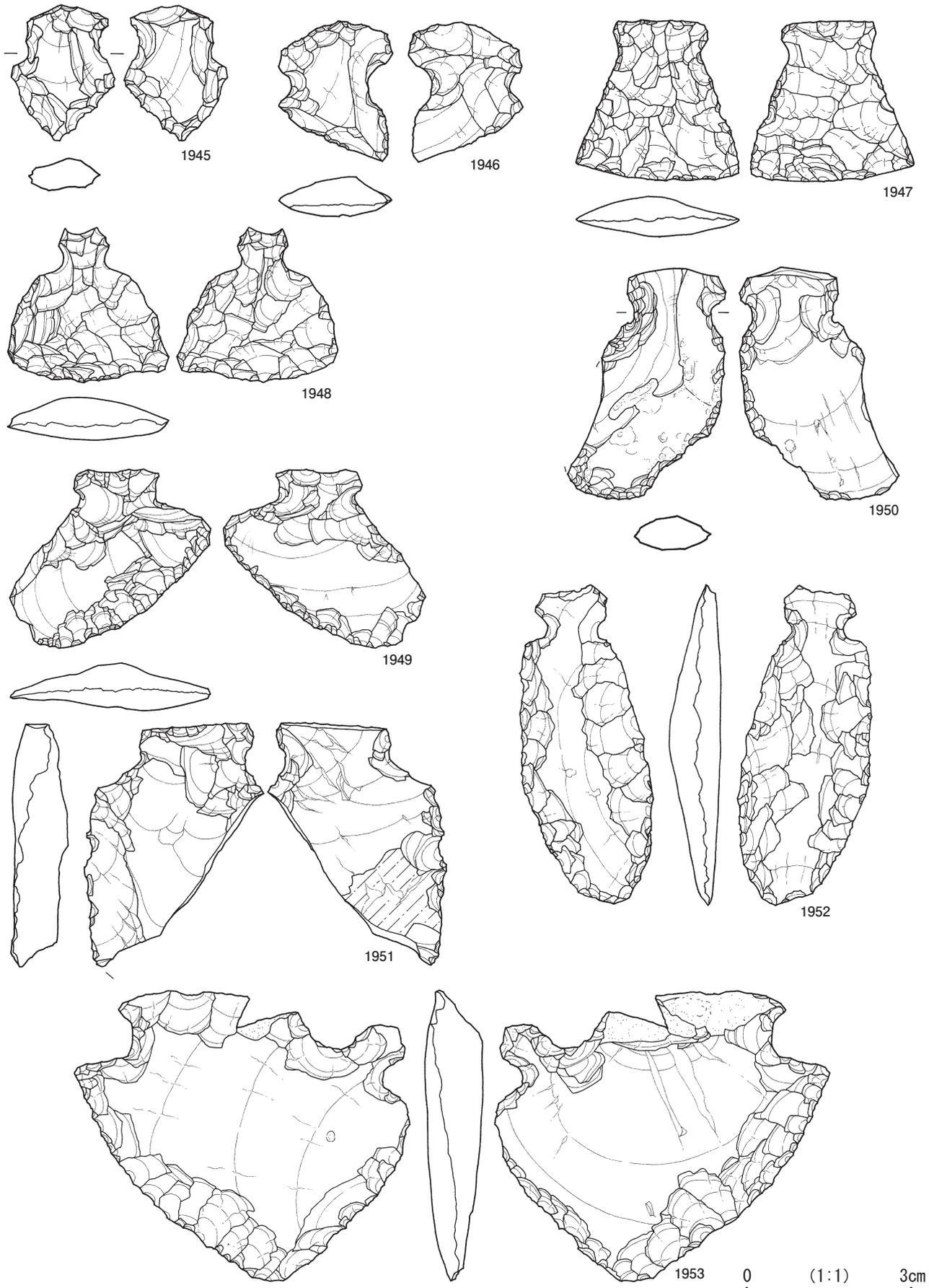
小振りな先端部を作り出して成形し、錐部とする石器群を石錐とした。1943 は安山岩、1944 は日東産黒曜石を使用し、先端部に摩耗痕が残る。

**(5) 石匙 (第 479・480 図 1945～1960)**

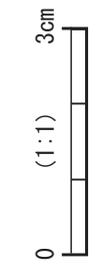
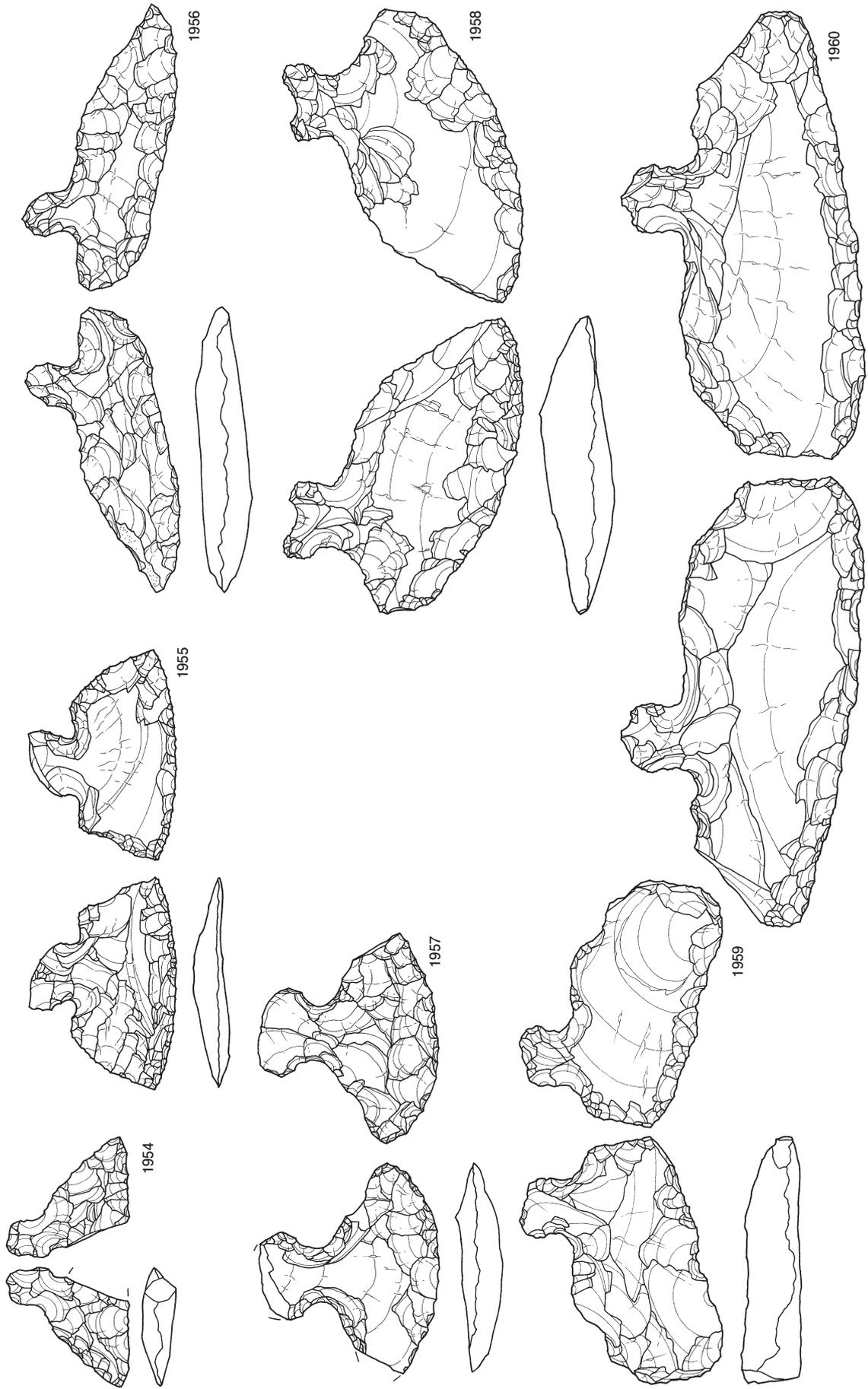
剥片を素材とし、つまみ部を作出するための左右対称となるノッチ状の抉りがあり、押圧剥離により片面もしくは両面調整の刃部を有するものを石匙とした。16点図化し、1945～1953 は縦型、1954～1960 は横型である。使用石材は安山岩及びチャートであり、1954のみ針尾・淀姫産黒曜石である。1946 はリダクション石器と考えられ、1948・1958 はつまみ部の頂部にも抉りをもつ。体部の大部分を欠損した 1951・1954 を除くと、刃部は直刃・丸刃・斜刃のそれぞれが見られる。

**(6) 削器 (第 481・482 図 1961～1969)**

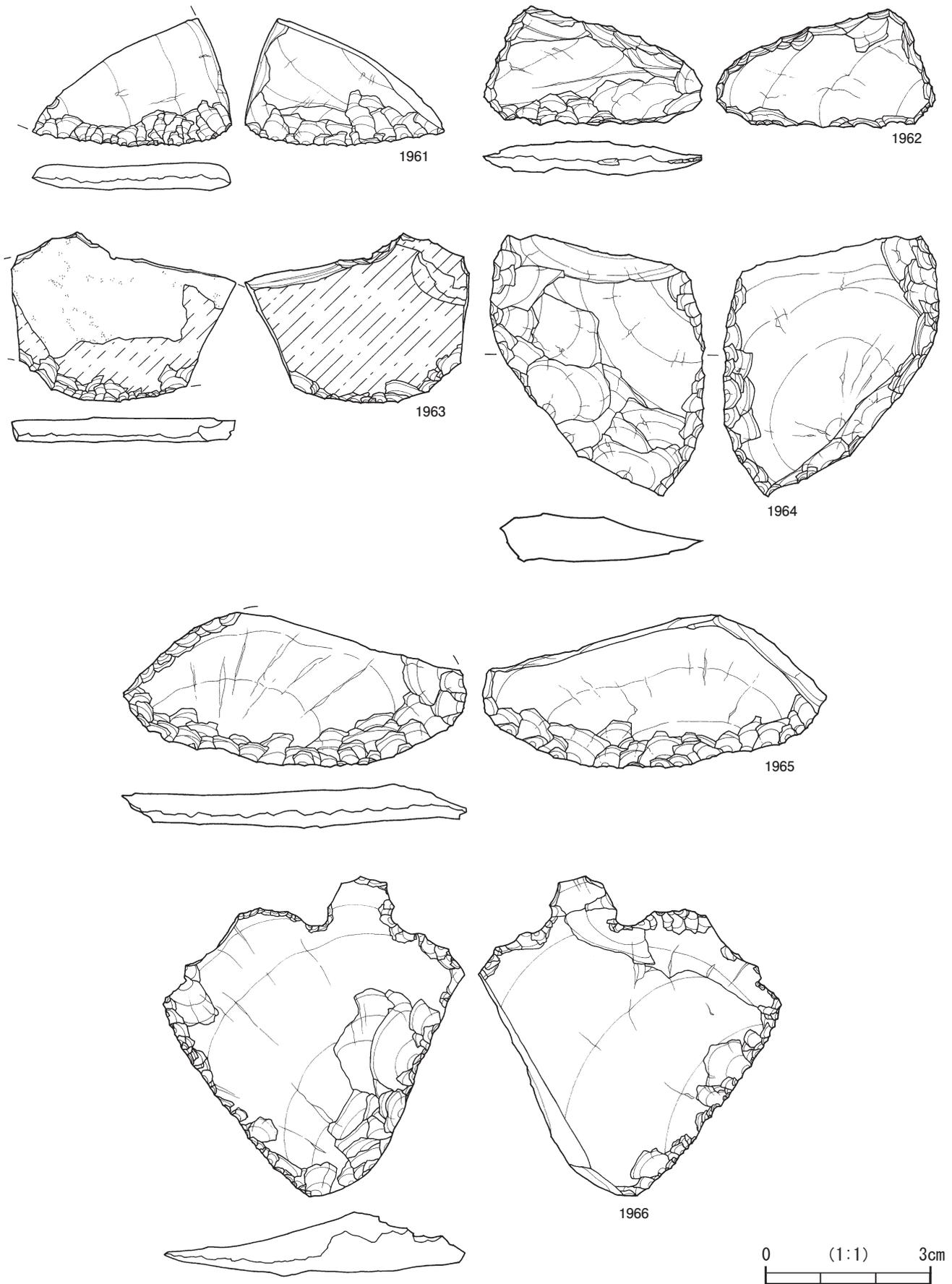
剥片の縁辺部などに二次加工を行い、刃部整形を施



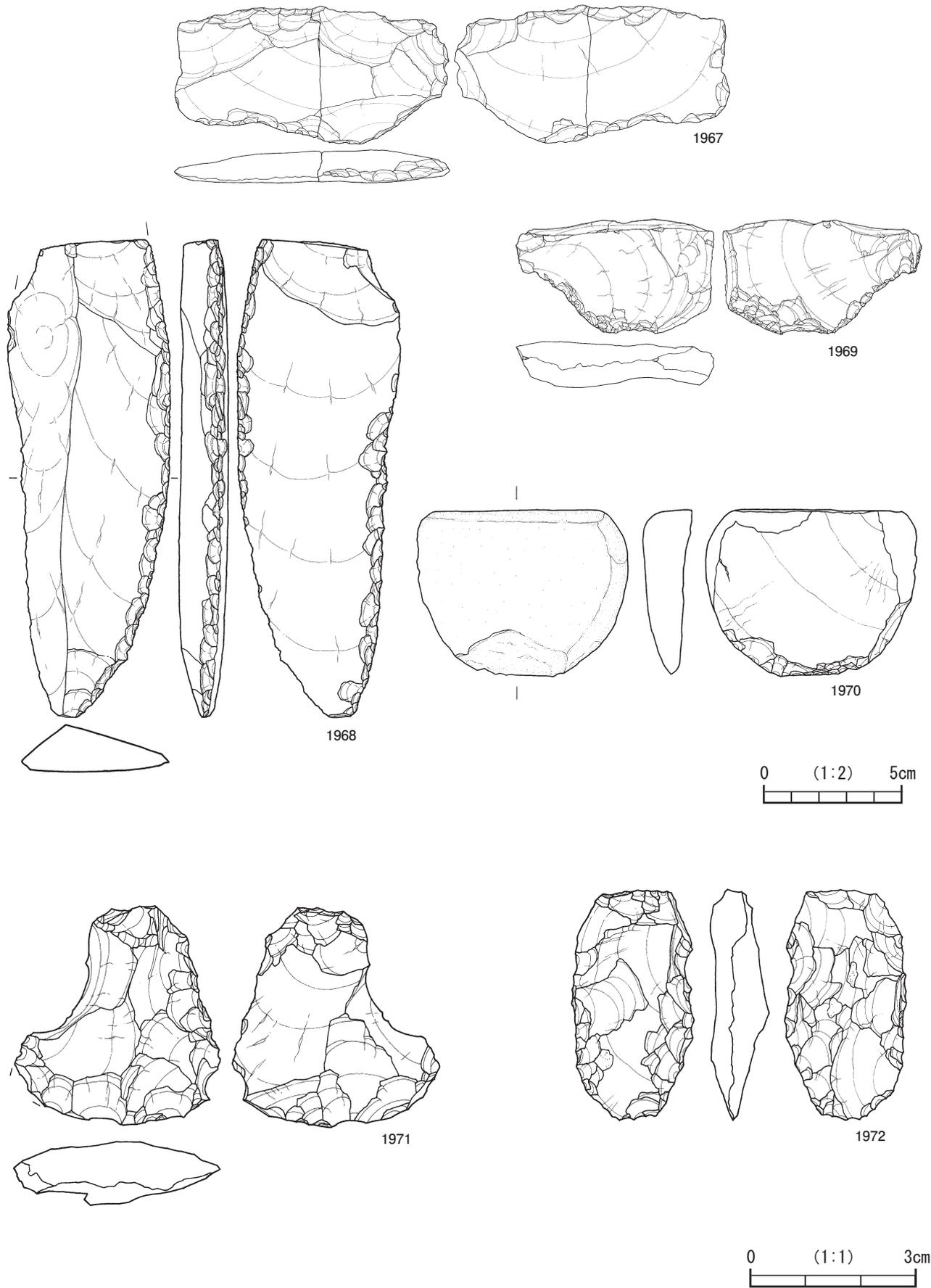
第 479 图 Ⅶ層出土石器 (16)



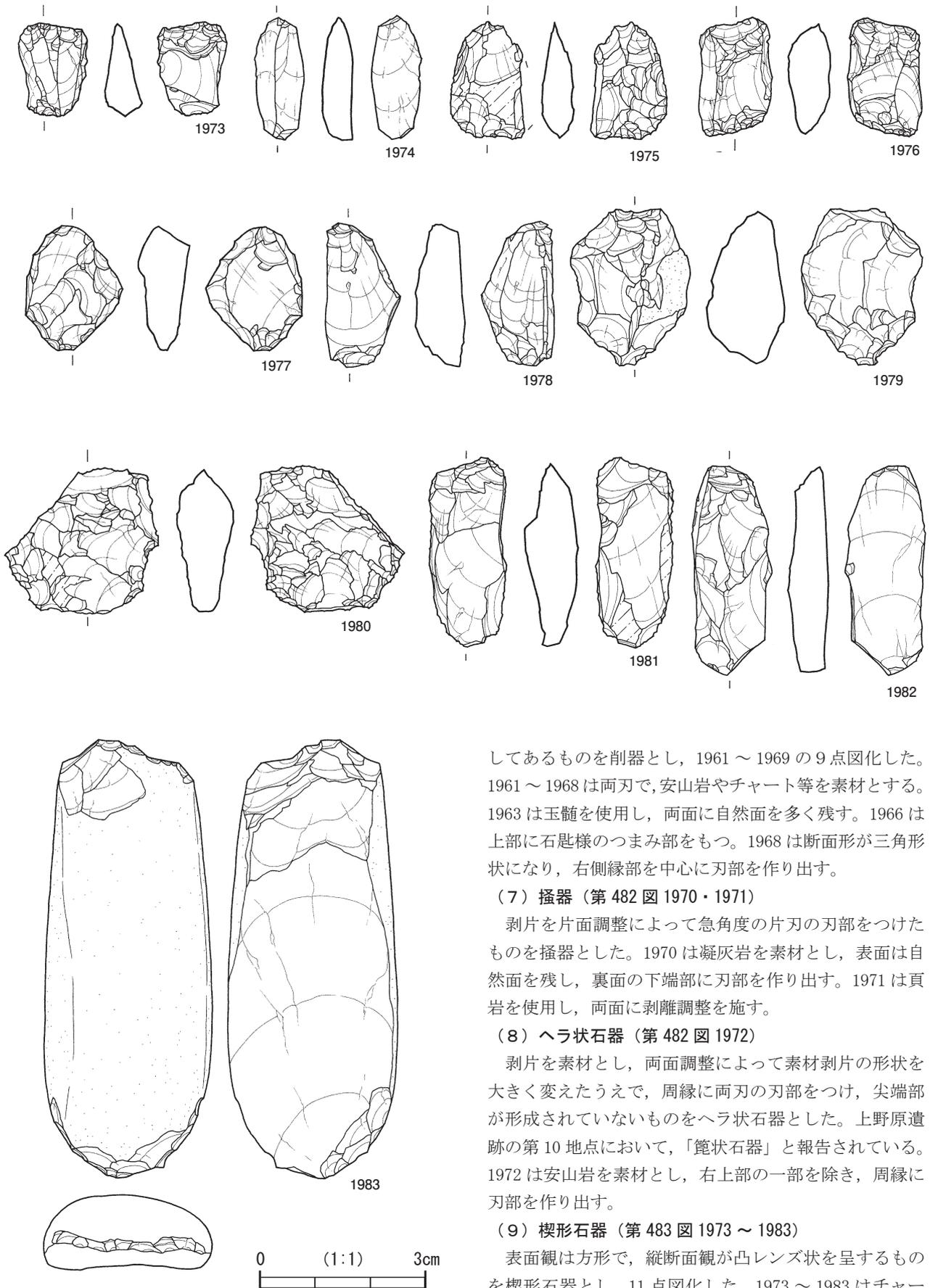
第 480 图 VII 层出土石器 (17)



第 481 图 Ⅶ层出土石器 (18)



第 482 图 VII 层出土石器 (19)



第483図 VII層出土石器 (20)

してあるものを削器とし、1961～1969の9点図化した。1961～1968は両刃で、安山岩やチャート等を素材とする。1963は玉髓を使用し、両面に自然面を多く残す。1966は上部に石匙様のつまみ部をもつ。1968は断面形が三角形になり、右側縁部を中心に刃部を作り出す。

(7) 搔器 (第482図 1970・1971)

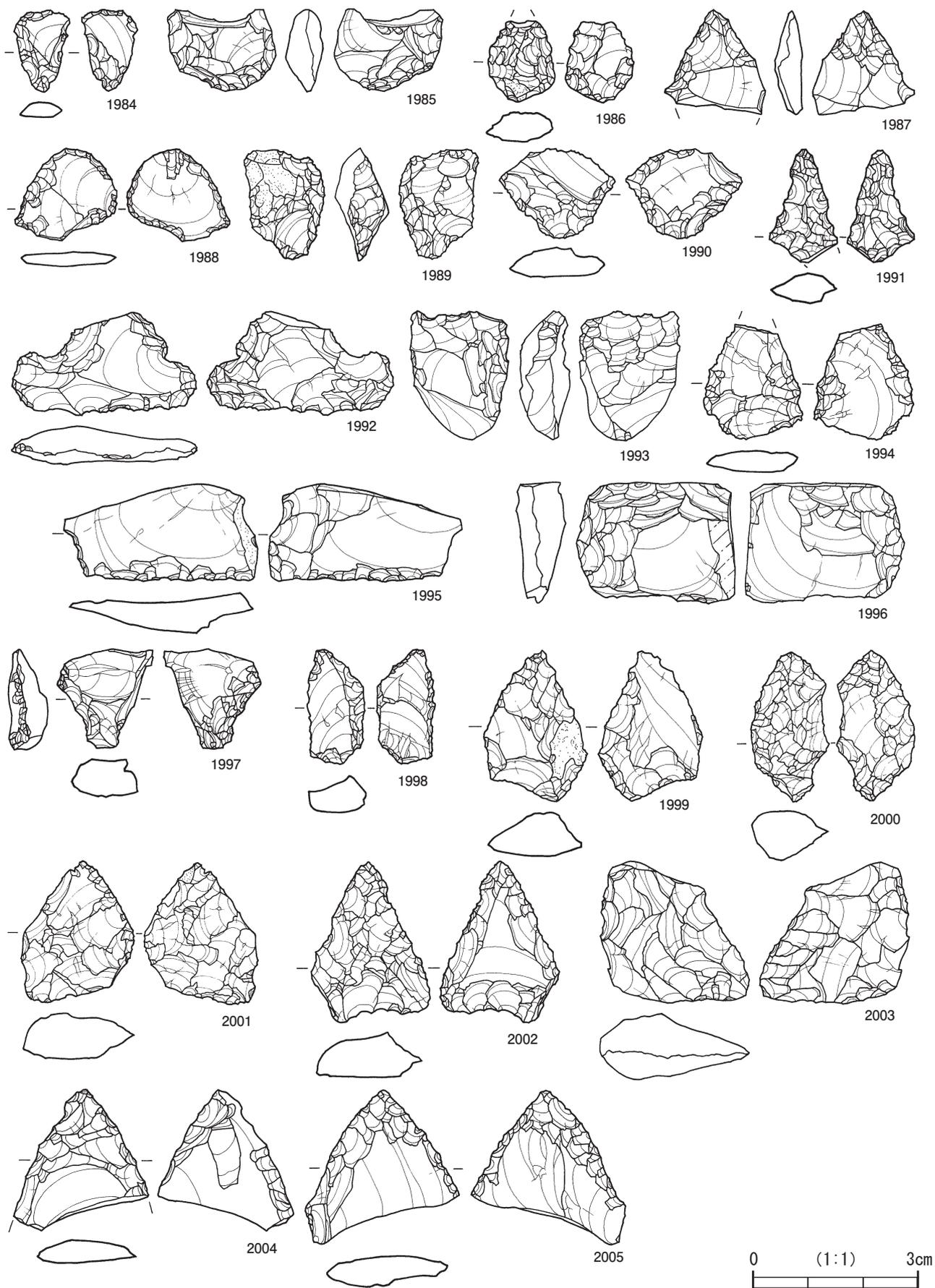
剥片を片面調整によって急角度の片刃の刃部をつけたものを搔器とした。1970は凝灰岩を素材とし、表面は自然面を残し、裏面の下端部に刃部を作り出す。1971は頁岩を使用し、両面に剥離調整を施す。

(8) ヘラ状石器 (第482図 1972)

剥片を素材とし、両面調整によって素材剥片の形状を大きく変えたうえで、周縁に両刃の刃部をつけ、尖端部が形成されていないものをヘラ状石器とした。上野原遺跡の第10地点において、「篋状石器」と報告されている。1972は安山岩を素材とし、右上部の一部を除き、周縁に刃部を作り出す。

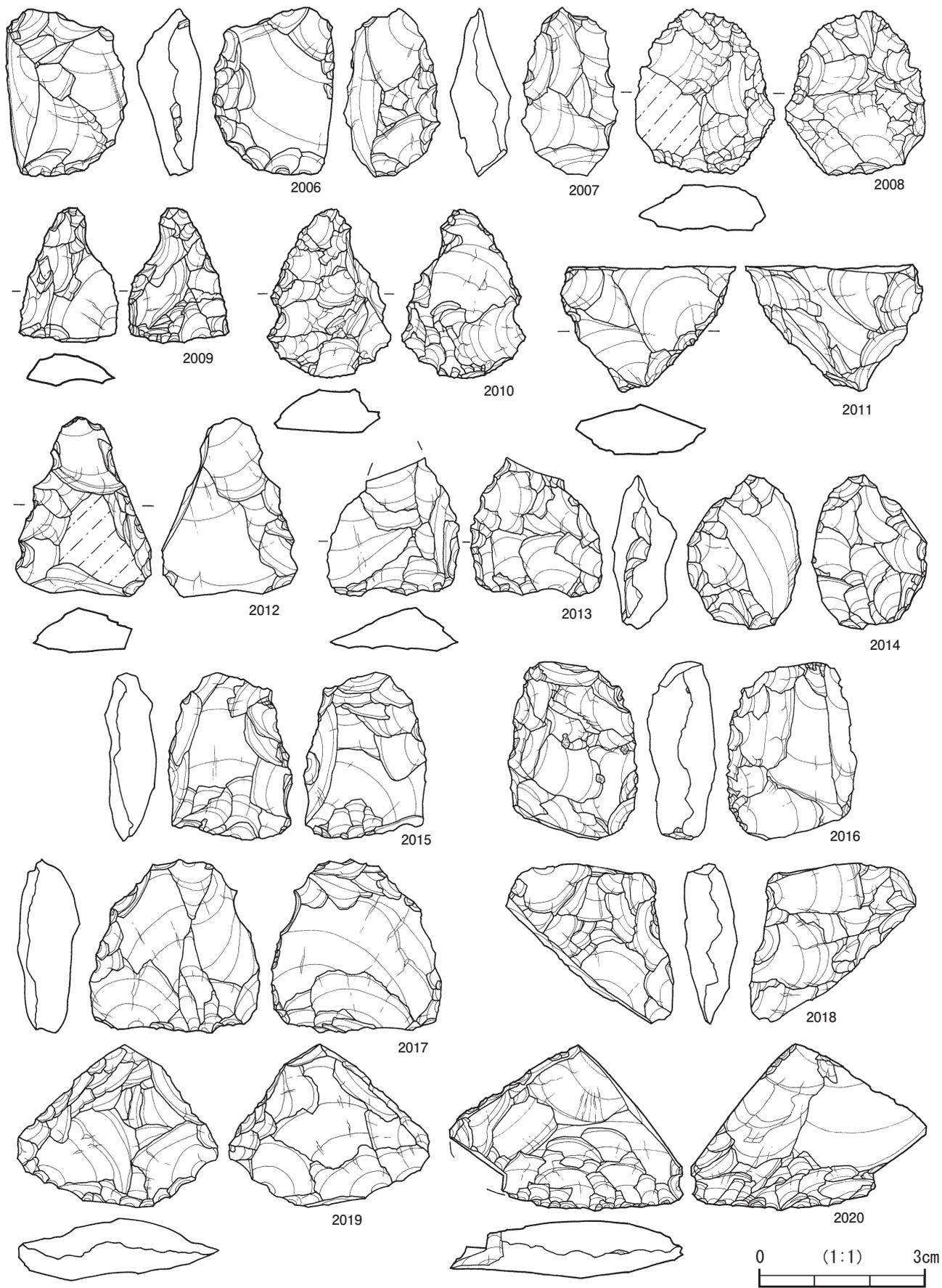
(9) 楔形石器 (第483図 1973～1983)

表面観は方形で、縦断面観が凸レンズ状を呈するものを楔形石器とし、11点図化した。1973～1983はチャートや安山岩、水晶、日東産黒曜石等を素材とする。1975

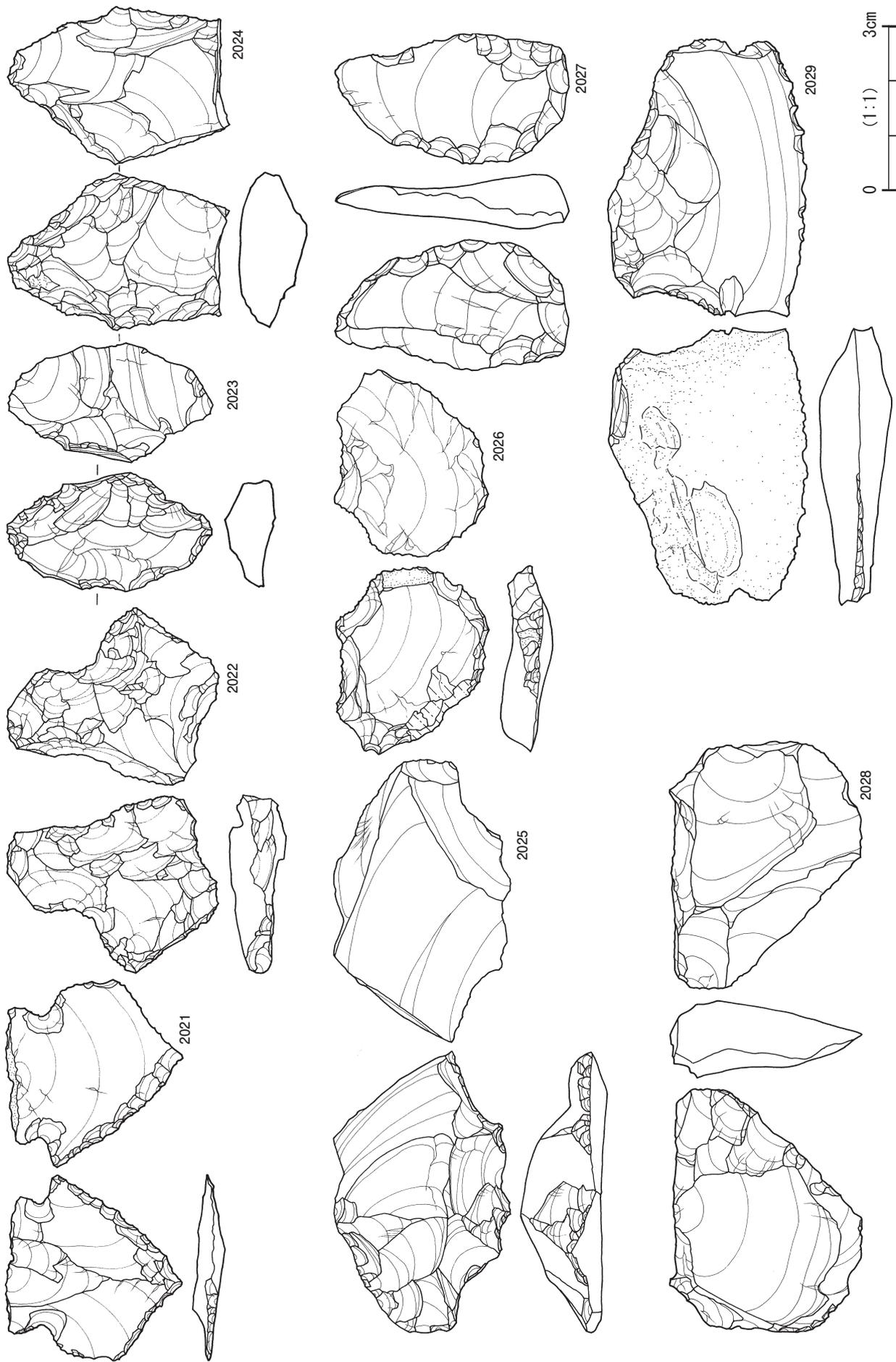


第 484 图 VII 层出土石器 (21)

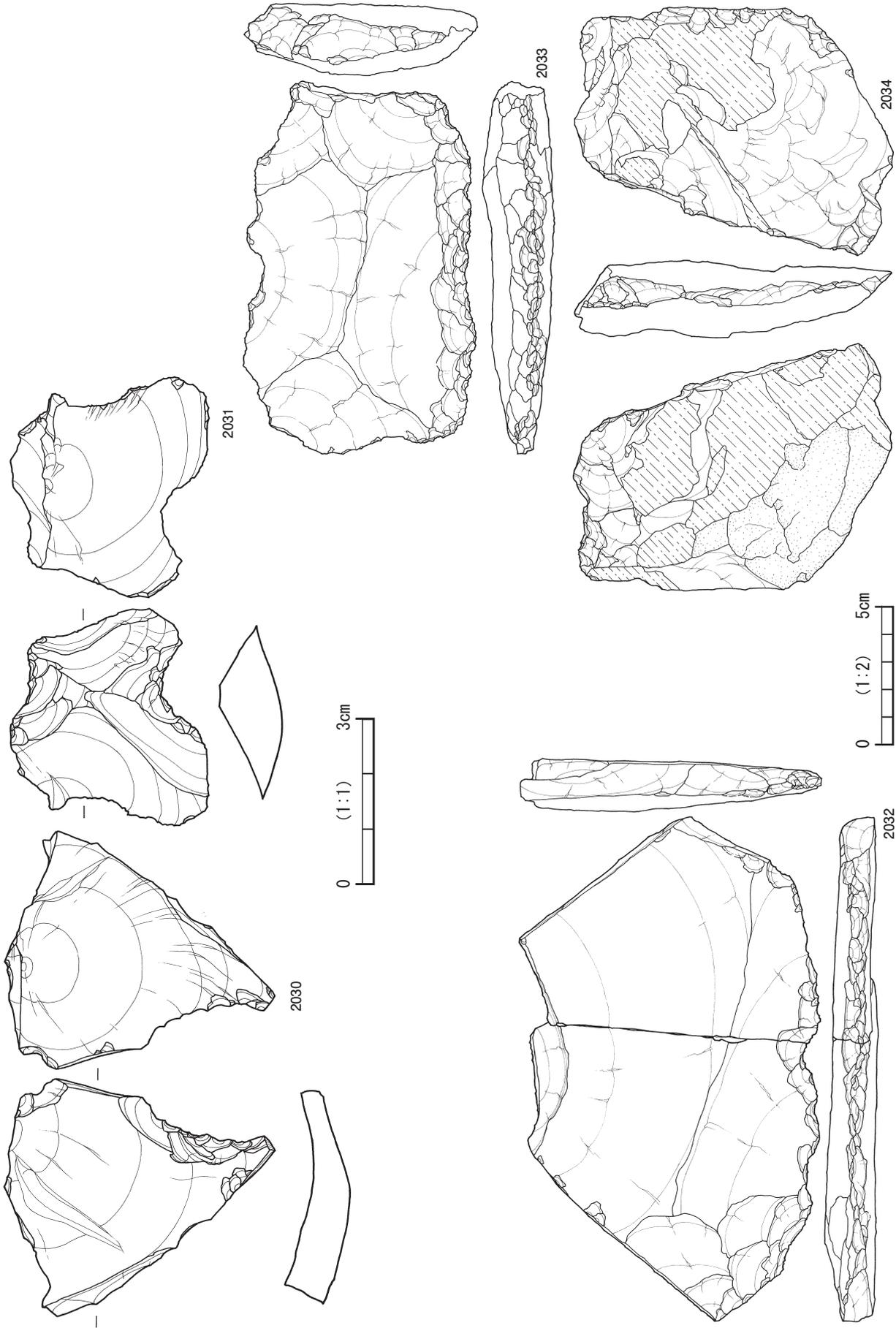




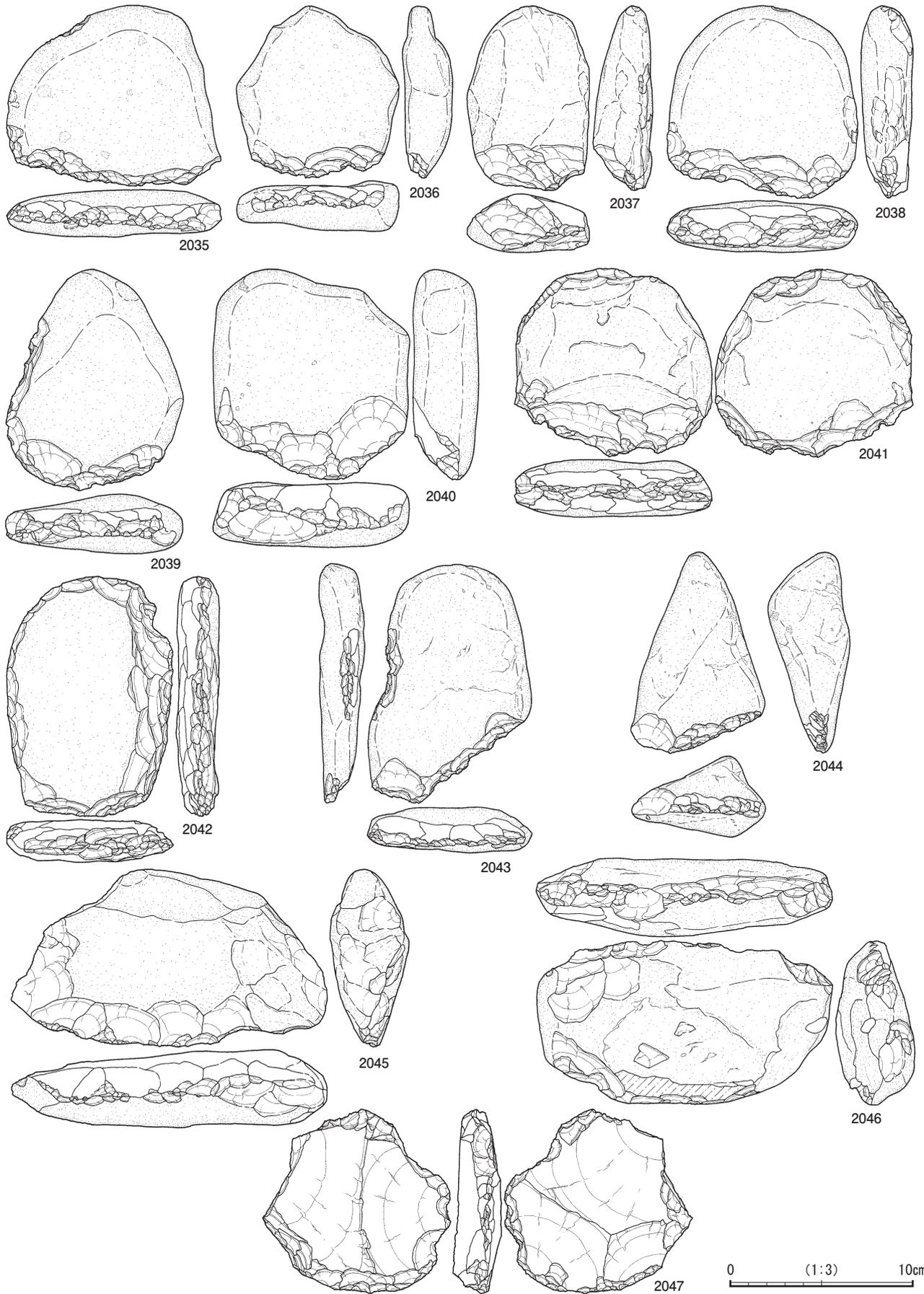
第 485 图 VII 层出土石器 (22)



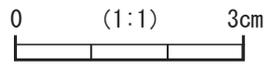
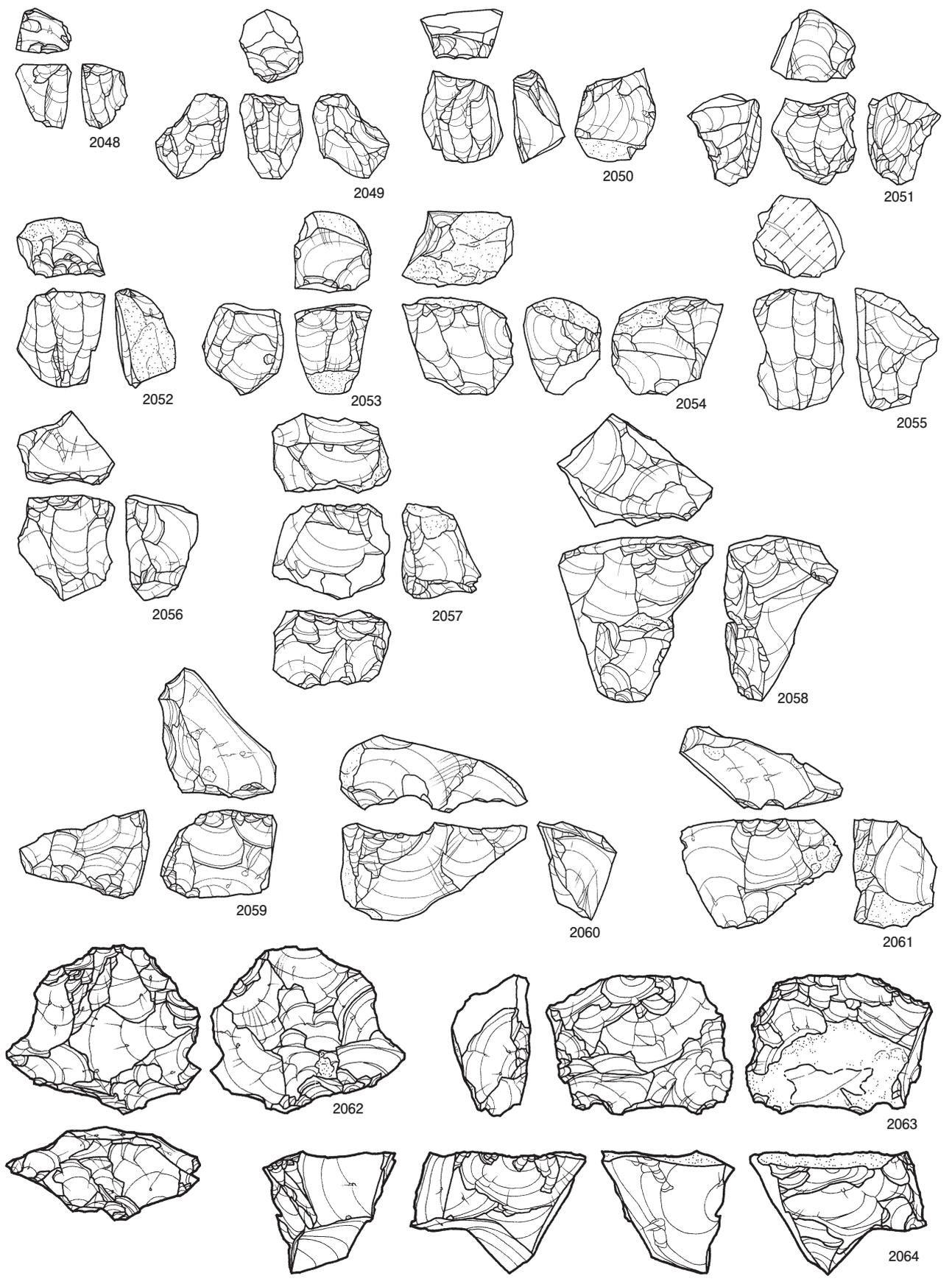
第 486 图 VII 层出土石器 (23)



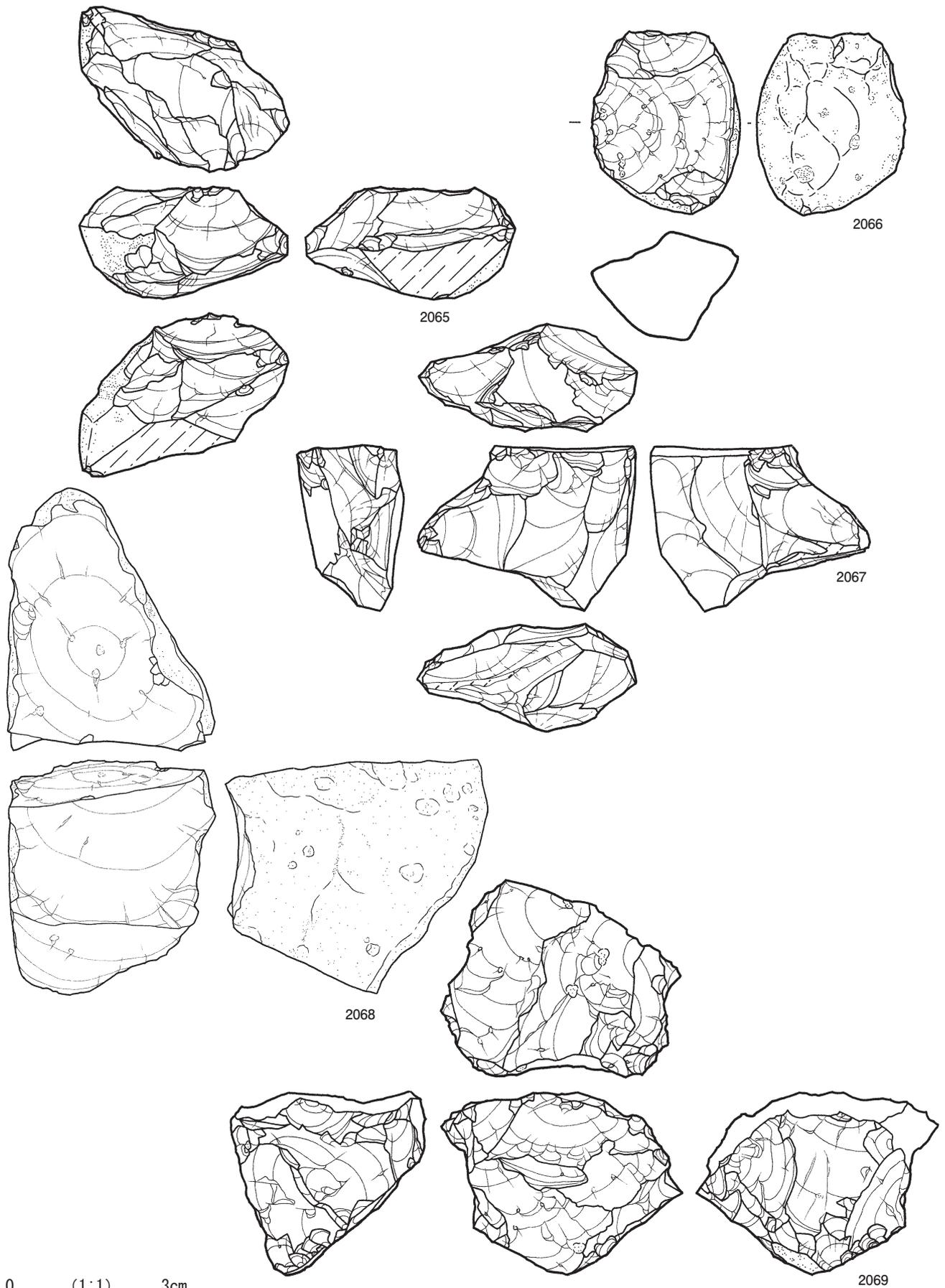
第 487 图 VII 层出土石器 (24)



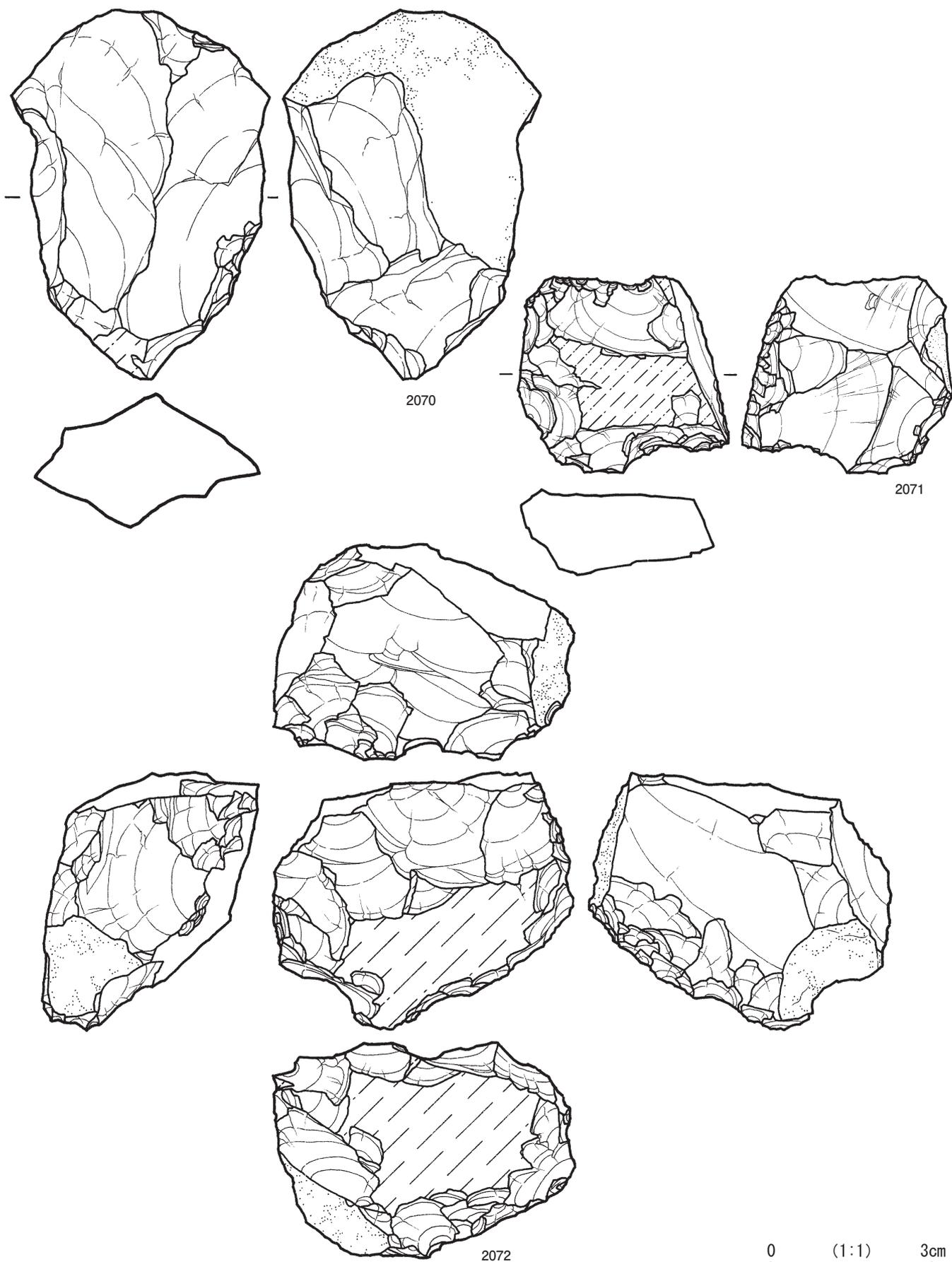
第 488 图 VII 层出土石器 (25)



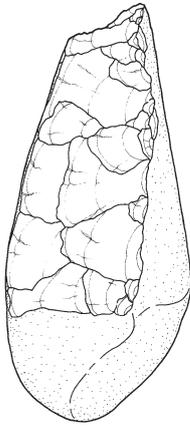
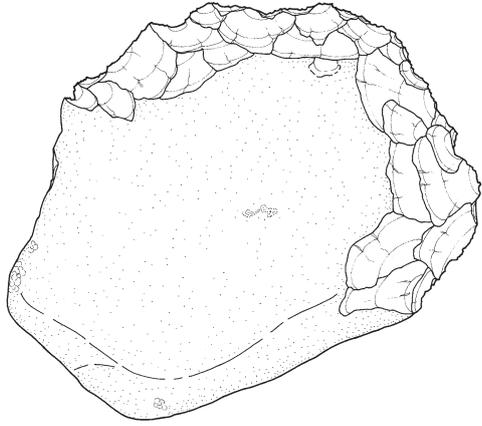
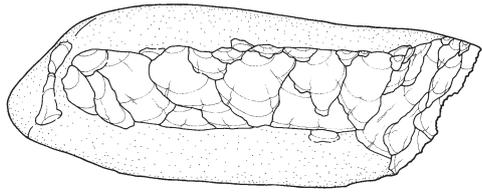
第 489 图 VII 层出土石器 (26)



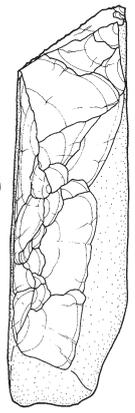
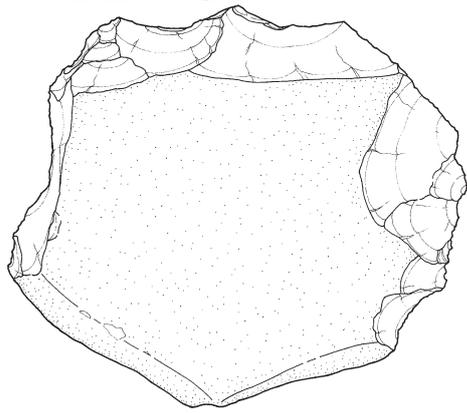
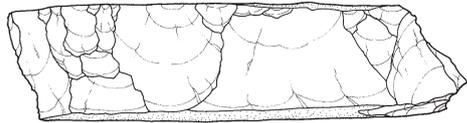
第 490 图 VII 层出土石器 (27)



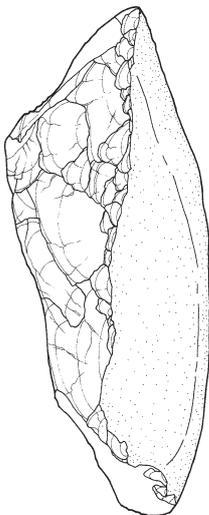
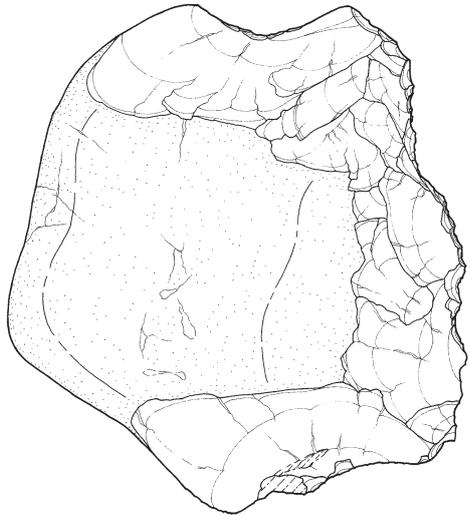
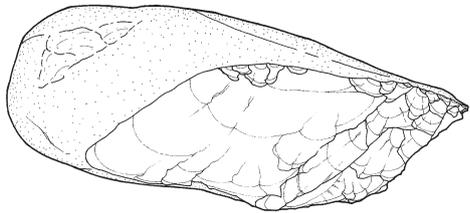
第 491 图 Ⅶ层出土石器 (28)



2073



2074

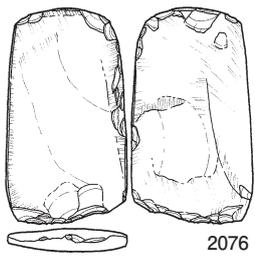


2075

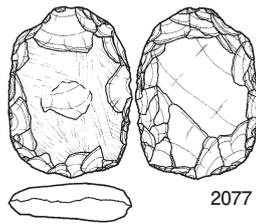
0 (1:2) 5cm

第 492 图 VII 层出土石器 (29)

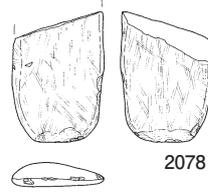




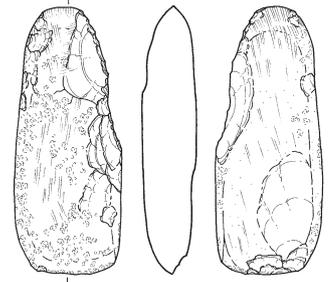
2076



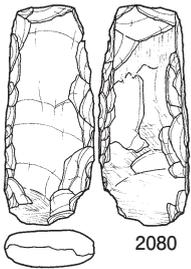
2077



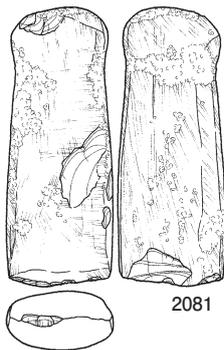
2078



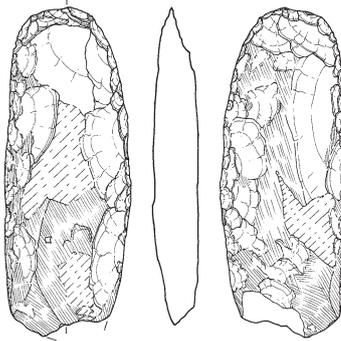
2079



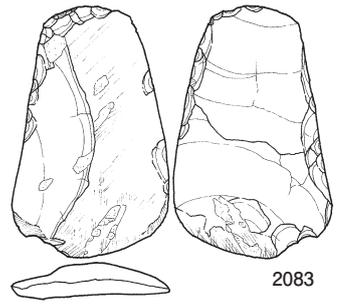
2080



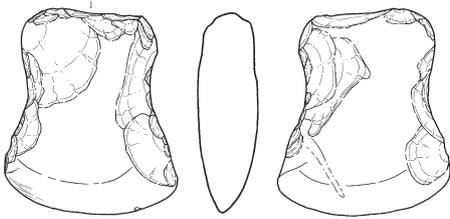
2081



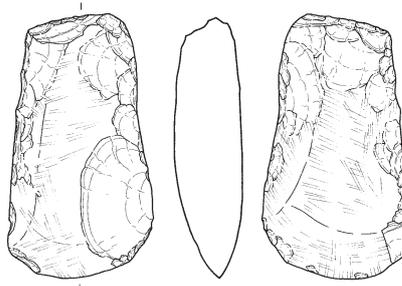
2082



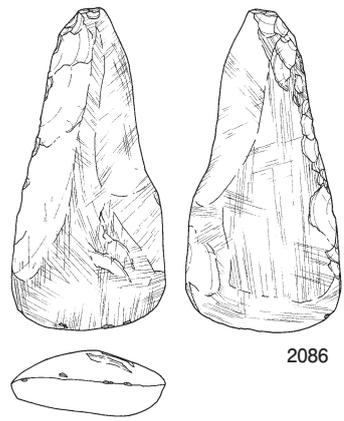
2083



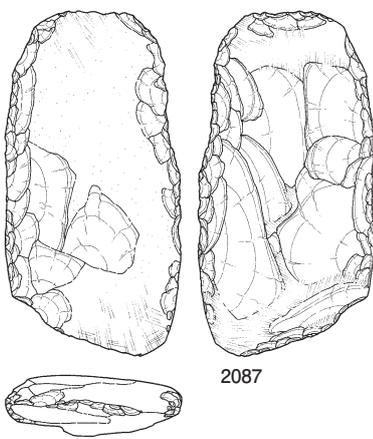
2084



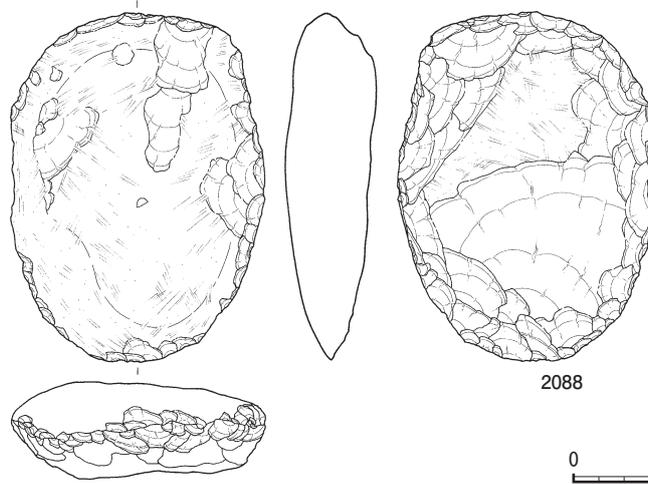
2085



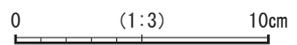
2086



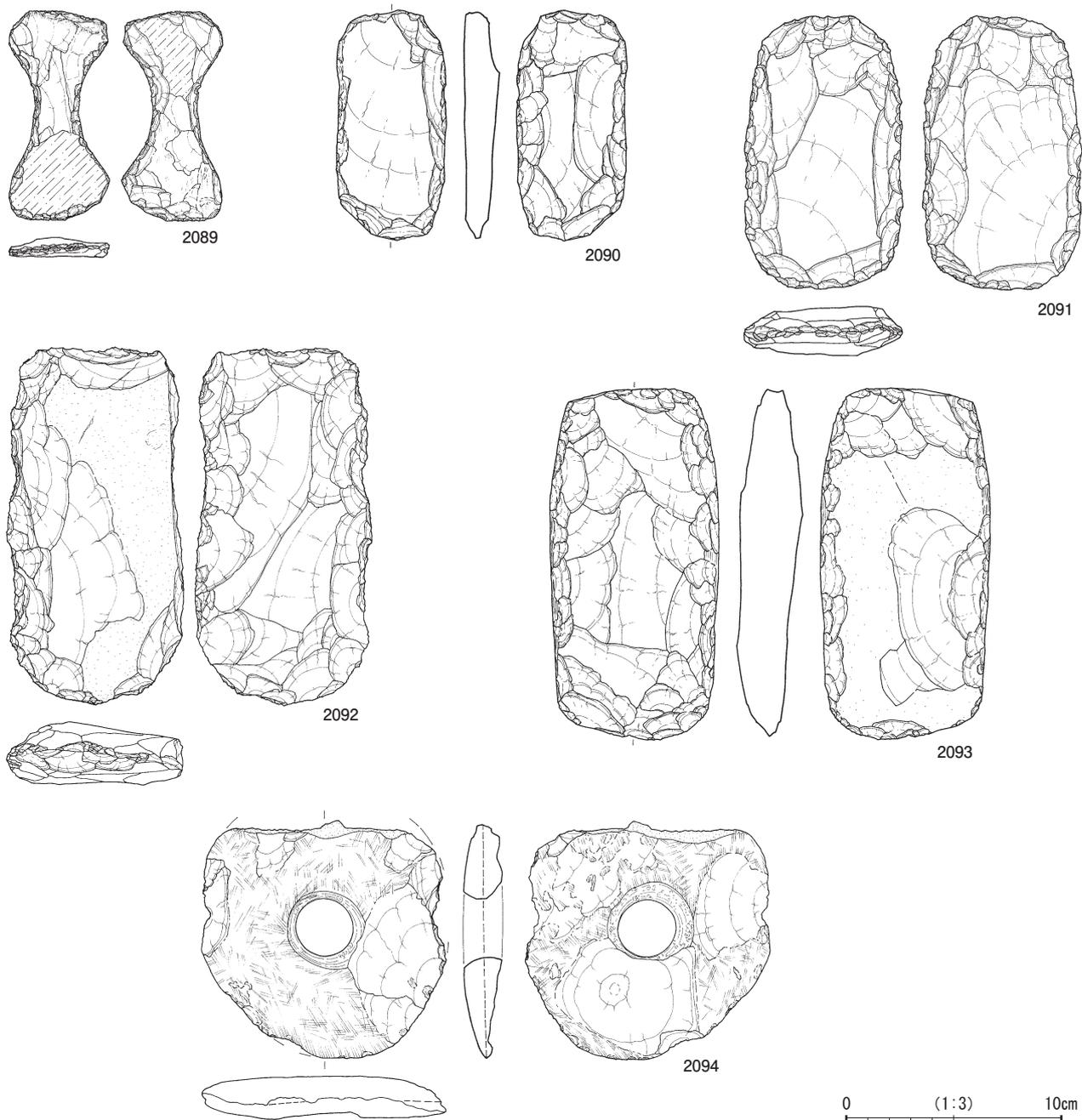
2087



2088



第 493 图 VII 层出土石器 (30)



第494図 VII層出土石器(31)

は右側縁部, 1980 は左側縁部が欠損し, 1979 は上端部及び下端部に潰れが認められる。1983 はホルンフェルス素材とし, 表面は自然面を残し, 長さ8.0cmを測る。上下両端に剥離痕がみられる点から楔形石器に含めたが, 他の資料とは一線を画する。

(10) 二次加工剥片(第484～487図1984～2034)

剥片の縁辺部などに二次加工を行い, 刃部整形が認められないものを二次加工剥片とし, 1984～2034の51点を図化した。一部は削器や搔器などに含まれるものもある。1988は薄い剥片の周縁に微細な剥離痕がみられる。

1992は石匙, 1994は打製石鏃の欠損品の可能性がある。1995は下端部に刃部加工がみられる。2008はほぼ全周を加工し, 2010・2012は打製石鏃の未製品の可能性がある。2019・2020は下端部に刃部加工がみられる。2021・2022・2031は抉りをもち, 2025・2026は搔器の可能性がある。2030は先端部に摩耗痕が残り, 2032・2033は下端部に刃部加工がみられる。

(11) 礫器(第488図2035～2047)

礫もしくは厚みのある剥片の片面もしくは両面に剥離を加え刃部とするものを礫器とし, 2035～2047の13点

図化した。石材はホルンフェルスが半数を占め、残りは安山岩と砂岩である。2041・2042は周縁部に剥離を加え、2047は安山岩の素材剥片を使用する。

#### (12) 石核類 (第 489 ~ 492 図 2048 ~ 2075)

剥片石器素材の剥片を採取した残存石材を石核とし、28点図化した。そのうち2048~2055の8点は細石核の可能性が高い。2048~2053は腰岳や上牛鼻・桑ノ木津留産黒曜石、2054は安山岩、2055は玉髓を使用する。2056~2075は石核である。2063の裏面は自然面、2064は自然面を打面とする。2065は水晶、2066は三船産黒曜石の円礫を使用し、2068は安山岩の扁平な垂円礫の残核と考えられる。2069は三船産黒曜石、2070は白色の玉髓、2071は赤褐色の玉髓、2072は頁岩の角礫の分割礫である。2073~2075は安山岩及びホルンフェルスの扁平な垂円礫を使用し、自然面を打面とする。

#### (13) 磨製石斧 (第 493 図 2076 ~ 2088)

礫もしくは厚みのある剥片に剥離調整や敲打調整を加えて形を整え、砥石で磨いた斧状の石器を磨製石斧とし、13点図化した。2076~2088はホルンフェルスが半数を占め、次いで頁岩や安山岩を使用する。短冊形が多いが、2083~2086は撥形もしくは分銅形であり、2088は楕円形を呈する。2076・2078・2083は扁平な剥片に研磨加工を施す。2079は上下逆であり、研磨は刃部を中心に行われる。2081は両面とも丁寧に研磨されるが、両側縁部の上部に敲きによる若干の抉りがみられ、刃部は潰れ欠損している。2087は刃部が斜刃になり、2088は周縁部や裏面に剥離による再加工を行っており、642gと重い。

#### (14) 打製石斧 (第 494 図 2089 ~ 2093)

剥片や扁平な礫の周縁から剥離調整で加工された斧状の石器を打製石斧とし、5点図化した。これらは磨製石斧の素材の可能性もある。2089~2093はホルンフェルスもしくは頁岩を素材とし、短冊形を呈する。2089は厚さ0.9cmの剥片を使用し、両側縁部を大きく抉る。

#### (15) 環状石斧 (第 494 図 2094)

円盤状を呈し、中央に円孔を穿ち、周縁に刃部が形成されるものを環状石斧とした。本遺跡からは1点出土した。2094は頁岩を使用した環状石斧であり、上部は欠損している。表裏面とも剥離痕が見られ、裏面の左上の剥離痕には研ぎ直しの形跡が見られる。中央部の穿孔は両側から回転して行われ、外孔径は表面が3.5~3.9cm、裏面が3.8~4.0cm、内孔径が2.7cmを測る。器幅は5.15cmで、穿孔を中心にする、環状石斧の外径は約13cmと推定され、残存する周縁から平面形を想定すると、やや楕円形となる。

#### (16) 石皿 (第 495 ~ 497 図 2095 ~ 2105)

礫を利用し、磨面や凹面などの使用面を有するものを石皿とし、2095~2105の11点図化した。石材は凝灰岩が多く、次いで安山岩・花崗岩・砂岩がある。2095はⅦ・

Ⅵ層出土の石皿の中で最重量である。凝灰岩を素材とし、中央部が大きく凹む。2096・2104は厚みが10cmを超える。2098・2100は安山岩の扁平な素材を使用する。2099は砂岩を素材とし、およそ半分を欠損するが、両面に使用面が見られる。2103・2105は花崗岩を素材とし、2105は平面形が方形を呈する。

#### (17) 石錘 (第 497 図 2106)

左右一対の抉り部を有するものを石錘とした。2106は頁岩製の石錘で、扁平な小判形を呈し、相対する側縁を剥離して抉りを形成している。

#### (18) 敲石 (第 498 ~ 500 図 2107 ~ 2152)

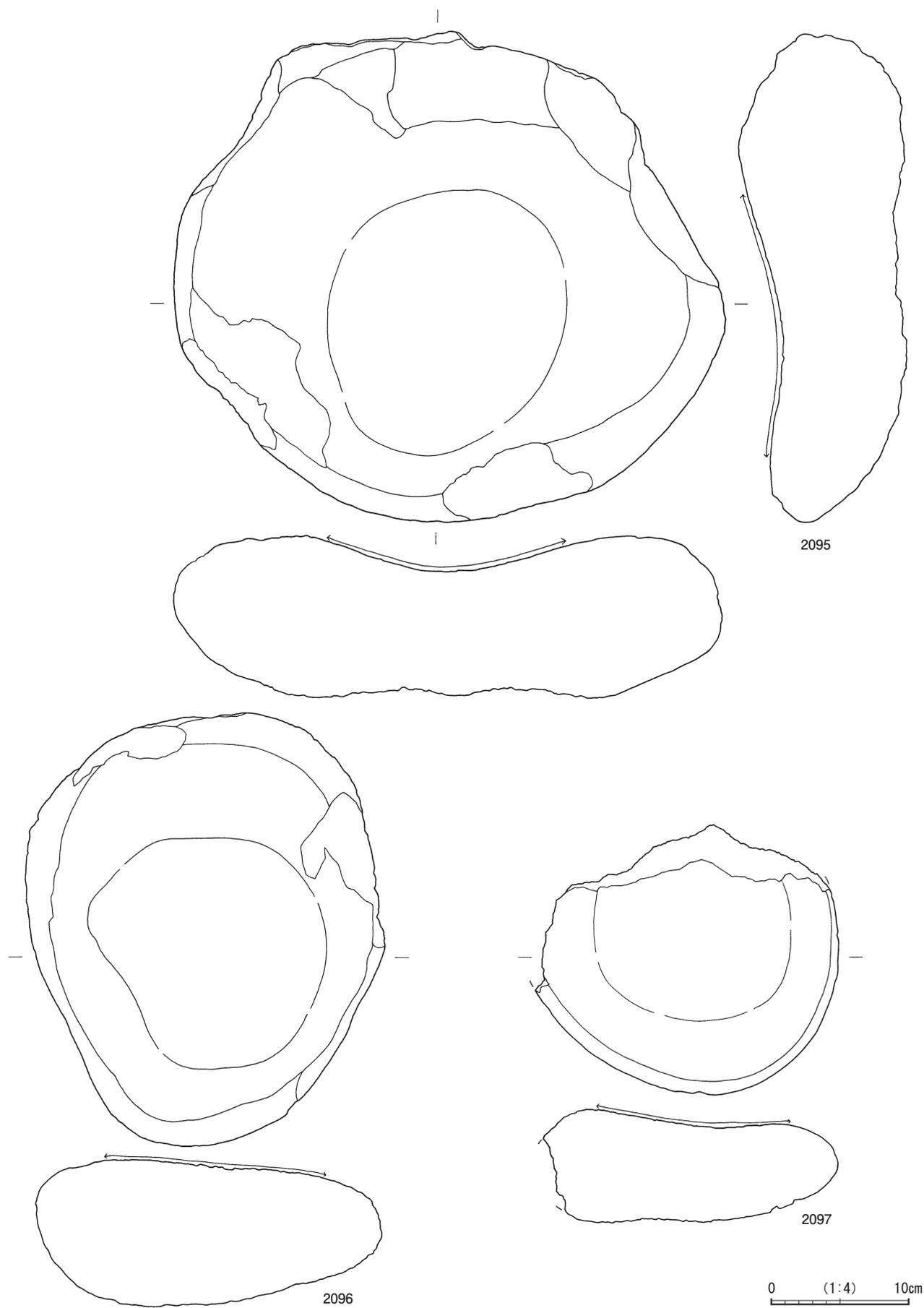
礫を素材とし、全面的もしくは部分的に敲打痕が見られるものを敲石とし、2107~2152の46点図化した。2151・2152のみ棒状敲石である。石材は多孔質な安山岩が多く、砂岩や花崗岩も使用する。2107・2108は2cm大の円礫であり、2108は重さが13.6gとⅦ層出土の敲石、磨・敲石、磨石の中で最軽量である。2109~2131は長さが3~7cm大の扁平な円形や卵形を呈する。2117・2119・2121~2123・2125は側面のほぼ全周に、2118・2126・2128は両端に使用痕が残される。2127は白色で結晶構造が明瞭な水晶を使用し、側面の一部に使用痕が残る。2132~2147は長さが7~10cm大である。2134は多孔質な安山岩を使用し、被熱により赤化している。2136は隅丸方形を呈し、表裏面の中央が敲打により凹む。2148は頁岩、2149は安山岩と石材は異なるが、大きさ等が類似する。2150は表面は自然面、裏面は節理面を使用し、下端部に剥離痕が残る。2151はホルンフェルス製、2152は頁岩製の棒状敲石であり、2152は両端に使用痕が残される。

#### (19) 磨・敲石 (第 501 ~ 505 図 2153 ~ 2194)

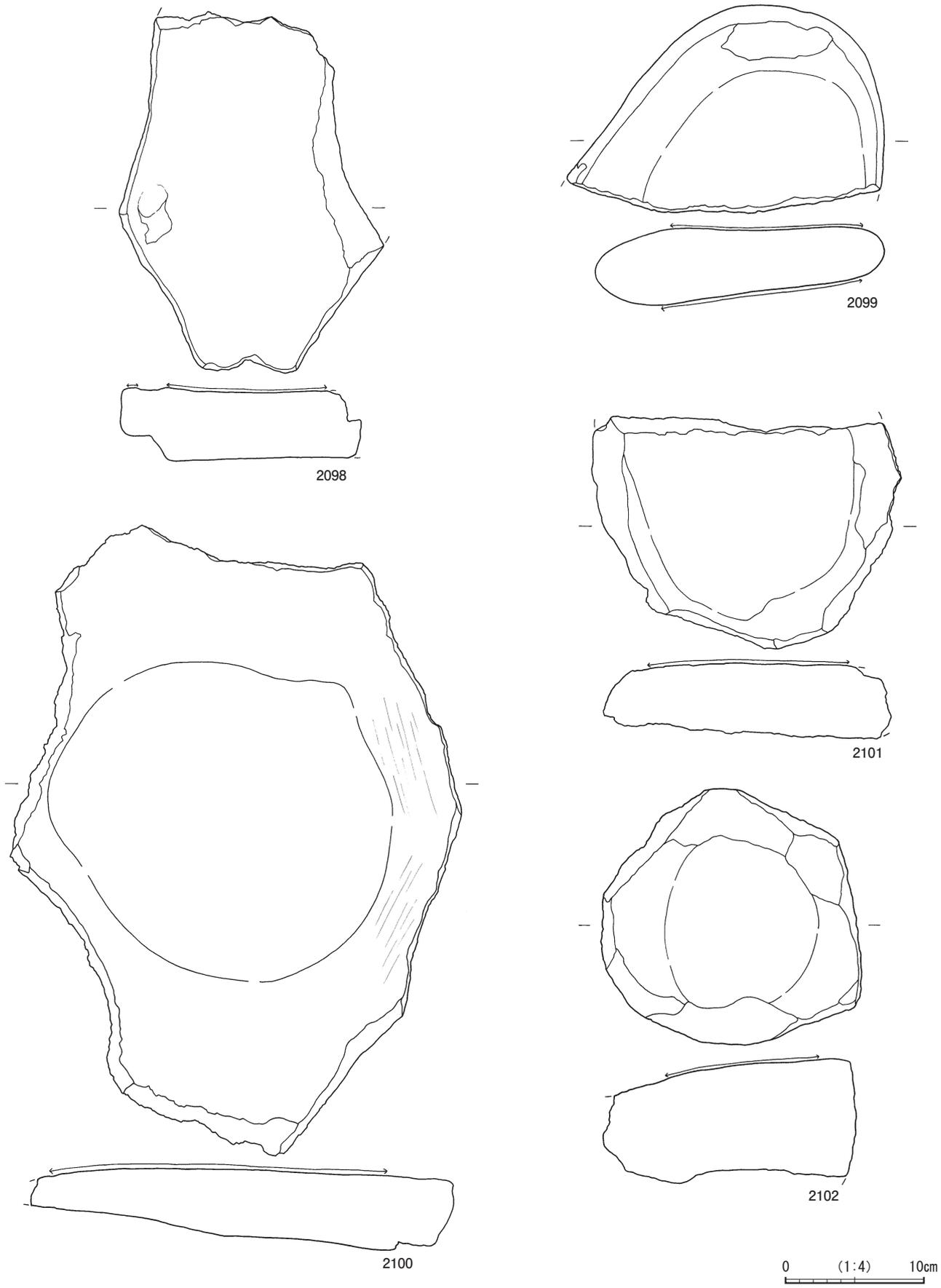
礫を素材とし、全面的もしくは部分的に磨面を有し、平坦面や側縁に敲打痕が見られるものを磨・敲石とし、2153~2194の42点図化した。石材は多孔質な安山岩が多く、砂岩や花崗岩も使用する。長さが7~10cm大のものが多く、肉厚な楕円形を呈する。2154~2156・2158~2162・2164・2167~2169・2171・2174・2176・2178~2182・2187は側面の全域に敲打痕を残し、表裏面は磨面となり平滑である。2160・2166は下半部、2172・2175は上半部が欠損し、2178・2181は被熱により赤化している。2186は蒲鉾状を呈する。

#### (20) 磨石 (第 506 ~ 510 図 2195 ~ 2259)

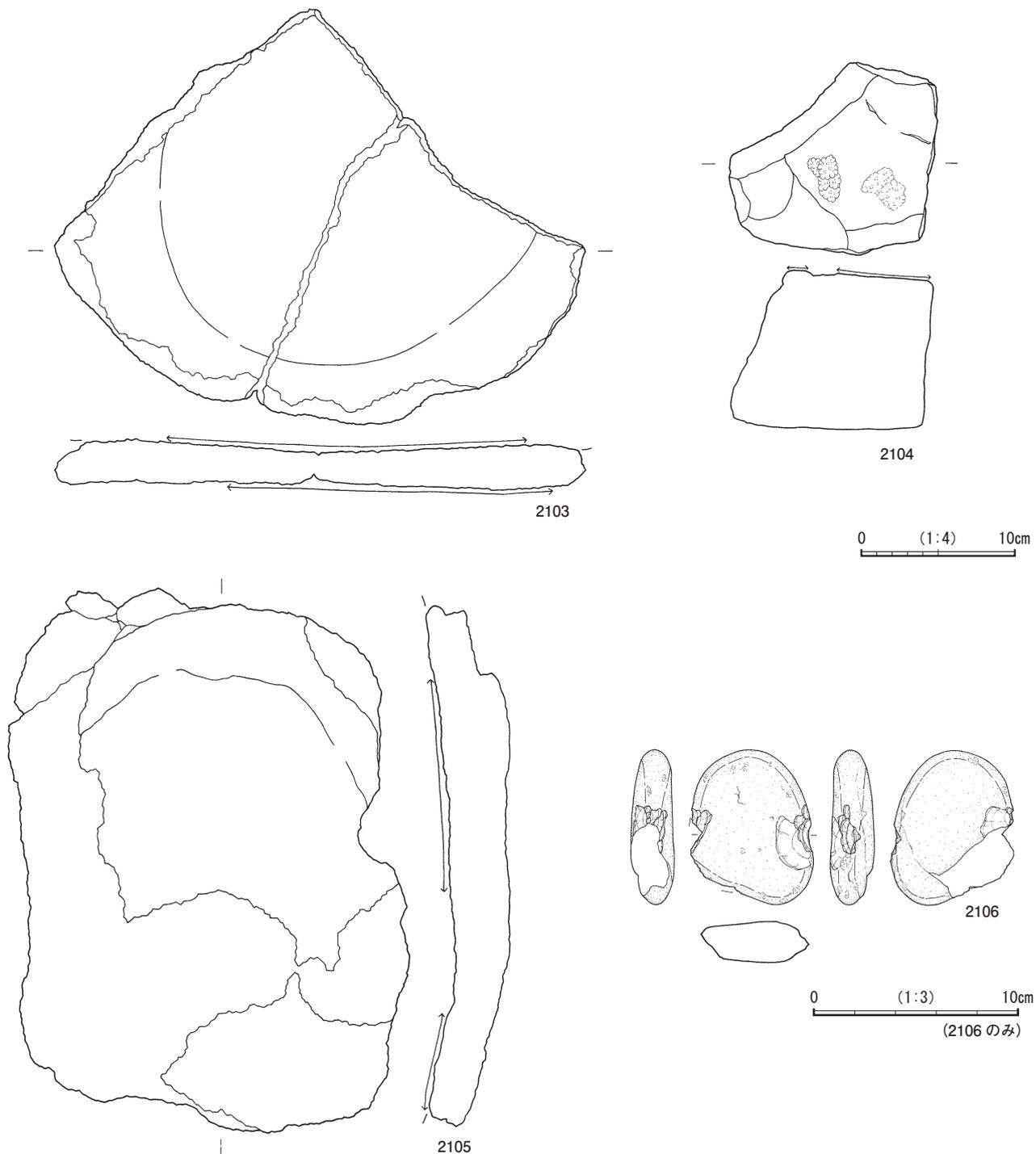
礫を素材とし、全体的もしくは部分的に磨面のみを有し、敲打痕は不明瞭なものを磨石とし、2195~2259の65点図化した。石材は多孔質な安山岩が多く、砂岩や花崗岩も使用する。長さが7~10cm大のものが多く、扁平な円形や肉厚な卵形を呈する。2195は3cm大、2196は4cm大、2215は7cm大の円礫の全面に磨面がみられる。ほとんどのものは表裏面を磨面とするが、2203・2207・2226・2233・2240は裏面のみである。2213・2219は蒲



第 495 图 VII 层出土石器 (32)



第 496 图 VII 层出土石器 (33)



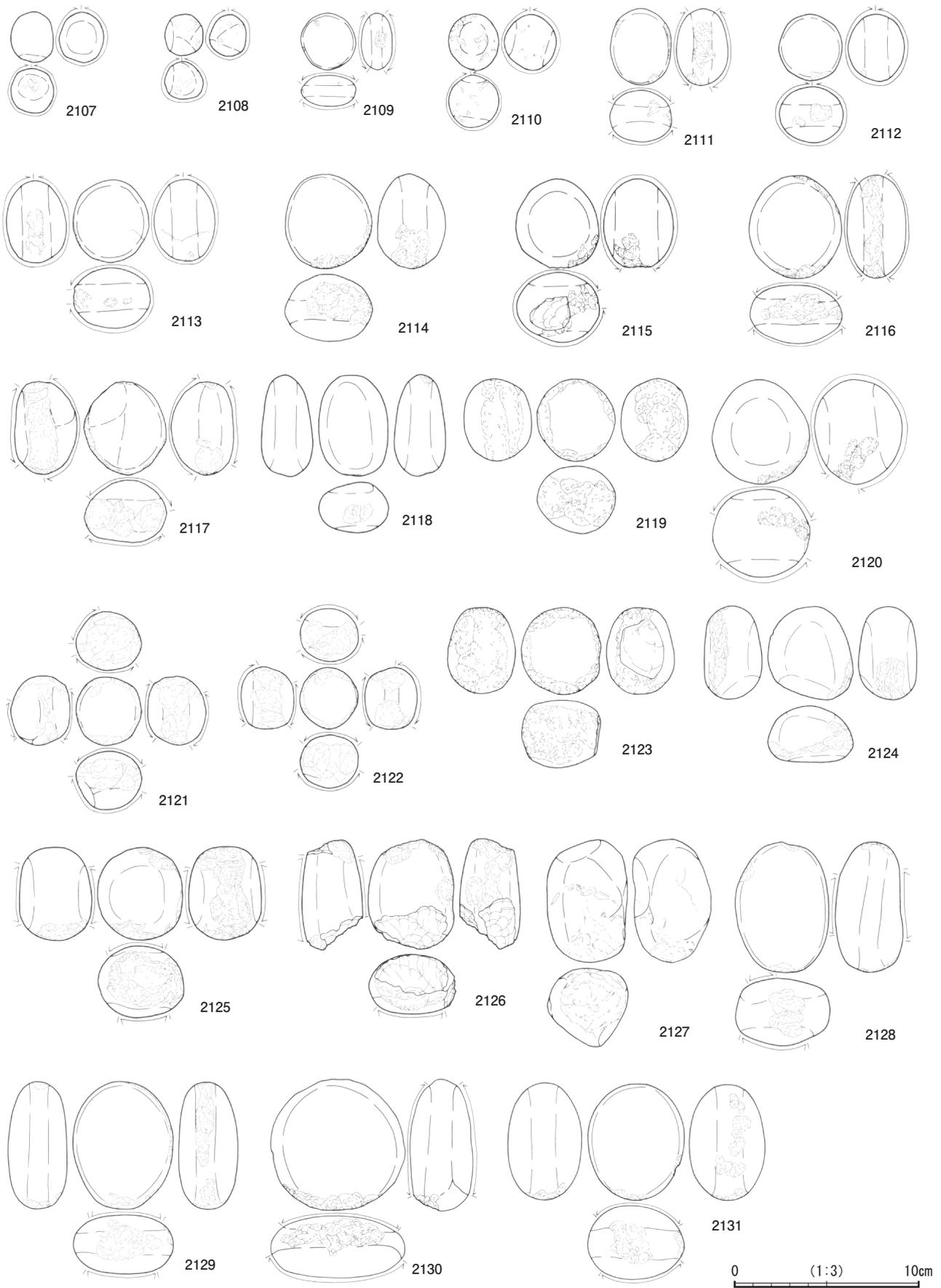
第 497 図 VII層出土石器 (34)

鈍状を呈し、2248 は被熱により赤化している。2254 は表面が凹面となり、断面形が逆三角形状である。2250 ～ 2253・2255・2257 ～ 2259 は長さが 11cm 超を測り、2256・2257 は重さが 1,000g を超える。

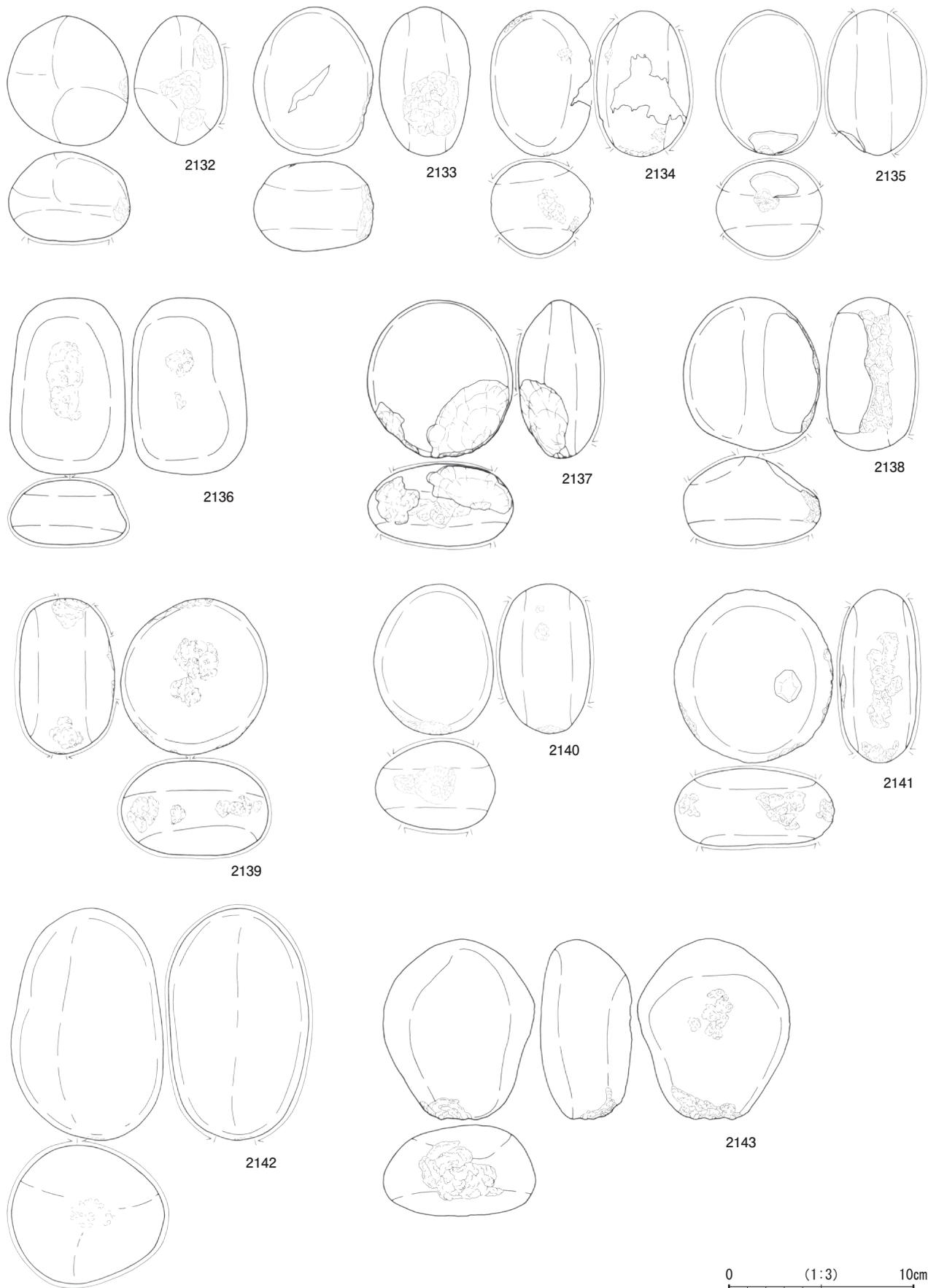
(21) 異形石器 (第 511 図 2260 ～ 2263)

二次加工により整形された石器でありながら、その機

能・用途が不明なものを異形石器とし、4 点図化した。2260 は腰岳産黒曜石を素材とし、両側縁部及び下端部に抉りをもつ。2261 ～ 2263 は安山岩を素材とし、表裏面とも主要剥離面を残す。2261 は両側縁部及び上下端部に抉りを施すことで、「X」字状を呈する。2262 は下部が欠損しているため形状は不明だが、抉りの位置などが



第 498 图 VII 层出土石器 (35)



第 499 图 VII 层出土石器 (36)





第 500 図 VII層出土石器 (37)

2263 に類似する。2263 は右側縁部が欠損するが、上端部には 1 か所、下端部には 3 か所、両側縁部には左右対称に 3 か所の抉りをもつと考えられる。両側縁部の上部及び下端部中央の抉りは「U」字状に深く施される。

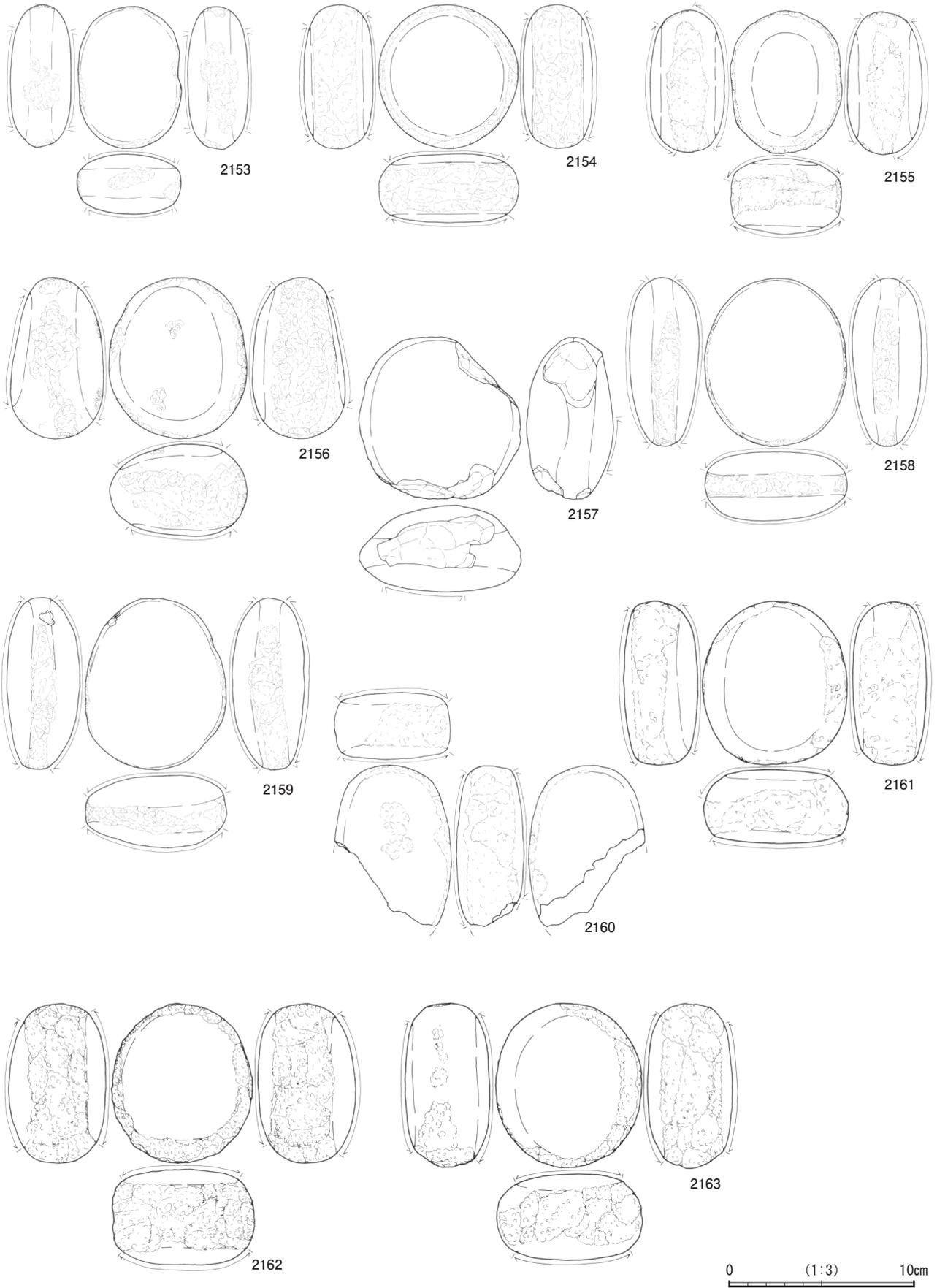
(22) 垂飾品 (第 511 図 2264 ~ 2266)

垂飾品は 3 点図化した。2264 ~ 2266 は頁岩の小円礫を素材とし、表裏面から回転穿孔による穿孔を行い、全

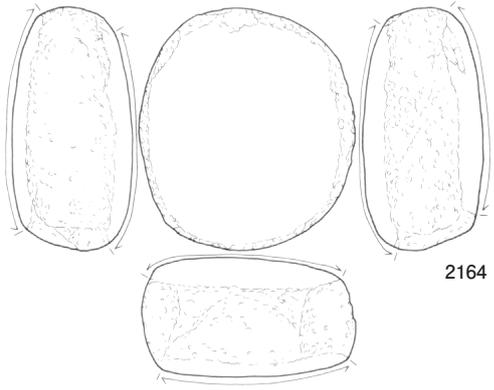
面に研磨を施す。2266 は左側縁部に刻みがみられる。

(23) 軽石製品 (第 511 図 2267)

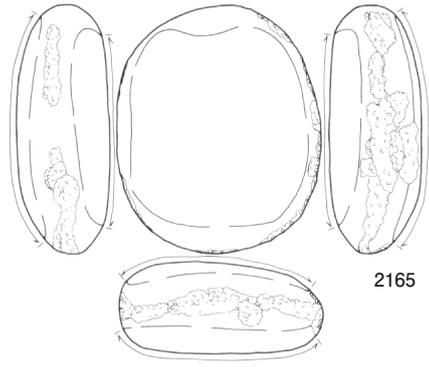
軽石を素材とし、穿孔や凹み、研磨などの加工痕が残るものを軽石製品とした。2267 は楕円形状を呈し、左側面はやや尖る。表裏面に凹みを有するが、貫通はしていない。



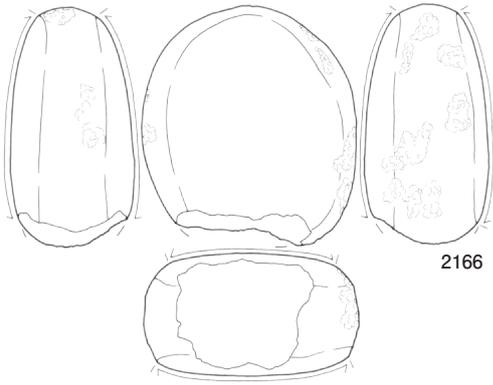
第 501 图 VII 层出土石器 (38)



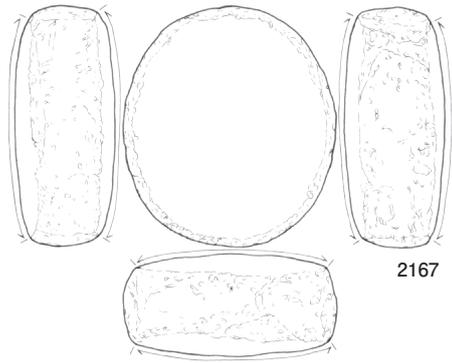
2164



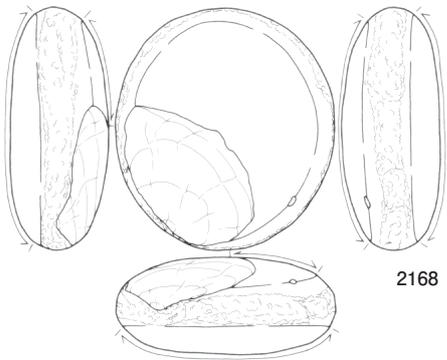
2165



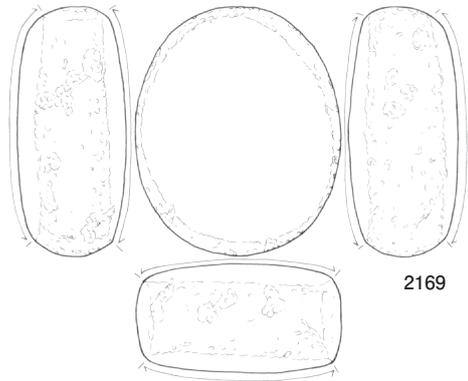
2166



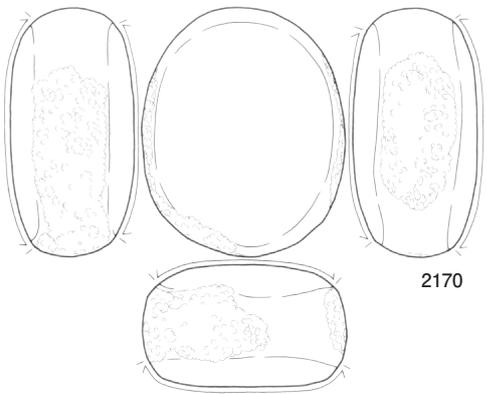
2167



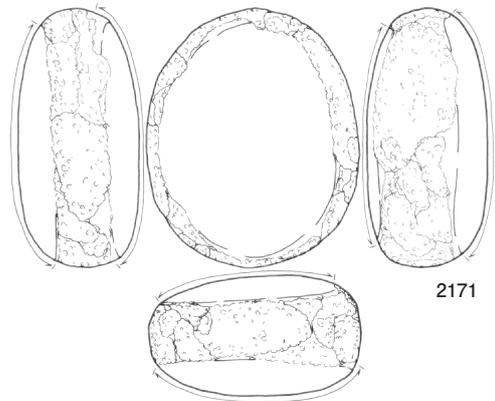
2168



2169



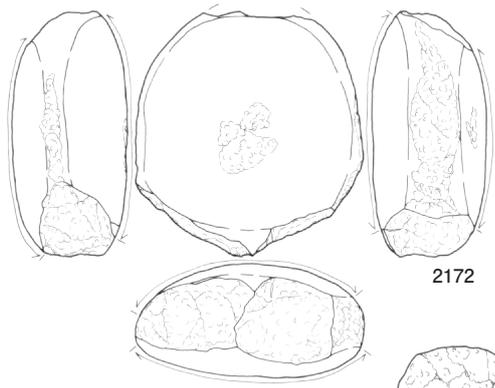
2170



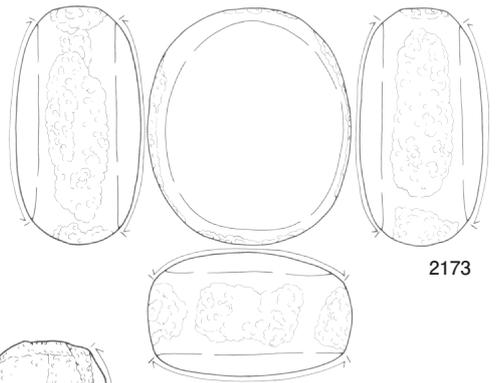
2171

0 (1:3) 10cm

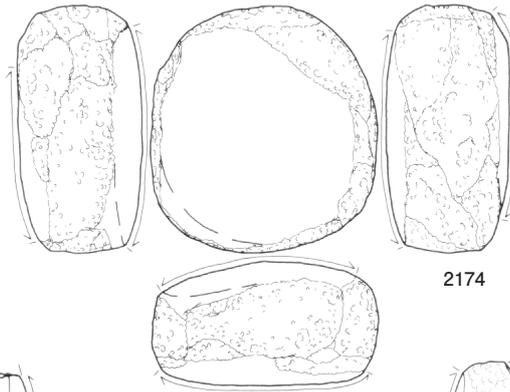
第 502 图 Ⅶ層出土石器 (39)



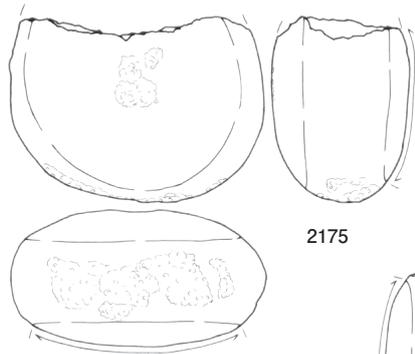
2172



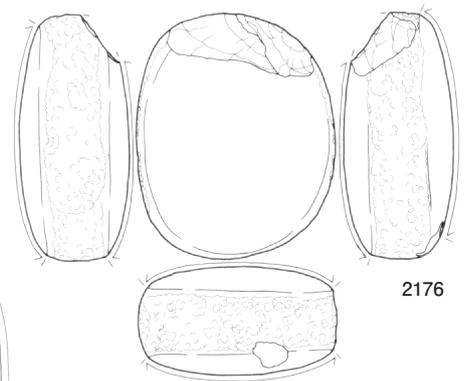
2173



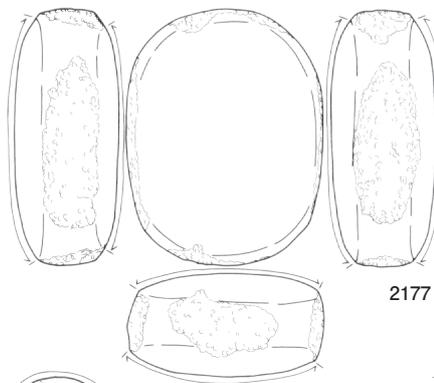
2174



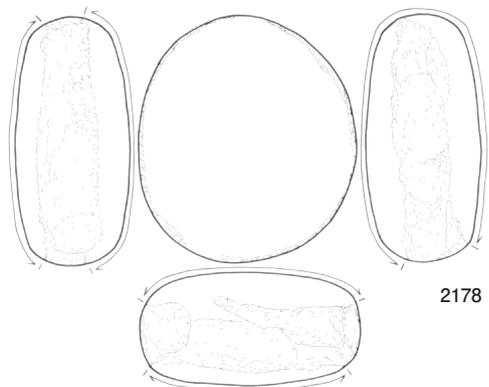
2175



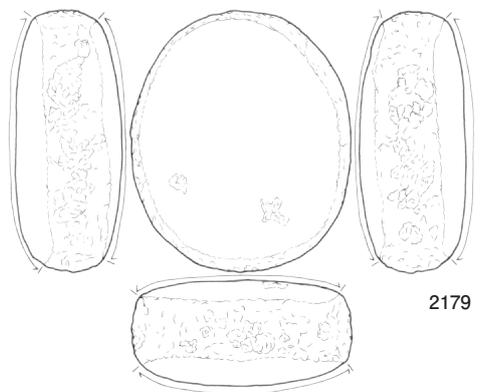
2176



2177



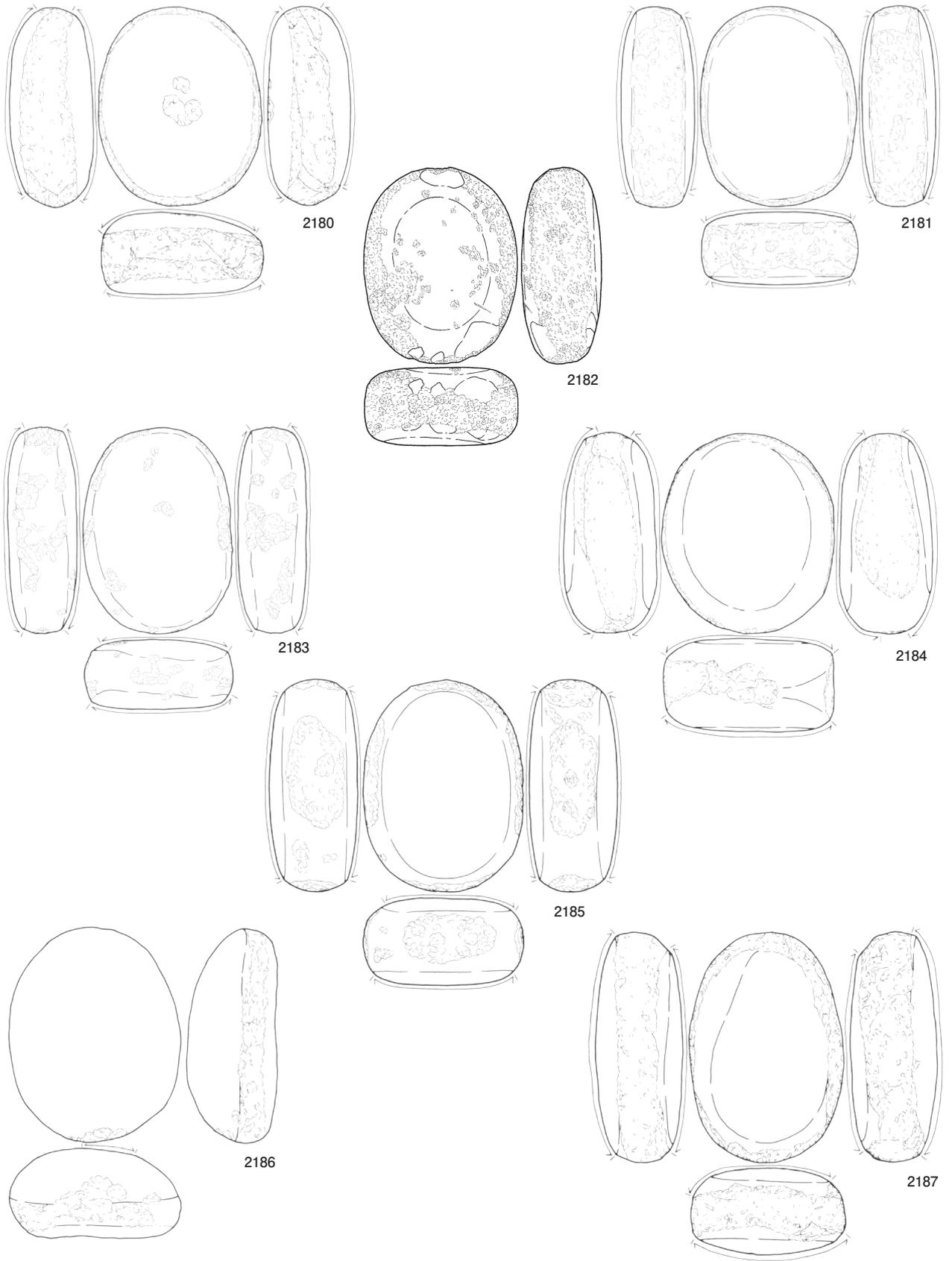
2178



2179

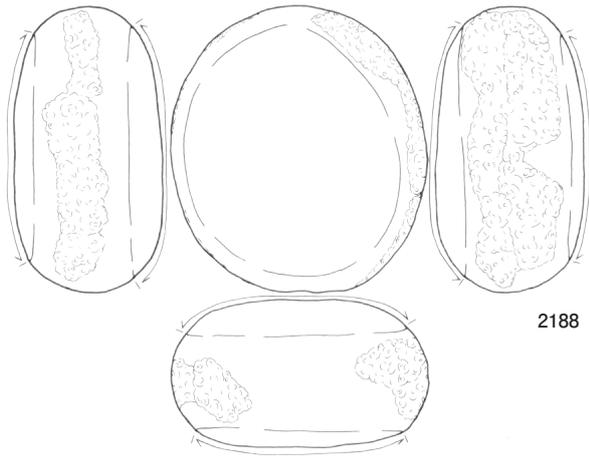


第 503 图 VII 层出土石器 (40)

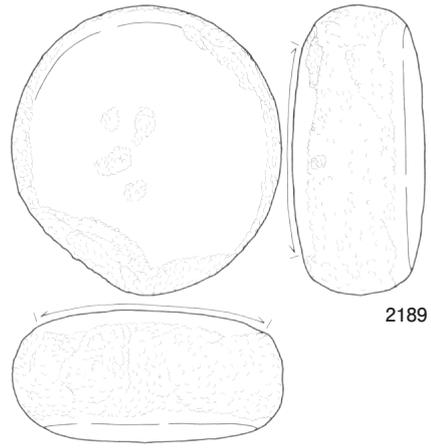


0 (1:3) 10cm

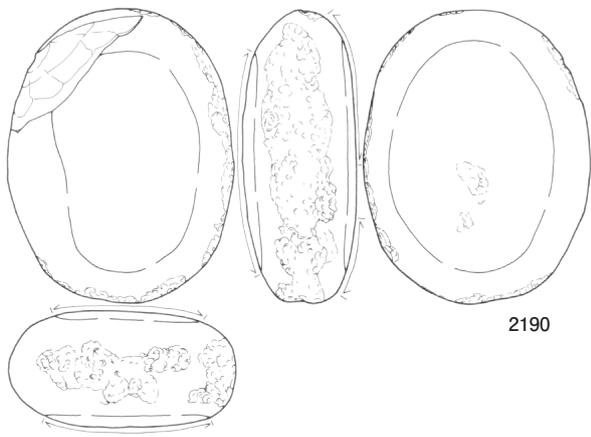
第 504 图 VII 层出土石器 (41)



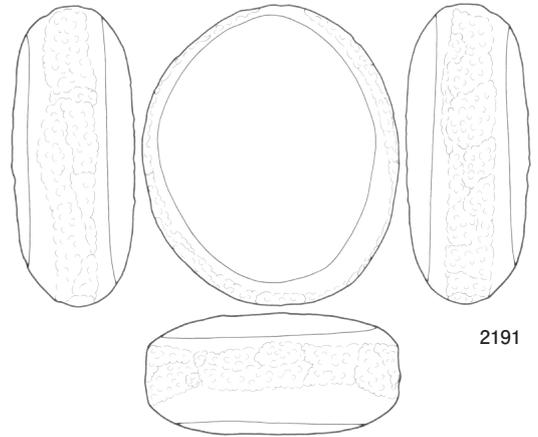
2188



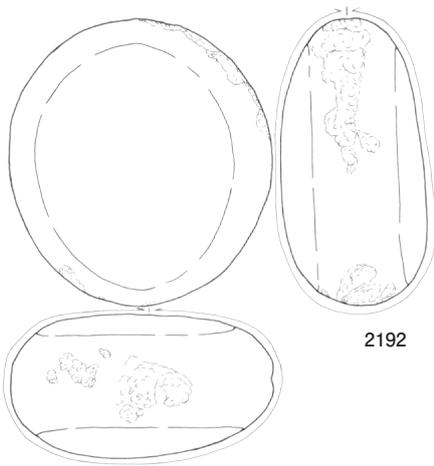
2189



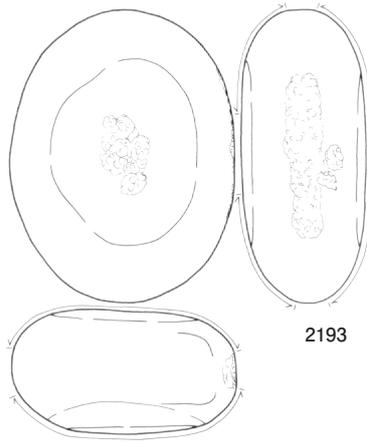
2190



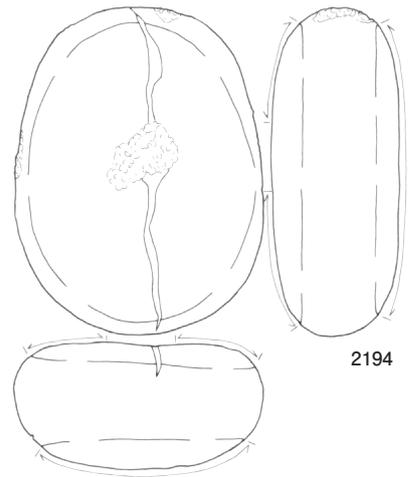
2191



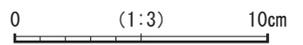
2192



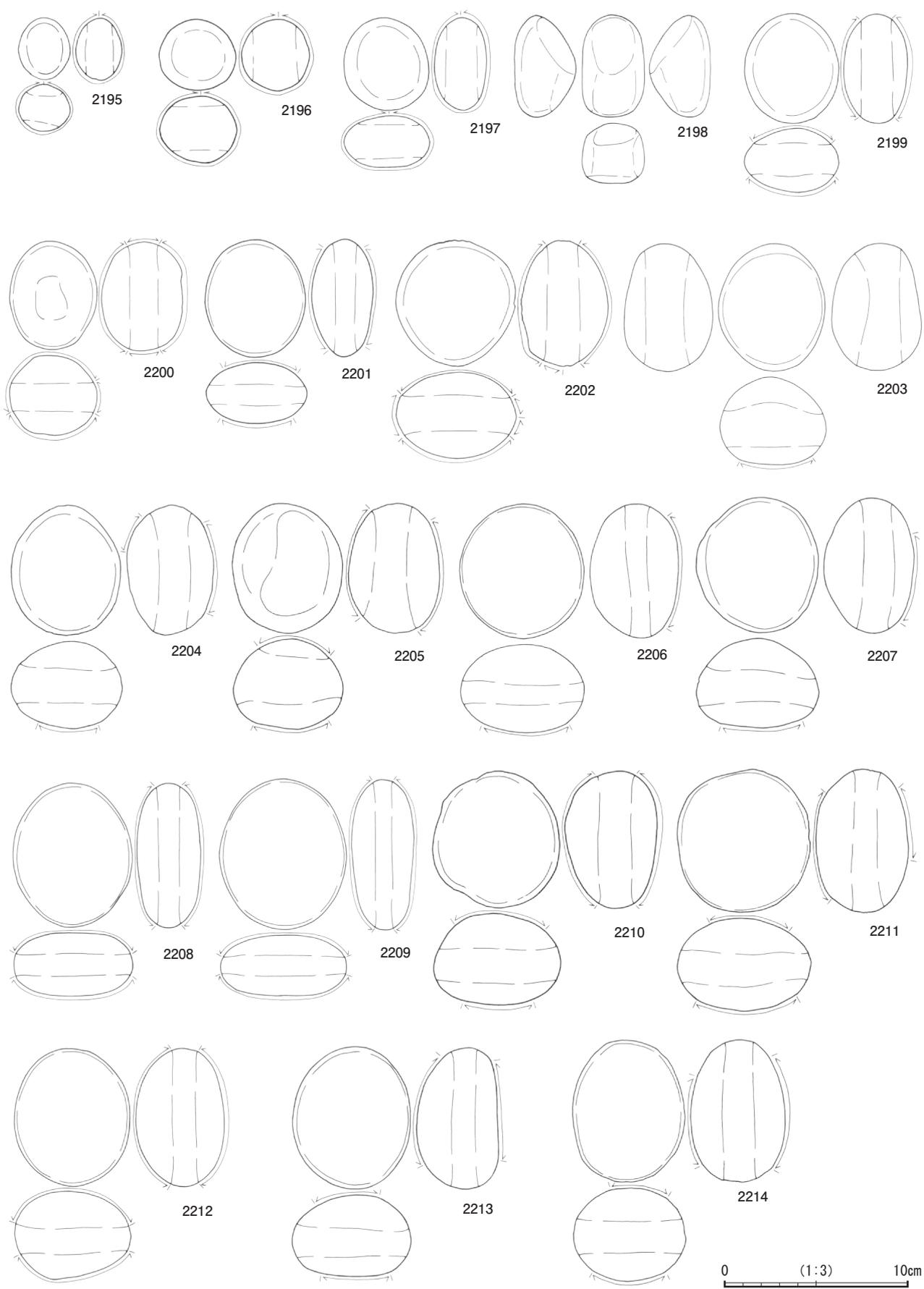
2193



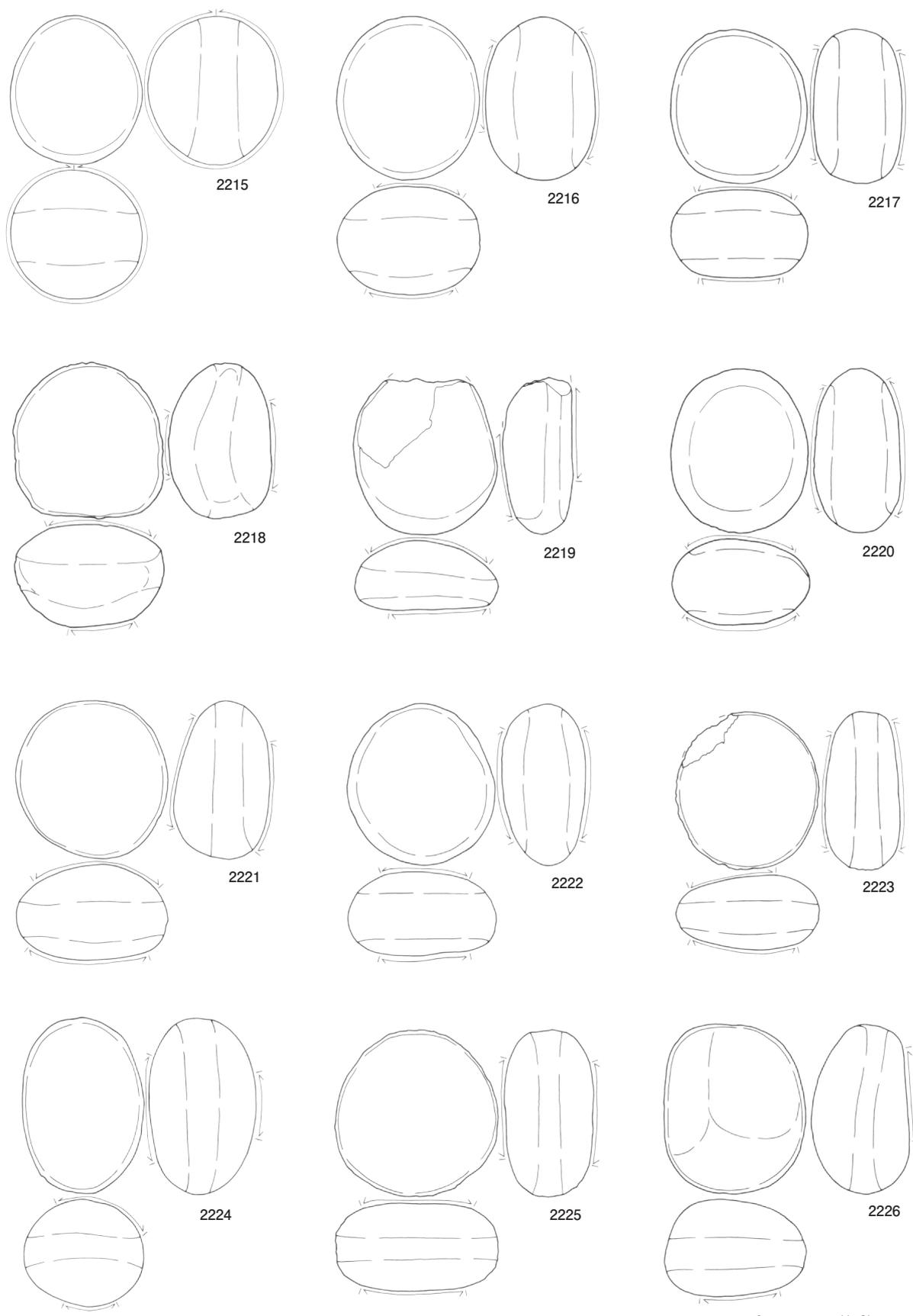
2194



第 505 图 VII層出土石器 (42)

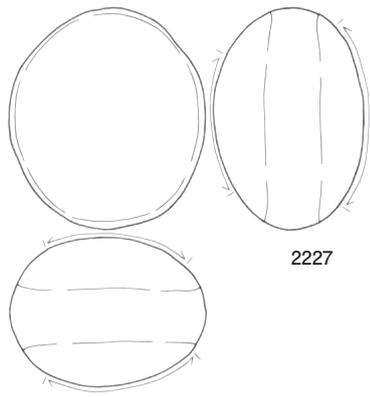


第 506 图 VII 层出土石器 (43)

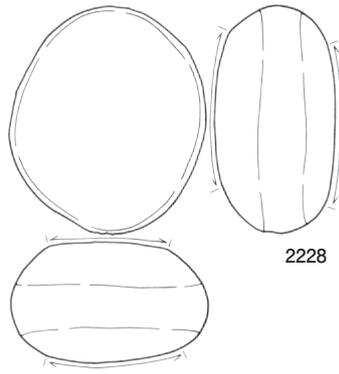


第 507 图 VII 層出土石器 (44)

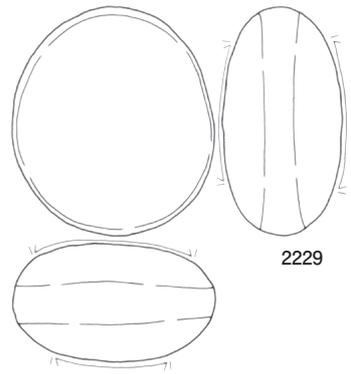




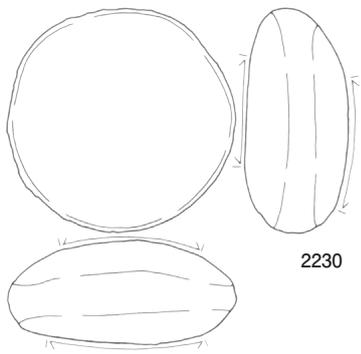
2227



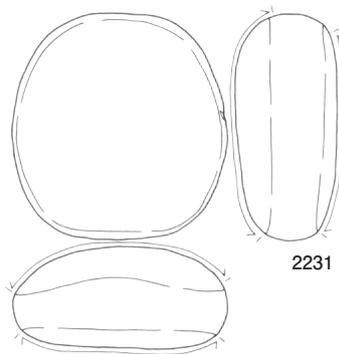
2228



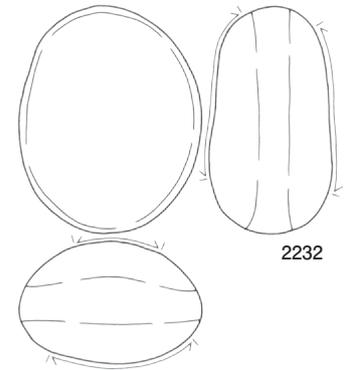
2229



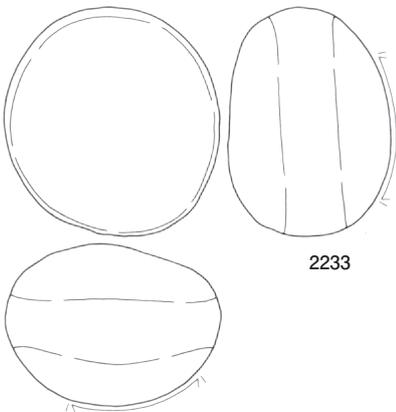
2230



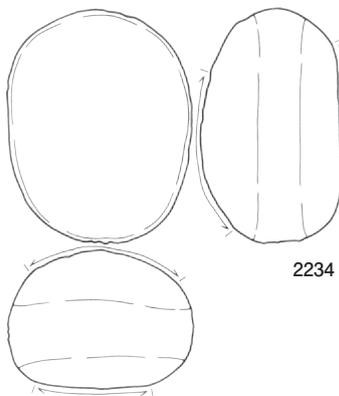
2231



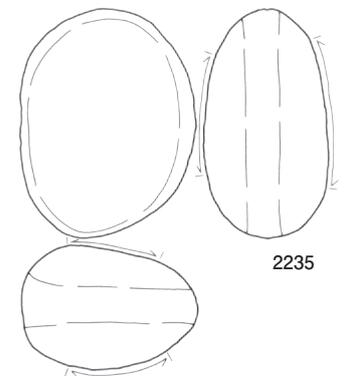
2232



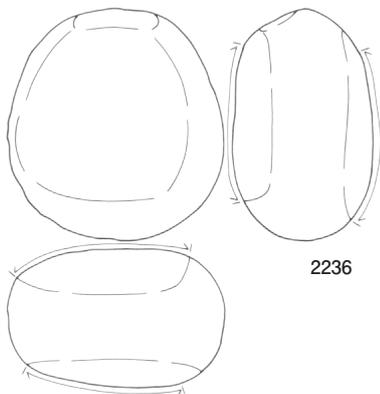
2233



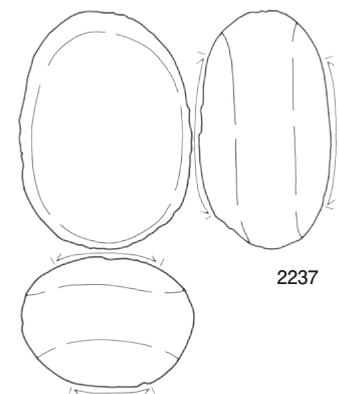
2234



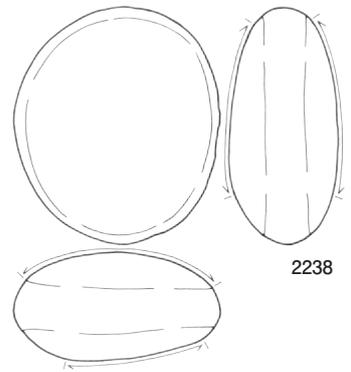
2235



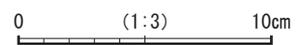
2236



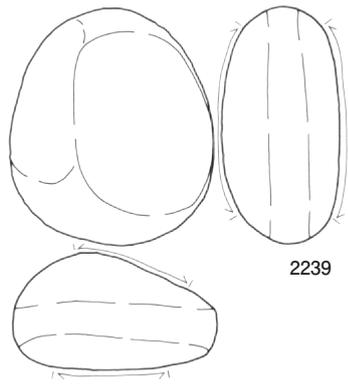
2237



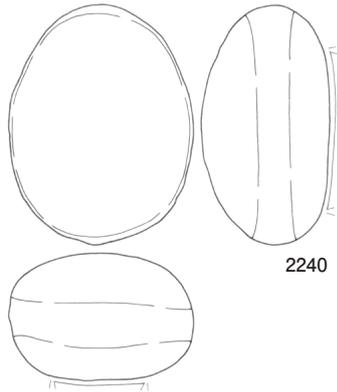
2238



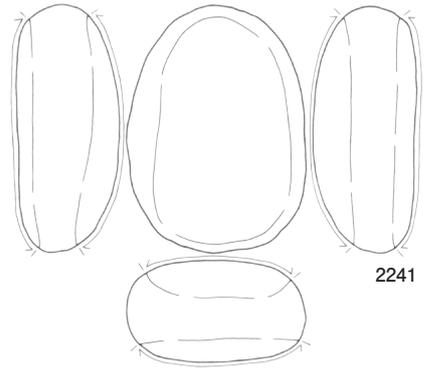
第 508 图 VII 层出土石器 (45)



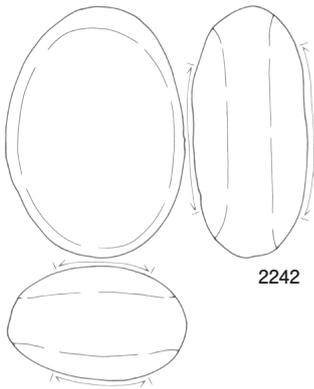
2239



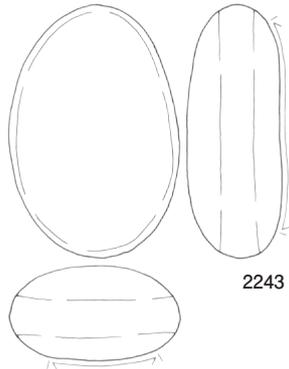
2240



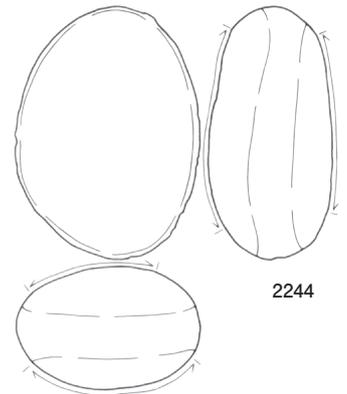
2241



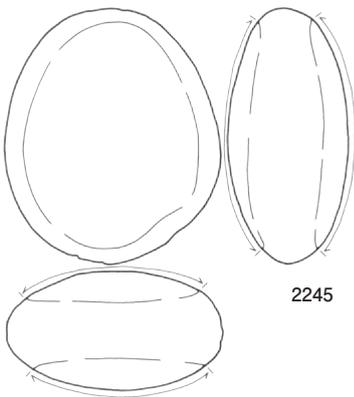
2242



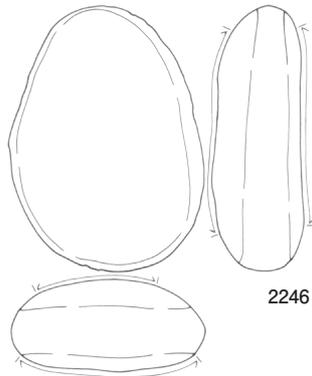
2243



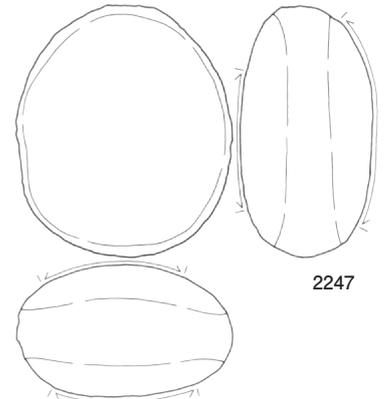
2244



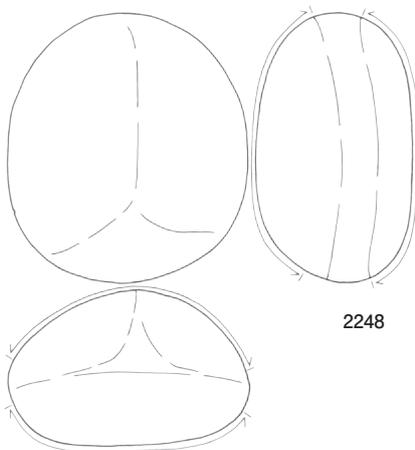
2245



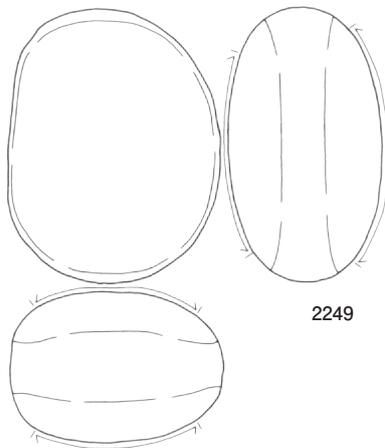
2246



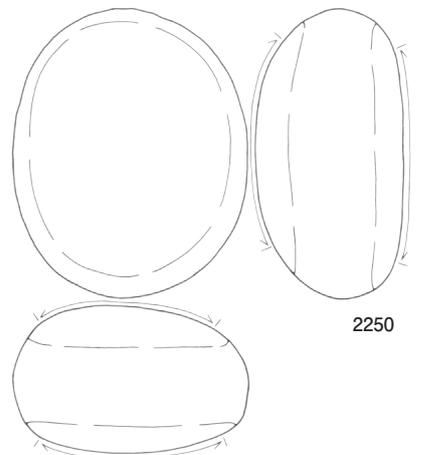
2247



2248



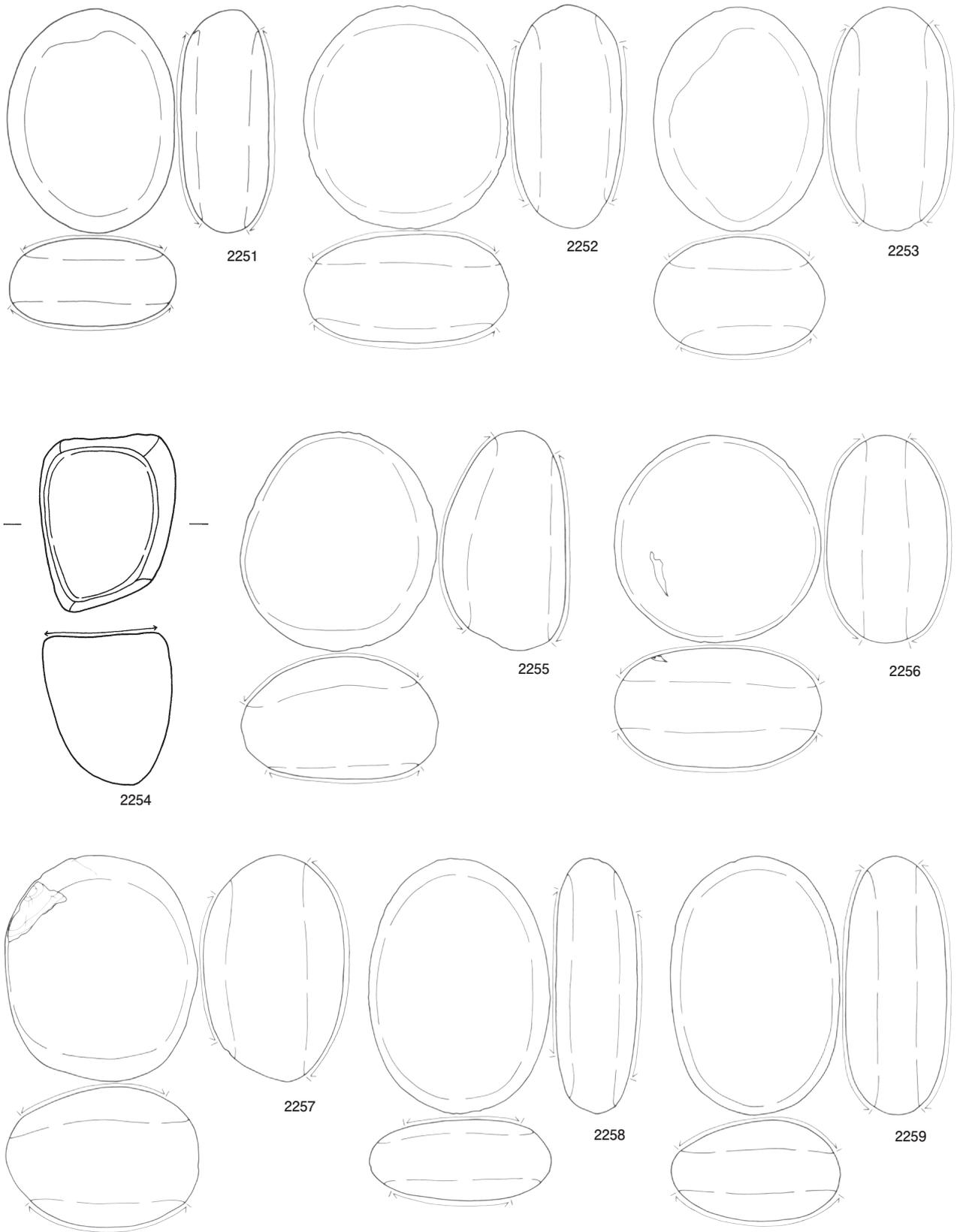
2249



2250

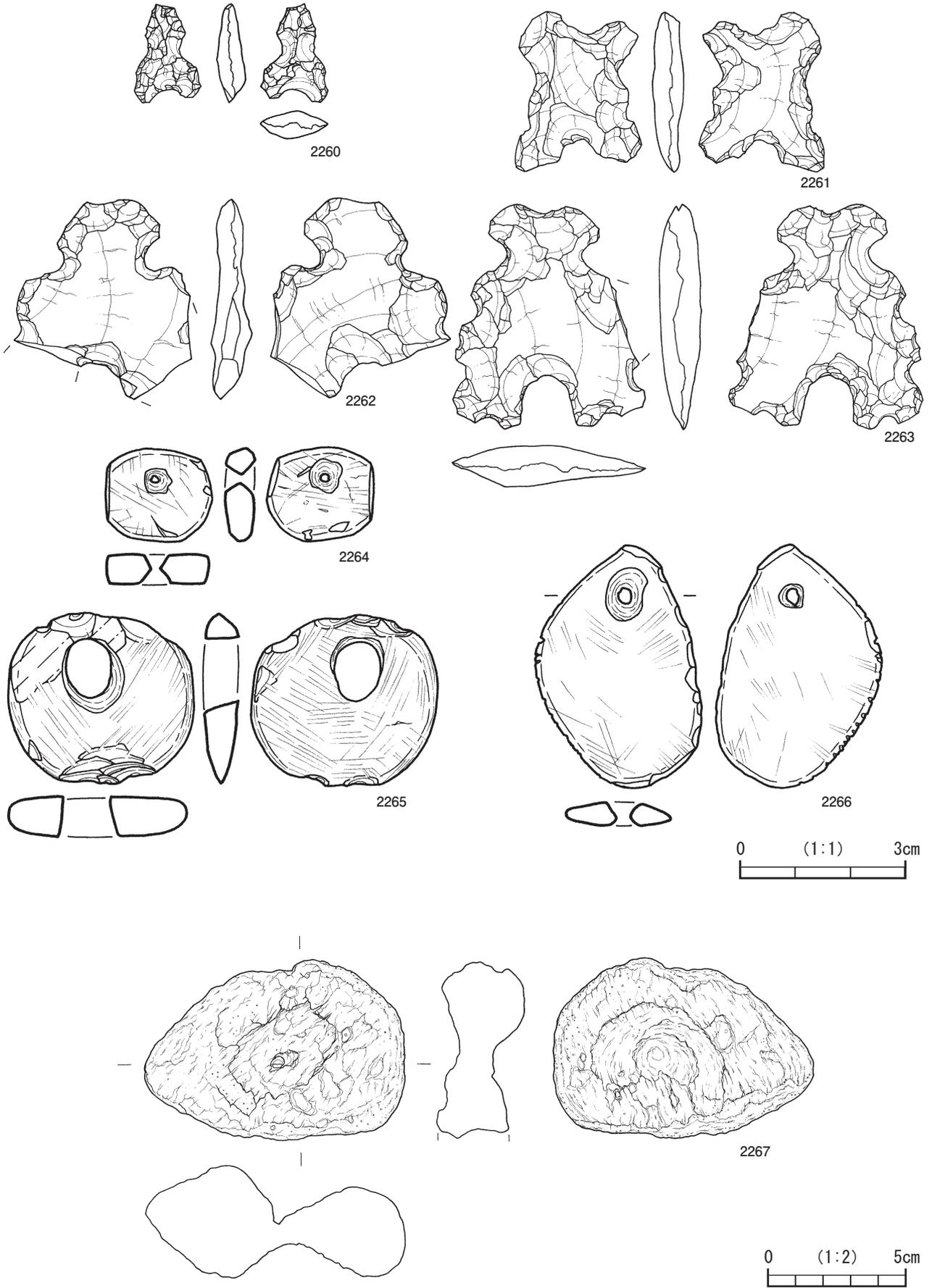
0 (1:3) 10cm

第 509 图 VII 层出土石器 (46)

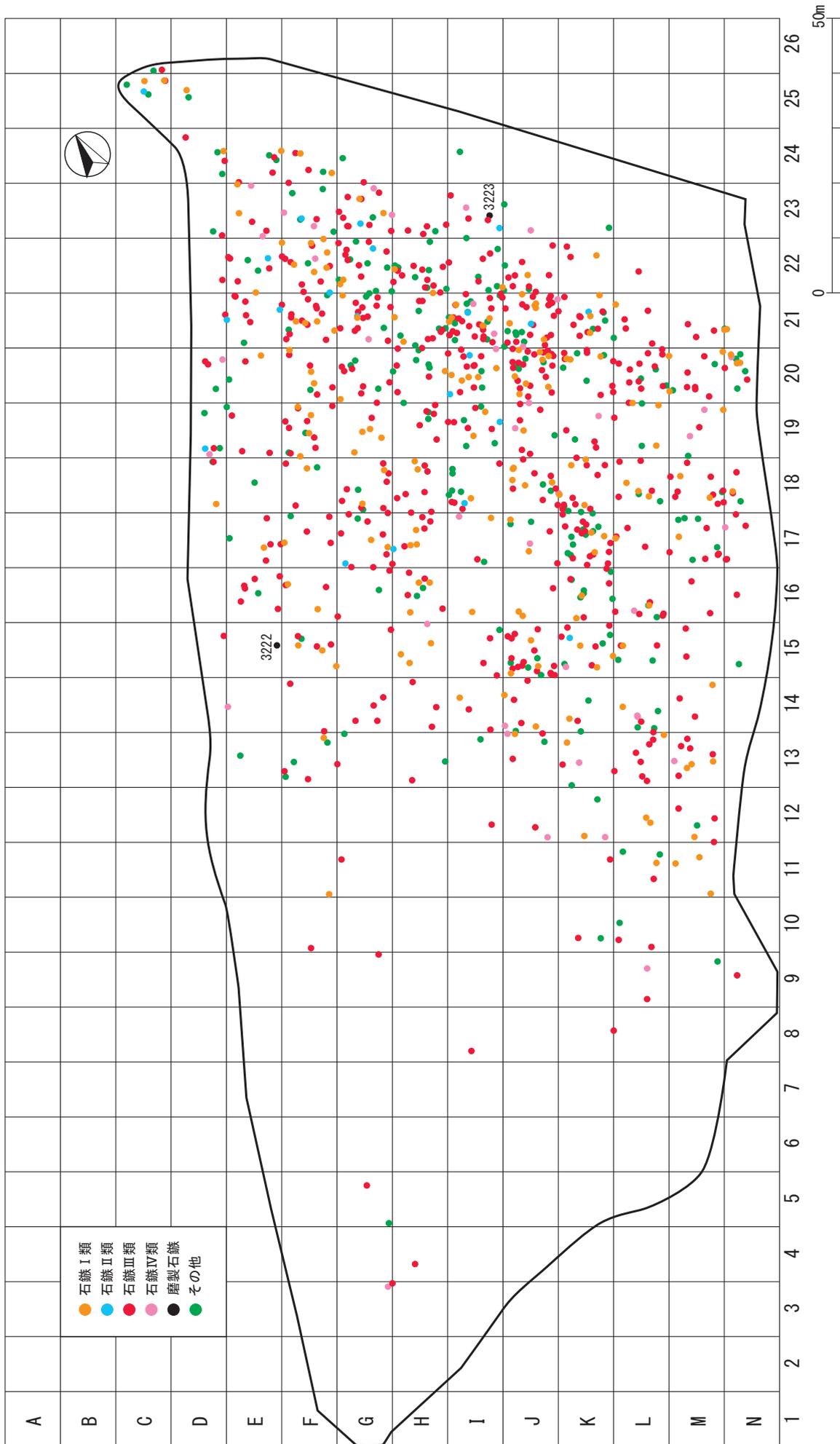


0 (1:3) 10cm

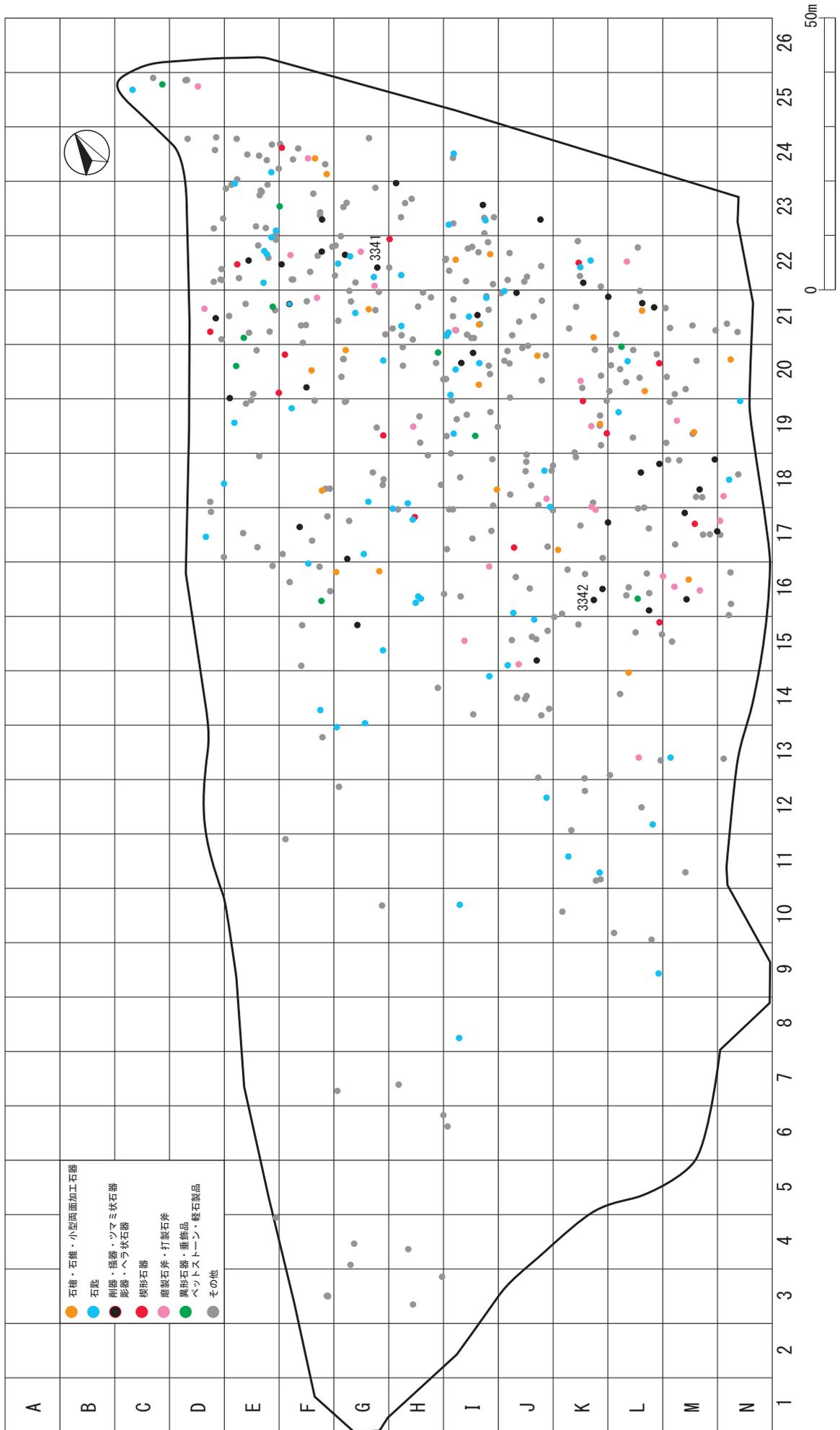
第 510 图 VII 层出土石器 (47)



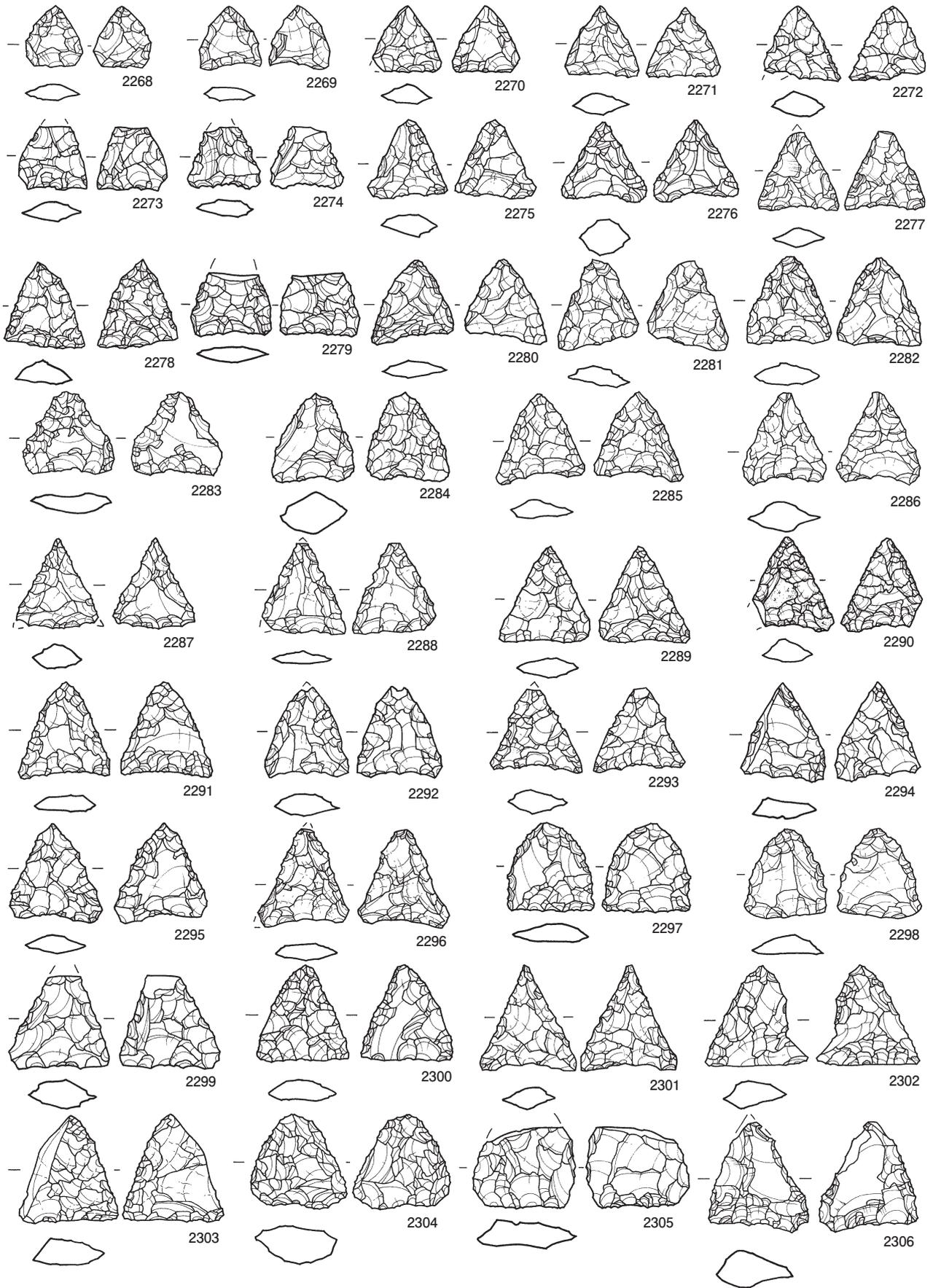
第 511 图 VII 层出土石器 (48)



第512図 VI層出土石器出土分布図(石鏃)

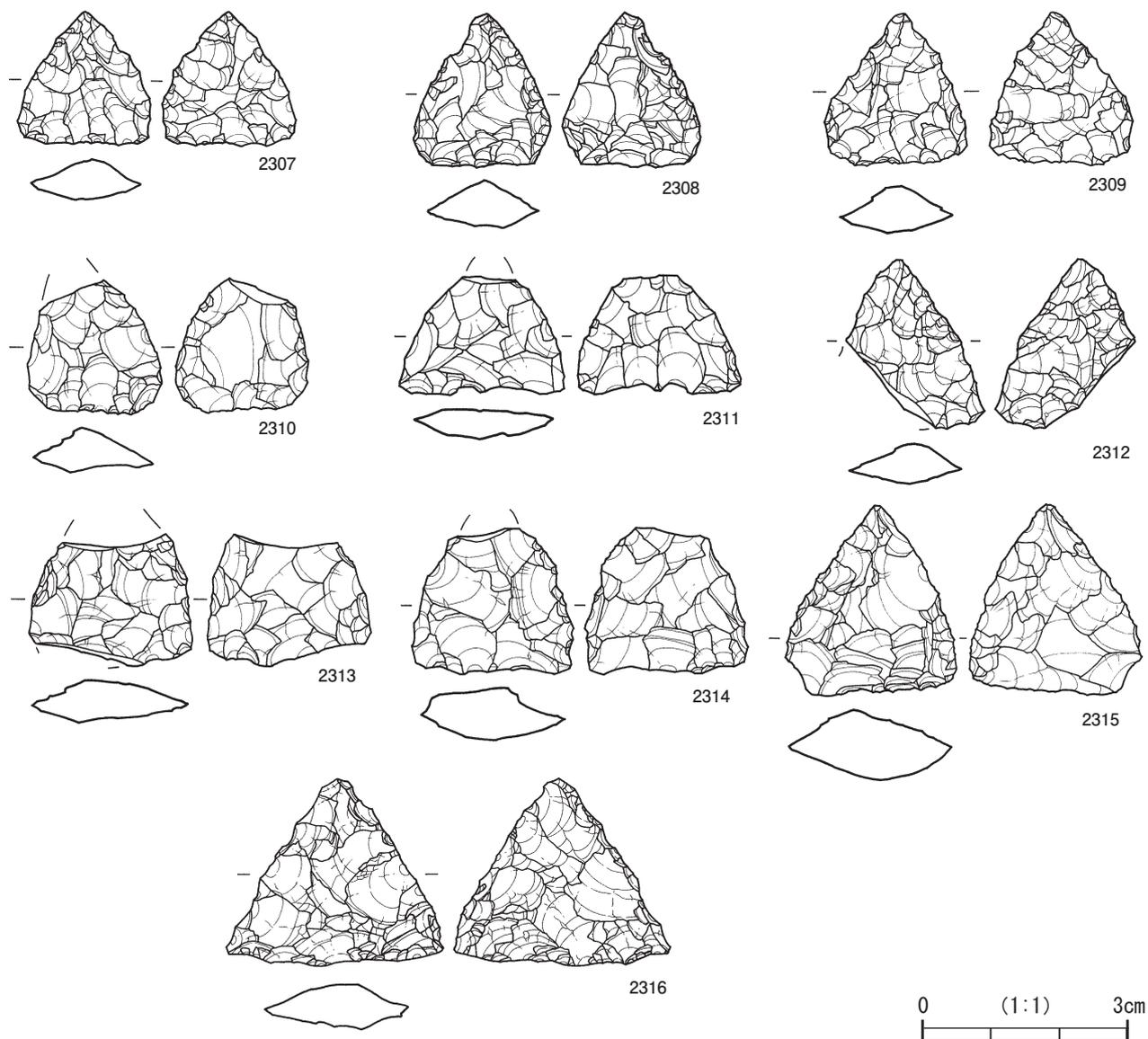


第 513 図 VI層出土石器出土分布図（石鏃以外）



0 (1:1) 3cm

第 514 图 VI 层出土石器 (1)



第 515 図 VI層出土石器 (2)

VI層出土の石器 (第 514 ~ 599 図)

(1) 打製石鏃 (第 514 ~ 548 図 2268 ~ 3221)

VI層出土の打製石鏃は、欠損品や未製品も合わせて 954 点図化した。分類はVII層出土の打製石鏃と共通である。

I 類 (第 514 ~ 519 図 2268 ~ 2447)

正三角形鏃は 180 点図化した。使用する石材は安山岩を中心に、チャート、上牛鼻や針尾・淀姫、腰岳産黒曜石等がある。

I a 類 (第 514・515 図 2268 ~ 2316)

2268 ~ 2316 は平基のもので、2268・2269 は姫島産黒曜石を素材とし、一辺が 1 cm 程度と小型である。2276 は水晶を素材とし、体部に厚みがあり、基部の右側を丸く作り出す。2278・2280・2281・2285 は左右非対称である。2287 の基部はやや膨らみを持ち、2297 は先端部が欠損

しているが、側縁部から先端部にかけて丸味を帯びる。2298 は側縁部が細かい鋸歯状になる。2307 ~ 2316 は一辺が 2 cm 前後の資料で、チャートや安山岩を素材とする。

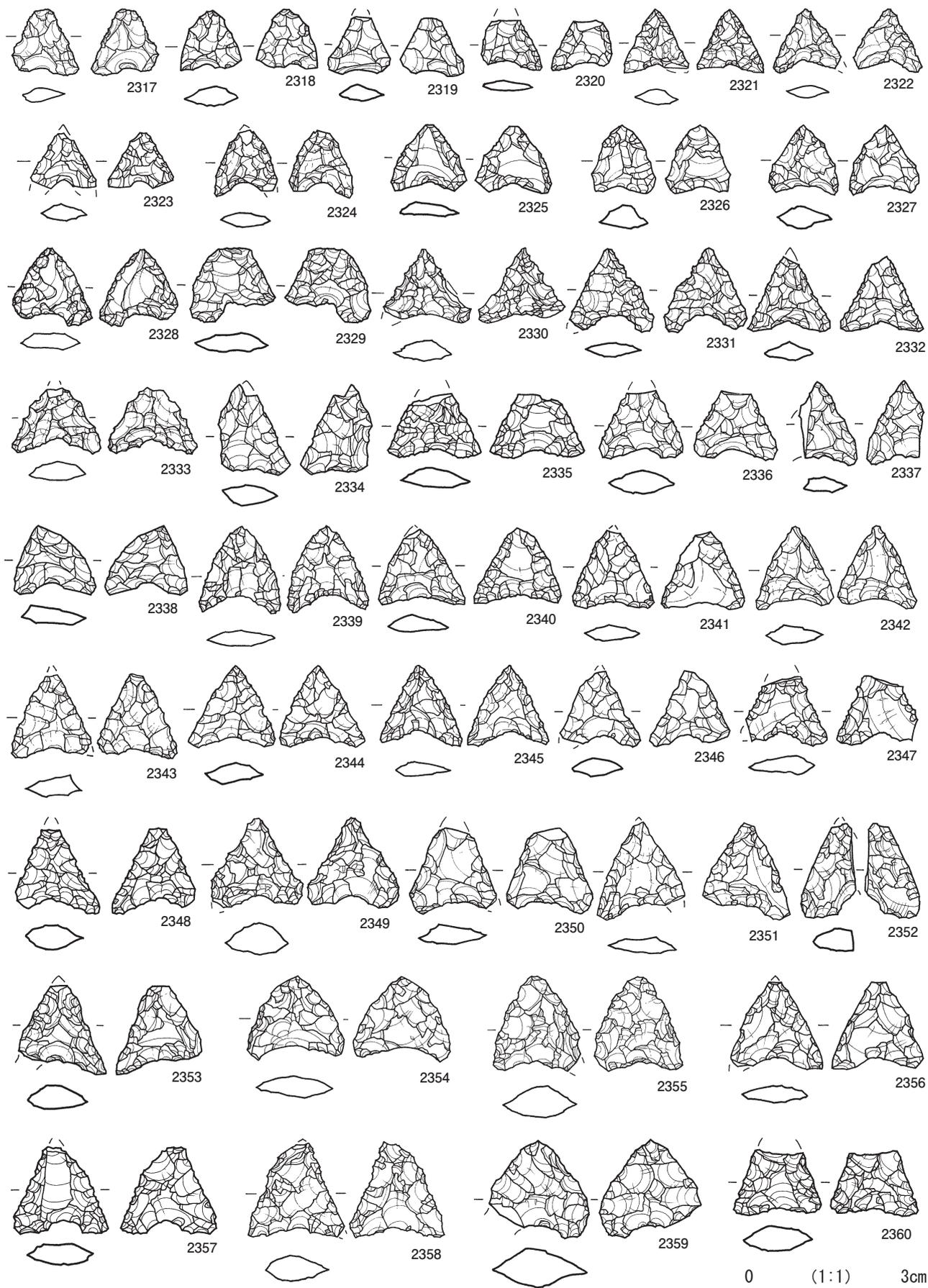
I b 類 (第 516・517 図 2317 ~ 2366)

2317 ~ 2366 は基部の挟りが浅いものであり、一辺が 1.5 cm 前後の資料が多い。2329 は上牛鼻産黒曜石、2338 は姫島産黒曜石を素材とし、リダクション石器である。2333 は側縁部が鋸歯状になり、2339・2354・2359 は側縁部が丸味を帯びる。2319・2326・2336・2349・2350・2362 は、脚部の先端を丸く作出す。

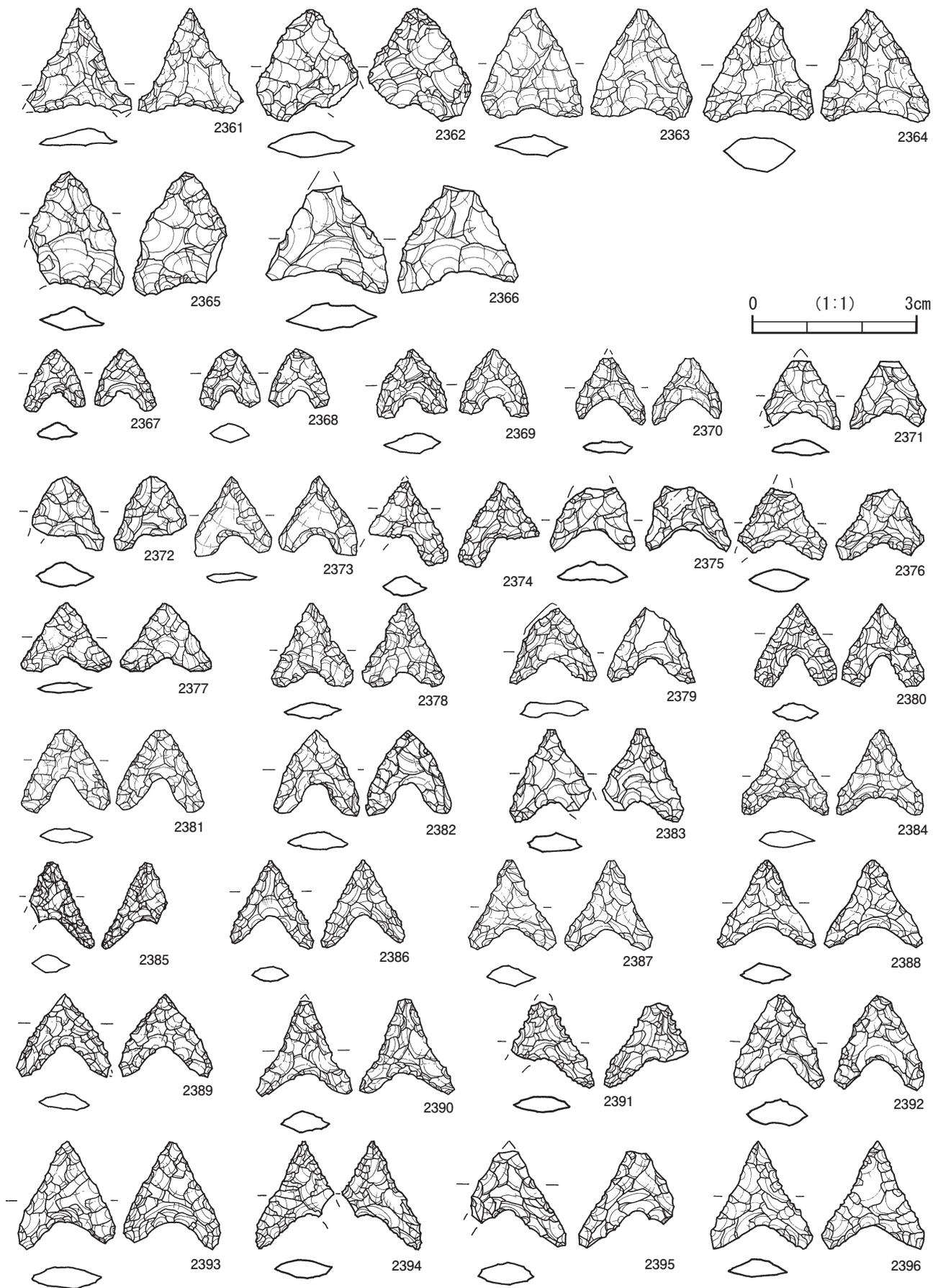
I c 類 (第 517・518 図 2367 ~ 2405)

2367 ~ 2405 は基部の挟りが外側に開き、脚部の先端部が尖るものである。2370 は左右非対称であり、2373 は剥片鏃である。側縁部は直線的なものが多いが、2376・

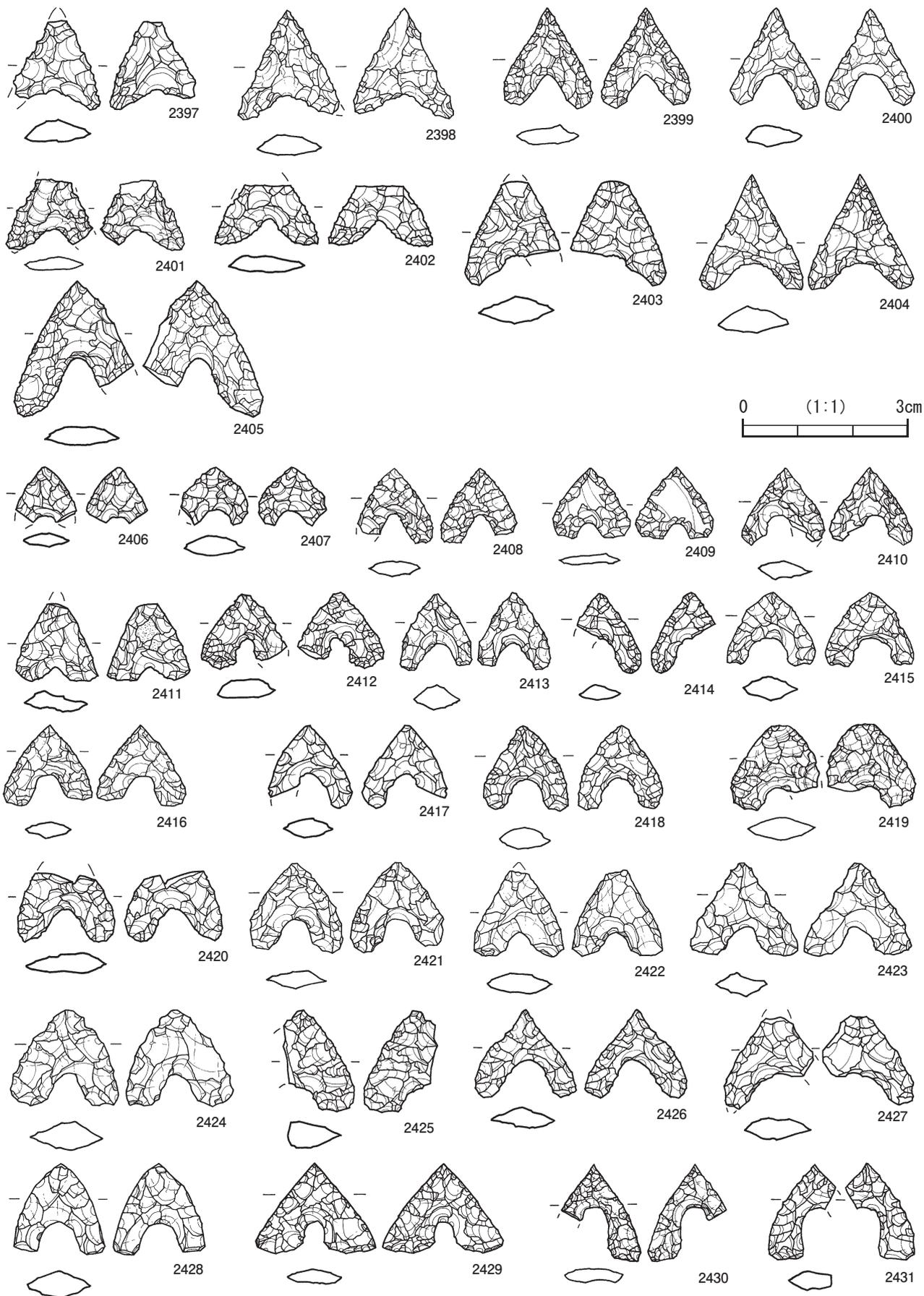




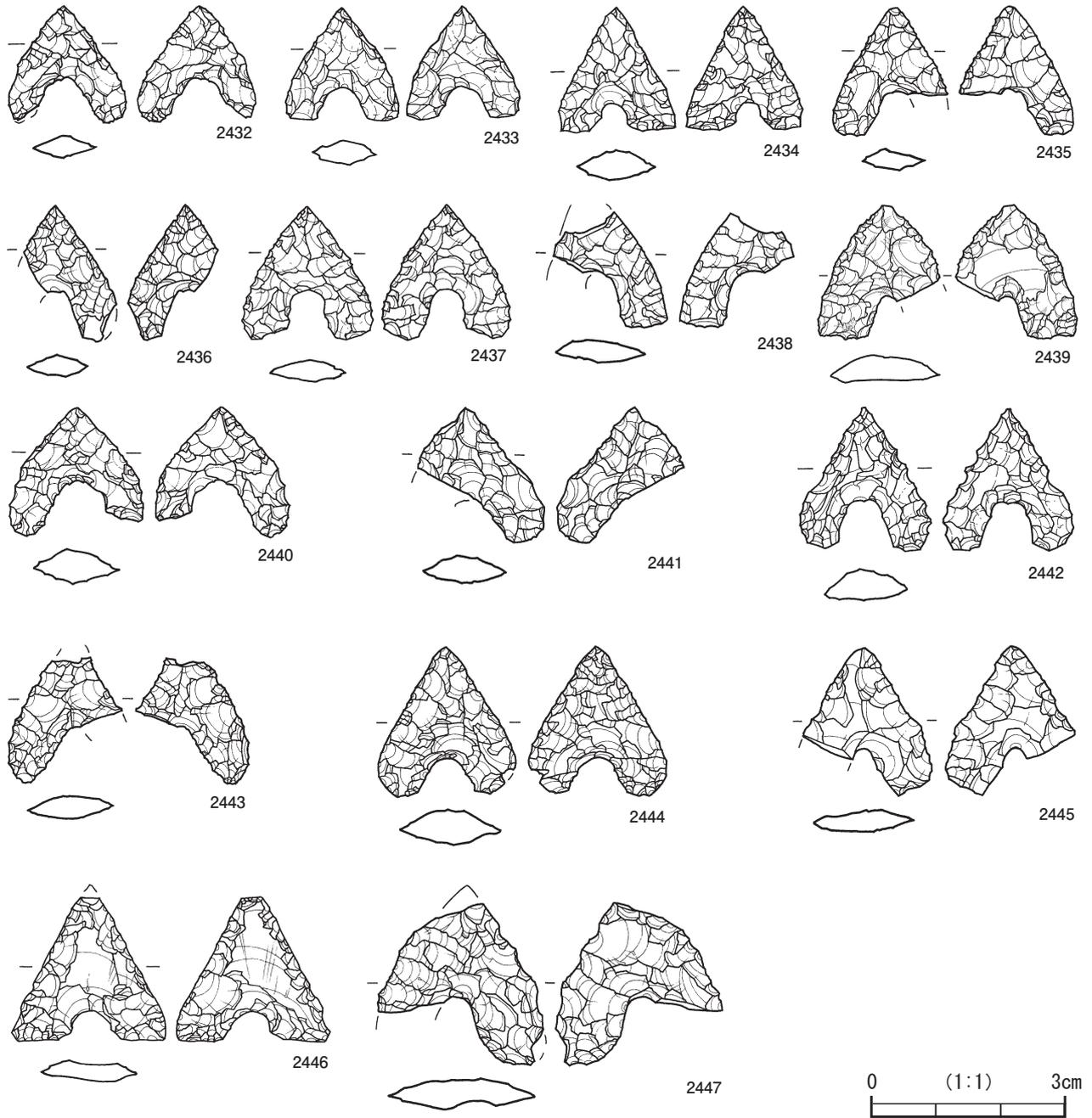
第 516 图 VI 层出土石器 (3)



第 517 图 VI 层出土石器 (4)



第 518 图 VI 层出土石器 (5)



第519図 VI層出土石器(6)

2384・2388・2390・2391・2394・2396のように緩い屈曲をもち、脚部が外に開くものもある。また、2385・2386・2391・2394・2401は細かい鋸歯状に仕上げられ、脚端部が鋭く尖る。

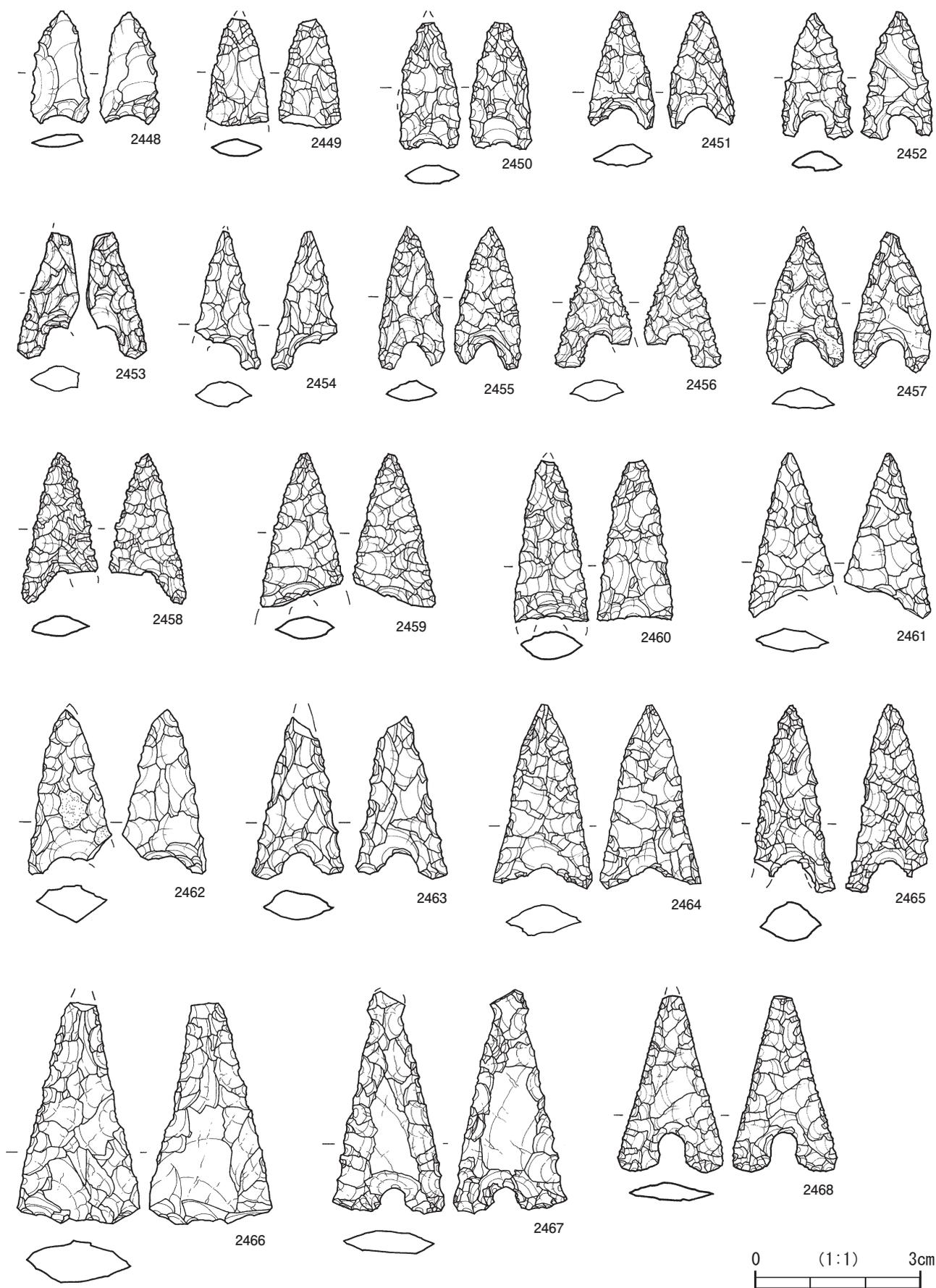
**I d・e類 (第518・519図 2406～2447)**

2406～2447は基部に「U」字状の挟りをもち、脚部の先端が平らなものと尖るものである。前者は2408・2409・2411～2413・2415・2416・2423～2425・2428～2431・2433～2439・2446である。2412は脚部の先端が鋸歯状に仕上げられ、2430・2431の挟りは深い。2436・

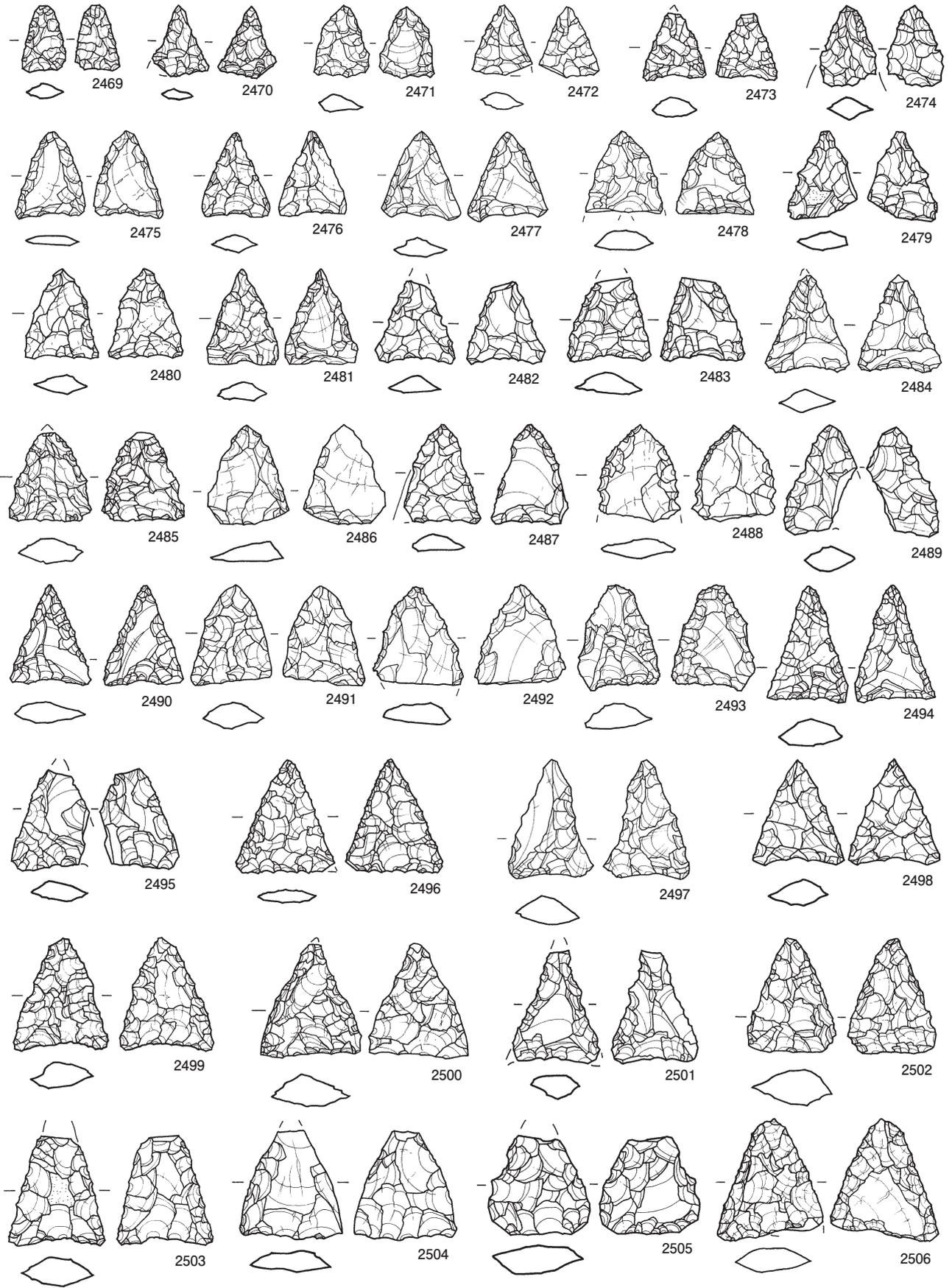
2444は丁寧に成形され、2437・2442は側縁部を鋸歯状に仕上げている。

**II類 (第520図 2448～2468)**

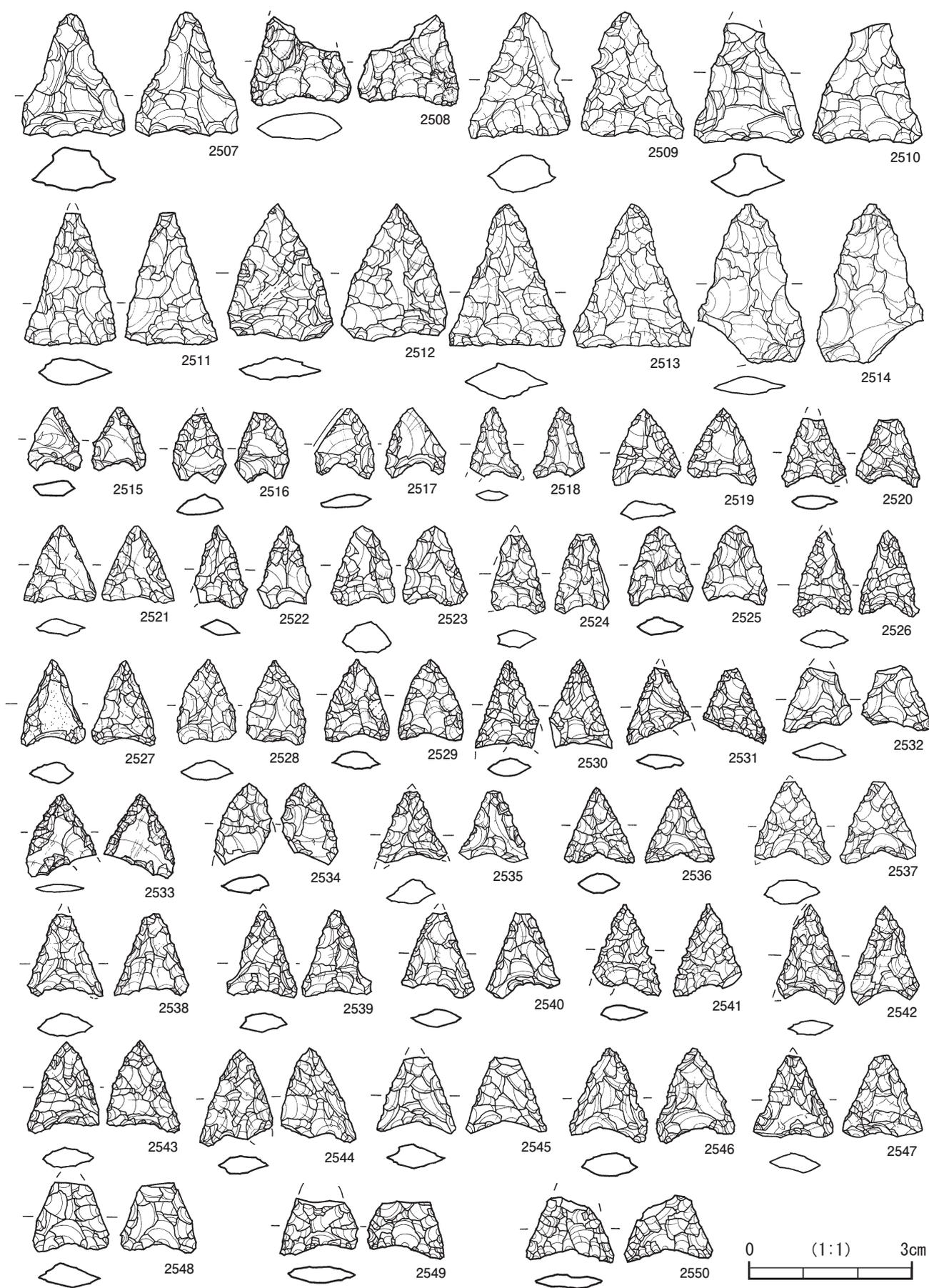
長身鏃は21点図化した。石材は安山岩が中心であるが、針尾・淀姫産黒曜石やチャート等も使用し、基部は「U」字状の挟りをもつものが多い。2448・2450・2464は基部の挟りが浅く、2466のみ平基である。2457は側縁部が左右非対称である。2452・2456・2458は側縁部が鋸歯状に仕上げられ、2456・2458は細かく押圧剥離が行われる。2464は針尾・淀姫産黒曜石を素材とし、両側縁部の上部



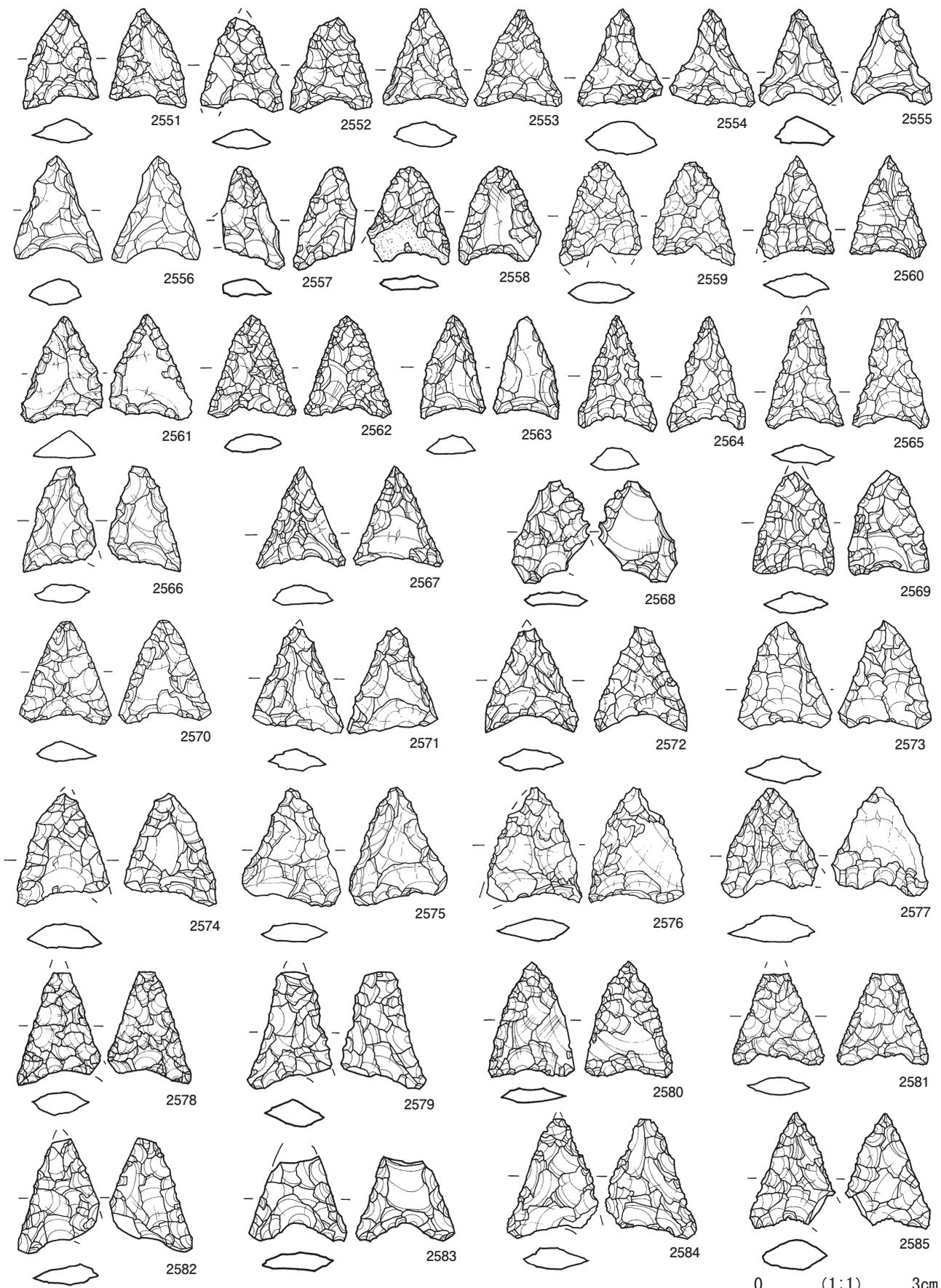
第 520 图 VI 层出土石器 (7)



第 521 图 VI 层出土石器 (8)

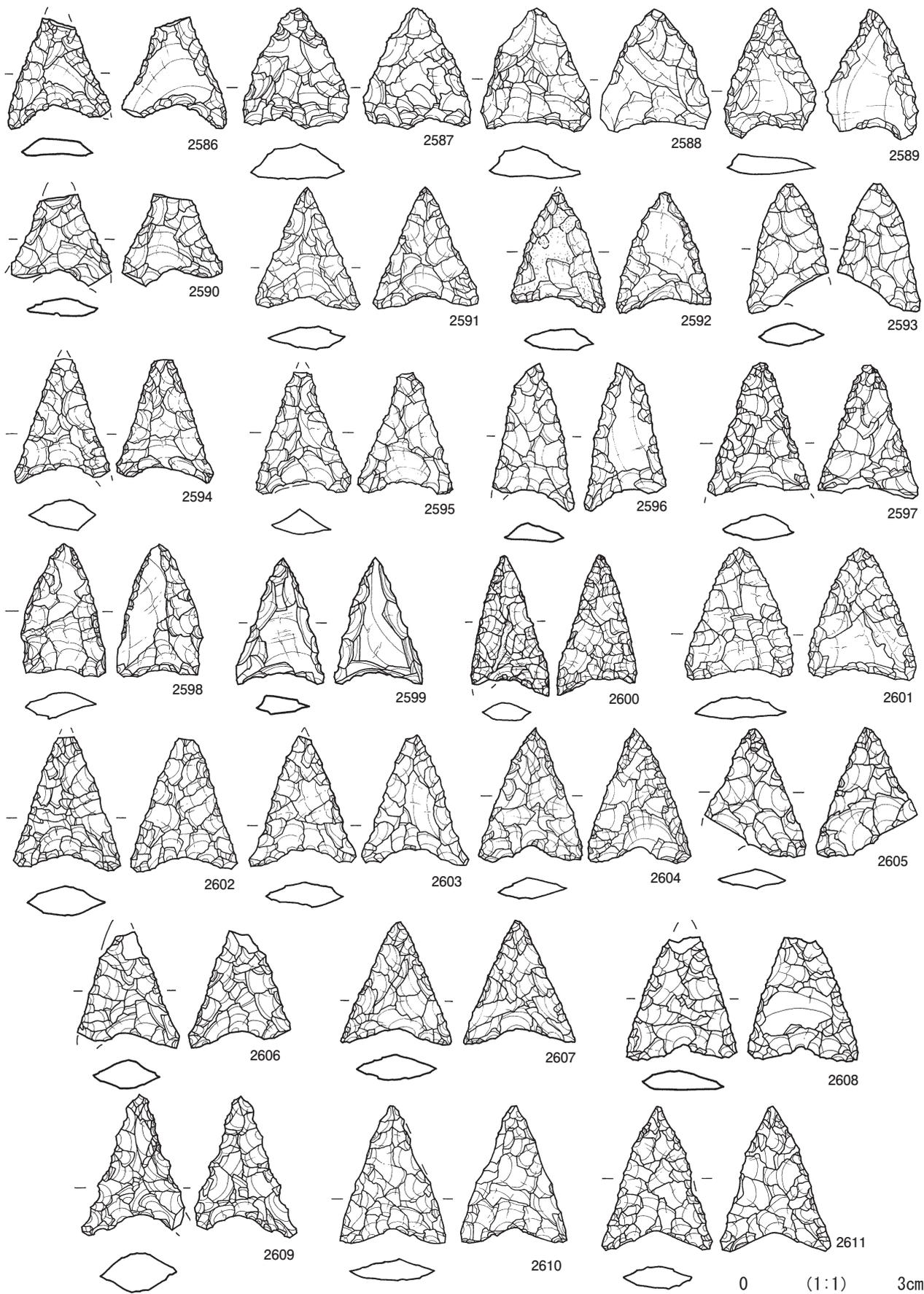


第 522 图 VI 层出土石器 (9)

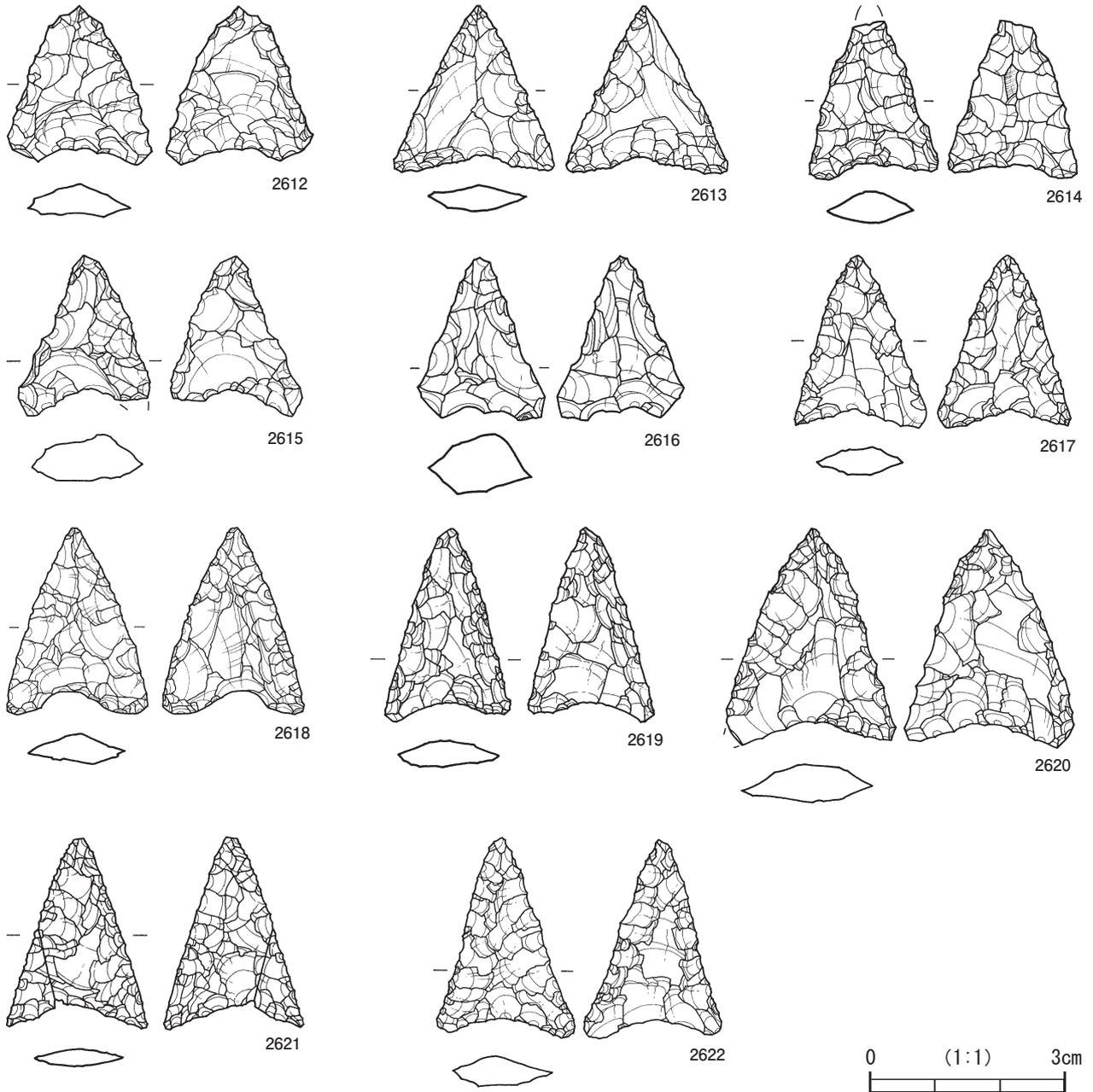


第 523 图 VI 层出土石器 (10)





第 524 图 VI 层出土石器 (11)



第 525 図 VI層出土石器 (12)

に緩い屈折をもち、五角形鏃にやや近い。2467 は頁岩を素材とし、先端部が欠損するため全形は不明であるが、先端部を平たく残す異形石器の可能性もある。2468 の脚部は丸味を帯びる。

**Ⅲ類 (第 521 ~ 537 図 2469 ~ 2962)**

二等辺三角形鏃は 494 点図化した。石材は安山岩や桑ノ木津留産や針尾・淀姫産、姫島産黒曜石が多く、チャートや頁岩なども使用する。

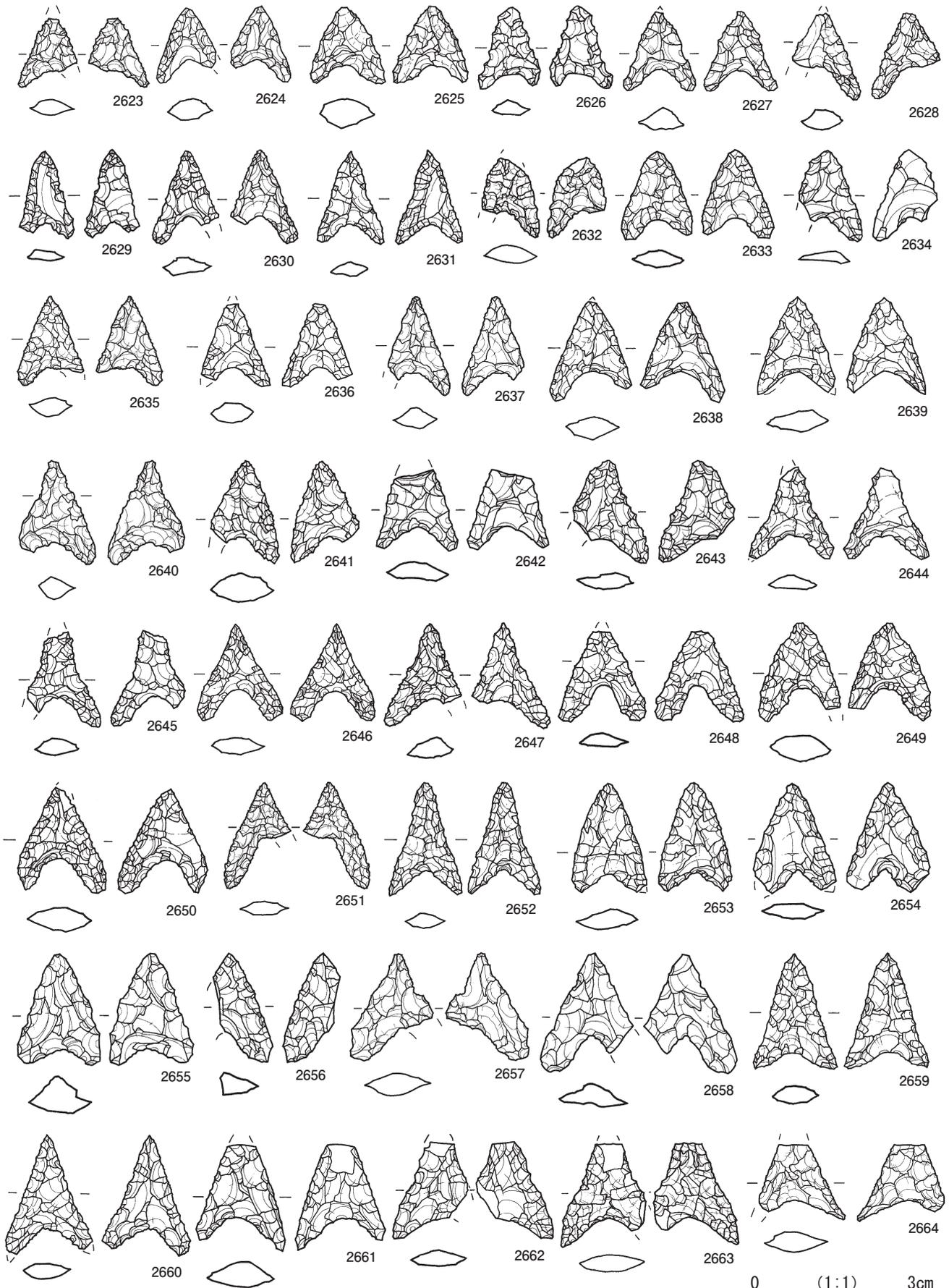
**Ⅲ a 類 (第 521・522 図 2469 ~ 2514)**

2469 ~ 2514 は平基のもので、2469 は先端部を丸く作り出し、2481・2501 は先端部が錐状になる。2475・2488

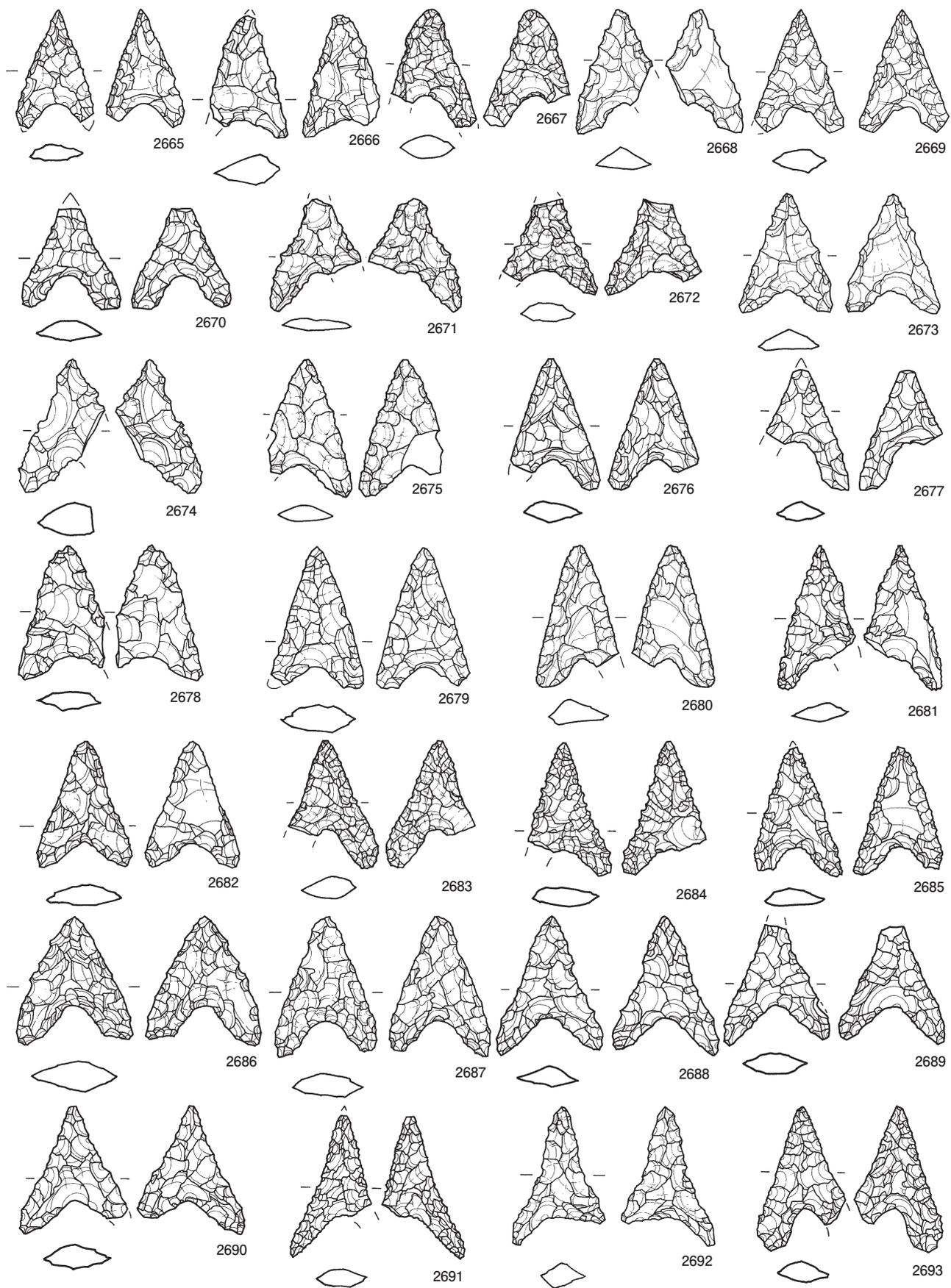
は安山岩を素材とする剥片鏃であり、2488 は側縁部が丸くなる。2491 は姫島産黒曜石を素材とし、側縁部に緩い屈曲部をもち、五角形鏃に近い。2507・2509・2510 は安山岩を素材とし、体部に厚みを残す。

**Ⅲ b 類 (第 522 ~ 525 図 2515 ~ 2622)**

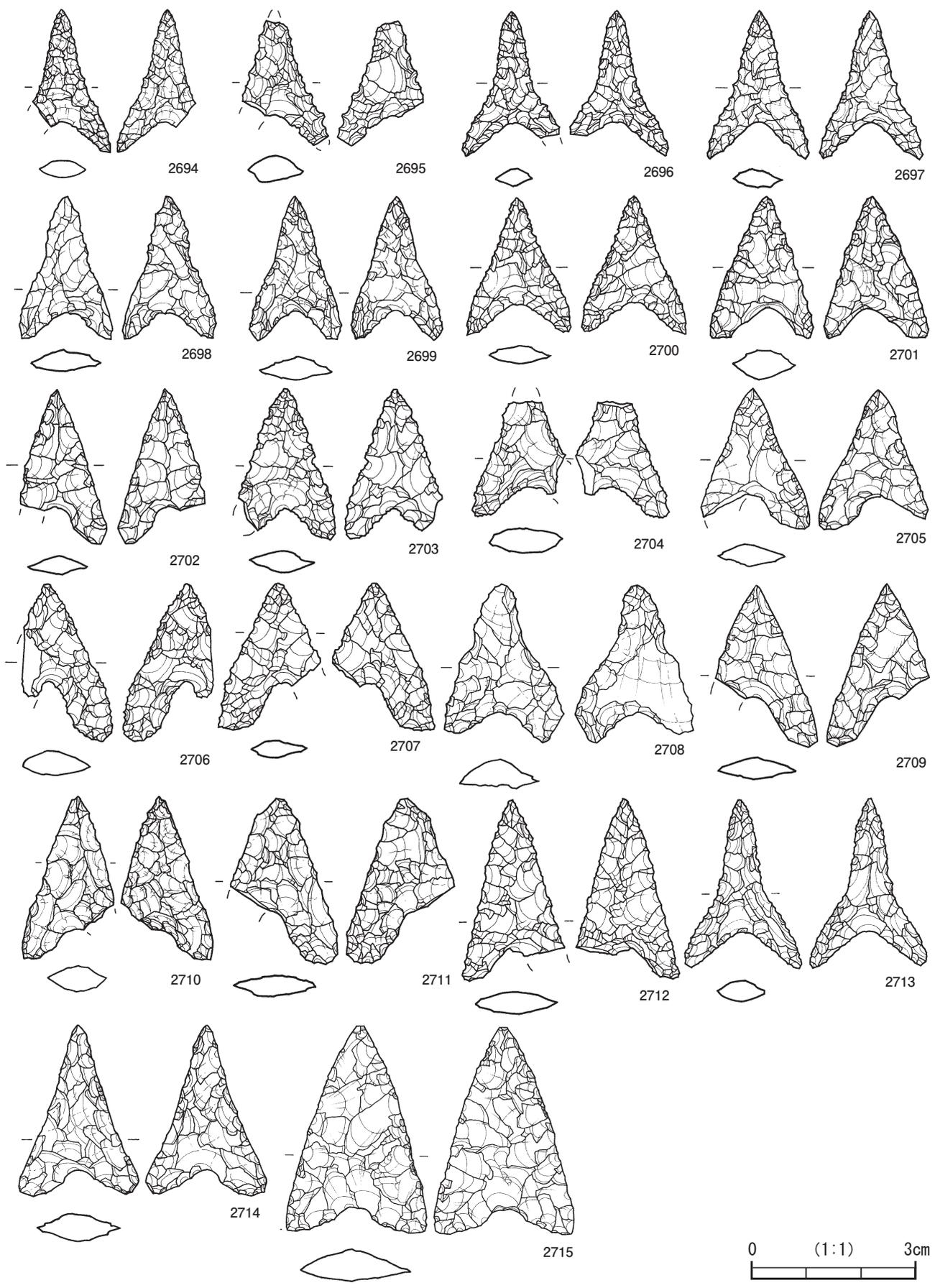
2515 ~ 2622 は基部の挟りが浅いもので、長さ 1.5 ~ 2 cm 前後の資料が多い。2528・2534・2543・2551 は側縁部が丸味を帯び、左右非対称である。2558 は表面に自然面を残す剥片鏃であり、2561・2563・2568・2576・2577・2586・2589・2592・2596・2599 は裏面に主要剥離面を残す。2609 の側縁部は鋸歯状に仕上げられ、2616



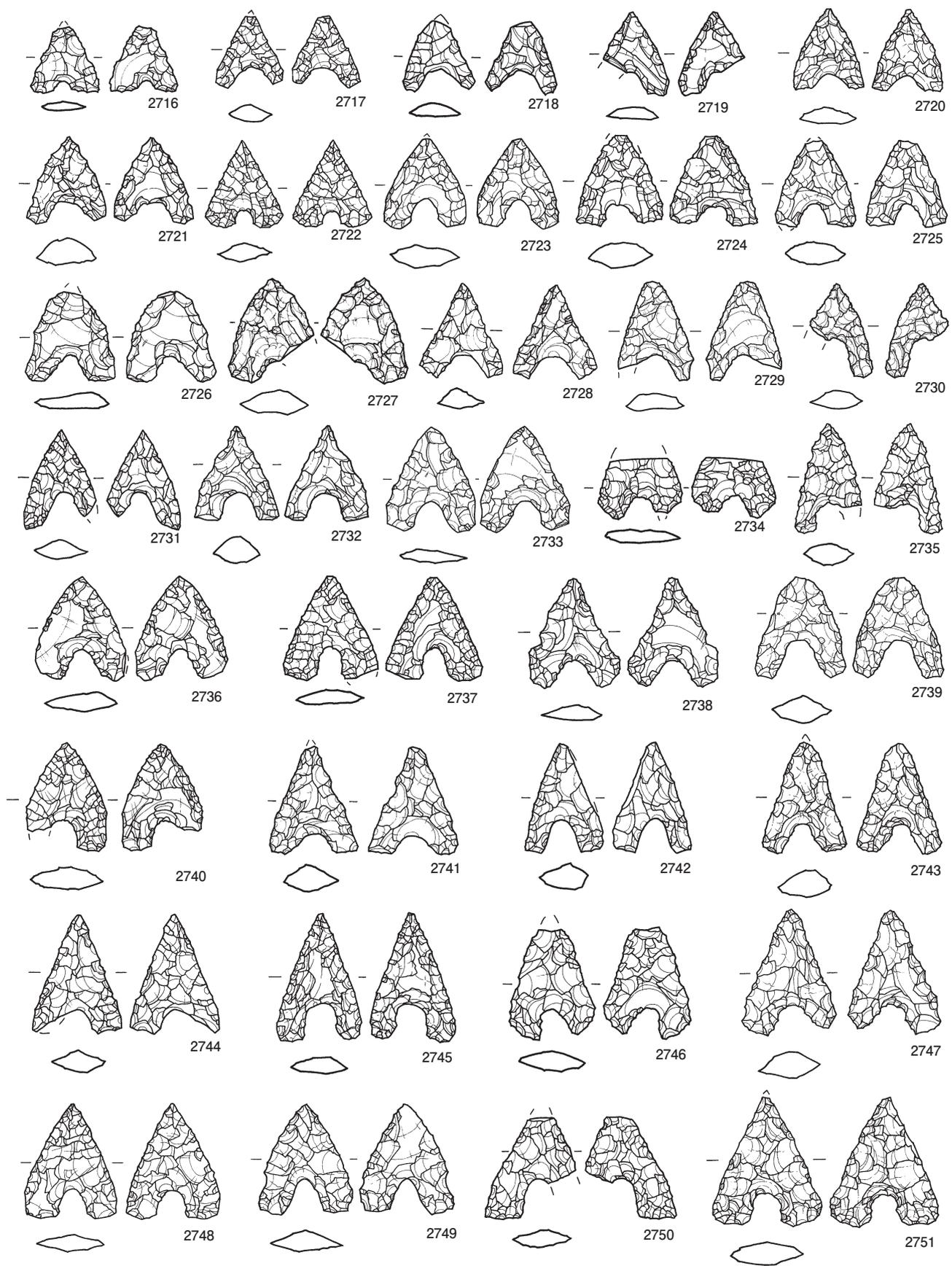
第 526 图 VI 层出土石器 (13)



第 527 图 VI 层出土石器 (14)

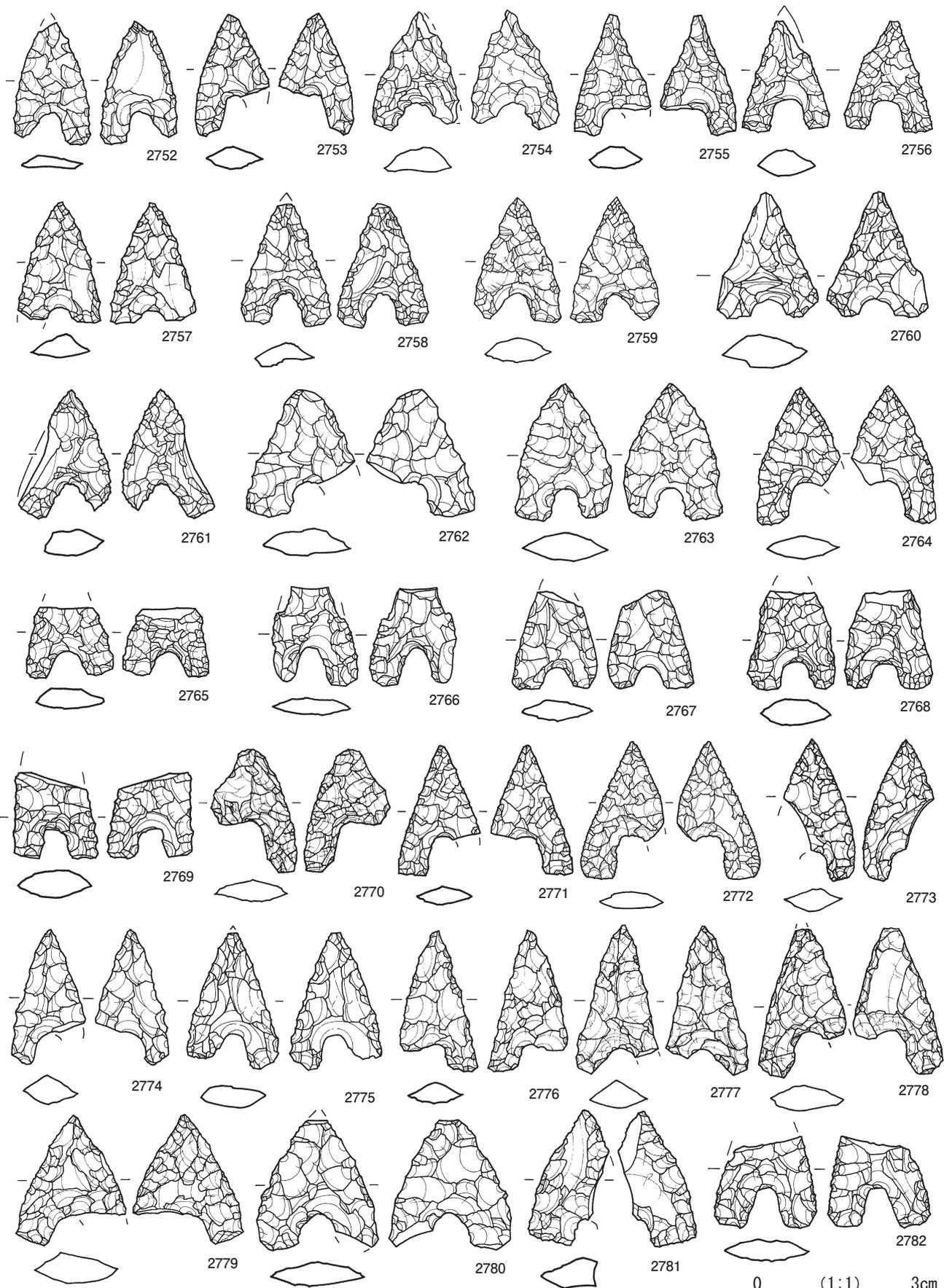


第 528 图 VI 层出土石器 (15)



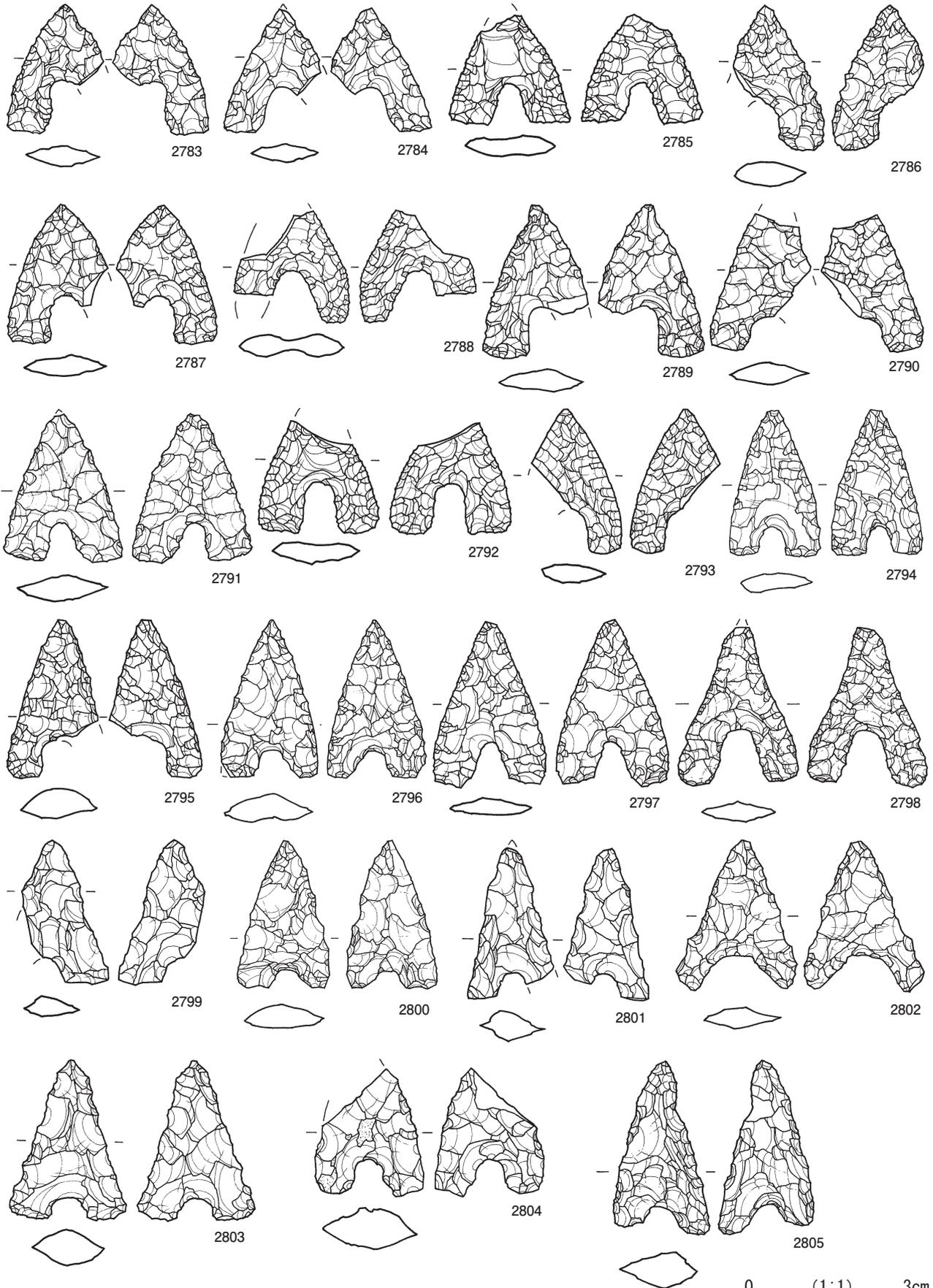
0 (1:1) 3cm

第 529 图 VI 层出土石器 (16)



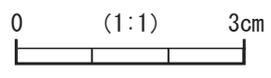
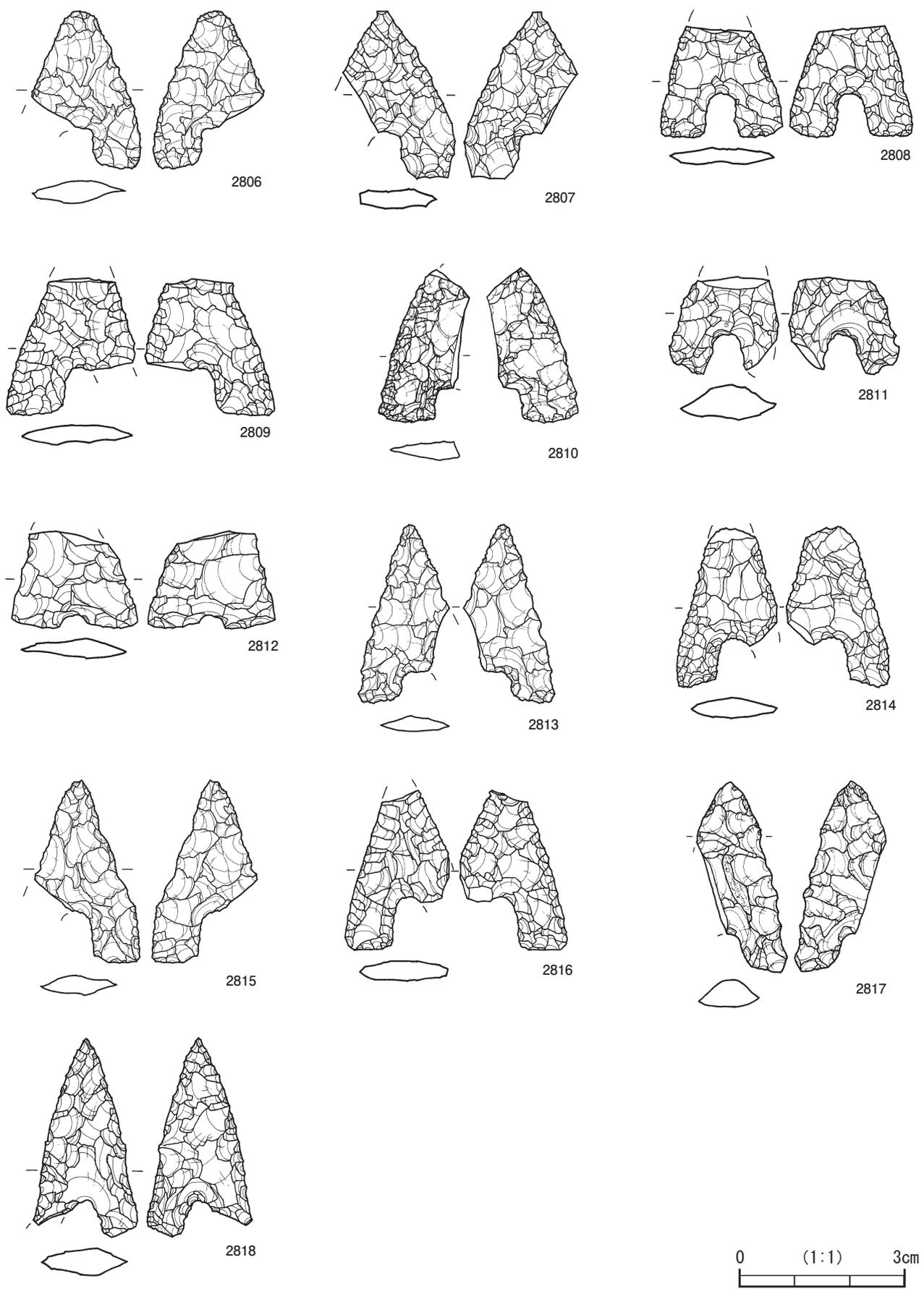
0 (1:1) 3cm

第 530 图 VI 层出土石器 (17)

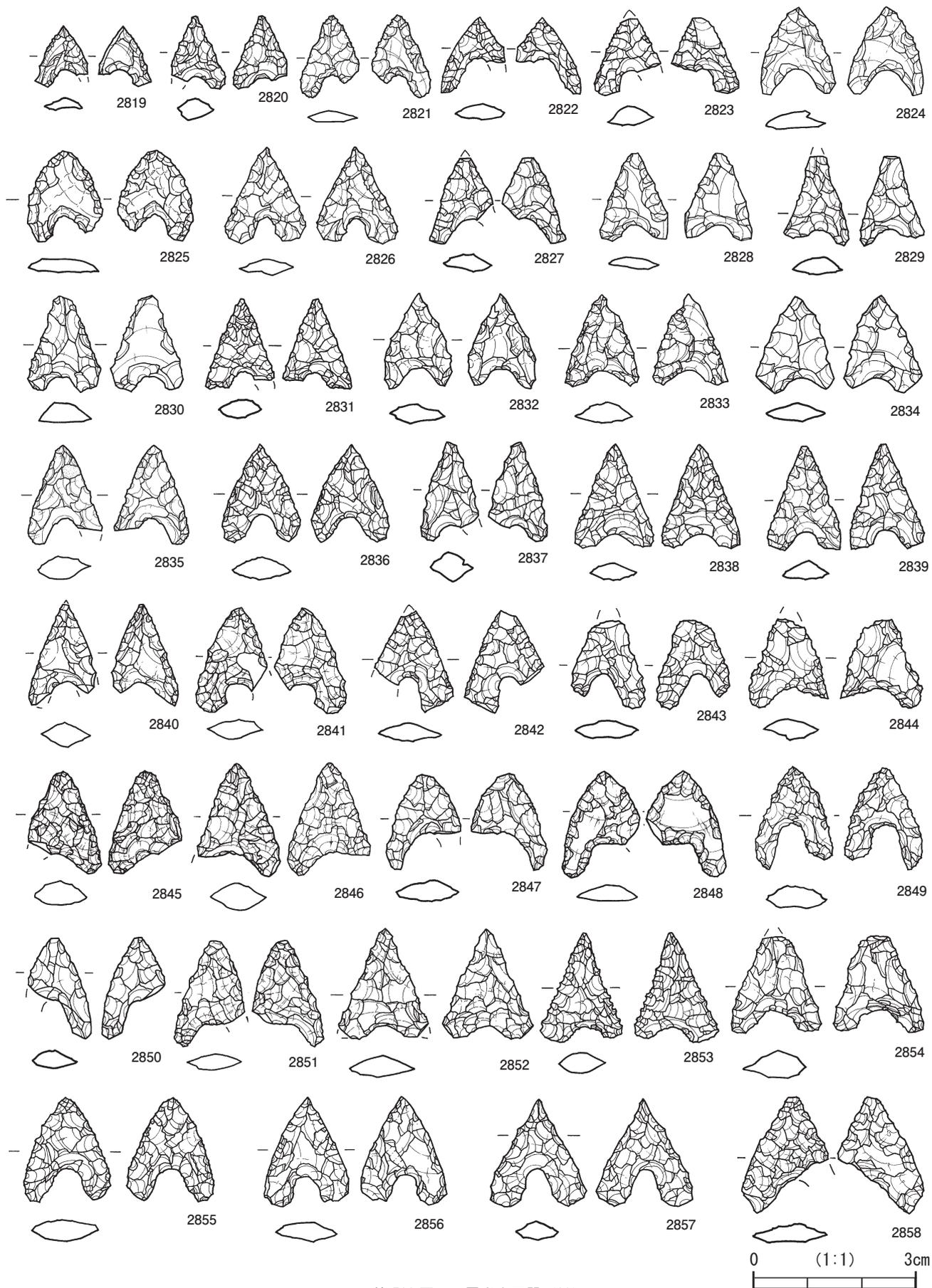


第 531 图 VI 层出土石器 (18)

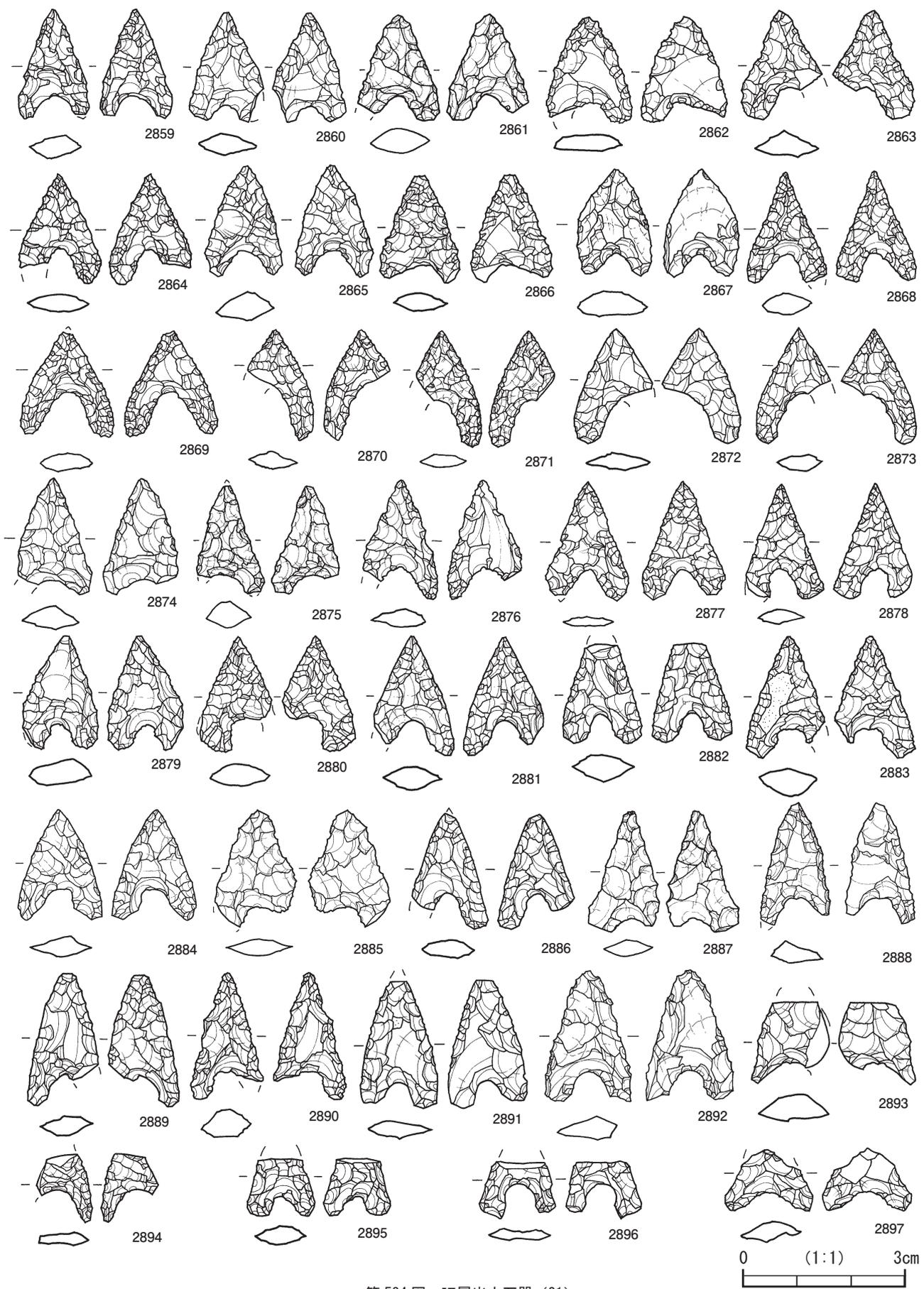




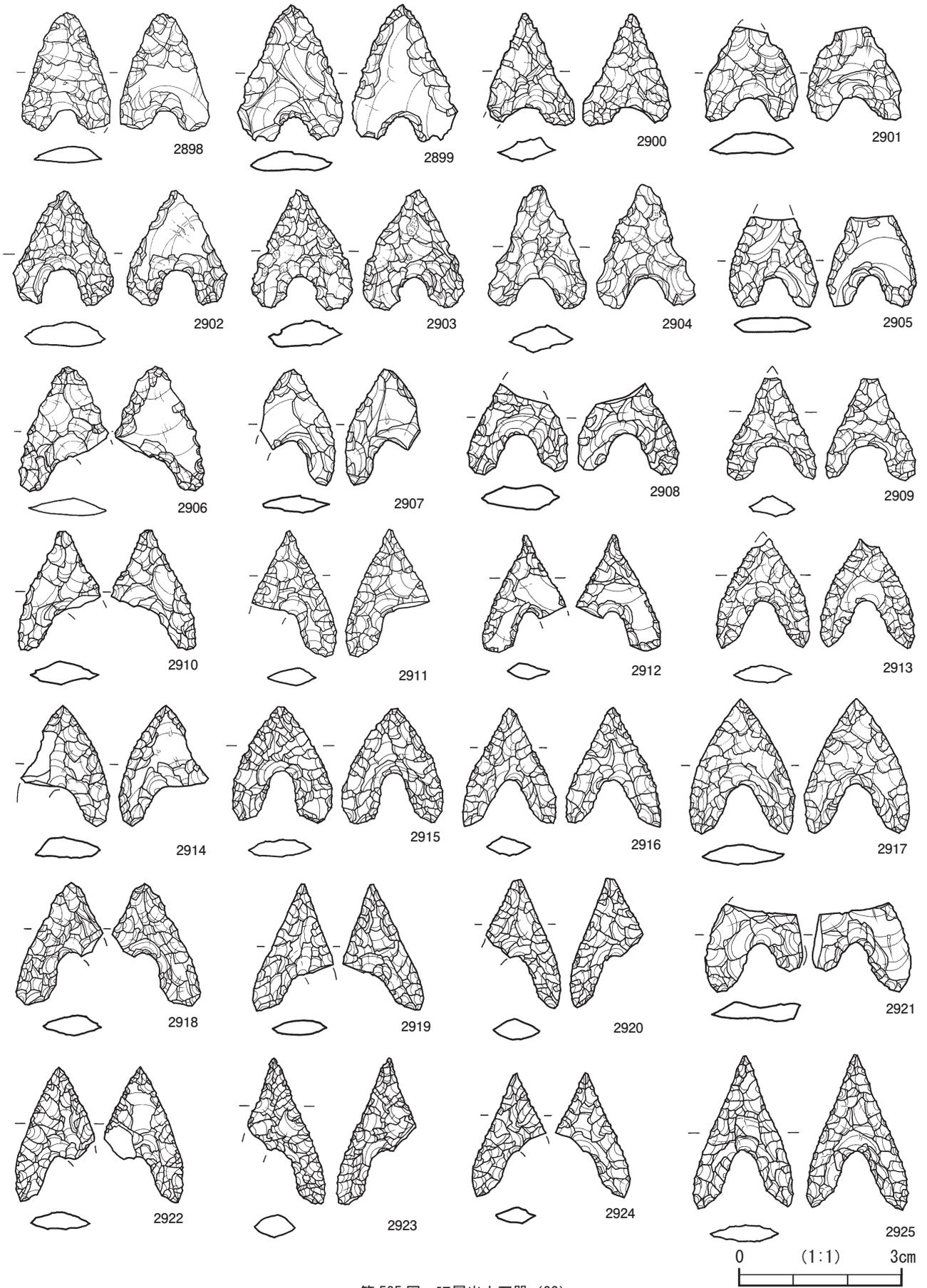
第 532 图 VI 层出土石器 (19)



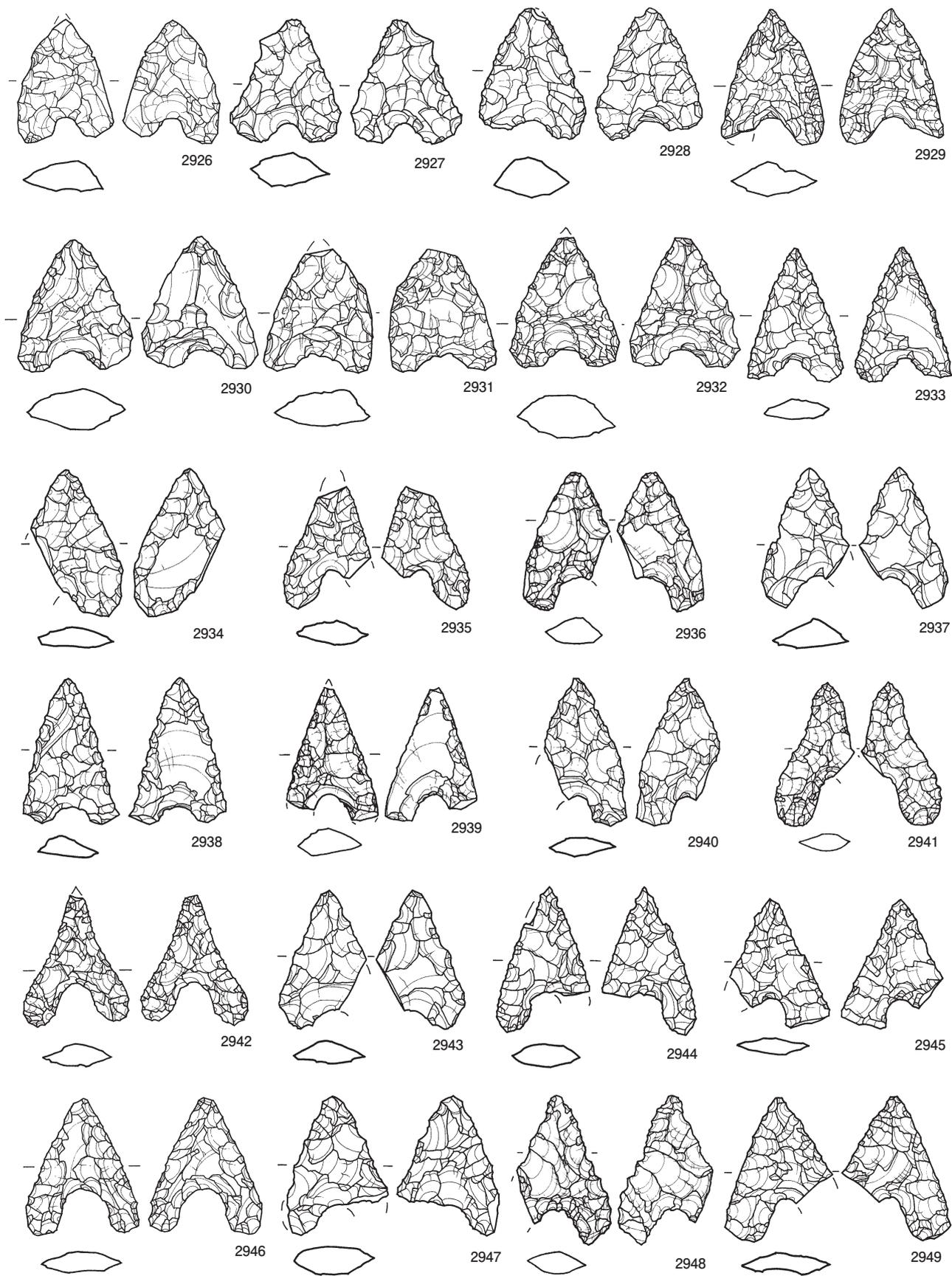
第 533 图 VI 层出土石器 (20)



第 534 图 VI 层出土石器 (21)

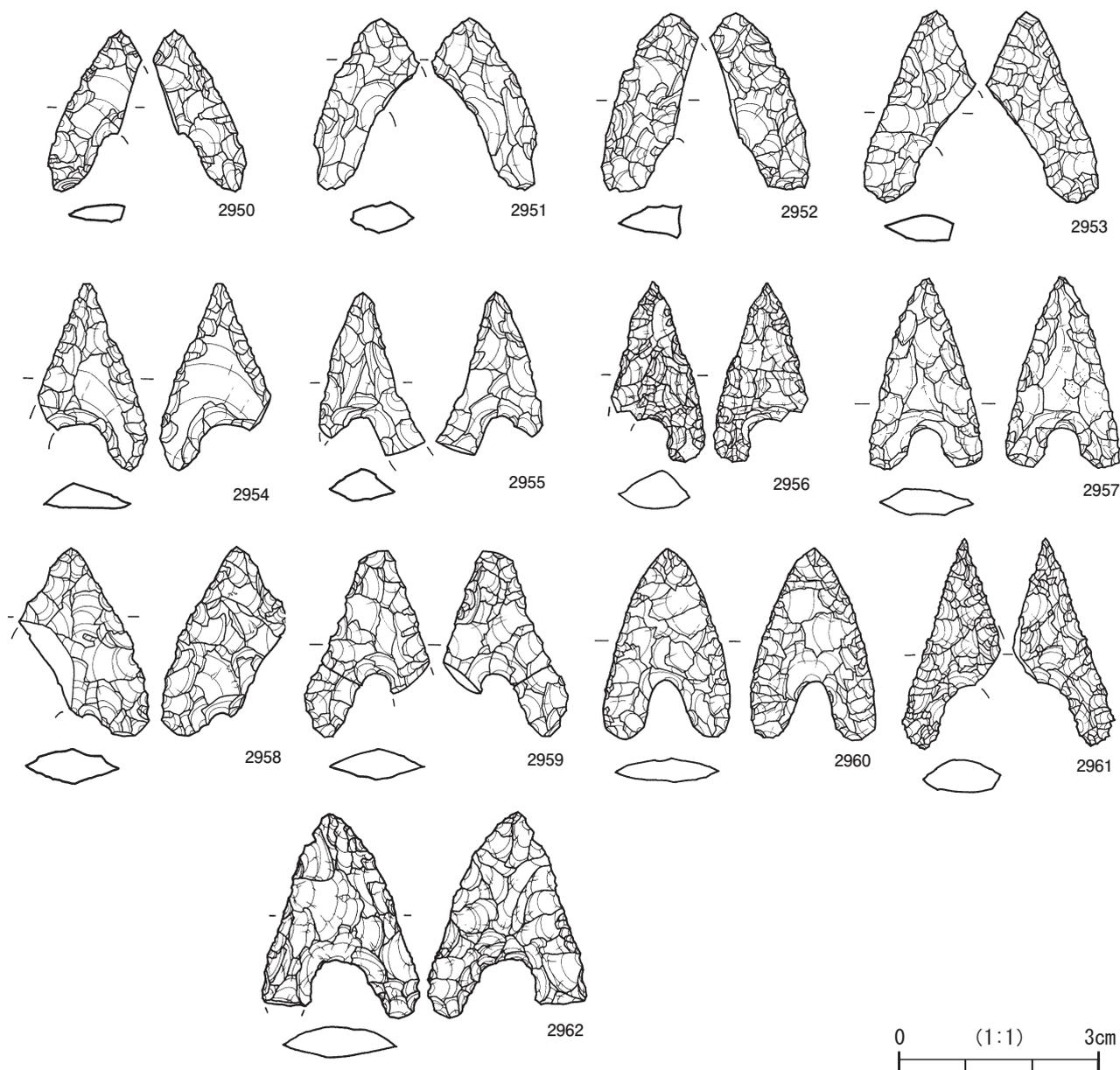


第 535 图 VI 层出土石器 (22)



0 (1:1) 3cm

第 536 图 VI 层出土石器 (23)



第 537 図 VI層出土石器 (24)

は体部に厚みを残す。2611・2617・2620 は側縁部の上部に緩い屈曲をもつ。

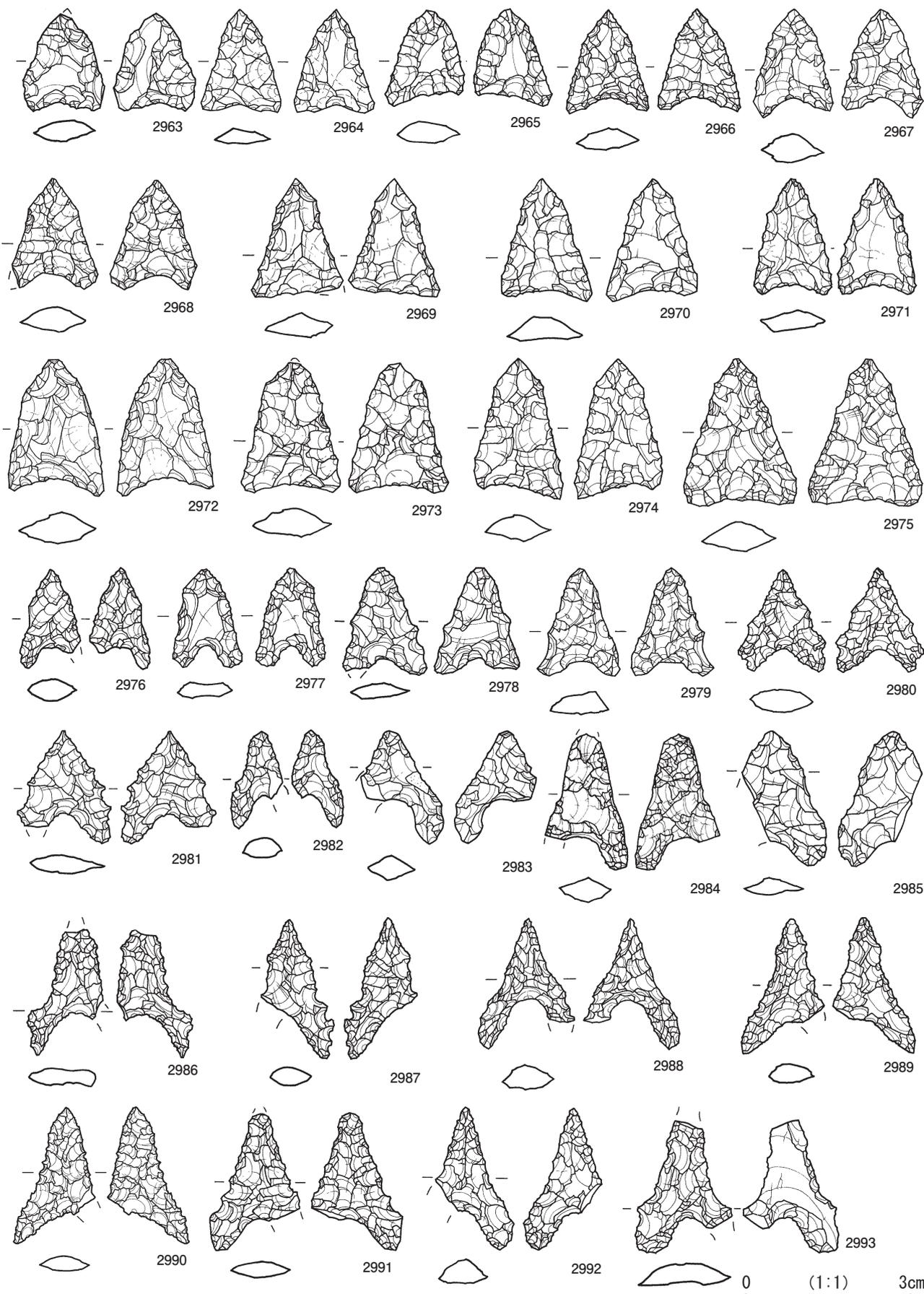
Ⅲ c 類 (第 526 ~ 528 図 2623 ~ 2715)

2623 ~ 2715 は基部の挟りが外側に開き、脚部の先端部が尖るものである。側縁部が直線的なものと、側縁部の中央部で屈曲するものがある。2626・2684 は側縁部が鋸歯状に仕上げられ、2629・2634 は剥片鏃である。2646 はチャートを素材とし、先端部も鋭く作り出し、丁寧に成形される。側縁部の中央部に屈曲をもつ 2644・2645・2647・2663・2691・2692・2694 ~ 2700・2713 の脚部の先端は鋭く作り出し、安山岩または針尾・淀姫産黒曜石を使用するものが多い。2692 は脚部、2708 は側縁部が

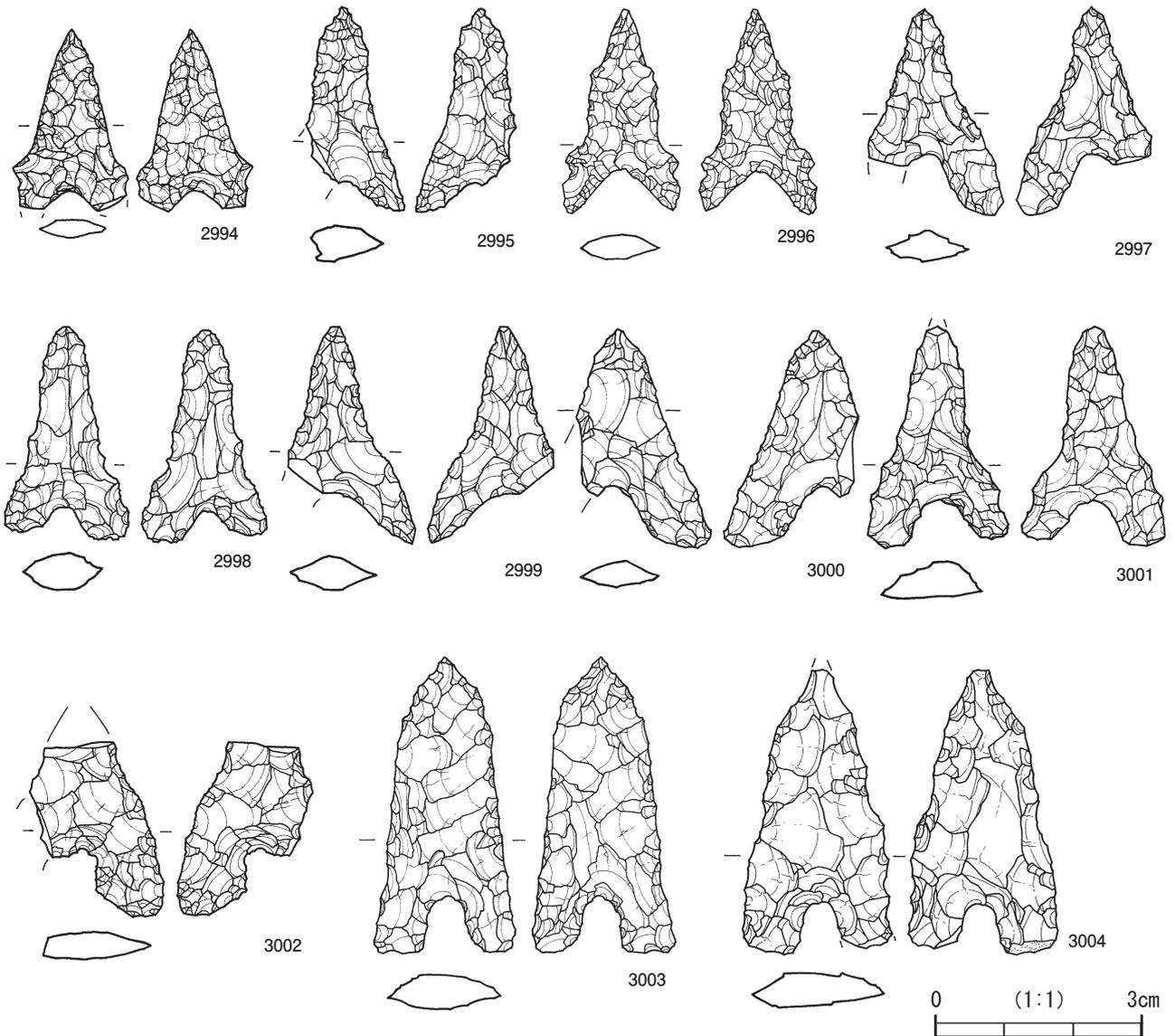
左右非対称である。2715 は針尾・淀姫産黒曜石を素材とし、長さが 3.8cm と大型である。

Ⅲ d 類 (第 529 ~ 532 図 2716 ~ 2818)

2716 ~ 2818 は基部に「U」字状の挟りをもち、脚部の先端が平らなものである。側縁部が直線的なものと、丸味を帯びるものがある。Ⅲ d 類には鋏形鏃が含まれ、これらはチャートまたは頁岩を素材とする。2722 はチャートを素材とし、脚部の先端はやや丸味を帯びるが、丁寧に成形される。2726 は剥片鏃で、左右非対称である。2748・2749 の石材は異なるが、形状が類似しており、2755 の先端部は錐状になる。2783 ~ 2785・2787・2789 はチャートまたは頁岩、2794 ~ 2796 は針尾・淀姫産黒曜石を素材と



第 538 图 VI 层出土石器 (25)



第 539 図 VI層出土石器 (26)

し、それぞれ形状が類似する。2806～2810もチャートまたは頁岩を素材とする。2813～2818は長さが3cmを超す大型の資料であり、2815は側縁部の下部に屈曲部をもつ。

### Ⅲ e類 (第 533～537 図 2819～2962)

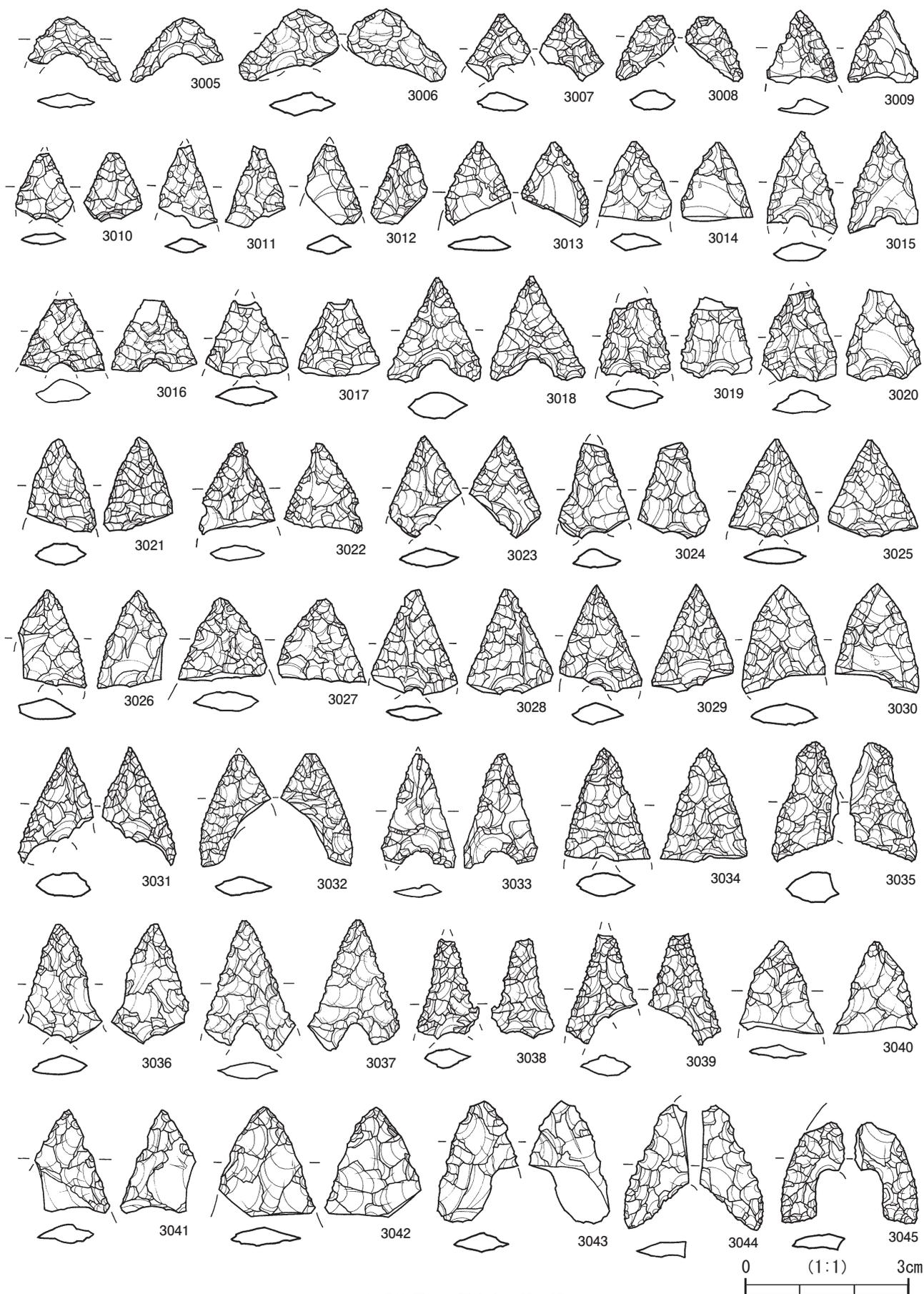
2819～2962は基部に「U」字状の抉りをもち、脚部の先端が尖るものである。2825・2828は剥片鏃であり、2830・2862・2867・2898・2899・2906の裏面は主要剥離面を残す。2843・2844は脚部が左右非対称である。2845は先端部が丸く、2853の側縁部は鋸歯状に仕上げ、脚部は左右非対称である。2869・2912は玉髄を素材とし、丁寧に成形され、2912の先端部は錐状になる。2869～2873・2907～2925は長脚鏃であり、チャートを素材とし、側縁部を鋸歯状に仕上げるものが多い。2926～2932は体部に厚みがあり、基部にわずかな抉りが入る。2941・2942・2946・2953・2960の脚端部は丸く仕上げる。2961

はチャート、2962は頁岩を素材とし、長さは3cmを測り、深く大きな抉りが入る。

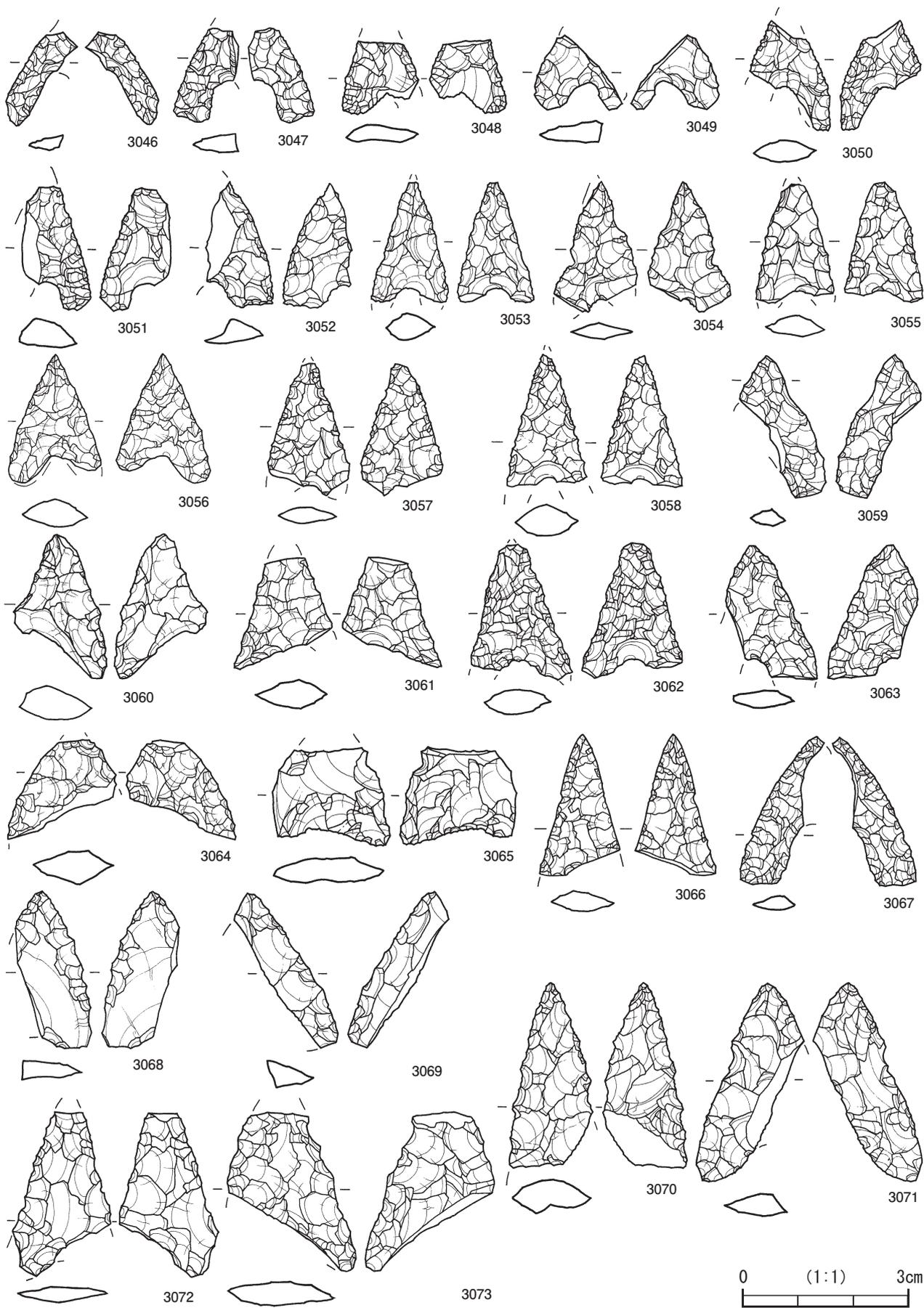
### Ⅳ類 (第 538・539 図 2963～3004)

五角形鏃は2963～3004の42点図化した。両側縁の上部に屈折部をもつ将棋の駒型や、両側縁の下部に屈折部をもち脚部へ至るものなど、五角形のバリエーションがある。使用する石材はおよそ半数が黒曜石であり、中でも姫島産黒曜石は8点、針尾・淀姫産黒曜石は7点と多用されている。2963～2977は将棋の駒型を呈し、基部の形状は浅い抉りをもつものが多い。3003・3004は将棋の駒型の長身タイプであり、長さが4cmを超える大型の資料である。安山岩を素材とし、基部に「U」字状の深い抉りをもつ。2978～3002は両側縁の中部～下部に屈折部をもつ。2980・2981は相似し、飛行機鏃に近い。2986・2987・2991・2993・2994・2996は両側縁部の屈折

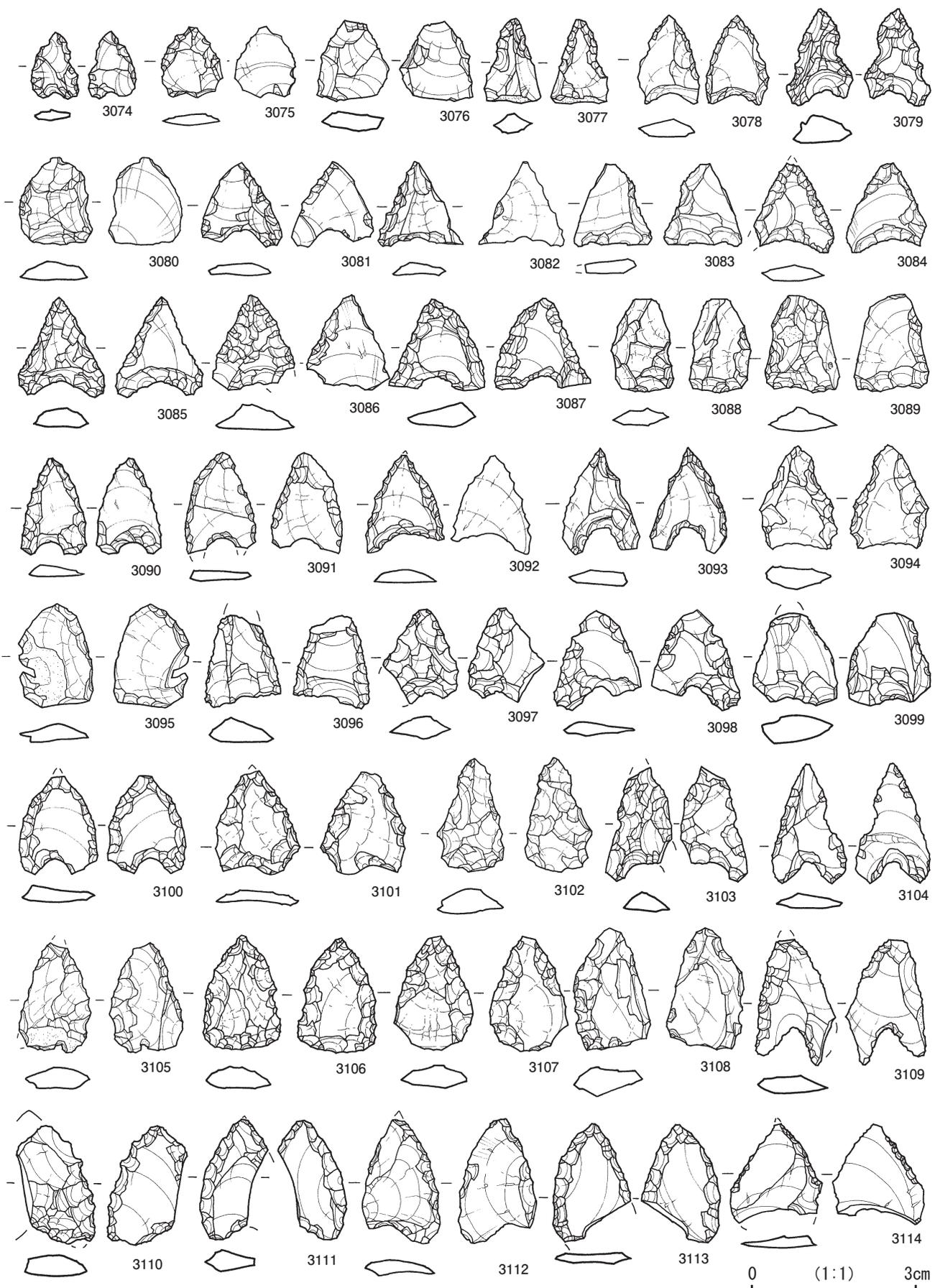




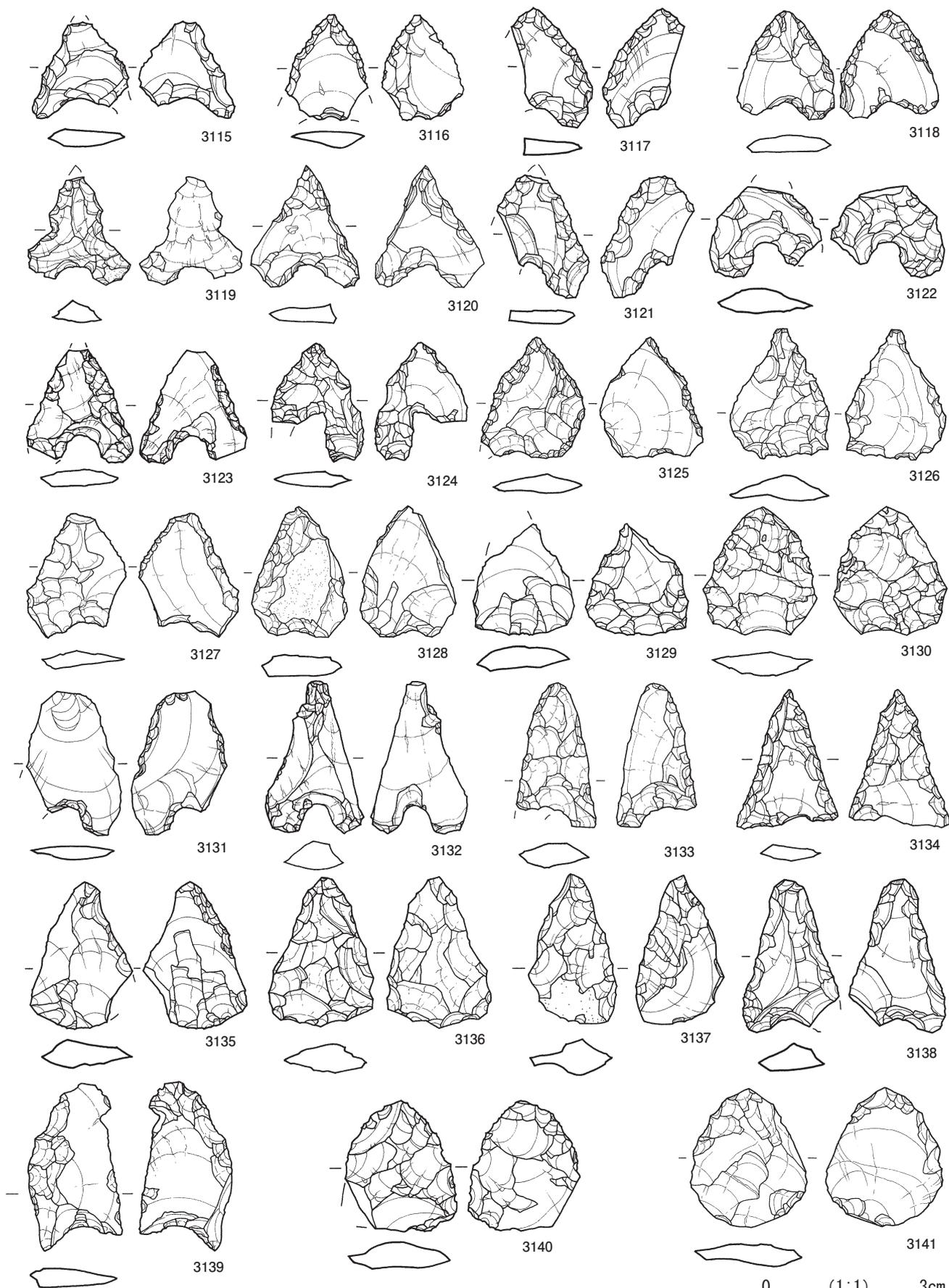
第 540 图 VI 层出土石器 (27)



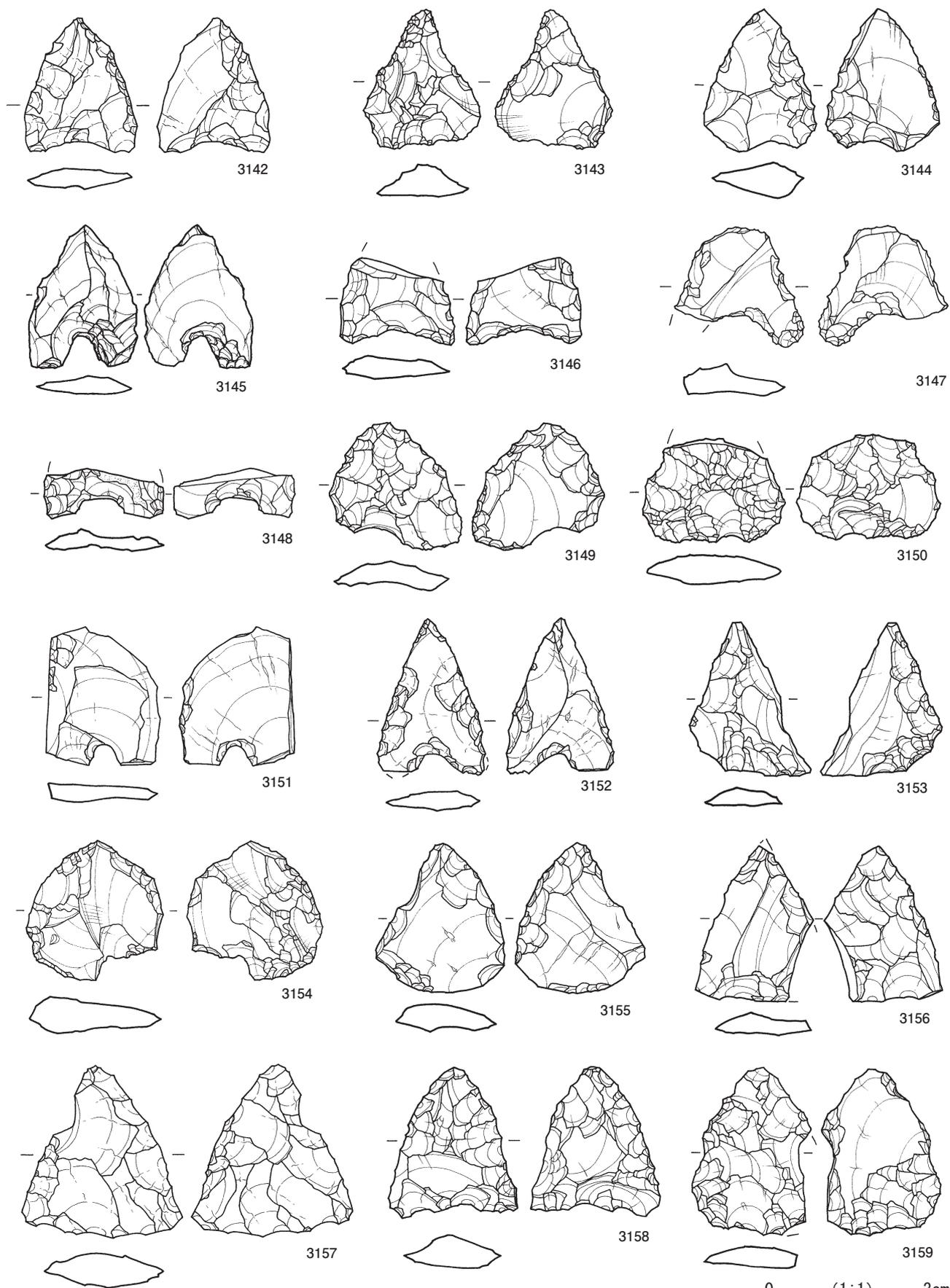
第 541 图 VI 层出土石器 (28)



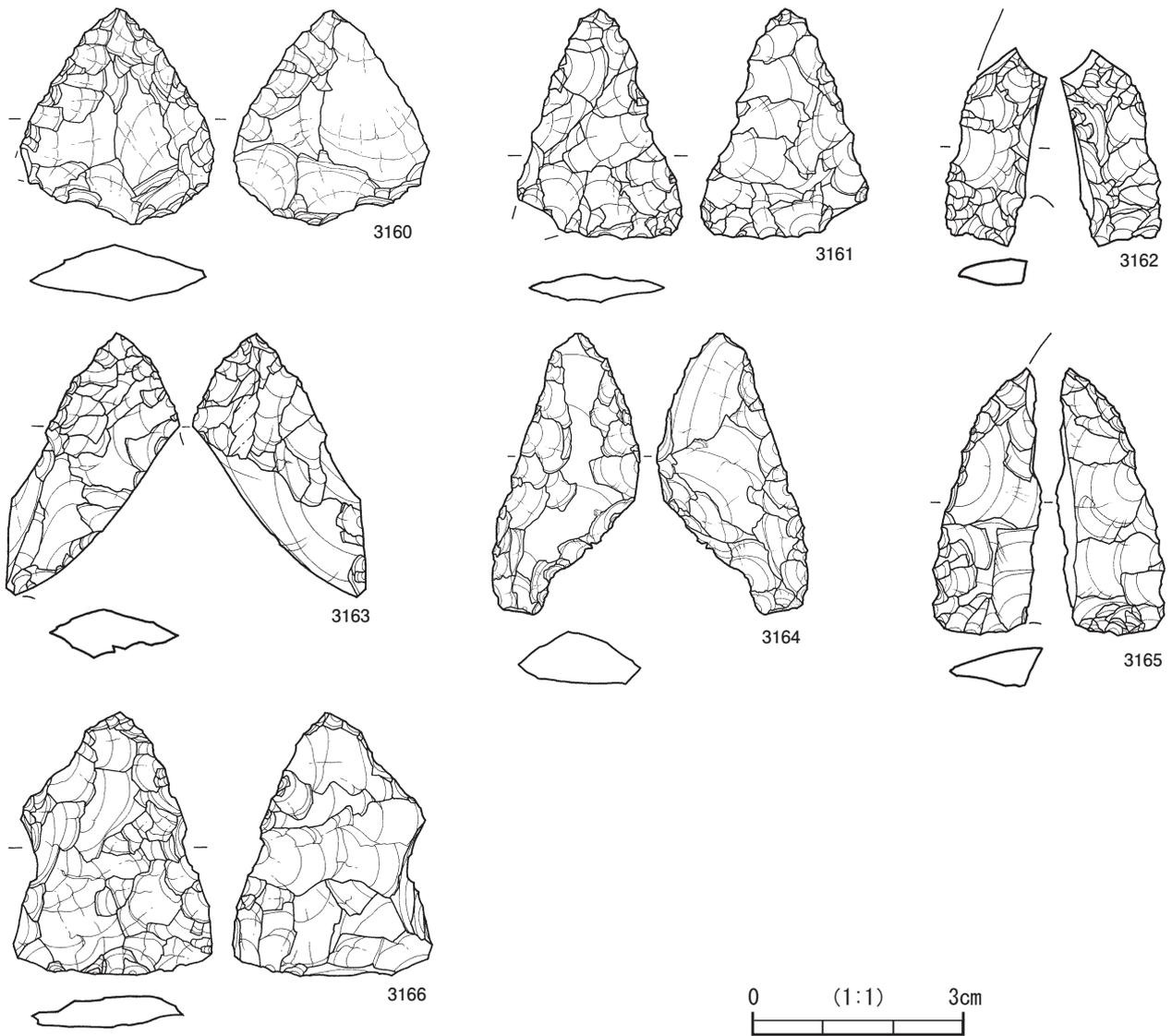
第 542 图 VI 层出土石器 (29)



第 543 图 VI 层出土石器 (30)



第 544 图 VI 层出土石器 (31)



第 545 図 VI層出土石器 (32)

部が棘状に突出し、抉りが深い。

**V類 (第 540・541 図 3005～3073)**

V類は I～IV類に当てはまらないもの及び欠損のため全体の形状が不明なものを一括した。3005・3006 は幅が長さを上回るもので、I～IV類の分類に当てはまらない。3005 は安山岩、3006 は三船産黒曜石を素材とする。3007～3043・3048～3073 は基部や脚部等の一部分が欠損し、3044～3047 は脚部のみ残存する。3030 は姫島産黒曜石を素材とし、側縁部の形状などから五角形鏃の可能性が高い。

**VI類 (第 542～548 図 3074～3221)**

VI類は未製品の資料であり、3074～3166 は剥離面を多く残し、体部が薄く、剥片鏃に近い。3075・3080・3082・3092 の裏面は主要剥離面をそのまま残し、周縁部に調整を施していない。3151 は剥片に抉りを入れたとこ

ろで、製作を止めている。

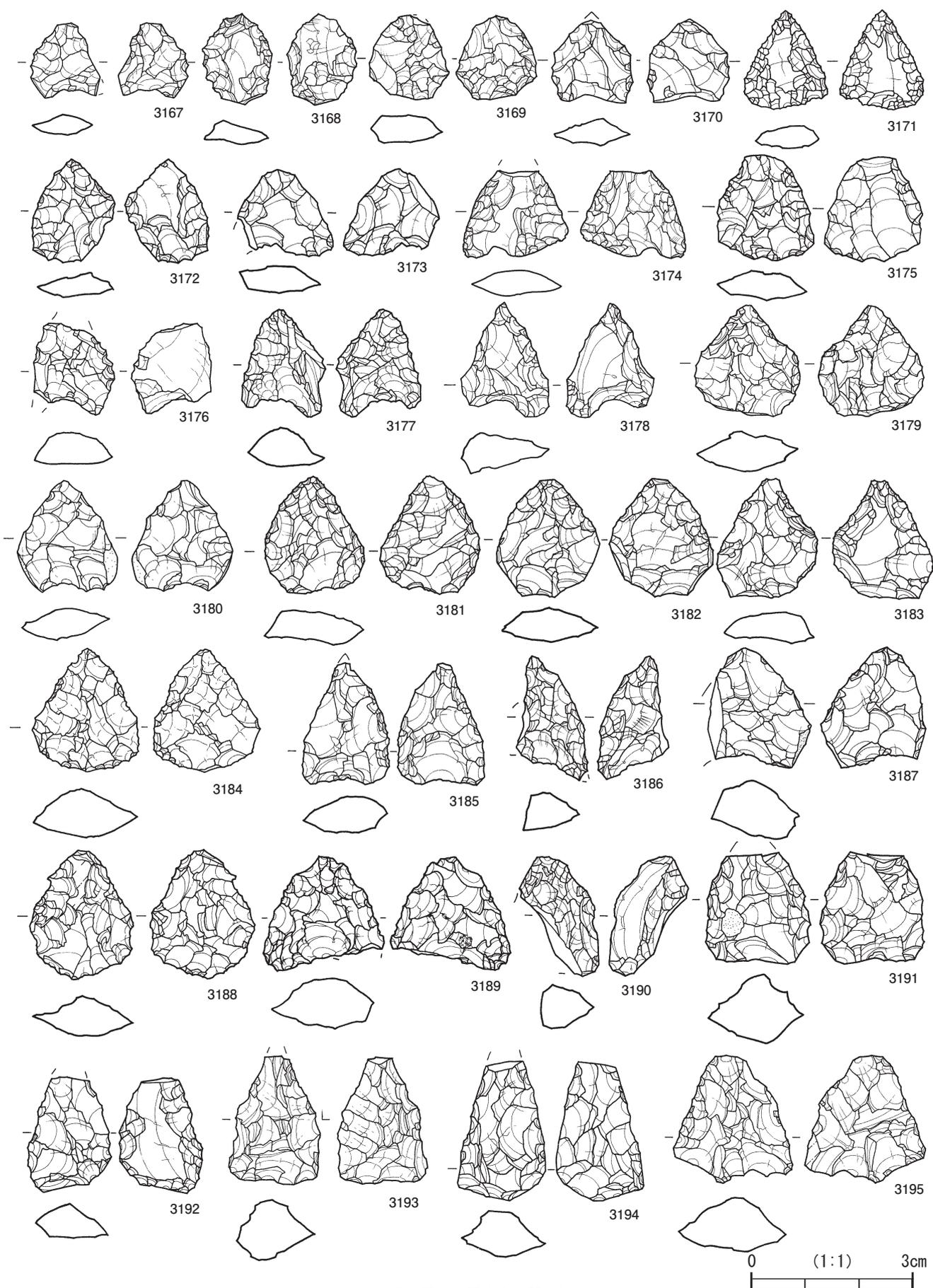
3167～3221 は剥離面が多く残され、体部に厚みがある。基部が円基となる資料もみられる。3211 は安山岩を素材とし、遺構内出土石器の 67 (アサリ形石製品) に類似する。

**(2) 磨製石鏃 (第 549 図 3222・3223)**

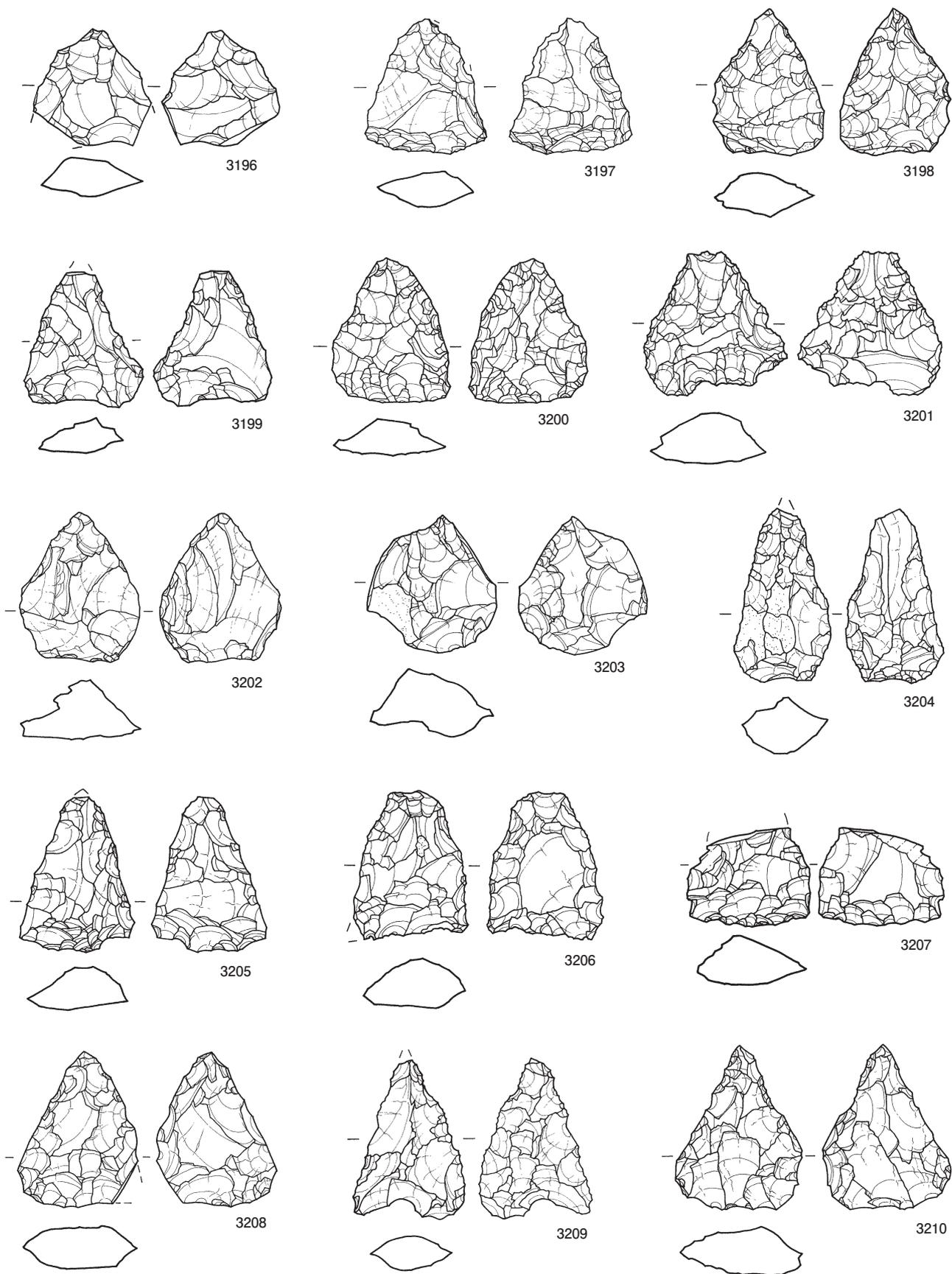
3222 は頁岩を素材とし、両面が丁寧に研磨され、体部が薄い。3223 は安山岩を素材とする、局部磨製石鏃である。研磨後に側縁部及び基部に押圧剥離が施される。側縁の上部に屈折部を持つ将棋の駒型の五角形に近い。

**(3) 石槍 (第 549 図 3224～3226)**

石槍は 3 点図化した。3224・3225 は安山岩、3226 は頁岩を素材とする。3 点とも柳葉状を呈すると考えられ、3225・3226 は一部欠損するが、長さが 9～10cm 前後であり、3226 は両面とも主要剥離面を大きく残す。



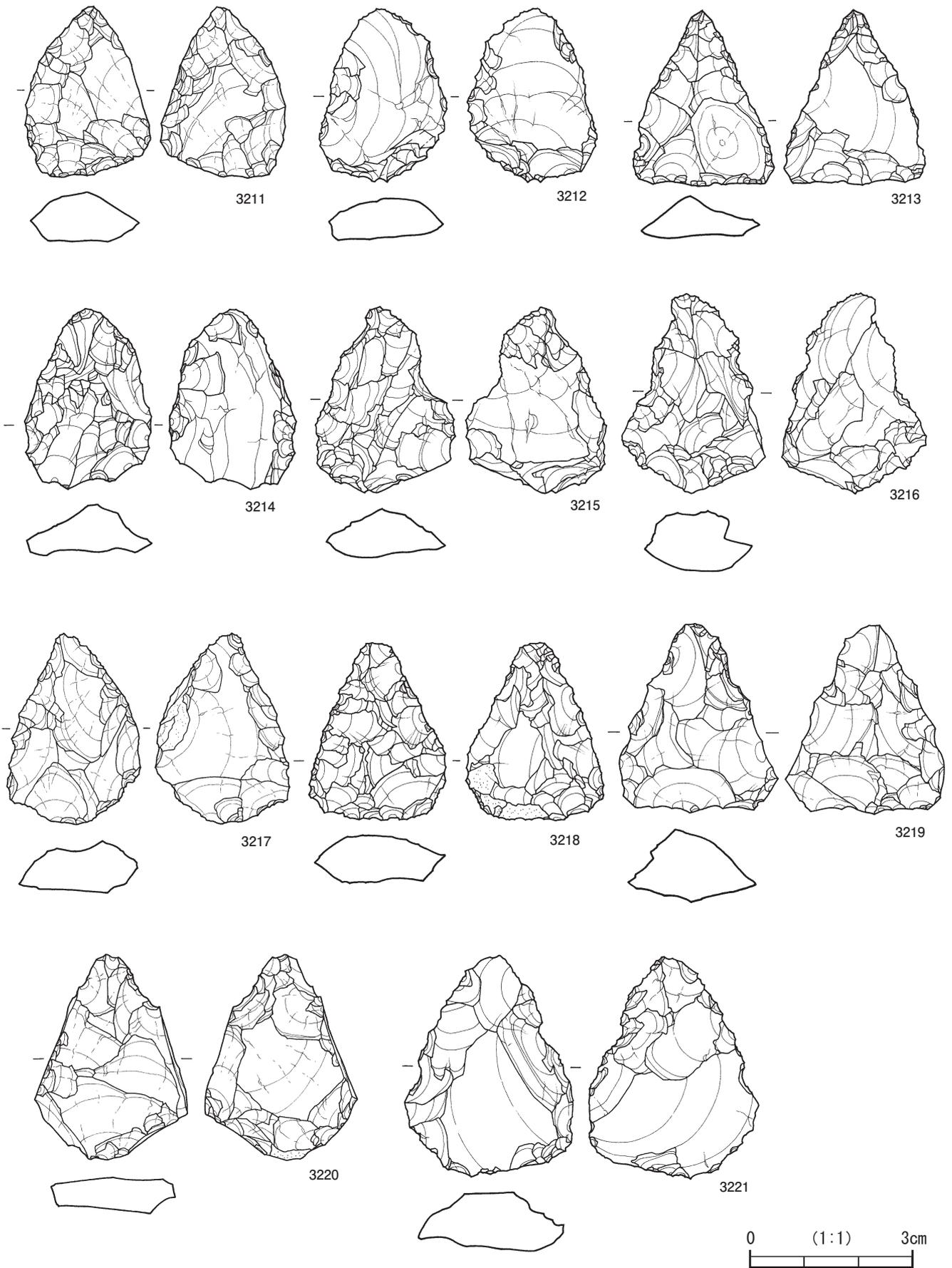
第 546 图 VI 层出土石器 (33)



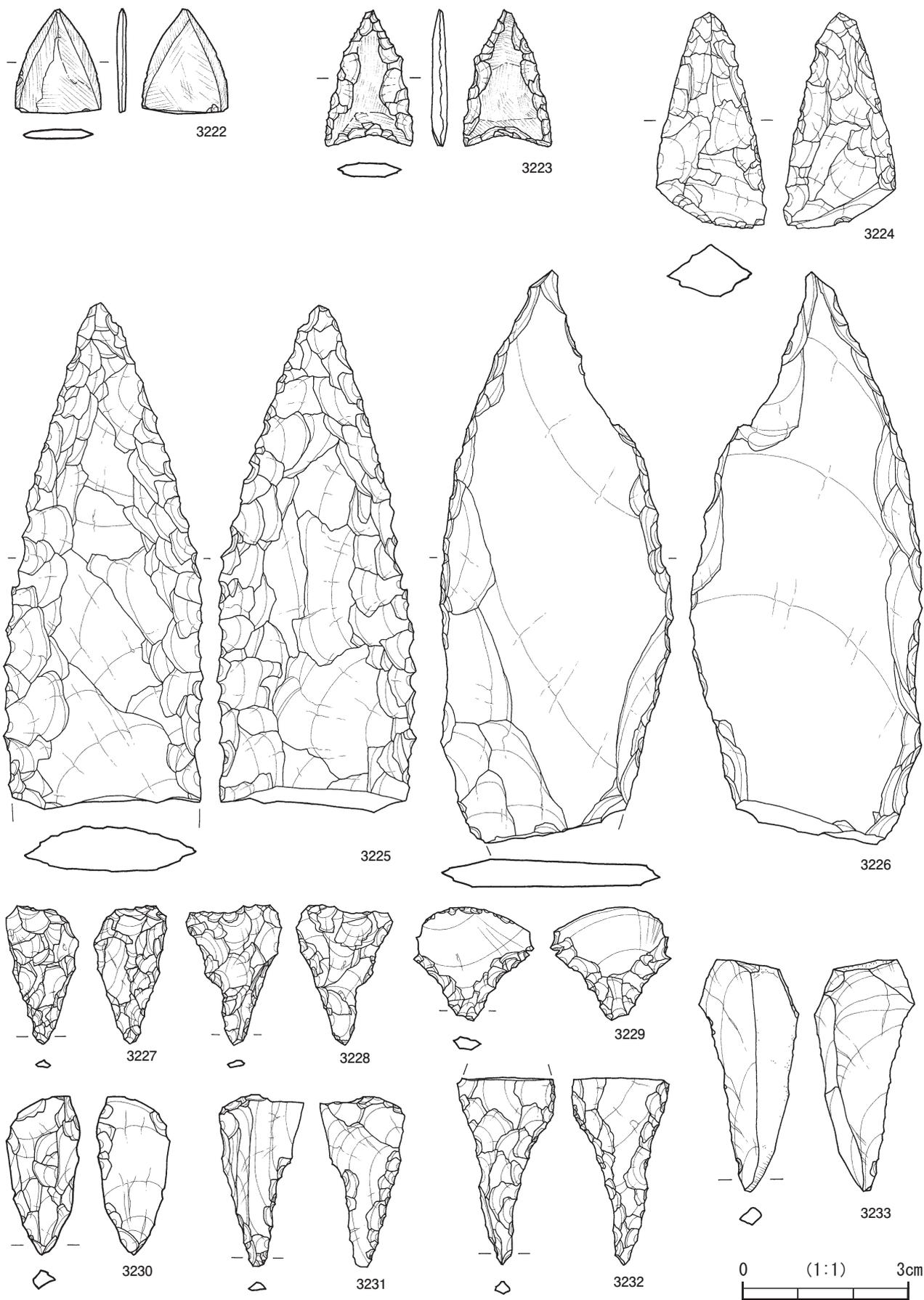
0 (1:1) 3cm

第 547 图 VI 层出土石器 (34)





第 548 图 VI 层出土石器 (35)



第 549 图 VI 层出土石器 (36)

#### (4) 石錐 (第 549 図 3227 ~ 3233)

石錐は 7 点図化した。3227 ~ 3233 は安山岩や針尾・淀姫産黒曜石、三船産黒曜石、頁岩を素材とし、長さは 3 cm 前後のものが多い。3233 は自然面を残す右側縁部に、明瞭な摩耗痕がみられる。

#### (5) 小型両面加工石器 (第 550 図 3234 ~ 3246)

小型の剥片及び礫素材のほぼ全周に二次加工を施したものを小型両面加工石器とし、3234 ~ 3246 の 13 点図化した。3234・3235 は針尾・淀姫産黒曜石を素材とし、3235 は両面を加工することから凸レンズ状を呈する。3236・3237 は水晶を素材とする。3240 は搔器状の機能が考えられ、3242 は自然面を多く残す。3243 ~ 3246 は頁岩を使用し、3245 は腹面を中心に刃部が形成される。

#### (6) 石匙 (第 551 ~ 561 図 3247 ~ 3312)

石匙は 3247 ~ 3312 の 66 点図化した。石材は安山岩が多く、チャート・頁岩・黒曜石・ホルンフェルスなどが使用される。

3247 ~ 3266 は縦型である。3249 は厚さが 0.40cm と薄い。3254 はつまみ部が厚く、自然面を残し、刃部は両側縁部に形成される。3258 は刃部に刃こぼれが認められる。3259 は左側縁部に、3263 は刃部の先端部近くに、ノッチ状の抉りをもつ。3265 は姫島産黒曜石を素材とし、3266 ははつまみ部の頂部にも浅い抉りをもつ。

3267 ~ 3307 は横型である。3267 ~ 3276 は直刃もしくは丸刃であり、3277 ~ 3279 は体部が逆三角形のため、刃部は斜刃になる。3280・3281 はほぼ左右対称で完形であり、3284 は玉髓、3293 はホルンフェルスを素材とする。3296 は姫島産黒曜石を素材とし、3296・3297 は体部が方形に近い。3299・3300・3304 ~ 3306 のつまみ部は体部に対して小さく細い。3307 は粘板岩を素材とし、幅が 10.02cm と最大である。

3308・3309 は欠損品、3310 ~ 3312 は異形石器の可能性がある。3310・3312 は抉りが数箇所のみられ、3311 はつまみ部が欠損し、刃部の中央部が凹む。

#### (7) 削器 (第 562 ~ 565 図 3313 ~ 3338)

削器は 3313 ~ 3338 の 26 点図化した。3313 ~ 3315 は調整剥片の可能性があり、3319 は上下は欠損するが、両端に刃部を形成する。3324 は平面形が三角形に加工され、石鈔の可能性もある。3326 は日東産、3327 は針尾・淀姫産黒曜石を素材とする。3328 ~ 3334・3336 は横長剥片、3335 は縦長剥片を使用する。3337 は安山岩、3338 は針尾・淀姫産黒曜石を素材とし、上下両端が凹み、両側縁部にくびれをもつ、糸巻形石器に類似する。

#### (8) 搔器 (第 565 図 3339・3340)

3339 は姫島産黒曜石製の搔器で、表面に刃部を形成する。3340 はチャートを素材とし、上部は欠損する。

#### (9) ツマミ状石器 (第 565 図 3341)

3341 は剥片素材に二次調整を加え、下端部及び右側縁

部には刃部を作り出す。つまみ部分は断面形が三角形になる。産地は不明だが黒曜石を素材とする。

#### (10) 彫器 (第 565 図 3342)

槌状の細長い剥離によって、彫刀面をもつ石器である。3342 は縦長剥片の右側辺上部に二次加工が施され、左側辺部の上面から槌状剥離がみられることから彫器とした。

#### (11) ヘラ状石器 (第 566 図 3343 ~ 3347)

ヘラ状石器は 5 点図化した。3343 ~ 3347 はチャートや安山岩、ホルンフェルスを素材とする。3346 は厚さが 0.57cm と薄く、3345 は欠損品と考えられる。3347 は上面に自然面を残し、両側縁部及び下端部は連続的な剥離を行い、刃部を作り出す。

#### (12) 楔形石器 (第 567 図 3348 ~ 3362)

楔形石器は 15 点図化した。3348 ~ 3362 は長さが 2 ~ 3 cm 前後の資料であり、安山岩やチャート、黒曜石を素材とする。3349 は桑ノ木津留産黒曜石を素材とし、上端部に潰れがみられる。3351 の上端部は鑿のように鋭く、3357 は下端部が錐状に尖る。

#### (13) 二次加工剥片 (第 568 ~ 574 図 3363 ~ 3455)

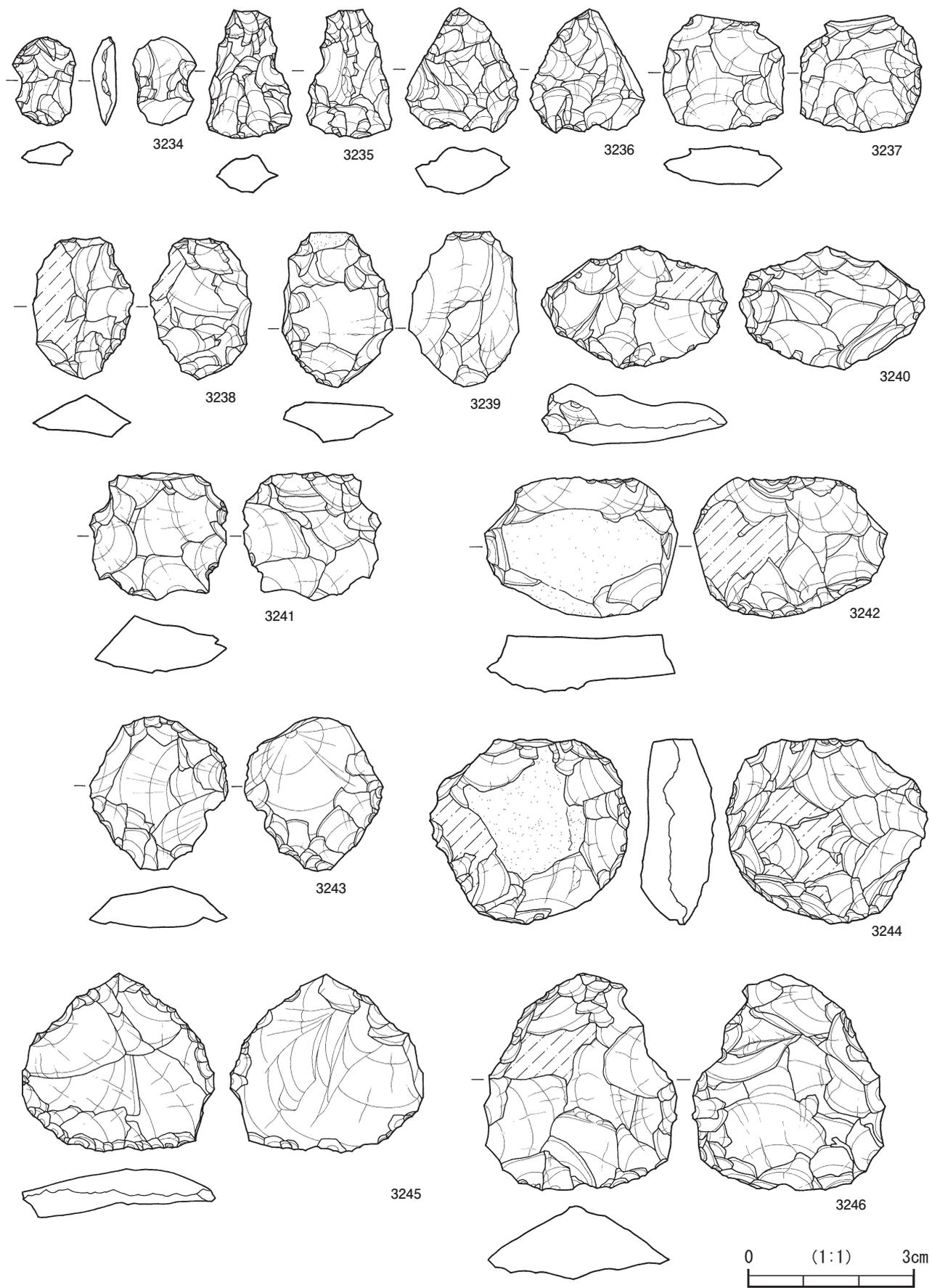
二次加工剥片は 93 点図化した。一部は削器や搔器などに含まれるものもある。3364・3366・3378・3379 は薄い剥片のほぼ全周に二次加工を行い、3380 は石鏃、3386・3408 は石匙の破損品の可能性もある。3391・3392 は抉りが入り、3395 は姫島産黒曜石の剥片の側縁部の一部を鋸歯状に二次加工する。3423 は破損のため器種不明であり、3428 ~ 3432 は下端部に削器様の刃部加工がみられる。3439 も下端部に微細な剥離痕がみられ、3440 は表裏面に研磨痕が残るため、磨製石器の再加工作品と考えられる。3447 は右側縁部の一部、3452 は下部が欠損するが、両側縁部に刃部加工がみられる。3450 は頁岩、3451 はチャートを素材とし、3451 は上部に左右から抉りを入れる。3454 の上面は礫面であり、3455 は下端部に刃部加工がみられる。

#### (14) 礫器 (第 575 図 3456 ~ 3469)

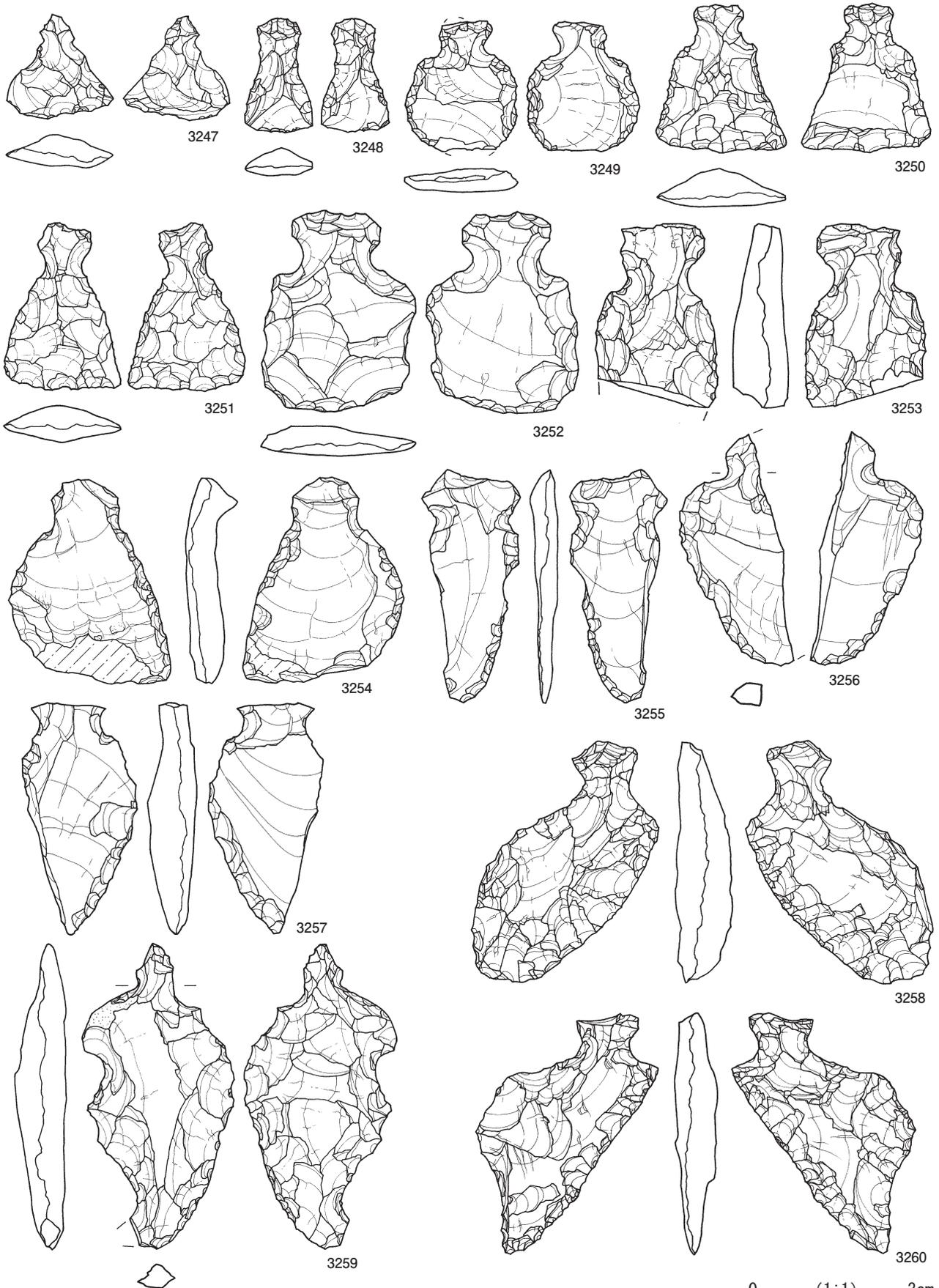
礫器は 14 点図化した。3456 ~ 3469 は安山岩・ホルンフェルス・砂岩・頁岩の扁平な礫を素材とする。3457 は表裏面に節理面を残し、周縁部に剥離を加え、楕円形に整形される。3460 は棒状を呈し、3462 は裏面に擦痕がみられる。3463・3469 は周縁部に剥離を加え、3469 は両側縁部に浅い抉りをもつ。

#### (15) 石核類 (第 576 ~ 578 図 3470 ~ 3493)

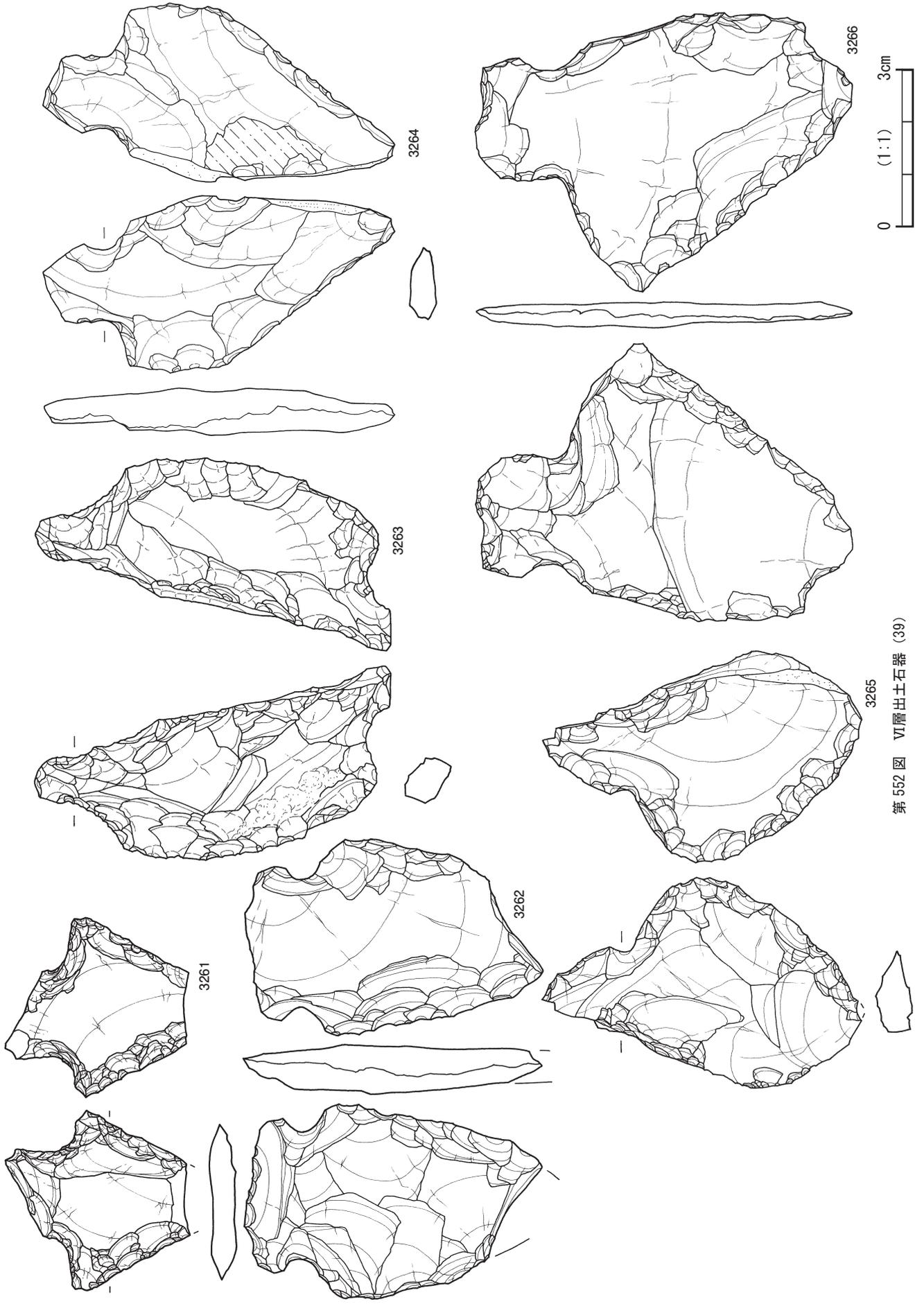
石核類は 24 点図化した。そのうち 3470 ~ 3472 の 3 点は細石核の可能性が高い。3473 ~ 3493 は石核であり、3477 は針尾・淀姫産黒曜石の円礫を使用する。3482 の裏面は礫面、3484 は礫面を打面とし、3488 は円礫を使用する。3490・3491 は針尾・淀姫産黒曜石を使用し、3490 は周縁から剥片素材を取り出す。



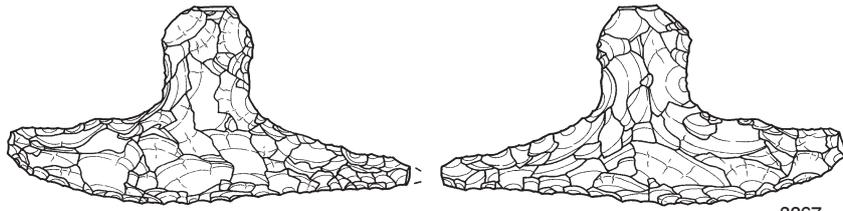
第 550 图 VI 层出土石器 (37)



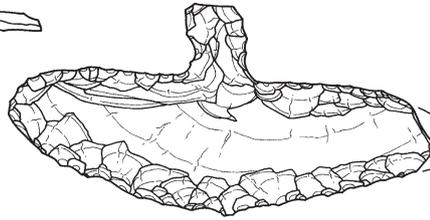
第 551 图 VI 层出土石器 (38)



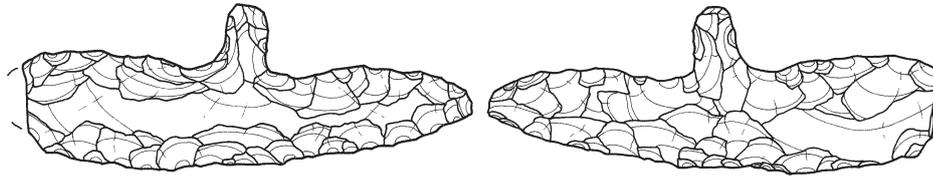
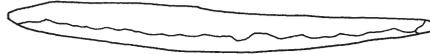
第 552 図 VI層出土石器 (39)



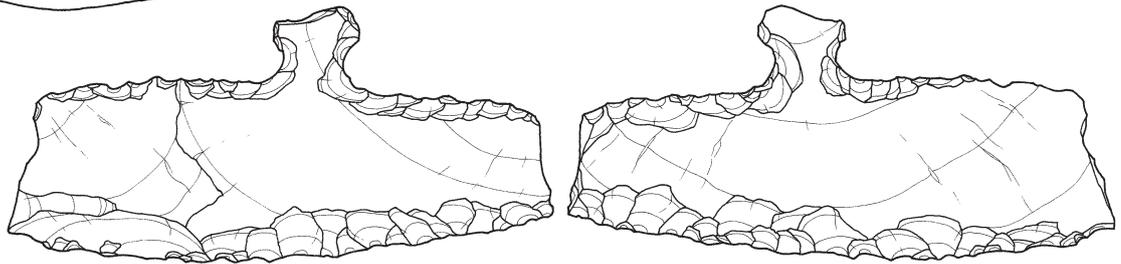
3267



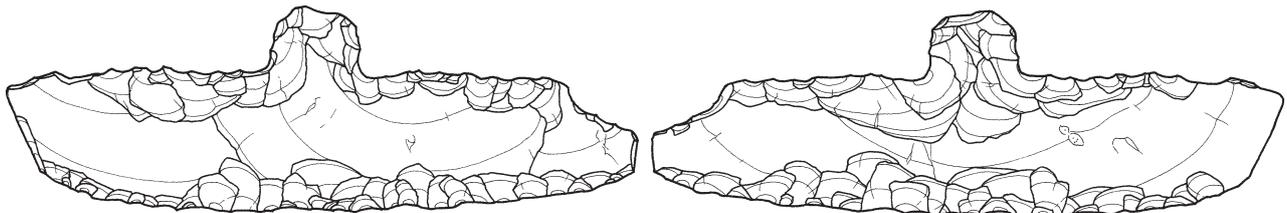
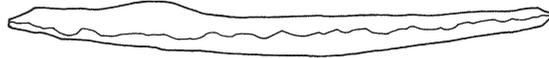
3268



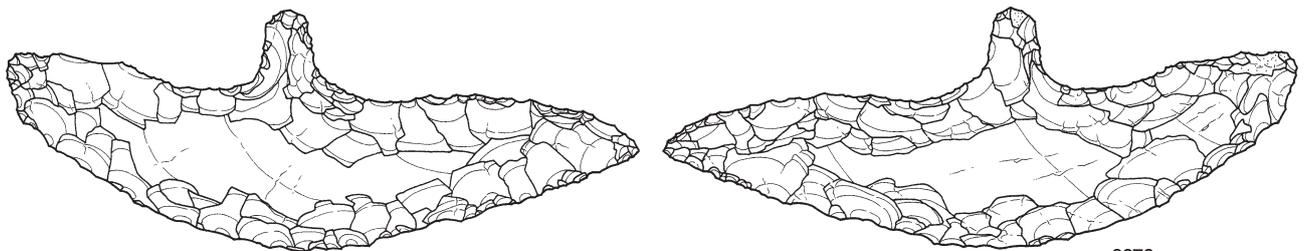
3269



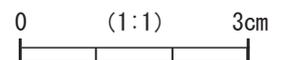
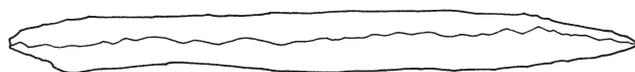
3270



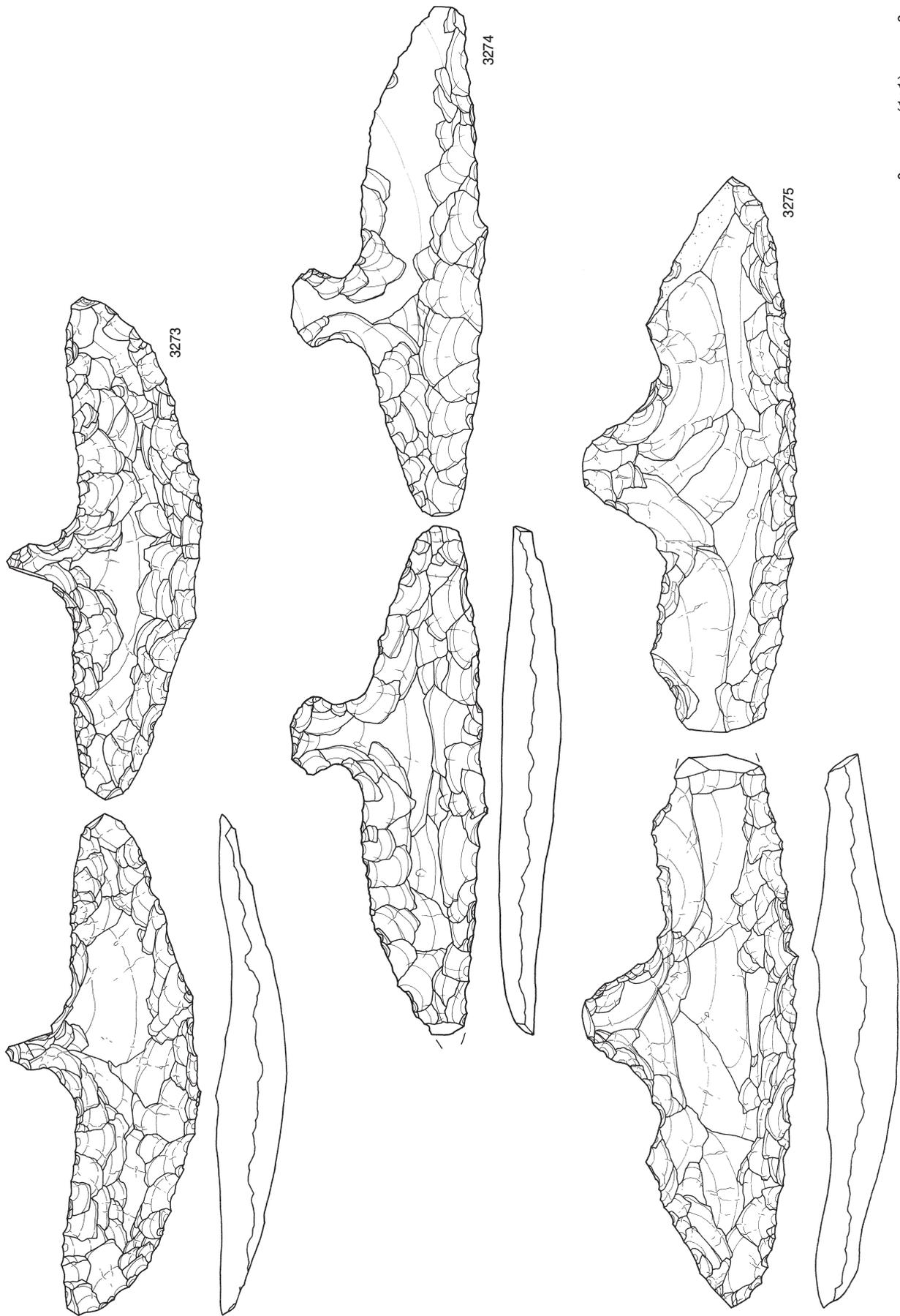
3271



3272



第 553 图 VI 层出土石器 (40)

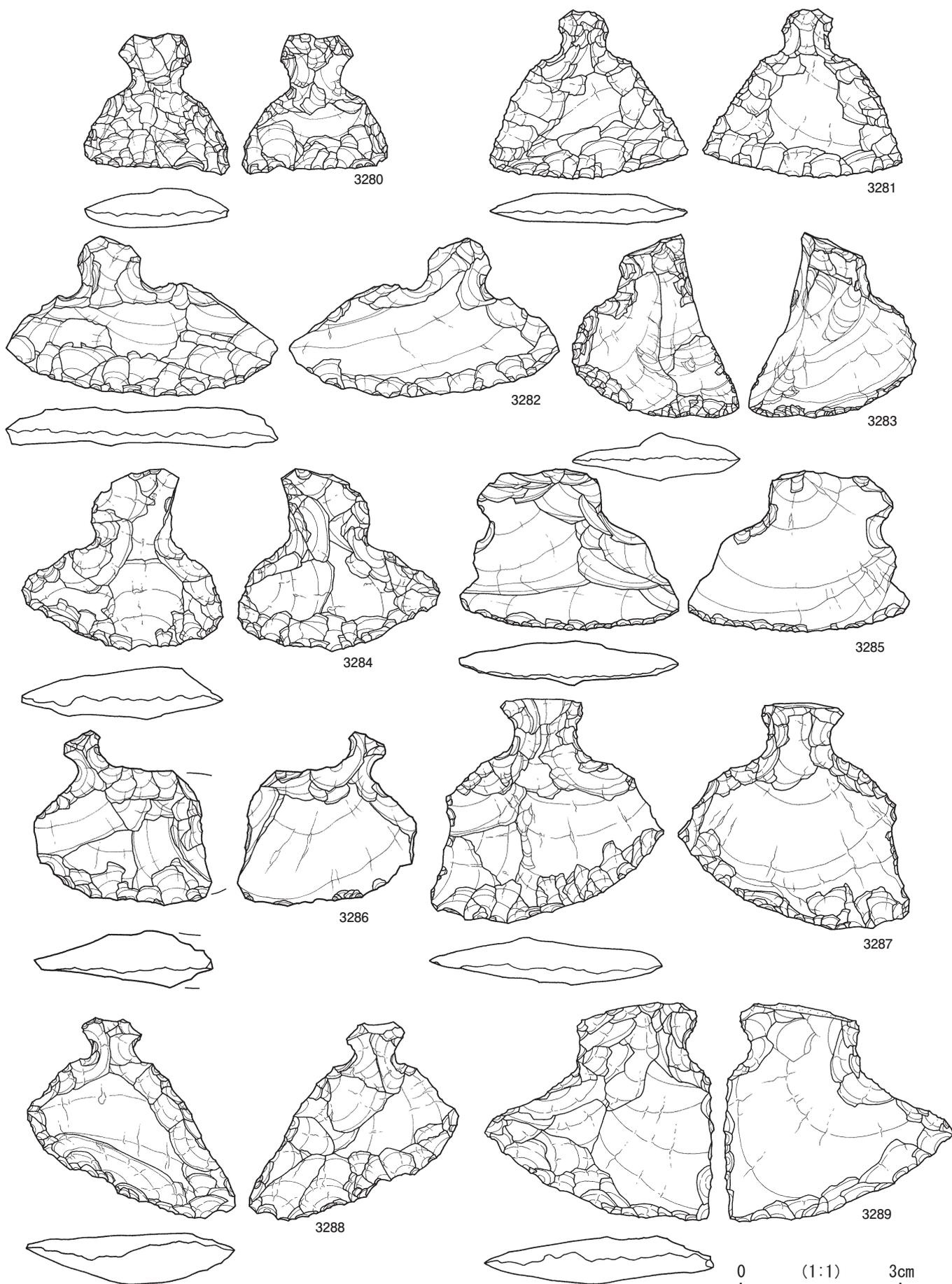


第 554 图 VI 层出土石器 (41)

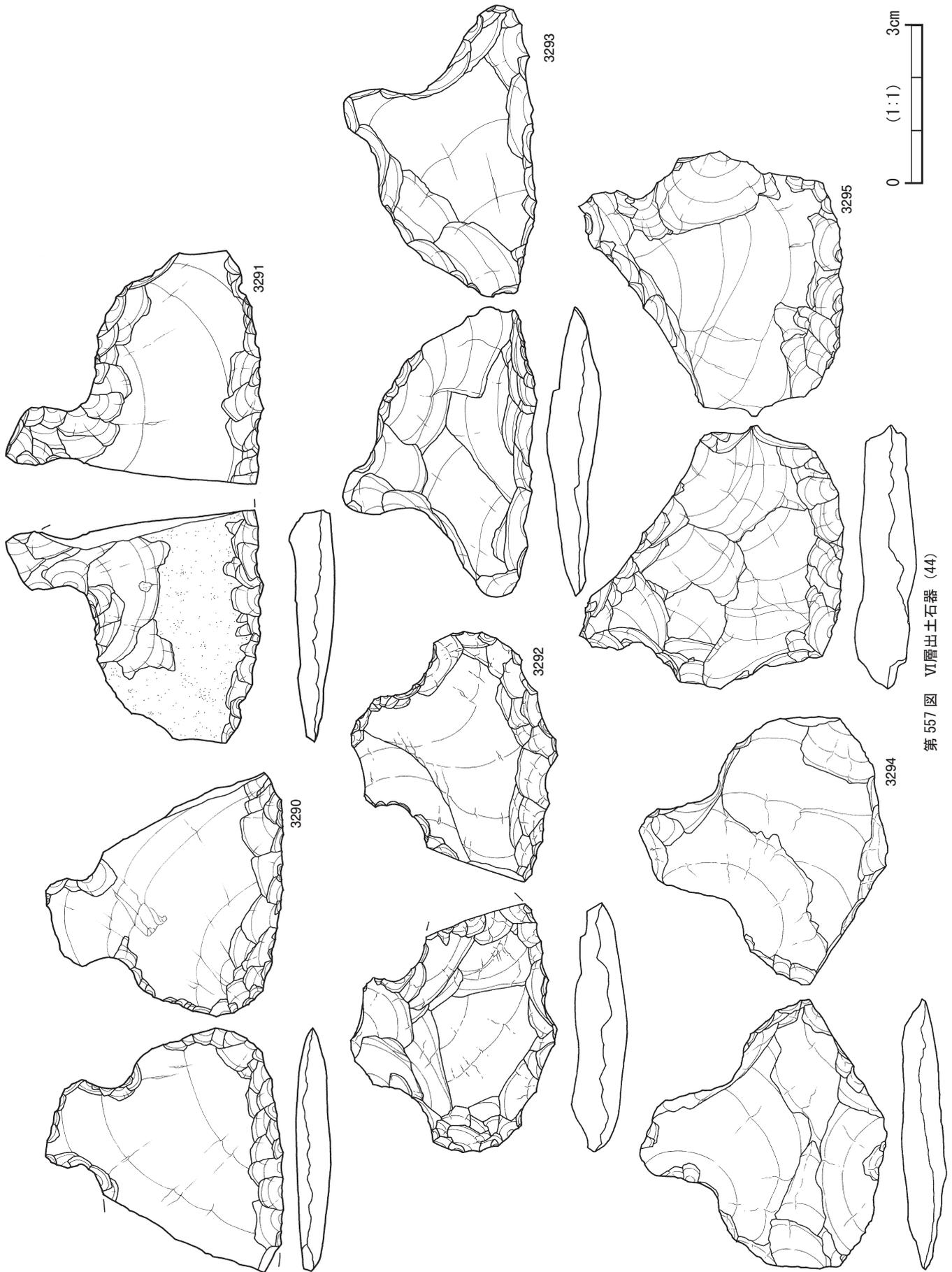




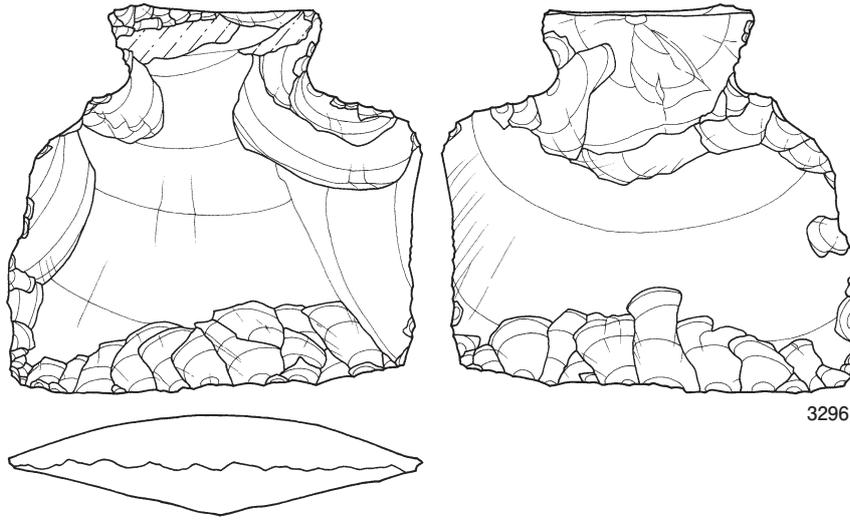
第 555 図 VII層出土石器 (42)



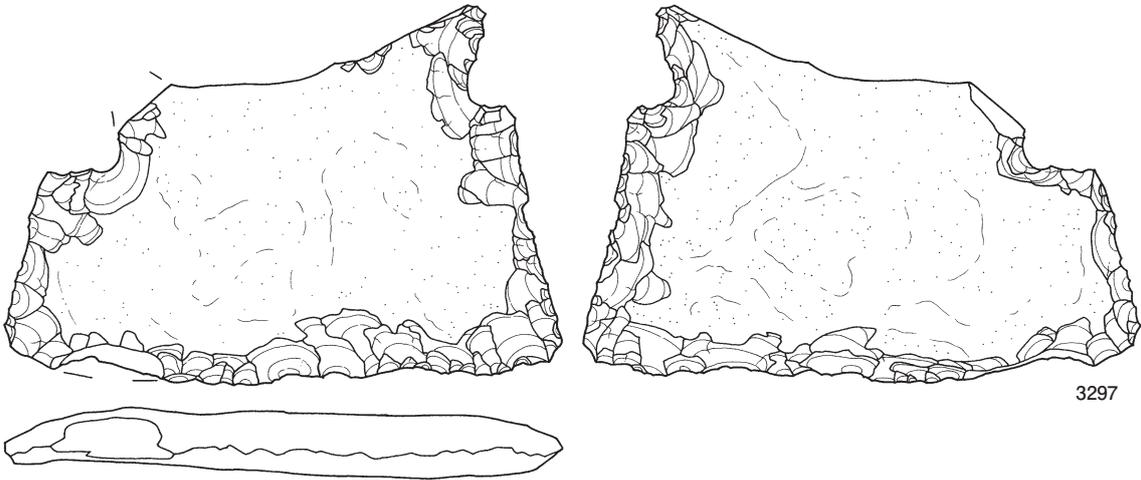
第 556 图 VI 层出土石器 (43)



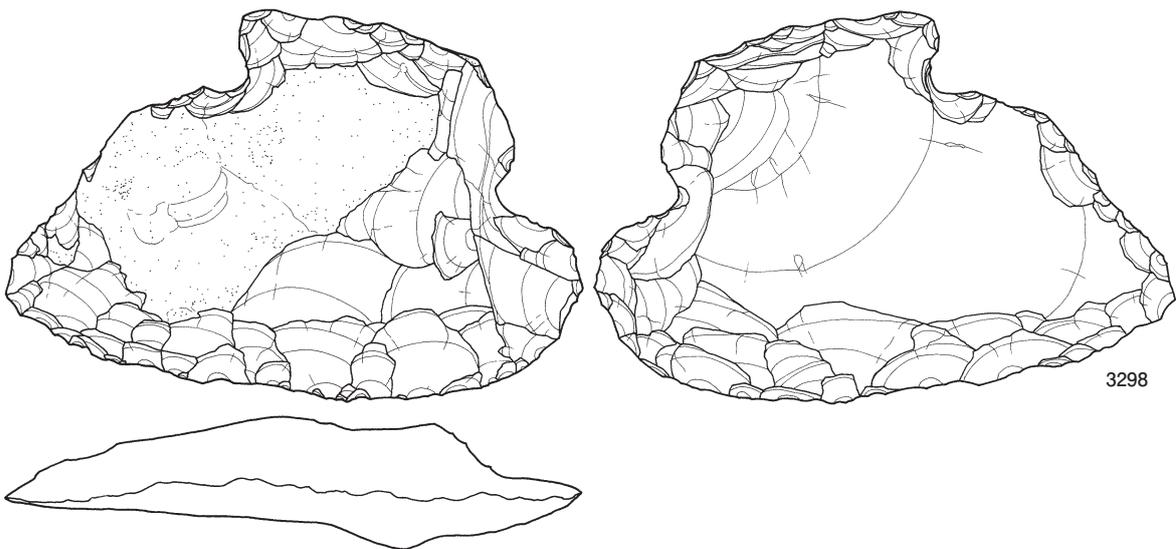
第 557 図 VI層出土石器 (44)



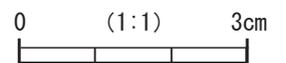
3296



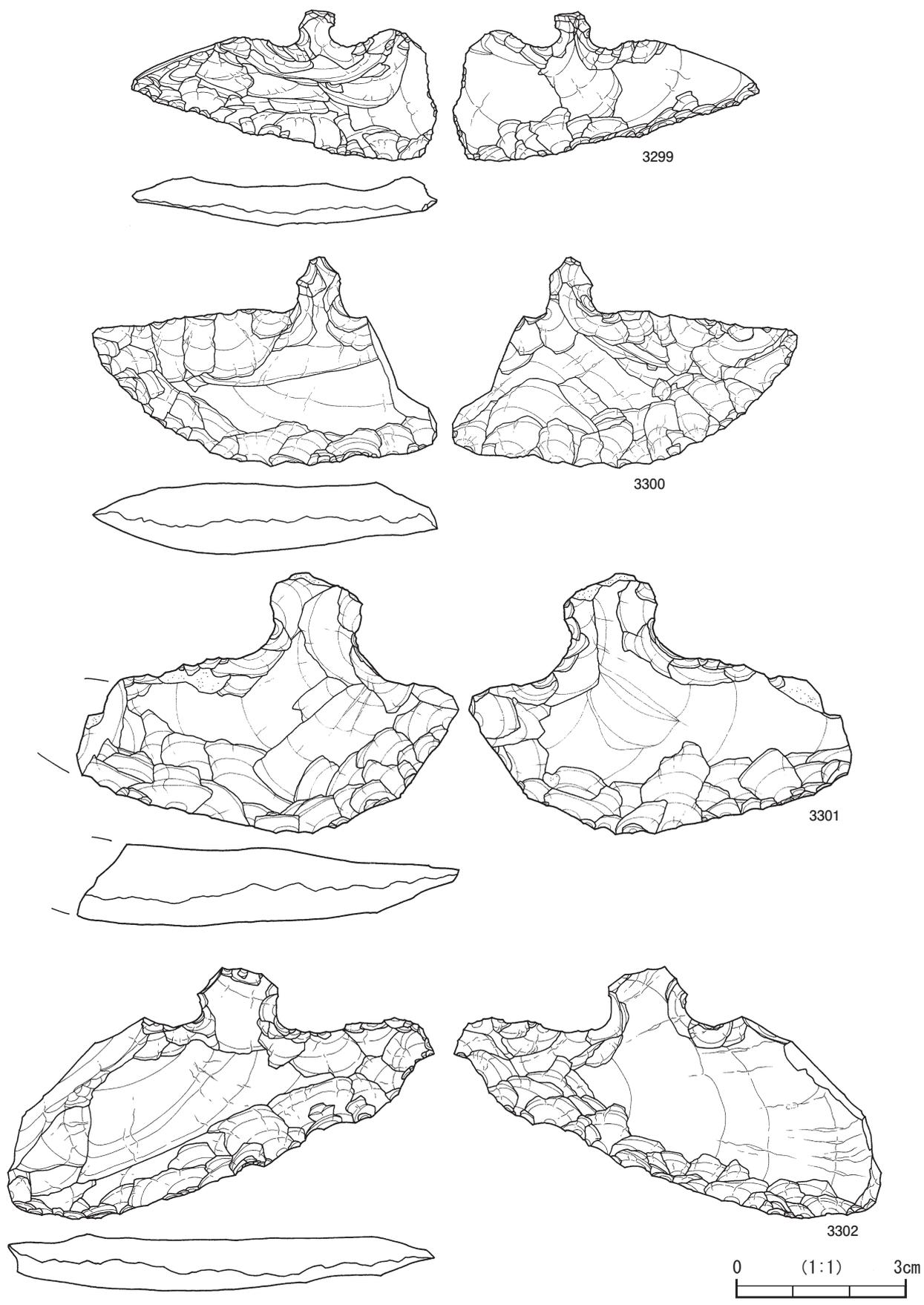
3297



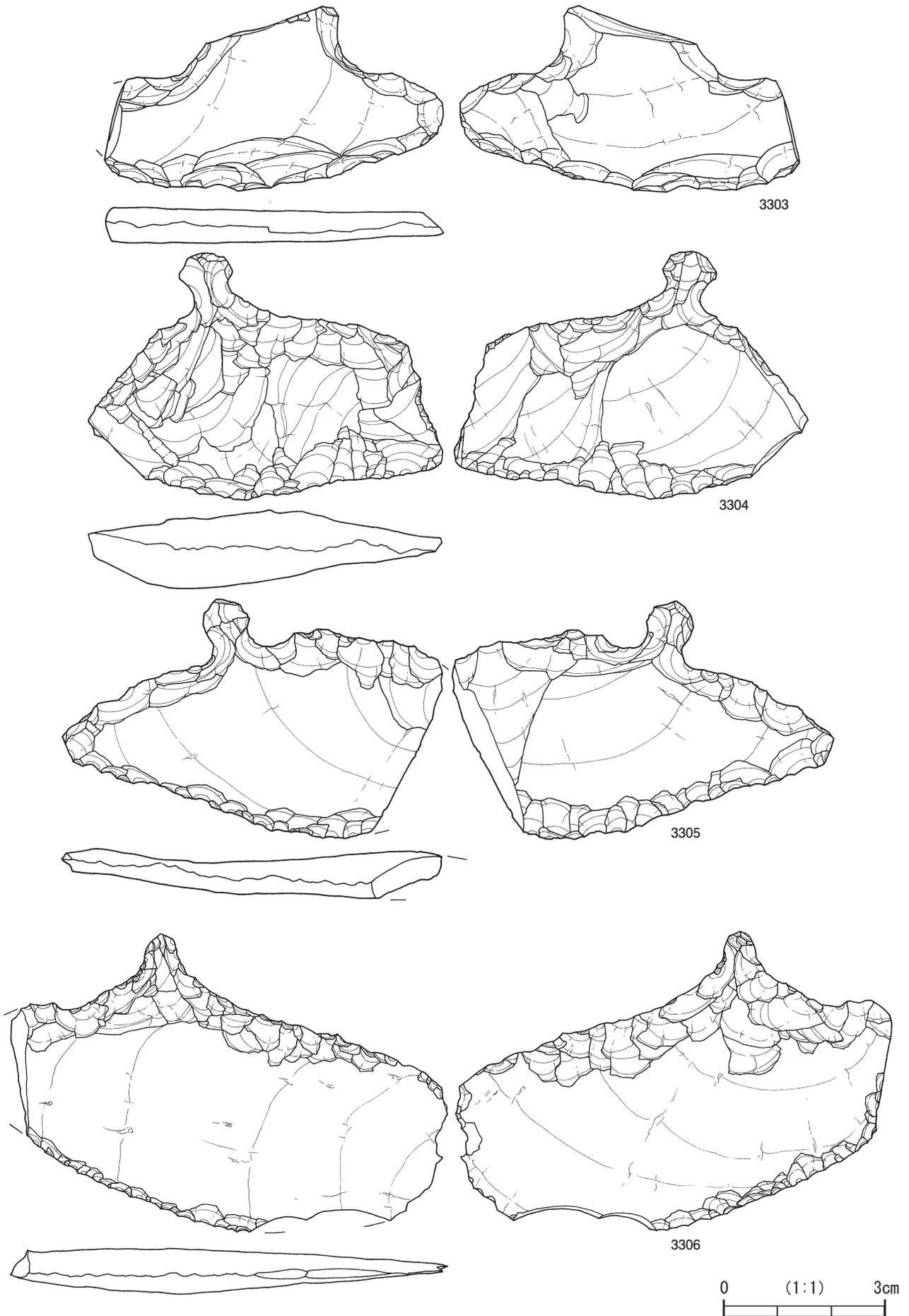
3298



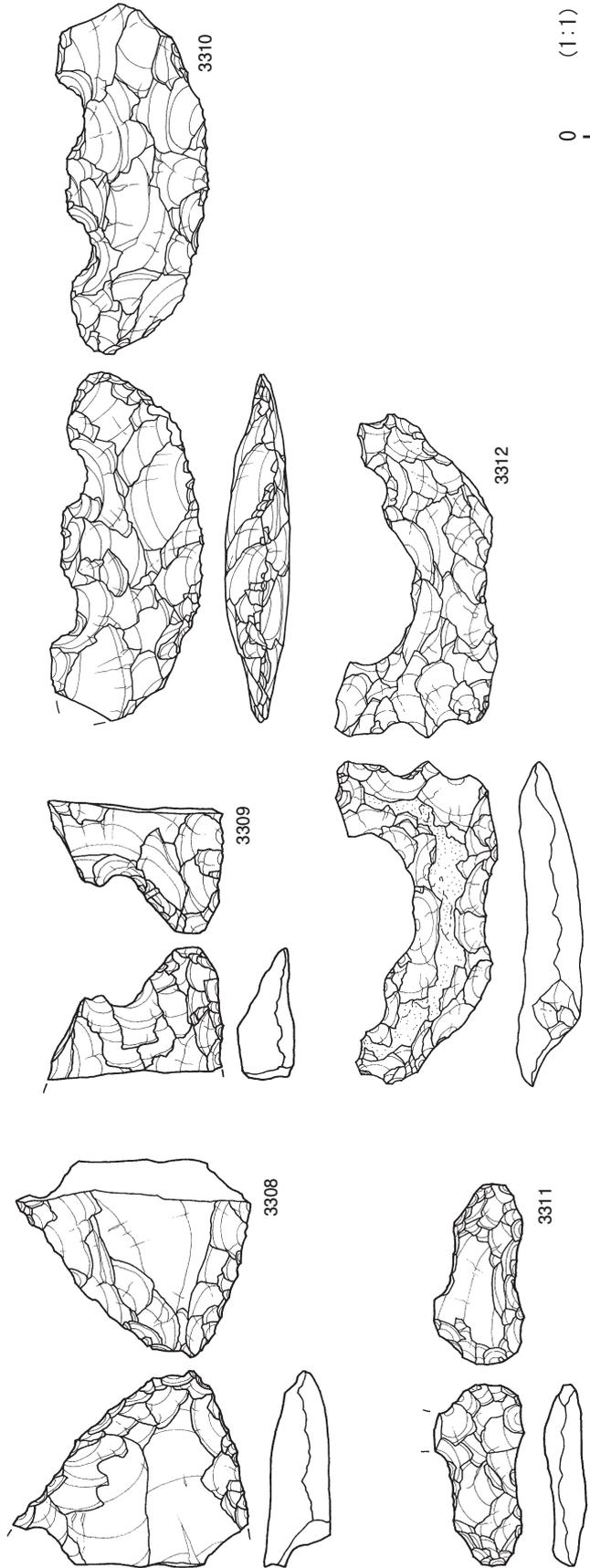
第 558 图 VI 层出土石器 (45)



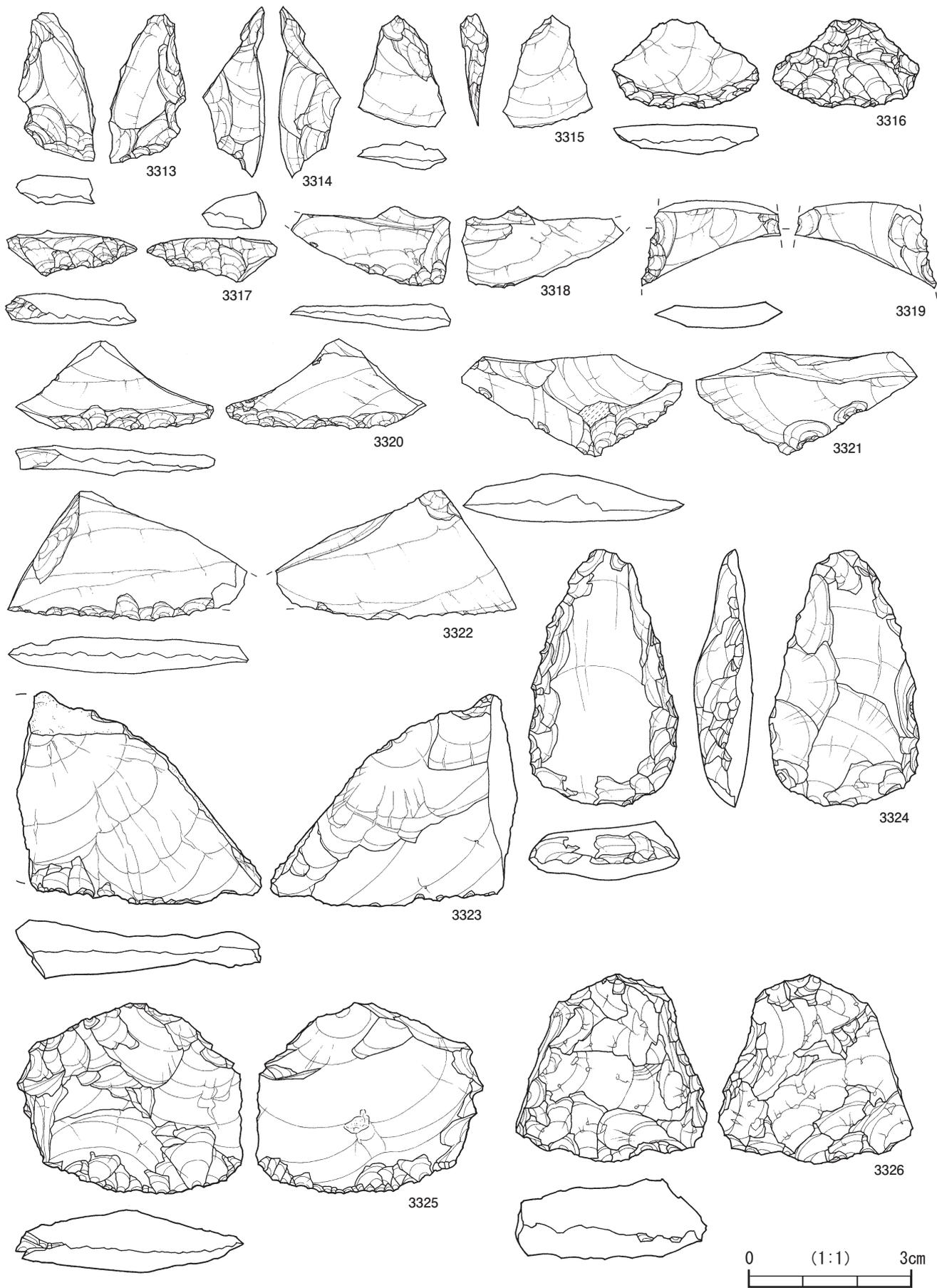
第 559 图 VI 层出土石器 (46)



第 560 图 VI 层出土石器 (47)

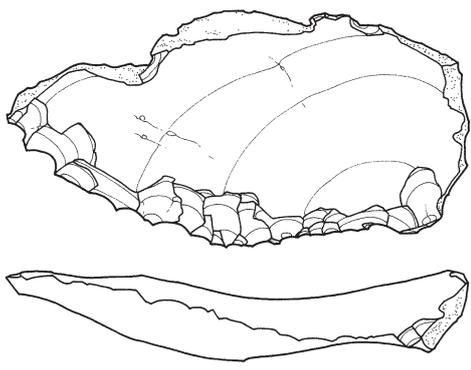


第 561 图 VI 層出土石器 (48)

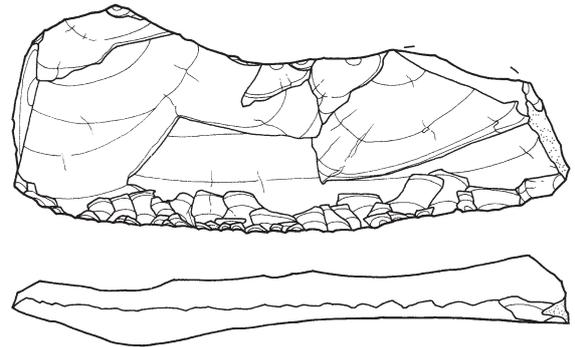
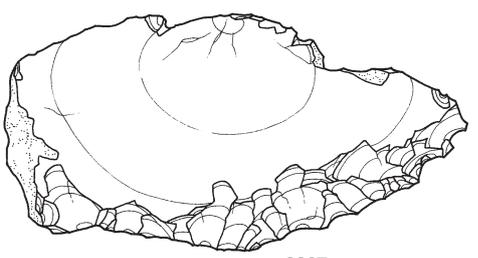


第 562 图 VI 层出土石器 (49)

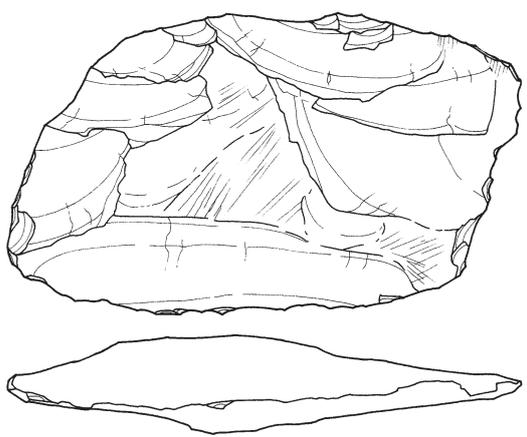
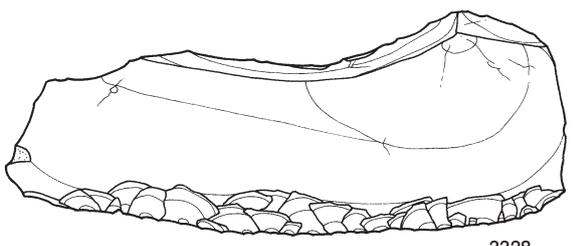




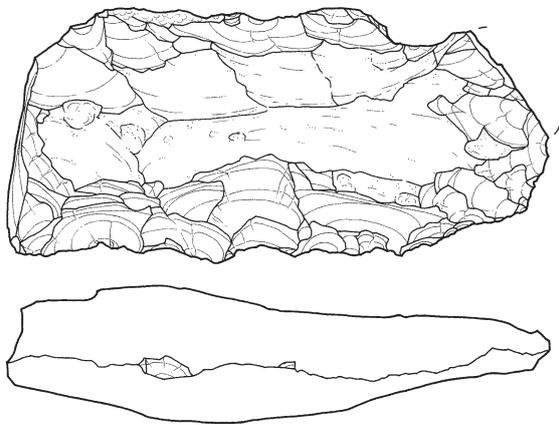
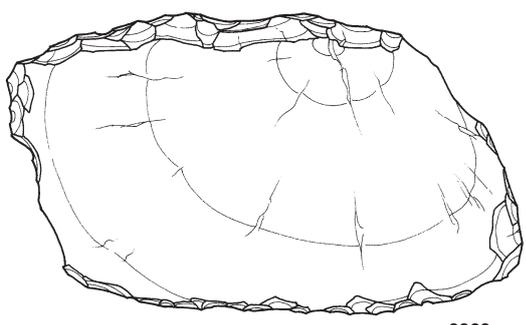
3327



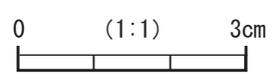
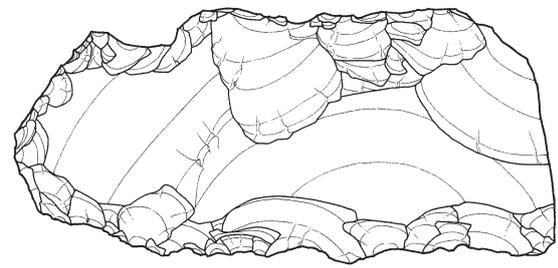
3328



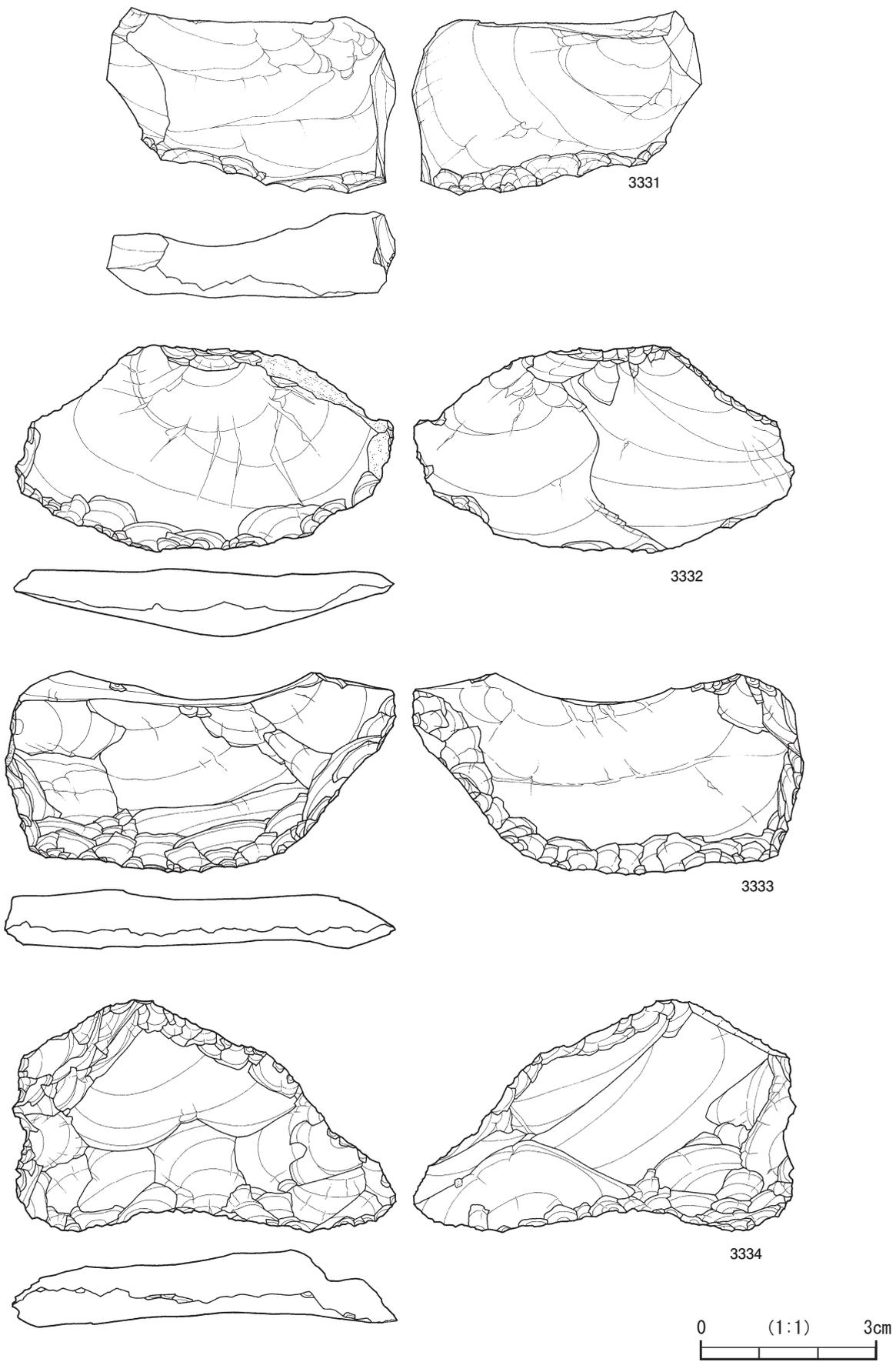
3329



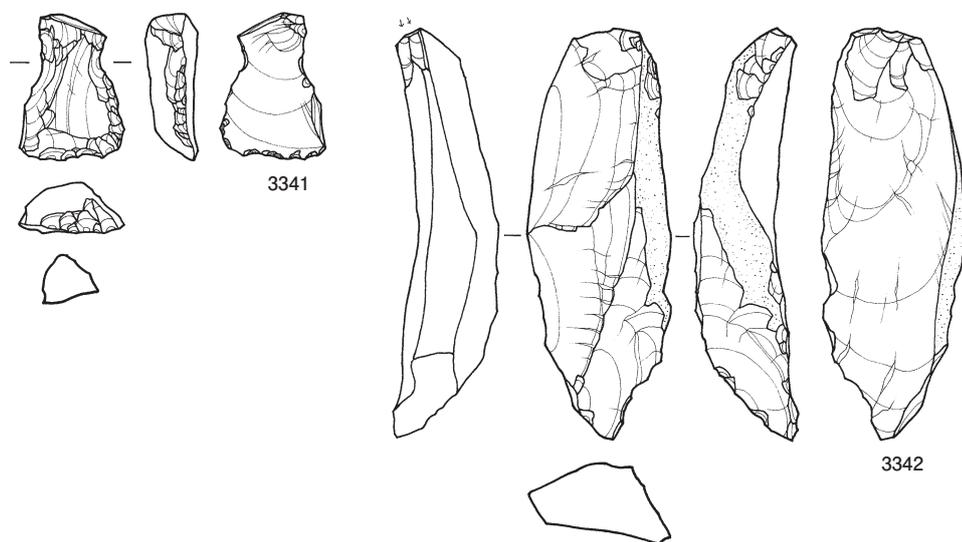
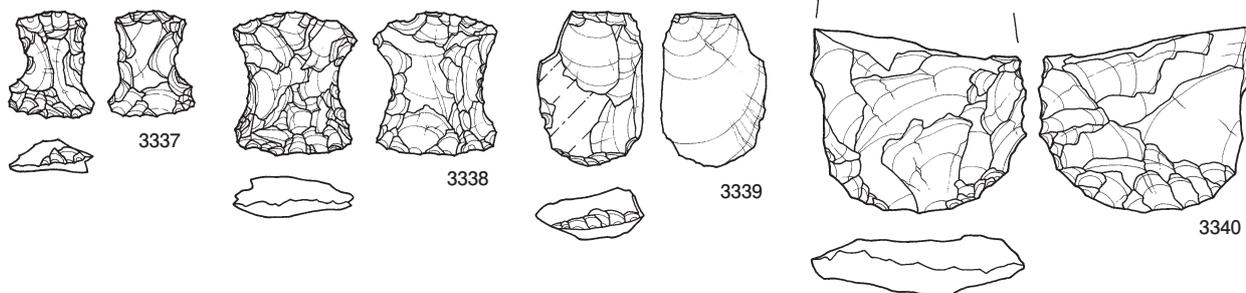
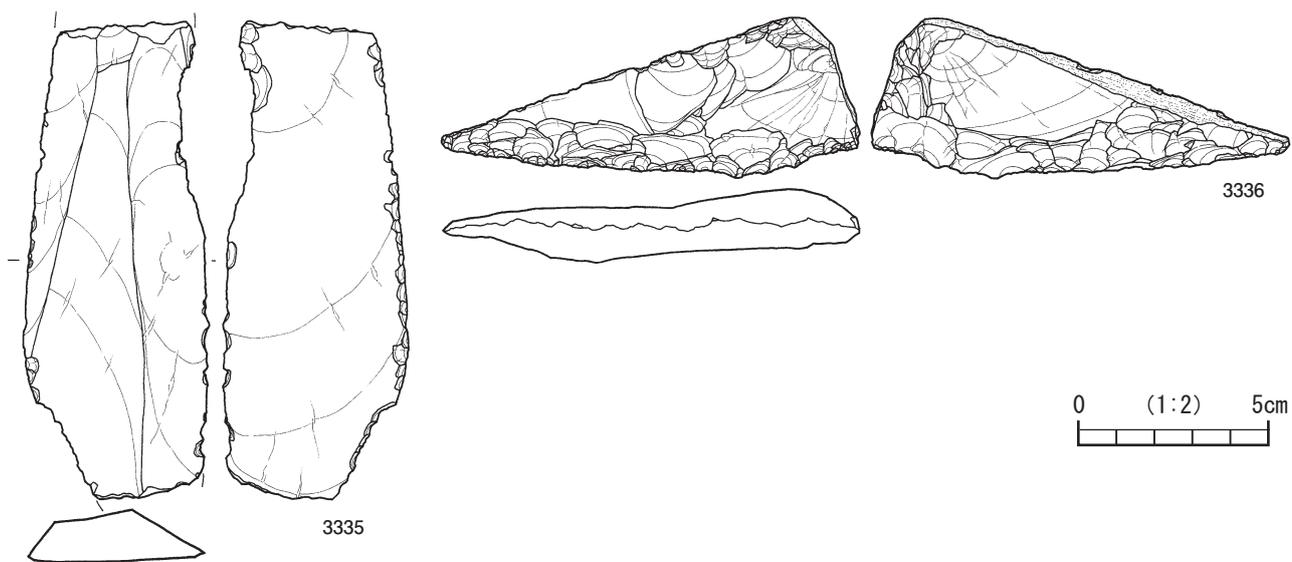
3330



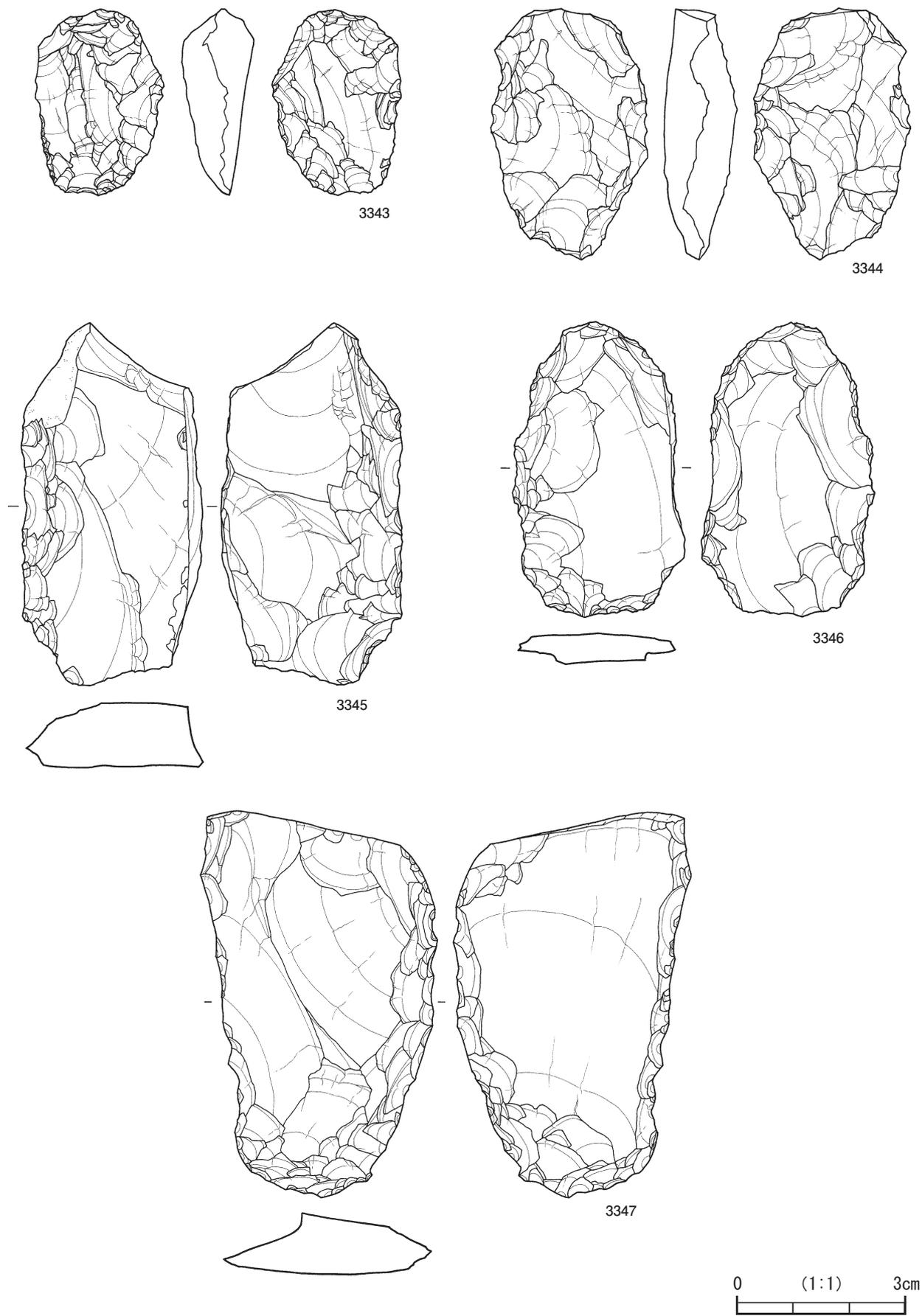
第 563 图 VI 层出土石器 (50)



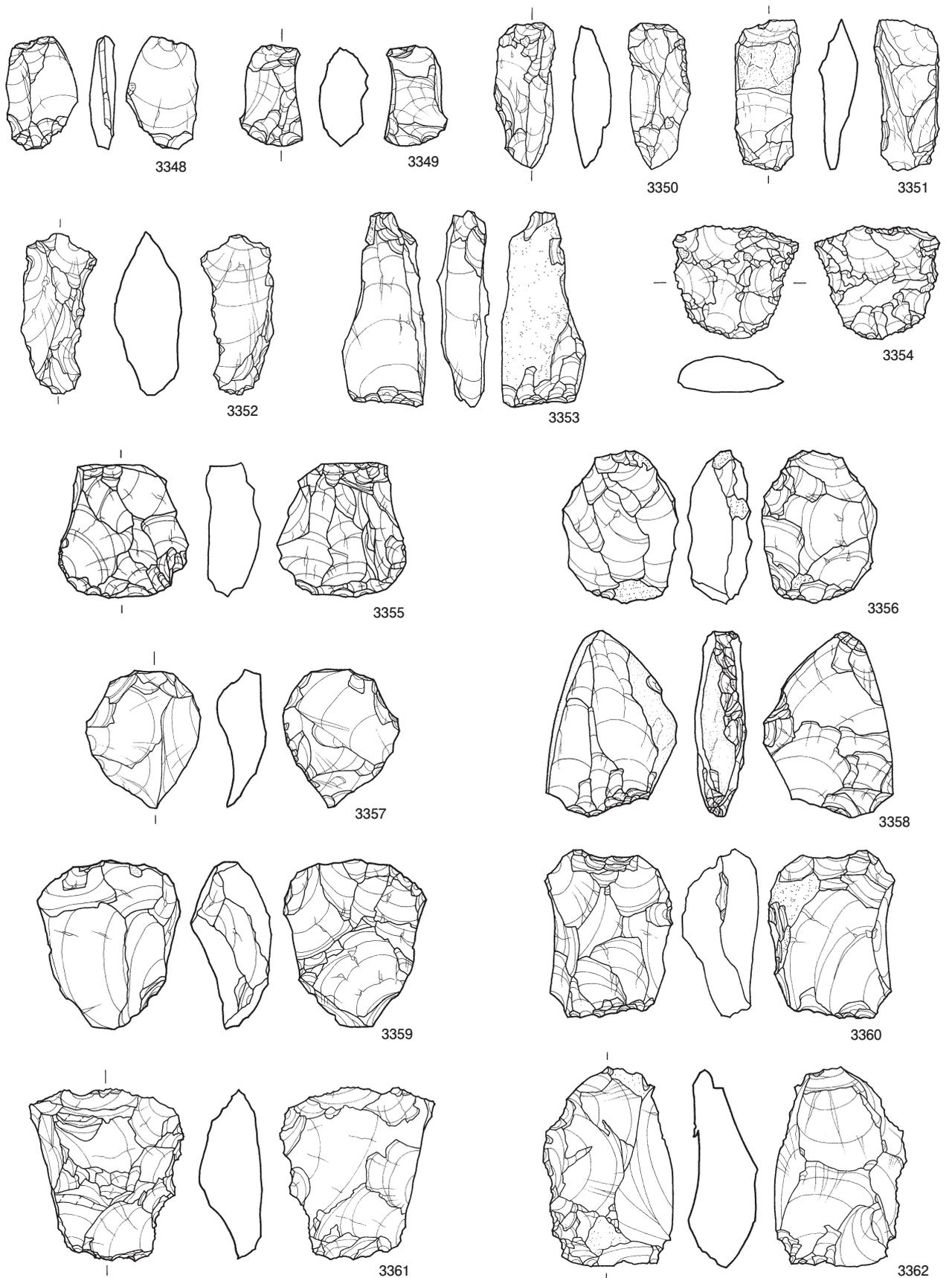
第 564 图 VI 层出土石器 (51)



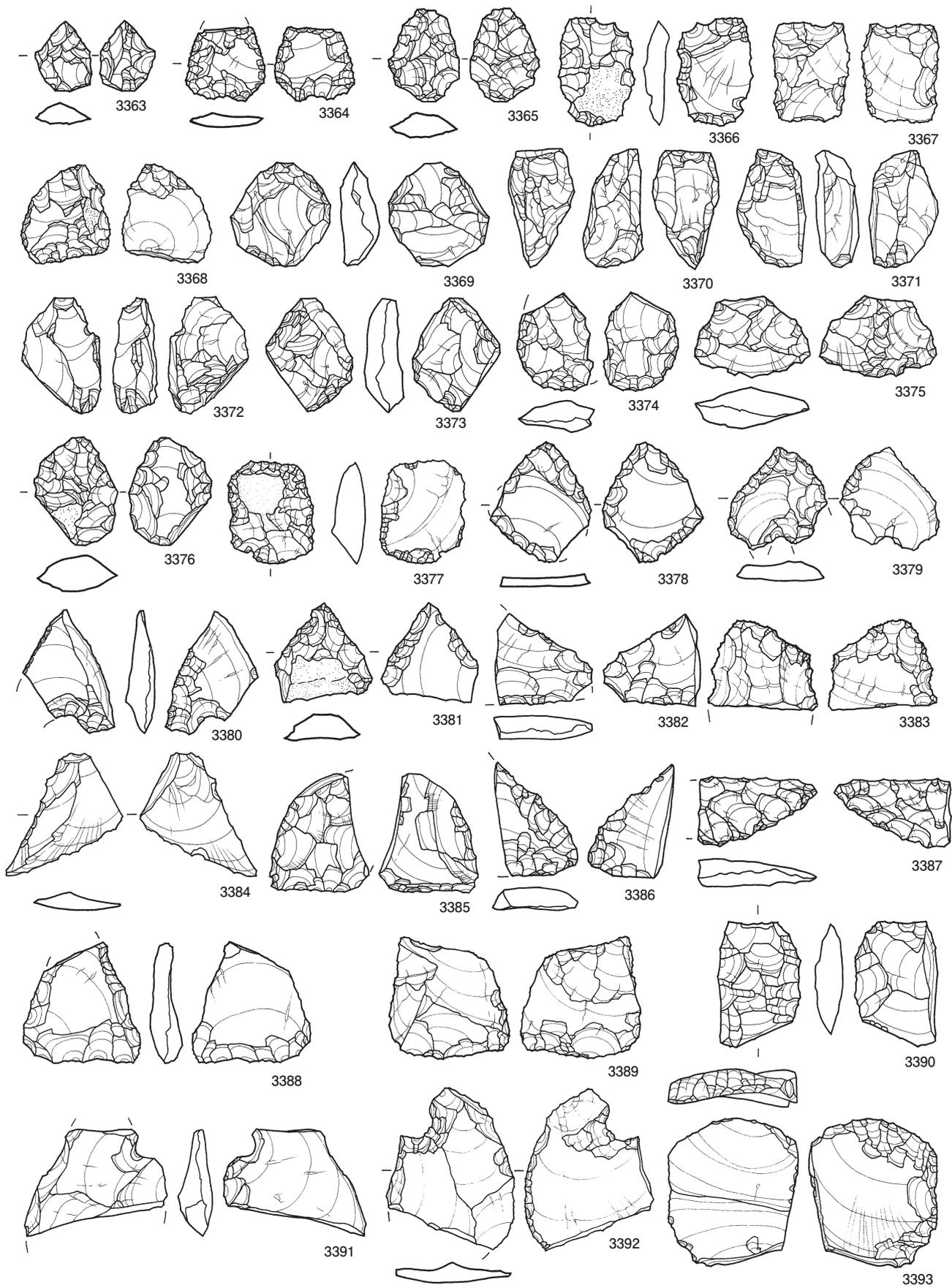
第 565 图 VI 层出土石器 (52)



第 566 图 VI 層出土石器 (53)

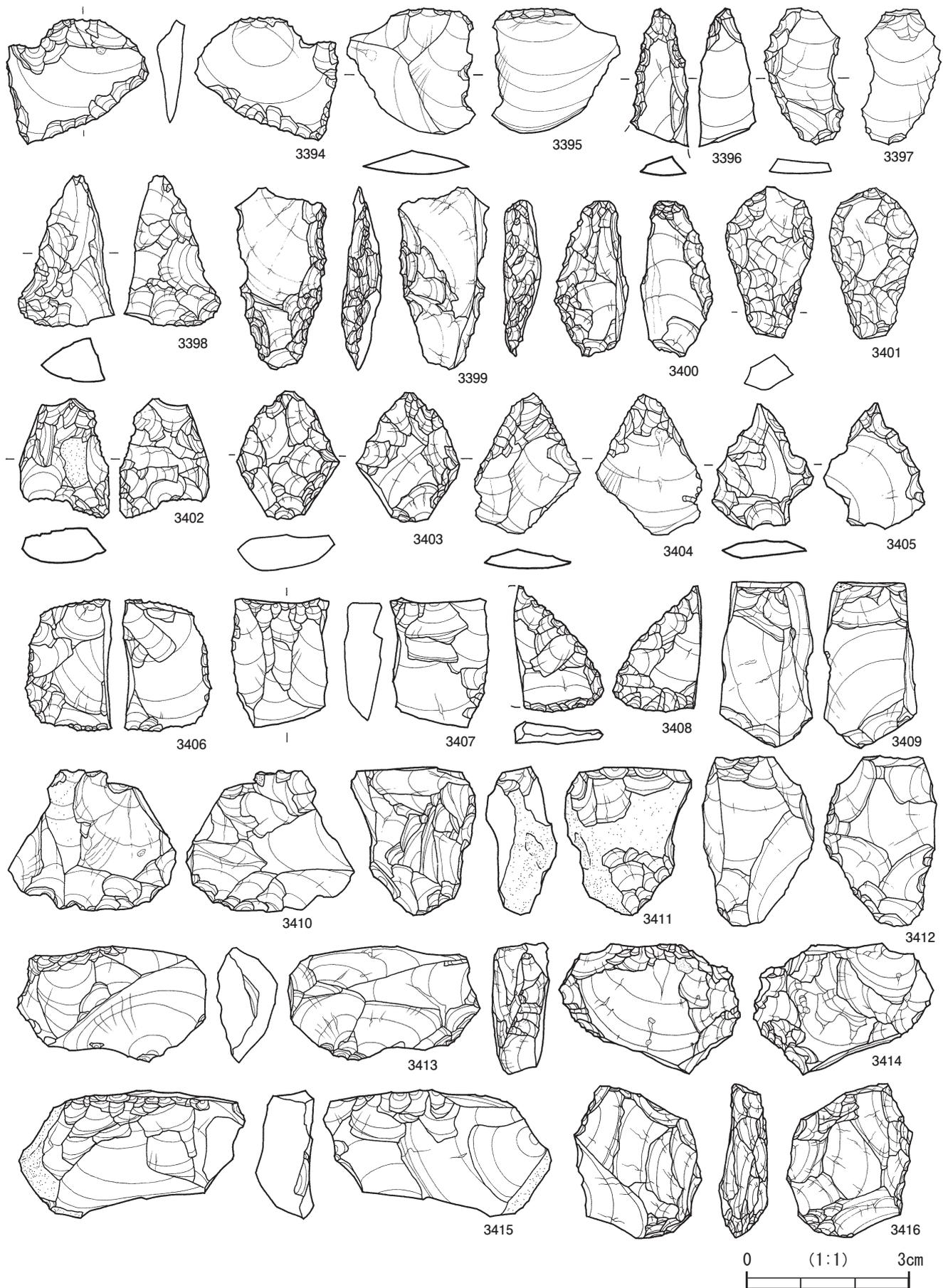


第 567 图 VI 层出土石器 (54)

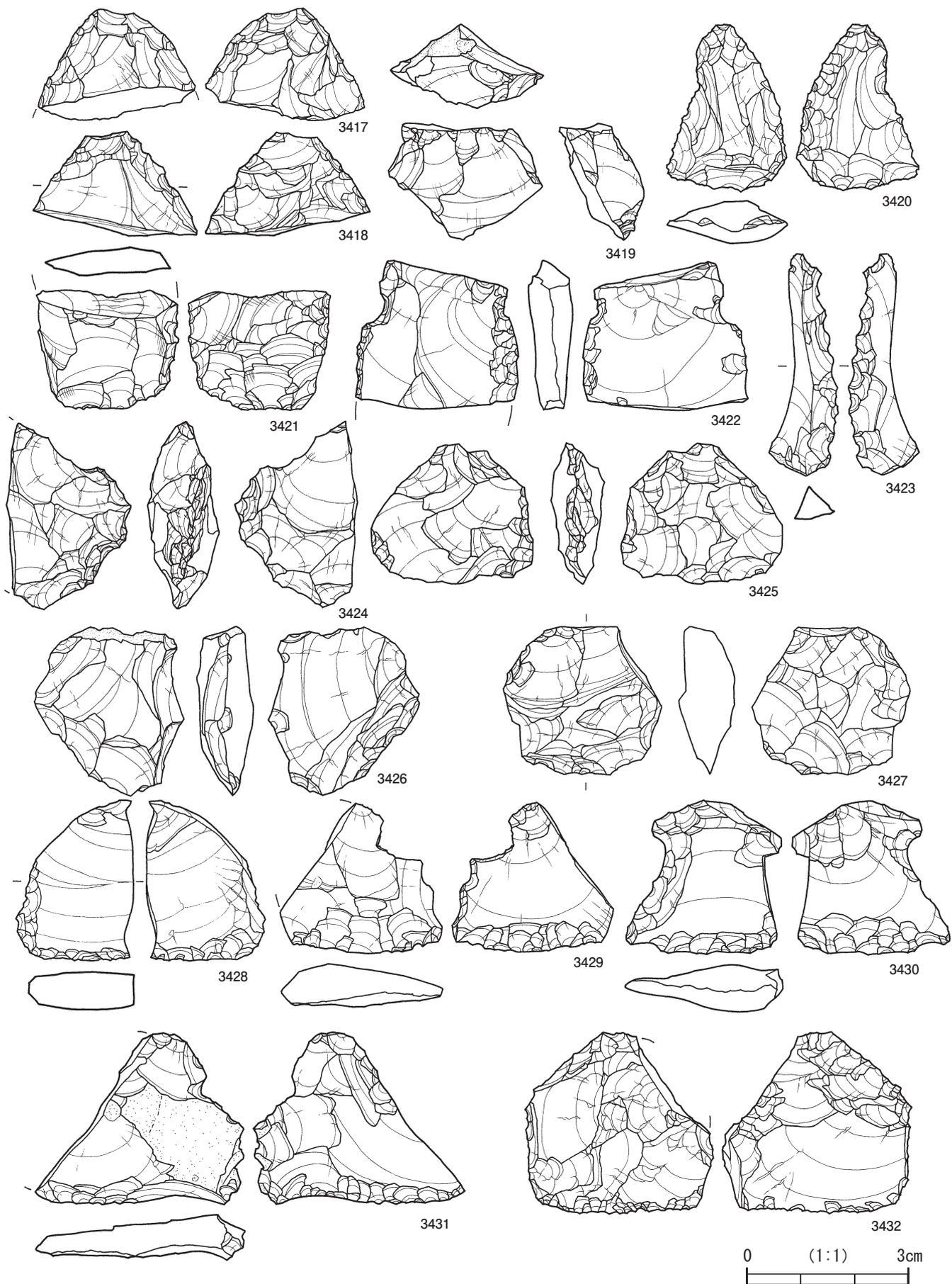


第 568 图 VI 层出土石器 (55)

0 (1:1) 3cm

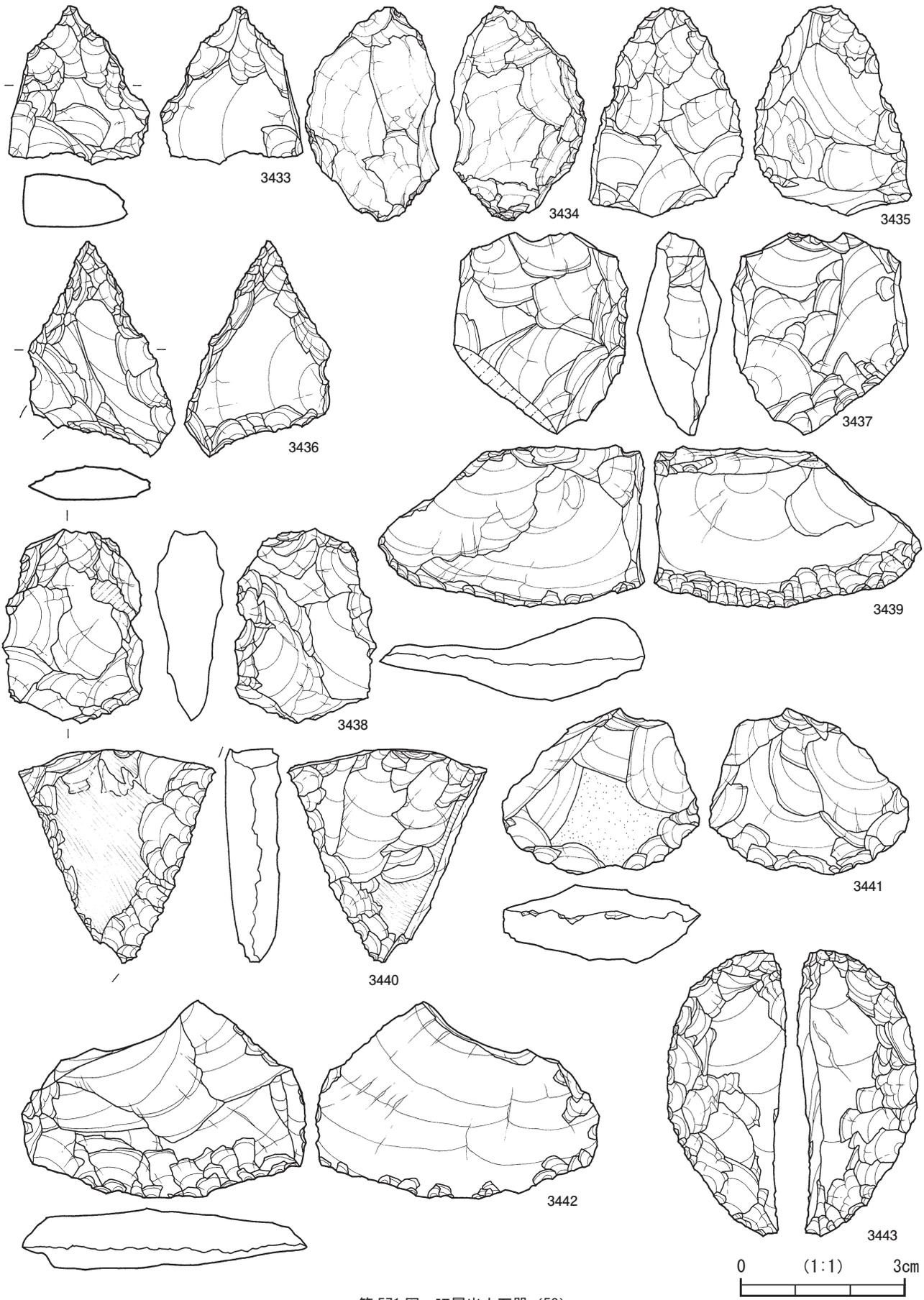


第 569 图 VI 层出土石器 (56)

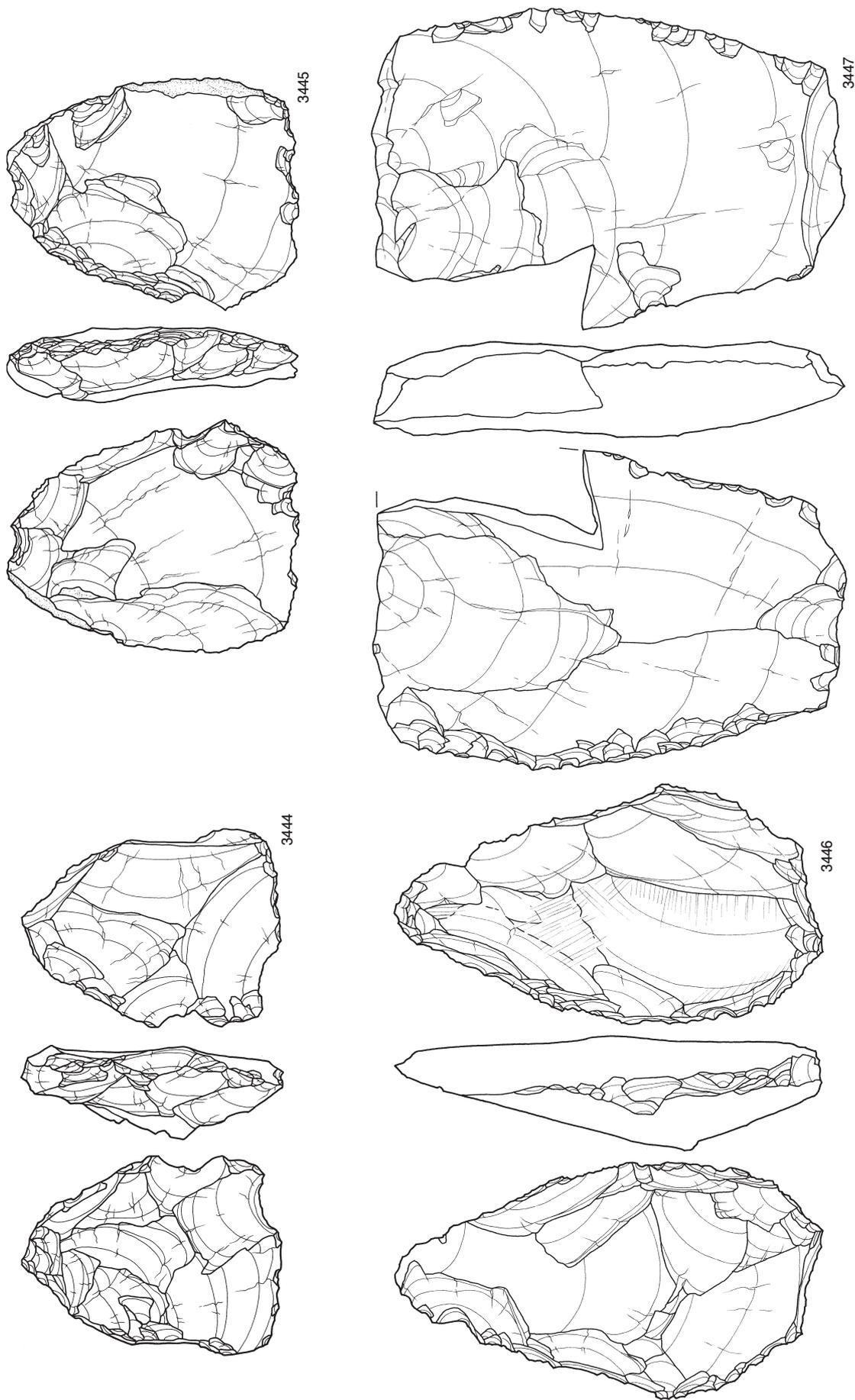


第 570 图 VI 层出土石器 (57)

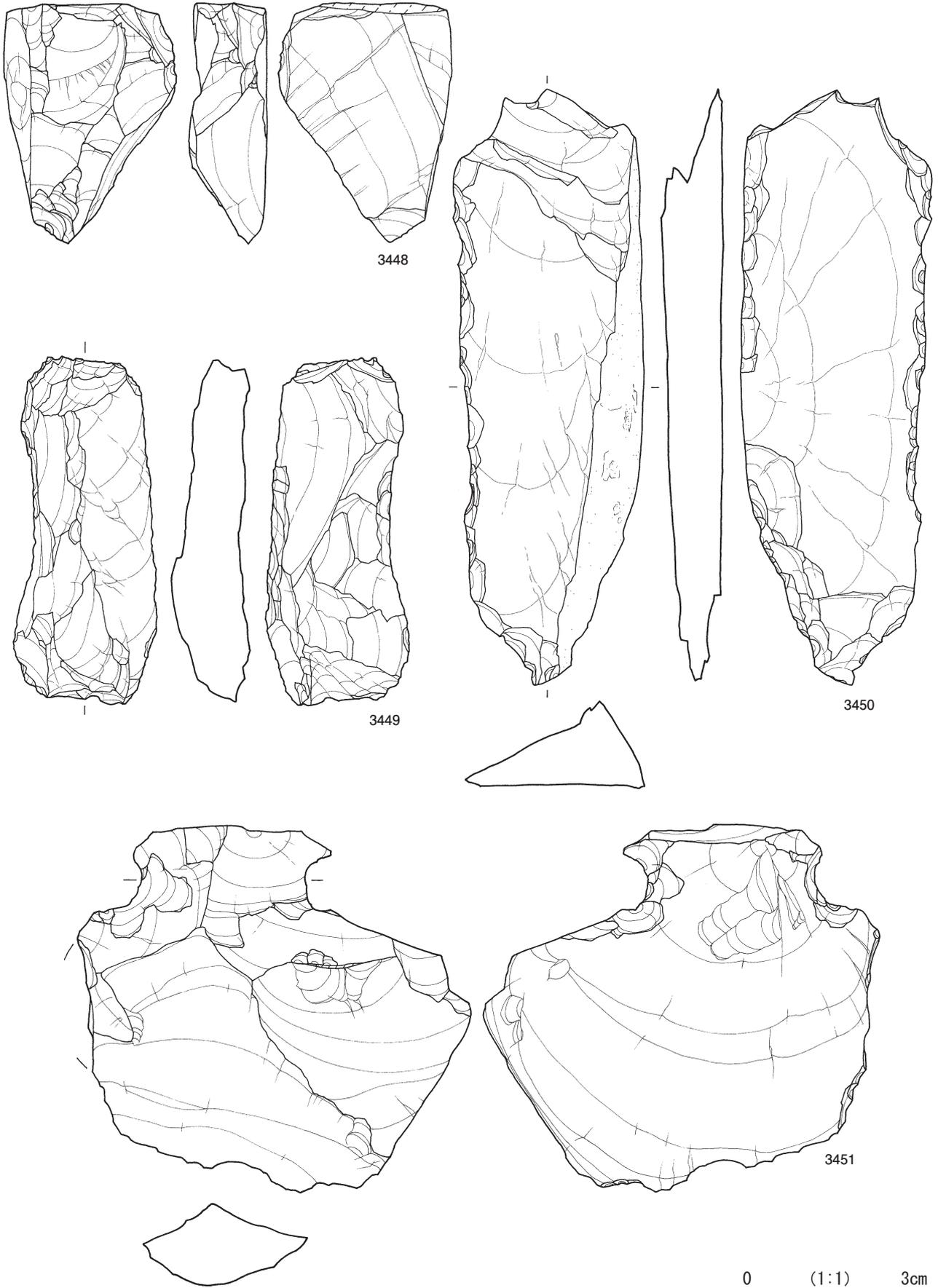




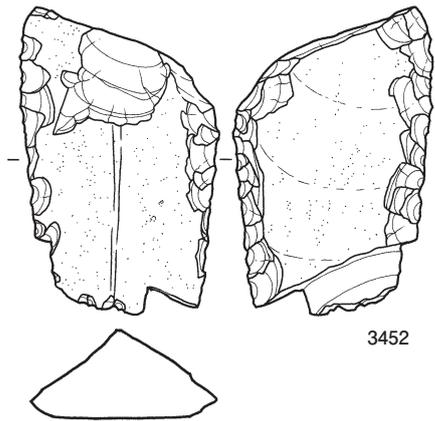
第 571 图 VI 层出土石器 (58)



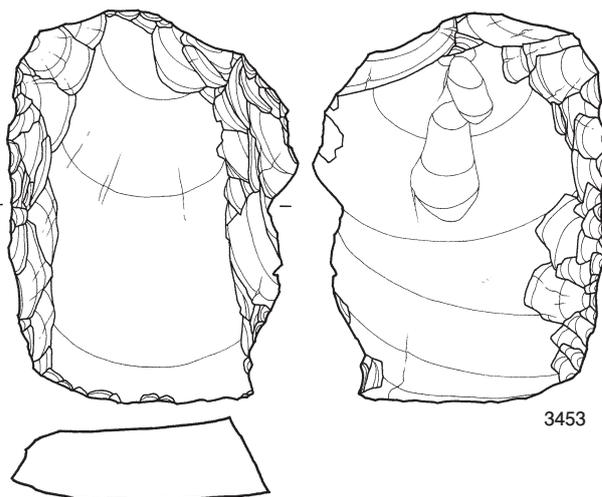
第 572 图 VI 层出土石器 (59)



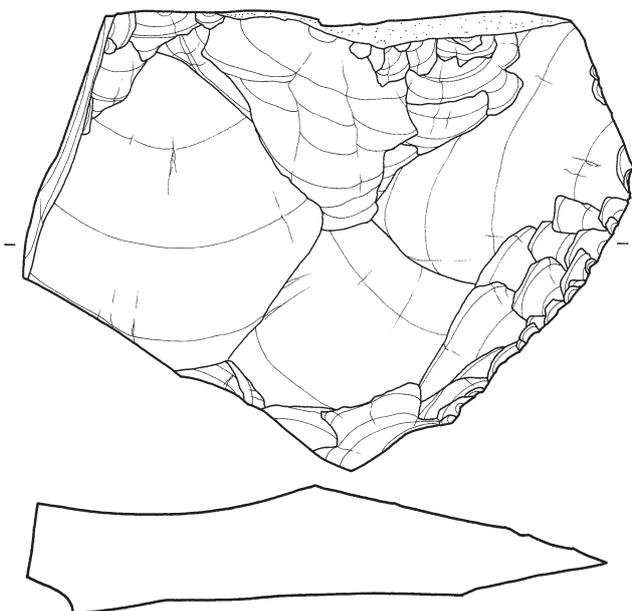
第 573 图 VI 層出土石器 (60)



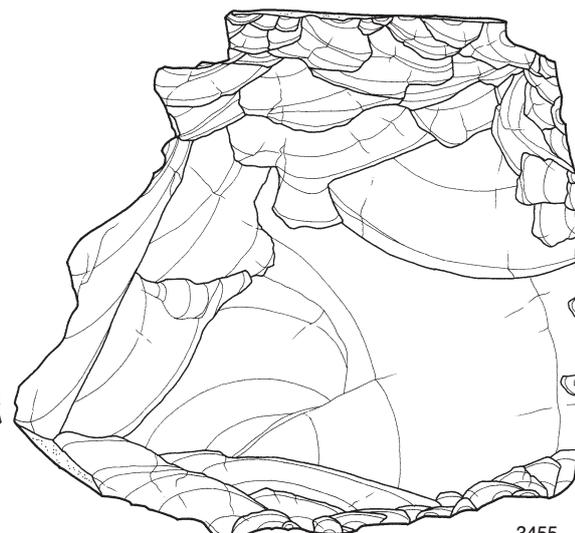
3452



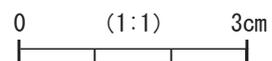
3453



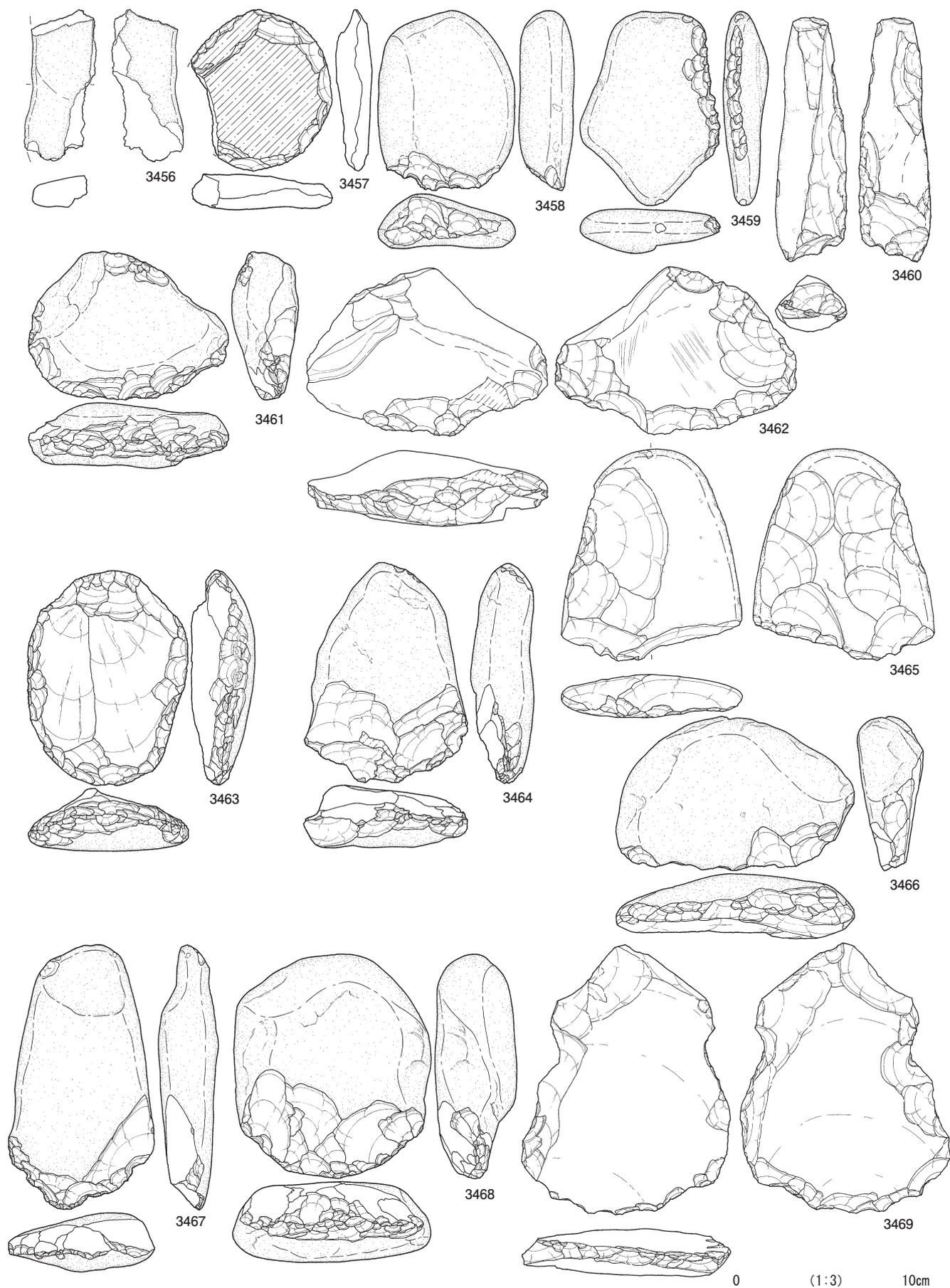
3454



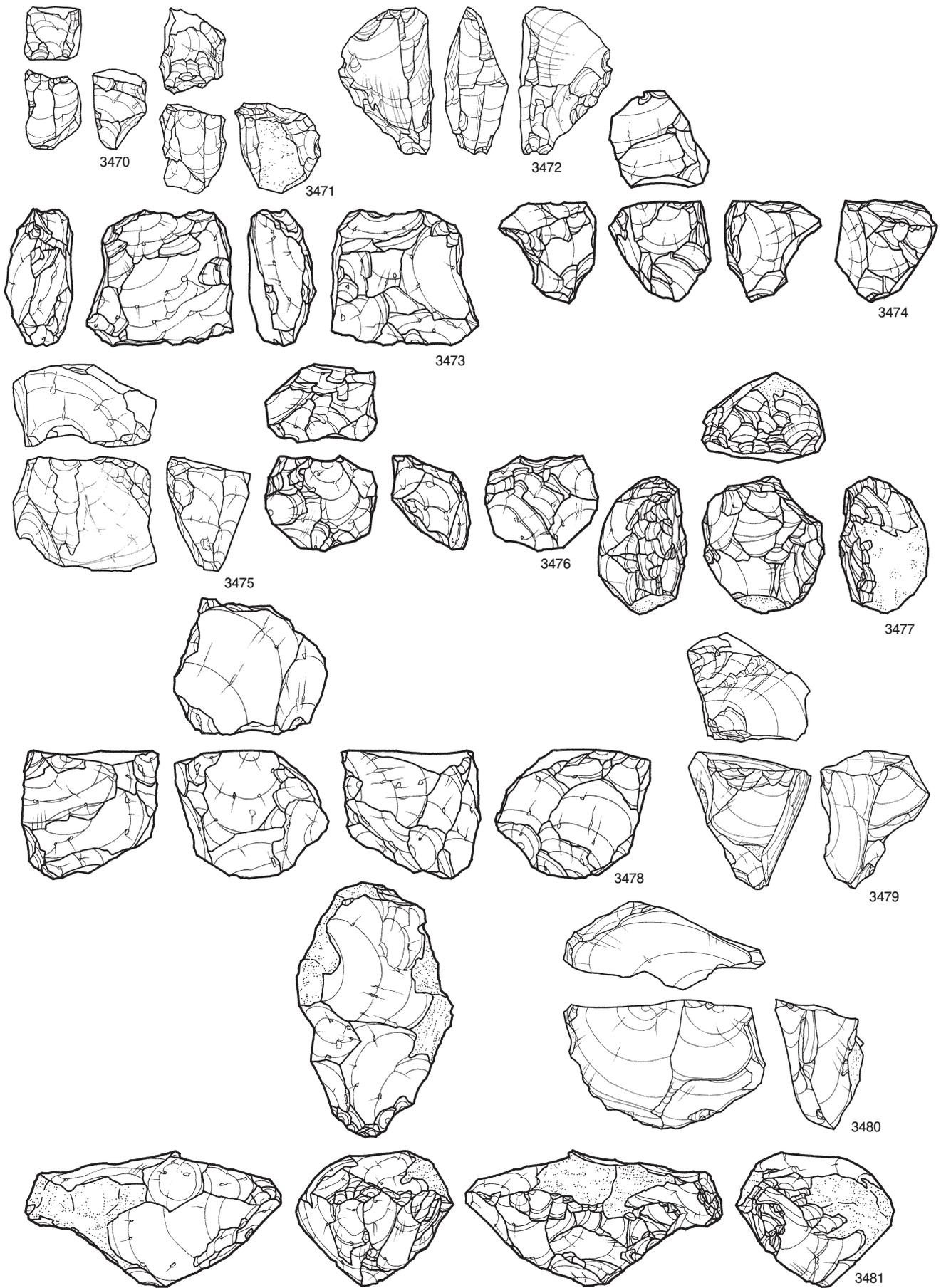
3455



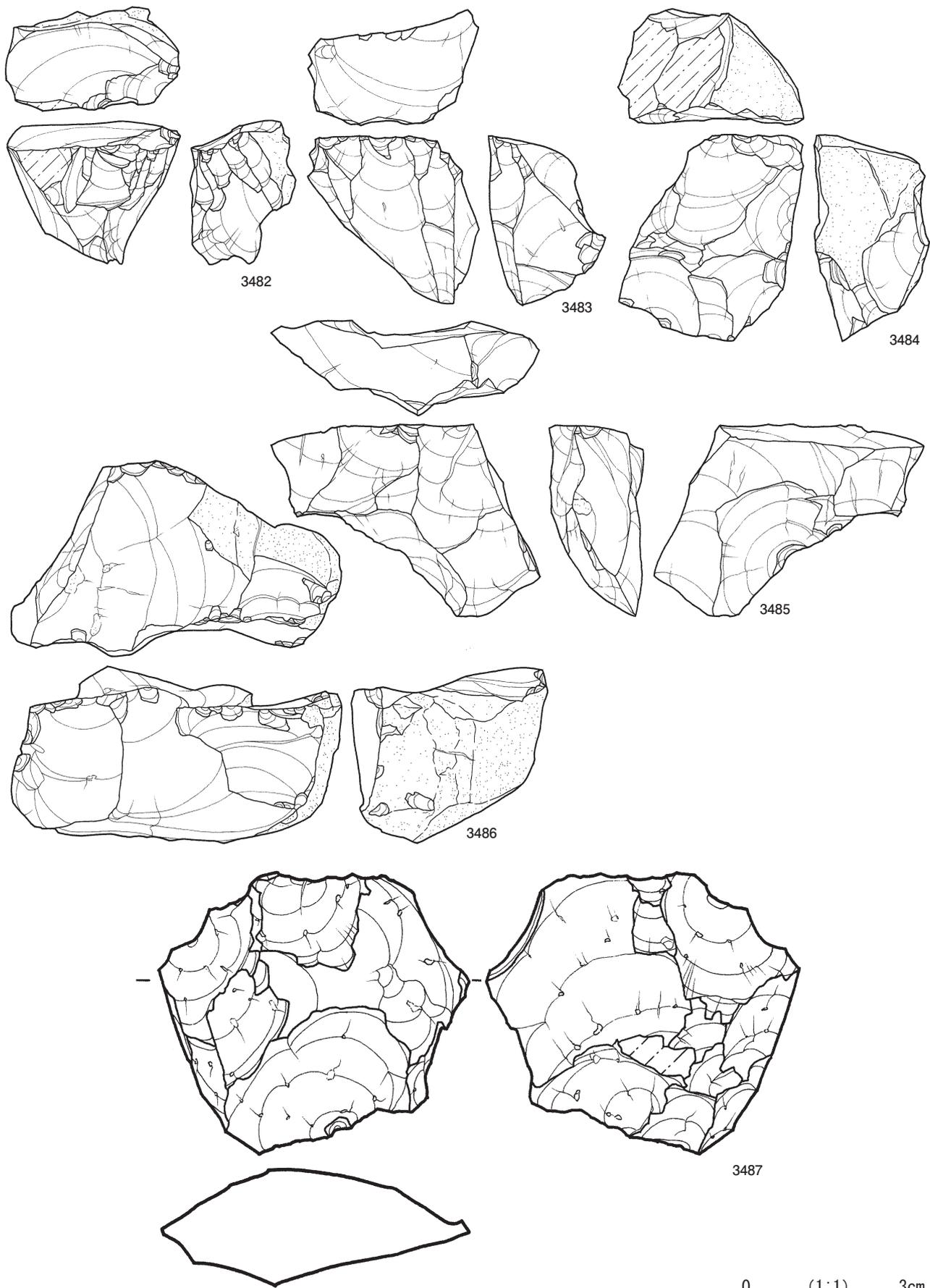
第 574 图 VI 层出土石器 (61)



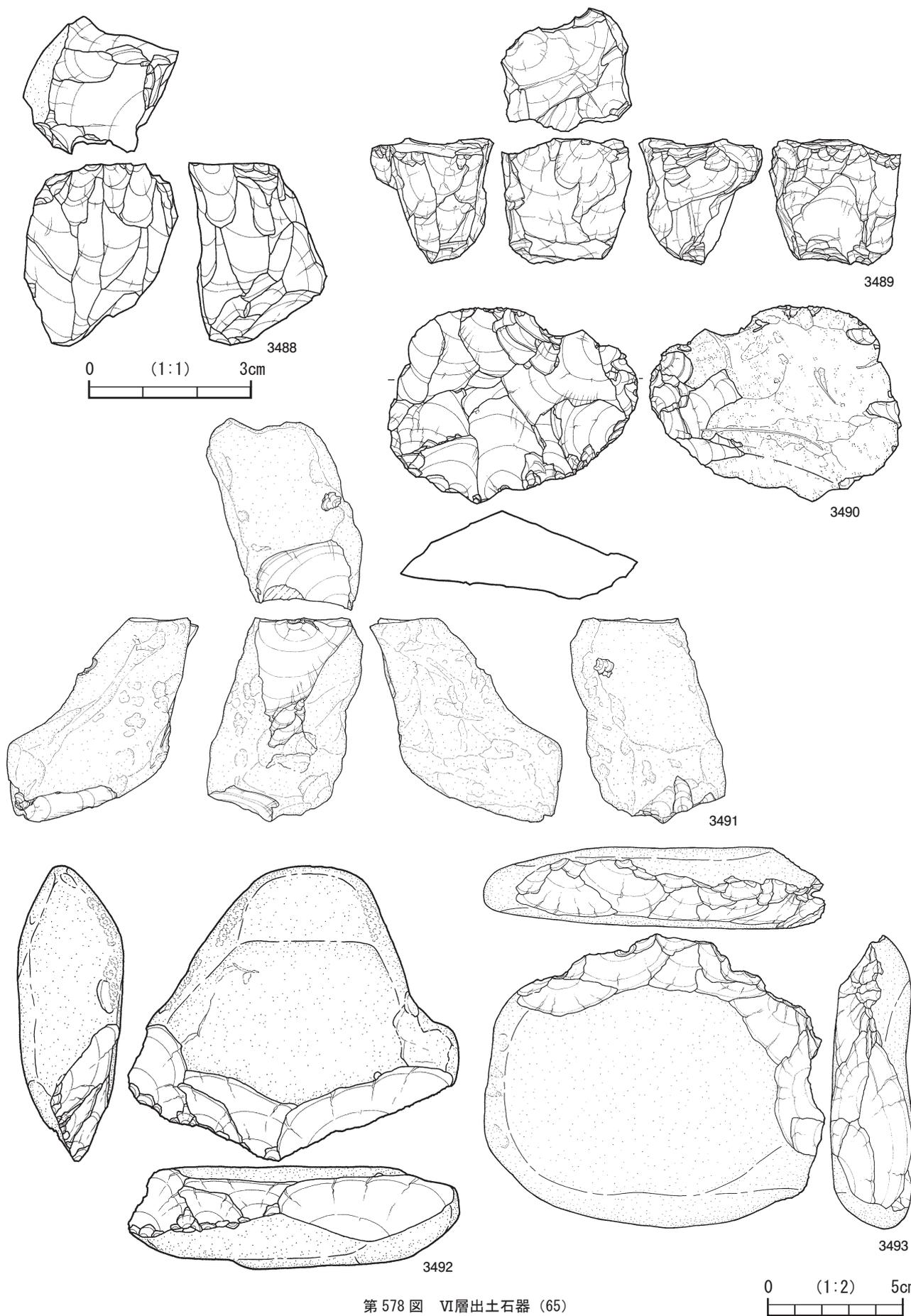
第 575 图 VI 层出土石器 (62)



第 576 图 VI 层出土石器 (63)

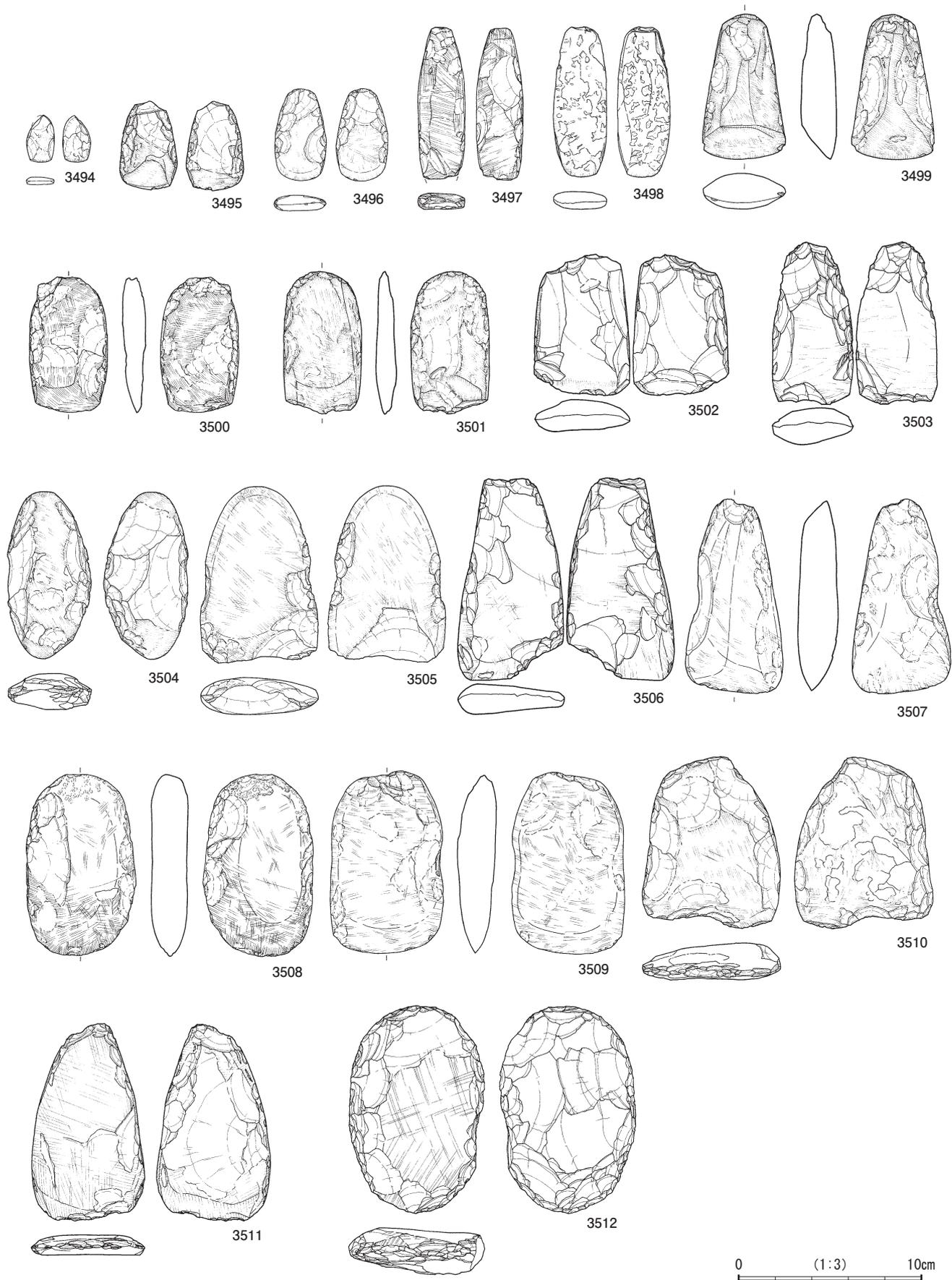


第 577 图 VI 层出土石器 (64)

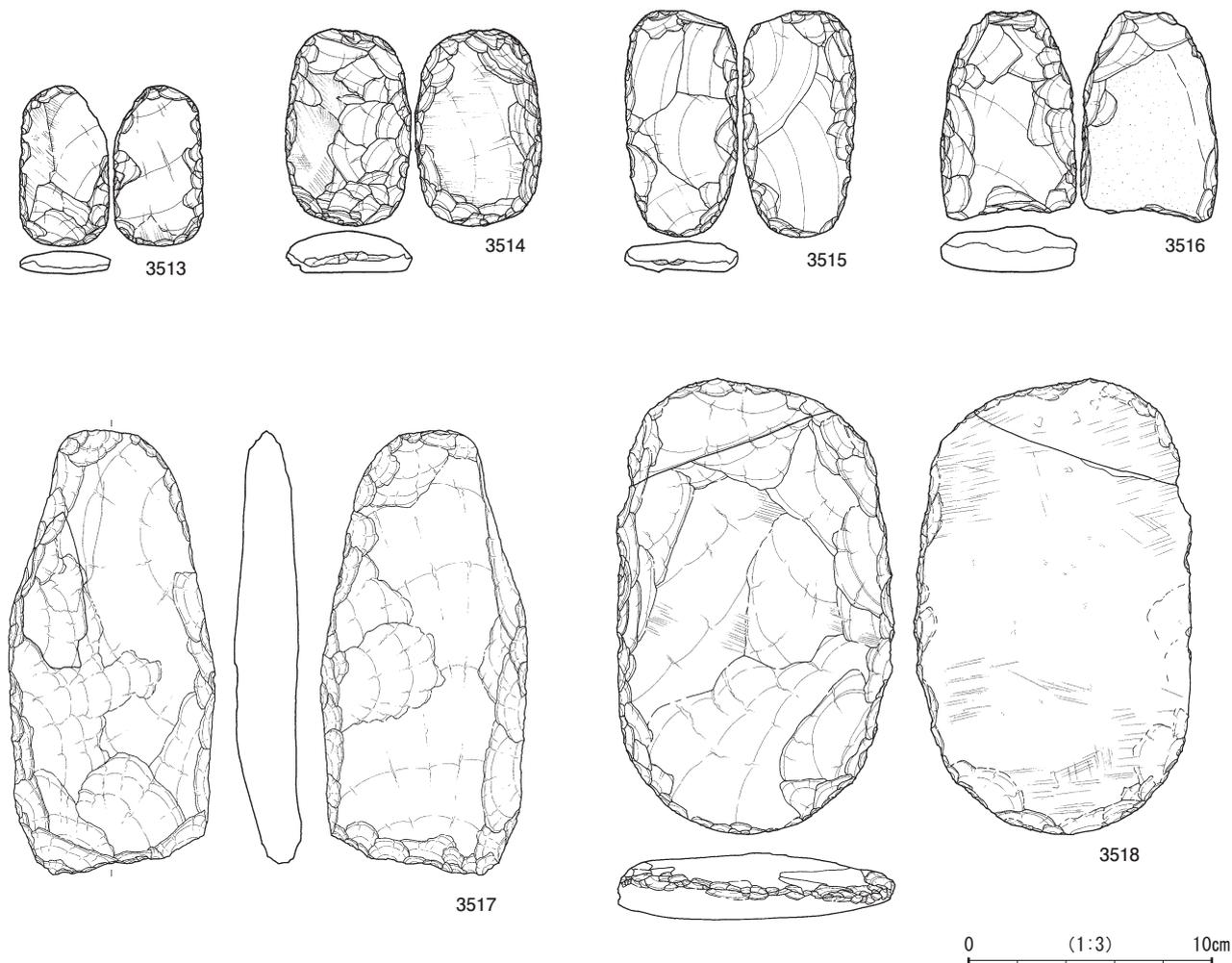


第 578 图 VI 层出土石器 (65)





第 579 图 VI 层出土石器 (66)



第 580 図 VI層出土石器 (67)

(16) 磨製石斧 (第 579 図 3494 ~ 3512)

磨製石斧は 19 点図化した。3494 ~ 3512 はホルンフェルス素材とするものが中心であり、短冊形や撥形を呈する。3494 は表面及び刃部を丁寧に研磨し、長さ 2.5cm、幅 1.5cm と最小である。3495 は頭部及び裏面が欠損し、刃部には刃こぼれがみられる。3499 は頁岩を素材とし、両側縁や頭部に剥離痕が残されるが、入念な研磨仕上げが行われる。3497・3501・3503・3504・3506・3510・3511 は刃部、3502 は頭部が欠損する。3507 は左側縁部に抉りを持ち、3508・3509 は大きさが近似する。3512 は周縁から剥離による再加工を行う。

(17) 打製石斧 (第 580 図 3513 ~ 3518)

打製石斧は 6 点図化した。3513 ~ 3516 はホルンフェルス、3517 は安山岩、3518 は頁岩を素材とする。短冊形を呈し、3517・3518 は長さが 18cm を超える。

(18) 石皿 (第 581 ~ 585 図 3519 ~ 3536)

石皿は 18 点図化した。石材は凝灰岩が 7 割を占める。3521・3533 ~ 3535 は花崗岩、3532 は砂岩を素材とする。

3519 は平面形が楕円形状を呈し、中央部分は大きく凹み、使用面となる。重量は VI 層出土の 2095 に次ぐ。3524・3526・3532 は断面形が三角形状を呈する。また、3524・3533・3534 は表裏面に使用面が認められる。3536 は平面形が方形形状を呈し、表面には敲痕と磨面、両側面には磨面が認められる。

(19) 砥石 (第 585 図 3537 ~ 3540)

片面あるいは両平坦面に砥石として利用した痕跡が認められるもので、4 点図化した。3537 のみ花崗岩を使用し、残り 3 点は砂岩である。3537 は両面に溝状の摩耗面が残る。3538・3539 は光沢をもつ摩耗面が表裏面・両側面に認められる。3540 は扁平礫の平坦面を使用する。

(20) 石錘 (第 585 図 3541 ~ 3543)

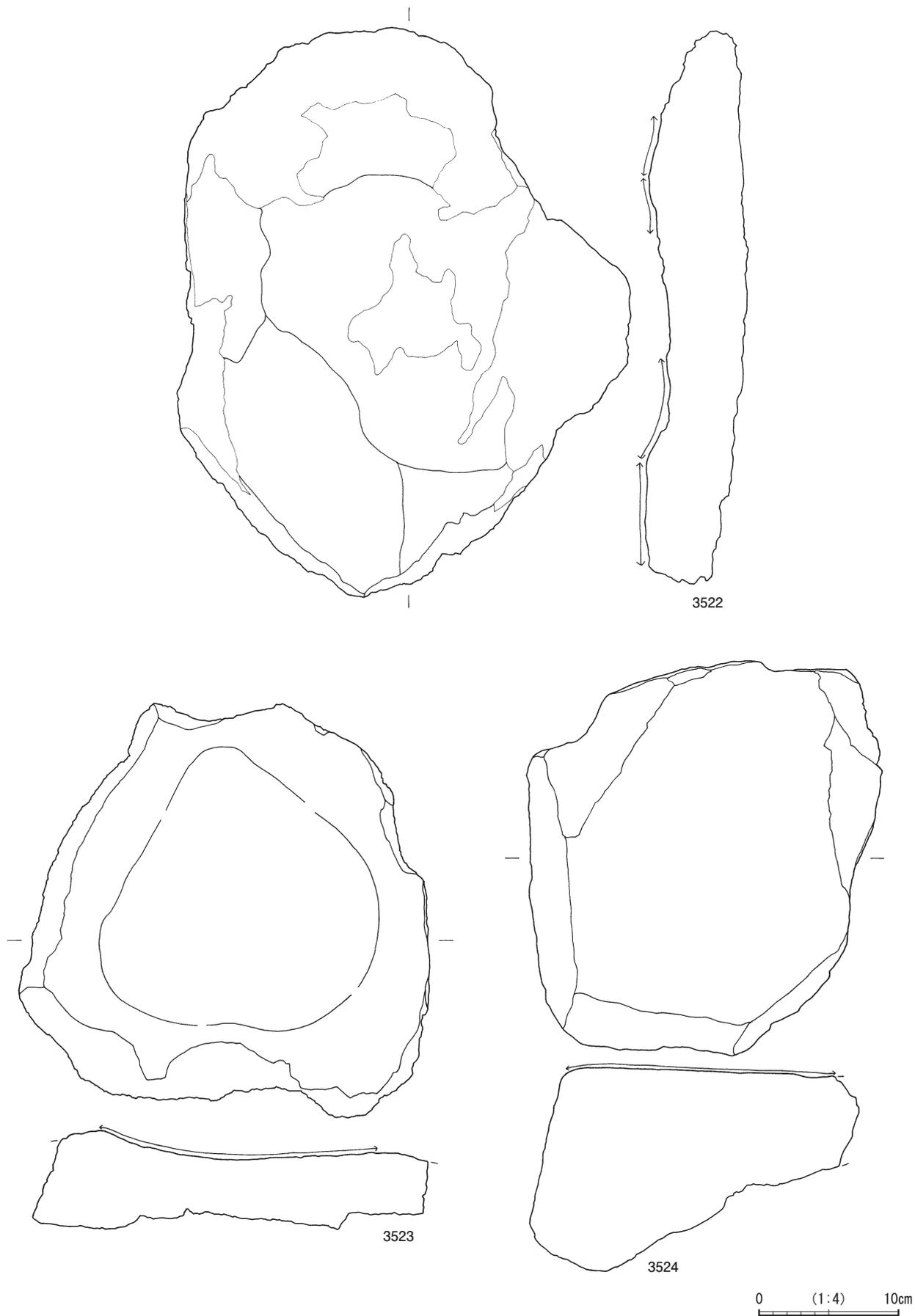
3541 ~ 3543 は砂岩を素材とする石錘である。3 点とも長さは 6cm 前後、厚みは 1.5cm 前後の扁平な円礫を使用する。

(21) 敲石 (第 586・587 図 3544 ~ 3560)

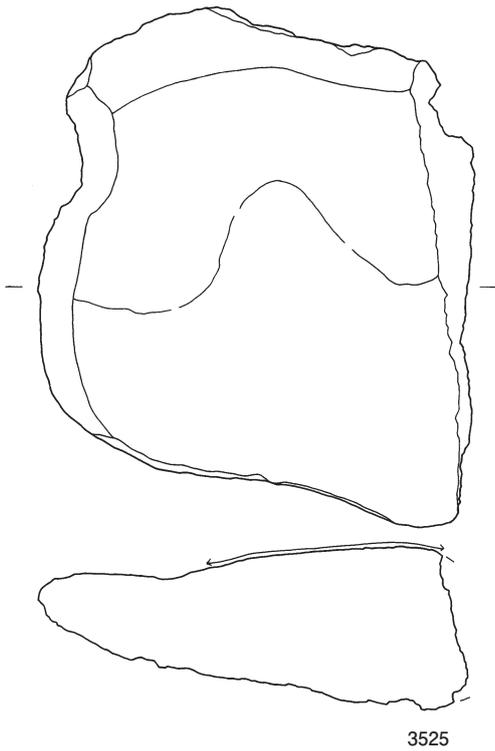
敲石は 3544 ~ 3560 の 17 点図化した。そのうち 3556



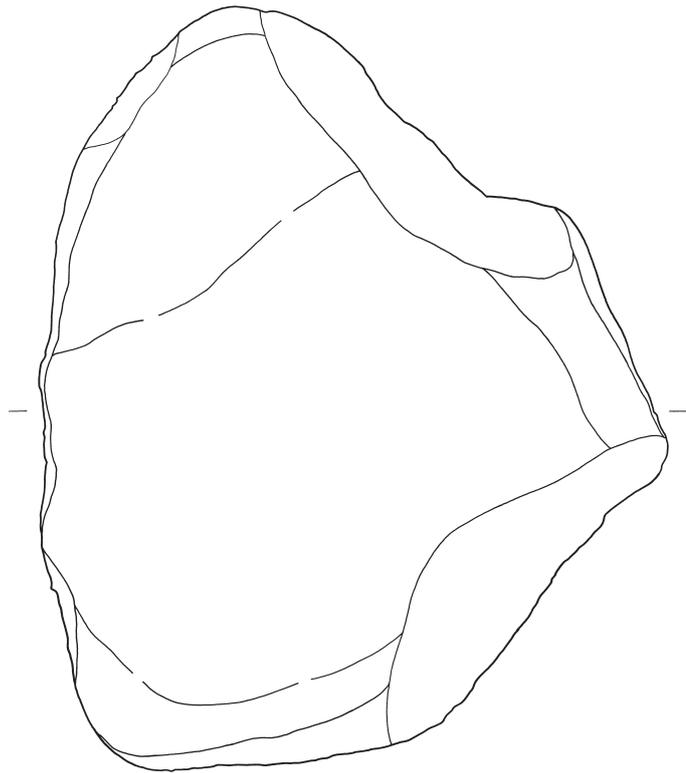
第 581 图 VI 層出土石器 (68)



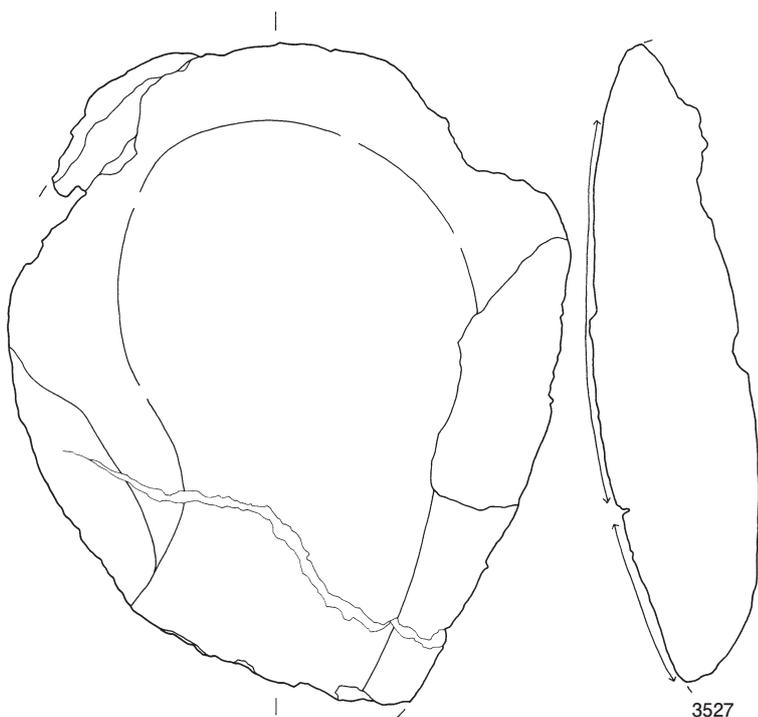
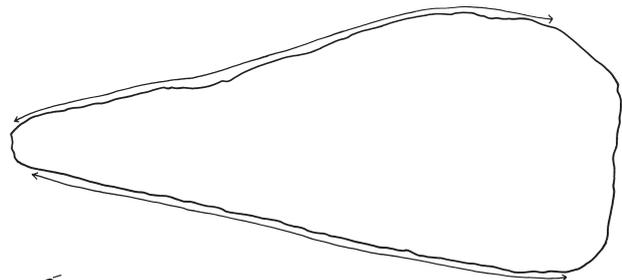
第 582 图 VI層出土石器 (69)



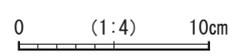
3525



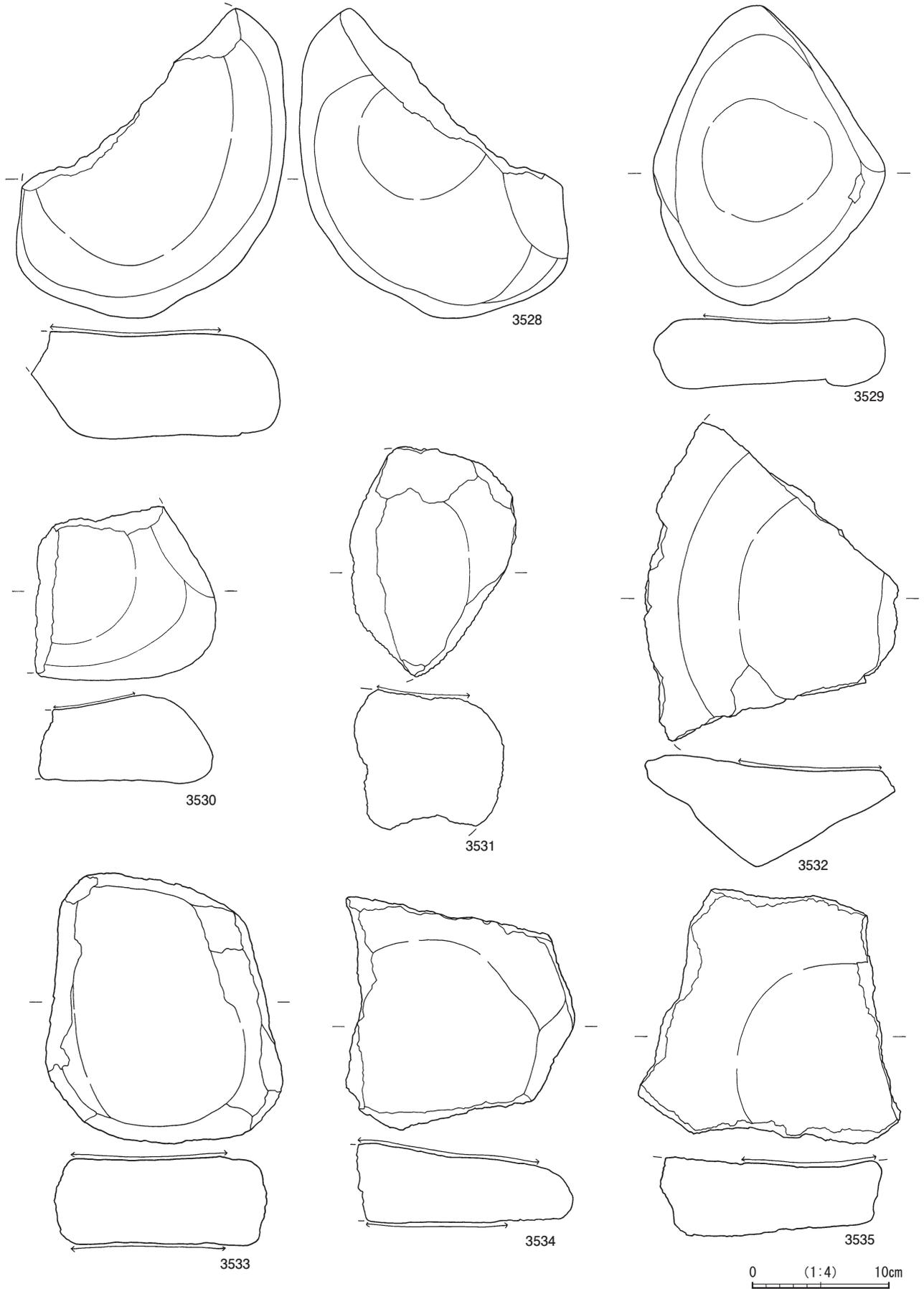
3526



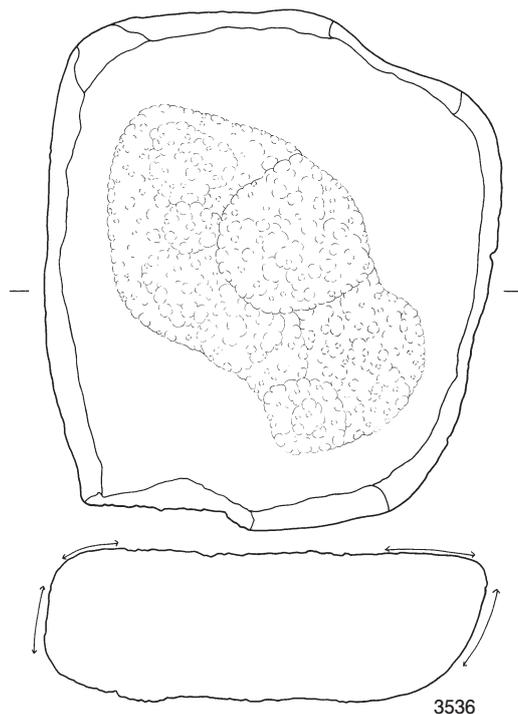
3527



第 583 图 VI 層出土石器 (70)

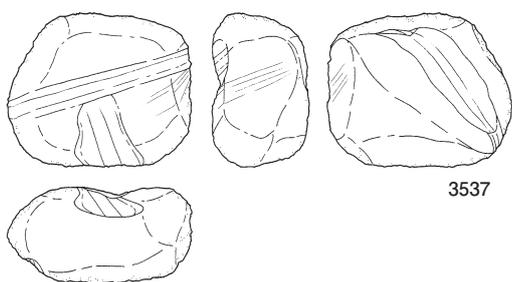


第 584 图 VI 層出土石器 (71)

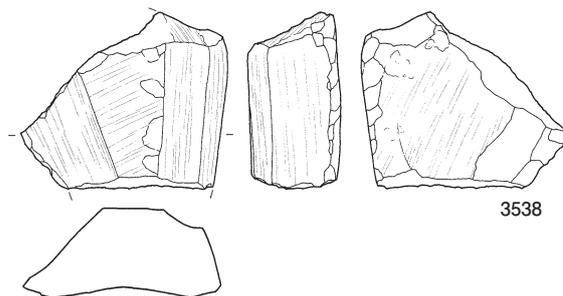


3536

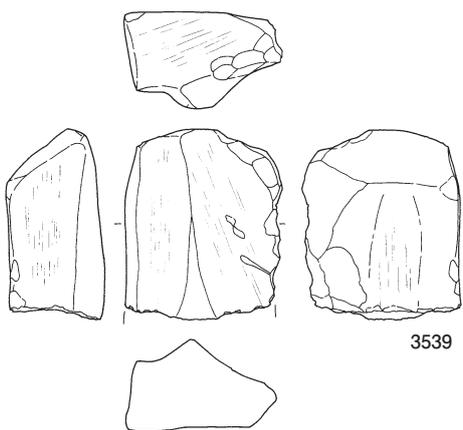
0 (1:4) 10cm



3537



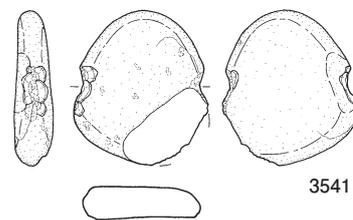
3538



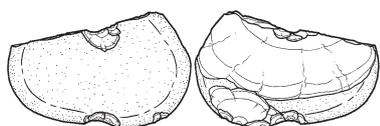
3539



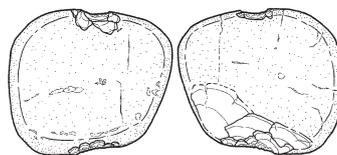
3540



3541



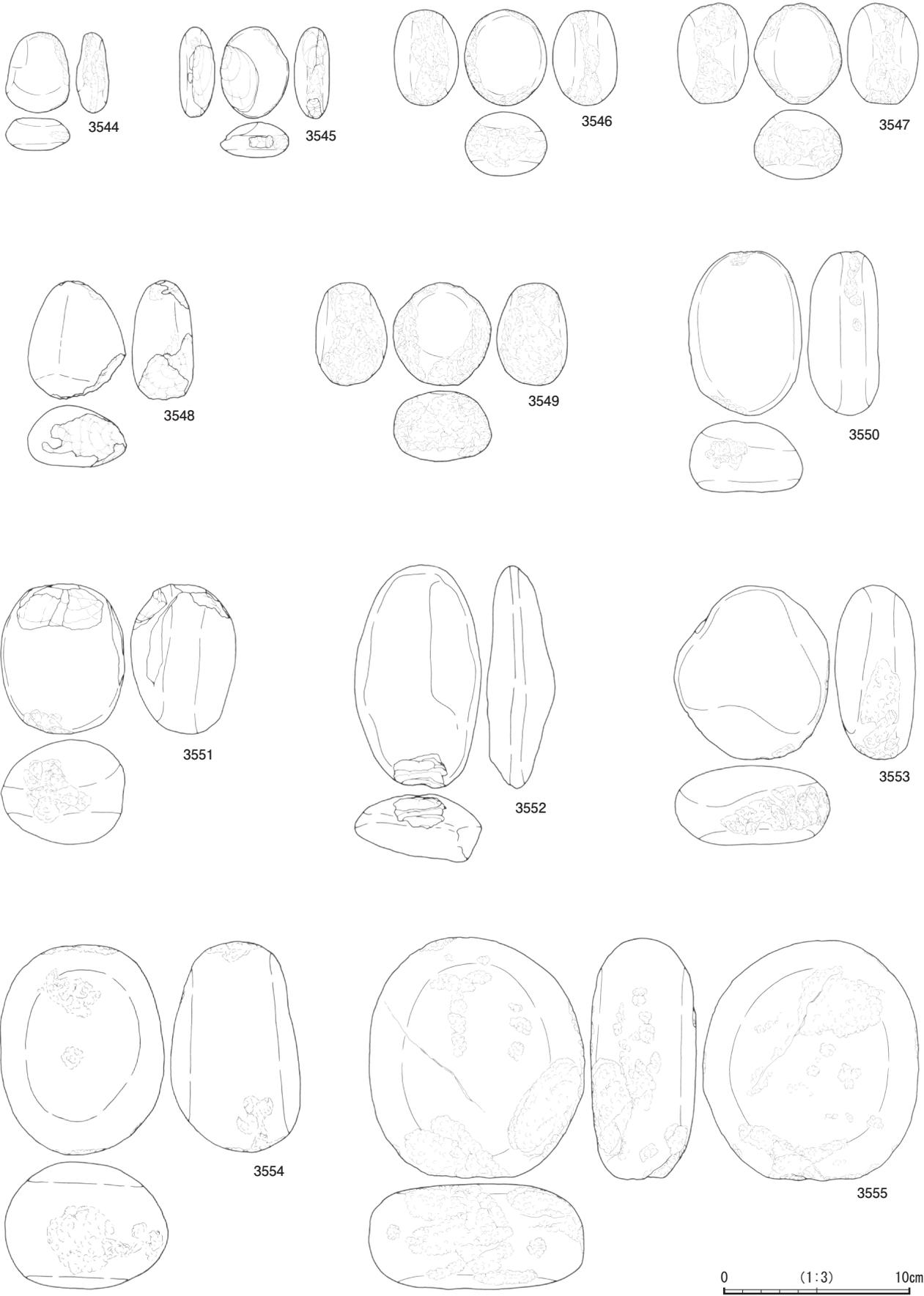
3542



3543

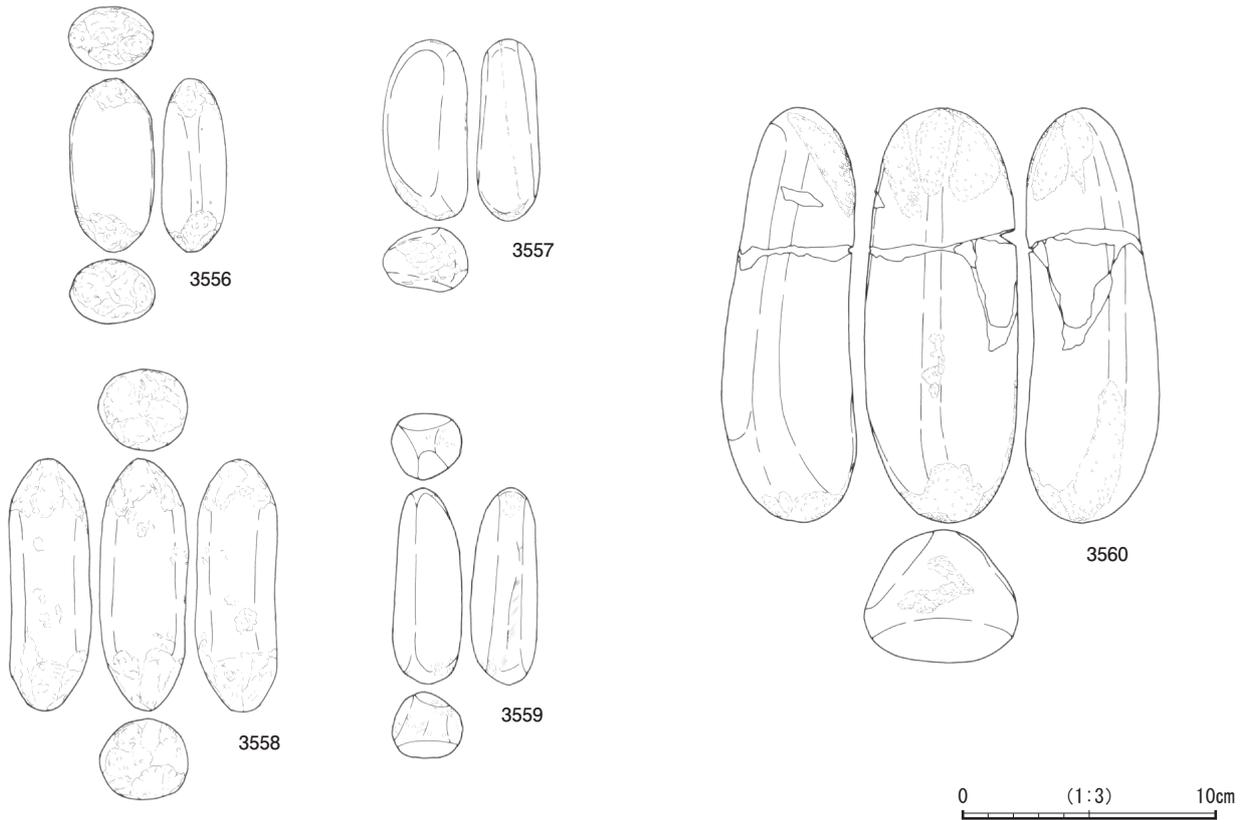
0 (1:3) 10cm

第 585 图 VI 层出土石器 (72)



第 586 图 VI層出土石器 (73)





第 587 図 VI層出土石器 (74)

～3560 の5点は棒状敲石である。扁平な円形や卵形を呈するものが多く、石材は多孔質な安山岩を使用し、3545は頁岩、3552はホルンフェルス、3556～3560の棒状敲石は砂岩である。3546・3547・3549は側面のほぼ全域に敲打痕を残される。3548は被熱により赤化している。3552は扁平な楕円形を呈し、下端部のみ使用痕が残る。

3556・3557・3559は大きさが類似し、長さが7cm、重さが80g前後と小型である。また、3556・3558・3560は両端に明瞭な使用痕を残し、3560は被熱により赤化している。

#### (22) 磨・敲石 (第 588 ～ 592 図 3561 ～ 3630)

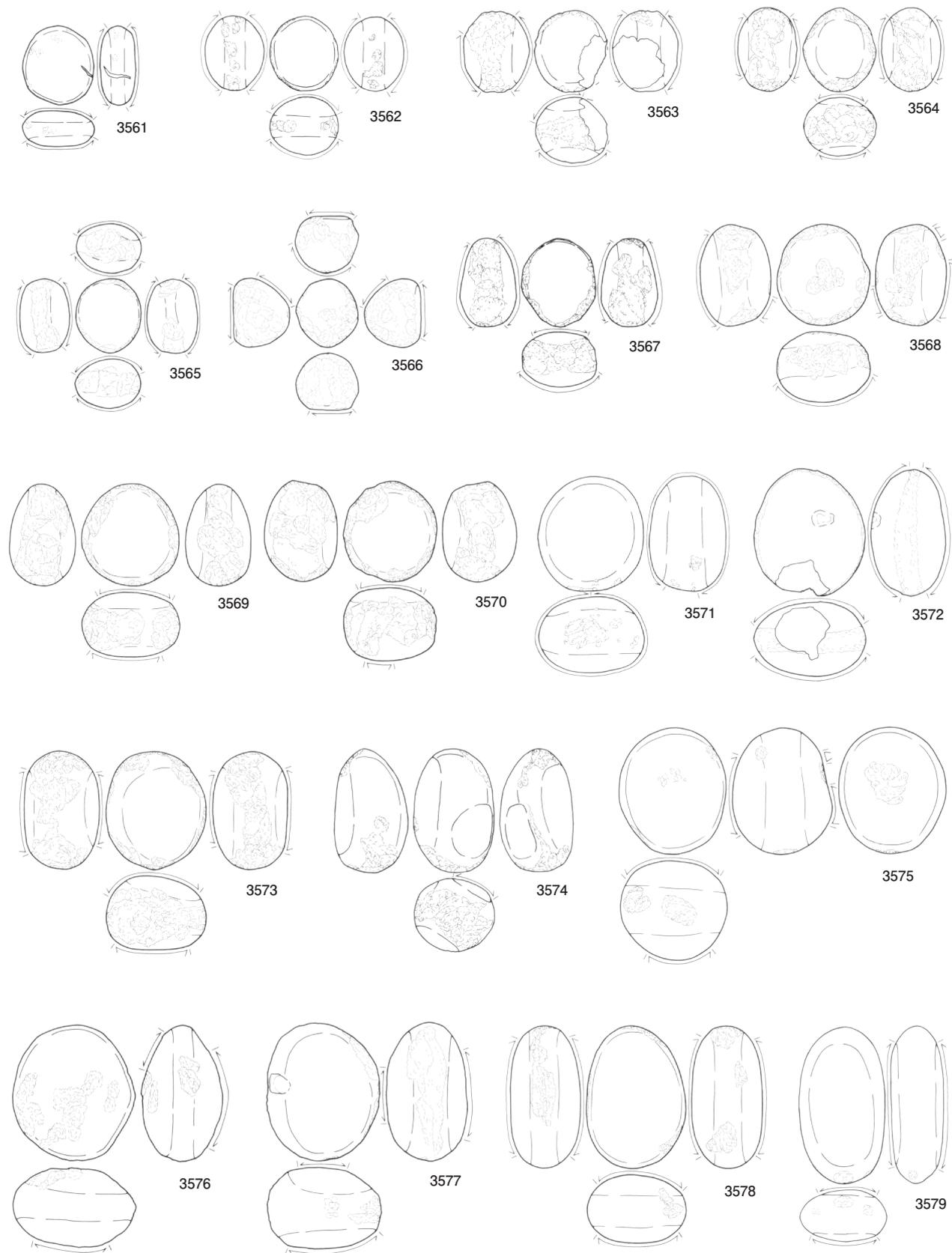
磨・敲石は3561～3630の70点図化した。石材は多孔質な安山岩や砂岩を多く使用する。長さが7～10cm大のものが中心であり、円形や卵形を呈する。3561～3566は長さが4cm以下であり、3564・3566はほぼ全面に敲打痕もしくは磨面が残る。3568・3575・3584・3587・3589・3598は表面、3604は表裏面の中央に敲打による凹みが見られる。3569・3570・3573・3580・3586・3597・3608・3609・3611・3615は側面の全域に敲打痕を残し、表裏面は磨面が残る。3610・3629は上端部に割れが見られ、表裏面は磨面が残る。3628は棒状、3630は下半部が欠損するが、石蝕状を呈すると考えられる。

#### (23) 磨石 (第 593 ～ 597 図 3631 ～ 3692)

磨石は3631～3692の62点図化した。石材は多孔質な安山岩が多く、砂岩や花崗岩も使用する。7cm及び10cm前後の円形を呈するものが多い。3631は長さ2cmの小型の磨石であり、全面に磨面を残す。3638・3648・3649・3662は扁平で方形に近く、3637・3669は横断面が三角形状になる。ほとんどの資料は表裏面に磨面を残すが、3651は裏面、3686は表面のみに磨面が認められる。3683は石蝕状を呈し、表裏面に線状の削れが生じている。

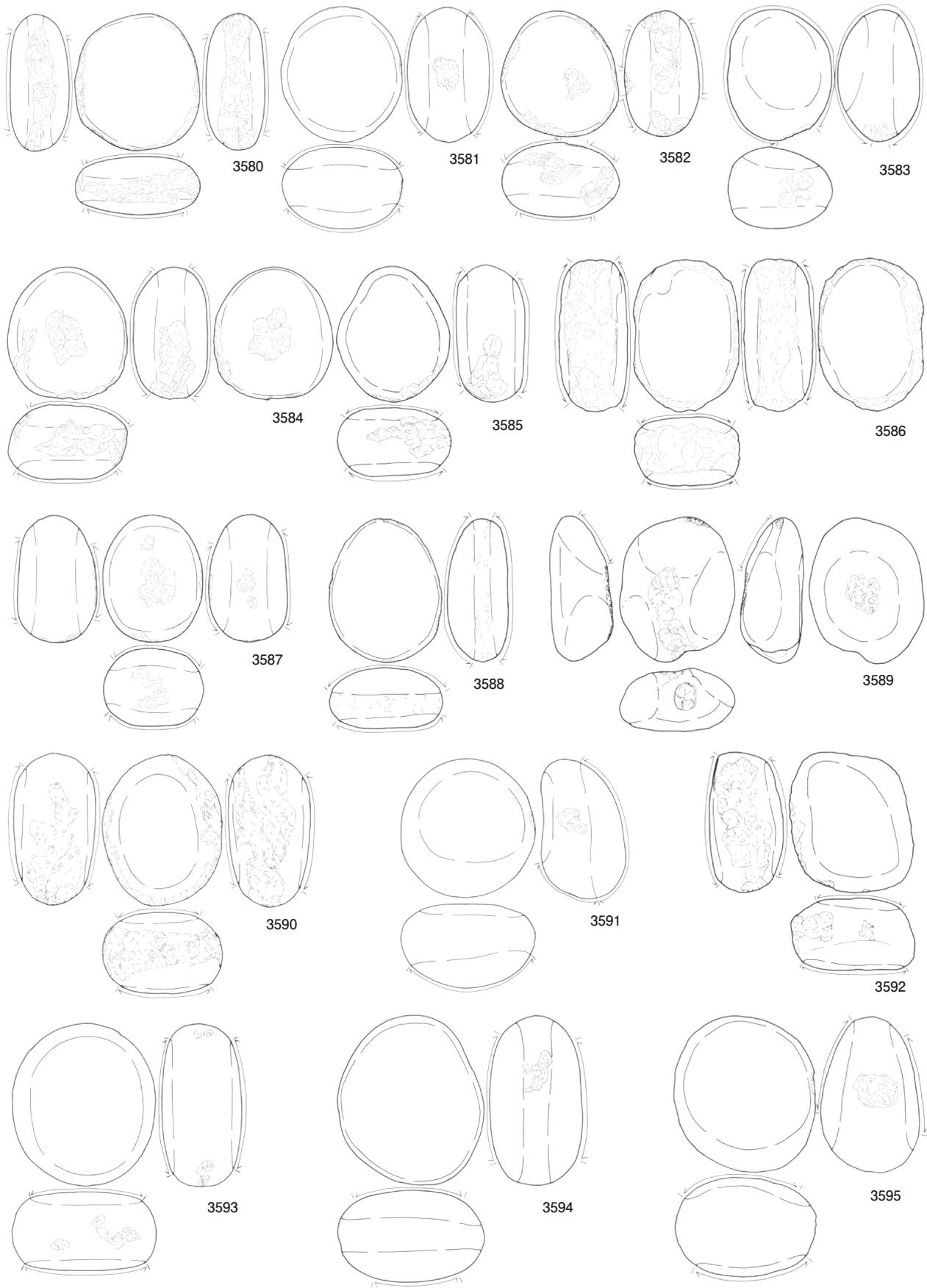
#### (24) 異形石器 (第 598 図 3693 ～ 3698)

異形石器は6点図化した。3693～3696は安山岩を素材とする。3693は上端部中央及び下端部の両端から挟りを入れることで、軍配状を呈する。3694・3695は「X」字状を呈する。3694は右側縁部及び下端部に挟りを入れるため左右非対称だが、3695は両側縁部及び上下端部に挟りを入れており、下半部は鋏形鏃のように幅広になる。3696は節理面を打面とする剥片素材を使用する。上端部は打面をそのまま残し、下端部には挟り、両側縁部には剥離調整を施す。3697は三船産黒曜石を素材とし、上端部及び下端部の挟りの両端を丸く作り出す。3696・3697は打製石鏃の未製品の可能性もある。3698はホルンフェルスの小円礫を素材とし、両側縁部及び下端部に擦切に

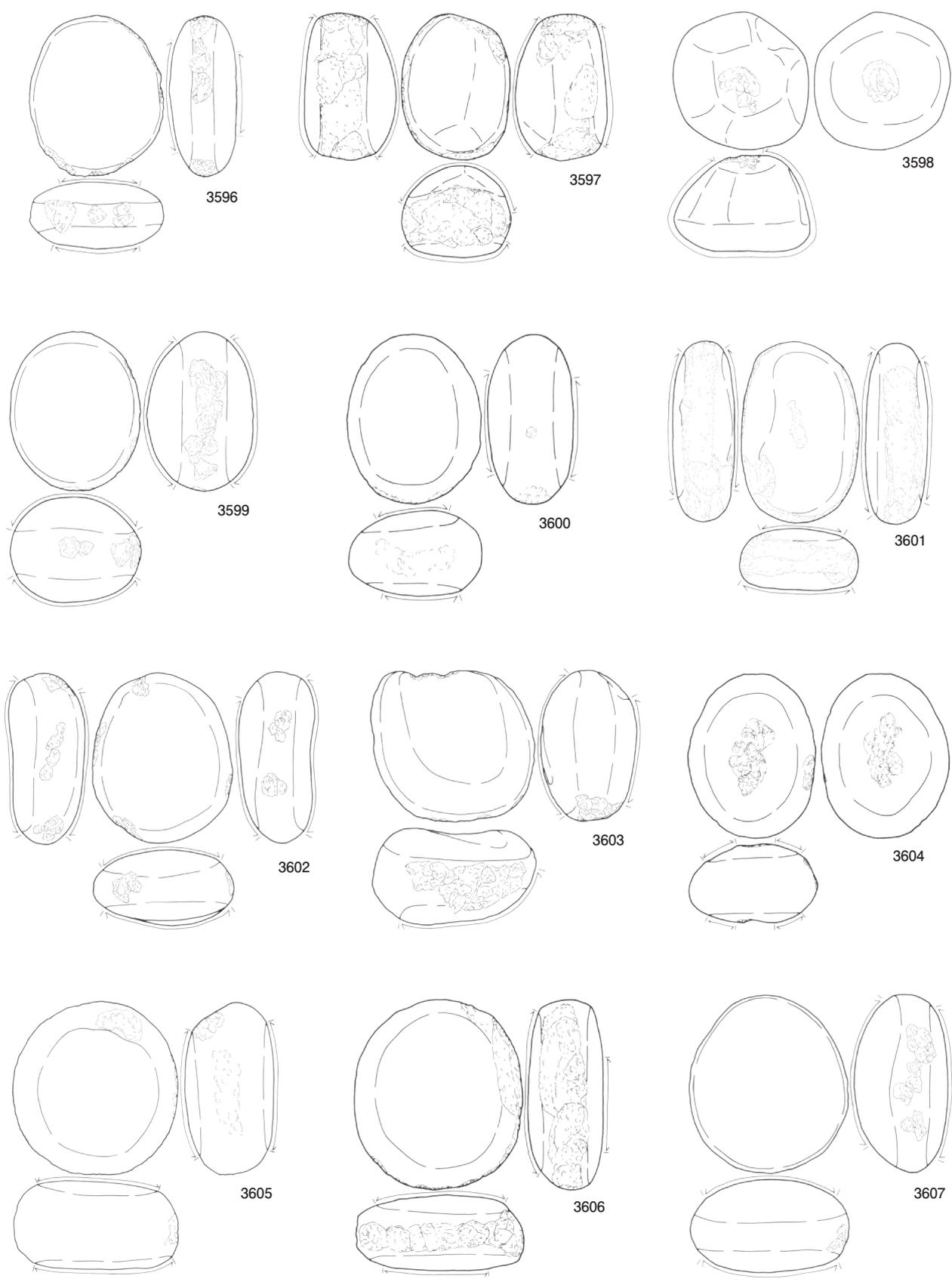


0 (1:3) 10cm

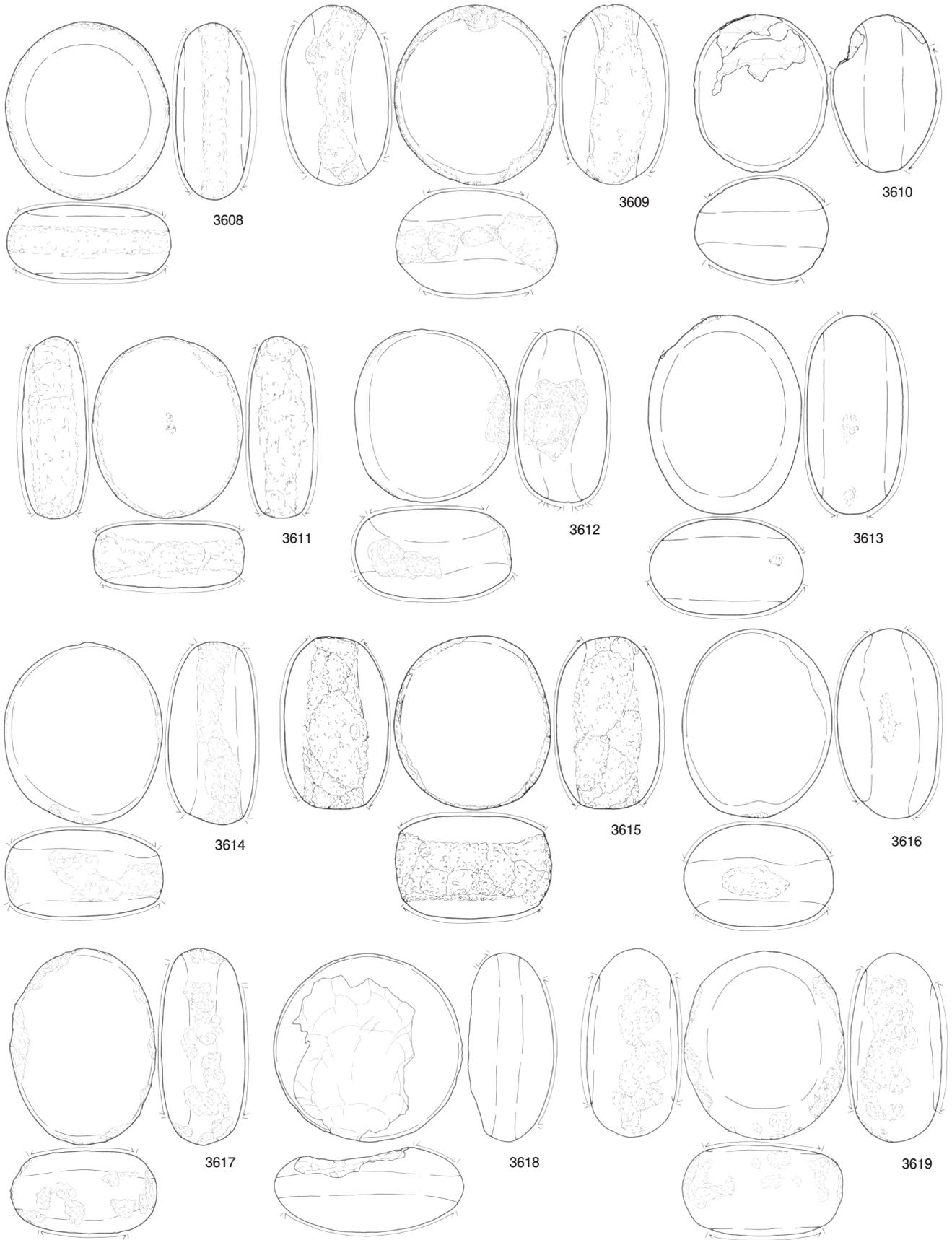
第 588 图 VI 层出土石器 (75)



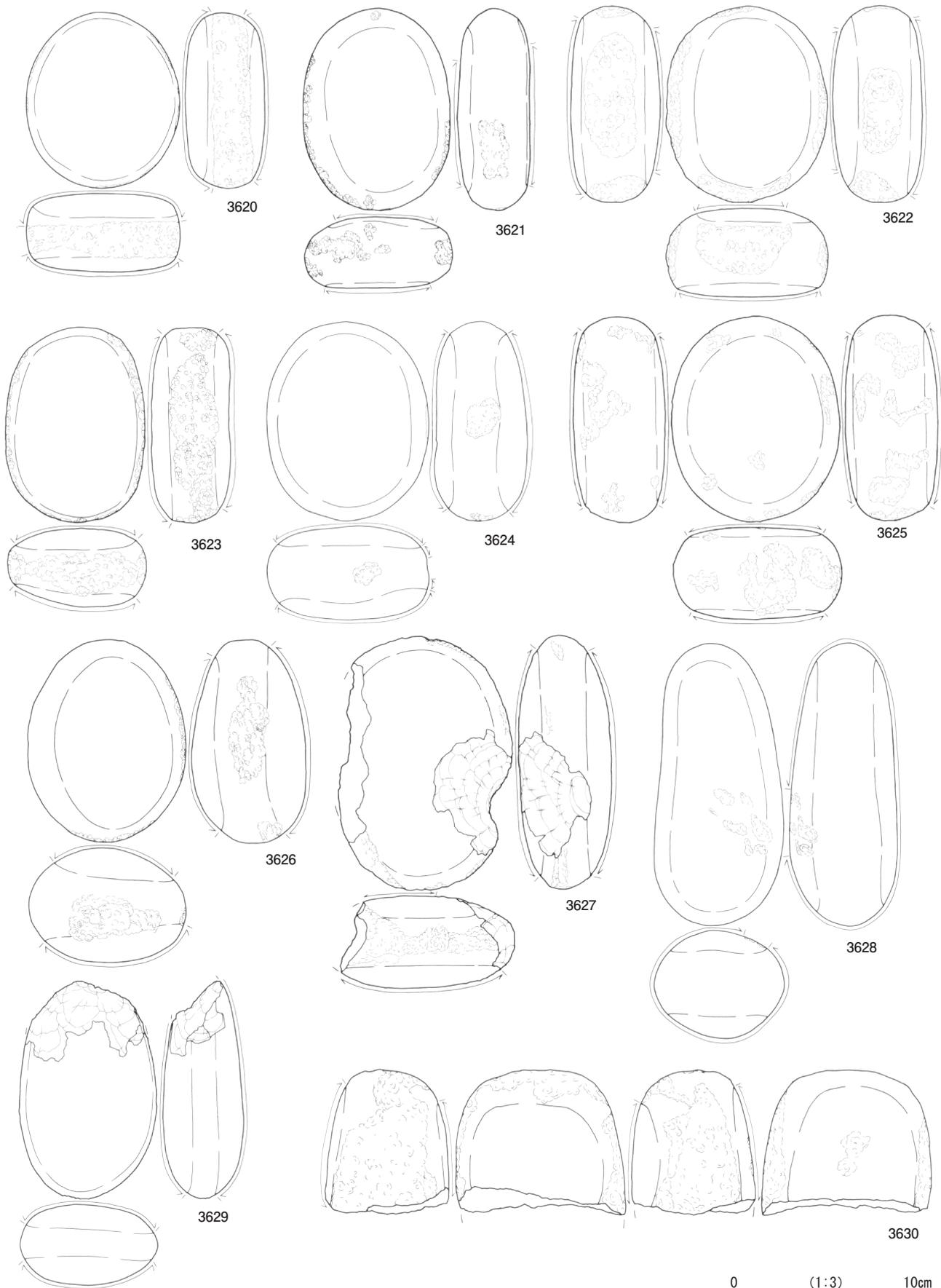
第 589 图 VI 层出土石器 (76)



第 590 图 VI 层出土石器 (77)

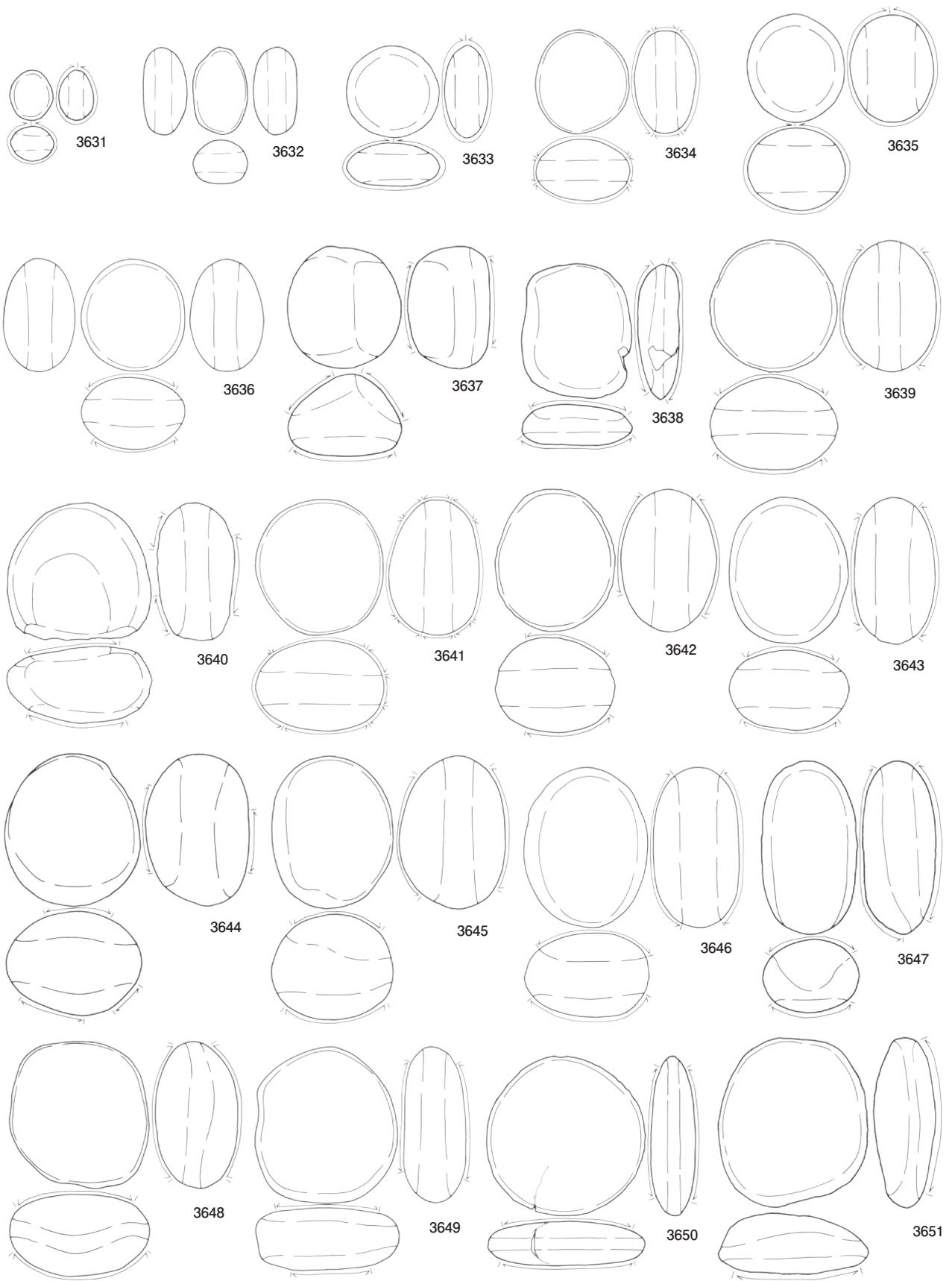


第 591 图 VI 层出土石器 (78)



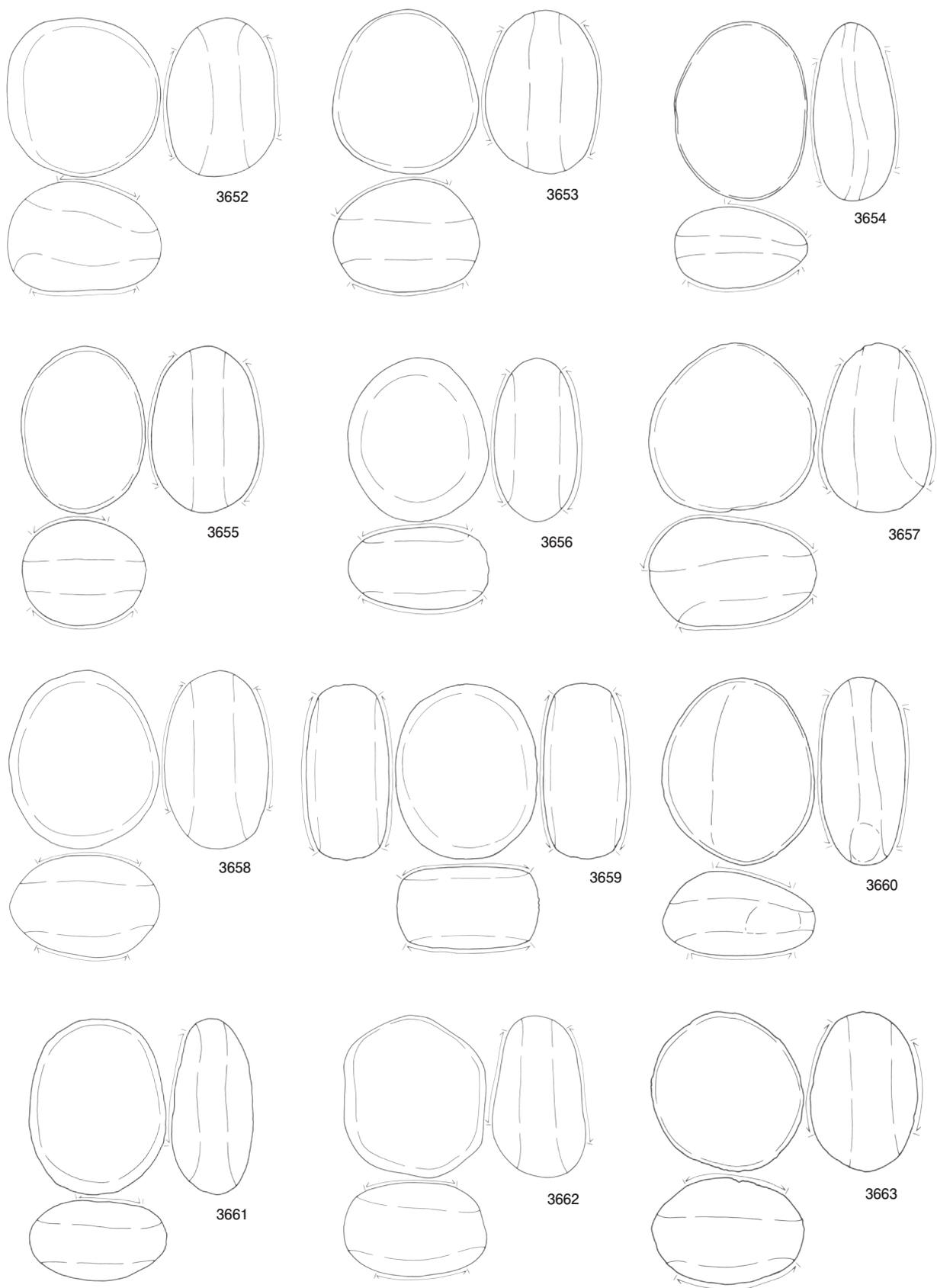
0 (1:3) 10cm

第 592 图 VI 层出土石器 (79)



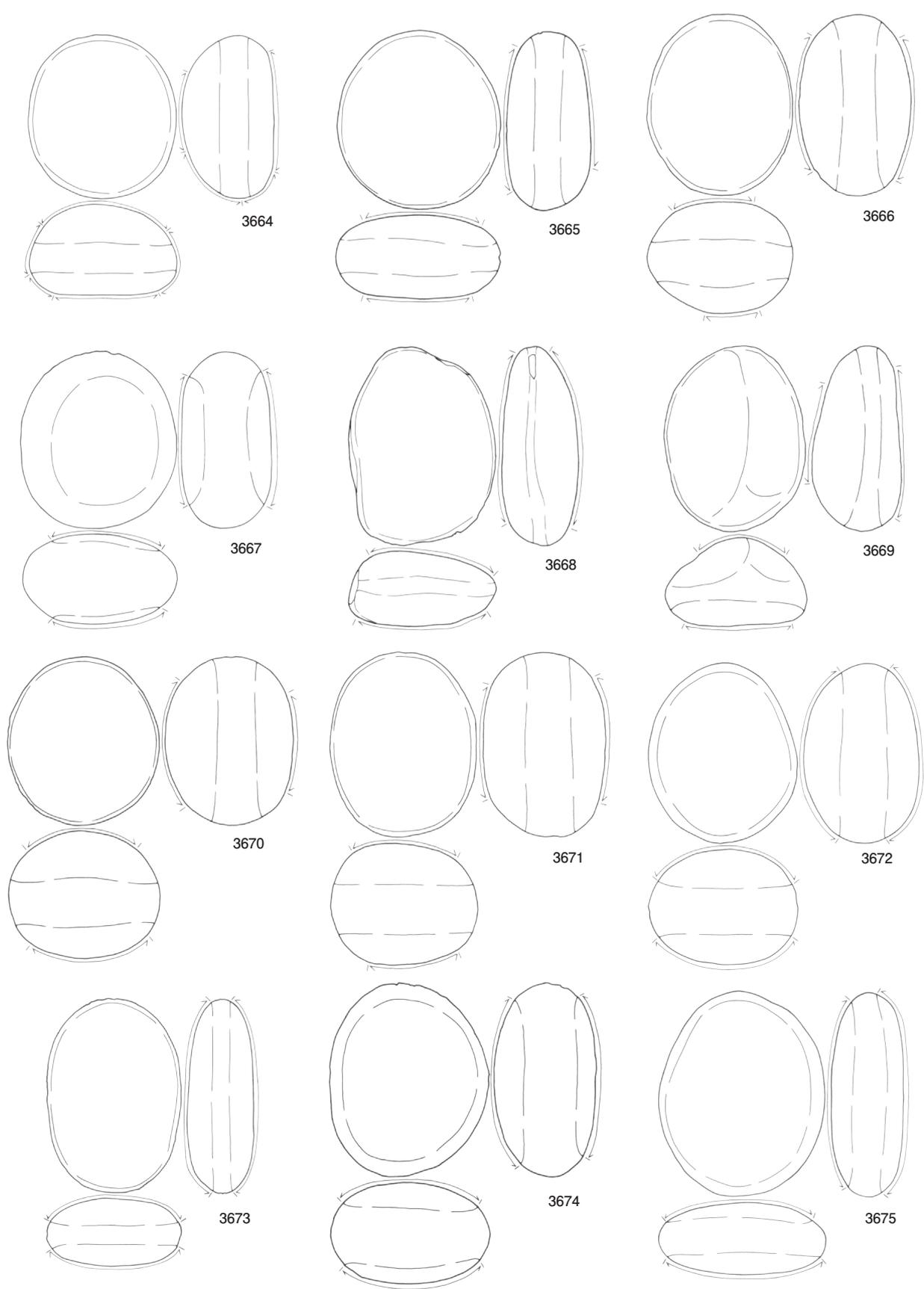
0 (1:3) 10cm

第 593 图 VI 层出土石器 (80)



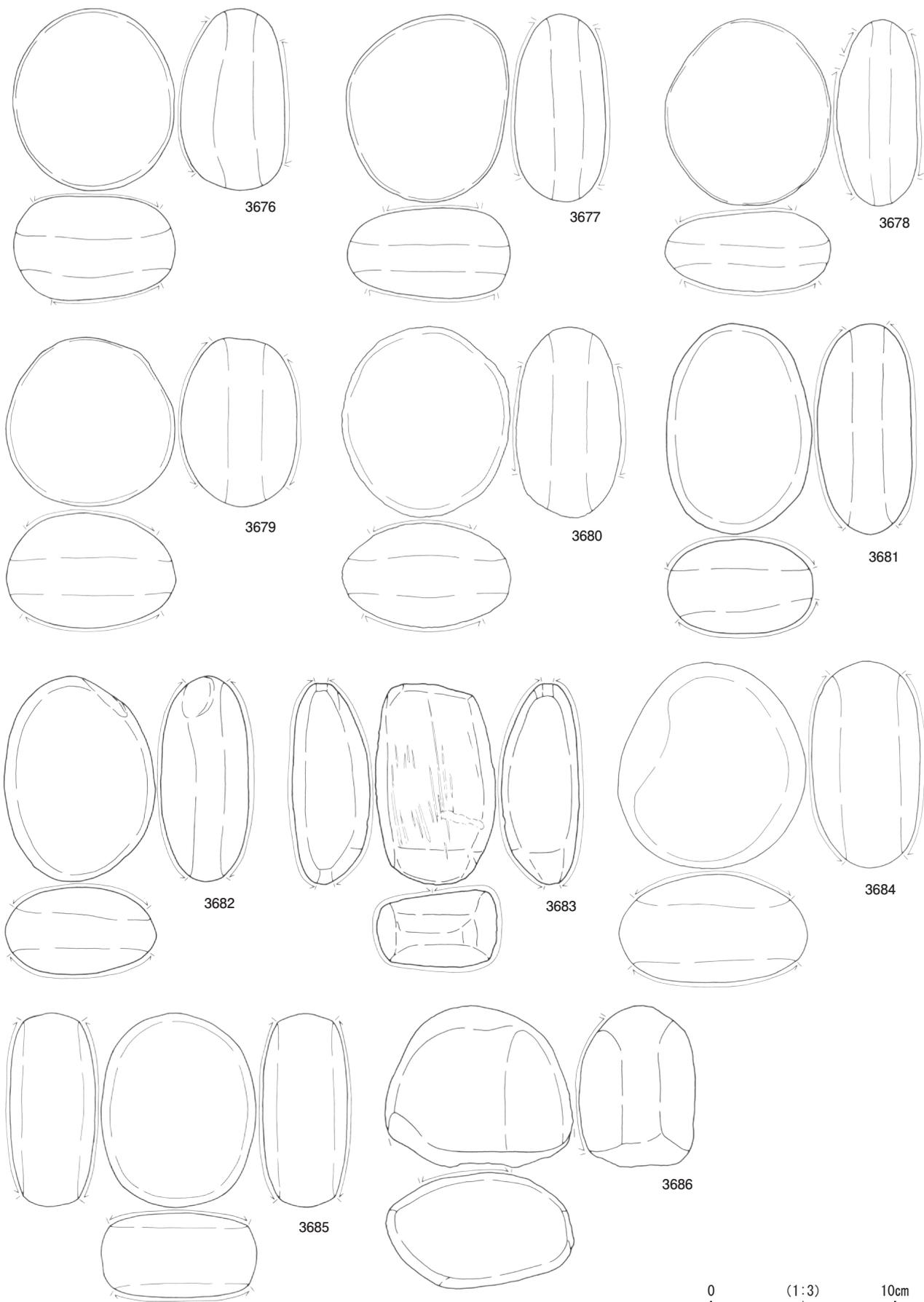
第 594 图 VI 层出土石器 (81)



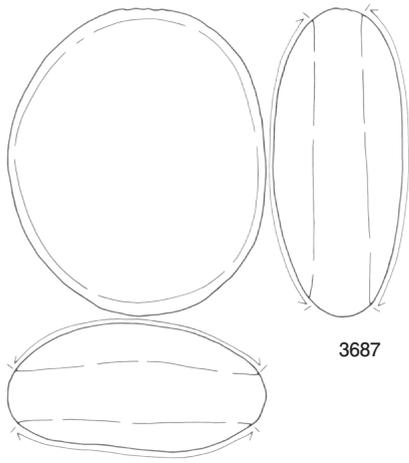


0 (1:3) 10cm

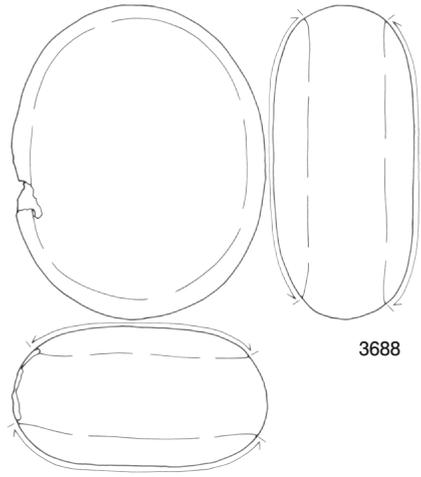
第 595 图 VI 层出土石器 (82)



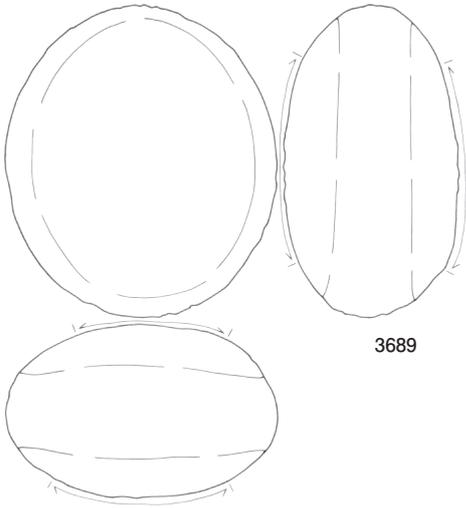
第 596 图 VI 层出土石器 (83)



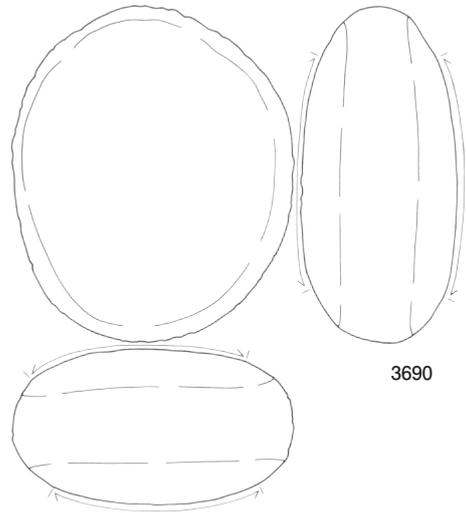
3687



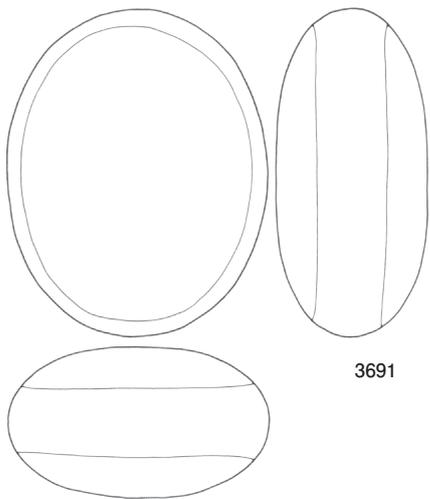
3688



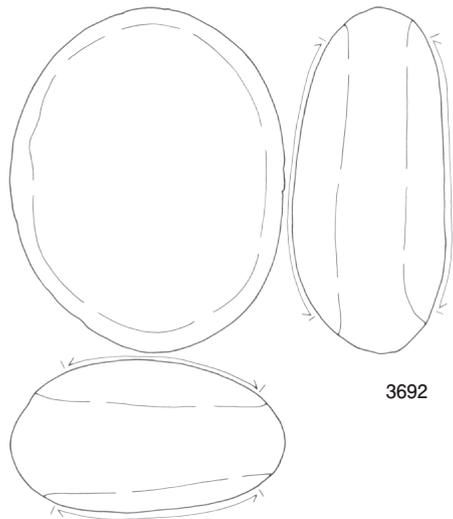
3689



3690



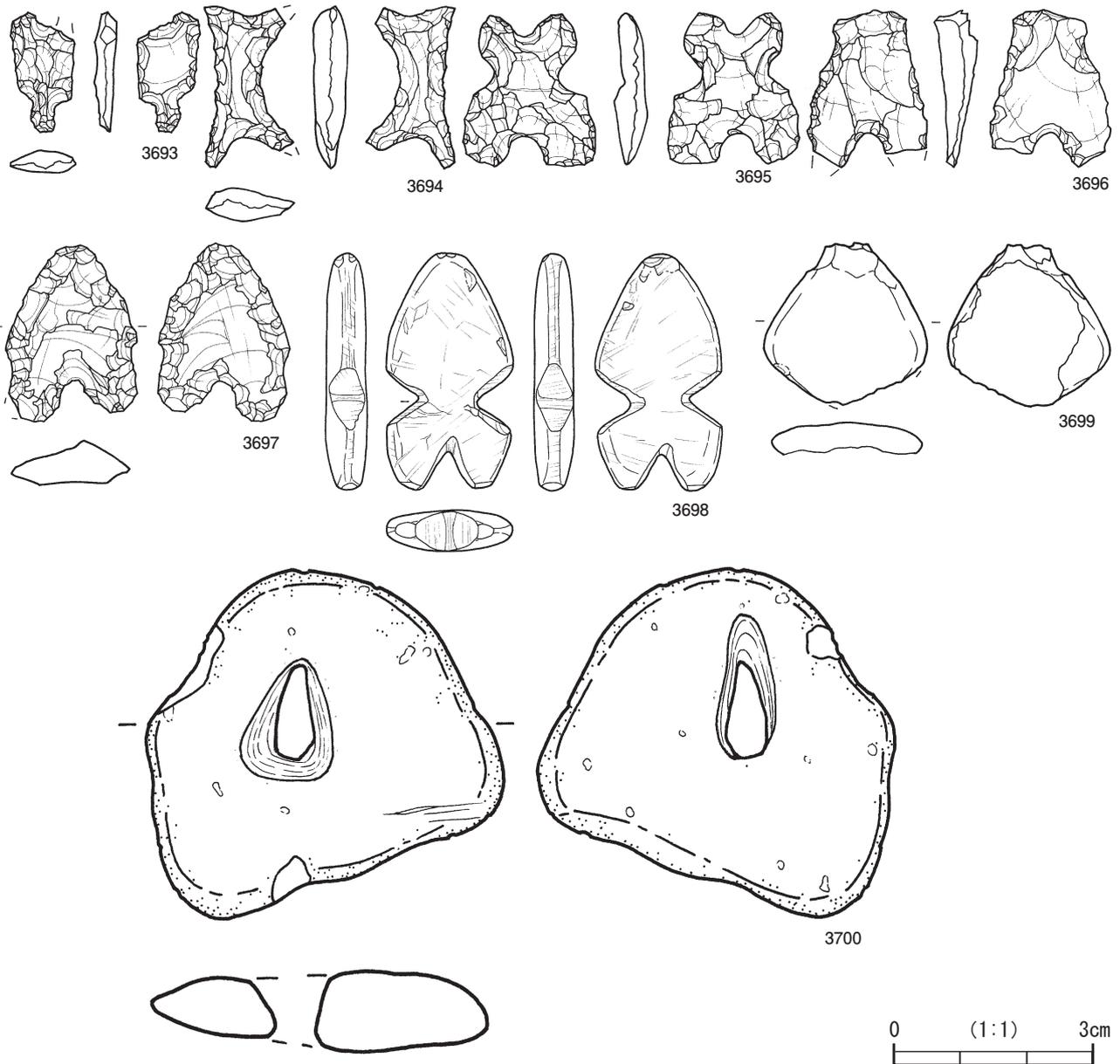
3691



3692

0 (1:3) 10cm

第 597 图 VI 层出土石器 (84)



第 598 図 VI層出土石器 (85)

よる三角形状の抉りをもつ。摩耗が激しいが、部分的に打ち欠いた痕跡もみられ、全面を研磨している。

(25) 垂飾品 (第 598 図 3699)

3699 は蛇紋岩の小円礫を素材とし、上端部及び裏面は欠損する。穿孔はみられないが、全面に研磨が施されることから、垂飾品の未製品と考えられる。

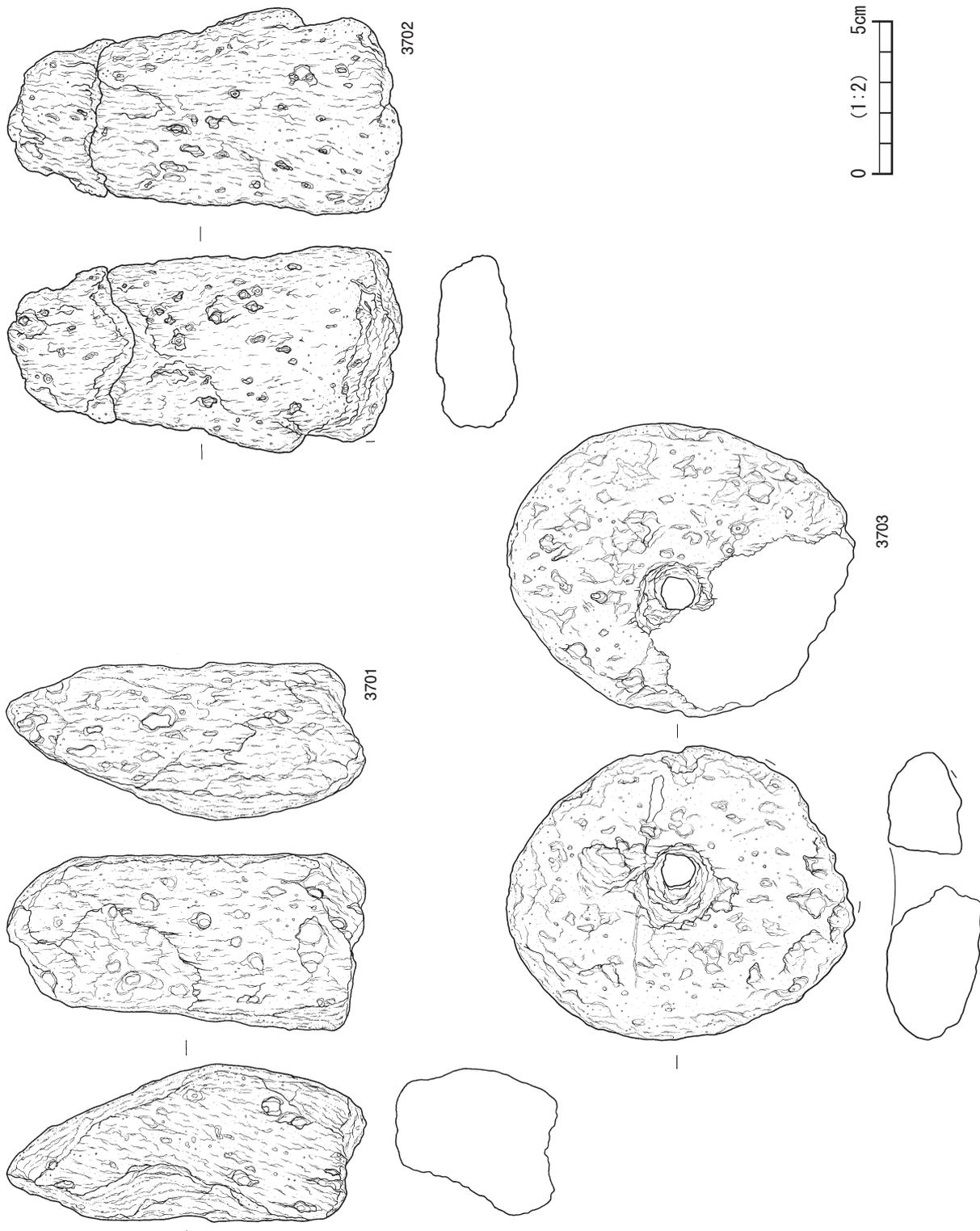
(26) ペットストーン (第 598 図 3700)

3700 は安山岩の 5 cm 大の扁平な垂円礫を素材とする。自然の孔に穿孔と研磨による二次加工を行っている。用途不明であり、嗜好品として持ち込まれたペットストーンと考えられる。上野原遺跡第 10 地点で報告されている。

(27) 軽石製品 (第 599 図 3701 ~ 3703)

3701・3702 は柱状、3703 は円盤状を呈する。最大長

が 11cm・12.85cm・11.3cm と近似する。3701 は表裏面は研磨による平坦面をもち、右側面はカーブに沿って丁寧に研磨される。3702 は表裏面に研磨による平坦面をもち、表面の一部に赤色顔料が塗布される。3703 は裏面の一部を欠損するが、表裏面は研磨により平坦面を作出し、側面も研磨によって成形されている。穿孔は両面から行われる。



第 599 図 VI 層出土石器 (86)

第 63 表 VII層出土石器観察表 (1)

挿入 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
464	1577	打製石鏃	CH	G-19	VII	(1.03)	1.26	0.32	0.33	
	1578	打製石鏃	OB4	E-14	VII	(1.25)	(1.20)	0.25	0.29	
	1579	打製石鏃	OB3	G-24	VII	1.12	1.06	0.35	0.41	
	1580	打製石鏃	OB4	G-20	VII	1.23	1.22	0.29	0.31	
	1581	打製石鏃	OB3	I-21	VII	(1.22)	(1.18)	0.33	0.32	
	1582	打製石鏃	SH	G-14	VII	(1.42)	(1.50)	0.55	0.49	
	1583	打製石鏃	AN	E-24	VII	1.30	1.35	0.35	0.37	
	1584	打製石鏃	CH	E-17	VII	1.55	1.52	0.40	0.51	
	1585	打製石鏃	CC1	F-20	VII	(1.70)	(1.40)	0.30	0.61	
	1586	打製石鏃	CC3	J-22	VII	(1.35)	(1.16)	0.32	0.32	
	1587	打製石鏃	SH	K-21	VII	(1.64)	(1.56)	0.43	0.69	
	1588	打製石鏃	OB7	K-13	VII	1.70	1.60	0.62	0.72	
	1589	打製石鏃	CH	I-16	VII	1.40	1.34	0.36	0.50	
	1590	打製石鏃	AN	G-18	VII	(1.25)	(1.30)	0.25	0.37	
	1591	打製石鏃	SH	I-18	VII	(1.16)	(1.56)	0.43	0.47	
	1592	打製石鏃	AN	G-23	VII	1.20	1.40	0.30	0.22	
	1593	打製石鏃	OB2	F-23	VII	(1.02)	(1.02)	0.35	0.18	
	1594	打製石鏃	OB5	F-12	VII上	(1.21)	(1.16)	0.28	0.31	
	1595	打製石鏃	TU	I-17	VII	1.40	1.55	0.25	0.26	
	1596	打製石鏃	AN	F-23	VII	1.40	1.30	0.40	0.46	
	1597	打製石鏃	AN	G-20	VII	1.30	1.32	0.31	0.32	
	1598	打製石鏃	OB6	K-22	VII	1.40	1.40	0.35	0.40	
	1599	打製石鏃	OB1	I-17	VII	1.26	1.49	0.28	0.40	
	1600	打製石鏃	OB5	G-20	VII	(1.58)	(1.20)	0.38	0.44	
	1601	打製石鏃	AN	K-17	VII	(1.70)	(1.20)	0.25	0.31	
	1602	打製石鏃	OB6	H-21	VII	(1.65)	(1.35)	0.35	0.43	
	1603	打製石鏃	OB6	I-21	VII	1.42	1.35	0.45	0.61	
	1604	打製石鏃	CH	N-20	VII	1.45	1.40	0.32	0.42	
	1605	打製石鏃	CH	I-19	VII	1.48	1.46	0.34	0.47	
	1606	打製石鏃	OB1	M-20	VII	1.29	1.63	0.32	0.51	
	1607	打製石鏃	OB4	E-18	VII	(1.57)	(1.42)	0.34	0.45	
	1608	打製石鏃	CH	K-21	VII	(1.50)	(1.35)	0.30	0.44	
	1609	打製石鏃	OB4	G-25	VII	(1.55)	(1.30)	0.26	0.41	
	1610	打製石鏃	CH	K-15	VII	1.54	1.67	0.28	0.52	
	1611	打製石鏃	OB5	I-20	VII	1.70	1.72	0.41	0.77	
	1612	打製石鏃	CH	L-17	VII	(1.95)	(1.70)	0.35	0.81	
	1613	打製石鏃	CH	I-24	VII	1.80	1.77	0.60	1.21	
	1614	打製石鏃	AN	M-13	VII	(1.95)	(1.75)	0.40	0.74	
	1615	打製石鏃	CH	G-23	VII	2.00	1.85	0.50	2.04	
	1616	打製石鏃	CH	D-20	VII	2.07	1.79	0.43	0.95	
	1617	打製石鏃	CH	M-14	VII	2.05	2.02	0.47	1.18	
	1618	打製石鏃	CH	D-22	VII	(2.15)	(1.82)	0.60	1.20	
	465	1619	打製石鏃	OB4	L-21	VII	(1.93)	1.04	0.23	0.38
		1620	打製石鏃	OB6	G-22	VII	2.00	1.20	0.50	0.82
		1621	打製石鏃	OB7	K-21	VII	2.15	1.12	0.30	0.78
		1622	打製石鏃	AN	H-24	VII	(2.55)	(1.25)	0.35	0.84
1623		打製石鏃	SH	G-15	VII	(2.76)	(1.27)	0.37	0.86	
1624		打製石鏃	AN	F-24	VII	(2.55)	1.45	0.58	1.43	
1625		打製石鏃	OB6	E-22	VII	2.62	1.55	0.45	0.97	
1626		打製石鏃	OB6	E-22	VII	(2.67)	(1.50)	0.45	1.09	
1627		打製石鏃	AN	G-22	VII	(2.70)	(1.40)	0.70	1.45	
1628		打製石鏃	AN	L-19	VII	(3.15)	(1.60)	0.30	1.00	
1629		打製石鏃	AN	N-19	VII a上	(2.93)	(1.64)	0.60	1.79	
1630		打製石鏃	AN	K-20	VII	3.60	1.75	0.80	3.51	
1631		打製石鏃	OB6	F-24	VII	(4.05)	(1.95)	0.50	2.66	
1632		打製石鏃	AN	F-8	VII	(4.94)	1.94	0.66	4.88	
466	1633	打製石鏃	OB4	F-23	VII	1.24	1.18	0.25	0.27	
	1634	打製石鏃	OB3	G-22	VII	1.30	1.09	0.30	0.30	
	1635	打製石鏃	OB4	E-16	VII	1.34	1.15	0.30	0.37	
	1636	打製石鏃	CH	I-21	VII	1.30	1.12	0.20	0.24	

第 64 表 VII層出土石器観察表 (2)

挿入 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
466	1637	打製石鏃	OB1	G-16	VII	(1.22)	1.14	0.50	0.58	
	1638	打製石鏃	AN	N-20	VII	(1.65)	(1.30)	0.28	0.49	
	1639	打製石鏃	SH	M-20	VII	1.72	1.38	0.35	0.46	
	1640	打製石鏃	OB4	F-20	VII	1.75	1.23	0.24	0.35	
	1641	打製石鏃	OB7	H-20	VII	(1.56)	(1.23)	0.39	0.60	
	1642	打製石鏃	AN	M-17	VII上	(1.66)	1.48	0.24	0.50	
	1643	打製石鏃	OB7	J-20	VII	(1.60)	1.50	0.45	0.76	
	1644	打製石鏃	CH	M-20	VII上	1.80	1.53	0.39	0.80	
	1645	打製石鏃	AN	F-5	VII	2.00	1.43	0.32	0.78	
	1646	打製石鏃	CH	G-15	VII	1.97	1.35	0.47	1.00	
	1647	打製石鏃	OB1	M-21	VII上	(2.06)	(1.52)	0.60	1.91	
	1648	打製石鏃	AN	L-14	VII	2.38	1.63	0.30	1.03	
	1649	打製石鏃	AN	H-21	VII	(2.10)	1.30	0.50	1.66	
	1650	打製石鏃	CC3	K-21	VII	(2.00)	(2.10)	0.85	2.84	
	1651	打製石鏃	CC2	E-17	VII	(2.56)	2.08	0.64	2.91	
	1652	打製石鏃	CH	G-13	VII	(2.45)	(1.78)	0.45	1.67	
	1653	打製石鏃	AN	K-20	VII	(2.40)	(1.90)	0.50	1.51	
	1654	打製石鏃	CH	E-17	VII	(2.75)	(1.20)	0.35	0.93	
	1655	打製石鏃	CH	E-22	VII	(2.86)	(1.89)	0.48	1.98	
	1656	打製石鏃	OB1	H-24	VII a上	(2.70)	2.40	1.10	6.14	
	1657	打製石鏃	CH	N-18	VII	(2.34)	2.51	0.70	3.58	
	1658	打製石鏃	SH	L-18	VII	(3.20)	(1.90)	0.60	2.79	
	467	1659	打製石鏃	OB5	F-19	VII	1.00	0.89	0.17	0.07
		1660	打製石鏃	OB4	H-22	VII	1.53	1.01	0.42	0.41
		1661	打製石鏃	AN	L-14	VII	1.60	1.30	0.28	0.41
		1662	打製石鏃	OB5	K-22	VII	1.51	1.30	0.33	0.50
		1663	打製石鏃	CH	J-17	VII	1.76	1.29	0.39	0.70
		1664	打製石鏃	CH	L-21	VII a上	1.69	1.34	0.54	0.90
		1665	打製石鏃	OB7	I-19	VII	(1.47)	1.32	0.39	0.53
		1666	打製石鏃	AN	H-17	VII	1.81	1.62	0.38	0.72
		1667	打製石鏃	OB6	F-16	VII	(1.26)	1.64	0.44	0.76
		1668	打製石鏃	OB6	N-13	VII	(1.53)	1.53	0.42	0.66
		1669	打製石鏃	SH	K-21	VII	(1.70)	(1.09)	0.58	0.79
		1670	打製石鏃	AN	G-22	VII	(1.80)	(1.55)	0.60	1.52
		1671	打製石鏃	CC1	F-23	VII	(1.90)	(1.60)	0.40	0.78
		1672	打製石鏃	OB4	M-11	VII上	1.95	1.73	0.50	1.07
		1673	打製石鏃	SH	L-20	VII	1.80	1.60	0.50	0.76
		1674	打製石鏃	CH	K-13	VII	1.97	1.72	0.44	1.42
		1675	打製石鏃	OB7	J-21	VII	(1.70)	1.60	0.50	1.02
		1676	打製石鏃	AN	M-21	VII	(1.79)	(1.66)	0.55	1.36
		1677	打製石鏃	OB4	L-21	VII	(2.00)	(1.75)	0.40	0.95
		1678	打製石鏃	CH	H-21	VII	2.22	1.72	0.52	1.64
		1679	打製石鏃	AN	N-9	VII	(2.12)	1.96	0.62	2.22
		1680	打製石鏃	AN	J-21	VII	(2.50)	1.45	0.55	1.56
		1681	打製石鏃	OB4	K-9	VII	(2.51)	(1.48)	0.55	1.41
		1682	打製石鏃	SH	G-19	VII	(2.41)	1.88	0.46	1.49
1683		打製石鏃	CR	N-19	VII	(2.33)	(1.75)	0.76	1.89	
1684		打製石鏃	OB3	I-19	VII	(2.83)	(1.71)	0.53	1.66	
1685		打製石鏃	AN	G-16	VII	(1.40)	2.10	0.70	1.55	
1686		打製石鏃	CH	L-20	VII	(2.08)	2.50	0.48	2.17	
1687		打製石鏃	SH	K-21	VII	(1.50)	2.30	0.70	1.53	
1688		打製石鏃	CC1	N-20	VII	(2.90)	(2.00)	0.50	2.04	
468		1689	打製石鏃	AN	N-20	VII	(1.40)	(1.10)	0.35	0.30
		1690	打製石鏃	OB6	K-21	VII	(1.30)	(0.92)	0.45	0.38
		1691	打製石鏃	AN	M-16	VII上	(1.40)	(1.15)	0.33	0.33
		1692	打製石鏃	OB3	F-21	VII	(1.58)	(1.22)	0.44	0.48
		1693	打製石鏃	AN	J-21	VII	(1.50)	(1.20)	0.30	0.39
		1694	打製石鏃	AN	H-15	VII	(1.72)	(1.11)	0.24	0.37
		1695	打製石鏃	OB6	H-22	VII	(1.65)	(1.20)	0.28	0.28
		1696	打製石鏃	AN	L-20	VII	1.70	1.50	0.40	0.46

第 65 表 VII層出土石器観察表（3）

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
468	1697	打製石鏃	OB6	I-21	VII	(1.70)	(1.50)	0.40	0.68	
	1698	打製石鏃	OB4	J-22	VII上	1.70	1.45	0.40	0.63	
	1699	打製石鏃	CC1	G-20	VII	1.85	1.50	0.50	0.73	
	1700	打製石鏃	CH	N-18	VII	1.85	1.48	0.53	0.95	
	1701	打製石鏃	SH	K-15	VII	1.90	1.40	0.30	0.49	
	1702	打製石鏃	AN	H-22	VII	1.90	1.35	0.40	0.58	
	1703	打製石鏃	CC1	H-24	VII a 上	1.85	1.62	0.50	1.01	
	1704	打製石鏃	SH	F-24	VII	(1.55)	1.70	0.50	0.97	
	1705	打製石鏃	CH	D-21	VII	(1.93)	(1.25)	0.24	0.36	
	1706	打製石鏃	OB4	D-18	VII	(1.93)	(1.20)	0.38	0.46	
	1707	打製石鏃	AN	I-17	VII	2.01	1.58	0.35	0.73	
	1708	打製石鏃	CH	J-21	VII	(2.10)	(1.40)	0.40	0.74	
	1709	打製石鏃	CH	G-20	VII	(1.82)	(1.18)	0.44	0.63	
	1710	打製石鏃	AN	J-22	VII	(2.05)	(1.45)	0.55	0.85	
	1711	打製石鏃	OB4	F-22	VII	(2.10)	(1.35)	0.38	0.67	
	1712	打製石鏃	CC1	M-15	VII	2.04	1.48	0.28	0.63	
	1713	打製石鏃	OB6	G-24	VII a 上	(2.13)	(1.47)	0.53	1.04	
	1714	打製石鏃	OB4	D-24	VII	(2.20)	(1.78)	0.33	0.64	
	1715	打製石鏃	CH	K-20	VII	(2.18)	(1.26)	0.38	0.55	
	1716	打製石鏃	CC2	E-17	VII	(2.40)	(1.55)	0.50	1.25	
	1717	打製石鏃	OB7	I-16	VII	(2.30)	(1.58)	0.47	0.99	
	1718	打製石鏃	OB6	F-23	VII	(2.40)	1.50	0.60	1.47	
	1719	打製石鏃	AN	G-22	VII	(2.00)	1.75	0.35	0.57	
	1720	打製石鏃	AN	M-19	VII a	(1.84)	(1.57)	0.33	0.71	
1721	打製石鏃	OB7	H-22	VII	(1.79)	(1.40)	0.33	0.63		
1722	打製石鏃	SH	K-22	VII a 下	(2.07)	(1.58)	0.48	0.90		
469	1723	打製石鏃	CH	H-14	VII	(2.22)	(1.35)	0.36	0.57	
	1724	打製石鏃	AN	J-13	VII	(2.35)	1.75	0.40	0.94	
	1725	打製石鏃	AN	J-22	VII	(2.20)	(1.30)	0.30	0.65	
	1726	打製石鏃	OB4	K-15	VII	(2.38)	(1.62)	0.43	0.89	
	1727	打製石鏃	CH	J-14	VII	(2.27)	(1.60)	0.43	1.08	
	1728	打製石鏃	SH	J-13	VII	(2.60)	(1.30)	0.35	1.14	
	1729	打製石鏃	CH	G-19	VII	(2.57)	(1.56)	0.30	0.89	
	1730	打製石鏃	SH	I-22	VII	2.70	1.70	0.50	1.19	
	1731	打製石鏃	AN	M-21	VII	(2.70)	(1.40)	0.40	0.82	
	1732	打製石鏃	OB5	J-14	VII	(2.62)	(1.55)	0.36	0.88	
	1733	打製石鏃	AN	G-13	VII	(2.73)	(1.70)	0.37	0.93	
	1734	打製石鏃	AN	E-16	VII	(2.55)	(1.63)	0.44	1.09	
	1735	打製石鏃	CH	H-23	VII	(2.56)	(2.05)	0.57	1.78	
	1736	打製石鏃	CH	H-14	VII	(2.76)	(1.80)	0.34	1.02	
	1737	打製石鏃	SH	I-14	VII	2.83	2.11	0.55	1.79	
	1738	打製石鏃	CH	K-17	VII	(2.77)	(1.82)	0.38	1.18	
	1739	打製石鏃	CH	F-17	VII	(2.97)	(1.78)	0.54	1.47	
	1740	打製石鏃	CC2	K-13	VII	(2.55)	(1.85)	0.55	2.06	
	1741	打製石鏃	CH	K-20	VII	(3.22)	(1.85)	0.55	1.90	
	1742	打製石鏃	CH	J-16	VII	(3.14)	(1.97)	0.48	1.53	
	1743	打製石鏃	CH	M-17	VII	(3.10)	(2.10)	0.45	1.97	
	470	1744	打製石鏃	CH	D-18	VII	(1.35)	(1.04)	0.29	0.38
		1745	打製石鏃	AN	I-21	VII	1.40	1.32	0.30	0.32
		1746	打製石鏃	AN	H-23	VII	(1.50)	(1.30)	0.40	0.60
1747		打製石鏃	AN	G-22	VII	(1.60)	(1.30)	0.40	0.48	
1748		打製石鏃	AN	I-22	VII	(1.55)	1.60	0.41	0.70	
1749		打製石鏃	AN	H-21	VII	(1.35)	1.40	0.40	0.57	
1750		打製石鏃	CH	M-11	VII上	1.63	1.72	0.50	1.03	
1751		打製石鏃	AN	K-21	VII	1.75	1.47	0.50	0.64	
1752		打製石鏃	CH	N-14	VII	(1.88)	(1.40)	0.30	0.56	
1753		打製石鏃	AN	H-21	VII	(2.05)	(1.20)	0.42	0.65	
1754		打製石鏃	CH	N-16	VII	1.90	1.50	0.40	0.79	
1755		打製石鏃	CH	G-21	VII	2.03	1.86	0.53	1.26	
1756		打製石鏃	AN	I-21	VII	(1.55)	1.70	0.40	0.71	

第 66 表 VII層出土石器観察表（4）

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
470	1757	打製石鏃	AN	K-21	VII	(1.75)	1.15	0.60	1.22	
	1758	打製石鏃	CH	G-22	VII	(2.15)	(1.40)	0.35	0.78	
	1759	打製石鏃	AN	K-22	VII	1.98	1.52	0.43	0.74	
	1760	打製石鏃	OB6	H-19	VII	(1.65)	(1.50)	0.40	0.70	
	1761	打製石鏃	AN	I-18	VII	(1.40)	1.80	0.42	0.90	
	1762	打製石鏃	CH	K-18	VII	(1.88)	1.96	0.37	1.09	
	1763	打製石鏃	CH	L-18	VII a	(2.07)	(1.68)	0.30	0.79	
	1764	打製石鏃	CH	M-14	VII	(1.47)	2.01	0.40	0.83	
	1765	打製石鏃	AN	M-15	VII	(1.90)	2.00	0.40	1.35	
	1766	打製石鏃	SH	J-15	VII	(1.65)	(2.00)	0.30	0.99	
	1767	打製石鏃	CH	G-22	VII	(2.35)	(1.80)	0.30	0.94	
	1768	打製石鏃	CH	K-16	VII	(2.10)	2.05	0.40	1.40	
	1769	打製石鏃	OB6	L-21	VII	(2.09)	(1.90)	0.55	1.57	
	1770	打製石鏃	SH	M-16	VII	(2.08)	1.97	0.37	1.08	
	1771	打製石鏃	SH	K-13	VII	(2.37)	(1.60)	0.35	0.88	
	1772	打製石鏃	AN	G-22	VII	(2.21)	1.61	0.43	0.96	
	1773	打製石鏃	CC1	M-16	VII	(2.15)	2.00	0.40	1.19	
	1774	打製石鏃	AN	F-5	VII	(1.65)	2.33	0.57	2.38	
	471	1775	打製石鏃	OB6	J-21	VII	(2.40)	(1.50)	0.50	0.92
		1776	打製石鏃	SH	H-17	VII	(1.92)	(1.95)	0.54	1.19
		1777	打製石鏃	AN	G-24	VII a 下	(2.60)	(1.86)	0.50	1.95
		1778	打製石鏃	AN	I-20	VII	(2.50)	1.95	0.60	2.35
		1779	打製石鏃	OB6	G-21	VII	(2.77)	(1.79)	0.43	1.24
		1780	打製石鏃	SH	M-14	VII	(2.40)	(1.76)	0.37	1.14
1781		打製石鏃	CH	N-20	VII	2.81	2.19	0.39	1.95	
1782		打製石鏃	CH	M-9	VII	(2.77)	(1.70)	0.30	1.07	
1783		打製石鏃	OB6	J-21	VII	(2.60)	1.90	0.58	1.29	
1784		打製石鏃	CH	J-12	VII	2.65	2.01	0.56	1.53	
1785		打製石鏃	CH	G-19	VII	(2.78)	(1.82)	0.48	1.32	
1786		打製石鏃	CH	H-16	VII	(3.00)	(1.65)	0.42	1.09	
1787		打製石鏃	OB6	F-21	VII	(3.05)	(1.70)	0.45	1.66	
1788		打製石鏃	CH	G-20	VII	(3.16)	(1.90)	0.48	1.89	
1789		打製石鏃	AN	G-20	VII	(3.31)	(1.52)	0.39	1.18	
1790		打製石鏃	SH	L-18	VII	(3.11)	(1.93)	0.40	1.53	
1791		打製石鏃	OB2	K-8	VII	3.55	2.15	0.55	2.43	
472		1792	打製石鏃	AN	D-16	VII	1.25	1.00	0.30	0.25
		1793	打製石鏃	OB1	G-22	VII	(1.37)	(1.03)	0.34	0.28
		1794	打製石鏃	AN	N-21	VII上	(1.38)	(1.07)	0.20	0.22
		1795	打製石鏃	AN	H-21	VII	(1.30)	(1.00)	0.30	0.23
		1796	打製石鏃	OB5	N-15	VII	(1.22)	1.33	0.35	0.42
		1797	打製石鏃	OB5	K-21	VII	1.60	1.10	0.30	0.35
		1798	打製石鏃	OB4	M-20	VII上	(1.30)	(1.40)	0.30	0.40
	1799	打製石鏃	OB5	I-21	VII	(1.55)	(1.26)	0.36	0.50	
	1800	打製石鏃	AN	F-24	VII	(1.62)	(1.25)	0.30	0.38	
	1801	打製石鏃	AN	H-22	VII	(1.73)	(1.22)	0.44	0.65	
	1802	打製石鏃	OB6	H-22	VII	1.79	1.30	0.40	0.64	
	1803	打製石鏃	AN	J-20	VII	(1.80)	(1.03)	0.46	0.66	
	1804	打製石鏃	OB6	H-22	VII	(1.68)	(1.55)	0.48	0.92	
1805	打製石鏃	OB6	F-17	VII	(1.64)	(1.59)	0.44	0.71		
1806	打製石鏃	OB6	L-21	VII	(1.67)	(1.42)	0.50	0.68		
1807	打製石鏃	OB6	G-24	VII a	(1.77)	(1.62)	0.53	1.22		
1808	打製石鏃	CH	M-18	VII	1.68	1.72	0.40	0.70		
1809	打製石鏃	AN	J-20	VII	(1.80)	(1.45)	0.37	0.63		
1810	打製石鏃	CH	L-18	VII	1.92	1.60	0.38	0.74		
1811	打製石鏃	OB6	I-21	VII	(1.75)	(1.50)	0.40	0.90		
1812	打製石鏃	OB6	J-20	VII	(1.89)	(1.09)	0.42	0.63		
1813	打製石鏃	CH	N-17	VII	(1.76)	(1.54)	0.32	0.66		
1814	打製石鏃	AN	J-21	VII	(1.96)	1.29	0.54	0.91		
1815	打製石鏃	OB2	J-21	VII	(1.90)	(1.30)	0.56	0.79		
1816	打製石鏃	OB1	L-18	VII	1.85	(1.47)	0.39	0.68		

第 67 表 VII層出土石器観察表 (5)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
472	1817	打製石鏃	AN	G-23	VII	(2.00)	(1.40)	0.50	0.79	
	1818	打製石鏃	CH	L-18	VII a	(1.96)	(1.47)	0.30	0.64	
	1819	打製石鏃	CH	G-24	VII	(1.90)	(1.35)	0.35	0.58	
	1820	打製石鏃	SH	E-17	VII	1.95	1.40	0.25	0.55	
	1821	打製石鏃	CH	D-16	VII	(2.00)	(1.30)	0.35	0.70	
	1822	打製石鏃	CH	H-16	VII	1.92	1.70	0.41	0.91	
	1823	打製石鏃	AN	F-21	VII	2.00	1.67	0.48	1.10	
	1824	打製石鏃	AN	J-15	VII	(1.97)	(1.53)	0.52	1.05	
	1825	打製石鏃	OB5	H-21	VII	(2.12)	(1.44)	0.50	0.82	
	1826	打製石鏃	AN	F-22	VII	(2.00)	(1.44)	0.45	0.80	
	1827	打製石鏃	OB3	D-24	VII	(1.88)	(1.47)	0.55	0.97	
	1828	打製石鏃	CC3	J-20	VII	2.00	1.75	0.38	0.73	
	1829	打製石鏃	CH	L-17	VII	(1.92)	(1.50)	0.34	0.69	
	1830	打製石鏃	SH	J-13	VII	(1.93)	(1.80)	0.33	0.71	
	1831	打製石鏃	CH	G-13	VII	(1.63)	(1.50)	0.36	0.65	
	473	1832	打製石鏃	CH	E-22	VII	(2.10)	(1.40)	0.25	0.46
		1833	打製石鏃	CH	M-17	VII	(2.03)	(1.47)	0.31	0.60
		1834	打製石鏃	CH	J-21	VII	(2.15)	(1.29)	0.34	0.55
1835		打製石鏃	AN	I-21	VII	2.10	1.31	0.40	0.86	
1836		打製石鏃	AN	G-24	VII a 下	2.15	1.60	0.48	1.09	
1837		打製石鏃	AN	H-24	VII a	2.15	(1.35)	0.40	0.58	
1838		打製石鏃	AN	E-13	VII	(2.25)	(1.35)	0.40	0.87	
1839		打製石鏃	AN	I-21	VII	2.10	1.70	0.40	0.87	
1840		打製石鏃	OB5	H-22	VII	(2.26)	(1.36)	0.48	0.94	
1841		打製石鏃	AN	H-22	VII	(1.22)	(1.47)	0.37	0.53	
1842		打製石鏃	OB6	G-21	VII	(2.30)	(1.63)	0.50	1.01	
1843		打製石鏃	AN	H-21	VII	2.15	1.70	0.44	1.12	
1844		打製石鏃	CC1	G-24	VII a 下	2.31	1.62	0.37	1.06	
1845		打製石鏃	OB5	J-19	VII	(1.41)	(1.55)	0.37	0.70	
1846		打製石鏃	OB7	G-23	VII	2.40	1.90	0.50	1.39	
1847		打製石鏃	OB6	M-10	VII	(2.48)	(1.75)	0.40	1.44	
1848		打製石鏃	AN	J-13	VII	(2.40)	(1.80)	0.40	1.01	
1849		打製石鏃	AN	J-21	VII	2.50	1.90	0.50	1.74	
1850		打製石鏃	AN	J-22	VII	(2.38)	(1.40)	0.53	1.27	
1851		打製石鏃	CH	D-25	VII	2.41	1.83	0.37	0.96	
1852		打製石鏃	CH	F-22	VII	(1.65)	2.00	0.30	0.81	
1853		打製石鏃	OB6	L-21	VII a 下	(2.47)	(1.62)	0.44	1.04	
1854		打製石鏃	OB4	E-14	VII 上	(2.40)	(1.80)	0.45	1.24	
1855		打製石鏃	CH	H-24	VII a	(2.58)	1.52	0.58	1.53	
1856		打製石鏃	AN	F-23	VII	(2.40)	(1.65)	0.40	1.37	
1857		打製石鏃	AN	I-13	VII	(2.52)	(1.72)	0.40	1.17	
1858	打製石鏃	AN	G-22	VII	(2.75)	(1.65)	0.50	1.75		
1859	打製石鏃	AN	H-21	VII	(2.68)	1.95	0.35	1.46		
1860	打製石鏃	CH	I-20	VII	2.87	1.88	0.45	1.36		
1861	打製石鏃	OB6	K-22	VII 上	(3.17)	(1.87)	0.50	2.15		
474	1862	打製石鏃	OB5	K-20	VII	(2.18)	(1.76)	0.31	0.74	
	1863	打製石鏃	SH	I-20	VII	(2.75)	1.95	0.35	2.00	
	1864	打製石鏃	SH	M-9	VII	(2.55)	(1.45)	0.35	1.01	
	1865	打製石鏃	OB1	F-20	VII	(1.51)	(1.05)	0.30	0.35	
	1866	打製石鏃	OB3	G-22	VII	(1.55)	(1.05)	0.36	0.44	
	1867	打製石鏃	AN	H-20	VII	(1.50)	(1.10)	0.32	0.31	
	1868	打製石鏃	OB6	F-15	VII	(1.50)	(1.13)	0.34	0.41	
	1869	打製石鏃	AN	I-21	VII	(1.30)	(1.25)	0.30	0.46	
	1870	打製石鏃	AN	K-19	VII	(1.36)	(1.31)	0.38	0.50	
	1871	打製石鏃	AN	I-21	VII	(1.50)	(1.25)	0.22	0.38	
	1872	打製石鏃	AN	K-21	VII	(1.50)	(1.41)	0.37	0.71	
	1873	打製石鏃	CC1	E-24	VII	(1.70)	(1.40)	0.30	0.58	
	1874	打製石鏃	OB1	H-21	VII	(1.61)	(1.46)	0.37	0.62	
	1875	打製石鏃	CH	L-20	VII	(1.70)	(1.50)	0.48	0.76	
	1876	打製石鏃	OB6	J-19	VII	(1.80)	(1.25)	0.25	0.38	

第 68 表 VII層出土石器観察表 (6)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
474	1877	打製石鏃	AN	G-22	VII	(1.90)	(1.55)	0.40	0.76	
	1878	打製石鏃	OB2	H-21	VII	(1.15)	(1.70)	0.65	0.86	
	1879	打製石鏃	AN	K-16	VII	(1.45)	(1.55)	0.30	0.73	
	1880	打製石鏃	AN	M-19	VII 上	(1.90)	(1.07)	0.25	0.40	
	1881	打製石鏃	AN	N-20	VII	(2.08)	(1.20)	0.28	0.48	
	1882	打製石鏃	AN	K-20	VII	(2.20)	(1.50)	0.40	1.07	
	1883	打製石鏃	OB5	G-22	VII	(2.10)	(1.50)	0.40	0.87	
	1884	打製石鏃	CH	K-17	VII	(1.69)	(1.76)	0.30	0.89	
	1885	打製石鏃	AN	J-21	VII	(2.25)	(1.55)	0.40	0.92	
	1886	打製石鏃	OB6	G-16	VII	(1.70)	(1.55)	0.35	0.82	
	1887	打製石鏃	OB3	D-24	VII	(1.90)	(1.50)	0.70	1.34	
	1888	打製石鏃	CH	H-14	VII	(1.38)	(1.57)	0.50	1.46	
	1889	打製石鏃	OB5	G-22	VII	(2.30)	(1.30)	0.50	1.14	
	1890	打製石鏃	AN	H-21	VII	(2.08)	(1.48)	0.57	1.45	
	1891	打製石鏃	OB3	E-13	VII	(1.75)	(1.80)	0.90	1.98	
	1892	打製石鏃	AN	K-20	VII	(2.04)	(1.68)	0.39	1.01	
	475	1893	打製石鏃	CH	G-13	VII	(2.32)	(1.78)	0.38	1.53
		1894	打製石鏃	SH	L-18	VII	(2.35)	(1.90)	0.30	1.45
		1895	打製石鏃	OB1	I-17	VII	(2.07)	(1.95)	0.41	1.37
		1896	打製石鏃	CH	I-14	VII	(2.80)	(1.55)	0.30	1.31
1897		打製石鏃	CH	D-18	VII	(2.10)	(1.15)	0.50	0.98	
1898		打製石鏃	CH	M-18	VII	(2.49)	(1.06)	0.36	0.63	
1899		打製石鏃	AN	F-20	VII	(1.65)	(1.25)	0.30	0.52	
1900		打製石鏃	CH	I-17	VII	(2.10)	(1.80)	0.45	1.00	
1901		打製石鏃	CH	J-22	VII	(2.20)	(1.75)	0.40	1.15	
1902		打製石鏃	CH	K-17	VII	(3.09)	(1.77)	0.62	2.19	
1903		打製石鏃	SH	G-20	VII	(3.60)	(1.95)	0.37	1.52	
1904		打製石鏃	CH	L-13	VII	(3.46)	(1.57)	0.42	2.13	
476		1905	打製石鏃	CH	G-23	VII	(1.30)	(1.16)	0.20	0.27
		1906	打製石鏃	OB2	D-25	VII	(1.25)	1.15	0.43	0.45
	1907	打製石鏃	CH	L-18	VII a	1.76	1.48	0.26	0.52	
	1908	打製石鏃	OB6	G-22	VII	(1.88)	1.48	0.33	0.66	
	1909	打製石鏃	AN	G-23	VII	1.96	1.45	0.43	0.93	
	1910	打製石鏃	CH	N-14	VII	1.95	1.60	0.35	1.12	
	1911	打製石鏃	AN	F-15	VII	(2.15)	1.38	0.45	1.05	
	1912	打製石鏃	AN	H-21	VII	(2.30)	2.05	0.35	0.90	
	1913	打製石鏃	AN	M-17	VII	2.50	1.99	0.23	1.01	
	1914	打製石鏃	OB1	D-19	VII	1.79	1.94	0.50	1.82	
	1915	打製石鏃	CH	J-15	VII	2.40	2.30	0.35	2.12	
	1916	打製石鏃	OB3	G-22	VII	(1.78)	(1.42)	0.62	1.20	
	1917	打製石鏃	OB2	F-22	VII	1.74	1.46	0.70	1.42	
	1918	打製石鏃	OB1	F-19	VII	(1.95)	1.95	0.60	1.61	
	1919	打製石鏃	CR	M-15	VII	2.00	1.93	0.90	3.03	
	1920	打製石鏃	OB1	G-16	VII	1.98	1.37	0.60	1.56	
	1921	打製石鏃	OB2	E-25	VII	2.07	1.73	0.78	2.27	
	477	1922	打製石鏃	AN	J-15	VII	2.04	1.91	0.80	2.00
1923		打製石鏃	OB6	F-19	VII	2.24	1.57	0.86	2.84	
1924		打製石鏃	CC1	M-20	VII 上	2.30	2.07	0.90	3.22	
1925		打製石鏃	CH	M-20	VII 上	2.42	1.97	1.00	2.96	
1926		打製石鏃	AN	H-22	VII	2.37	2.37	1.11	4.24	
1927		打製石鏃	OB3	I-20	VII	(2.38)	(1.73)	0.67	1.67	
1928		打製石鏃	CH	J-21	VII	(2.50)	2.42	0.70	3.02	
1929		打製石鏃	SH	M-18	VII b	2.90	2.19	0.52	2.79	
1930		打製石鏃	CH	G-20	VII	2.91	2.00	0.64	3.21	
1931		打製石鏃	OB6	G-22	VII	2.77	1.90	0.93	4.04	
1932		打製石鏃	AN	G-24	VII a 下	2.85	2.60	0.70	5.63	
1933		打製石鏃	SH	H-14	VII	(3.67)	3.18	0.89	9.42	
1934		打製石鏃	CH	M-20	VII	3.30	2.58	1.02	6.81	
1935		打製石鏃	CH	N-20	VII	4.00	2.80	1.20	10.40	
1936		打製石鏃	SH	M-18	VII b	5.75	4.65	1.80	32.47	



第 69 表 VII層出土石器観察表 (7)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
478	1937	磨製石鎌	SH	D-18	VII	(1.15)	1.33	0.24	0.49
	1938	磨製石鎌	SH	H-5	VII	1.99	1.50	0.22	0.70
	1939	磨製石鎌	CC1	E-20	VII	2.28	1.43	0.41	0.91
	1940	磨製石鎌	SH	F-13	VII	2.20	1.45	0.30	0.97
	1941	石槍	AN	I-14	VII	(5.44)	(2.18)	0.85	10.22
	1942	石槍	AN	K-20	VII	3.46	1.05	0.65	1.42
	1943	石錐	OB8	K-20	VII	2.28	1.08	0.44	0.91
	1944	石錐	OB2	H-22	VII	3.80	1.73	0.76	3.65
479	1945	石匙	AN	K-21	VII	2.46	1.87	0.70	2.83
	1946	石匙	AN	J-21	VII	2.55	2.05	0.70	3.15
	1947	石匙	AN	I-23	VII	2.92	2.94	0.86	5.28
	1948	石匙	AN	N-16	VII	2.82	2.88	0.77	5.14
	1949	石匙	OB4	E-20	VII	3.25	3.60	0.85	5.64
	1950	石匙	AN	K-20	VII	4.20	2.85	0.70	6.70
	1951	石匙	CH	D-16	VII	(4.46)	(3.23)	(1.01)	13.15
	1952	石匙	AN	H-22	VII	5.85	2.42	0.96	11.16
480	1953	石匙	AN	K-17	VII	5.32	6.00	1.04	29.84
	1954	石匙	OB6	G-21	VII	(2.08)	(2.06)	0.59	1.49
	1955	石匙	AN	J-20	VII	2.50	3.60	0.60	3.78
	1956	石匙	AN	H-21	VII	2.65	4.95	0.93	7.58
	1957	石匙	AN	G-16	VII	(3.10)	(3.63)	0.80	5.12
	1958	石匙	CH	I-19	VII	4.11	5.09	1.23	18.47
	1959	石匙	CH	H-15	VII	3.45	4.25	1.00	12.99
	1960	石匙	AN	I-20	VII	4.10	7.80	0.90	25.54
481	1961	削器	CH	M-9	VII	(2.34)	(3.59)	0.50	4.50
	1962	削器	SH	C-25	VII	2.10	3.95	0.60	4.67
	1963	削器	CC3	K-17	VII	3.10	(4.05)	0.45	4.46
	1964	削器	AN	F-22	VII	4.75	3.95	1.10	18.81
	1965	削器	AN	J-21	VII	(2.85)	6.25	0.70	13.86
	1966	削器	CH	E-15	VII	5.85	5.47	1.16	21.29
482	1967	削器	HF	G~J-19	VII	5.00	9.95	1.18	69.89
	1968	削器	AN	G-20	VII	(17.45)	5.90	1.82	191.80
	1969	削器	CH	G-20	VII	4.15	7.15	1.60	49.14
	1970	搔器	TU	E-10	VII	6.10	7.60	1.70	122.00
	1971	搔器	SH	L-17	VII	4.00	3.70	1.15	14.70
	1972	へら状石器	AN	J-21	VII	4.17	2.20	1.05	9.26
483	1973	楔形石器	CH	F-19	VII	1.68	1.26	0.71	1.22
	1974	楔形石器	AN	K-22	VII a	2.20	0.89	0.58	1.03
	1975	楔形石器	CR	F-17	VII	2.10	(1.33)	0.65	1.98
	1976	楔形石器	OB3	F-23	VII	2.16	1.28	0.83	2.27
	1977	楔形石器	OB2	C-25	VII	2.25	1.73	1.00	3.71
	1978	楔形石器	OB2	D-25	VII a	2.62	1.34	0.90	3.22
	1979	楔形石器	AN	K-21	VII a	2.83	2.16	1.37	6.25
	1980	楔形石器	CH	J-15	VII	2.60	2.77	0.98	7.27
	1981	楔形石器	CH	M-18	VII	3.44	1.36	1.13	5.62
	1982	楔形石器	CH	H-24	VII a	3.78	1.46	0.83	5.59
	1983	楔形石器	HF	J-22	VII	8.00	3.03	1.38	45.62
484	1984	二次加工剥片	AN	I-21	VII	1.45	0.98	0.28	0.39
	1985	二次加工剥片	CH	I-14	VII	1.46	1.95	0.68	1.80
	1986	二次加工剥片	OB4	J-13	VII	(1.45)	1.20	0.49	0.80
	1987	二次加工剥片	CH	F-18	VII	(1.90)	1.85	0.50	1.31
	1988	二次加工剥片	CH	M-13	VII	1.70	1.85	0.25	0.89
	1989	二次加工剥片	OB5	E-20	VII	2.02	1.40	0.91	2.00
	1990	二次加工剥片	OB6	K-20	VII	1.60	2.06	0.55	1.37
	1991	二次加工剥片	OB2	N-20	VII	(2.05)	(1.20)	0.55	0.97
	1992	二次加工剥片	AN	G-22	VII	1.86	3.36	0.67	3.55
	1993	二次加工剥片	CH	L-16	VII	2.13	1.76	0.84	4.35
	1994	二次加工剥片	OB2	F-22	VII	(2.08)	1.76	0.39	1.34
	1995	二次加工剥片	AN	H-21	VII	1.73	3.54	0.83	4.13
	1996	二次加工剥片	CH	J-18	VII	2.19	2.87	0.90	6.47

第 70 表 VII層出土石器観察表 (8)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
484	1997	二次加工剥片	OB4	G-23	VII	1.80	1.68	0.69	1.67
	1998	二次加工剥片	OB6	F-22	VII	2.08	1.02	0.64	1.18
	1999	二次加工剥片	AN	G-16	VII	2.73	1.81	0.92	3.51
	2000	二次加工剥片	AN	H-14	VII	2.70	1.36	0.91	2.80
	2001	二次加工剥片	OB1	G-18	VII	2.57	1.97	0.78	3.68
	2002	二次加工剥片	AN	H-21	VII	2.86	2.08	0.80	4.07
	2003	二次加工剥片	CH	K-14	VII	2.58	2.70	1.20	7.30
	2004	二次加工剥片	AN	G-22	VII	(2.55)	(2.45)	0.40	2.21
	2005	二次加工剥片	AN	I-22	VII	(2.78)	(2.79)	0.68	3.67
	485	2006	二次加工剥片	SH	L-17	VII	3.02	2.20	1.16
2007		二次加工剥片	CH	L-20	VII	3.06	1.73	1.08	4.48
2008		二次加工剥片	SH	K-16	VII	2.97	2.50	0.78	5.75
2009		二次加工剥片	CC1	J-20	VII	2.45	1.75	0.58	2.04
2010		二次加工剥片	OB1	H-18	VII	3.07	2.24	0.77	4.48
2011		二次加工剥片	AN	D-13	VII	2.30	3.14	0.90	6.09
2012		二次加工剥片	SH	M-18	VII a	3.24	2.48	0.83	5.30
2013		二次加工剥片	CH	M-20	VII上	(2.50)	2.39	0.80	3.68
2014		二次加工剥片	CH	L-20	VII	2.77	2.07	1.13	5.54
2015		二次加工剥片	CH	D-16	VII	3.03	2.22	0.95	6.75
486	2016	二次加工剥片	AN	M-15	VII	3.25	2.35	1.30	10.03
	2017	二次加工剥片	CH	K-16	VII	3.13	3.07	1.12	9.03
	2018	二次加工剥片	CH	H-16	VII	2.90	3.03	0.94	7.36
	2019	二次加工剥片	CH	N-13	VII	2.93	3.62	1.11	9.73
	2020	二次加工剥片	AN	H-20	VII	3.00	(4.20)	1.05	10.42
	2021	二次加工剥片	AN	I-17	VII	3.18	3.37	0.55	4.33
	2022	二次加工剥片	CH	J-19	VII	3.85	3.20	1.02	10.20
	2023	二次加工剥片	OB6	K-21	VII	3.70	2.13	0.90	5.42
	2024	二次加工剥片	AN	F-22	VII	3.97	2.83	1.13	13.07
	2025	二次加工剥片	SH	F-15	VII	3.17	5.12	1.46	22.48
487	2026	二次加工剥片	CH	E-19	VII	2.78	3.42	0.90	7.70
	2027	二次加工剥片	SA	N-18	VII	4.21	2.40	1.00	8.42
	2028	二次加工剥片	CH	J-20	VII	3.40	4.48	1.40	17.36
	2029	二次加工剥片	OB7	G-21	VII	3.59	5.08	1.25	17.93
	2030	二次加工剥片	SH	H-21	VII	4.85	4.33	1.35	17.59
	2031	二次加工剥片	SH	D-26	VII a	3.50	3.96	1.10	11.44
	2032	二次加工剥片	AN	H-21	VII	10.80	18.24	1.90	406.1
	2033	二次加工剥片	AN	J-12	VII	8.37	13.43	2.62	272.5
	2034	二次加工剥片	CH	J-13	VII	11.40	8.95	2.30	266.4
	488	2035	礫器	AN	H-22	VII	9.86	11.60	2.58
2036		礫器	AN	I-20	VII	9.36	8.82	2.73	282.3
2037		礫器	HF	D-16	VII	10.03	6.58	3.20	261.2
2038		礫器	HF	K-8	VII	10.44	10.30	2.80	450.0
2039		礫器	HF	J-12	VII	12.08	9.55	3.75	425.0
2040		礫器	AN	I-16	VII	11.42	10.66	3.50	704.0
2041		礫器	HF	G-24	VII a	10.24	10.68	3.13	481.0
2042		礫器	HF	E-24	VII	13.03	8.98	2.30	376.7
2043		礫器	HF	H-15	VII	13.04	8.86	2.53	325.4
2044		礫器	SA	D-25	VII a 下	10.94	7.22	4.40	242.7
489	2045	礫器	SA	G-24	VII a 上	9.70	17.07	4.23	752.0
	2046	礫器	HF	J-22	VII上	8.96	16.00	4.27	780.0
	2047	礫器	AN	F-6	VII	9.95	10.14	2.58	248.0
	2048	石核類	OB5	K-19	VII	1.12	0.97	0.80	0.87
	2049	石核類	OB1	G-24	VII	1.50	1.13	1.31	1.89
	2050	石核類	OB4	K-16	VII	1.65	1.44	0.90	2.02
	2051	石核類	OB1	F-23	VII	1.62	1.49	1.30	2.82
	2052	石核類	OB4	I-23	VII	1.74	1.57	1.08	2.69
	2053	石核類	OB4	M-17	VII	1.61	1.36	1.45	3.84
	2054	石核類	AN	L-18	VII	1.72	1.97	1.34	5.23
489	2055	石核類	CC1	G-23	VII	2.15	1.60	1.47	2.82
	2056	石核類	OB1	K-22	VII a	1.86	1.72	1.30	3.91

第 71 表 VII層出土石器観察表 (9)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
489	2057	石核類	OB6	H-22	VII	1.68	2.11	1.39	5.05
	2058	石核類	OB6	H-17	VII	2.97	2.72	1.99	9.61
	2059	石核類	OB1	I-22	VII	1.54	2.07	2.31	6.19
	2060	石核類	OB6	I-20	VII	1.74	3.30	1.37	5.15
	2061	石核類	OB8	I-19	VII	1.90	2.84	1.47	5.65
	2062	石核類	OB1	N-20	VII	2.95	3.40	1.30	11.69
	2063	石核類	OB2	L-10	VII	2.46	3.30	1.38	10.42
	2064	石核類	OB5	F-24	VII a	2.14	3.09	2.31	10.88
490	2065	石核類	CR	N-11	VII	2.05	3.80	2.50	20.26
	2066	石核類	OB3	M-17	VII	3.39	2.69	2.01	18.04
	2067	石核類	SH	K-15	VII	3.00	3.91	1.88	22.54
	2068	石核類	AN	I-22	VII	4.27	3.80	4.79	74.54
	2069	石核類	OB3	H-24	VII a	3.28	4.33	3.55	43.20
491	2070	石核類	CC3	F-20	VII	6.85	4.60	2.40	74.71
	2071	石核類	CC1	N-20	VII	3.68	3.92	1.83	24.69
	2072	石核類	SH	M-14	VII	4.73	5.59	3.94	99.60
492	2073	石核類	AN	E-17	VII	11.05	12.36	4.84	692.0
	2074	石核類	AN	H-21	VII	10.60	12.00	3.15	564.0
	2075	石核類	HF	M-8	VII	13.38	12.04	5.40	874.0
493	2076	磨製石斧	HF	M-17	VII	8.40	4.66	0.90	51.74
	2077	磨製石斧	HF	K-14	VII	6.64	4.77	1.47	60.28
	2078	磨製石斧	HF	K-20	VII	(5.10)	3.50	0.95	23.40
	2079	磨製石斧	AN	G-15	VII	10.60	4.20	2.10	144.0
	2080	磨製石斧	AN	F-21	VII	8.57	3.42	1.46	64.71
	2081	磨製石斧	SH	F-4	VII上	10.92	4.18	2.30	176.8
	2082	磨製石斧	HF	I-12	VII	(12.90)	5.00	1.90	162.2
	2083	磨製石斧	HF	M-15	VII	9.82	6.12	1.41	89.13
	2084	磨製石斧	SH	N-19	VII a上	8.10	6.70	2.40	161.0
	2085	磨製石斧	HF	I-13	VII	10.40	5.70	2.60	201.5
	2086	磨製石斧	SH	G-22	VII	12.83	7.08	2.60	220.0
2087	磨製石斧	HF	J-20	VII	13.60	6.90	2.40	286.0	
2088	磨製石斧	SH	I-12	VII	13.80	10.00	3.90	642.0	
494	2089	打製石斧	SH	G-24	VII横転	9.70	4.60	0.90	42.70
	2090	打製石斧	HF	H-24	VII a	10.80	5.10	1.70	133.0
	2091	打製石斧	HF	L-19	VII	12.80	7.30	2.30	260.0
	2092	打製石斧	HF	M-18	VII	16.75	8.10	2.98	540.0
	2093	打製石斧	HF	M-19	VII a下	16.40	7.90	3.10	589.0
	2094	環状石斧	SH	F-24	VII	(11.20)	(11.35)	2.07	299.0
495	2095	石皿	TU	H-24	VII	40.00	35.90	12.00	19,950
	2096	石皿	TU	H-22	VII	31.40	(25.70)	10.80	10,300
	2097	石皿	TU	H-22	VII	(19.80)	(21.60)	8.20	3,880
496	2098	石皿	AN	I-23	VII	(26.00)	(18.00)	5.30	4,280
	2099	石皿	SA	M-19	VII	(15.00)	(22.70)	5.50	2,590
	2100	石皿	AN	H-21	VII	(43.00)	(31.80)	5.45	10,400
	2101	石皿	TU	M-20	VII	(15.70)	(22.10)	5.30	3,380
	2102	石皿	TU	H-17	VII	(18.50)	(18.60)	8.60	4,100
497	2103	石皿	GR	H-22	VII	(26.60)	(34.50)	2.90	3,370
	2104	石皿	TU	F-3	VII	12.60	13.10	10.35	2,560
	2105	石皿	GR	L-20	VII	(36.50)	(24.50)	4.50	5,600
	2106	石錘	SH	I-19	VII	7.50	(6.00)	2.10	120.9
498	2107	敲石	AN	L-18	VII	2.75	2.30	2.40	24.00
	2108	敲石	AN	K-18	VII	2.30	2.00	2.00	13.60
	2109	敲石	AN	G-22	VII	3.00	2.90	1.70	21.60
	2110	敲石	AN	J-15	VII	3.00	2.70	2.80	29.00
	2111	敲石	AN	H-22	VII	4.10	3.25	2.75	50.26
	2112	敲石	AN	N-9	VII	3.60	3.40	3.00	51.00
	2113	敲石	AN	G-23	VII	4.40	4.10	3.20	81.00
	2114	敲石	AN	F-11	VII	5.10	4.70	3.60	101.1
	2115	敲石	AN	H-22	VII	4.80	4.40	3.75	107.0
	2116	敲石	AN	K-22	VII a	5.60	4.90	3.20	122.4

第 72 表 VII層出土石器観察表 (10)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
498	2117	敲石	AN	F-23	VII	5.05	4.45	3.40	100.0	
	2118	敲石	AN	H-14	VII	5.50	3.80	2.80	82.00	
	2119	敲石	GR	I-13	VII	4.50	4.20	3.60	900.0	
	2120	敲石	AN	F-22	VII	5.70	5.20	4.70	188.0	
	2121	敲石	AN	G-13	VII	3.70	3.55	3.20	61.00	
	2122	敲石	AN	G-22	VII	3.35	3.15	2.90	44.00	
	2123	敲石	AN	K-9	VII	4.70	4.30	3.70	105.0	
	2124	敲石	AN	F-8	VII	5.10	4.60	3.10	78.50	
	2125	敲石	AN	H-13	VII	5.00	4.60	3.90	140.0	
	2126	敲石	AN	M-20	VII b	5.90	4.60	3.20	128.0	
	2127	敲石	CR	G-16	VII	6.60	4.20	4.30	167.5	
	2128	敲石	AN	D-24	VII	7.00	5.10	3.60	160.5	
	2129	敲石	AN	H-24	VII a下	6.90	5.40	3.20	164.9	
	2130	敲石	AN	E-21	VII	7.00	7.20	3.30	227.0	
	2131	敲石	AN	I-17	VII	6.30	5.20	4.00	177.5	
	2132	敲石	AN	H-22	VII	6.95	6.50	4.80	257.0	
	2133	敲石	AN	K-21	VII	8.00	6.40	4.90	327.0	
	2134	敲石	AN	H-20	VII	7.80	5.40	4.90	203.5	
	2135	敲石	AN	E-20	VII	7.80	5.70	5.10	310.0	
	2136	敲石	AN	D-24	VII	9.50	6.20	3.50	300.0	
	2137	敲石	AN	I-20	VII	7.50	7.80	4.45	415.0	
	2138	敲石	AN	E-24	VII	8.25	7.35	4.80	398.0	
	2139	敲石	AN	F-24	VII	8.40	7.90	5.10	523.0	
	2140	敲石	AN	J-23	VII a下	8.10	6.40	4.90	356.0	
	2141	敲石	AN	H-22	VII	9.30	8.50	4.20	420.0	
	2142	敲石	AN	E-24	VII	12.50	8.20	7.50	1,080	
	2143	敲石	AN	E-13	VII	9.70	8.45	4.95	452.0	
	499	2144	敲石	GR	J-20	VII	9.20	8.20	3.60	415.0
		2145	敲石	AN	D-22	VII	9.05	8.45	5.10	500.0
		2146	敲石	AN	E-15	VII	10.00	8.10	4.40	470.0
		2147	敲石	AN	F-8	VII	8.70	7.20	4.40	480.0
		2148	敲石	SH	L-7	VII	14.35	7.38	3.20	417.5
		2149	敲石	AN	F-17	VII	(13.97)	6.50	3.50	461.0
2150		敲石	SH	C-25	VII	12.20	5.90	2.40	247.0	
2151		敲石	HF	D-22	VII	14.80	4.73	3.98	400.0	
2152		敲石	SH	M-20	VII	(13.90)	2.70	2.10	476.0	
2153		磨・敲石	AN	H-21	VII	7.70	5.60	3.20	219.5	
2154		磨・敲石	SA	E-13	VII	7.70	7.50	3.70	338.0	
2155		磨・敲石	SA	K-13	VII	7.60	5.90	4.00	273.0	
500	2156	磨・敲石	SA	G-22	VII	8.65	7.40	4.95	440.0	
	2157	磨・敲石	TU	G-14	VII	8.80	8.65	4.70	360.0	
	2158	磨・敲石	AN	G-19	VII	9.00	7.60	3.70	392.0	
	2159	磨・敲石	AN	E-21	VII	9.20	7.50	3.90	323.0	
	2160	磨・敲石	SA	G-22	VII	(8.65)	6.20	3.65	248.0	
	2161	磨・敲石	AN	H-22	VII	8.80	7.70	4.00	443.0	
	2162	磨・敲石	AN	H-16	VII	8.60	7.55	5.20	595.0	
	2163	磨・敲石	AN	I-22	VII	8.80	7.85	4.70	510.0	
	2164	磨・敲石	AN	I-16	VII	9.50	8.40	4.70	562.5	
	2165	磨・敲石	SA	G-16	VII	9.75	8.00	3.65	400.0	
501	2166	磨・敲石	AN	D-20	VII	(9.40)	8.40	4.90	578.0	
	2167	磨・敲石	AN	I-21	VII	9.40	8.30	4.00	540.0	
	2168	磨・敲石	SA	E-18	VII	9.50	8.60	3.80	423.0	
	2169	磨・敲石	AN	I-22	VII	9.80	8.10	4.30	560.0	
	2170	磨・敲石	AN	I-12	VII	9.80	8.00	4.86	615.0	
	2171	磨・敲石	GR	N-19	VII a上	10.15	8.30	4.70	642.0	
	2172	磨・敲石	SA	G-22	VII	(9.60)	8.95	4.50	595.0	
502	2173	磨・敲石	GR	K-20	VII	9.30	8.00	4.80	570.0	
	2174	磨・敲石	GR	I-22	VII	9.70	8.90	4.90	640.0	
	2175	磨・敲石	AN	E-14	VII	(7.30)	9.95	5.40	551.0	
	2176	磨・敲石	GR	H-22	VII	9.67	7.77	4.30	500.0	

第 73 表 VII層出土石器観察表 (11)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
503	2177	磨・敲石	AN	L-21	VII上	10.10	7.70	4.10	516.0
	2178	磨・敲石	SA	H-21	VII	10.00	8.60	4.50	578.0
	2179	磨・敲石	AN	H-22	VII	10.20	8.70	4.20	530.0
504	2180	磨・敲石	AN	E-24	VII	10.45	8.60	4.40	600.0
	2181	磨・敲石	AN	H-22	VII	10.55	8.17	3.85	540.0
	2182	磨・敲石	SA	G-3	VII横転	10.33	8.10	4.17	540.0
	2183	磨・敲石	GR	M-20	VII上	10.80	7.80	3.70	533.0
	2184	磨・敲石	SA	K-13	VII	10.55	9.00	4.90	749.5
	2185	磨・敲石	AN	H-22	VII	11.18	8.42	4.65	695.0
	2186	磨・敲石	AN	E-20	VII	11.30	9.00	4.80	777.5
	2187	磨・敲石	AN	G-23	VII	12.10	8.10	4.60	646.0
505	2188	磨・敲石	AN	G-22	VII	11.30	10.10	5.80	960.0
	2189	磨・敲石	AN	F-16	VII	11.40	10.50	5.20	940.0
	2190	磨・敲石	AN	G-24	VII a 下	11.50	8.90	5.60	747.0
	2191	磨・敲石	AN	K-19	VII	11.80	10.00	4.85	782.0
	2192	磨・敲石	SA	H-22	VII	11.30	10.30	5.70	880.0
	2193	磨・敲石	SA	M-14	VII	11.50	8.80	4.90	737.0
506	2194	磨・敲石	GR	I-23	VII a	12.90	9.20	5.00	962.0
	2195	磨石	AN	F-19	VII	3.35	2.80	2.50	32.50
	2196	磨石	AN	J-20	VII	3.90	4.20	3.65	80.00
	2197	磨石	AN	I-21	VII	5.00	4.60	2.80	94.00
	2198	磨石	SA	H-23	VII b	5.50	3.40	3.30	97.00
	2199	磨石	SA	I-21	VII	5.90	5.10	3.40	150.0
	2200	磨石	SA	I-22	VII	5.90	4.70	4.30	147.0
	2201	磨石	AN	D-20	VII	6.40	5.40	3.30	154.0
	2202	磨石	SA	G-19	VII	6.80	6.50	4.70	245.0
	2203	磨石	AN	F-24	VII	6.90	5.80	4.70	285.0
	2204	磨石	AN	L-22	VII	7.05	5.95	4.75	234.0
	2205	磨石	AN	L-20	VII	7.10	5.95	4.95	295.0
	2206	磨石	SA	H-22	VII	7.30	6.70	4.80	359.0
	2207	磨石	AN	K-14	VII	7.35	6.55	4.90	299.0
	2208	磨石	AN	H-20	VII	7.80	5.40	3.40	273.0
	2209	磨石	SA	D-18	VII	10.15	6.85	3.30	265.0
	2210	磨石	AN	H-23	VII a 下	7.40	6.90	5.00	379.0
	2211	磨石	AN	C-25	VII	7.80	7.15	5.05	397.0
	2212	磨石	AN	F-18	VII	7.45	6.25	4.80	303.0
	507	2213	磨石	AN	I-12	VII	7.70	6.40	4.45
2214		磨石	AN	J-16	VII	7.70	6.05	5.10	309.0
2215		磨石	AN	H-22	VII	7.70	6.75	6.65	479.0
2216		磨石	SA	H-24	VII a 下	7.45	7.35	5.65	525.0
2217		磨石	SA	F-13	VII	8.00	7.00	4.60	420.0
2218		磨石	AN	M-19	VII上	8.00	7.65	5.30	410.0
2219		磨石	AN	I-21	VII	(8.05)	7.35	3.60	221.0
2220		磨石	AN	H-24	VII a	8.45	7.05	4.40	360.0
2221		磨石	AN	F-23	VII	8.15	7.75	4.95	450.0
2222		磨石	AN	L-21	VII上	8.30	7.60	4.40	370.0
508	2223	磨石	SA	J-15	VII	8.10	7.35	3.85	283.0
	2224	磨石	AN	I-20	VII	9.05	6.20	5.50	400.0
	2225	磨石	AN	M-18	VII	8.60	8.40	4.60	470.0
	2226	磨石	AN	K-21	VII	8.70	7.20	5.00	490.0
	2227	磨石	AN	F-9	VII上	8.70	7.70	5.90	539.0
	2228	磨石	AN	J-21	VII	8.90	7.70	4.75	500.0
	2229	磨石	AN	J-16	VII	9.00	7.90	4.70	462.0
	2230	磨石	AN	L-18	VII	8.80	8.95	4.10	430.0
	2231	磨石	AN	E-24	VII	8.90	8.40	4.00	440.0
	2232	磨石	SA	G-23	VII	8.95	7.15	4.80	440.0
	2233	磨石	AN	N-21	VII上	9.00	8.40	6.40	651.0
	2234	磨石	GR	J-20	VII	9.15	7.25	5.50	535.0
	2235	磨石	AN	M-17	VII b	9.00	6.90	4.90	416.0
	2236	磨石	AN	D-24	VII	9.10	8.50	5.50	618.0

第 74 表 VII層出土石器観察表 (12)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
508	2237	磨石	AN	M-20	VII a	9.30	6.70	5.15	405.0
	2238	磨石	AN	H-24	VII a 下	9.30	8.10	4.30	474.0
509	2239	磨石	AN	I-16	VII	9.30	8.00	4.60	430.0
	2240	磨石	AN	I-23	VII	9.45	7.25	5.05	404.0
	2241	磨石	AN	D-24	VII	9.70	7.00	4.00	357.0
	2242	磨石	AN	H-22	VII	9.85	7.00	4.50	409.0
	2243	磨石	AN	I-21	VII	9.95	6.65	3.70	375.0
	2244	磨石	GR	E-7	VII	9.90	7.20	4.90	485.0
	2245	磨石	AN	F-23	VII	10.05	8.45	4.70	574.0
	2246	磨石	AN	E-14	VII	10.40	7.65	3.60	388.0
	2247	磨石	AN	G-22	VII	9.90	8.50	5.20	550.0
	2248	磨石	AN	N-18	VII	10.60	9.40	6.70	870.0
	2249	磨石	AN	I-15	VII	10.75	8.35	6.00	843.0
	2250	磨石	AN	G-24	VII a 下	11.40	9.20	5.80	962.0
	510	2251	磨石	SA	G-15	VII	11.70	8.70	4.60
2252		磨石	AN	G-21	VII	11.65	10.65	5.70	993.0
2253		磨石	AN	K-20	VII	11.70	8.85	6.15	810.0
2254		磨石	TU	L-21	VII上	9.20	7.10	8.00	870.0
2255		磨石	AN	J-22	VII	11.50	10.25	6.40	968.0
2256		磨石	AN	L-18	VII	10.85	10.75	6.30	1,110
2257		磨石	AN	G-24	VII a 下	11.85	10.00	7.35	1,043
2258		磨石	AN	M-7	VII	13.40	9.50	4.30	750.0
2259		磨石	AN	H-22	VII	13.50	8.80	5.30	975.0
511		2260	異形石器	OB5	I-19	VII	1.77	1.18	0.52
	2261	異形石器	AN	K-21	VII	2.90	2.28	0.55	3.32
	2262	異形石器	OB8	G-22	VII	(3.60)	(3.22)	0.72	5.52
	2263	異形石器	AN	K-22	VII上	4.10	(3.48)	0.46	8.67
	2264	垂飾品	SH	J-18	VII	1.70	1.90	0.60	2.34
	2265	垂飾品	SH	H-17	VII	3.10	3.30	0.70	9.36
	2266	垂飾品	SH	M-21	VII上	4.40	3.00	0.50	6.63
	2267	軽石製品	軽石	H-21	VII	6.45	9.50	4.10	45.00

第 75 表 VI層出土石器観察表（1）

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
514	2268	打製石鎌	OB7	K-18	VI	1.09	1.00	0.32	0.28
	2269	打製石鎌	OB7	F-16	VI	1.13	1.10	0.24	0.27
	2270	打製石鎌	AN	K-18	VI	(1.17)	(1.23)	0.42	0.47
	2271	打製石鎌	AN	L-12	VI	1.28	1.30	0.38	0.46
	2272	打製石鎌	OB2	G-19	VI	(1.33)	(1.36)	0.50	0.55
	2273	打製石鎌	CH	F-19	VI	(1.14)	(1.27)	0.37	0.54
	2274	打製石鎌	AN	K-15	VI	(1.10)	1.30	0.36	0.45
	2275	打製石鎌	AN	L-19	VI	1.40	1.40	0.40	0.52
	2276	打製石鎌	CR	J-21	VI	1.45	1.50	0.65	0.89
	2277	打製石鎌	OB6	H-17	VI	(1.42)	1.44	0.40	0.51
	2278	打製石鎌	OB5	G-21	VI	1.57	1.48	0.46	0.83
	2279	打製石鎌	OB5	K-16	VI	(1.13)	1.45	0.28	0.52
	2280	打製石鎌	AN	K-16	VI	1.50	1.45	0.30	0.49
	2281	打製石鎌	AN	J-15	VI	1.62	1.42	0.38	0.62
	2282	打製石鎌	AN	J-20	VI	1.56	1.47	0.40	0.73
	2283	打製石鎌	OB6	K-20	VI	1.50	1.60	0.40	0.74
	2284	打製石鎌	AN	E-23	VI	1.60	1.49	0.73	1.36
	2285	打製石鎌	AN	K-12	VI	1.60	1.58	0.35	0.52
	2286	打製石鎌	AN	M-17	VI	1.68	1.50	0.54	0.93
	2287	打製石鎌	AN	J-21	VI	(1.60)	(1.44)	0.40	0.65
	2288	打製石鎌	AN	J-15	VI	(1.63)	(1.48)	0.33	0.60
	2289	打製石鎌	AN	N-20	VI	(1.75)	(1.60)	0.35	0.69
	2290	打製石鎌	OB3	H-22	VI	(1.75)	(1.47)	0.47	0.71
	2291	打製石鎌	CC1	J-13	VI	1.70	1.60	0.35	0.75
	2292	打製石鎌	AN	J-18	VI	(1.61)	1.50	0.40	0.80
	2293	打製石鎌	CC3	L-16	VI	(1.50)	1.62	0.45	0.49
	2294	打製石鎌	CH	H-15	VI下	1.77	1.48	0.35	0.78
	2295	打製石鎌	OB1	D-18	VI	2.01	1.68	0.39	0.90
	2296	打製石鎌	AN	N-18	VI	(1.75)	(1.60)	0.32	0.64
	2297	打製石鎌	AN	F-19	VI	1.61	1.54	0.35	0.94
	2298	打製石鎌	AN	K-17	VI	1.61	1.46	0.35	0.67
	2299	打製石鎌	AN	L-13	VI	(1.68)	1.72	0.52	1.17
	2300	打製石鎌	CH	D-24	VI	1.67	1.60	0.38	0.73
	2301	打製石鎌	AN	J-18	VI	1.87	1.70	0.44	0.86
	2302	打製石鎌	OB8	M-19	VI	1.75	1.83	0.50	1.24
	2303	打製石鎌	SH	M-18	VI	1.91	1.75	0.50	1.31
2304	打製石鎌	CC1	K-18	VI	(1.63)	1.66	0.70	1.93	
2305	打製石鎌	CH	F-21	VI	(1.46)	1.87	0.56	1.60	
2306	打製石鎌	OB6	I-21	VI	(2.00)	1.80	0.65	1.64	
515	2307	打製石鎌	CH	H-21	VI	1.96	1.92	0.65	1.88
	2308	打製石鎌	CH	H-20	VI	2.26	1.98	0.85	3.26
	2309	打製石鎌	CH	K-15	VI	2.22	2.05	0.68	2.35
	2310	打製石鎌	AN	I-21	VI	(1.97)	1.97	0.68	2.18
	2311	打製石鎌	CC3	N-20	VI	(1.25)	1.38	0.38	2.07
	2312	打製石鎌	OB4	I-20	VI	(2.50)	(2.00)	0.70	2.12
	2313	打製石鎌	AN	F-22	VI	(1.93)	2.40	0.63	2.91
	2314	打製石鎌	AN	H-18	VI	(2.13)	2.38	0.82	3.59
	2315	打製石鎌	AN	J-21	VI	2.75	2.45	0.95	5.19
	2316	打製石鎌	CH	M-11	VI	2.72	3.14	0.78	4.71
516	2317	打製石鎌	AN	C-25	VI	(1.27)	1.26	0.24	0.33
	2318	打製石鎌	AN	L-15	VI	1.06	1.09	0.35	0.33
	2319	打製石鎌	OB7	F-13	VI上	(1.04)	1.17	0.30	0.26
	2320	打製石鎌	AN	I-20	VI	(0.90)	(1.10)	0.20	0.20
	2321	打製石鎌	OB1	F-17	VI	(1.13)	(1.18)	0.32	0.27
	2322	打製石鎌	AN	D-25	VI	(1.22)	(1.28)	0.22	0.26

第 76 表 VI層出土石器観察表（2）

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
516	2323	打製石鎌	AN	H-16	VI	(1.01)	(1.18)	0.32	0.30	
	2324	打製石鎌	AN	L-18	VI	(1.20)	(1.13)	0.31	0.31	
	2325	打製石鎌	CH	K-21	VI	(1.20)	(1.37)	0.30	0.45	
	2326	打製石鎌	OB2	F-22	VI	1.26	1.17	0.50	0.52	
	2327	打製石鎌	OB2	H-21	VI	1.28	1.27	0.53	0.50	
	2328	打製石鎌	OB5	F-24	VI	1.44	1.46	0.37	0.54	
	2329	打製石鎌	OB1	F-20	VI	(1.34)	(1.56)	0.35	0.53	
	2330	打製石鎌	OB6	F-24	VI	(1.32)	(1.58)	0.37	0.44	
	2331	打製石鎌	OB6	G-20	VI	(1.52)	(1.50)	0.25	0.39	
	2332	打製石鎌	AN	K-18	VI	(1.37)	1.50	0.35	0.37	
	2333	打製石鎌	AN	J-19	VI	(1.16)	1.66	0.40	0.46	
	2334	打製石鎌	OB6	F-15	VI	(1.73)	(1.20)	0.41	0.58	
	2335	打製石鎌	CH	J-20	VI	(1.17)	1.63	0.35	0.58	
	2336	打製石鎌	AN	J-16	VI	(1.24)	1.53	0.43	0.66	
	2337	打製石鎌	AN	L-14	VI	(1.50)	(1.04)	0.32	0.39	
	2338	打製石鎌	OB7	J-15	VI	1.24	1.50	0.40	0.55	
	2339	打製石鎌	CC2	M-14	VI	1.50	1.50	0.40	0.55	
	2340	打製石鎌	CH	F-22	VI	(1.36)	1.56	0.33	0.56	
	2341	打製石鎌	AN	J-20	VI	(1.38)	1.46	0.28	0.46	
	2342	打製石鎌	AN	M-20	VI下	1.50	1.40	0.42	0.57	
	2343	打製石鎌	AN	M-20	VI	(1.50)	(1.40)	0.40	0.58	
	2344	打製石鎌	SH	M-11	VI	1.49	1.52	0.38	0.47	
	2345	打製石鎌	AN	J-20	VI	1.44	1.44	0.24	0.32	
	2346	打製石鎌	OB7	K-17	VI	(1.37)	(1.45)	0.36	0.41	
	2347	打製石鎌	AN	K-20	VI	(1.24)	(1.43)	0.32	0.45	
	2348	打製石鎌	SH	J-18	VI	(1.53)	(1.50)	0.44	0.54	
	2349	打製石鎌	OB2	I-22	VI	(1.60)	(1.65)	0.60	0.90	
	2350	打製石鎌	AN	M-13	VI	(1.57)	(1.58)	0.38	0.71	
	2351	打製石鎌	AN	I-16	VI	(1.77)	(1.59)	0.32	0.64	
	2352	打製石鎌	OB2	C-25	VI	(1.70)	(0.98)	0.40	0.55	
	2353	打製石鎌	CH	L-12	VI	(1.60)	(1.60)	0.42	0.81	
	2354	打製石鎌	OB1	I-19	VI	1.50	1.76	0.45	0.93	
	2355	打製石鎌	SH	G-18	VI	(1.70)	(1.55)	0.58	1.06	
	2356	打製石鎌	OB6	M-11	VI	(1.59)	(1.67)	0.32	0.56	
	2357	打製石鎌	CH	M-12	VI	(1.58)	1.69	0.40	0.76	
	2358	打製石鎌	SH	J-21	VI	(1.70)	(1.70)	0.50	0.85	
	2359	打製石鎌	OB1	F-21	VI	(1.77)	(1.86)	0.70	1.48	
	2360	打製石鎌	OB1	I-14	VI	(1.19)	1.70	0.48	0.75	
	517	2361	打製石鎌	AN	I-20	VI	(1.90)	(1.90)	0.40	0.83
		2362	打製石鎌	CH	L-17	VI	(2.02)	(1.87)	0.46	1.43
		2363	打製石鎌	CH	H-17	VI	2.00	1.83	0.48	1.23
		2364	打製石鎌	SH	N-20	VI	2.05	1.95	0.65	2.07
		2365	打製石鎌	OB1	G-18	VI	(2.23)	(1.73)	0.53	1.53
		2366	打製石鎌	AN	J-18	VI	(1.97)	2.20	0.55	1.34
		2367	打製石鎌	CH	F-22	VI	1.13	1.10	0.32	0.23
		2368	打製石鎌	AN	K-20	VI	1.04	1.09	0.34	0.27
		2369	打製石鎌	AN	I-21	VI	1.24	1.24	0.38	0.35
2370		打製石鎌	AN	J-21	VI	(1.20)	1.20	0.20	0.18	
2371		打製石鎌	OB7	F-11	VI上	(1.23)	(1.39)	0.28	0.29	
2372		打製石鎌	OB7	N-21	VI	(1.36)	(1.30)	0.50	0.52	
2373		打製石鎌	CH	K-17	VI	1.43	1.40	0.25	0.34	
2374		打製石鎌	AN	G-22	VI	(1.52)	(1.40)	0.39	0.43	
2375		打製石鎌	OB6	F-20	VI	(1.16)	1.56	0.43	0.51	
2376		打製石鎌	AN	J-16	VI	(1.28)	(1.60)	0.40	0.54	
2377		打製石鎌	OB5	G-19	VI	1.25	1.65	0.20	0.32	

第 77 表 VI層出土石器観察表 (3)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
517	2378	打製石鏃	OB5	L-19	VI	1.49	1.48	0.31	0.41
	2379	打製石鏃	AN	M-20	VI	(1.33)	1.56	0.38	0.45
	2380	打製石鏃	CH	F-15	VI	1.50	1.48	0.35	0.49
	2381	打製石鏃	CH	H-17	VI	1.50	1.60	0.30	0.46
	2382	打製石鏃	AN	I-21	VI	1.52	1.53	0.35	0.50
	2383	打製石鏃	CC3	F-15	VI	(1.68)	(1.49)	0.38	0.51
	2384	打製石鏃	OB6	H-18	VI	1.55	1.55	0.30	0.39
	2385	打製石鏃	OB6	I-20	VI	(1.58)	(1.24)	0.38	0.29
	2386	打製石鏃	OB7	J-22	VI	1.65	1.50	0.25	0.28
	2387	打製石鏃	AN	G-17	VI	1.64	1.58	0.38	0.52
	2388	打製石鏃	AN	H-15	VI下	1.58	1.78	0.38	0.50
	2389	打製石鏃	AN	L-19	VI	(1.48)	(1.68)	0.29	0.40
	2390	打製石鏃	AN	M-13	VI	(1.72)	1.72	0.40	0.53
	2391	打製石鏃	AN	H-16	VI	(1.54)	(1.50)	0.28	0.37
	2392	打製石鏃	OB5	F-21	VI	1.70	1.65	0.50	0.79
	2393	打製石鏃	AN	I-21	VI	1.95	1.75	0.40	0.72
	2394	打製石鏃	OB5	F-18	VI	(1.96)	(1.43)	0.36	0.49
	2395	打製石鏃	SH	L-21	VI	(1.71)	(1.74)	0.38	0.49
	2396	打製石鏃	OB6	E-22	VI	(1.94)	1.84	0.32	0.58
	2397	打製石鏃	AN	F-22	VI	(1.61)	(1.66)	0.37	0.67
	2398	打製石鏃	AN	L-18	VI	(1.97)	(1.78)	0.35	0.76
	2399	打製石鏃	CH	I-20	VI	1.78	1.59	0.35	0.55
	2400	打製石鏃	AN	K-18	VI	1.81	1.58	0.40	0.59
2401	打製石鏃	OB5	J-20	VI	(1.30)	(1.56)	0.27	0.37	
2402	打製石鏃	CH	G-23	VI	(1.05)	1.85	0.30	0.45	
2403	打製石鏃	OB3	I-19	VI	(1.87)	(1.73)	0.50	0.96	
2404	打製石鏃	CH	M-13	VI	2.08	1.86	0.50	1.01	
2405	打製石鏃	AN	K-14	VI	(2.40)	(2.15)	0.35	1.21	
2406	打製石鏃	OB6	F-19	VI	(0.97)	(1.08)	0.28	0.27	
2407	打製石鏃	CH	K-21	VI	(1.05)	(1.22)	0.37	0.36	
2408	打製石鏃	OB4	J-14	VI	(1.32)	(1.32)	0.30	0.29	
2409	打製石鏃	OB5	K-22	VI	1.27	1.38	0.25	0.29	
2410	打製石鏃	OB7	J-20	VI	(1.35)	1.48	0.35	0.41	
2411	打製石鏃	OB3	G-21	VI	(1.39)	1.47	0.39	0.52	
2412	打製石鏃	OB5	N-21	VI	(1.35)	(1.46)	0.32	0.46	
2413	打製石鏃	AN	K-21	VI下	1.35	1.25	0.45	0.42	
2414	打製石鏃	CH	J-21	VI	1.45	(1.17)	0.28	0.27	
2415	打製石鏃	OB6	F-22	VI	1.33	1.59	0.46	0.60	
2416	打製石鏃	CH	J-17	VI	1.47	1.58	0.35	0.49	
2417	打製石鏃	AN	K-13	VI	(1.50)	(1.52)	0.34	0.45	
2418	打製石鏃	AN	L-19	VI	1.50	1.48	0.40	0.54	
2419	打製石鏃	OB6	H-22	VI	(1.52)	(1.62)	0.45	0.77	
2420	打製石鏃	OB1	F-19	VI	(1.26)	1.77	0.40	0.79	
2421	打製石鏃	CH	J-17	VI	1.63	1.66	0.36	0.78	
2422	打製石鏃	AN	J-20	VI	(1.50)	1.60	0.40	0.77	
2423	打製石鏃	CH	K-15	VI	1.68	1.93	0.50	0.95	
2424	打製石鏃	OB8	L-11	VI	1.73	1.92	0.51	1.19	
2425	打製石鏃	OB3	I-18	VI	(1.83)	(1.78)	0.45	0.82	
2426	打製石鏃	CH	G-19	VI	1.57	1.82	0.37	0.49	
2427	打製石鏃	CC3	F-16	VI下	(1.60)	(1.60)	0.40	0.46	
2428	打製石鏃	AN	L-21	VI上	1.63	1.63	0.50	0.90	
2429	打製石鏃	OB5	E-24	VI	1.60	2.16	0.38	0.67	
2430	打製石鏃	CH	L-18	VI	(1.72)	(1.43)	0.31	0.31	
2431	打製石鏃	CH	M-18	VI	(1.74)	(1.23)	0.35	0.46	
519	2432	打製石鏃	OB1	G-19	VI	1.82	1.82	0.42	0.74

第 78 表 VI層出土石器観察表 (4)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
519	2433	打製石鏃	AN	E-17	VI	1.74	1.73	0.44	0.86
	2434	打製石鏃	CH	H-16	VI	1.90	1.77	0.48	1.01
	2435	打製石鏃	CH	E-23	VI	(1.98)	(1.77)	0.43	0.88
	2436	打製石鏃	OB1	E-20	VI	(2.07)	(1.38)	0.43	6.99
	2437	打製石鏃	CH	I-17	VI	2.07	1.99	0.40	1.13
	2438	打製石鏃	CH	J-14	VI	(1.77)	(1.77)	0.37	0.69
	2439	打製石鏃	OB6	J-20	VI	(2.10)	(1.89)	0.38	1.22
	2440	打製石鏃	OB5	G-22	VI	2.02	2.08	0.55	1.38
	2441	打製石鏃	OB1	F-21	VI	(2.07)	(1.96)	0.44	1.09
	2442	打製石鏃	AN	G-23	VI	2.20	2.00	0.50	1.31
	2443	打製石鏃	CH	F-20	VI	(1.99)	(1.73)	0.34	0.81
	2444	打製石鏃	OB6	F-22	VI	2.30	2.13	0.60	1.84
	2445	打製石鏃	AN	H-15	VI下	(2.27)	(1.99)	0.35	1.02
	2446	打製石鏃	OB8	J-18	VI	(2.23)	2.36	0.47	1.54
	2447	打製石鏃	OB1	G-17	VI	(2.48)	(2.58)	0.56	2.10
	2448	打製石鏃	AN	F-22	VI	2.02	1.05	0.26	0.46
	2449	打製石鏃	CH	K-15	VI	(1.93)	(1.08)	0.33	0.68
	2450	打製石鏃	CC1	F-23	VI	(2.28)	1.05	0.34	0.83
	2451	打製石鏃	AN	I-23	VI	2.10	1.18	0.40	0.72
	2452	打製石鏃	OB6	D-19	VI	2.30	1.26	0.42	0.76
	2453	打製石鏃	AN	J-21	VI	(2.20)	(1.15)	0.50	0.80
	2454	打製石鏃	AN	I-21	VI	(2.50)	(1.19)	0.47	0.79
	2455	打製石鏃	OB6	E-21	VI	2.55	1.20	0.38	0.91
2456	打製石鏃	CH	C-25	VI	(2.60)	(1.38)	0.38	0.86	
2457	打製石鏃	AN	G-23	VI	(2.52)	1.38	0.38	0.94	
2458	打製石鏃	OB6	I-20	VI	(2.70)	(1.88)	0.39	0.81	
2459	打製石鏃	OB6	G-17	VI	(2.75)	(1.44)	0.45	1.24	
2460	打製石鏃	AN	E-22	VI	(2.92)	(1.33)	0.48	1.72	
2461	打製石鏃	CH	H-17	VI	(3.00)	(1.55)	0.42	1.23	
2462	打製石鏃	AN	I-20	VI	(2.98)	(1.53)	0.73	1.95	
2463	打製石鏃	AN	I-18	VI	(2.97)	1.68	0.57	1.88	
2464	打製石鏃	OB6	I-19	VI	3.36	1.78	0.55	2.07	
2465	打製石鏃	AN	G-21	VI	(3.42)	(1.46)	0.70	1.94	
2466	打製石鏃	AN	K-21	VI	(4.00)	2.13	0.87	5.45	
2467	打製石鏃	SH	G-22	VI	(4.05)	2.02	0.55	3.42	
2468	打製石鏃	CH	E-21	VI	(3.23)	1.88	0.35	1.53	
2469	打製石鏃	CH	D-20	VI	1.17	0.76	0.30	0.24	
2470	打製石鏃	OB4	C-26	VI	(1.25)	(1.00)	0.27	0.20	
2471	打製石鏃	OB4	J-18	VI	1.24	0.96	0.34	0.33	
2472	打製石鏃	OB7	J-18	VI	(1.23)	(1.03)	0.38	0.34	
2473	打製石鏃	OB5	G-23	VI	(1.20)	1.10	0.35	0.34	
2474	打製石鏃	OB3	M-21	VI	(1.42)	(1.00)	0.50	0.50	
2475	打製石鏃	AN	J-19	VI	1.55	1.24	0.20	0.36	
2476	打製石鏃	AN	J-15	VI	1.52	1.20	0.40	0.48	
2477	打製石鏃	AN	G-17	VI	1.57	1.38	0.42	0.67	
2478	打製石鏃	OB7	I-18	VI	(1.45)	(1.35)	0.40	0.71	
2479	打製石鏃	SH	G-18	VI	(1.58)	(1.23)	0.35	0.43	
2480	打製石鏃	AN	L-11	VI	1.58	1.28	0.50	0.66	
2481	打製石鏃	OB5	I-18	VI	1.67	1.27	0.42	0.65	
2482	打製石鏃	AN	G-13	VI上	(1.49)	1.43	0.35	0.55	
2483	打製石鏃	AN	H-19	VI	(1.50)	1.49	0.44	0.82	
2484	打製石鏃	OB7	M-12	VI	(1.70)	1.50	0.40	0.61	
2485	打製石鏃	CH	K-20	VI	(1.55)	1.42	0.48	1.00	
2486	打製石鏃	AN	H-18	VI	1.73	1.43	0.35	0.65	
2487	打製石鏃	SH	M-18	VI上	(1.77)	(1.37)	0.33	0.52	

第 79 表 VI層出土石器観察表（5）

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
521	2488	打製石鎌	AN	K-20	VI	(1.68)	(1.43)	0.45	0.84	
	2489	打製石鎌	CR	I-20	VI	1.97	(1.29)	0.53	0.95	
	2490	打製石鎌	OB6	K-21	VI	1.80	1.45	0.35	0.51	
	2491	打製石鎌	OB7	K-15	VI	1.79	1.43	0.48	0.97	
	2492	打製石鎌	OB7	G-22	VI	(1.74)	1.58	0.43	0.94	
	2493	打製石鎌	OB5	J-20	VI	1.90	1.50	0.47	0.96	
	2494	打製石鎌	SH	L-16	VI	2.05	1.40	0.50	0.71	
	2495	打製石鎌	OB6	J-20	VI	(1.78)	(1.40)	0.48	0.86	
	2496	打製石鎌	OB4	J-13	VI	2.00	(1.70)	0.25	0.66	
	2497	打製石鎌	OB7	G-18	VI	2.11	1.50	0.53	1.05	
	2498	打製石鎌	OB7	M-12	VI	1.86	1.58	0.48	0.87	
	2499	打製石鎌	OB3	G-9	VI	2.05	1.70	0.48	1.27	
	2500	打製石鎌	OB6	J-20	VI	(2.03)	1.76	0.59	1.44	
	2501	打製石鎌	OB6	F-19	VI	(2.02)	(1.54)	0.45	0.94	
	2502	打製石鎌	CH	K-16	VI	2.02	1.58	0.75	1.64	
	2503	打製石鎌	OB7	M-13	VI	(1.97)	1.73	0.54	1.44	
	2504	打製石鎌	AN	K-17	VI	(1.97)	2.03	0.40	1.17	
	2505	打製石鎌	CC1	J-21	VI	(1.75)	1.80	0.50	1.60	
	2506	打製石鎌	SH	K-20	VI	(2.18)	(1.92)	0.50	1.18	
	522	2507	打製石鎌	AN	H-22	VI	2.27	1.88	0.83	2.06
		2508	打製石鎌	OB1	K-21	VI	(1.64)	1.88	0.55	1.05
		2509	打製石鎌	AN	L-13	VI	2.35	1.82	0.70	2.10
		2510	打製石鎌	AN	I-21	VI	(2.20)	2.02	0.80	2.20
		2511	打製石鎌	AN	G-21	VI	(2.44)	1.68	0.46	1.56
		2512	打製石鎌	CH	F-14	VI	2.49	1.90	0.68	2.27
		2513	打製石鎌	AN	J-15	VI	2.64	2.13	0.65	2.21
2514		打製石鎌	HF	N-9	VI	(2.98)	(2.00)	0.33	2.04	
2515		打製石鎌	OB5	F-21	VI	1.15	0.98	0.33	0.27	
2516		打製石鎌	OB4	H-21	VI	(1.28)	(0.97)	0.40	0.40	
2517		打製石鎌	CH	J-22	VI	1.26	1.06	0.33	0.31	
2518		打製石鎌	AN	M-20	VI	(1.38)	(1.00)	0.18	0.21	
2519		打製石鎌	CH	I-23	VI下	1.40	1.25	0.38	0.43	
2520		打製石鎌	AN	I-12	VI	(1.20)	(1.16)	0.24	0.26	
2521		打製石鎌	CH	G-17	VI	1.40	1.32	0.32	0.42	
2522		打製石鎌	OB6	M-18	VI上	(1.52)	(0.97)	0.35	0.33	
2523		打製石鎌	OB7	J-19	VI	1.43	1.13	0.55	0.69	
2524		打製石鎌	OB7	K-21	VI	(1.43)	(0.98)	0.35	0.35	
2525		打製石鎌	OB6	G-21	VI	1.44	1.17	0.35	0.40	
2526		打製石鎌	OB6	L-20	VI	(1.50)	1.04	0.32	0.36	
2527		打製石鎌	SH	I-21	VI	1.54	1.14	0.40	0.55	
2528		打製石鎌	AN	K-17	VI	1.55	1.05	0.40	0.48	
2529		打製石鎌	OB2	F-18	VI	1.50	1.15	0.35	0.45	
2530		打製石鎌	CH	G-21	VI	(1.60)	(1.14)	0.34	0.55	
2531		打製石鎌	AN	J-15	VI	(1.40)	(1.20)	0.24	0.28	
2532		打製石鎌	AN	K-21	VI	(1.19)	(1.25)	0.30	0.36	
2533		打製石鎌	AN	L-19	VI	(1.50)	(1.70)	0.23	0.25	
2534		打製石鎌	OB3	F-21	VI	(1.47)	(1.02)	0.40	0.44	
2535		打製石鎌	OB7	D-24	VI	(1.30)	(1.26)	0.44	0.47	
2536		打製石鎌	AN	G-21	VI	1.37	1.23	0.37	0.38	
2537		打製石鎌	OB7	H-19	VI	(1.53)	(1.37)	0.45	0.54	
2538		打製石鎌	AN	N-16	VI	(1.50)	1.40	0.50	0.59	
2539		打製石鎌	OB5	K-19	VI	(1.60)	1.25	0.32	0.42	
2540		打製石鎌	CH	E-16	VI	(1.57)	(1.37)	0.36	0.59	
2541		打製石鎌	OB5	G-21	VI	(1.68)	(1.26)	0.26	0.38	
2542		打製石鎌	OB7	K-20	VI	(1.80)	(1.23)	0.38	0.46	

第 80 表 VI層出土石器観察表（6）

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
522	2543	打製石鎌	OB7	N-20	VI	1.65	1.30	0.40	0.51	
	2544	打製石鎌	OB2	I-22	VI	(1.75)	(1.33)	0.30	0.65	
	2545	打製石鎌	AN	J-22	VI	(1.42)	1.48	0.45	0.62	
	2546	打製石鎌	AN	E-19	VI	1.73	1.40	0.40	0.69	
	2547	打製石鎌	AN	D-24	VI	(1.49)	1.43	0.32	0.48	
	2548	打製石鎌	AN	I-21	VI	(1.30)	1.40	0.43	0.59	
	2549	打製石鎌	OB5	G-21	VI	(1.05)	1.40	0.30	0.45	
	2550	打製石鎌	OB6	M-17	VI下	(1.20)	1.62	0.28	0.40	
	2551	打製石鎌	OB7	F-22	VI	1.80	1.38	0.42	0.79	
	2552	打製石鎌	OB7	I-20	VI	(1.70)	(1.44)	0.36	0.62	
523	2553	打製石鎌	OB1	I-19	VI	1.76	1.53	0.47	0.82	
	2554	打製石鎌	AN	M-20	VI	1.75	1.50	0.60	0.96	
	2555	打製石鎌	AN	D-20	VI	(1.73)	(1.48)	0.53	0.83	
	2556	打製石鎌	AN	J-18	VI	1.92	1.58	0.50	0.98	
	2557	打製石鎌	OB4	H-21	VI	(1.85)	(1.13)	0.30	0.51	
	2558	打製石鎌	OB6	L-10	VI	(1.75)	(1.45)	0.25	0.62	
	2559	打製石鎌	AN	I-21	VI	(1.85)	(1.46)	0.41	0.89	
	2560	打製石鎌	OB6	J-21	VI	(1.85)	(1.35)	0.40	0.63	
	2561	打製石鎌	CH	E-24	VI	1.95	1.53	0.55	1.22	
	2562	打製石鎌	OB4	I-22	VI	1.81	1.52	0.31	0.66	
	2563	打製石鎌	AN	K-19	VI	2.83	1.16	0.37	0.68	
	2564	打製石鎌	SH	J-20	VI	2.04	1.40	0.42	0.68	
	2565	打製石鎌	CC2	H-22	VI	(1.98)	1.38	0.38	0.78	
	2566	打製石鎌	AN	N-18	VI	(1.92)	(1.32)	0.36	0.78	
	2567	打製石鎌	AN	K-18	VI	1.80	1.58	0.38	0.58	
	2568	打製石鎌	OB6	L-14	VI	(1.80)	(1.40)	0.22	0.63	
	2569	打製石鎌	OB6	F-16	VI	(1.85)	1.44	0.42	0.84	
	2570	打製石鎌	OB6	H-17	VI	1.87	1.63	0.40	0.80	
	2571	打製石鎌	AN	K-15	VI	(1.91)	1.60	0.40	0.86	
	2572	打製石鎌	AN	L-20	VI	(1.88)	1.67	0.40	0.81	
	2573	打製石鎌	OB7	M-13	VI	1.91	1.65	0.50	1.05	
	2574	打製石鎌	SH	J-19	VI	(2.00)	(1.60)	0.45	0.97	
	2575	打製石鎌	AN	E-16	VI	2.10	1.74	0.37	0.97	
	2576	打製石鎌	AN	I-14	VI	(2.05)	(1.72)	0.40	1.08	
	2577	打製石鎌	AN	L-20	VI	(1.95)	(1.70)	0.50	1.13	
	2578	打製石鎌	OB8	G-23	VI	(2.09)	(1.54)	0.47	0.90	
	2579	打製石鎌	OB7	E-17	VI	(2.11)	(1.50)	0.50	0.95	
	2580	打製石鎌	OB7	E-20	VI	2.10	1.55	0.25	0.69	
	2581	打製石鎌	AN	M-12	VI	(1.70)	1.68	0.32	0.71	
	2582	打製石鎌	CH	F-20	VI	(2.06)	(1.46)	0.40	0.94	
	2583	打製石鎌	OB7	H-19	VI	(1.50)	1.77	0.36	0.67	
	2584	打製石鎌	AN	K-17	VI	(2.15)	(1.60)	0.37	1.00	
	2585	打製石鎌	CH	H-3	VI	(2.05)	(1.49)	0.50	1.11	
	524	2586	打製石鎌	AN	E-17	VI	(1.96)	(1.83)	0.32	0.87
		2587	打製石鎌	CH	I-21	VI	2.15	1.65	0.60	2.15
		2588	打製石鎌	AN	N-20	VI	2.16	1.93	0.54	1.75
		2589	打製石鎌	CH	I-18	VI	2.32	1.67	0.40	1.39
		2590	打製石鎌	OB6	F-19	VI	(1.65)	(1.80)	0.38	0.81
		2591	打製石鎌	CH	H-18	VI	2.18	1.87	0.40	1.01
		2592	打製石鎌	AN	M-15	VI	(2.10)	1.70	0.40	1.02
		2593	打製石鎌	OB7	J-14	VI	(2.30)	(1.44)	0.47	1.02
		2594	打製石鎌	AN	M-18	VI	(2.24)	(1.70)	0.55	1.37
		2595	打製石鎌	AN	M-20	VI	(2.20)	1.70	0.50	1.14
		2596	打製石鎌	OB7	J-19	VI	(2.68)	(1.47)	0.37	0.88
		2597	打製石鎌	OB4	J-19	VI	(2.40)	(1.80)	0.45	1.25

第 81 表 VI層出土石器観察表 (7)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
524	2598	打製石鏃	AN	L-20	VI	2.37	1.52	0.51	1.41
	2599	打製石鏃	SH	F-13	VI	2.26	1.57	0.43	0.97
	2600	打製石鏃	OB6	H-22	VI	(2.55)	(1.43)	0.52	1.10
	2601	打製石鏃	AN	L-20	VI	2.33	1.90	0.47	1.67
	2602	打製石鏃	CH	J-20	VI	(2.40)	1.90	0.50	1.52
	2603	打製石鏃	AN	L-15	VI	(2.34)	1.89	0.44	1.14
	2604	打製石鏃	OB4	L-13	VI	2.40	1.85	0.42	1.32
	2605	打製石鏃	CH	D-15	VI	(2.33)	(1.81)	0.40	1.12
	2606	打製石鏃	SH	H-18	VI	(2.10)	(1.85)	0.62	1.21
	2607	打製石鏃	AN	F-21	VI	2.24	2.00	0.45	1.12
	2608	打製石鏃	CH	E-21	VI	(2.21)	1.97	0.39	1.48
525	2609	打製石鏃	SH	J-21	VI	(2.50)	(1.80)	0.70	1.42
	2610	打製石鏃	AN	K-11	VI	2.47	1.88	0.40	1.22
	2611	打製石鏃	OB6	M-13	VI	2.59	1.95	0.42	1.22
	2612	打製石鏃	OB7	J-15	VI	2.44	2.20	0.60	2.09
	2613	打製石鏃	AN	G-20	VI	2.54	2.44	0.39	1.69
	2614	打製石鏃	OB6	H-19	VI	(2.40)	1.95	0.50	1.85
	2615	打製石鏃	CH	N-17	VI	(2.44)	(1.94)	0.74	2.07
	2616	打製石鏃	AN	E-24	VI	2.50	(1.94)	0.93	2.68
	2617	打製石鏃	SH	K-16	VI	2.64	2.00	0.53	1.66
	2618	打製石鏃	OB6	G-17	VI	2.85	2.15	0.52	1.99
	2619	打製石鏃	AN	L-16	VI	2.95	1.90	0.40	1.56
526	2620	打製石鏃	OB7	J-15	VI	3.35	(2.55)	0.58	3.06
	2621	打製石鏃	CH	K-19	VI	2.89	2.08	0.27	1.29
	2622	打製石鏃	SH	I-15	VI	3.08	2.10	0.45	1.38
	2623	打製石鏃	OB7	N-17	VI	(1.28)	(1.10)	0.30	0.26
	2624	打製石鏃	OB7	K-17	VI	(1.40)	(1.05)	0.40	0.30
	2625	打製石鏃	AN	J-22	VI	1.40	1.35	0.50	0.57
	2626	打製石鏃	OB6	I-8	VI	1.49	1.13	0.34	0.33
	2627	打製石鏃	OB7	M-17	VI	(1.40)	1.30	0.40	0.43
	2628	打製石鏃	AN	H-14	VI下	(1.60)	(1.23)	0.34	0.35
	2629	打製石鏃	OB7	G-14	VI上	1.58	1.00	0.25	0.23
	2630	打製石鏃	AN	K-16	VI	(1.67)	(1.19)	0.32	0.37
527	2631	打製石鏃	AN	I-21	VI	1.67	1.20	0.25	0.31
	2632	打製石鏃	OB6	L-20	VI	(1.45)	(1.44)	0.38	0.33
	2633	打製石鏃	OB6	E-22	VI	1.59	1.27	0.32	0.39
	2634	打製石鏃	AN	M-16	VI下	(1.66)	(1.16)	0.28	0.30
	2635	打製石鏃	OB7	L-20	VI	(1.68)	(1.26)	0.36	0.45
	2636	打製石鏃	AN	M-17	VI	(1.43)	(1.20)	0.32	0.39
	2637	打製石鏃	AN	J-20	VI	(1.80)	(1.13)	0.40	0.42
	2638	打製石鏃	AN	M-18	VI	(1.80)	1.46	0.40	0.58
	2639	打製石鏃	AN	M-15	VI	(1.73)	(1.38)	0.42	0.59
	2640	打製石鏃	OB1	M-18	VI	(1.89)	(1.46)	0.45	0.88
	2641	打製石鏃	AN	F-22	VI	(1.84)	(1.27)	0.48	0.75
528	2642	打製石鏃	OB7	G-14	VI	(1.47)	1.47	0.36	0.47
	2643	打製石鏃	OB6	L-16	VI	(1.85)	(1.38)	0.30	0.50
	2644	打製石鏃	AN	N-18	VI	(1.64)	(1.51)	0.30	0.37
	2645	打製石鏃	AN	F-20	VI	(1.70)	(1.28)	0.30	0.38
	2646	打製石鏃	CH	J-16	VI	1.78	1.50	0.30	0.42
	2647	打製石鏃	AN	E-21	VI	(1.81)	(1.40)	0.34	0.44
	2648	打製石鏃	CH	E-16	VI	(1.62)	1.53	0.22	0.42
	2649	打製石鏃	OB6	J-22	VI	(1.78)	(1.45)	0.47	0.73
	2650	打製石鏃	CH	J-20	VI	(1.90)	1.60	0.42	0.80
	2651	打製石鏃	CH	I-21	VI	(1.90)	(1.23)	0.25	0.34
	2652	打製石鏃	AN	J-22	VI	2.05	1.33	0.25	0.37

第 82 表 VI層出土石器観察表 (8)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
526	2653	打製石鏃	AN	J-21	VI	(1.90)	1.30	0.40	0.79
	2654	打製石鏃	AN	J-21	VI	(1.95)	(1.48)	0.28	0.69
	2655	打製石鏃	CH	F-22	VI	2.02	1.50	0.70	1.40
	2656	打製石鏃	CH	H-23	VI	(1.97)	(1.05)	0.43	0.52
	2657	打製石鏃	AN	N-17	VI	(2.00)	(1.58)	0.42	0.77
	2658	打製石鏃	AN	J-15	VI	(2.14)	(1.68)	0.42	0.76
	2659	打製石鏃	SH	L-9	VI下	2.08	1.48	0.35	0.69
	2660	打製石鏃	AN	D-21	VI	(2.18)	(1.53)	0.30	0.60
	2661	打製石鏃	AN	M-13	VI	(1.94)	1.63	0.48	0.91
	2662	打製石鏃	AN	L-20	VI	(1.75)	(1.35)	0.30	0.56
	2663	打製石鏃	AN	G-23	VI	(1.86)	(1.54)	0.33	0.57
527	2664	打製石鏃	OB7	N-17	VI	(1.42)	(1.68)	0.38	0.47
	2665	打製石鏃	AN	K-14	VI	(2.08)	(1.36)	0.31	0.55
	2666	打製石鏃	AN	G-23	VI	(2.20)	(1.40)	0.55	1.13
	2667	打製石鏃	OB7	L-20	VI	(2.08)	(1.54)	0.46	0.81
	2668	打製石鏃	AN	J-21	VI	(2.28)	(1.22)	0.42	0.90
	2669	打製石鏃	OB6	J-18	VI	(2.19)	(1.58)	0.46	0.94
	2670	打製石鏃	AN	F-15	VI	(1.80)	1.78	0.40	0.76
	2671	打製石鏃	OB6	L-20	VI	(2.10)	(1.65)	0.30	0.51
	2672	打製石鏃	AN	I-21	VI	(1.69)	(1.77)	0.40	0.61
	2673	打製石鏃	AN	H-18	VI	2.12	1.66	0.40	0.84
	2674	打製石鏃	CC3	H-4	VI上	(2.35)	(1.54)	0.55	0.91
528	2675	打製石鏃	AN	J-20	VI	(2.50)	(1.50)	0.55	0.93
	2676	打製石鏃	AN	K-18	VI	(2.34)	(1.57)	0.42	0.88
	2677	打製石鏃	AN	L-17	VI	(2.17)	(1.48)	0.38	0.53
	2678	打製石鏃	CH	I-19	VI	(2.41)	(1.56)	0.42	0.84
	2679	打製石鏃	CH	E-16	VI	(2.50)	(1.61)	0.51	1.45
	2680	打製石鏃	AN	J-20	VI	(2.58)	(1.50)	0.46	1.15
	2681	打製石鏃	AN	J-17	VI	(2.58)	(1.33)	0.35	0.71
	2682	打製石鏃	AN	K-19	VI	2.25	1.65	0.30	0.66
	2683	打製石鏃	CH	L-18	VI	(2.25)	(1.64)	0.44	0.89
	2684	打製石鏃	OB5	K-17	VI	(2.35)	(1.48)	0.35	0.62
	2685	打製石鏃	AN	F-10	VI	(2.30)	(1.54)	0.29	0.69
529	2686	打製石鏃	AN	H-21	VI	2.25	2.05	0.50	1.42
	2687	打製石鏃	AN	L-20	VI	2.50	1.80	0.40	1.19
	2688	打製石鏃	SH	F-21	VI	2.50	1.88	0.40	0.74
	2689	打製石鏃	OB6	F-15	VI	(2.10)	1.85	0.38	0.71
	2690	打製石鏃	SH	F-21	VI	(2.27)	(1.90)	0.45	0.74
	2691	打製石鏃	AN	K-17	VI	(2.53)	(1.41)	0.31	0.55
	2692	打製石鏃	AN	J-20	VI	2.47	1.64	0.47	0.89
	2693	打製石鏃	OB1	K-17	VI	(2.56)	(1.58)	0.40	0.88
	2694	打製石鏃	AN	I-20	VI	(2.60)	(1.44)	0.40	0.61
	2695	打製石鏃	AN	I-20	VI	(2.22)	(1.55)	0.45	0.87
	2696	打製石鏃	OB6	M-21	VI上	(2.65)	(1.79)	0.37	0.69
2697	打製石鏃	OB5	E-21	VI	2.70	1.87	0.33	0.73	
2698	打製石鏃	OB6	F-18	VI	2.58	1.68	0.43	0.93	
2699	打製石鏃	AN	L-21	VI	2.61	1.67	0.47	1.01	
2700	打製石鏃	OB5	E-21	VI	2.53	1.90	0.35	0.86	
2701	打製石鏃	OB5	D-18	VI	2.60	1.90	0.55	1.65	
2702	打製石鏃	CH	F-19	VI	(2.83)	(1.58)	0.50	1.28	
2703	打製石鏃	AN	L-8	VI	(2.74)	(1.73)	0.42	1.32	
2704	打製石鏃	CH	L-16	VI	(2.10)	(1.70)	0.43	1.20	
2705	打製石鏃	CC1	J-20	VI	(2.54)	(1.97)	0.47	1.29	
2706	打製石鏃	CH	I-15	VI	(2.89)	(1.62)	0.42	1.10	
2707	打製石鏃	CH	H-14	VI	(2.71)	(1.86)	0.36	1.20	

第 83 表 VI層出土石器観察表 (9)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
528	2708	打製石鎌	AN	L-15	VI	2.89	2.15	0.60	2.01	
	2709	打製石鎌	OB7	M-19	VI上	(2.96)	(1.87)	0.43	1.08	
	2710	打製石鎌	OB8	J-21	VI	(1.99)	(1.66)	0.60	1.64	
	2711	打製石鎌	CH	F-15	VI	(3.00)	(1.95)	0.40	1.65	
	2712	打製石鎌	CH	I-19	VI	(3.35)	(1.87)	0.42	1.61	
	2713	打製石鎌	AN	G-19	VI	3.10	2.10	0.40	1.06	
	2714	打製石鎌	AN	J-15	VI	3.13	2.18	0.54	1.73	
	2715	打製石鎌	OB6	G-17	VI	3.80	2.56	0.60	3.53	
	529	2716	打製石鎌	AN	H-21	VI	(1.18)	1.20	0.15	0.19
		2717	打製石鎌	OB4	K-18	VI	(1.29)	1.21	0.30	0.27
		2718	打製石鎌	OB6	G-23	VI	(1.27)	1.28	0.28	0.30
		2719	打製石鎌	CH	L-14	VI	(1.50)	(1.18)	0.29	0.33
		2720	打製石鎌	AN	J-20	VI	1.43	1.38	0.38	0.42
		2721	打製石鎌	AN	H-22	VI	1.50	1.40	0.48	0.64
		2722	打製石鎌	CH	L-13	VI	1.55	1.38	0.35	0.47
2723		打製石鎌	CH	E-16	VI	(1.61)	1.44	0.43	0.73	
2724		打製石鎌	OB6	H-22	VI	(1.65)	1.50	0.45	0.83	
2725		打製石鎌	AN	K-21	VI	(1.50)	(1.45)	0.40	0.65	
2726		打製石鎌	AN	F-17	VI	(1.62)	1.62	0.35	0.77	
2727		打製石鎌	AN	I-21	VI	(1.90)	(1.53)	0.50	0.91	
2728		打製石鎌	OB1	F-21	VI	1.70	1.48	0.40	0.52	
2729		打製石鎌	AN	K-21	VI	(1.76)	(1.34)	0.29	0.68	
2730		打製石鎌	AN	L-17	VI	(1.72)	(1.18)	0.36	0.32	
2731		打製石鎌	CH	K-17	VI	(1.78)	(1.32)	0.36	0.49	
2732		打製石鎌	AN	J-20	VI	1.67	1.46	0.48	0.65	
2733		打製石鎌	CH	K-17	VI	1.88	1.61	0.30	0.67	
2734		打製石鎌	OB5	L-13	VI	(1.08)	1.50	0.25	0.44	
2735		打製石鎌	AN	I-23	VI	(2.00)	(1.20)	0.36	0.59	
2736		打製石鎌	OB4	G-20	VI	1.89	(1.63)	0.37	0.80	
2737		打製石鎌	CH	L-17	VI	(1.82)	(1.82)	0.25	0.67	
2738		打製石鎌	OB7	K-10	VI上	2.00	1.60	0.38	0.63	
2739		打製石鎌	AN	J-18	VI	1.82	1.62	0.50	0.85	
2740		打製石鎌	OB6	K-22	VI	(1.95)	(1.40)	0.40	69.00	
2741		打製石鎌	AN	F-21	VI	(1.95)	1.68	0.50	0.92	
2742		打製石鎌	OB6	G-21	VI	1.98	1.38	0.47	0.72	
2743		打製石鎌	AN	I-23	VI	(2.00)	1.50	0.55	0.79	
2744		打製石鎌	OB6	K-15	VI	2.13	1.58	0.42	0.82	
2745		打製石鎌	CH	M-15	VI	2.31	1.51	0.37	0.84	
2746		打製石鎌	CH	H-19	VI	(1.98)	1.53	0.36	0.88	
2747		打製石鎌	AN	I-21	VI	2.30	1.60	0.50	1.05	
2748		打製石鎌	CH	M-17	VI	2.07	1.64	0.35	0.89	
2749		打製石鎌	CC2	L-18	VI	1.98	1.67	0.39	0.82	
2750		打製石鎌	CH	L-22	VI	(1.80)	(1.60)	0.30	0.71	
2751	打製石鎌	AN	K-20	VI	(2.35)	1.95	0.40	1.26		
530	2752	打製石鎌	OB6	E-22	VI	(2.19)	1.37	0.32	0.63	
	2753	打製石鎌	CH	F-22	VI	(2.17)	(1.33)	0.43	0.76	
	2754	打製石鎌	OB8	L-21	VI上	(2.15)	(1.55)	0.48	1.03	
	2755	打製石鎌	OB6	E-23	VI	(2.15)	(1.40)	0.40	0.97	
	2756	打製石鎌	AN	I-21	VI	(1.98)	1.52	0.48	0.96	
	2757	打製石鎌	AN	G-21	VI	(2.20)	(1.50)	0.45	1.29	
	2758	打製石鎌	OB1	I-21	VI	(2.20)	1.55	0.40	0.96	
	2759	打製石鎌	OB5	L-21	VI上	1.25	1.53	0.45	1.05	
	2760	打製石鎌	AN	H-22	VI	2.25	1.77	0.60	1.55	
	2761	打製石鎌	OB6	L-21	VI	2.29	(1.64)	0.50	1.12	
	2762	打製石鎌	AN	J-21	VI	(2.28)	(1.97)	0.53	1.51	

第 84 表 VI層出土石器観察表 (10)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
530	2763	打製石鎌	OB6	G-22	VI	2.47	1.77	0.53	1.66	
	2764	打製石鎌	CH	G-18	VI	(2.48)	(1.52)	0.45	1.06	
	2765	打製石鎌	OB6	F-24	VI	(1.23)	1.55	0.38	0.74	
	2766	打製石鎌	AN	H-18	VI	(1.80)	(1.57)	0.43	0.89	
	2767	打製石鎌	AN	I-22	VI	(1.77)	1.56	0.38	0.86	
	2768	打製石鎌	OB6	K-22	VI上	(1.75)	1.58	0.45	1.21	
	2769	打製石鎌	OB6	F-21	VI	(1.55)	1.50	0.50	1.15	
	2770	打製石鎌	CH	I-22	VI	(2.20)	(1.52)	0.44	0.84	
	2771	打製石鎌	CH	J-15	VI	(2.35)	(1.48)	0.37	0.67	
	2772	打製石鎌	CH	M-18	VI	(2.48)	(1.50)	0.30	0.85	
	2773	打製石鎌	OB6	G-22	VI	(2.65)	(1.30)	0.44	0.87	
	2774	打製石鎌	AN	I-18	VI	(2.44)	(1.33)	0.53	0.99	
	2775	打製石鎌	AN	I-21	VI	(2.45)	1.60	0.40	1.17	
	2776	打製石鎌	AN	F-21	VI	(2.58)	(1.40)	0.38	1.02	
	2777	打製石鎌	AN	H-22	VI	(2.70)	(1.45)	0.55	1.12	
	2778	打製石鎌	AN	H-22	VI	(2.68)	(1.59)	0.50	1.23	
	2779	打製石鎌	OB6	H-21	VI	(2.35)	(1.98)	0.54	1.57	
	2780	打製石鎌	CH	F-19	VI	(2.30)	(2.20)	0.45	2.01	
	2781	打製石鎌	AN	J-22	VI	(2.43)	(1.40)	0.49	1.20	
	2782	打製石鎌	AN	H-17	VI	(1.66)	1.87	0.40	0.93	
	531	2783	打製石鎌	SH	K-13	VI	(2.33)	(1.73)	0.43	0.98
		2784	打製石鎌	SH	K-15	VI	(2.20)	(1.77)	0.37	0.90
		2785	打製石鎌	CH	K-18	VI	(1.98)	2.13	0.36	1.14
		2786	打製石鎌	OB5	G-17	VI	(2.61)	(1.66)	0.46	1.23
		2787	打製石鎌	CH	M-14	VI	(2.50)	(1.78)	0.42	1.29
		2788	打製石鎌	SH	H-16	VI	(1.98)	(2.04)	0.40	1.20
		2789	打製石鎌	CH	J-15	VI	(2.77)	(1.92)	0.40	1.40
		2790	打製石鎌	AN	G-20	VI	(2.45)	(1.80)	0.40	1.47
		2791	打製石鎌	OB6	H-20	VI	(2.69)	2.12	0.53	1.93
		2792	打製石鎌	CH	J-15	VI	(1.99)	2.12	0.39	1.28
		2793	打製石鎌	CH	K-17	VI	(2.58)	(1.60)	0.33	0.95
		2794	打製石鎌	OB6	M-20	VI	(2.65)	1.60	0.38	1.26
		2795	打製石鎌	OB6	I-20	VI	(2.85)	(1.65)	0.52	1.53
		2796	打製石鎌	OB6	I-19	VI	(2.83)	(1.54)	0.50	1.72
		2797	打製石鎌	CH	F-20	VI	2.97	2.03	0.40	1.71
		2798	打製石鎌	CH	M-17	VI	(2.88)	2.13	0.40	1.52
		2799	打製石鎌	AN	G-18	VI	(2.58)	(1.55)	0.53	1.39
		2800	打製石鎌	CH	H-18	VI	2.65	1.62	0.45	1.78
		2801	打製石鎌	AN	J-21	VI	(2.74)	(1.54)	0.55	1.27
		2802	打製石鎌	CH	E-17	VI	2.68	2.13	0.41	1.44
		2803	打製石鎌	AN	E-22	VI	2.85	2.10	0.63	2.34
		2804	打製石鎌	AN	F-22	VI	(2.32)	2.00	0.80	2.44
2805		打製石鎌	AN	H-21	VI	3.10	1.70	0.65	2.01	
532		2806	打製石鎌	CH	C-25	VI	(2.98)	(2.02)	0.42	1.80
		2807	打製石鎌	CH	G-11	VI上	(3.05)	(2.05)	0.35	1.81
		2808	打製石鎌	CH	J-15	VI	(2.00)	2.18	0.32	1.49
		2809	打製石鎌	CH	K-17	VI	(2.45)	(2.35)	0.35	1.82
		2810	打製石鎌	CH	J-14	VI	(2.80)	(1.65)	0.30	1.38
		2811	打製石鎌	OB1	G-22	VI	(1.76)	(2.00)	0.80	2.07
		2812	打製石鎌	AN	M-16	VI	(1.75)	2.35	0.38	1.70
	2813	打製石鎌	SH	L-18	VI	(3.24)	(1.64)	0.32	1.38	
	2814	打製石鎌	HF	H-17	VI	(2.89)	(1.82)	0.34	1.57	
	2815	打製石鎌	SH	M-18	VI	(3.35)	(1.98)	0.40	1.76	
	2816	打製石鎌	CH	K-15	VI	(2.90)	(1.92)	0.40	1.74	
	2817	打製石鎌	OB6	K-21	VI	(3.50)	(1.64)	0.60	2.25	



第 85 表 VI層出土石器観察表 (11)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
532	2818	打製石鏃	OB6	H-16	VI	(3.60)	(1.90)	0.50	2.25	
	2819	打製石鏃	OB4	F-21	VI	(1.10)	(0.95)	0.27	0.11	
	2820	打製石鏃	OB2	F-19	VI	(1.33)	(0.95)	0.38	0.29	
	2821	打製石鏃	CH	J-20	VI	(1.52)	(1.10)	0.20	0.27	
	2822	打製石鏃	CH	J-18	VI	(1.40)	(1.18)	0.28	0.26	
	2823	打製石鏃	CH	M-21	VI下	(1.40)	(1.25)	0.39	0.44	
	2824	打製石鏃	AN	K-18	VI	1.62	1.38	0.35	0.55	
	2825	打製石鏃	AN	J-21	VI	1.64	1.34	0.26	0.53	
	2826	打製石鏃	CH	M-14	VI	1.75	1.46	0.31	0.55	
	2827	打製石鏃	OB6	K-17	VI	(1.56)	(1.15)	0.34	0.32	
	2828	打製石鏃	AN	H-17	VI	1.62	1.23	0.27	0.38	
	2829	打製石鏃	OB7	J-17	VI	(1.65)	1.20	0.38	0.44	
	2830	打製石鏃	AN	J-21	VI	1.78	1.34	0.39	0.66	
	2831	打製石鏃	AN	H-20	VI	(1.62)	(1.23)	0.32	0.41	
	2832	打製石鏃	AN	H-16	VI	1.75	1.20	0.34	0.51	
	2833	打製石鏃	SH	I-21	VI	1.65	1.34	0.40	0.45	
	2834	打製石鏃	CC3	E-19	VI	1.77	1.43	0.33	0.42	
	2835	打製石鏃	AN	J-21	VI	(1.80)	(1.36)	0.43	0.65	
	2836	打製石鏃	OB6	F-24	VI	1.78	1.42	0.44	0.65	
	2837	打製石鏃	OB3	G-21	VI	(1.83)	(1.05)	0.60	0.69	
	533	2838	打製石鏃	CH	G-16	VI	1.93	1.43	0.32	0.64
		2839	打製石鏃	OB6	E-23	VI	1.92	1.34	0.37	0.57
		2840	打製石鏃	AN	G-22	VI	(1.84)	(1.22)	0.47	0.66
		2841	打製石鏃	AN	J-20	VI	(1.95)	(1.30)	0.47	0.63
		2842	打製石鏃	CH	J-15	VI	(1.87)	(1.48)	0.33	0.62
		2843	打製石鏃	AN	G-17	VI	(1.64)	1.29	0.35	0.54
		2844	打製石鏃	AN	J-20	VI	(1.64)	(1.39)	0.35	0.57
		2845	打製石鏃	AN	G-23	VI	1.89	(1.40)	0.50	0.88
2846		打製石鏃	OB1	J-21	VI	2.08	(1.53)	0.52	1.10	
2847		打製石鏃	OB6	F-22	VI	(1.76)	(1.39)	0.43	0.55	
2848		打製石鏃	CH	I-20	VI	(1.97)	(1.40)	0.40	0.71	
2849		打製石鏃	AN	I-21	VI	1.88	1.38	0.42	0.65	
2850		打製石鏃	AN	J-20	VI	(1.84)	(1.17)	0.35	0.43	
2851		打製石鏃	AN	J-20	VI	(2.00)	(1.30)	0.40	0.56	
2852		打製石鏃	AN	H-23	VI	(2.00)	(1.62)	0.42	0.84	
2853		打製石鏃	CH	F-13	VI	2.00	1.50	0.36	0.76	
2854		打製石鏃	AN	J-21	VI	(1.80)	1.70	0.60	1.20	
2855		打製石鏃	OB5	I-21	VI	1.86	1.55	0.40	0.76	
2856		打製石鏃	SH	K-18	VI	2.00	1.53	0.39	0.82	
2857		打製石鏃	CH	G-15	VI	1.95	1.80	0.35	0.83	
2858		打製石鏃	OB3	F-19	VI	(2.10)	(1.60)	0.35	0.87	
534		2859	打製石鏃	OB6	G-24	VI	(2.02)	1.30	0.48	0.78
		2860	打製石鏃	CR	K-20	VI	(2.00)	(1.37)	0.43	1.00
		2861	打製石鏃	AN	J-22	VI	(1.98)	(1.54)	0.50	0.92
		2862	打製石鏃	AN	H-23	VI	(1.95)	(1.59)	0.34	0.95
		2863	打製石鏃	OB1	E-19	VI	(2.00)	(1.50)	0.53	0.85
		2864	打製石鏃	CH	G-16	VI	(2.01)	(1.49)	0.33	0.72
		2865	打製石鏃	OB6	G-14	VI	2.05	1.40	0.55	0.98
	2866	打製石鏃	OB5	F-19	VI	(2.00)	1.44	0.38	0.76	
	2867	打製石鏃	AN	H-21	VI	1.95	1.35	0.45	1.02	
	2868	打製石鏃	CH	G-20	VI	(2.01)	(1.45)	0.35	0.67	
	2869	打製石鏃	CC2	I-21	VI	(1.95)	1.70	0.35	0.74	
	2870	打製石鏃	CH	I-20	VI	(2.03)	(1.23)	0.34	0.41	
	2871	打製石鏃	OB6	F-23	VI	(2.12)	(1.18)	0.30	0.47	
	2872	打製石鏃	AN	E-17	VI	(2.08)	(1.44)	0.32	0.56	

第 86 表 VI層出土石器観察表 (12)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
534	2873	打製石鏃	CH	D-22	VI	(2.14)	(1.38)	0.36	0.58	
	2874	打製石鏃	AN	G-18	VI	(2.14)	(1.38)	0.52	1.01	
	2875	打製石鏃	AN	I-21	VI	(2.00)	(1.25)	0.56	0.77	
	2876	打製石鏃	AN	F-19	VI	(2.20)	(1.35)	0.34	0.56	
	2877	打製石鏃	OB6	J-20	VI	(2.14)	1.50	0.23	0.45	
	2878	打製石鏃	CH	J-18	VI	(2.12)	(1.45)	0.32	0.56	
	2879	打製石鏃	AN	F-22	VI	2.12	1.36	0.41	0.94	
	2880	打製石鏃	OB5	G-5	VI	(2.12)	(1.30)	0.41	0.70	
	2881	打製石鏃	CH	J-15	VI	(2.20)	(1.45)	0.45	0.90	
	2882	打製石鏃	AN	G-18	VI	(1.83)	1.48	0.52	1.02	
	2883	打製石鏃	OB6	J-22	VI	(2.26)	(1.40)	0.50	0.94	
	2884	打製石鏃	CC1	G-18	VI	2.03	1.53	0.45	0.83	
	2885	打製石鏃	CH	M-20	VI	(2.18)	(1.52)	0.30	0.98	
	2886	打製石鏃	AN	L-13	VI	(2.12)	(1.41)	0.38	0.82	
	2887	打製石鏃	AN	G-23	VI	(2.27)	(1.31)	0.40	0.79	
	2888	打製石鏃	CH	H-17	VI	(2.24)	(1.28)	0.48	0.89	
	2889	打製石鏃	OB6	F-22	VI	(2.45)	(1.30)	0.35	0.88	
	2890	打製石鏃	AN	G-21	VI	(2.31)	(1.32)	0.50	1.06	
	2891	打製石鏃	AN	H-23	VI	(2.37)	1.47	0.38	0.85	
	2892	打製石鏃	AN	I-21	VI	2.40	1.60	0.40	1.07	
	2893	打製石鏃	OB6	F-21	VI	(1.50)	(1.42)	0.53	0.90	
	2894	打製石鏃	OB6	K-21	VI	(1.24)	(1.02)	0.28	0.23	
	2895	打製石鏃	OB5	G-22	VI	(1.23)	1.05	0.35	0.44	
	2896	打製石鏃	AN	J-21	VI	(1.05)	1.41	0.23	0.27	
	2897	打製石鏃	AN	M-20	VI	(1.13)	1.64	0.43	0.40	
	535	2898	打製石鏃	OB6	G-17	VI	(2.17)	(1.61)	0.48	0.99
		2899	打製石鏃	AN	G-21	VI	2.50	1.89	0.32	1.18
		2900	打製石鏃	AN	F-21	VI	(2.08)	(1.60)	0.43	1.15
2901		打製石鏃	OB1	H-20	VI	(1.71)	1.72	0.47	1.17	
2902		打製石鏃	CH	K-20	VI	2.10	1.85	0.45	1.15	
2903		打製石鏃	AN	G-21	VI	2.22	1.88	0.50	1.41	
2904		打製石鏃	OB5	G-22	VI	2.28	1.80	0.56	1.28	
2905		打製石鏃	CH	M-18	VI上	(1.65)	1.60	0.28	0.74	
2906		打製石鏃	OB6	K-20	VI	(2.35)	(1.64)	0.34	0.83	
2907		打製石鏃	AN	J-13	VI	2.10	(1.37)	0.32	0.55	
2908		打製石鏃	OB1	F-17	VI	(1.65)	1.85	0.48	0.93	
2909		打製石鏃	CH	L-13	VI	(1.88)	1.62	0.42	0.72	
2910		打製石鏃	CH	I-19	VI	(2.20)	(1.53)	0.45	0.75	
2911		打製石鏃	CH	H-14	VI	(2.32)	(1.53)	0.35	0.72	
2912		打製石鏃	CC1	L-13	VI	(2.16)	(1.54)	0.32	0.53	
2913		打製石鏃	CH	J-15	VI	(2.00)	1.70	0.35	0.89	
2914		打製石鏃	OB1	D-19	VI	(2.18)	(1.60)	0.42	0.86	
2915		打製石鏃	OB5	K-18	VI	2.15	1.80	0.35	0.90	
2916		打製石鏃	CH	H-20	VI	2.18	1.72	0.38	0.84	
2917		打製石鏃	CH	G-20	VI	2.46	1.92	0.43	1.39	
2918		打製石鏃	CH	L-18	VI	(2.23)	(1.60)	0.38	0.82	
2919		打製石鏃	CH	J-15	VI	(2.30)	(1.45)	0.25	0.64	
2920		打製石鏃	CH	I-14	VI	(2.34)	(1.33)	0.40	0.70	
2921		打製石鏃	OB2	M-13	VI	(1.62)	(1.83)	0.42	0.83	
2922		打製石鏃	CC1	H-16	VI	(2.37)	(1.46)	0.38	0.82	
2923		打製石鏃	CH	K-16	VI	(2.68)	(1.43)	0.42	0.89	
2924		打製石鏃	CH	E-22	VI	(2.25)	(1.33)	0.35	0.57	
2925		打製石鏃	AN	H-21	VI	2.85	1.80	0.30	0.96	
536	2926	打製石鏃	OB6	I-17	VI	(2.19)	1.69	0.58	1.59	
	2927	打製石鏃	CH	H-20	VI	2.20	1.97	0.65	2.08	

第 87 表 VI層出土石器観察表 (13)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
536	2928	打製石鏃	AN	I-20	VI	2.30	1.80	0.80	2.60	
	2929	打製石鏃	CH	H-22	VI	(2.40)	1.81	0.61	1.80	
	2930	打製石鏃	AN	I-21	VI	2.35	2.00	0.75	2.49	
	2931	打製石鏃	OB3	E-16	VI	(1.90)	2.18	0.78	2.74	
	2932	打製石鏃	OB6	H-22	VI	(2.32)	1.92	0.81	2.31	
	2933	打製石鏃	AN	L-20	VI	2.35	1.65	0.43	1.04	
	2934	打製石鏃	CH	G-20	VI	(2.60)	(1.62)	0.38	1.42	
	2935	打製石鏃	OB4	H-18	VI	(2.17)	(1.57)	0.45	1.00	
	2936	打製石鏃	OB6	G-23	VI	(2.50)	(1.54)	0.50	1.24	
	2937	打製石鏃	AN	L-10	VI	(2.48)	(1.54)	0.52	1.24	
	2938	打製石鏃	OB6	G-20	VI	2.58	1.70	0.53	1.31	
	2939	打製石鏃	AN	F-24	VI	(2.40)	(1.63)	0.52	1.05	
	2940	打製石鏃	CH	K-17	VI	(2.62)	(1.45)	0.33	1.17	
	2941	打製石鏃	CC1	K-21	VI	(2.60)	(1.92)	0.40	0.76	
	2942	打製石鏃	CH	G-22	VI	(2.31)	1.89	0.40	0.86	
	2943	打製石鏃	CH	K-17	VI	(2.44)	(1.57)	0.50	1.27	
	2944	打製石鏃	OB6	F-20	VI	(2.57)	(1.65)	0.41	0.97	
	2945	打製石鏃	CH	J-14	VI	(2.30)	(1.80)	0.30	0.86	
	2946	打製石鏃	CH	J-12	VI	2.40	2.00	0.38	1.42	
	2947	打製石鏃	CH	D-23	VI	(2.47)	(1.80)	0.49	1.58	
	2948	打製石鏃	OB5	I-20	VI	(2.68)	(1.65)	0.38	1.00	
	2949	打製石鏃	OB1	F-16	VI	(2.57)	(1.90)	0.44	1.36	
	537	2950	打製石鏃	CH	G-17	VI	(2.40)	(1.39)	0.35	0.67
		2951	打製石鏃	AN	I-21	VI	(2.55)	(1.58)	0.52	1.02
2952		打製石鏃	OB1	E-24	VI	(2.65)	(1.47)	0.54	1.31	
2953		打製石鏃	CH	G-23	VI	(2.85)	(1.68)	0.40	1.30	
2954		打製石鏃	AN	H-13	VI	(2.82)	(1.66)	0.44	1.29	
2955		打製石鏃	AN	G-14	VI上	(2.43)	(1.56)	0.50	0.90	
2956		打製石鏃	OB1	J-21	VI	(2.73)	(1.44)	0.58	1.40	
2957		打製石鏃	AN	L-16	VI	2.87	1.68	0.46	1.50	
2958		打製石鏃	OB1	E-21	VI	(2.83)	(1.95)	0.62	2.01	
2959		打製石鏃	CH	I-15	VI	(2.80)	(1.88)	0.47	1.48	
2960		打製石鏃	CH	F-17	VI	2.86	1.88	0.40	1.73	
2961		打製石鏃	CH	F-14	VI上	(3.05)	(1.48)	0.45	1.39	
2962	打製石鏃	SH	K-18	VI	(3.07)	(2.36)	0.60	2.67		
538	2963	打製石鏃	OB6	E-23	VI	(1.75)	1.47	0.40	0.85	
	2964	打製石鏃	AN	L-14	VI	1.85	1.44	0.32	0.64	
	2965	打製石鏃	OB7	J-14	VI	1.72	1.45	0.40	0.76	
	2966	打製石鏃	OB6	J-13	VI	1.88	1.50	0.42	0.67	
	2967	打製石鏃	OB7	M-19	VI上	1.95	1.42	0.53	0.89	
	2968	打製石鏃	OB7	F-23	VI	(2.00)	(1.51)	0.49	0.93	
	2969	打製石鏃	AN	M-13	VI	(2.13)	(1.62)	0.45	0.95	
	2970	打製石鏃	OB7	K-13	VI	2.18	1.60	0.42	1.04	
	2971	打製石鏃	AN	J-19	VI	2.10	1.40	0.40	1.04	
	2972	打製石鏃	AN	J-21	VI	2.50	1.75	0.60	1.93	
	2973	打製石鏃	AN	K-19	VI	(2.37)	1.80	0.54	1.56	
	2974	打製石鏃	OB7	J-12	VI	2.53	1.58	0.54	1.40	
	2975	打製石鏃	OB7	K-12	VI	2.70	2.03	0.55	2.33	
	2976	打製石鏃	OB6	G-21	VI	(1.76)	(1.10)	0.38	0.48	
	2977	打製石鏃	CH	J-23	VI	1.75	1.25	0.35	0.60	
	2978	打製石鏃	OB6	L-9	VI	(1.90)	(1.55)	0.25	0.63	
	2979	打製石鏃	OB2	J-21	VI	1.93	1.47	0.45	0.88	
	2980	打製石鏃	OB5	I-21	VI	1.85	1.55	0.40	0.73	
	2981	打製石鏃	OB6	G-3	VI	(2.05)	(1.69)	0.34	0.72	
	2982	打製石鏃	OB5	D-19	VI	(1.75)	(0.87)	0.34	0.27	

第 88 表 VI層出土石器観察表 (14)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
538	2983	打製石鏃	AN	J-17	VI	(2.04)	(1.49)	0.45	0.75	
	2984	打製石鏃	OB6	G-23	VI	(2.44)	(1.50)	0.57	1.08	
	2985	打製石鏃	AN	K-15	VI	(2.46)	(1.53)	0.45	1.23	
	2986	打製石鏃	AN	D-20	VI	(2.27)	(1.34)	0.35	0.66	
	2987	打製石鏃	OB8	F-23	VI	(2.48)	(1.27)	0.32	0.55	
	2988	打製石鏃	CH	J-19	VI	(2.35)	(1.70)	0.40	0.69	
	2989	打製石鏃	AN	I-20	VI	(2.44)	(1.43)	0.35	0.59	
	2990	打製石鏃	OB5	N-17	VI	(2.54)	(1.46)	0.30	0.66	
	2991	打製石鏃	OB6	L-14	VI	(2.48)	(1.65)	0.30	0.84	
	2992	打製石鏃	AN	I-21	VI	(1.58)	(1.44)	0.44	0.87	
	2993	打製石鏃	AN	K-18	VI	(2.37)	(1.75)	0.40	0.87	
	539	2994	打製石鏃	OB7	G-23	VI	(2.62)	(1.70)	0.35	0.89
		2995	打製石鏃	AN	N-20	VI	(2.94)	(1.40)	0.52	1.38
		2996	打製石鏃	OB7	M-19	VI	3.00	1.70	0.40	1.06
		2997	打製石鏃	CH	I-17	VI	(3.02)	(1.98)	0.50	1.43
		2998	打製石鏃	AN	E-23	VI	3.06	1.79	0.52	1.78
		2999	打製石鏃	AN	L-16	VI	(3.14)	(1.83)	0.50	1.33
		3000	打製石鏃	CH	H-15	VI下	(3.17)	(1.96)	0.55	1.91
		3001	打製石鏃	AN	F-22	VI	(3.20)	2.05	0.55	2.02
3002		打製石鏃	SH	J-21	VI	(2.55)	(1.93)	0.40	1.79	
3003		打製石鏃	AN	E-14	VI	4.30	2.05	0.50	3.51	
3004		打製石鏃	AN	I-23	VI	(4.10)	(2.10)	0.55	4.30	
3005		打製石鏃	AN	G-22	VI	(1.19)	(1.69)	0.27	0.26	
3006		打製石鏃	OB3	F-23	VI	(1.33)	(1.80)	0.45	0.70	
3007		打製石鏃	OB1	H-20	VI	(1.22)	(1.15)	0.38	0.33	
3008		打製石鏃	OB5	N-21	VI	(1.17)	(1.04)	0.34	0.31	
3009		打製石鏃	OB1	N-20	VI	(1.30)	(1.25)	0.30	0.37	
3010		打製石鏃	CH	L-15	VI	(1.25)	(1.07)	0.28	0.34	
3011		打製石鏃	OB2	L-11	VI	(1.50)	(1.05)	0.25	0.29	
3012		打製石鏃	OB7	I-18	VI	(1.47)	(1.02)	0.37	0.36	
3013	打製石鏃	OB6	L-15	VI	(1.48)	(1.16)	0.24	0.30		
3014	打製石鏃	AN	E-13	VI	(1.45)	(1.32)	0.39	0.55		
3015	打製石鏃	AN	F-18	VI	(1.85)	(1.28)	0.34	0.59		
3016	打製石鏃	OB6	J-20	VI	(1.33)	(1.56)	0.53	0.70		
3017	打製石鏃	CH	C-25	VI	(1.40)	(1.55)	0.32	0.69		
3018	打製石鏃	OB5	G-20	VI	(1.87)	(1.70)	0.45	0.81		
3019	打製石鏃	AN	G-16	VI	(1.48)	(1.29)	0.37	0.65		
3020	打製石鏃	AN	M-19	VI上	(1.65)	(1.40)	0.40	0.82		
3021	打製石鏃	OB6	I-21	VI	(1.72)	(1.25)	0.40	0.70		
3022	打製石鏃	CH	K-16	VI	(2.65)	(1.37)	0.35	0.61		
3023	打製石鏃	SH	H-21	VI	(1.84)	(1.32)	0.40	0.62		
3024	打製石鏃	OB6	J-20	VI	(1.74)	(1.28)	0.43	0.71		
3025	打製石鏃	CH	J-13	VI	(1.75)	(1.62)	0.30	0.79		
3026	打製石鏃	OB6	F-23	VI	(1.79)	(1.25)	0.35	0.73		
3027	打製石鏃	OB6	K-23	VI	(1.50)	(1.65)	0.35	0.85		
3028	打製石鏃	CH	L-18	VI	(1.90)	(1.60)	0.25	0.77		
3029	打製石鏃	OB1	D-19	VI	(1.97)	(1.50)	0.44	0.84		
3030	打製石鏃	OB7	G-22	VI	(1.95)	(1.53)	0.43	0.89		
3031	打製石鏃	CH	K-14	VI	(2.14)	(1.30)	0.45	0.70		
3032	打製石鏃	OB4	L-16	VI	(2.04)	(1.31)	0.37	0.55		
3033	打製石鏃	OB5	I-21	VI	(2.10)	1.40	0.50	0.65		
3034	打製石鏃	CH	F-19	VI	(2.04)	(1.54)	0.48	1.30		
3035	打製石鏃	OB2	K-21	VI	2.20	(1.20)	0.55	0.98		
3036	打製石鏃	CH	K-17	VI	(2.20)	(1.37)	0.35	0.95		
3037	打製石鏃	SH	M-20	VI	(2.42)	(1.70)	0.32	0.99		

第 89 表 VI層出土石器観察表 (15)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
540	3038	打製石鏃	AN	L-20	VI	(1.76)	(1.14)	0.34	0.43	
	3039	打製石鏃	AN	F-19	VI	(1.98)	(1.30)	0.36	0.56	
	3040	打製石鏃	CH	K-17	VI	(1.70)	(1.54)	0.30	0.53	
	3041	打製石鏃	AN	D-25	VI	(1.90)	(1.38)	0.42	0.69	
	3042	打製石鏃	CH	J-15	VI	(2.02)	(1.78)	0.40	1.09	
	3043	打製石鏃	AN	E-22	VI	(2.23)	(1.49)	0.55	0.86	
	3044	打製石鏃	AN	K-19	VI	(2.30)	(1.18)	0.34	0.64	
3045	打製石鏃	CH	K-17	VI	(1.85)	(1.17)	0.30	0.50		
541	3046	打製石鏃	CH	F-21	VI	(1.67)	(1.28)	0.30	0.32	
	3047	打製石鏃	CH	K-16	VI	(1.70)	(1.18)	0.35	0.55	
	3048	打製石鏃	OB6	J-20	VI	(1.29)	(1.38)	0.32	0.50	
	3049	打製石鏃	AN	G-23	VI	(1.33)	(1.57)	0.45	0.60	
	3050	打製石鏃	AN	H-16	VI	(1.94)	(1.41)	0.38	0.66	
	3051	打製石鏃	OB6	J-21	VI	(2.22)	(1.25)	0.50	1.05	
	3052	打製石鏃	AN	I-22	VI	(2.25)	(1.42)	0.46	0.88	
	3053	打製石鏃	AN	D-20	VI	(2.16)	(1.37)	0.50	1.04	
	3054	打製石鏃	CH	K-20	VI	(2.36)	(1.50)	0.47	0.92	
	3055	打製石鏃	AN	G-18	VI	(2.16)	(1.42)	0.43	1.11	
	3056	打製石鏃	OB5	G-17	VI	(2.30)	(1.67)	0.52	1.21	
	3057	打製石鏃	CH	M-9	VI	(2.40)	(1.49)	0.43	1.17	
	3058	打製石鏃	CH	I-21	VI	(2.36)	(1.44)	0.56	1.41	
	3059	打製石鏃	OB1	I-18	VI	(2.53)	(1.57)	0.47	0.94	
	3060	打製石鏃	AN	I-21	VI	(2.65)	(1.66)	0.65	1.66	
	3061	打製石鏃	OB7	H-19	VI	(2.00)	(1.78)	0.55	1.16	
	3062	打製石鏃	OB6	I-19	VI	(2.42)	(1.82)	0.45	1.33	
	3063	打製石鏃	CH	K-18	VI	(2.40)	(1.65)	0.32	1.13	
	3064	打製石鏃	OB2	G-21	VI	(1.80)	(1.98)	0.80	1.59	
	3065	打製石鏃	CH	E-17	VI	(1.65)	(2.06)	0.51	1.64	
	3066	打製石鏃	CR	J-18	VI	(2.53)	(1.43)	0.41	0.96	
	3067	打製石鏃	CH	N-18	VI	(2.73)	(1.65)	0.33	0.63	
	3068	打製石鏃	CH	L-18	VI	(2.87)	(1.38)	0.39	1.23	
	3069	打製石鏃	AN	I-20	VI	(2.83)	(1.86)	0.52	1.01	
	3070	打製石鏃	AN	H-21	VI	(3.29)	(1.54)	0.61	2.17	
	3071	打製石鏃	CH	K-12	VI	(3.58)	(1.94)	0.50	1.79	
	3072	打製石鏃	AN	I-18	VI	(2.93)	(1.75)	0.30	1.34	
	3073	打製石鏃	CH	L-14	VI	(2.85)	(1.35)	0.45	2.24	
	542	3074	打製石鏃	OB2	G-20	VI	1.22	0.87	0.23	0.18
		3075	打製石鏃	CH	H-13	VI	1.28	1.10	0.23	0.24
		3076	打製石鏃	CR	I-20	VI	1.45	1.34	0.40	0.63
		3077	打製石鏃	AN	I-21	VI	1.53	1.03	0.35	0.59
		3078	打製石鏃	AN	L-20	VI	1.60	1.10	0.32	0.49
3079		打製石鏃	OB6	H-21	VI	(1.74)	(1.20)	0.46	0.56	
3080		打製石鏃	OB6	J-21	VI	1.60	1.30	0.38	0.62	
3081		打製石鏃	CH	K-16	VI	1.53	1.44	0.24	0.44	
3082		打製石鏃	AN	K-18	VI	1.53	1.54	0.25	0.42	
3083		打製石鏃	AN	M-17	VI	1.53	1.48	0.28	0.60	
3084		打製石鏃	OB7	J-21	VI	(1.65)	(1.48)	0.28	0.62	
3085		打製石鏃	CH	F-22	VI	1.82	1.60	0.42	0.93	
3086		打製石鏃	OB8	J-21	VI	(1.70)	(1.50)	0.55	0.77	
3087		打製石鏃	SH	G-20	VI	(1.67)	(1.70)	0.45	1.02	
3088		打製石鏃	AN	H-21	VI	1.70	1.10	0.30	0.74	
3089		打製石鏃	AN	K-21	VI	1.77	1.34	0.47	0.91	
3090		打製石鏃	AN	D-24	VI	1.75	1.20	0.30	0.56	
3091		打製石鏃	AN	H-22	VI	(1.85)	1.28	0.23	0.42	
3092		打製石鏃	AN	M-17	VI	(1.77)	1.42	0.30	0.55	

第 90 表 VI層出土石器観察表 (16)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
542	3093	打製石鏃	AN	C-26	VI	1.92	1.37	0.31	0.51	
	3094	打製石鏃	AN	K-20	VI	1.85	1.36	0.43	0.96	
	3095	打製石鏃	AN	I-24	VI	1.88	1.36	0.41	0.91	
	3096	打製石鏃	AN	F-21	VI	(1.68)	(1.34)	0.47	0.86	
	3097	打製石鏃	AN	E-19	VI	(1.73)	(1.38)	0.47	0.65	
	3098	打製石鏃	CH	H-22	VI	(1.82)	(1.62)	0.34	0.62	
	3099	打製石鏃	OB6	I-18	VI	(1.70)	(1.52)	0.55	1.28	
	3100	打製石鏃	CH	H-20	VI	(1.79)	1.43	0.33	0.76	
	3101	打製石鏃	AN	K-19	VI	(1.89)	1.52	0.31	0.66	
	3102	打製石鏃	CC2	I-19	VI	2.07	1.21	0.51	0.98	
	3103	打製石鏃	OB2	I-21	VI	(2.05)	(1.15)	0.38	0.83	
	3104	打製石鏃	CH	D-23	VI	2.17	1.33	0.33	0.57	
	3105	打製石鏃	AN	I-22	VI	(2.00)	(1.30)	0.48	0.95	
	3106	打製石鏃	AN	K-20	VI	2.06	1.40	0.43	1.16	
	3107	打製石鏃	AN	N-20	VI	2.05	1.40	0.48	1.09	
	3108	打製石鏃	SH	L-16	VI	2.22	1.35	0.60	1.55	
	3109	打製石鏃	AN	I-23	VI	(2.25)	(1.42)	0.38	0.78	
	3110	打製石鏃	AN	J-22	VI	(2.19)	(1.45)	0.36	1.15	
	3111	打製石鏃	AN	H-23	VI	(2.18)	(1.26)	0.42	0.83	
	3112	打製石鏃	AN	F-15	VI	(2.28)	1.40	0.40	0.94	
	3113	打製石鏃	OB6	E-22	VI	(2.15)	(1.40)	0.20	0.73	
	3114	打製石鏃	SH	M-17	VI下	(1.82)	(1.68)	0.37	0.68	
	543	3115	打製石鏃	AN	I-18	VI	(1.73)	(1.73)	0.42	0.87
		3116	打製石鏃	AN	N-20	VI	(1.90)	(1.50)	0.32	0.87
		3117	打製石鏃	AN	I-19	VI	(2.15)	(1.47)	0.40	0.87
		3118	打製石鏃	CH	I-15	VI	1.95	1.75	0.30	0.86
		3119	打製石鏃	OB3	G-22	VI	(1.96)	1.83	0.42	0.85
		3120	打製石鏃	CH	M-20	VI	2.20	1.95	0.43	1.31
		3121	打製石鏃	AN	G-5	VI上	(2.26)	(1.63)	0.27	0.89
		3122	打製石鏃	OB2	I-22	VI	(1.64)	(2.03)	0.53	1.26
		3123	打製石鏃	AN	F-23	VI	(2.00)	(1.95)	0.45	1.01
		3124	打製石鏃	CH	K-17	VI	(2.13)	(1.69)	0.35	0.78
		3125	打製石鏃	SH	K-17	VI	(2.20)	(1.85)	0.38	1.22
		3126	打製石鏃	CH	J-17	VI	2.36	1.79	0.53	1.61
		3127	打製石鏃	AN	L-19	VI	(2.25)	(1.82)	0.32	1.13
		3128	打製石鏃	AN	H-22	VI	2.40	1.70	0.45	1.84
		3129	打製石鏃	CC1	L-10	VI	(2.00)	1.87	0.63	1.95
		3130	打製石鏃	CC3	F-23	VI	2.30	2.00	0.48	1.44
		3131	打製石鏃	OB6	I-21	VI	(2.60)	(1.70)	0.25	1.17
		3132	打製石鏃	AN	I-22	VI	2.78	1.80	0.53	1.57
		3133	打製石鏃	AN	H-19	VI	(2.63)	(1.40)	0.45	1.12
		3134	打製石鏃	AN	J-15	VI	2.50	1.82	0.32	0.96
		3135	打製石鏃	CH	G-18	VI	2.63	(1.87)	0.53	1.98
		3136	打製石鏃	SH	K-15	VI	2.69	1.57	0.63	2.68
		3137	打製石鏃	SH	G-13	VI	2.69	1.57	0.65	1.70
		3138	打製石鏃	AN	J-21	VI	(2.77)	(1.73)	0.63	2.23
		3139	打製石鏃	AN	M-18	VI	3.00	1.64	0.45	1.70
3140		打製石鏃	CH	L-20	VI	(2.35)	(1.99)	0.49	2.11	
3141		打製石鏃	SH	K-17	VI	2.50	2.10	0.60	2.71	
544		3142	打製石鏃	AN	J-14	VI	2.42	2.00	0.39	1.54
		3143	打製石鏃	OB6	J-21	VI	2.50	2.06	0.57	1.86
		3144	打製石鏃	AN	F-17	VI	2.57	2.02	0.64	2.30
		3145	打製石鏃	AN	H-21	VI	2.66	1.99	0.44	1.31
		3146	打製石鏃	AN	J-19	VI	(1.58)	2.10	0.42	1.36
		3147	打製石鏃	OB7	K-16	VI	(2.12)	(2.25)	0.69	2.12

第 91 表 VI層出土石器観察表 (17)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
544	3148	打製石鏃	OB6	L-21	VI	(0.87)	2.17	0.68	0.79	
	3149	打製石鏃	CH	K-18	VI	2.29	2.40	0.55	2.49	
	3150	打製石鏃	CH	I-17	VI	(1.87)	2.55	0.50	2.58	
	3151	打製石鏃	SH	K-17	VI	2.51	2.06	0.47	2.19	
	3152	打製石鏃	AN	G-22	VI	(2.79)	(1.91)	0.33	1.15	
	3153	打製石鏃	CH	H-20	VI	(2.75)	(2.18)	0.35	1.92	
	3154	打製石鏃	OB6	G-22	VI	2.50	2.45	0.76	3.16	
	3155	打製石鏃	AN	I-21	VI	2.71	2.33	0.58	2.90	
	3156	打製石鏃	SH	L-14	VI	(2.83)	(2.13)	0.54	2.57	
	3157	打製石鏃	AN	K-14	VI	3.08	2.87	0.70	4.69	
	3158	打製石鏃	OB7	J-15	VI	2.71	2.31	0.70	2.80	
	3159	打製石鏃	CH	K-15	VI	(3.02)	(2.15)	0.38	3.34	
	545	3160	打製石鏃	AN	J-21	VI	3.10	(2.75)	0.85	5.15
		3161	打製石鏃	CH	K-15	VI	(3.28)	(2.34)	0.48	2.94
3162		打製石鏃	OB4	D-19	VI	(2.77)	(1.37)	0.32	1.10	
3163		打製石鏃	OB6	H-22	VI	(3.74)	(2.43)	0.92	4.18	
3164		打製石鏃	AN	J-20	VI	4.06	2.12	0.70	5.15	
3165		打製石鏃	CH	J-17	VI	(3.78)	(1.56)	0.60	3.28	
546	3166	打製石鏃	CH	K-16	VI	3.75	2.87	0.50	5.78	
	3167	打製石鏃	CC3	K-17	VI	(1.40)	(1.28)	0.42	0.46	
	3168	打製石鏃	OB1	H-22	VI	1.65	1.25	0.60	1.12	
	3169	打製石鏃	OB8	E-24	VI	1.60	1.45	0.60	1.12	
	3170	打製石鏃	CH	M-12	VI	(1.52)	1.50	0.61	1.17	
	3171	打製石鏃	CH	E-24	VI	1.81	1.50	0.41	1.09	
	3172	打製石鏃	OB3	E-21	VI	1.93	1.53	0.64	1.34	
	3173	打製石鏃	OB7	F-13	VI	(1.60)	(1.78)	0.53	1.12	
	3174	打製石鏃	AN	C-25	VI	(1.68)	1.94	0.48	1.39	
	3175	打製石鏃	CH	M-17	VI下	1.96	1.82	0.57	2.08	
	3176	打製石鏃	SH	F-24	VI	(1.68)	(1.48)	0.60	0.99	
	3177	打製石鏃	OB6	H-20	VI	2.02	1.56	0.67	1.56	
	3178	打製石鏃	OB6	H-21	VI	2.12	1.60	0.80	1.66	
	3179	打製石鏃	CH	L-11	VI	2.05	1.95	0.90	3.27	
	3180	打製石鏃	SH	I-19	VI	2.04	1.84	0.62	1.68	
	3181	打製石鏃	CH	I-13	VI	2.18	1.80	0.65	2.43	
	3182	打製石鏃	OB1	J-23	VI下	2.18	1.90	0.76	2.93	
	3183	打製石鏃	OB5	K-10	VI	2.25	1.85	0.65	2.39	
	3184	打製石鏃	AN	I-21	VI	2.27	1.98	0.88	3.21	
	3185	打製石鏃	AN	H-21	VI	(2.30)	0.60	0.66	2.13	
3186	打製石鏃	OB3	G-21	VI	(2.35)	(1.30)	0.75	1.44		
3187	打製石鏃	SH	F-13	VI	(2.25)	(1.93)	1.05	3.19		
3188	打製石鏃	CH	H-22	VI	2.44	1.87	0.84	3.53		
3189	打製石鏃	SH	D-24	VI	2.14	(2.30)	0.97	2.67		
3190	打製石鏃	OB3	G-21	VI	(2.20)	(1.50)	0.80	1.70		
3191	打製石鏃	OB1	K-20	VI	(2.09)	1.97	1.35	5.15		
3192	打製石鏃	AN	M-17	VI上	(2.10)	1.55	0.65	2.47		
3193	打製石鏃	AN	I-21	VI	(2.38)	1.65	1.20	3.29		
3194	打製石鏃	AN	J-20	VI	(2.60)	1.63	0.88	2.79		
3195	打製石鏃	SH	J-22	VI	2.40	2.20	1.00	2.99		
547	3196	打製石鏃	AN	H-22	VI	(2.08)	(2.10)	0.70	2.89	
	3197	打製石鏃	AN	J-22	VI	2.40	2.15	0.75	3.08	
	3198	打製石鏃	CH	E-16	VI	2.61	1.94	0.85	4.24	
	3199	打製石鏃	CH	E-18	VI	(2.43)	2.10	0.93	3.38	
	3200	打製石鏃	CH	H-16	VI	2.58	2.08	0.69	3.31	
	3201	打製石鏃	CH	D-18	VI	2.54	2.51	0.95	5.14	
	3202	打製石鏃	AN	N-20	VI	2.68	2.13	1.10	4.51	

第 92 表 VI層出土石器観察表 (18)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
547	3203	打製石鏃	SH	F-13	VI上	2.44	2.98	1.33	5.03	
	3204	打製石鏃	AN	K-21	VI	(3.05)	1.68	0.97	3.84	
	3205	打製石鏃	AN	G-24	VI	(2.75)	2.00	0.80	3.28	
	3206	打製石鏃	AN	F-20	VI	(2.60)	(2.00)	0.85	4.90	
	3207	打製石鏃	SH	G-22	VI	(1.75)	2.20	0.85	3.52	
	3208	打製石鏃	CH	K-17	VI	(2.76)	(2.10)	0.80	4.40	
	3209	打製石鏃	AN	I-21	VI	(2.87)	1.97	0.73	2.82	
	3210	打製石鏃	SH	N-15	VI	2.96	2.27	0.85	4.27	
	548	3211	打製石鏃	AN	K-21	VI	3.15	2.28	0.90	5.78
		3212	打製石鏃	SH	J-15	VI	3.20	2.37	0.80	5.63
		3213	打製石鏃	SH	E-20	VI	3.24	2.58	0.85	4.45
		3214	打製石鏃	CH	K-16	VI	3.30	2.30	0.90	5.64
		3215	打製石鏃	CH	H-20	VI	3.41	2.57	1.33	8.30
		3216	打製石鏃	CH	H-20	VI	3.66	2.62	1.30	9.63
3217		打製石鏃	AN	G-22	VI	3.58	2.28	1.20	8.07	
3218		打製石鏃	OB6	L-19	VI	3.25	2.48	1.03	6.33	
3219		打製石鏃	CH	L-14	VI	3.50	2.90	1.33	10.21	
3220		打製石鏃	AN	J-18	VI	3.82	2.80	0.90	8.21	
3221		打製石鏃	SH	K-13	VI	4.05	3.08	1.12	11.97	
549		3222	磨製石鏃	SH	E-15	VI	1.88	1.52	0.14	0.57
	3223	磨製石鏃	AN	I-23	VI	2.45	1.58	0.30	1.17	
	3224	石槍	AN	I-22	VI	(3.90)	2.00	1.09	6.04	
	3225	石槍	AN	F-24	VI	(9.25)	(3.60)	0.98	33.91	
	3226	石槍	SH	I-18	VI	(10.43)	4.20	0.76	36.86	
	3227	石錐	OB3	G-20	VI	2.50	1.30	0.89	2.15	
	3228	石錐	OB6	J-20	VI	2.50	1.72	0.67	1.52	
	3229	石錐	OB6	K-19	VI	2.03	2.16	0.49	1.53	
	3230	石錐	SH	M-19	VI	2.87	1.31	0.75	2.60	
	3231	石錐	AN	L-20	VI	3.10	1.52	0.72	2.16	
	3232	石錐	AN	F-20	VI	(3.43)	(1.77)	0.47	2.09	
	3233	石錐	AN	K-21	VI	4.21	1.80	1.08	5.17	
	550	3234	小型両面加工石器	OB6	I-22	VI	1.60	1.12	0.45	0.68
3235		小型両面加工石器	OB6	F-18	VI	2.31	1.52	0.87	2.42	
3236		小型両面加工石器	CR	I-21	VI	2.21	2.03	0.95	3.64	
3237		小型両面加工石器	CR	I-20	VI	2.10	2.19	0.75	3.69	
3238		小型両面加工石器	CH	K-17	VI	2.52	1.82	0.92	3.90	
3239		小型両面加工石器	AN	L-21	VI	2.80	2.00	0.83	4.31	
3240		小型両面加工石器	CH	G-16	VI	2.24	3.34	1.11	6.27	
3241		小型両面加工石器	AN	N-20	VI	2.30	2.49	1.05	5.69	
3242		小型両面加工石器	CC2	L-14	VI	2.56	3.48	1.08	11.41	
3243		小型両面加工石器	SH	F-24	VI	2.79	2.49	0.80	5.52	
3244		小型両面加工石器	SH	G-21	VI	3.33	3.62	1.33	16.92	
3245		小型両面加工石器	SH	G-16	VI	3.25	3.49	0.90	7.41	
3246	小型両面加工石器	SH	M-16	VI	3.95	3.50	1.54	18.97		
551	3247	石匙	SH	G-13	VI上	1.86	1.88	0.59	0.93	
	3248	石匙	AN	I-23	VI	2.03	1.18	0.48	1.00	
	3249	石匙	AN	I-23	VI	(2.30)	2.00	0.40	1.93	
	3250	石匙	AN	I-20	VI	2.60	2.25	0.67	3.03	
	3251	石匙	AN	K-22	VI	2.97	2.04	0.64	2.95	
	3252	石匙	AN	H-21	VI	3.63	2.73	0.52	5.36	
	3253	石匙	AN	G-14	VI	(3.30)	2.17	0.98	6.41	
	3254	石匙	CC1	I-14	VI	3.68	2.89	0.90	5.24	
	3255	石匙	CH	I-21	VI	4.16	1.77	0.50	2.79	
	3256	石匙	AN	H-18	VI	(4.11)	(2.00)	0.68	3.81	
	3257	石匙	CH	G-22	VI	4.13	2.06	0.88	6.10	

第 93 表 VI層出土石器観察表 (19)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
551	3258	石匙	CH	M-13	VI	4.36	3.33	1.03	11.57
	3259	石匙	AN	F-16	VI	5.50	2.73	0.93	10.69
	3260	石匙	CH	J-16	VI	4.36	3.28	0.89	7.28
552	3261	石匙	AN	J-15	VI	(3.51)	3.42	0.50	5.83
	3262	石匙	AN	H-22	VI	(5.58)	3.72	0.93	21.18
	3263	石匙	AN	K-11	VI	6.70	3.66	1.36	25.98
	3264	石匙	HF	C-25	VI	6.64	3.39	0.92	16.95
	3265	石匙	OB7	F-14	VI	(6.00)	4.01	1.41	22.76
	3266	石匙	SH	I-10	VI	7.12	5.28	0.49	15.66
553	3267	石匙	AN	J-21	VI	2.10	5.20	0.80	5.68
	3268	石匙	AN	N-19	VI上	2.79	(5.60)	0.66	6.52
	3269	石匙	AN	E-22	VI	2.19	(5.90)	0.80	6.47
	3270	石匙	AN	G-21	VI	3.32	7.20	0.70	11.47
	3271	石匙	AN	D-17	VI	2.70	8.00	0.68	9.10
	3272	石匙	AN	I-21	VI	3.10	8.20	0.80	15.53
554	3273	石匙	AN	H-16	VI	3.48	9.07	1.25	22.95
	3274	石匙	AN	D-18	VI	3.50	(9.22)	1.10	22.73
	3275	石匙	AN	H-16	VI	3.87	(10.05)	1.52	42.39
555	3276	石匙	CH	J-12	VI	4.02	7.58	0.97	19.69
	3277	石匙	AN	J-18	VI	2.95	5.35	0.80	5.86
	3278	石匙	AN	L-20	VI	4.83	(6.20)	0.90	17.47
	3279	石匙	AN	H-17	VI	6.88	9.11	1.03	44.64
556	3280	石匙	OB6	I-24	VI	2.65	2.69	0.71	3.82
	3281	石匙	AN	I-21	VI	3.10	3.60	0.50	5.72
	3282	石匙	CH	E-22	VI	3.00	5.10	0.76	9.65
	3283	石匙	CH	H-16	VI	3.46	3.12	0.89	7.17
	3284	石匙	CC3	H-17	VI	3.43	3.74	0.98	9.10
	3285	石匙	AN	E-23	VI	2.98	4.10	0.82	7.45
	3286	石匙	CH	E-24	VI	3.25	(3.33)	1.07	8.22
	3287	石匙	CH	G-18	VI	4.24	4.32	0.88	13.02
	3288	石匙	AN	K-22	VI上	3.77	3.89	0.97	9.12
	3289	石匙	AN	G-22	VI	4.05	4.20	0.85	13.06
557	3290	石匙	AN	E-22	VI	4.42	(4.62)	0.63	12.19
	3291	石匙	AN	F-19	VI	4.79	(4.40)	0.83	14.81
	3292	石匙	AN	L-9	VI下	3.86	(4.67)	1.05	16.01
	3293	石匙	HF	I-8	VI	3.60	5.50	1.00	13.47
	3294	石匙	SH	G-17	VI	4.62	5.02	0.84	14.79
	3295	石匙	CH	E-19	VI	4.93	4.98	1.13	21.90
558	3296	石匙	OB7	J-18	VI	5.10	5.36	1.29	32.12
	3297	石匙	SH	I-21	VI	(4.90)	7.28	0.95	28.08
	3298	石匙	AN	F-21	VI	5.14	7.59	1.73	51.95
559	3299	石匙	AN	L-19	VI	2.70	5.30	0.80	7.51
	3300	石匙	AN	N-18	VI	3.73	(6.07)	1.29	21.02
	3301	石匙	AN	G-22	VI	4.62	(6.78)	1.42	35.26
	3302	石匙	AN	I-19	VI	4.48	(7.55)	1.01	22.12
560	3303	石匙	SH	J-15	VI	3.46	(6.28)	0.68	15.35
	3304	石匙	CH	G-20	VI	4.85	6.54	1.44	31.11
	3305	石匙	AN	E-22	VI	4.45	(7.07)	0.90	20.67
	3306	石匙	AN	G-15	VI	5.57	(8.12)	0.86	28.03
561	3307	石匙	CL	K-11	VI	6.62	10.02	1.37	66.31
	3308	石匙	AN	L-12	VI	(3.33)	(2.86)	0.95	7.64
	3309	石匙	CH	I-20	VI	(2.50)	(1.94)	0.80	3.32
	3310	石匙	AN	E-23	VI	2.16	(5.05)	0.93	9.00
	3311	石匙	AN	I-20	VI	(1.30)	2.60	0.52	1.77
	3312	石匙	AN	I-21	VI	2.30	4.68	0.93	6.74

第 94 表 VI層出土石器観察表 (20)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
562	3313	削器	HF	M-17	VI	2.74	0.93	0.53	2.33	
	3314	削器	SH	M-18	VI上	3.11	1.14	0.73	2.03	
	3315	削器	CH	L-21	VI上	2.07	1.59	0.54	0.95	
	3316	削器	CH	M-18	VI	1.63	2.68	0.55	2.12	
	3317	削器	OB1	K-22	VI	0.90	2.40	0.57	0.98	
	3318	削器	AN	J-23	VI	1.53	(2.92)	0.53	1.68	
	3319	削器	AN	L-18	VI	(1.58)	(2.60)	0.53	1.65	
	3320	削器	AN	L-21	VI	1.67	3.67	0.57	2.43	
	3321	削器	CH	I-23	VI上	1.92	4.04	0.89	4.81	
	3322	削器	HF	L-18	VI	2.41	(4.38)	0.70	6.17	
	3323	削器	AN	M-17	VI	3.96	(4.51)	1.10	13.39	
	3324	削器	CH	G-15	VI	4.77	2.75	1.09	14.04	
	3325	削器	CC2	G-22	VI	3.50	4.18	1.15	15.83	
	3326	削器	OB2	F-20	VI	3.50	3.53	1.30	16.88	
	563	3327	削器	OB6	F-17	VI	3.15	6.08	0.85	15.82
		3328	削器	AN	G-17	VI	3.00	7.30	0.85	17.27
3329		削器	HF	I-20	VI	3.98	6.80	1.15	31.43	
3330		削器	AN	D-21	VI	3.38	(7.07)	1.78	40.21	
564	3331	削器	AN	M-16	VI下	3.02	4.93	1.56	16.91	
	3332	削器	AN	F-23	VI	3.54	6.45	1.13	22.63	
	3333	削器	AN	L-21	VI	3.43	6.68	1.00	26.60	
	3334	削器	AN	H-23	VI	4.00	6.53	1.28	26.06	
565	3335	削器	AN	L-17	VI	(12.65)	(4.85)	1.88	99.40	
	3336	削器	AN	F-22	VI	4.00	10.94	1.95	60.55	
	3337	削器	AN	I-20	VI	1.35	1.05	0.45	0.55	
	3338	削器	OB6	E-22	VI	1.85	1.60	0.55	1.50	
	3339	搔器	OB7	F-22	VI	2.00	1.38	0.66	1.67	
	3340	搔器	CH	L-16	VI	(2.50)	(2.80)	0.65	5.75	
	3341	ツマミ状石器	OB8	G-22	VI	1.93	1.38	0.70	1.54	
	3342	彫器	SH	K-16	VI	5.08	1.78	1.28	7.12	
566	3343	ヘラ状石器	CH	I-21	VI	3.32	2.30	1.29	8.86	
	3344	ヘラ状石器	CH	J-15	VI	4.49	2.68	1.30	15.61	
	3345	ヘラ状石器	AN	J-21	VI	6.48	3.18	1.36	32.44	
	3346	ヘラ状石器	HF	E-20	VI	5.20	3.05	0.57	12.26	
567	3347	ヘラ状石器	AN	K-16	VI	6.92	4.22	1.36	42.24	
	3348	楔形石器	AN	K-19	VI	2.00	1.28	0.46	1.11	
	3349	楔形石器	OB4	H-22	VI	1.77	1.10	1.02	1.66	
	3350	楔形石器	OB3	E-20	VI	2.58	1.07	0.99	2.08	
	3351	楔形石器	AN	G-19	VI	2.63	1.14	0.66	2.29	
	3352	楔形石器	OB8	M-17	VI	2.85	1.27	1.15	3.63	
	3353	楔形石器	AN	K-19	VI	3.45	1.50	0.95	4.84	
	3354	楔形石器	OB3	H-17	VI	2.00	2.18	0.67	2.80	
	3355	楔形石器	CH	F-20	VI	2.38	2.28	1.10	6.02	
	3356	楔形石器	OB1	D-21	VI	2.70	2.00	1.10	6.10	
	3357	楔形石器	CH	F-24	VI	2.43	2.01	0.90	4.14	
	3358	楔形石器	AN	L-20	VI	3.30	2.30	0.90	7.01	
	3359	楔形石器	OB1	J-17	VI	2.95	2.55	1.40	8.31	
	3360	楔形石器	AN	E-22	VI	3.00	2.25	1.35	8.62	
568	3361	楔形石器	CH	L-15	VI	3.02	2.67	1.12	9.15	
	3362	楔形石器	OB6	K-22	VI	3.51	2.30	1.37	8.94	
	3363	二次加工剥片	CH	I-18	VI	1.22	1.00	0.40	0.45	
	3364	二次加工剥片	OB6	F-16	VI	(1.30)	1.39	0.27	0.58	
	3365	二次加工剥片	OB6	K-18	VI	1.65	1.20	0.45	0.92	
	3366	二次加工剥片	AN	G-21	VI	1.91	1.34	0.34	0.98	
	3367	二次加工剥片	AN	H-19	VI	1.78	1.35	0.46	1.00	

第 95 表 VI層出土石器観察表 (21)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
568	3368	二次加工剥片	AN	I-20	VI	1.80	1.60	0.70	1.35
	3369	二次加工剥片	OB2	F-21	VI	1.85	1.80	0.65	2.14
	3370	二次加工剥片	OB3	I-22	VI	2.10	1.15	1.05	2.27
	3371	二次加工剥片	OB3	G-19	VI	2.10	1.20	0.75	1.86
	3372	二次加工剥片	OB2	F-22	VI	2.05	1.40	0.80	1.93
	3373	二次加工剥片	OB2	E-20	VI	2.00	1.60	0.70	1.72
	3374	二次加工剥片	CH	M-19	VI	(1.75)	(1.35)	0.55	0.94
	3375	二次加工剥片	OB3	E-22	VI	1.45	2.05	0.70	1.68
	3376	二次加工剥片	OB7	F-18	VI	1.90	1.50	0.60	1.31
	3377	二次加工剥片	AN	I-21	VI	1.83	1.93	0.58	1.62
	3378	二次加工剥片	AN	G-18	VI	(2.15)	(1.80)	0.20	0.88
	3379	二次加工剥片	OB6	G-21	VI	(1.85)	(1.80)	0.35	0.92
	3380	二次加工剥片	AN	E-23	VI	(2.19)	(1.57)	0.49	1.14
	3381	二次加工剥片	OB6	L-10	VI上	1.80	1.70	0.45	1.30
	3382	二次加工剥片	AN	J-21	VI	(1.62)	(1.76)	0.42	1.12
	3383	二次加工剥片	OB1	K-17	VI	(1.58)	(1.94)	0.47	1.65
	3384	二次加工剥片	OB6	G-21	VI	2.20	2.10	0.47	0.94
	3385	二次加工剥片	AN	N-17	VI	(2.11)	(1.77)	0.80	3.40
	3386	二次加工剥片	OB6	I-22	VI	(2.04)	(1.52)	0.40	0.94
	3387	二次加工剥片	OB7	G-20	VI	1.25	(2.20)	0.50	1.02
	3388	二次加工剥片	AN	J-21	VI	(2.15)	2.10	0.60	2.18
	3389	二次加工剥片	AN	H-21	VI	2.20	2.14	0.66	3.00
	3390	二次加工剥片	AN	M-18	VI	2.24	1.45	0.55	1.94
	3391	二次加工剥片	AN	J-21	VI	(1.93)	(2.55)	0.60	2.27
	3392	二次加工剥片	AN	I-21	VI	(2.96)	2.31	0.41	2.64
	3393	二次加工剥片	OB5	J-22	VI	2.66	2.28	0.63	3.94
	3394	二次加工剥片	AN	J-20	VI	2.22	2.61	0.48	2.03
	3395	二次加工剥片	OB7	K-18	VI	2.35	2.35	0.50	2.07
	3396	二次加工剥片	AN	K-20	VI	(2.55)	(1.00)	0.35	0.90
	3397	二次加工剥片	CH	I-23	VI	2.50	1.50	0.36	1.20
	3398	二次加工剥片	OB2	J-21	VI	2.79	1.75	0.76	2.71
	3399	二次加工剥片	AN	E-23	VI	3.38	1.66	0.59	3.18
	3400	二次加工剥片	AN	H-20	VI	2.90	1.33	0.65	2.72
3401	二次加工剥片	CH	K-20	VI	2.80	1.60	0.60	3.03	
3402	二次加工剥片	SH	N-16	VI	2.18	1.62	0.65	1.75	
3403	二次加工剥片	OB7	G-19	VI	2.40	1.90	0.80	3.00	
3404	二次加工剥片	OB8	E-21	VI	2.60	1.90	0.47	1.53	
3405	二次加工剥片	CH	M-21	VI上	2.35	1.85	0.30	1.48	
3406	二次加工剥片	SH	K-16	VI	2.44	1.63	0.66	2.89	
3407	二次加工剥片	AN	K-19	VI	2.32	1.76	0.73	3.47	
3408	二次加工剥片	OB6	K-12	VI	(2.30)	(1.65)	0.35	1.03	
3409	二次加工剥片	AN	I-19	VI	3.06	1.72	1.25	6.98	
3410	二次加工剥片	AN	I-17	VI	2.60	3.10	0.83	5.30	
3411	二次加工剥片	AN	H-21	VI	2.75	2.30	1.20	7.11	
3412	二次加工剥片	HF	F-24	VI	3.13	2.06	0.73	5.30	
3413	二次加工剥片	OB6	I-23	VI	2.10	3.55	1.10	6.00	
3414	二次加工剥片	OB1	E-17	VI	2.40	3.30	0.94	7.96	
3415	二次加工剥片	OB6	I-21	VI	2.35	4.15	1.00	9.00	
3416	二次加工剥片	AN	L-20	VI	2.82	2.33	0.95	5.89	
3417	二次加工剥片	AN	D-23	VI	(2.06)	(2.90)	0.95	5.75	
3418	二次加工剥片	CH	I-18	VI	1.95	3.05	0.45	3.42	
3419	二次加工剥片	OB6	F-23	VI	2.30	2.76	1.16	5.48	
3420	二次加工剥片	AN	I-21	VI	3.06	2.23	0.76	4.00	
3421	二次加工剥片	AN	F-13	VI下	(2.18)	(2.62)	1.06	5.93	
3422	二次加工剥片	CH	D-24	VI	(2.74)	(3.02)	0.82	6.84	

第 96 表 VI層出土石器観察表 (22)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	
570	3423	二次加工剥片	AN	G-22	VI	4.10	1.23	0.60	2.18	
	3424	二次加工剥片	AN	E-22	VI	(3.48)	(2.28)	1.25	7.65	
	3425	二次加工剥片	CH	K-16	VI	2.60	3.00	0.95	6.68	
	3426	二次加工剥片	AN	H-21	VI	3.12	2.80	1.00	8.35	
	3427	二次加工剥片	CH	I-19	VI	2.75	2.92	1.30	9.57	
	3428	二次加工剥片	AN	E-21	VI	2.97	2.15	0.68	5.66	
	3429	二次加工剥片	AN	I-18	VI	(2.76)	(3.01)	0.80	5.18	
	3430	二次加工剥片	OB7	D-18	VI	2.82	2.92	0.94	5.47	
	3431	二次加工剥片	AN	I-16	VI	(3.13)	(3.88)	0.82	6.15	
	3432	二次加工剥片	CH	E-23	VI	(3.37)	(3.46)	1.00	10.56	
	3433	二次加工剥片	AN	F-21	VI	2.88	2.53	1.00	4.97	
	3434	二次加工剥片	AN	J-20	VI	3.95	2.50	1.20	9.28	
	3435	二次加工剥片	CH	N-13	VI	3.84	2.81	1.20	11.25	
571	3436	二次加工剥片	SH	M-21	VI下	(3.89)	(2.65)	0.61	5.99	
	3437	二次加工剥片	CH	N-16	VI	3.67	3.21	1.52	18.04	
	3438	二次加工剥片	CC2	J-15	VI	3.62	2.59	1.35	12.46	
	3439	二次加工剥片	CH	G-21	VI	3.00	4.85	1.30	15.19	
	3440	二次加工剥片	AN	L-20	VI	(3.90)	(3.56)	0.93	14.23	
	3441	二次加工剥片	SH	K-21	VI	3.02	3.60	1.40	14.92	
	3442	二次加工剥片	CH	H-7	VI下	3.58	5.20	1.10	17.60	
	3443	二次加工剥片	AN	E-20	VI	5.22	2.18	0.97	10.95	
	3444	二次加工剥片	AN	G-22	VI	4.45	3.37	1.56	20.90	
	3445	二次加工剥片	AN	J-22	VI	5.05	4.00	1.25	25.53	
	3446	二次加工剥片	HF	K-19	VI	7.28	4.13	2.02	56.47	
	3447	二次加工剥片	CH	H-4	VI上	(8.08)	(5.58)	1.70	78.16	
	3448	二次加工剥片	SH	J-15	VI	4.33	3.11	1.42	21.56	
572	3449	二次加工剥片	SH	I-22	VI	6.32	2.56	1.37	22.89	
	3450	二次加工剥片	SH	F-17	VI	10.82	3.46	1.63	57.92	
	3451	二次加工剥片	CH	E-19	VI	6.84	(7.10)	1.50	46.78	
	3452	二次加工剥片	AN	G-21	VI	(4.05)	2.59	1.18	12.16	
	3453	二次加工剥片	AN	G-18	VI	5.15	3.85	1.05	30.75	
	3454	二次加工剥片	AN	I-20	VI	6.06	8.07	2.70	104.43	
	3455	二次加工剥片	AN	I-22	VI	6.93	7.46	1.85	95.09	
573	3456	礫器	AN	J-16	VI	(8.40)	(4.00)	1.90	71.48	
	3457	礫器	AN	I-24	VI	8.87	(7.68)	1.91	134.90	
	3458	礫器	AN	L-16	VI	9.92	7.52	3.04	301.17	
	3459	礫器	AN	H-18	VI	10.73	7.68	2.45	233.63	
	3460	礫器	SH	G-19	VI	13.60	3.92	3.10	178.80	
	3461	礫器	HF	I-17	VI	8.20	10.98	3.63	343.42	
	3462	礫器	SA	D-23	VI	9.38	13.30	4.23	457.00	
	574	3463	礫器	SA	G-21	VI	11.84	8.78	3.48	383.23
		3464	礫器	HF	I-14	VI	12.14	8.92	3.46	415.40
		3465	礫器	SA	E-23	VI	11.85	9.97	2.43	335.00
		3466	礫器	SA	H-17	VI	8.50	13.08	3.58	413.87
		3467	礫器	HF	M-20	VI	14.60	8.02	3.30	440.00
		3468	礫器	HF	J-20	VI	12.46	10.90	4.50	828.00
		3469	礫器	HF	F-22	VI	15.14	11.55	2.70	462.50
3470		石核類	OB4	H-23	VI	1.45	1.05	1.00	1.61	
3471		石核類	OB1	G-23	VI	1.65	1.20	1.55	3.25	
3472		石核類	OB4	L-13	VI	2.70	1.75	1.15	3.78	
575	3473	石核類	OB2	J-18	VI	2.50	2.65	1.20	8.76	
	3474	石核類	CR	F-19	VI	1.80	1.80	1.75	5.45	
	3475	石核類	OB3	H-22	VI	2.08	2.60	1.50	7.85	
	3476	石核類	OB3	F-22	VI	1.25	2.05	1.40	4.36	
	3477	石核類	OB6	L-20	VI	2.50	2.20	1.60	8.75	

第 97 表 VI層出土石器観察表 (23)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
576	3478	石核類	OB3	E-24	VI	2.35	2.80	2.40	17.53
	3479	石核類	SH	J-17	VI	2.52	2.23	1.98	6.39
	3480	石核類	OB6	I-21	VI	2.35	3.69	1.60	10.36
	3481	石核類	OB1	L-10	VI	2.50	2.80	4.70	26.57
577	3482	石核類	SH	J-18	VI	2.57	3.11	1.89	12.00
	3483	石核類	AN	H-20	VI	3.04	3.08	2.07	14.38
	3484	石核類	SH	M-20	VI	3.72	3.36	2.07	24.54
	3485	石核類	AN	I-21	VI	3.43	4.83	1.70	19.60
	3486	石核類	OB5	D-21	VI	3.18	5.98	3.53	62.77
	3487	石核類	OB2	L-20	VI	5.10	5.60	2.40	52.80
578	3488	石核類	CH	L-12	VI	3.38	2.83	2.52	22.81
	3489	石核類	SH	L-19	VI	4.65	4.80	4.10	103.0
	3490	石核類	OB6	I-22	VI	7.26	9.27	3.30	164.8
	3491	石核類	OB6	J-16	VI	7.60	5.80	7.10	234.0
	3492	石核類	SA	E-4	VI	10.86	12.12	3.80	534.0
3493	石核類	HF	E-24	VI	10.92	12.58	3.06	578.0	
579	3494	磨製石斧	HF	G-22	VI	2.50	1.50	0.40	2.00
	3495	磨製石斧	SH	M-19	VI下	4.80	3.00	0.90	15.86
	3496	磨製石斧	HF	I-21	VI	5.45	2.80	0.85	16.00
	3497	磨製石斧	HF	D-21	VI	(8.32)	2.47	0.90	28.50
	3498	磨製石斧	HF	K-17	VI	8.20	2.88	0.97	32.13
	3499	磨製石斧	SH	N-18	VI	7.95	4.50	1.90	85.70
	3500	磨製石斧	蛇紋岩	D-25	VI下	7.40	4.20	1.30	63.45
	3501	磨製石斧	HF	I-15	VI	7.70	4.20	1.10	57.00
	3502	磨製石斧	HF	K-18	VI	7.60	5.10	1.70	87.88
	3503	磨製石斧	HF	J-18	VI	8.73	4.32	1.97	89.38
	3504	磨製石斧	HF	N-17	VI	9.10	4.50	2.00	93.10
	3505	磨製石斧	SA	M-16	VI下	9.60	6.40	2.00	169.70
	3506	磨製石斧	HF	L-22	VI	10.92	5.73	1.68	129.97
	3507	磨製石斧	HF	M-16	VI下	10.60	5.30	2.20	152.65
	3508	磨製石斧	SH	K-19	VI	9.90	6.00	2.00	191.76
	3509	磨製石斧	HF	J-15	VI	9.90	6.20	2.10	187.75
3510	磨製石斧	HF	K-20	VI	9.40	7.40	2.10	164.90	
3511	磨製石斧	HF	F-22	VI	10.80	6.13	1.10	108.00	
3512	磨製石斧	HF	F-21	VI	11.36	7.38	2.58	271.50	
580	3513	打製石斧	HF	H-19	VI	6.49	3.60	0.92	27.65
	3514	打製石斧	HF	M-16	VI下	8.01	5.08	1.68	97.86
	3515	打製石斧	HF	I-16	VI	9.19	4.53	3.27	58.66
	3516	打製石斧	HF	F-24	VI	8.70	5.50	1.88	111.1
	3517	打製石斧	AN	L-13	VI	18.10	8.40	2.70	597.0
	3518	打製石斧	SH	G-22	VI	18.80	11.30	2.80	752.0
581	3519	石皿	TU	K-17	VI	43.50	33.70	8.55	14,750
	3520	石皿	TU	I-6	VI	28.80	(32.10)	7.35	4,800
	3521	石皿	GR	H-6	VI	(28.00)	(15.80)	4.20	3,790
582	3522	石皿	TU	F-11	VI	(40.90)	(31.70)	6.75	7,100
	3523	石皿	TU	J-14	VI	(28.50)	(29.30)	7.10	7,400
	3524	石皿	TU	G-7	VI	28.20	(25.40)	14.75	13,500
583	3525	石皿	TU	G-18	VI	24.90	(22.50)	8.50	4,150
	3526	石皿	TU	F-22	VI	40.20	32.60	13.50	11,350
	3527	石皿	TU	D-22	VI	34.30	(29.00)	8.20	6,300
584	3528	石皿	TU	J-20	VI	(19.10)	(18.80)	7.70	4,500
	3529	石皿	TU	M-17	VI下	21.90	17.00	5.15	2,820
	3530	石皿	TU	H-3	VI	(12.50)	(13.10)	6.35	1,420
	3531	石皿	TU	M-19	VI上	(16.70)	12.00	10.10	2,460
	3532	石皿	SA	L-15	VI	(22.40)	(18.50)	7.35	2,920

第 98 表 VI層出土石器観察表 (24)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
584	3533	石皿	GR	F-3	VI	19.50	(17.10)	6.55	3,950
	3534	石皿	GR	G-10	VI	(16.60)	(15.90)	5.80	2,570
	3535	石皿	GR	K-11	VI	(17.70)	(18.60)	5.60	3,015
585	3536	石皿	TU	G-22	VI	27.40	23.70	8.05	7,950
	3537	砥石	GR	H-19	VI	6.10	7.30	4.86	212.0
	3538	砥石	SA	D-22	VI	(6.94)	(8.10)	3.68	222.0
	3539	砥石	SA	F-21	VI	(7.60)	(6.23)	3.88	213.0
	3540	砥石	SA	E-24	VI	(9.64)	6.05	1.10	115.4
	3541	石錘	SA	J-14	VI	(6.10)	(5.20)	1.50	53.44
	3542	石錘	SA	D-17	VI	4.47	7.10	1.38	50.77
	3543	石錘	SA	E-18	VI	5.67	6.40	0.18	91.15
	3544	敲石	AN	G-4	VI	4.30	3.40	1.80	29.20
3545	敲石	SH	L-17	VI	4.90	3.60	1.90	44.00	
3546	敲石	AN	L-13	VI	5.20	4.40	3.50	116.0	
3547	敲石	AN	H-21	VI	5.40	4.70	3.80	134.5	
3548	敲石	AN	L-20	VI	6.30	5.20	3.30	134.0	
3549	敲石	AN	N-18	VI	5.50	5.20	3.80	122.0	
3550	敲石	AN	L-17	VI b	8.80	6.00	3.85	289.0	
3551	敲石	AN	I-21	VI	8.00	6.60	5.70	434.0	
3552	敲石	HF	F-15	VI	11.95	6.75	3.65	340.0	
3553	敲石	AN	J-21	VI	9.35	8.25	4.30	455.0	
3554	敲石	AN	F-23	VI	11.30	8.70	6.90	1049	
3555	敲石	AN	L-16	VI	12.90	11.60	5.70	1283	
587	3556	敲石	SA	K-20	VI	6.80	3.30	2.50	83.55
	3557	敲石	SA	F-24	VI	7.10	3.30	2.50	86.70
	3558	敲石	SA	F-16	VI	9.90	3.50	3.20	176.0
	3559	敲石	SA	E-23	VI	7.70	2.70	2.60	80.65
	3560	敲石	SA	J-14	VI	16.30	6.00	5.20	665.5
588	3561	磨・敲石	AN	F-24	VI	4.15	3.75	139.00	44.50
	3562	磨・敲石	AN	I-22	VI	3.95	3.60	3.10	62.00
	3563	磨・敲石	AN	M-18	VI	4.25	(3.75)	3.40	72.80
	3564	磨・敲石	AN	I-22	VI	4.40	3.80	3.10	69.00
	3565	磨・敲石	AN	E-16	VI	3.90	3.40	2.60	51.00
	3566	磨・敲石	AN	D-25	VI	3.60	3.30	3.00	47.00
	3567	磨・敲石	AN	I-19	VI	4.60	3.90	2.90	72.00
	3568	磨・敲石	AN	D-22	VI	5.30	4.90	3.70	139.5
	3569	磨・敲石	AN	M-21	VI	5.40	5.10	3.50	132.0
	3570	磨・敲石	SA	G-17	VI	5.30	4.90	3.70	132.0
	3571	磨・敲石	SA	M-20	VI	6.00	5.50	4.00	190.0
	3572	磨・敲石	AN	I-17	VI	(6.65)	5.80	3.95	198.0
	3573	磨・敲石	AN	H-14	VI下	6.30	5.30	3.70	195.5
	3574	磨・敲石	AN	I-23	VI下	6.50	4.20	3.80	148.0
	3575	磨・敲石	AN	D-22	VI	6.60	5.70	5.30	283.0
	3576	磨・敲石	AN	I-19	VI	7.15	6.40	4.25	222.0
	3577	磨・敲石	AN	L-14	VI	7.20	5.95	4.30	243.5
3578	磨・敲石	AN	L-21	VI	7.50	5.20	3.70	199.0	
3579	磨・敲石	SA	D-25	VI	8.20	4.50	2.70	149.4	
589	3580	磨・敲石	AN	N-21	VI下	7.30	6.70	3.20	254.0
	3581	磨・敲石	AN	K-19	VI	7.20	6.40	4.30	290.0
	3582	磨・敲石	AN	N-21	VI下	6.70	6.20	4.00	231.0
	3583	磨・敲石	AN	E-24	VI	7.00	5.55	4.40	245.0
	3584	磨・敲石	AN	G-24	VI下	7.10	6.40	4.00	265.0
	3585	磨・敲石	AN	J-18	VI	7.30	6.00	3.70	234.5
	3586	磨・敲石	AN	I-16	VI	8.10	5.60	3.70	245.5
	3587	磨・敲石	AN	K-11	VI	6.80	5.30	4.20	220.0

第 99 表 VI層出土石器観察表 (25)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
589	3588	磨・敲石	AN	J-18	VI	7.65	6.00	3.25	199.5
	3589	磨・敲石	SA	D-24	VI	7.80	6.10	3.20	195.0
	3590	磨・敲石	SA	F-23	VI	8.10	6.40	4.40	310.0
	3591	磨・敲石	AN	E-23	VI	7.40	7.20	4.50	340.0
	3592	磨・敲石	AN	M-15	VI	7.50	6.60	3.90	259.0
	3593	磨・敲石	AN	I-17	VI	8.70	7.70	4.20	476.5
	3594	磨・敲石	SA	L-22	VI	9.05	7.80	4.90	523.0
	3595	磨・敲石	AN	J-22	VI下	8.25	7.50	5.30	477.0
590	3596	磨・敲石	AN	E-24	VI	8.40	6.95	3.50	263.0
	3597	磨・敲石	SA	K-19	VI	7.90	5.60	4.80	310.0
	3598	磨・敲石	AN	E-17	VI	7.10	7.00	4.50	328.0
	3599	磨・敲石	AN	H-21	VI	8.30	6.80	5.60	397.0
	3600	磨・敲石	AN	I-21	VI	8.83	6.94	4.65	370.0
	3601	磨・敲石	AN	G-12	VI	9.40	6.60	3.30	289.0
	3602	磨・敲石	AN	G-22	VI	8.90	7.30	4.00	372.0
	3603	磨・敲石	TU	G-23	VI	7.90	8.50	5.10	407.0
	3604	磨・敲石	AN	E-23	VI	8.50	6.70	3.60	286.0
	3605	磨・敲石	AN	J-15	VI	9.00	8.60	4.65	530.0
	3606	磨・敲石	AN	K-22	VI下	9.90	8.70	3.90	520.0
3607	磨・敲石	AN	L-20	VI	9.30	8.20	4.90	520.0	
591	3608	磨・敲石	AN	E-24	VI	9.60	8.90	4.00	545.0
	3609	磨・敲石	AN	J-20	VI	9.80	8.80	5.70	726.0
	3610	磨・敲石	SA	K-12	VI	8.60	7.20	5.60	430.0
	3611	磨・敲石	SA	E-23	VI	9.90	8.20	3.50	443.0
	3612	磨・敲石	AN	G-20	VI	9.45	8.45	4.95	646.0
	3613	磨・敲石	AN	F-3	VI	10.80	8.30	5.30	686.0
	3614	磨・敲石	AN	J-20	VI	9.90	8.50	4.70	639.0
	3615	磨・敲石	SA	I-17	VI	9.40	8.50	5.65	709.0
	3616	磨・敲石	AN	F-18	VI	10.30	8.10	5.60	646.0
	3617	磨・敲石	GR	F-16	VI	10.70	7.90	4.60	570.0
	3618	磨・敲石	AN	J-14	VI	10.25	10.25	4.65	620.0
	3619	磨・敲石	AN	E-22	VI	10.30	8.70	5.00	772.0
592	3620	磨・敲石	AN	J-22	VI	9.40	8.30	4.30	539.0
	3621	磨・敲石	AN	M-18	VI	10.90	8.00	3.90	553.0
	3622	磨・敲石	AN	H-20	VI	10.55	8.67	4.78	579.0
	3623	磨・敲石	AN	I-20	VI	10.50	7.48	4.29	709.0
	3624	磨・敲石	AN	E-21	VI	10.80	8.80	5.05	775.0
	3625	磨・敲石	GR	K-19	VI	11.10	9.10	5.00	835.0
	3626	磨・敲石	SA	L-16	VI	10.95	8.50	6.20	779.0
	3627	磨・敲石	AN	L-16	VI	13.70	(9.40)	5.00	836.0
	3628	磨・敲石	SA	J-15	VI	15.20	7.00	5.80	838.0
	3629	磨・敲石	AN	E-19	VI	(11.70)	7.40	4.40	463.0
	3630	磨・敲石	AN	F-23	VI	(7.90)	(9.20)	(6.70)	671.0
593	3631	磨石	AN	K-22	VI	2.65	2.25	1.80	15.00
	3632	磨石	AN	J-18	VI	4.60	2.90	2.30	44.50
	3633	磨石	AN	F-22	VI	4.85	4.80	2.25	78.50
	3634	磨石	AN	H-23	VI	5.40	4.90	3.20	121.4
	3635	磨石	AN	E-21	VI	5.70	5.10	4.35	187.0
	3636	磨石	AN	J-18	VI	4.90	5.50	3.80	73.50
	3637	磨石	AN	D-17	VI	6.50	6.00	4.35	245.5
	3638	磨石	AN	M-18	VI	7.10	5.80	2.20	128.0
	3639	磨石	AN	J-18	VI	6.90	6.70	4.90	304.0
	3640	磨石	AN	J-22	VI	7.25	7.55	4.10	297.0
	3641	磨石	AN	K-21	VI	7.10	6.70	4.80	321.0
	3642	磨石	AN	K-16	VI	7.50	6.30	5.05	300.0
	3643	磨石	AN	I-22	VI	7.70	6.30	4.30	263.0
	3644	磨石	AN	M-20	VI下	8.00	7.10	5.50	435.0
	3645	磨石	AN	M-11	VI	8.10	6.40	5.55	430.0
	3646	磨石	AN	L-21	VI下	8.40	6.50	6.45	360.0

第 100 表 VI層出土石器観察表 (26)

挿図 番号	掲載 番号	器種	石材	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)
593	3647	磨石	AN	M-19	VI下	9.10	5.00	3.80	256.0
	3648	磨石	SA	L-18	VI	7.75	7.35	4.35	370.0
	3649	磨石	AN	G-4	VI	8.20	7.50	3.20	390.0
	3650	磨石	SA	I-21	VI	8.40	8.30	2.30	191.0
	3651	磨石	AN	K-13	VI	8.90	7.80	3.20	312.0
	3652	磨石	AN	F-17	VI	8.20	7.90	5.60	409.0
594	3653	磨石	AN	J-20	VI	8.45	7.50	5.85	488.0
	3654	磨石	AN	J-18	VI	9.20	6.80	4.25	337.0
	3655	磨石	AN	L-15	VI	8.60	6.35	5.55	414.0
	3656	磨石	AN	M-21	VI下	8.40	7.20	4.25	388.0
	3657	磨石	AN	M-17	VI	8.75	8.60	5.60	498.0
	3658	磨石	AN	J-14	VI	9.20	7.70	5.30	497.0
	3659	磨石	AN	D-24	VI	9.05	7.30	4.25	500.0
	3660	磨石	AN	I-22	VI	9.70	7.90	4.40	403.0
	3661	磨石	TU	G-23	VI	9.00	7.00	4.20	310.0
	3662	磨石	AN	H-23	VI	8.30	7.30	4.80	443.0
	3663	磨石	AN	I-19	VI	8.25	7.85	5.55	409.0
	3664	磨石	AN	H-21	VI	8.60	7.80	4.80	462.0
	3665	磨石	AN	J-20	VI	9.40	8.55	4.45	570.0
	3666	磨石	AN	K-15	VI	9.55	7.60	5.90	601.0
595	3667	磨石	AN	E-23	VI	9.20	8.10	4.70	535.0
	3668	磨石	AN	L-20	VI	10.40	7.70	4.00	459.0
	3669	磨石	AN	E-24	VI	9.80	7.40	4.70	410.0
	3670	磨石	AN	L-20	VI	8.95	7.90	6.75	598.0
	3671	磨石	TU	I-23	VI	9.70	7.70	6.45	769.0
	3672	磨石	AN	G-20	VI	9.40	7.80	6.10	670.0
	3673	磨石	AN	E-22	VI	10.20	7.10	3.50	335.0
	3674	磨石	AN	K-10	VI	10.15	8.35	5.35	533.0
	3675	磨石	AN	C-25	VI	10.75	8.75	3.85	553.0
	3676	磨石	GR	F-3	VI	9.80	8.70	5.65	710.0
	3677	磨石	AN	N-16	VI	10.10	8.80	4.90	620.0
	3678	磨石	AN	I-19	VI	10.00	8.90	4.30	480.0
	3679	磨石	AN	H-3	VI	9.15	9.10	6.25	734.0
	3680	磨石	AN	H-18	VI	10.30	9.00	5.70	621.0
596	3681	磨石	AN	F-24	VI	11.30	7.80	5.00	709.0
	3682	磨石	AN	J-13	VI	11.10	8.10	4.75	585.0
	3683	磨石	AN	H-20	VI	10.80	6.40	4.20	387.5
	3684	磨石	AN	J-17	VI	11.10	10.10	5.90	858.0
	3685	磨石	AN	F-17	VI	10.50	8.40	4.60	652.5
	3686	磨石	AN	K-15	VI	8.70	10.10	6.30	695.0
	3687	磨石	AN	F-21	VI	12.10	10.10	5.05	900.0
	3688	磨石	GR	K-22	VI b	12.30	10.00	5.50	1,044
	3689	磨石	AN	I-18	VI	12.25	10.60	6.85	1,023
	3690	磨石	AN	M-17	VI	13.15	11.00	6.10	1,150
597	3691	磨石	GR	F-15	VI	12.90	10.30	6.00	1,150
	3692	磨石	AN	E-21	VI	13.55	10.70	6.00	1,145
	3693	異形石器	AN	E-21	VI	(1.79)	(0.96)	0.30	0.49
	3694	異形石器	AN	C-25	VI	(2.43)	(1.31)	0.51	1.25
	3695	異形石器	AN	L-20	VI	2.27	1.98	0.50	1.82
	3696	異形石器	AN	I-19	VI	(2.37)	(1.80)	0.63	1.63
	3697	異形石器	OB3	H-21	VI	2.65	(1.95)	0.65	3.01
	3698	異形石器	HF	F-23	VI	3.56	1.89	0.62	5.90
	3699	垂飾品	蛇紋岩	E-21	VI	(2.48)	2.47	(0.58)	3.30
	3700	ペットストーン	AN	E-20	VI	5.29	5.40	1.42	39.10
599	3701	軽石製品	軽石	F-16	VI	11.00	5.15	5.25	99.50
	3702	軽石製品	軽石	L-16	VI	12.85	6.55	2.55	72.50
	3703	軽石製品	軽石	H-20	VI	11.30	9.50	3.05	90.50



## 第V章 自然科学分析

### 第1節 自然科学分析の概要

平成19年から7年間に亘る発掘調査及び平成22年から8年間に亘る整理・報告書作成作業において、様々な自然科学分析を行ってきた。これまでの自然科学分析を実施した実績は以下の通りである。

第101表 自然科学分析実施一覧表

種別	委託年月	委託点数等	測定結果掲載報告書
放射性炭素年代測定	H20. 2	炭化物4点	天神段遺跡1・3・4
	H20. 3	炭化物1点	天神段遺跡1
	H20. 12	炭化物2点	天神段遺跡2
	H23. 3	炭化物11点	天神段遺跡3
	H23. 11	炭化物5点	天神段遺跡3
	H24. 1	炭化物19点	天神段遺跡1・2・3
	H24. 1	炭化物20点	天神段遺跡1・2・4
	H24. 2	炭化物6点	天神段遺跡1・2
	H24. 11	炭化物6点	天神段遺跡1
	H25. 3	炭化物13点	天神段遺跡2・3
	H25. 3	炭化物9点	天神段遺跡2・4
	H26. 2	炭化物4点	天神段遺跡1
	H26. 2	炭化種実8点	天神段遺跡2
	H27. 2	炭化物10点	天神段遺跡2・3
H27. 3	炭化物10点	天神段遺跡2・3	
H29. 2	炭化物7点	天神段遺跡3	
テフラ分析	H23. 12	火山灰土12点	天神段遺跡2・3
	H25. 3	土壌ブロック12点	天神段遺跡2・3
	H25. 3	土壌ブロック6点	天神段遺跡2・3
	H26. 2	火山灰土10点	天神段遺跡2・3
種実同定	H23. 11	種実遺体17点	天神段遺跡1
	H24. 11	種実遺体3点	天神段遺跡1・2
	H26. 2	種実遺体8点	天神段遺跡1
石材産地分析	H24. 2	石核等30点	天神段遺跡2
	H24. 3	剥片28点	天神段遺跡2
	H25. 2	細石刃核等10点	天神段遺跡2
	H25. 11	剥片10点	天神段遺跡4
オパール	H24. 1	Ⅲ～Ⅶ層27点	天神段遺跡1

本編においては、縄文時代早期に関係する放射性炭素年代測定・テフラ分析結果を掲載してある。

なお、過去に刊行した報告書に掲載した測定結果も必要に応じて再度掲載してある。

### 第2節 テフラ分析

テフラ分析はこれまで4回実施し、その結果は「天神段遺跡2」で報告済みである。しかし、縄文時代早期の遺構の見直し作業を通じて、遺構名および番号の変更が生じたため必要な箇所は抜粋して再度掲載する。なお、詳細については「天神段遺跡2」の報告書を参照していただきたい。

#### 1 テフラ分析1

##### はじめに

曾於郡大崎町の北西部に所在する天神段遺跡は、非流結の流紋岩質角礫含有軽石凝灰岩いわゆるシラス（鹿児島県地質図編集委員会、1990）からなる台地上に位置する。台地上面の標高は約206mとされ、周辺は開析が進んでいる。発掘調査では、旧石器時代から中世に至るまでの各時期の遺構・遺物が確認されている。また、これらの遺構を埋積しあるいは遺物を包含する火山灰土中には、軽石などの火山砕屑物が認められている。

本報告では、火山灰土中に含まれる火山砕屑物、特に斑晶鉱物と火山ガラスを抽出し、その鉱物組成や形態の特徴、さらには屈折率を捉えることによって、それらの火山砕屑物の由来するテフラを同定する。

##### (1) 試料

試料はN-18区とL・M-20区の各箇所で作成された断面より採取された火山灰土計10点と調査区内で検出された縄文時代早期中葉頃とされている竪穴住居跡遺構の覆土より採取された火山灰土計2点の合計12点である（第102表）。試料1は軽石であるが、それ以外の11点の試料は、1辺が概ね15cm弱の立方体様の形状で断面から採取されている。

調査区内で確認された火山灰土の断面は、発掘調査所見により表土のI層から順に下位に向かってⅩⅦ層までの分層がなされ、これらのうち、Ⅲ層はⅢa～Ⅲc、Ⅳ層はⅣa、Ⅳb、Ⅴ層はⅤa～Ⅴcの各層に細分されている。また、Ⅱ層、Ⅴc層、Ⅷ層は降下テフラ層である。これらのうち、Ⅱ層は中・近世の遺物包含層の上位に堆積する灰白色を呈する降下軽石層であり、Ⅴc層は約7,300年前に九州南方の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah: 町田・新井, 1978; 2003）の降下堆積物が認められ、Ⅷ層は12,800年前に噴出した桜島薩摩テフラ（Sz-S: 小林, 1986; 町田・新井, 2003）の降下堆積層とされている。発掘調査者により記載された各層の色調と包含される遺物および層厚などの一覧を第102表に示す。

N-18区では、I層からⅧ層上部までの断面が作成さ

れ、Ⅱ層から試料1，縄文時代晩期の遺物包含層とされるⅣb層から試料2，K-Ah直下のⅥ層上部から試料3，同層下部から試料4，その下位のⅦ層上部，中部，下部からそれぞれ試料5，試料6，試料7が採取されている。L・M-20区では，Ⅲ層からⅥ層までの断面が作成され，ナイフ形石器文化期の遺物包含層に挟まれるⅩⅡ，ⅩⅢ，ⅩⅣの各層から，それぞれ試料8，試料9，試料10の各試料が採取されている。以下に採取された各試料の表面の状況を記載する。

①N-18区（試料1～7）

試料1：最大径約11mm，モード粒径は3～5mmの灰黄褐色を呈する発泡不良の軽石。軽石の表面には粗粒の斑晶鈣物などは認められない。

試料2：褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が散在する。軽石は，最大径約5mmであり，径2～3

mm程度のものが多い。軽石の他には，岩石片や鈣物片などの粗粒の碎屑物は認められず，細粒の火山ガラス片が微量散在する。

試料3：暗褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石と橙色軽石とが散在する。いずれの軽石も最大径約7mmであり，径2～5mmのものが多い。また，橙色軽石よりも黄色軽石の方が多い。軽石以外の碎屑物としては，微量の火山ガラスおよび極めて微量の径1mm程の青灰色を呈する岩片が認められる。

試料4：黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が散在する。軽石は最大径約10mmであり，径2～3mmのものが多い。軽石の中には，輝石類とされる有色鈣物の斑晶を包有するものが微量混在する。軽石以外の碎屑物としては，微量の火山ガラスおよび極めて微量の径1mmの青灰色を呈する岩片が認められる。

第102表 調査区層序と試料採取層位（発掘調査者作成資料に基づいて作成）

層位	色調など	備考	層厚	試料	
				番号	採取位置
I層	表土		20cm	-	-
Ⅱ層	灰白色パミス		3cm	1	N-18区
Ⅲa層	黒色土	中・近世の遺物包含層	5cm	-	-
Ⅲb層	暗茶褐色土	弥生～古代の遺物包含層	-	-	-
Ⅲc層	オリーブ褐色土		-	-	-
Ⅳa層	茶褐色土	縄文時代晩期の遺物包含層 主な出土遺物：入佐式・黒川式	10cm	-	-
Ⅳb層	黄褐色土	縄文時代晩期の遺物包含層 主な出土遺物：入佐式・黒川式	20cm	2	N-18区
Va層	褐色土	縄文時代前期の遺物包含層	20cm	-	-
Vb層	赤褐色土		30cm	-	-
Vc層	明赤褐色パミス	アカホヤ火山灰	10cm	-	-
Ⅵ層	明黄茶褐色土	縄文時代早期後葉の遺物包含層 主な出土遺物：平椀式・塞ノ神式	20cm	3	N-18区
				4	N-18区
Ⅶ層	黒褐色土	縄文時代早期前～中葉の遺物包含層 主な出土遺物：前平式・加栗山式・石坂式・下剥峯式・辻タイプ・押型文	50cm	5	N-18区
				6	N-18区
				7	N-18区
Ⅷ層	黄白色火山灰	薩摩火山灰	25cm	-	-
Ⅸ層	黒褐色粘質土	細石刃文化期の遺物包含層	10cm	-	-
X層	茶褐色粘質土		20cm	-	-
XⅠ層	黒褐色粘質土		5cm	-	-
XⅡ層	茶褐色硬質土		20cm	8	L・M-20区
XⅢ層	暗茶褐色硬質土		40cm	9	L・M-20区
XⅣ層	黄茶褐色硬質土		20cm	10	L・M-20区
XⅤ層	暗黄褐色土	ナイフ形石器文化期の遺物包含層	5cm	-	-
XⅥ層	明黄白色砂質土		20cm	-	-
Ⅶ層相当	黒褐色土	埋土下部		11	6号竪穴住居状遺構
Ⅶ層相当	黒褐色土	埋土下部		12	3号竪穴住居状遺構

試料5: 黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石と白色軽石とが散在する。軽石の最大径は約11mmであり、径2~4mmのものが多い。傾向としては白色軽石よりも黄色軽石の方が多く、かつ粗粒である。軽石以外の砕屑物としては、微量の火山ガラスおよび極めて微量の径1mm程の灰色を呈する岩片が認められる。

試料6: 黒色を呈するシルト質の火山灰土であるほかは、砕屑物の状況は試料5とほぼ同様である。

試料7: 黒色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石と白色軽石とが散在する。試料6や試料5よりも軽石の量は多い。軽石の最大径は約10mmであり、径3~5mmのものが多い。傾向としては白色軽石よりも黄色軽石の方が多く、かつ粗粒である。軽石以外の砕屑物としては、微量の火山ガラスおよび極めて微量の径4mm程の灰色を呈する岩片が認められる。

## ②L・M-20区(試料8~10)

試料8: 褐色を呈するシルト質の火山灰土中に赤橙色軽石が極めて微量散在する。軽石の径は1~2mm程度である。軽石以外の砕屑物としては、微量の火山ガラスおよび微量の白色を呈する斜長石の鉱物片が認められる。

試料9: 黒褐色を呈するシルト質~粘土質の火山灰土中に橙色軽石が散在する。軽石は最大径約11mmであり、径2~5mmのものが多い。軽石以外の砕屑物としては、微量の火山ガラスおよび径2mmほどの微量の白色を呈する岩石片が認められる。

試料10: 暗褐色を呈するシルト質~粘土質の火山灰土中に橙色軽石が散在する。橙色軽石は最大径約11mmであり、径2~5mmのものが多い。他に黄白色を呈する径20mmほどの粗粒軽石が数個認められる。軽石以外の砕屑物としては、微量の火山ガラスおよび径1~2mmほどの微量の青灰色を呈する岩石片が認められる。

## ③6号竪穴住居状遺構(試料11)・3号竪穴住居状遺構(試料12)

試料11は6号竪穴住居状遺構のほぼ中央付近の床面直上の厚さ20cmほどの覆土より採取された。黒色を呈するシルト質~粘土質の火山灰土中に黄色および白色の軽石が散在する。黄色軽石は、最大径約17mmであり、径5~7mmのものも多く、白色軽石は径3mm程度であり、黄色軽石に比べて少ない。軽石以外の砕屑物としては、微量の火山ガラスおよび微量の白色を呈する斜長石の鉱物片が認められる。

試料12は3号竪穴住居状遺構のほぼ中央付近の床面直上の厚さ20cmほどの覆土より採取された。試料表面の特徴は上述した試料11とほぼ同様である。

### (2) 考察

#### ・試料7~3

試料7から試料5までの3点が採取されたVII層には、

部分的に軽石の濃集するブロックが認められている。このようなブロックは、軽石の降下堆積物が攪乱を受けながらも、降灰層準付近にその一部が保存されたものであると考えられる。すなわち、VII層中の軽石はVII層の下位に堆積するSz-Sから拡散した軽石も含まれてはいると考えられるが、主体はSz-Sの後に降下堆積したテフラに由来すると考えられる。したがって、試料7~試料5より得られた重鉱物組成と火山ガラスの組成は、Sz-S以降に堆積したテフラの特性を示している可能性が高い。Vc層はK-Ahの堆積層準であることから、VII層中のテフラは、Sz-SとK-Ahの間に噴出したテフラとなる。天神段遺跡の地理的位置から、それに該当するテフラは桜島から噴出した桜島13(Sz-13)、桜島12(Sz-12)、桜島11(Sz-11)のいずれか(小林, 1986; 町田・新井, 2003, 以下桜島テフラについては同様の引用)であるとされる。これらのうち、Sz-11については桜島から東北東の末吉方面に分布軸を持ち、K-Ahとの間にはほとんど土壤が形成されていないとの記載(森脇, 1994)から、VII層中のテフラに対比される可能性は低い。一方、Sz-12の分布軸は桜島から東方(森脇, 1994)、Sz-13の分布軸は桜島の東方および南東の2つが存在する(小林・江崎, 1997)とされていることから、VII層のテフラはこれらのうちのいずれかに対比されると考えられる。町田・新井(2003)に掲載されたこれら2枚のテフラの火山ガラスと斜方輝石のそれぞれの屈折率(Sz-12は $n_1$  510-1.514,  $\gamma$  1.708-1.711, Sz-13は $n_1$  513-1.516,  $\gamma$  1.707-1.711, 以下屈折率の引用は同様)と、今回の試料7~試料5のそれらの値とを比べると、いずれのテフラともレンジが一致することはないが、より近似するといえるのはSz-12の方である。したがって、今回の試料7~試料5の分析からは、VII層中のテフラはSz-12に対比されると考えられる。なお、火山ガラスの屈折率が一致しない理由としては、火山ガラスの表面の風化変質によって形成される水和層の状態が異なることが考えられる。このことは、中村ほか(2002)により、特に完新世のテフラにおいてばらつきが大きいことが指摘されている。また、Sz-12の噴出年代は、暦年代で約9,000年前とされている(奥野, 2002)。

試料4と試料3の採取されたVI層は上述したVII層中のテフラがSz-12に対比されることから、Sz-11の降下堆積層準に相当する。しかし、発掘調査者による断面記載や断面写真の状況および試料の表面観察などからは、この層位でテフラの降下堆積があったか否かは判断することはできない。今回の分析では、試料4と試料3の重鉱物組成は下位のVII層の試料とほぼ同様であり、火山ガラス比は、上位のK-Ahに由来すると考えられるバブル型火山ガラスが混在するという結果である。これらの結果からは、下位からのSz-12の拡散と上位からのK-Ahの

拡散が示唆され、Sz-11の降下堆積は見出せない。ただし、試料3において、火山ガラスの屈折率と斜方輝石の屈折率のレンジの下限が下位の試料に比べて、ともに高い方にずれていることが認められる。このことは、Sz-11の降下堆積を示唆している可能性がある。おそらく、噴火時には降灰があったが、上述したように天神段遺跡の位置はSz-11の分布軸からずれた位置にあるため、降下した碎屑物の量が少なかったことが推定される。そのため、降下堆積層としての痕跡を残せなかったと考えられる。

#### ・試料10～8

試料10から試料8までが採取されたXIV層からXII層までの層位は、シラス形成以降Sz-S降灰以前の時期に相当する。発掘調査者による断面記載と断面写真および試料の表面観察から、試料9の採取された層位は、軽石質テフラの降下堆積層準に相当する可能性がある。この時期のテフラとしては、下位より桜島17(Sz-17)、桜島16(Sz-16)、桜島15(Sz-15)の3枚の降下軽石層が記載されていることから、試料9の軽石質テフラはこれらの中のいずれかに対比されると考えられる。これらのテフラの分布記載(森脇, 1994)によれば、天神段遺跡付近では、Sz-17(Tk-6)の層厚は10～30cm、Sz-16(Tk-5)の層厚は不明であり、Sz-15(Tk-4)の層厚は10cm未満となっている。また、同記載によれば、Sz-17と下位の入戸火砕流堆積物との間の土壌の発達は良くないとされている。さらに、Sz-15については、斜方輝石の屈折率が $\gamma$  1.702-1.707という比較的低い値が特徴とされている(森脇, 1994)。以上の記載により、試料9の軽石質テフラは、Sz-16に対比されると考えられる。なお、Sz-16についての火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率の公表値は認められない。また、試料9および試料10も試料8も、その火山ガラスの屈折率については、始良Tn火山灰(AT: 町田・新井, 1976)に特有のレンジである。すなわち、今回の分析によりこれら3試料から抽出された火山ガラスは、基盤のシラスすなわち入戸火砕流に由来するものであり、桜島のテフラに由来する火山ガラスは、ほとんど含まれていないと判断される。

試料10にも若干の軽石が認められたが、層位的には、より下位に堆積していると推定されるSz-17に由来する軽石の再堆積物と考えられる。試料10の斜方輝石の屈折率は、町田・新井(2003)によるSz-17のそれとほぼ一致しており、軽石がSz-17に由来することを支持している。試料8に微量認められた軽石は、上述したSz-15の斜方輝石の屈折率を考慮すれば、Sz-15に由来するのではなく、下位のSz-16の再堆積物であろう。

#### ・試料12～8

6号堅穴住居状遺構の試料11および3号堅穴住居状遺構の試料12については、重鋳物組成および火山ガラ

ス比が、前述したN-18区の試料7から試料5までの試料とほぼ同様の組成を示す。火山ガラスの屈折率では、試料12のレンジは試料7～試料5のそれとほぼ同様であり、試料11のレンジは主要なレンジで試料7～試料5と一致する。試料11における低屈折率の火山ガラスは、その値から、入戸火砕流堆積物に由来する火山ガラスが混入したものと考えられる。斜方輝石の屈折率では、試料11はレンジの上限が、試料12はレンジの下限が、それぞれ試料7～試料5のレンジと若干のずれを示すが、どちらの試料も重複する範囲は広いと言える。これらの分析結果の比較により、試料11および試料12の軽石は、ともに試料7～試料5の軽石と同一のテフラすなわちSz-12に由来すると考えられる。

Sz-12の降下堆積が住居廃絶後それほど時間を置かずに起こったとすれば、住居跡の年代はSz-12の噴出年代に近いと言えることができる。前述したように、Sz-12の噴出年代は暦年代で約9,000年前とされているが、その年代観はテフラの周辺で出土するとされている土器型式の早期中葉頃という年代とも整合する。

## 2 テフラ分析2

### (1) 試料

試料は、天神段遺跡で検出された遺構の埋土から採取された土壌ブロック3点と輝北町にある通称上場高原風車断面の露頭から採取された土壌ブロック9点の合計12点である。以下に採取された各試料の状況を記載する。また、試料の一覧を第103表に示す。

#### ・試料番号1(天神段遺跡 4号堅穴住居状遺構)

暗褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が少量散在する。軽石の粒径は2～12mm程度である。

#### ・試料番号2(天神段遺跡 1号堅穴住居状遺構)

暗褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在する。軽石の粒径は2～4mm程度である。

#### ・試料番号3(天神段遺跡 16号連穴土坑)

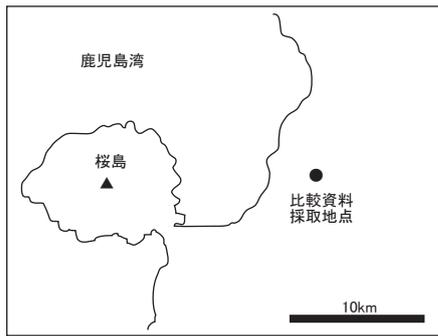
黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在する。軽石の粒径は1～5mm程度である。

#### ・試料番号4(輝北町 比較試料1 桜島11テフラ(Sz-11)層の上部から採取)

黄褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が濃集する。軽石の粒径は2～20mm程度であり、表面は風化している。

#### ・試料番号5(輝北町 比較試料2 桜島11テフラ(Sz-11)層の下部から採取)

黄褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が濃集する。軽石の粒径は3～10mm程度であり、表面は風化している。径3～18mmの灰色岩片が少量混在する。



第 600 図 比較試料採取地点の位置

・試料番号 6 (輝北町 比較試料 3 桜島 12 テフラ (Sz-12) 層の上部から採取)

黄褐色を呈する砂質の火山灰土中に黄色軽石が濃集する。軽石の粒径は 3～25mm 程度であり、表面は風化している。径 3～9mm 程度の灰色岩片が少量混在する。

・試料番号 7 (輝北町 比較試料 4 桜島 12 テフラ (Sz-12) 層の中部から採取)

黄褐色を呈する砂質の火山灰土中に黄色軽石が濃集する。軽石の粒径は 3～25mm 程度であり、表面は風化している。径 3～15mm 程度の灰色岩片が少量混在する。

・試料番号 8 (輝北町 比較試料 5 桜島 12 テフラ (Sz-12) 層の下部から採取)

黄褐色を呈する砂質の火山灰土中に黄色軽石が濃集する。軽石の粒径は 3～40mm 程度であり、表面は風化している。径 3～15mm 程度の灰色岩片が少量混在する。

・試料番号 9 (輝北町 比較試料 6 桜島 13 テフラ (Sz-13) 層の上部から採取)

褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在する。軽石の粒径は 1～9mm 程度であり、表面は風化している。

・試料番号 10 (輝北町 比較試料 7 桜島 13 テフラ (Sz-13) 層の中部から採取)

褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在するが、径 30mm ほどの軽石の濃集したブロックも含まれる。軽石の粒径は 1～8mm 程度であり、表面は風化している。

・試料番号 11 (輝北町 比較試料 8 桜島 13 テフラ (Sz-13) 層の下部から採取)

暗褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在する。軽石の粒径は 1～7mm 程度であり、表面は風化している。

・試料番号 12 (輝北町 比較試料 9 桜島薩摩テフラ (Sz-S) 層から採取)

黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在する。軽石の粒径は 2～22mm 程度であり、表面は風化している。

第 103 表 テフラ組成分析試料一覧

試料番号	遺跡名・採取地	試料名	状態	テフラ名
1	天神段遺跡	4号堅穴住居状遺構埋土	暗褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 12mm。	
2	天神段遺跡	1号堅穴住居状遺構埋土	暗褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 4mm。	
3	天神段遺跡	16号連穴土坑埋土	黒褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 1～5mm。	
4	輝北町上場高原風車断面	比較資料 1	黄褐色土中に軽石濃集。軽石の最大径 20mm。	Sz-11 上部
5	輝北町上場高原風車断面	比較資料 2	黄褐色土中に軽石濃集。軽石の最大径 10mm。 灰色岩片含む。	Sz-11 下部
6	輝北町上場高原風車断面	比較資料 3	黄褐色土中に軽石濃集。軽石の最大径 25mm。 灰色岩片含む。	Sz-12 上部
7	輝北町上場高原風車断面	比較資料 4	黄褐色土中に軽石濃集。軽石の最大径 25mm。 灰色岩片含む。	Sz-12 中部
8	輝北町上場高原風車断面	比較資料 5	黄褐色土中に軽石濃集。軽石の最大径 40mm。 灰色岩片含む。	Sz-12 下部
9	輝北町上場高原風車断面	比較資料 6	褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 9mm。	Sz-13 上部
10	輝北町上場高原風車断面	比較資料 7	褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 8mm。	Sz-13 中部
11	輝北町上場高原風車断面	比較資料 8	暗褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 7mm。	Sz-13 下部
12	輝北町上場高原風車断面	比較資料 9	黒褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 22mm。	Sz-S

## (2) 考察

天神段遺跡の堅穴住居状遺構および連穴土坑を埋める土壌中に散在する軽石は、試料番号1～3までの試料から得られた重鉱物組成、火山ガラス比、火山ガラスの形態および火山ガラスと斜方輝石の屈折率の各分析結果が、ほぼ同様の値を示すことから、同一のテフラに由来する可能性が高いと考えられる。遺構の検出層準は、約7,300年前に九州南方の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah:町田・新井,1978;2003)と12,800年前に噴出した桜島薩摩テフラ(Sz-S:小林,1986;町田・新井,2003)との間にあることから、上述した遺構埋土中の軽石はSz-SとK-Ahの間に噴出したテフラに由来すると考えられる。なお、試料番号1と試料番号2に認められた低折率の火山ガラスは、その値から、入戸火砕流堆積物に由来する火山ガラスが混入したものと考えられる。

天神段遺跡の地理的位置から、Sz-SとK-Ahの間に噴出したテフラは桜島から噴出した桜島13(Sz-13)、桜島12(Sz-12)、桜島11(Sz-11)のいずれか(小林,1986;町田・新井,2003)であると考えられる。今回の分析では、これら3枚のテフラに相当するとされる比較試料が輝北町の露頭より得られている。ただし、採取された試料の状況から軽石だけではなく供伴する火山灰土もある程度交えた上で同時に処理しているために、分析結果にはそのテフラとは異なる碎屑物の影響も及んでいる。例えば、比較試料の最上位であるSz-11上部の比較試料1ではバブル型火山ガラスが軽石型と同程度の割合で含まれているが、これはその屈折率から、Sz-11の直上に堆積するK-Ahに由来する火山ガラスが攪乱により混入したものと考えられる。また、比較試料の最下位であるSz-Sの比較試料9では低屈折率の火山ガラスが認められるが、これは天神段遺跡遺構埋土の試料番号1,2と同様に入戸火砕流堆積物に由来する火山ガラスの混入を示している。そのような中でも、今回の分析結果のうちの重鉱物組成については、ほぼテフラごとに異なる特徴として単斜輝石の割合を見出すことができた。また、火山ガラスの屈折率でも、Sz-12に相当する比較試料において若干高くなる傾向が認められた。これらの特徴から比較をすると、天神段遺跡遺構埋土は、比較試料6・7に近似すると言える。比較試料6・7はSz-13の上部および中部とされているから、それに従えば、天神段遺跡遺構埋土中に認められた軽石は、Sz-13に由来する可能性があると考えられる。なお、町田・新井(2003)に掲載されたSz-13の火山ガラスの屈折率は $n_{1.513-1.516}$ 、斜方輝石のそれは $\gamma_{1.707-1.711}$ である。Sz-13とされた比較試料の各値のうち、斜方輝

石の屈折率はほぼレンジが重なるとみてよいが、火山ガラスの屈折率はレンジが重複しない。したがって、今回の比較試料で得られた火山ガラスの屈折率を、そのまま各桜島テフラの特性としてよいかということについては検討の余地がある。火山ガラスの屈折率が一致しない理由としては、1)火山ガラスの表面の風化変質によって形成される水和層の問題、2)細砂径の火山ガラスには、異なるテフラ由来の火山ガラスが多く混在している、という主に2つのことが考えられる。水和層の問題については、中村ほか(2002)により、特に完新世のテフラにおいてばらつきが大きいことが指摘されている。町田・新井(2003)に掲載されたSz-13の火山ガラスの状態を検証することはできないが、どちらの理由かを検証するためには、風化程度の異なる各地の軽石を対象とした屈折率の測定が必要であろう。また、比較試料のなかった平成23年度調査における遺構埋土のテフラの分析(本節1テフラ分析1)では、今回のようにSz-12とSz-13との重鉱物組成の違いや屈折率の違いを見出せなかった。そのような事情から、火山ガラスの屈折率において町田・新井(2003)の値に、より近いと言えるSz-12に対比される可能性のあることを示した。しかし、その測定値自体は今回の結果におけるSz-13の比較試料の方に近い。したがって、天神段遺跡における縄文時代の遺構埋土中のテフラの特定には、上述したような周辺各地におけるSz-12とSz-13の分布状況と分析値の蓄積が必要と考えられる。

## 3 テフラ分析3

### (1) 試料

試料は、天神段遺跡で検出された土坑の埋土から採取された土壌ブロック5点と曾於市大隅町に所在する定塚遺跡で検出された堅穴住居の覆土から採取された軽石1点の合計6点である。以下に採取された各試料の状況を記載する。また、試料の一覧を第104表に示す。

#### ・試料番号1(天神段遺跡 10号連穴土坑埋土)

黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在する。軽石の粒径は2～20mm程度であり、ほとんど粘土化している。

#### ・試料番号2(天神段遺跡 2号連穴土坑埋土)

黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が少量散在する。軽石の粒径は1～7mm程度であり、ほとんど粘土化している。

#### ・試料番号3(天神段遺跡 25号連穴土坑埋土)

黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が中量散在する。軽石の粒径は1～9mm程度であり、ほとんど粘土化している。

第 104 表 テフラ分析試料一覧

試料番号	遺跡名・採取地	試料名	状態	テフラ名
1	天神段遺跡	10号連穴土坑	黒褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 20mm。	
2	天神段遺跡	23号連穴土坑	黒褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 7mm。	
3	天神段遺跡	25号連穴土坑	黒褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 9mm。	
4	天神段遺跡	12号連穴土坑	黒褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 11mm。	
5	天神段遺跡	32号連穴土坑	黒褐色土中に軽石散在。軽石の最大径 11mm。	
6	曾於市大隅町定塚遺跡	比較資料 (堅穴住居跡覆土中)	径 2～43mm の黄色軽石。発泡は良好であり、斑晶鉱物は目立たない。	Sz-13

・試料番号 4 (天神段遺跡 12号連穴土坑埋土)

黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が少量散在する。軽石の粒径は 1～11mm 程度であり、ほとんど粘土化している。

・試料番号 5 (天神段遺跡 32号連穴土坑埋土)

黒褐色を呈するシルト質の火山灰土中に黄色軽石が少量散在する。軽石の粒径は 1～11mm 程度であり、ほとんど粘土化している。

・試料番号 6 (曾於市大隅町定塚遺跡 比較試料堅穴住居跡覆土中)

黄色を呈する軽石である。軽石の粒径は 2～43mm 程度であり、表面は比較的新鮮である。軽石の発泡は良好であるが、斑晶鉱物は目立たない。発掘調査所見では、桜島 13 テフラ (Sz-13) に対比される可能性があるとしてされている。

(2) 考察

今回の天神段遺跡各土坑埋土から得られた重鉱物組成、火山ガラス比および火山ガラスの屈折率と斜方輝石の屈折率のいずれもが、同じ平成 24 年度調査で検出された 1号堅穴住居跡遺構と 4号堅穴住居跡遺構の埋土の分析(本節 2 テフラ分析 2) から得られた値とほぼ同様であると評価できる。テフラ分析 2 では輝北町の露頭より採取された比較試料の分析値との比較から、天神段遺跡の遺構埋土中に認められる軽石は Sz-13 に対比される可能性があるとした。その理由としては、比較試料における Sz-12 と Sz-13 との間に認められる重鉱物組成における単斜輝石の量比の違いと火山ガラスの屈折率の若干の違いを挙げた。しかし、その一方で、比較試料の Sz-13 の火山ガラスの屈折率が町田・新井 (2003) の値とはレンジが異なるという課題も残された。

今回の比較試料では、発掘調査所見により、Sz-13 とされる軽石試料を分析した。軽石は今回およびこれまでの天神段遺跡遺構埋土中の軽石とは異なり、硬く比較的新鮮な状態であり、発泡した状態も肉眼でよく

観察された。分析処理は前述したように土壌を交えずに軽石のみを粉砕して行ったものであるから、その重鉱物組成は軽石中に包有される斑晶鉱物の重鉱物組成である。火山ガラス比については火山ガラス以外はほとんどが斜長石の斑晶であり、これも軽石中に包有されていた斑晶鉱物である。そして、火山ガラスの屈折率は軽石を構成する火山ガラスの屈折率となるが、町田・新井 (2003) に掲載された Sz-13 の火山ガラスの屈折率である  $n_{1.513-1.516}$  とほぼ重複するレンジが得られた。斜方輝石のそれはこれまでと同様に町田・新井 (2003) の値とほぼ重なっている。

テフラ分析 2 では、火山ガラスの屈折率が一致しない理由として、1) 火山ガラスの表面の風化変質によって形成される水和層の問題、2) 細砂径の火山ガラスには、異なるテフラ由来の火山ガラスが多く混在している、という 2 項目をあげた。今回の比較試料の軽石は比較的新鮮な状態であったことから、町田・新井 (2003) の Sz-13 の火山ガラスの値も比較的新鮮な状態の軽石の測定値であることがわかった。風化が進んだ状態すなわち水和が進んだ状態では、屈折率は上昇するとされているから、より風化の進んだ状態であったテフラ分析 2 の比較試料における Sz-13 の試料からは町田・新井 (2003) の値よりもさらに高い値が得られるはずであるが、逆に低い値であった。このことから、テフラ分析 2 で得られた Sz-13 の火山ガラスの屈折率は、Sz-13 の軽石に由来するものではない可能性が高いと考えられる。その場合、火山ガラスの屈折率が一致しない理由は、上述した 2 番目の理由になる。すなわち、Sz-13 のテフラには、細砂径の火山ガラスはほとんど含まれていない可能性が高い。細砂径の火山ガラスが由来する Sz-13 とは異なるテフラとは、層位と屈折率の値から、桜島薩摩テフラ (Sz-S) である可能性がある。テフラ分析 1 およびテフラ分析 2 とさらに今回の土坑埋土の分析において、混在する低屈折率の火山ガラスを除いた主要な火山ガ

ラスの屈折率がほぼ同様なレンジを示したのは、いずれも Sz-S に由来する火山ガラスが主体を占めていたことに起因する可能性があると考えられる。

今後、天神段遺跡とほぼ同時期の遺構埋土に認められる黄色軽石のテフラの分析では、テフラ分析 2 で示した Sz-12 と Sz-13 との重鉱物組成の違いが有効な指標になる可能性がある。傾向としては、Sz-12 よりも Sz-13 の方が単斜輝石の割合が高い。今回の土坑埋土の重鉱物組成における単斜輝石の割合は、テフラ分析 2 の遺構埋土のそれに比べると若干低い。また、Sz-13 であることがほぼ確認できた試料番号 6 の比較試料においても、テフラ分析 2 の割合に比べると低い。ただし、不透明鉱物を除いた斜方輝石と単斜輝石の 2 者間における量比を取れば、試料番号 6 の単斜輝石の割合はテフラ分析 2 の Sz-13 の比較試料に近くなり、試料番号 2～4 についてもそれに近い割合となる。したがって、今回の天神段遺跡における土坑埋土中の軽石も、Sz-13 に由来する可能性の方が高いと考えられる。今後も、Sz-13 と Sz-12 のテフラの特定には、周辺各地における Sz-12 と Sz-13 の分布状況と分析値の蓄積が必要と考えられる。

#### 4 テフラ分析 4

##### (1) 試料

試料は、F-4 区で検出された 7 号連穴土坑遺構の覆土 1 点と E-5 区で作成された土層断面の各層より採取された火山灰土 9 点の合計 10 点である。試料には 1～10 までの試料番号が付されている。試料番号 1 は 7 号連穴土坑の覆土であり、試料番号 2 以下は、下記各層から採取された火山灰土である。

調査区の火山灰土層は、発掘調査所見により表土の I 層から順に下位に向かって XVI 層までの分層がなされ、これらのうち、III 層は III a～III c、IV 層は IV a、IV b、V 層は V a～V c の各層に細分されている。各層の発掘調査所見による層相を、試料の一覧を提示した第 105 表に併記する。特にテフラの含有が指摘されている層位は以下の通りである。II 層は桜島起源の噴出物の安永ボラ点在、IV b、VI、VII、XII、XIII、XIV の各層は桜島起源の噴出物、V b 層はアカホヤ火山灰、V c 層はアカホヤ火山灰で鬼界カルデラ起源の火山灰とされている。アカホヤ火山灰とは約 7, 300 年前に九州南方の鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah: 町田・新井, 1978; 2003) である。なお、VIII 層は黄白色火山灰土とされている層位であるが、これまでの所見により、この層位は 12, 800 年前に噴出した桜島薩摩テフラ (Sz-S: 小林, 1986; 町田・新井, 2003) の降下堆積層とされている。

試料番号 2 以下の試料は、それぞれ上位より順に、

II, IV b, V a, VI, VII, XII, XIII, XIV, XV の各層から 1 点ずつ採取されている。各試料の表面に認められる碎屑物の状況などを一覧にして第 105 表に示す。第 105 表の記載にあるように、試料表面に認められた軽石は、ほとんどが粘土化しており、指で容易につぶれる状態であった。

##### (2) 考察

##### ① E-5 区各層のテフラの同定

##### ・ XV 層・ XIV 層・ XIII 層・ XII 層

XV 層から XII 層までの層位は、天神段遺跡の立地するシラス台地を形成した入戸火砕流噴出以降 Sz-S 降灰以前の時期に形成された火山灰土層に相当する。発掘調査所見によれば、XV 層は暗黄褐色土とされ、桜島起源の噴出物の層位とはされていない。ただし、試料の表面観察からは、XV 層 (試料番号 10) には橙色を呈する粘土化した軽石の散在が認められている。この軽石は、入戸火砕流噴出以降に噴出した桜島起源のテフラに由来すると考えられる。その産状から、おそらく XV 層はそのテフラの降下堆積層準ではなく、XV 層形成以前に降下堆積したテフラに由来する軽石が XV 層形成時に再堆積し、混入した可能性がある。入戸火砕流噴出以降 Sz-S 降灰以前のテフラとしては、下位より桜島 17 (Sz-17)、桜島 16 (Sz-16)、桜島 15 (Sz-15) の 3 枚の降下軽石層が記載されている (小林, 1986; 町田・新井, 2003, 以下桜島テフラについては同様の引用)。これらのテフラの分布記載 (森脇, 1994) によれば、天神段遺跡付近では、Sz-17 (Tk-6) の層厚は 10～30cm、Sz-16 (Tk-5) の層厚は不明であり、Sz-15 (Tk-4) の層厚は 10cm 未満となっている。また、同記載によれば、Sz-17 と下位の入戸火砕流堆積物との間の土壌の発達は良くないとされている。さらに、Sz-15 については、斜方輝石の屈折率が  $\gamma$  1.702～1.707 という比較的低い値が特徴とされている (森脇, 1994)。

今回の分析で XV 層 (試料番号 10) に確認された碎屑物のうち、火山ガラスについては、その特異な屈折率から、ほとんどが入戸火砕流に由来する火山ガラスからなり、桜島起源のテフラに由来する火山ガラスは分析処理済みの試料にはほとんど含まれていないと考えられる。軽石が粘土化していることから、桜島起源のテフラに由来する火山ガラスも粘土化しており、分析処理後の砂分には残存しなかった可能性が高い。一方、斜方輝石については、その屈折率から、明瞭に由来の異なる 2 種類の斜方輝石の混在していることが明らかにされた。

町田・新井 (2003) の記載との比較から、2 種類のうち高屈折率の斜方輝石は入戸火砕流に由来することが確実であるから、低屈折率の斜方輝石が桜島



第 105 表 テフラ組織分析試料一覧

層序			試料 番号	試料名	状態	出土区採取 年月日
—	—	—	1	7号連穴土坑土壌ブロック	径2～15mmの粘土化した黄橙色軽石濃集。	F-4区 H25. 9. 11
I層	表土					
II層	明黄色バミス	桜島起源の噴出物 安永ボラ点在	2	II層埋土土壌ブロック	径2～5mmの灰白色軽石散在。	E-5区 H25. 10. 21
III a層	黒色土					
III b層	暗茶褐色土					
III c層	オリーブ褐色土					
IV a層	茶褐色土					
IV b層	黄褐色土	桜島起源の噴出物	3	IV b層埋土土壌ブロック	径2～6mmの粘土化した黄色軽石やや濃集。	E-5区 H25. 10. 18
V a層	褐色土		4	V a層埋土土壌ブロック	径1～3mmの粘土化した黄色軽石散在。	E-5区 H25. 10. 18
V b層	赤褐色土	アカホヤ火山灰				
V c層	明赤褐色土	アカホヤ火山灰 鬼界カルデラ起源の火山灰				
VI層	明黄褐色土	桜島起源の噴出物	5	VI層埋土土壌ブロック	径2～6mmのやや粘土化した黄白色軽石散在。	E-5区 H25. 10. 18
VII層	黒褐色土	桜島起源の噴出物	6	VII層埋土土壌ブロック	径1.5～15mmの粘土化した黄色軽石・ 橙色軽石濃集。	E-5区 H25. 10. 18
VIII層	黄白色火山灰土	桜島薩摩テフラ				
IX層	黒色粘質土					
X層	茶褐色粘質土					
XI層	黒褐色粘質土					
XII層	茶褐色硬質土	桜島起源の噴出物	7	XII層埋土土壌ブロック	径2mmの粘土化した赤褐色軽石点在、 径2～3mmの灰白色岩片点在。	E-5区 H25. 10. 21
XIII層	暗茶褐色硬質土	桜島起源の噴出物	8	XIII層埋土土壌ブロック	径5～15mmの粘土化した橙色軽石点在、 径1～2mmの灰色岩片散在。	E-5区 H25. 10. 18
XIV層	黄茶褐色硬質土	桜島起源の噴出物	9	XIV層埋土土壌ブロック	径1～10mmの粘土化した黄色軽石散在、 径2mmの灰色岩片点在。	E-5区 H25. 10. 21
XV層	暗黄褐色土	桜島起源の噴出物	10	XV層埋土土壌ブロック	径1～7mmの粘土化した橙色軽石散在、 径1～2mmの灰色岩片散在。	E-5区 H25. 10. 21
XVI層	明黄白色砂質土					

起源のテフラに由来するものである。この斜方輝石の屈折率は上述した桜島起源の3枚のテフラのうちのSz-15とは異なり、町田・新井(2003)のSz-17の値とほぼ一致する。Sz-16の斜方輝石の屈折率の公表値は認められないが、下記のXIV層中の軽石がSz-15には対比されないことを考慮すれば、XV層中に再堆積物として混入する軽石はSz-17に由来する可能性が高い。

XIV層は発掘調査所見により桜島起源の噴出物とさ

れ、また試料番号9の表面観察からも、黄色軽石からなるテフラの降下堆積層準に相当する可能性があると考えられる。試料番号9の火山ガラスは、その屈折率が上述した試料番号10のそれとほぼ同様であることから、ほとんどが入戸火砕流由来のものである。これは、試料番号9の軽石もほとんどが粘土化していることによる。しかし、斜方輝石の屈折率からは、3種類の異なるテフラの混在が推定される。高屈折率の斜方輝石は試料番号10と同様に入戸火砕流に由来する

ものであり、低屈折率の斜方輝石は試料番号10の低屈折率のレンジとほぼ同様であることから、Sz-17に由来する可能性が高い。したがって、中屈折率の斜方輝石が、XIV層中に降下堆積した黄色軽石からなるテフラに由来する可能性が高い。中屈折率のレンジは上述したSz-15の斜方輝石の屈折率とは異なることから、XIV層の黄色軽石のテフラは、Sz-16に対比される可能性が高い。Sz-16の噴出年代は、暦年代で（以下文中の年代は暦年代）約25,000年前とされている（奥野, 2002）ことから、XIV層の形成年代も、ほぼその前後と考えられる。

XIII層も発掘調査所見により桜島起源の噴出物とされているが、試料番号8の表面観察からは、XIV層の試料番号9に比べて軽石の含有の少ないことが指摘できる。試料番号8の火山ガラスはその屈折率から試料番号9と同様の入戸火砕流由来のものであり、斜方輝石についても、試料番号9の高屈折率のレンジは認められないが、試料番号9の低屈折率と中屈折率のレンジが認められている。これらの状況から、XIII層中の軽石は、下位のSz-17やSz-16に由来する再堆積物の可能性が考えられる。

XII層もXIII層と同様に桜島起源の噴出物とされているが、試料番号7の表面観察からは、試料番号8と同様に軽石の含有の少ないことが指摘できる。また、火山ガラスの屈折率も試料番号8とほぼ同様である。ただし、斜方輝石の屈折率には、試料番号8と若干異なる様相が示されている。試料番号7も高屈折率と低屈折率のレンジに分かれるが、高屈折率のレンジは試料番号9や8の低屈折率のレンジよりもやや低く、低屈折率のレンジはさらに低い。これらのうち、試料番号7の高屈折率のレンジの数値をみると、前述したSz-15の斜方輝石のレンジと重複する範囲が大きい。上述したXIII層以下の対比結果も考慮すれば、XII層中に含まれる軽石の中には、Sz-15に由来する軽石が含まれている可能性が高い。前述した森脇（1994）のSz-15の産状から、XII層の形成時期にSz-15の降下堆積があったが、降下した碎屑物の量が少ないためにその後の土壌形成過程において軽石は攪乱された可能性がある。なお、試料番号7の低屈折率のレンジは、町田・新井（2003）の記載では、桜島のテフラや始良カルデラのテフラには認められない値である。九州の火山に由来するテフラとしては、霧島火山起源のテフラにこのような低屈折率の斜方輝石が認められる。現時点では、XII層の層位に整合する霧島火山のテフラは認められないことから、その由来は今後の課題とされる。

#### ・VII層・VI層

VII層とVI層はSz-Sよりも上位の層位であり、また

発掘調査所見により、VI層の上位のVc層はK-Ahの堆積層準であることから、Sz-SとK-Ahの両テフラの噴出の間に形成された火山灰土層となる。VII層とVI層はともに桜島起源の噴出物という所見であるが、試料の表面観察からはVI層（試料番号5）の方が含有される軽石が多く、テフラの降下堆積層準に相当する可能性がある。Sz-SとK-Ahの両テフラの噴出の間の時期に天神段遺跡付近に降下した桜島起源のテフラは、Sz-13, Sz-12, Sz-11のいずれかであると考えられる。これらのうち、Sz-11については桜島から東北東の末吉方面に分布軸を持ち、K-Ahとの間にはほとんど土壌が形成されていないとの記載（森脇, 1994）から、VI層中のテフラに対比される可能性は低い。一方、Sz-12の分布軸は桜島から東方（森脇, 1994）、Sz-13の分布軸は桜島の東方および南東の2つが存在する（小林・江崎, 1997）とされていることから、VI層のテフラは、これらのうちのいずれかに対比されると考えられる。

VI層（試料番号5）の火山ガラスの屈折率は、主要レンジと低屈折率および高屈折率とに3分された。これらのうち、主要レンジは、Sz-Sの火山ガラスのレンジとほぼ一致し、低屈折率は入戸火砕流由来の火山ガラスによるものと考えられる。したがって、高屈折率の火山ガラスが、VI層中の桜島起源のテフラに由来する可能性がある。その値は町田・新井（2003）に掲載された値との比較から、Sz-12よりもSz-13に近いと判断される。したがって、VI層中の軽石は、Sz-13に対比される可能性が高い。なお、試料番号5の斜方輝石の屈折率は低屈折率と高屈折率の2つのレンジに分かれたが、高屈折率の斜方輝石はその値から、入戸火砕流に由来するものである。一方の低屈折率の斜方輝石は、Sz-SおよびSz-13（両テフラの斜方輝石の屈折率のレンジはほとんど重複する）に由来すると考えられる。Sz-13の噴出年代は、10,600年前とされている（奥野, 2002）ことから、VI層の形成時期もその前後であると言える。

VI層中の桜島起源のテフラがSz-13に対比されることにより、VII層中に認められた軽石はSz-Sの再堆積物である可能性がある。火山ガラスの屈折率をみると、不明瞭ではあるが、高屈折率のレンジはほぼSz-Sの火山ガラスの屈折率に相当し、低屈折率のレンジは入戸火砕流由来の火山ガラスの屈折率に相当する。斜方輝石の屈折率では低屈折率の斜方輝石はSz-S由来であり、高屈折率の斜方輝石は入戸火砕流由来である。さらに超高屈折率の斜方輝石が検出されたが、この値は始良カルデラのテフラである燃島テフラ（Mj: 小林, 1986）の斜方輝石に認めることができる。MjはSz-15噴出後、Sz-S噴出以前の約19,100年前

に始良カルデラから噴出したテフラである。VI層中には、Mjに由来する砕屑物も再堆積物として含まれていることがわかる。

#### ・ V a層・ IV b層

V a層は発掘調査所見では褐色土とされている層位であるが、直下のV b層はアカホヤ火山灰とされている。V a層中の火山ガラスもK-Ahの特徴であるバブル型が多く、褐色のバブル型も含まれていることから、ほとんどがK-Ahに由来すると考えられる。V a層（試料番号4）の火山ガラスの屈折率もK-Ahの既知の値とほぼ一致する。試料番号4の斜方輝石の屈折率もK-Ahの値とほぼ一致するが、レンジの幅が高屈折率側にやや広がっている。そのダイアグラムから、 $\gamma$  1.713-1.715という高屈折率の斜方輝石が分離される可能性もある。ここで試料番号4の重鉱物組成には微量の角閃石が含まれていることも指摘できる。K-Ahとの層位関係と試料の表面に観察された黄色軽石、上述した高屈折率の斜方輝石および角閃石の含有ということとを合わせると、V a層中には池田湖カルデラ起源のテフラである池田湖テフラ（Ik: 成尾・小林, 1983）に由来する砕屑物が含まれている可能性がある。Ikの噴出年代は6, 400年前とされていることから、V a層の形成時期もその前後という可能性があると考えられる。

IV b層は発掘調査所見により桜島起源の噴出物とされていることと試料番号3の表面に黄色軽石のやや濃集する状況が認められたことから、桜島起源のテフラの降下堆積層準を含む層位であると考えられる。上述したV a層の対比から、Ikの降下堆積以降に桜島から噴出したテフラに対比される可能性が高い。Ik以降の桜島テフラとしては、森脇（1994）が天神段遺跡に近い野方の露頭でTk-2として記載したSz-7が挙げられる。Sz-7は桜島の東南東に広がる大規模な軽石層とされている（小林・江崎, 1997）。試料番号3の火山ガラスはその形態組成からほとんどがK-Ah由来であり、その屈折率もK-Ahの値を示している。一方、斜方輝石の屈折率では主要レンジと高屈折率とに分かれるが、高屈折率の斜方輝石は入戸火砕流由来のものである。主要レンジの値はK-Ahの値とも一致するが、Sz-7の値とも一致する。このことから、IV b層中の黄色軽石は、Sz-7に対比される可能性がある。Sz-7に由来する火山ガラスは粘土化しており、処理後の試料には残存しなかったと考えられる。Sz-7の噴出年代は約5,000年前とされている（奥野, 2002）から、IV b層の形成時期もその前後という可能性があると考えられる。

#### ・ II層

II層は明黄色パミスとされている層位であり、桜島

起源の噴出物、安永ボラ点在との所見がある。II層の試料番号2の表面観察では、灰白色の軽石の散在が認められており、これが安永ボラすなわちSz-2（安永軽石, AD1779年）に対比されるものであろう。試料番号2の火山ガラス比分析で認められた火山ガラスは軽石型主体であるが、明らかにSz-2には由来しない無色透明のバブル型火山ガラスや褐色のバブル型も混在している。火山ガラスの屈折率からは低屈折率の火山ガラスが認められ、その値から、これは入戸火砕流に由来することがわかる。また、主要レンジはSz-2の火山ガラスの屈折率とほぼ一致するが、若干低い値も含まれており、その中にはK-Ahに由来する火山ガラスが含まれていることが示唆される。斜方輝石の屈折率をみても、高屈折率の斜方輝石は入戸火砕流に由来するものであり、低屈折率の斜方輝石は、Sz-2に由来すると判断される。

#### ② 7号連穴土坑について

7号連穴土坑の覆土から採取された試料番号1の表面観察では軽石の濃集する状況が認められた。火山ガラス比分析では軽石型火山ガラスを主体とする組成が得られたが、その屈折率をみると、3つのレンジに分かれており、少なくとも3種類のテフラに由来する火山ガラスが混在している可能性があると考えられる。この状況は、今回のVI層の試料である試料番号5の火山ガラスの屈折率の状況と類似する。発掘調査所見では、7号連穴土坑の検出面はVIII層であるが、掘り込み面はそれよりも上位であったと考えられていることから、試料番号1の覆土はVI層に由来する可能性がある。試料番号5では、低い屈折率の火山ガラスは入戸火砕流、主要レンジの火山ガラスはSz-S、高屈折率の火山ガラスはSz-13にそれぞれ由来することから、7号連穴土坑の覆土中に認められた軽石はSz-13に由来すると考えられる。

7号連穴土坑の図面記載では土坑覆土中の軽石は密に入るとされている部分があるが、降下堆積層としては認められていない。この状況からは、土坑が開口している時期に軽石が降下堆積したかどうかは不明である。土坑開口時に降下堆積したのであれば、土坑の構築時期は、Sz-13の噴出年代より以前であるが、土坑周囲のVI層を構成していた土が土坑内に落ち込んだという場合には土坑の構築時期はSz-13の噴出年代よりも後になる可能性がある。今後、周辺の類例における軽石の産状との比較検討を行う必要があると考えられる。

### 第3節 放射性炭素年代測定

これまで放射性炭素年代測定を平成19年度から16回実施し、そのうち縄文時代早期に係る測定は9回にわたる。実施してきた年代測定の中で、縄文時代早期に係る測定結果を抜粋して掲載する。

なお、縄文時代前期以降に関する測定結果は、既刊の「天神段遺跡1」および「天神段遺跡2」の報告書に掲載してあることから該当する報告書を参照していただきたい。

#### (1) 放射性炭素年代測定 1

##### 1 はじめに

鹿児島県曾於郡大崎町野方に位置する天神段遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。なお、No. 3の試料は同一試料について樹種同定を行った。

##### 2 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第106表のとおりである。

試料は炭化材で、部位不明である。試料No. 3は樹種同定の結果ケヤキと同定されている。試料採取位置は、No. 3(PLD-12245)がJ-16区1トレンチVII層である。

試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた $^{14}\text{C}$ 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$ 年代、暦年代を算出した。なお、同時に試料No. 1、No. 2、No. 4の測定も行った。その測定結果については「天神段遺跡1」の報告書に試料No. 1とNo. 2、「天神段遺跡4」の報告書に試料No. 4が掲載してある。

##### 3 結果

第107表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した $^{14}\text{C}$ 年代、 $^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲を、第601図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$ 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$ 年代(yrBP)の算出には、 $^{14}\text{C}$ の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した $^{14}\text{C}$ 年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその $^{14}\text{C}$ 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

##### 暦年較正

暦年較正とは大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された $^{14}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度

や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、及び半減期の違い( $^{14}\text{C}$ の半減期 $5730 \pm 40$ 年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$ 年代の暦年較正にはOxCal4.0(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、 $1\sigma$ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された $^{14}\text{C}$ 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は $^{14}\text{C}$ 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については表中に下線で示してある。

#### 4 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。以下、 $2\sigma$ 暦年代範囲に着目して結果を整理する。試料No. 3(PLD-12245)は、 $^{14}\text{C}$ 年代が $7685 \pm 35$ 、 $2\sigma$ 暦年代範囲が6595-6461calBC(95.4%)で、キーリ・武藤(1982)や小林(2008)を参照すると縄文時代早期に相当する。

#### 参考文献

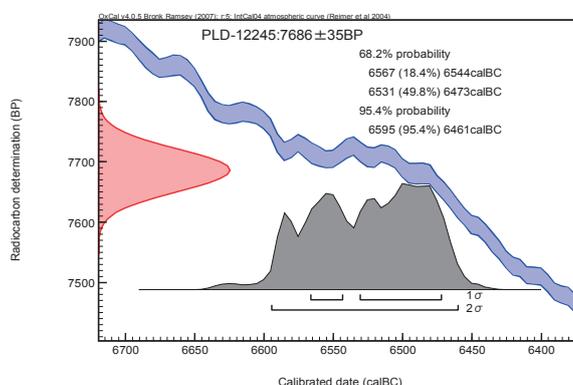
- キーリ C.T.・武藤康弘(1982) 縄文時代の年代. 縄文文化の研究1, 246-275, 雄山閣.
- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.
- 小林謙一(2008) 縄文時代の暦年代. 縄文時代の考古学2 歴史のものさし, 257-269, 同成社.
- 中村俊夫(2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の $^{14}\text{C}$ 年代. 3-20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029-1058.

第 106 表 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-12245	調査区：J-16 区 1 トレンチ 層位：VII層 試料 No. : 3 その他：樹種同定	試料の種類：炭化材（ケヤキ） 試料の性状：部位不明 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N, 水酸化ナトリウム：1N, 塩酸：1.2N） サルフィックス

第 107 表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-12245 試料 No. : 3	-28.36 $\pm$ 0.40	7686 $\pm$ 35	7685 $\pm$ 35	6567BC (18.4%) 6544BC 6531BC (49.8%) 6473BC	6595BC (95.4%) 6461BC



第 601 図 暦年較正年代グラフ

## (2) 放射性炭素年代測定 2

### 1 測定対象試料

天神段遺跡は、鹿児島県曾於郡大崎町野方 7233 番地ほか（北緯 31° 30′ 31″ 5260, 東経 130° 55′ 40″ 2406）に所在し、北側に向かってハツ手状に延びる、標高約 200m の台地の北端部に位置する。測定対象試料は、5 基の連穴土坑から出土した木片（No. 1 : IAAA-110883 ~ No. 5 : IAAA-110887）の合計 5 点である（第 108 表）。

### 2 測定の意義

遺跡内に位置する複数の連穴土坑の前後関係及び遺構の継続期間を明らかにする。

### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ (1M) の塩酸

(HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 108 表に記載する。

- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 4 測定方法

加速器をベースとした  $^{14}\text{C}$ -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 $^{14}\text{C}$  の計数、 $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ),  $^{14}\text{C}$  濃度 ( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の  $^{13}\text{C}$  濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である(第 108 表)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2)  $^{14}\text{C}$  年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中  $^{14}\text{C}$  濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$  年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第 108 表に、補正していない値を参考値として第 109 表に示した。 $^{14}\text{C}$  年代と誤差は、下一桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$  年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$  濃度の割合である。pMC が小さい ( $^{14}\text{C}$  が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 ( $^{14}\text{C}$  の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を第 108 表に、補正していない値を参考値として第 109 表に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$  濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$  濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$  年代、横軸が暦年較正年代を表す (第 602 図)。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下一桁を丸めない  $^{14}\text{C}$  年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。

また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09 データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 109 表に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$  年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## 6 測定結果

試料の  $^{14}\text{C}$  年代は、20 号連穴土坑から出土した No. 1 が  $9100 \pm 30\text{yrBP}$ 、同 15 号から出土した No. 2 が  $9100 \pm 30\text{yrBP}$ 、同 14 号から出土した No. 3 が  $9040 \pm 30\text{yrBP}$ 、同 5 号から出土した No. 4 が  $9050 \pm 30\text{yrBP}$ 、同 21 号から出土した No. 5 が  $9150 \pm 30\text{yrBP}$  である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、No. 1 が 8313 ~ 8276cal BC の範囲、No. 2 が 8308 ~ 8276cal BC の範囲、No. 3 が 8281 ~ 8251cal BC の範囲、No. 4 が 8285 ~ 8251cal BC の範囲、No. 5 が 8422 ~ 8289cal BC の間に 3 つの範囲で示され、いずれも縄文時代早期前葉頃に相当する。

試料の炭素含有率はすべて 60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 参考文献

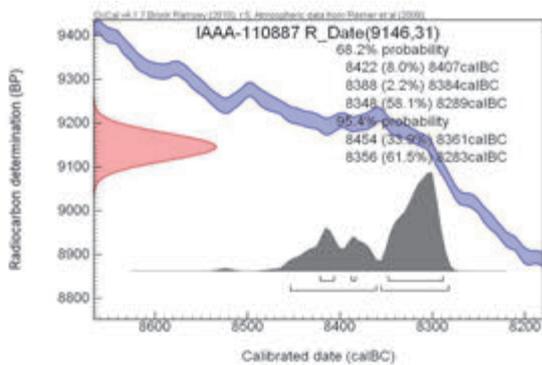
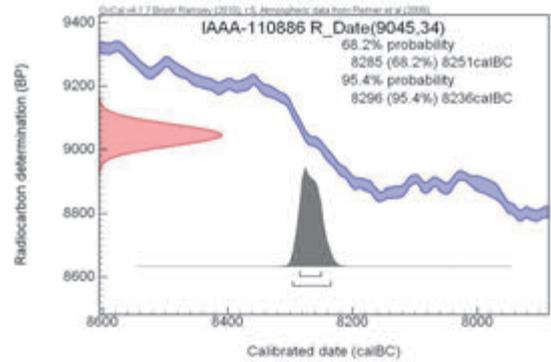
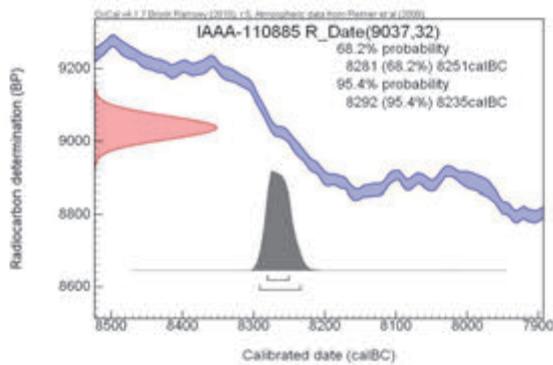
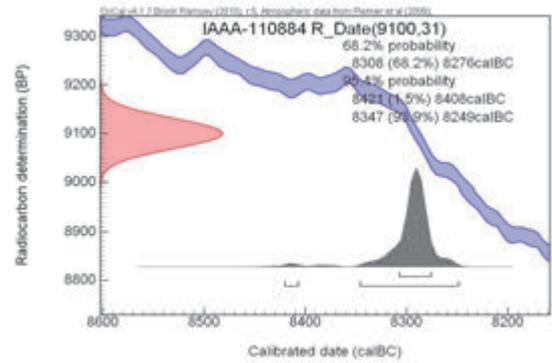
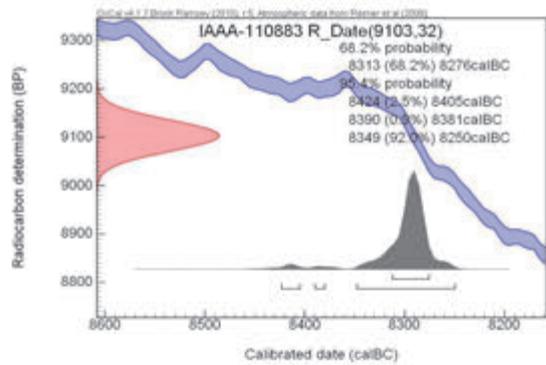
- Stuiver M. and Polach H. A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19(3), 355-363  
 Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360  
 Reimer, P. J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

第 108 表 測定試料及び処理

測定番号	試料名	採取場所	試料	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり			
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)	
IAAA-110883	No. 1	20 号連穴土坑埋土	木片	AaA	-26.24 ± 0.56	9,100 ± 30	30	32.20 ± 0.13	
IAAA-110884	No. 2	15 号連穴土坑埋土	木片	AaA	-25.94 ± 0.54	9,100 ± 30	30	32.21 ± 0.13	
IAAA-110885	No. 3	14 号連穴土坑埋土	木片	AaA	-27.80 ± 0.56	9,040 ± 30	30	32.46 ± 0.13	
IAAA-110886	No. 4	5 号連穴土坑埋土	木片	AAA	-29.60 ± 0.50	9,050 ± 30	30	32.43 ± 0.14	
IAAA-110887	No. 5	21 号連穴土坑埋土	木片	AaA	-26.47 ± 0.46	9,150 ± 30	30	32.03 ± 0.13	

第 109 表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-110883	9,120 $\pm$ 30	32.12 $\pm$ 0.12	9,103 $\pm$ 32	8313calBC - 8276calBC (68.2%)	8424calBC - 8405calBC (2.5%) 8390calBC - 8381calBC (0.9%) 8349calBC - 8250calBC (92.0%)
IAAA-110884	9,120 $\pm$ 30	32.15 $\pm$ 0.12	9,100 $\pm$ 31	8308calBC - 8276calBC (68.2%)	8421calBC - 8408calBC (1.5%) 8347calBC - 8249calBC (93.9%)
IAAA-110885	9,080 $\pm$ 30	32.28 $\pm$ 0.12	9,037 $\pm$ 32	8281calBC - 8251calBC (68.2%)	8292calBC - 8235calBC (95.4%)
IAAA-110886	9,120 $\pm$ 30	32.13 $\pm$ 0.13	9,045 $\pm$ 34	8285calBC - 8251calBC (68.2%)	8296calBC - 8236calBC (95.4%)
IAAA-110887	9,170 $\pm$ 30	31.93 $\pm$ 0.12	9,146 $\pm$ 31	8422calBC - 8407calBC (8.0%) 8388calBC - 8384calBC (2.2%) 8348calBC - 8289calBC (58.1%)	8454calBC - 8361calBC (33.9%) 8356calBC - 8283calBC (61.5%)



第 602 図 暦年較正年代グラフ

### (3) 放射性炭素年代測定 3

#### 1 測定対象試料

鹿児島県天神段遺跡の測定対象試料は、土坑から出土した炭化物1点、堅穴住居状遺構から出土した炭化物5点の合計6点である(第110・111表, 第603図)。なお、他に13点の試料も毎月に測定を行ったが、その結果については「天神段遺跡1」と「天神段遺跡2」の報告書に記載してある。

#### 2 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

#### 3 化学処理工程

「(2) 放射性炭素年代測定2」を参照

#### 4 測定方法

「(2) 放射性炭素年代測定2」を参照

#### 5 算出方法

「(2) 放射性炭素年代測定2」を参照

#### 6 測定結果

土坑から出土した炭化物の<sup>14</sup>C年代は、5号連穴土坑が9170 ± 40yrBPである。

堅穴住居状遺構から出土した炭化物の<sup>14</sup>C年代は、6

号堅穴住居状遺構が9080 ± 40yrBP, 3号堅穴住居状遺構が9050 ± 50yrBP, 7号堅穴住居状遺構が9010 ± 40yrBP, 9号堅穴住居状遺構が9110 ± 40yrBP, 5号堅穴住居状遺構が9260 ± 40yrBPである。試料14～18は、9000～9300yrBP頃の範囲にまとまっている。暦年較正年代(1σ)は、14が8299～8264cal BCの範囲、15が8291～8247cal BCの範囲、16が8282～8227cal BCの範囲、17が8332～8276cal BCの範囲、18が8564～8352cal BCの間に2つの範囲で示される。14～18は縄文時代早期前葉頃に相当する。

試料の炭素含有率はすべて60%以上の十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

#### 参考文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363  
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360  
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

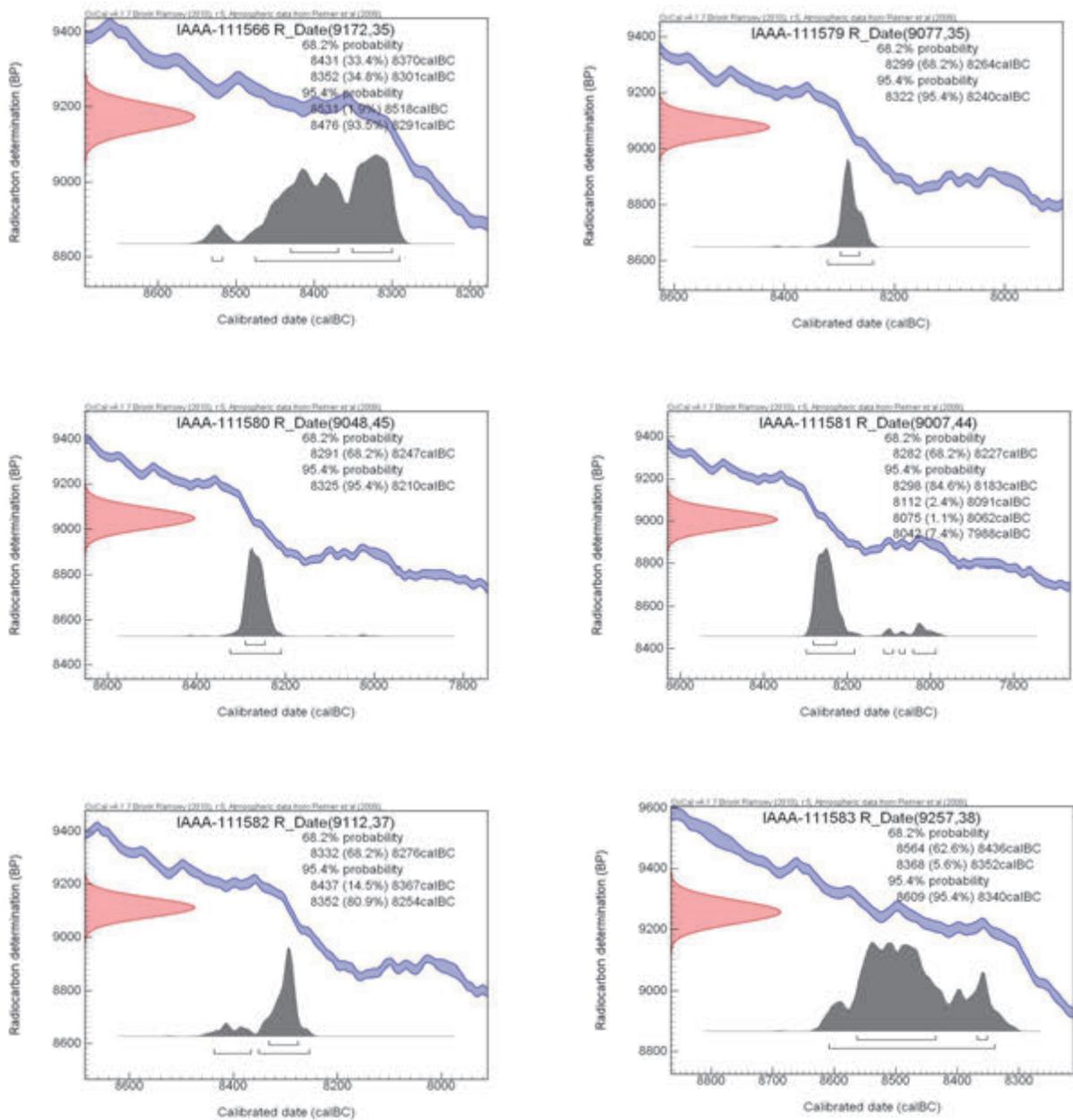
第110表 測定試料及び処理

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)	δ <sup>13</sup> C 補正あり			
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)	
IAAA-111566	1	5号連穴土坑	炭化物	AaA	-25.15 ± 0.56	9,170 ± 40	31.92 ± 0.14		
IAAA-111579	14	6号堅穴住居状遺構	炭化物	AAA	-27.88 ± 0.61	9,080 ± 40	32.3 ± 0.14		
IAAA-111580	15	3号堅穴住居状遺構	炭化物	AAA	-33.3 ± 0.63	9,050 ± 50	32.42 ± 0.18		
IAAA-111581	16	7号堅穴住居状遺構	炭化物	AaA	-30.79 ± 0.79	9,010 ± 40	32.59 ± 0.18		
IAAA-111582	17	9号堅穴住居状遺構	炭化物	AAA	-27.44 ± 0.39	9,110 ± 40	32.16 ± 0.15		
IAAA-111583	18	5号堅穴住居状遺構	炭化物	AaA	-29.34 ± 0.39	9,260 ± 40	31.59 ± 0.15		

第111表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

測定番号	δ <sup>13</sup> C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-111566	9,180 ± 40	31.91 ± 0.14	9,172 ± 35	8431calBC - 8370calBC (33.4%) 8352calBC - 8301calBC (34.8%)	8531calBC - 8518calBC (1.9%) 8476calBC - 8291calBC (93.5%)
IAAA-111579	9,130 ± 30	32.11 ± 0.14	9,077 ± 35	8299calBC - 8264calBC (68.2%)	8322calBC - 8240calBC (95.4%)
IAAA-111580	9,190 ± 50	31.87 ± 0.18	9,048 ± 45	8291calBC - 8247calBC (68.2%)	8325calBC - 8210calBC (95.4%)
IAAA-111581	9,100 ± 40	32.2 ± 0.17	9,007 ± 44	8282calBC - 8227calBC (68.2%)	8298calBC - 8183calBC (84.6%) 8112calBC - 8091calBC (2.4%) 8075calBC - 8062calBC (1.1%) 8042calBC - 7988calBC (7.4%)
IAAA-111582	9,150 ± 40	32 ± 0.15	9,112 ± 37	8332calBC - 8276calBC (68.2%)	8437calBC - 8367calBC (14.5%) 8352calBC - 8254calBC (80.9%)
IAAA-111583	9,330 ± 40	31.31 ± 0.15	9,257 ± 38	8564calBC - 8436calBC (62.6%) 8368calBC - 8352calBC (5.6%)	8609calBC - 8340calBC (95.4%)





第 603 図 暦年較正年代グラフ

#### (4) 放射性炭素年代測定 4

##### 1 測定対象試料

鹿児島県天神段遺跡の測定対象試料は集石遺構から出土した炭化物 15 点であるが、試料 15 は欠番である（第 112～114 表，第 604～606 図）。なお，他に 5 点の試料も測定したが，結果については「天神段遺跡 1」および「天神段遺跡 2」の報告書に記載してある。

##### 2 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

##### 3 化学処理工程

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

##### 4 測定方法

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

##### 5 算出方法

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

##### 6 測定結果

集石遺構から出土した炭化物は 14 点が測定され，それらの  $^{14}\text{C}$  年代を古い方から順に検討すると，最も古い 246 号集石遺構が  $8330 \pm 40\text{yrBP}$ ，次いで 169 号集石遺

構が 7970 ± 30yrBP, 139 号集石遺構が 7440 ± 30yrBP である。これらの次に古い 304 号集石遺構 (7240 ± 30yrBP) から 206 号集石遺構 (6850 ± 30yrBP) の間に 3, 7, 9 ~ 13, 16, 17 が含まれ, 誤差 (± 1σ) の範囲で値が重なるなど, 相互に近接した年代値が多く認められる。暦年較正年代 (1σ) を上述の試料について古い方から順に見ると, 14 が 7466 ~ 7352cal BC の範囲, 1 が 7029 ~ 6823cal BC の間に 2 つの範囲, 2 が 6367 ~ 6254cal BC の間に 2 つの範囲, 4 が 6205 ~ 6051cal BC の間に 4 つの範囲, 8 が 5749 ~ 5673cal BC の範囲, 15 が 1303 ~ 1134cal BC の間に 2 つの範囲で示される。これらの年代値は, 全体として縄文時代早期中葉から早期末・前期初頭頃に相当する。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で, 化学処理, 測定上の問題は認められない。

#### 参考文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360
- Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

第 112 表 測定試料及び処理

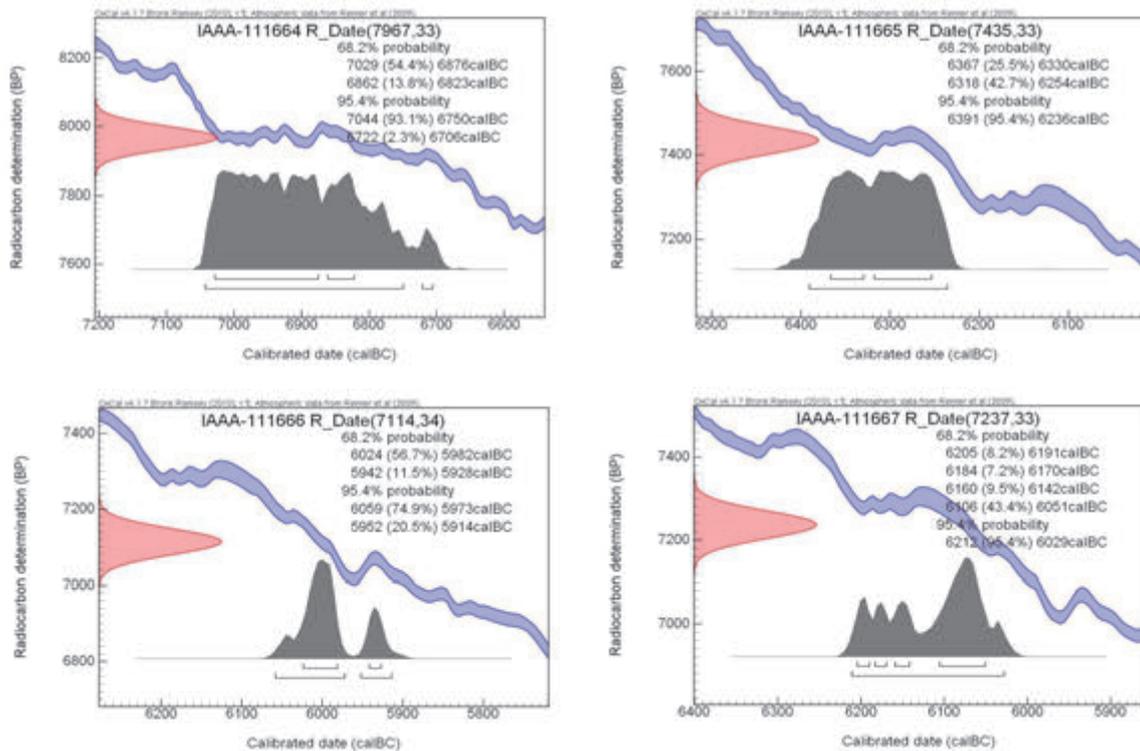
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)	δ <sup>13</sup> C 補正あり			
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)	
IAAA-111664	1	169 号集石遺構	炭化物	AAA	-26.03 ± 0.54	7,970 ± 30	37.09 ± 0.15		
IAAA-111665	2	139 号集石遺構	炭化物	AaA	-28.05 ± 0.68	7,440 ± 30	39.63 ± 0.17		
IAAA-111666	3	186 号集石遺構	炭化物	AaA	-27.19 ± 0.62	7,110 ± 30	41.25 ± 0.18		
IAAA-111667	4	304 号集石遺構	炭化物	AaA	-28.51 ± 0.7	7,240 ± 30	40.62 ± 0.17		
IAAA-111670	7	217 号集石遺構	炭化物	AaA	-28.1 ± 0.74	7,010 ± 40	41.79 ± 0.18		
IAAA-111671	8	206 号集石遺構	炭化物	AaA	-26.69 ± 0.53	6,850 ± 30	42.65 ± 0.18		
IAAA-111672	9	174 号集石遺構	炭化物	AaA	-25.23 ± 0.56	7,010 ± 40	41.76 ± 0.18		
IAAA-111673	10	223 号集石遺構	炭化物	AaA	-28.96 ± 0.67	7,000 ± 40	41.85 ± 0.19		
IAAA-111674	11	298 号集石遺構	炭化物	AAA	-26.89 ± 0.49	7,020 ± 30	41.75 ± 0.17		
IAAA-111675	12	195 号集石遺構	炭化物	AaA	-26.23 ± 0.43	6,930 ± 30	42.18 ± 0.18		
IAAA-111676	13	300 号集石遺構	炭化物	AaA	-24.92 ± 0.59	6,920 ± 40	42.25 ± 0.18		
IAAA-111677	14	246 号集石遺構	炭化物	AaA	-26.92 ± 0.45	8,330 ± 40	35.47 ± 0.16		
IAAA-111678	15	欠番	—	—	—	—	—		
IAAA-111679	16	244 号集石遺構	炭化物	AaA	-24.02 ± 0.65	7,070 ± 40	41.47 ± 0.18		
IAAA-111680	17	283 号集石遺構	炭化物	AaA	-29.27 ± 0.73	7,170 ± 30	40.95 ± 0.17		

第 113 表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 (1)

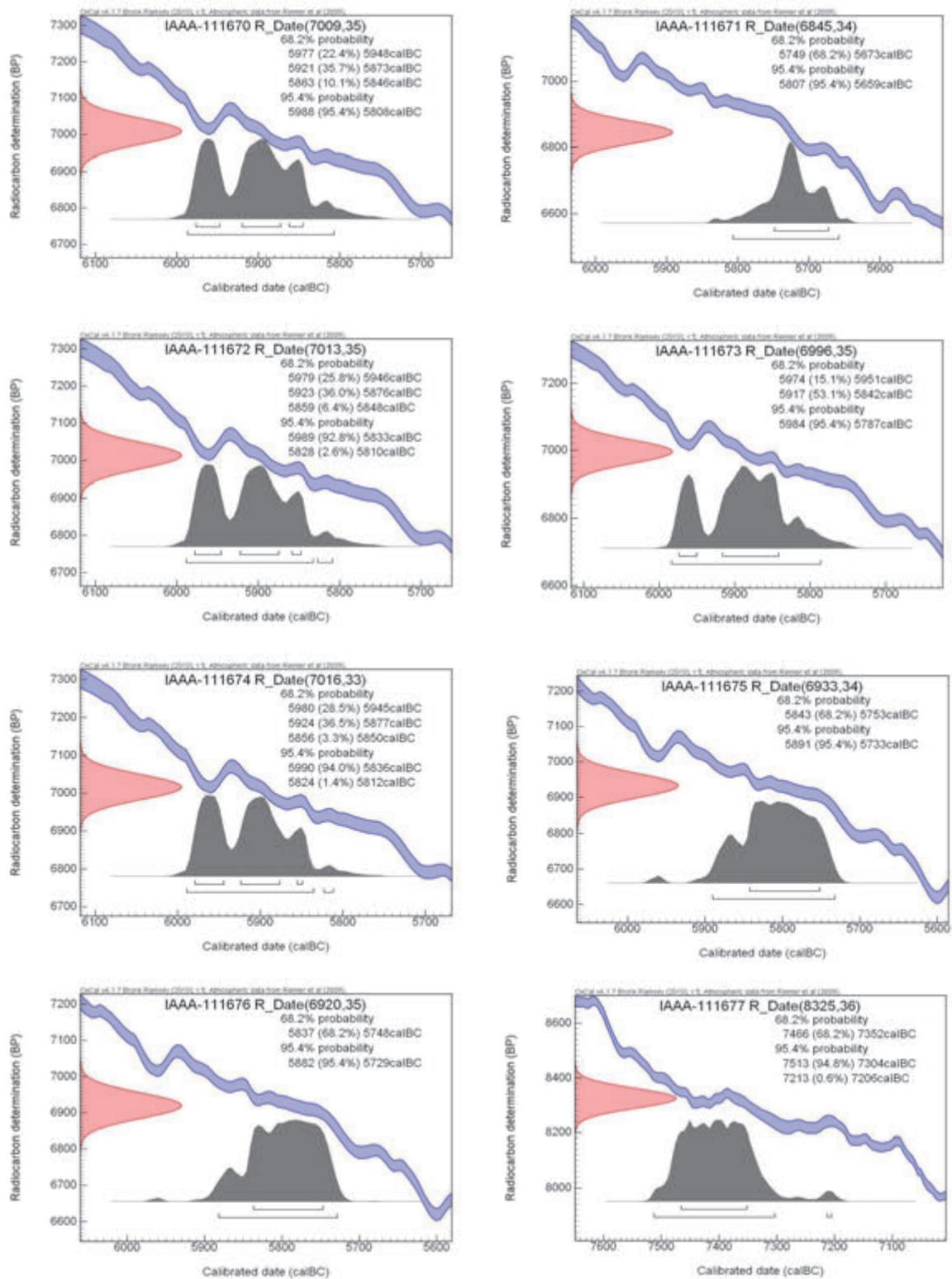
測定番号	δ <sup>13</sup> C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-111664	7,980 ± 30	37.01 ± 0.15	7,967 ± 33	7029calBC - 6876calBC (54.4%) 6862calBC - 6823calBC (13.8%)	7044calBC - 6750calBC (93.1%) 6722calBC - 6706calBC (2.3%)
IAAA-111665	7,490 ± 30	39.38 ± 0.16	7,435 ± 33	6367calBC - 6330calBC (25.5%) 6318calBC - 6254calBC (42.7%)	6391calBC - 6236calBC (95.4%)
IAAA-111666	7,150 ± 30	41.06 ± 0.17	7,114 ± 34	6024calBC - 5982calBC (56.7%) 5942calBC - 5928calBC (11.5%)	6059calBC - 5973calBC (74.9%) 5952calBC - 5914calBC (20.5%)
IAAA-111667	7,300 ± 30	40.32 ± 0.16	7,237 ± 33	6205calBC - 6191calBC (8.2%) 6184calBC - 6170calBC (7.2%) 6160calBC - 6142calBC (9.5%) 6106calBC - 6051calBC (43.4%)	6212calBC - 6029calBC (95.4%)

第 114 表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果 ( 2 )

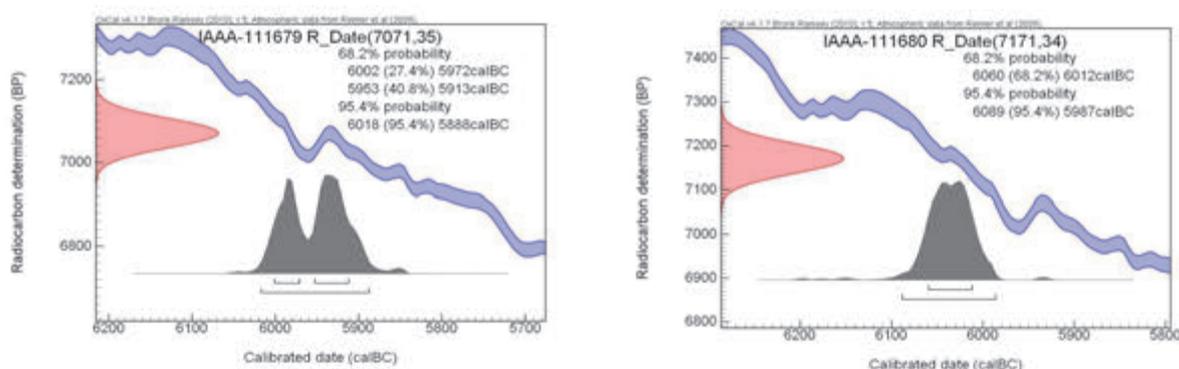
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-111670	7,060 $\pm$ 30	41.52 $\pm$ 0.17	7,009 $\pm$ 35	5977calBC - 5948calBC (22.4%) 5921calBC - 5873calBC (35.7%) 5863calBC - 5846calBC (10.1%)	5988calBC - 5808calBC (95.4%)
IAAA-111671	6,870 $\pm$ 30	42.5 $\pm$ 0.18	6,845 $\pm$ 34	5749calBC - 5673calBC (68.2%)	5807calBC - 5659calBC (95.4%)
IAAA-111672	7,020 $\pm$ 30	41.74 $\pm$ 0.18	7,013 $\pm$ 35	5979calBC - 5946calBC (25.8%) 5923calBC - 5876calBC (36.0%) 5859calBC - 5848calBC ( 6.4%)	5989calBC - 5833calBC (92.8%) 5828calBC - 5810calBC ( 2.6%)
IAAA-111673	7,060 $\pm$ 30	41.52 $\pm$ 0.18	6,996 $\pm$ 35	5974calBC - 5951calBC (15.1%) 5917calBC - 5842calBC (53.1%)	5984calBC - 5787calBC (95.4%)
IAAA-111674	7,050 $\pm$ 30	41.59 $\pm$ 0.17	7,016 $\pm$ 33	5980calBC - 5945calBC (28.5%) 5924calBC - 5877calBC (36.5%) 5856calBC - 5850calBC ( 3.3%)	5990calBC - 5836calBC (94.0%) 5824calBC - 5812calBC ( 1.4%)
IAAA-111675	6,950 $\pm$ 30	42.08 $\pm$ 0.17	6,933 $\pm$ 34	5843calBC - 5753calBC (68.2%)	5891calBC - 5733calBC (95.4%)
IAAA-111676	6,920 $\pm$ 30	42.26 $\pm$ 0.18	6,920 $\pm$ 35	5837calBC - 5748calBC (68.2%)	5882calBC - 5729calBC (95.4%)
IAAA-111677	8,360 $\pm$ 40	35.33 $\pm$ 0.16	8,325 $\pm$ 36	7466calBC - 7352calBC (68.2%)	7513calBC - 7304calBC (94.8%) 7213calBC - 7206calBC ( 0.6%)
IAAA-111678 (欠番)	-	-	-	-	-
IAAA-111679	7,060 $\pm$ 30	41.55 $\pm$ 0.17	7,071 $\pm$ 35	6002calBC - 5972calBC (27.4%) 5953calBC - 5913calBC (40.8%)	6018calBC - 5888calBC (95.4%)
IAAA-111680	7,240 $\pm$ 30	40.59 $\pm$ 0.16	7,171 $\pm$ 34	6060calBC - 6012calBC (68.2%)	6089calBC - 5987calBC (95.4%)



第 604 図 暦年較正年代グラフ ( 1 )



第 605 図 暦年較正年代グラフ (2)



第 606 図 暦年較正年代グラフ (3)

(5) 放射性炭素年代測定 5

1 測定対象試料

鹿児島県天神段遺跡の測定対象試料は、1号竪穴住居状遺構内出土炭化物(8:IAAA-123004), 30号連穴土坑内出土炭化物(11:IAAA-123007), 31号連穴土坑内出土炭化物(12:IAAA-123008), 25号連穴土坑内出土炭化物(13:IAAA-123009)の合計4点である(第115・116表, 第607図)。なお, 同時に行った他の測定結果については, 「天神段遺跡2」の報告書で掲載してある。

2 測定の意義

遺構, 遺物の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

4 測定方法

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

5 算出方法

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

6 測定結果

暦年較正年代(1σ)は, 8が8793~8657cal BCの間に2つの範囲, 11が8725~8631cal BCの範囲, 12

が8727~8634cal BCの範囲, 13が8340~8280cal BCの範囲で示される。8, 11, 12が縄文時代早期前葉から中葉頃, 13が縄文時代早期中葉頃に相当する(小林編2008, 藤尾2009)。

試料の炭素含有率はすべて約50%以上で, 化学処理, 測定上の問題は認められない。

参考文献

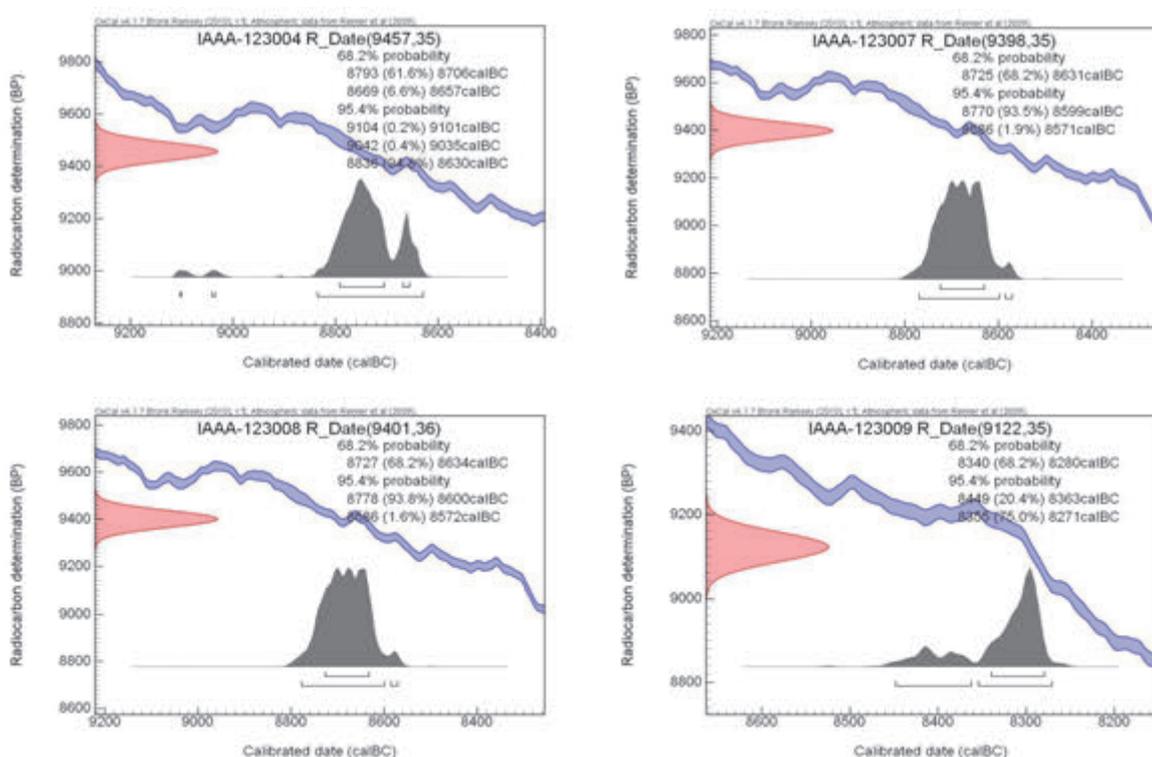
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360  
 藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 9-54  
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション  
 Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150  
 Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, Radiocarbon 19(3), 355-363  
 1 BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

第 115 表 測定試料及び処理

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)	δ <sup>13</sup> C 補正あり			
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)	
IAAA-123004	8	1号竪穴住居状遺構	炭化物	AAA	-22.99 ± 0.28	9,460 ± 40	30.81 ± 0.14		
IAAA-123007	11	30号連穴土坑	炭化物	AAA	-25.75 ± 0.29	9,400 ± 40	31.04 ± 0.14		
IAAA-123008	12	31号連穴土坑	炭化物	AAA	-24.3 ± 0.24	9,400 ± 40	31.03 ± 0.14		
IAAA-123009	13	25号連穴土坑	炭化物	AAA	-26.51 ± 0.28	9,120 ± 40	32.12 ± 0.14		

第 116 表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-123004	9,420 $\pm$ 40	30.94 $\pm$ 0.14	9,457 $\pm$ 35	8793calBC - 8706calBC (61.6%) 8669calBC - 8657calBC (6.6%)	9104calBC - 9101calBC (0.2%) 9042calBC - 9035calBC (0.4%) 8836calBC - 8630calBC (94.8%)
IAAA-123007	9,410 $\pm$ 40	30.99 $\pm$ 0.14	9,398 $\pm$ 35	8725calBC - 8631calBC (68.2%)	8770calBC - 8599calBC (93.5%) 8586calBC - 8571calBC (1.9%)
IAAA-123008	9,390 $\pm$ 40	31.07 $\pm$ 0.14	9,401 $\pm$ 36	8727calBC - 8634calBC (68.2%)	8778calBC - 8600calBC (93.8%) 8586calBC - 8572calBC (1.6%)
IAAA-123009	9,150 $\pm$ 40	32.02 $\pm$ 0.14	9,122 $\pm$ 35	8340calBC - 8280calBC (68.2%)	8449calBC - 8363calBC (20.4%) 8355calBC - 8271calBC (75.0%)



第 607 図 暦年較正年代グラフ

(6) 放射性炭素年代測定 6

1 測定対象試料

鹿児島県天神段遺跡の測定対象試料は、土器（掲載番号 273）付着炭化物（1：IAAA-123503）、土器（掲載番号 357）付着炭化物（2：IAAA-123504）、土器（掲載番号 720）付着炭化物（3：IAAA-123505）、土器（掲載番号

647）付着炭化物（4：IAAA-123506）、4号竪穴住居状遺構内出土炭化物（5：IAAA-123507）、61号土坑内出土炭化物（8：IAAA-123510）、1号集石遺構内出土炭化物（9：IAAA-123511）の合計7点である（第117・118表、第608・609図）。土器付着炭化物1、2は土器の外表面、3、4は土器の内面より採取された。

炭化物が採取された土器は、1がII類土器、2がV類

土器，3，4がXI類土器とされる。なお，同時に行った他の試料の測定結果は「天神段遺跡2」の報告書に掲載してある。

## 2 測定の意義

遺構，遺物の年代を明らかにする。

## 3 化学処理工程

「(2) 放射性炭素年代測定2」を参照

## 4 測定方法

「(2) 放射性炭素年代測定2」を参照

## 5 算出方法

「(2) 放射性炭素年代測定2」を参照

## 6 測定結果

試料の<sup>14</sup>C年代は，試料1が9420 ± 40yrBP，試料2が9010 ± 40yrBP，試料3が8860 ± 30yrBP，試料4が9050 ± 40yrBP，試料5が8780 ± 30yrBP，試料8が8280 ± 30yrBP，試料9が8380 ± 30yrBPである。

暦年較正年代(1σ)は，1が8745～8639cal BCの間に2つの範囲，2が8276～8236cal BCの範囲，3が8200～7956cal BCの間に4つの範囲，4が8288～8254cal BCの範囲，5が7938～7751cal BCの間に2

つの範囲，8が7452～7197cal BCの間に3つの範囲，9が7521～7377cal BCの間に2つの範囲で示される。1が縄文時代早期前葉から中葉頃，2～5，8，9が縄文時代早期中葉頃，6が縄文時代前期後葉頃，7が縄文時代晩期前葉から中葉頃に相当する(小林編2008)。

試料の炭素含有率はすべて40%以上で，化学処理，測定上の問題は特に認められない。

## 参考文献

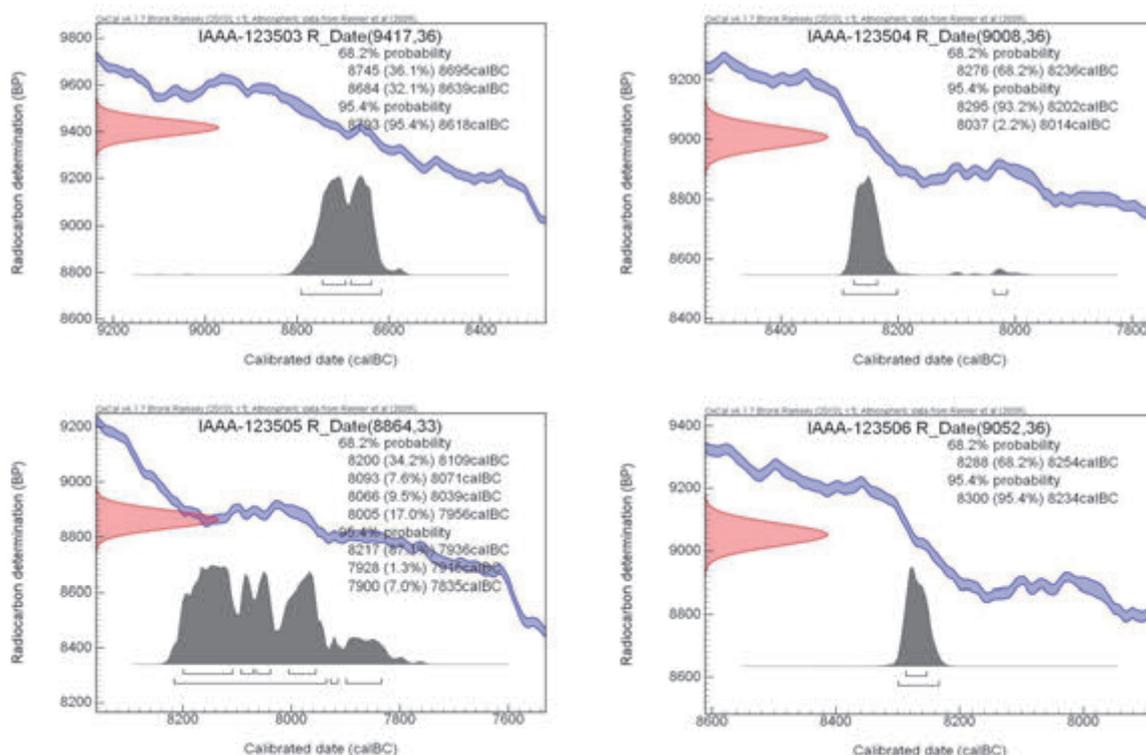
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360  
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器，総覧縄文土器刊行委員会，アム・プロモーション  
 Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150  
 Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, Radiocarbon 19(3), 355-363  
 ing of <sup>14</sup>C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

第117表 測定試料及び処理

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)	δ <sup>13</sup> C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-123503	1	I-20区	土器付着炭化物 (掲載番号273)	AaA	-25.46 ± 0.43	9,420 ± 40	30.96 ± 0.14
IAAA-123504	2	E-15区	土器付着炭化物 (掲載番号357)	AaA	-26.01 ± 0.46	9,010 ± 40	32.58 ± 0.15
IAAA-123505	3	L-16区	土器付着炭化物 (掲載番号720)	AaA	-24.43 ± 0.42	8,860 ± 30	33.17 ± 0.14
IAAA-123506	4	L-16区	土器付着炭化物 (掲載番号647)	AaA	-21.70 ± 0.37	9,050 ± 40	32.40 ± 0.15
IAAA-123507	5	4号竪穴住居状遺構内	炭化物	AaA	-25.13 ± 0.37	8,780 ± 30	33.53 ± 0.14
IAAA-123510	8	61号土坑内 (F-18区VIII層検出)	炭化物	AaA	-27.33 ± 0.4	8,280 ± 30	35.68 ± 0.15
IAAA-123511	9	1号集石遺構内 (E-22区VIII層検出)	炭化物	AAA	-25.54 ± 0.3	8,380 ± 30	35.23 ± 0.15

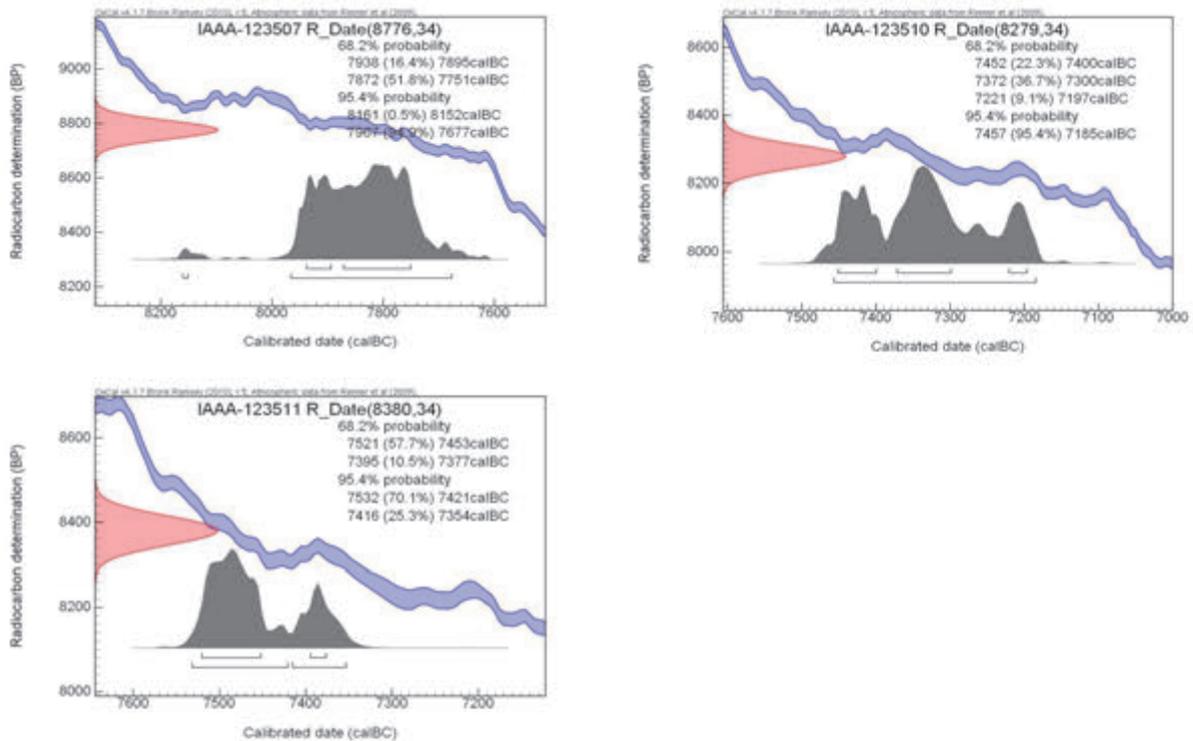
第 118 表 放射性炭素年代測定及び暦年較正結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-123503	9,430 $\pm$ 40	30.93 $\pm$ 0.14	9,417 $\pm$ 36	8745calBC - 8695calBC (36.1%) 8684calBC - 8639calBC (32.1%)	8793calBC - 8618calBC (95.4%)
IAAA-123504	9,030 $\pm$ 40	32.51 $\pm$ 0.15	9,008 $\pm$ 36	8276calBC - 8236calBC (68.2%)	8295calBC - 8202calBC (93.2%) 8037calBC - 8014calBC ( 2.2%)
IAAA-123505	8,850 $\pm$ 30	33.21 $\pm$ 0.13	8,864 $\pm$ 33	8200calBC - 8109calBC (34.2%) 8093calBC - 8071calBC ( 7.6%) 8066calBC - 8039calBC ( 9.5%) 8005calBC - 7956calBC (17.0%)	8217calBC - 7936calBC (87.1%) 7928calBC - 7915calBC ( 1.3%) 7900calBC - 7835calBC ( 7.0%)
IAAA-123506	9,000 $\pm$ 40	32.62 $\pm$ 0.15	9,052 $\pm$ 36	8288calBC - 8254calBC (68.2%)	8300calBC - 8234calBC (95.4%)
IAAA-123507	8,780 $\pm$ 30	33.52 $\pm$ 0.14	8,776 $\pm$ 34	7938calBC - 7895calBC (16.4%) 7872calBC - 7751calBC (51.8%)	8161calBC - 8152calBC ( 0.5%) 7967calBC - 7677calBC (94.9%)
IAAA-123510	8,320 $\pm$ 30	35.51 $\pm$ 0.15	8,279 $\pm$ 34	7452calBC - 7400calBC (22.3%) 7372calBC - 7300calBC (36.7%) 7221calBC - 7197calBC ( 9.1%)	7457calBC - 7185calBC (95.4%)
IAAA-123511	8,390 $\pm$ 30	35.19 $\pm$ 0.15	8,380 $\pm$ 34	7521calBC - 7453calBC (57.7%) 7395calBC - 7377calBC (10.5%)	7532calBC - 7421calBC (70.1%) 7416calBC - 7354calBC (25.3%)



第 608 図 暦年較正年代グラフ (1)





第 609 図 暦年較正年代グラフ (2)

## (7) 放射性炭素年代測定 7

### 1 測定対象試料

天神段遺跡は、鹿児島県曾於郡大崎町（北緯 31° 30' 18"，東経 130° 55' 48"）に所在し、標高約 200m の台地上に立地する。測定対象試料は、集石遺構から出土した炭化物の合計 5 点である（第 119 表）。試料名 No. 2603 は採取した集石遺構がその後の検討で、2 基と判断されたため複数の採取場所で示してある。

試料が出土した各遺構の検出層位（第 119 表）は、VI 層が縄文時代早期後半、VII 層が縄文時代早期前半とされる。なお、同時に測定した他試料の結果については、「天神段遺跡 2」の報告書に掲載してある。

### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

### 3 化学処理工程

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

### 4 測定方法

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

### 5 算出方法

「(2) 放射性炭素年代測定 2」を参照

### 6 測定結果

試料の測定結果を第 119・120 表、第 610・611 図に示す。

VI 層（縄文時代早期後半）検出遺構出土試料の <sup>14</sup>C 年代は、No. 2602 が 7830 ± 30yrBP、No. 2604 が 6670 ±

30yrBP、No. 2605 が 6900 ± 30yrBP である。暦年較正年代 (1σ) は、No. 2602 が縄文時代早期中葉から後葉頃、No. 2604、No. 2605 が縄文時代早期後葉から末葉頃に相当する（小林編 2008）。

VII 層（縄文時代早期前半）検出遺構出土試料の <sup>14</sup>C 年代は、No. 2601 が 9220 ± 30yrBP、No. 2603 が 8260 ± 30yrBP である。暦年較正年代 (1σ) は、No. 2601 が縄文時代早期前半頃、No. 2603 が縄文時代早期中葉頃に相当する（小林編 2008）。

以上、5 点の年代値を検討したところ、遺構の検出層位やテフラとおおむね整合的な結果となった。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

### 参考文献

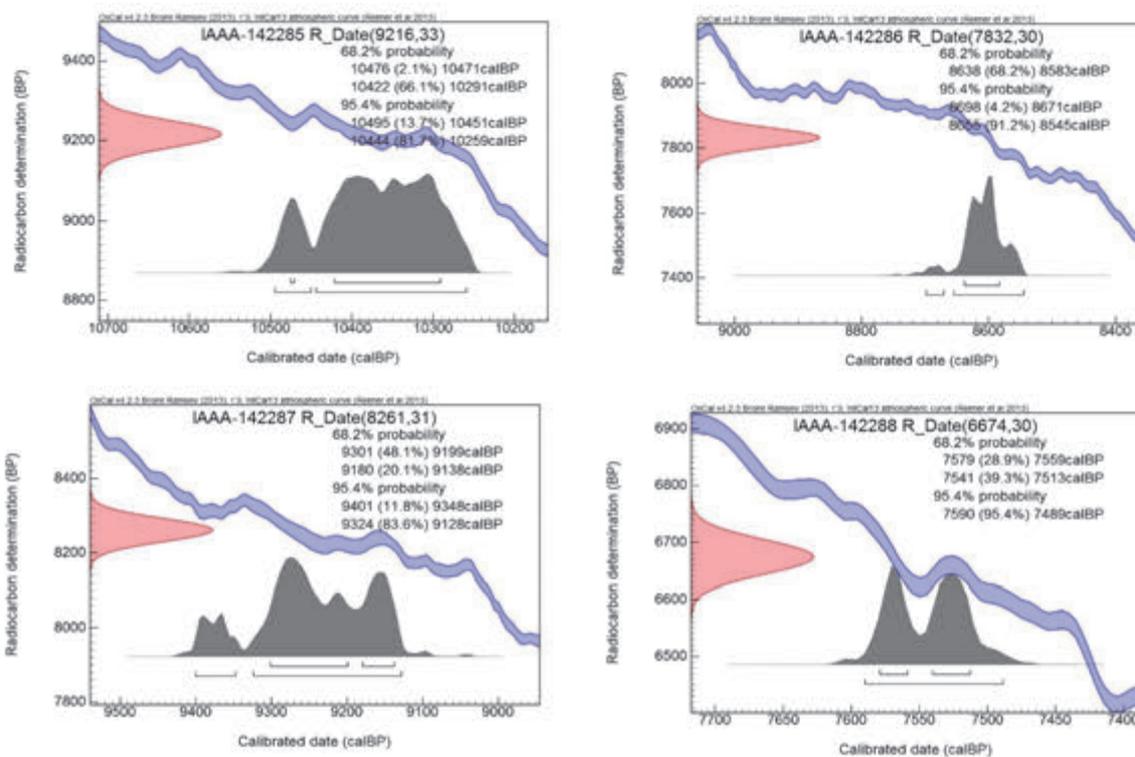
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器、総覧縄文土器刊行委員会、アム・プロモーション
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

第 119 表 放射性炭素年代測定結果 (  $\delta^{13}\text{C}$  補正值 )

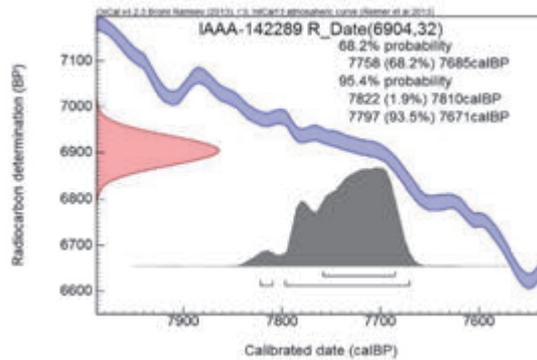
測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142285	No. 2601	110 号集石遺構 埋土 (VII層検出)	炭化物	AAA	-25.15 ± 0.24	9,220 ± 30	31.75 ± 0.13
IAAA-142286	No. 2602	170 号集石遺構 埋土 (VI層検出)	炭化物	AAA	-24.82 ± 0.25	7,830 ± 30	37.72 ± 0.14
IAAA-142287	No. 2603	40・121 号集石遺構 埋土 (VII層検出)	炭化物	AaA	-24.60 ± 0.27	8,260 ± 30	35.76 ± 0.14
IAAA-142288	No. 2604	307 号集石遺構 埋土 (VI層検出)	炭化物	AaA	-24.54 ± 0.38	6,670 ± 30	43.57 ± 0.17
IAAA-142289	No. 2605	307 号集石遺構 埋土 (VI層検出)	炭化物	AAA	-27.92 ± 0.24	6,900 ± 30	42.34 ± 0.17

第 120 表 放射性炭素年代測定結果 (  $\delta^{13}\text{C}$  未補正值, 暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代, 較正年代 )

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142285	9,220 ± 30	31.74 ± 0.13	9,216 ± 33	10476calBP - 10471calBP ( 2.1%) 10422calBP - 10291calBP (66.1%)	10495calBP - 10451calBP (13.7%) 10444calBP - 10259calBP (81.7%)
IAAA-142286	7,830 ± 30	37.73 ± 0.14	7,832 ± 30	8638calBP - 8583calBP (68.2%)	8698calBP - 8671calBP ( 4.2%) 8655calBP - 8545calBP (91.2%)
IAAA-142287	8,250 ± 30	35.79 ± 0.14	8,261 ± 31	9301calBP - 9199calBP (48.1%) 9180calBP - 9138calBP (20.1%)	9401calBP - 9348calBP (11.8%) 9324calBP - 9128calBP (83.6%)
IAAA-142288	6,670 ± 30	43.61 ± 0.16	6,674 ± 30	7579calBP - 7559calBP (28.9%) 7541calBP - 7513calBP (39.3%)	7590calBP - 7489calBP (95.4%)
IAAA-142289	6,950 ± 30	42.09 ± 0.17	6,904 ± 32	7758calBP - 7685calBP (68.2%)	7822calBP - 7810calBP ( 1.9%) 7797calBP - 7671calBP (93.5%)



第 610 図 暦年較正年代グラフ ( 1 )



第 611 図 暦年較正年代グラフ ( 2 )

## ( 8 ) 放射性炭素年代測定 8

### 1 はじめに

曾於郡大崎町野方に所在する天神段遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

### 2 試料と方法

測定試料の情報、調製データは第 121 表のとおりである。試料 No. 2611 (PLD-28460) と試料 No. 2612 (PLD-28461) は、90 号土坑埋土より出土した部位不明の炭化材である。試料 No. 2616 (PLD-28465) は、61 号土坑埋土より出土した炭化種実である。試料 No. 2617 (PLD-28466) は、79 号土坑より出土した炭化種実である。試料 No. 2618 ~ 2620 (PLD-28467 ~ 28469) は、1 号集石遺構より出土した炭化種実である。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。なお、同時に測定した他の試料の測定結果については、「天神段遺跡 2」の報告書に掲載してある。

### 3 測定結果

第 122 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代を、第 612・613 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下一桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期と

して Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1 \sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期  $5730 \pm 40$  年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal4.2 (較正曲線データ : IntCal13) を使用した。なお、 $1 \sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2 \sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は  $^{14}\text{C}$  年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

### 3 考察

以下、 $^{14}\text{C}$  年代および  $2 \sigma$  暦年代範囲 (確率 95.4%) を基に結果を整理する。また、第 614 図に暦年代の分布を示す。

90 号土坑より出土した炭化材である試料 No. 2611 (PLD-28460) は、 $^{14}\text{C}$  年代が  $9465 \pm 30$   $^{14}\text{C}$  BP, 9104-9091 cal BC (1.0%),  $2 \sigma$  暦年代範囲が 9040-9034 cal BC (0.4%), 8837-8637 cal BC (94.0%) であった。同じく試料 No. 2612 (PLD-28461) は、 $^{14}\text{C}$  年代が  $9460 \pm 35$   $^{14}\text{C}$  BP,  $2 \sigma$  暦年代範囲が 9096-9091 cal BC (0.3%), 9038-9035 cal BC (0.2%), 8836-8632 cal BC (94.9%) であった。これらは、新東 (2008)、小林 (2008)、工藤 (2012) を参照すると、縄文時代早期前葉にあたる。

61 号土坑より出土した炭化種実である試料 No. 2616

(PLD-28465) は,  $^{14}\text{C}$  年代が  $8285 \pm 30$   $^{14}\text{C}$  BP,  $2\sigma$  暦年代範囲が 7468-7252 cal BC (86.2%) および 7230-7191 cal BC (9.2%) であった。これは, 新東 (2008), 八木澤 (2008), 小林 (2008), 工藤 (2012) を参照すると, 該当する時期のデータは少ないが縄文時代早期中葉~後葉頃にあたると思われる。

79号土坑より出土した炭化種実である試料 No. 2617 (PLD-28466) は,  $^{14}\text{C}$  年代が  $8840 \pm 30$   $^{14}\text{C}$  BP,  $2\sigma$  暦年代範囲が 8205-8035 cal BC (40.9%) および 8015-7793 cal BC (54.5%) であった。これは, 新東 (2008), 小林 (2008), 工藤 (2012) を参照すると, 縄文時代早期前葉~中葉にあたる。

1号集石遺構より出土した炭化種実である試料 No. 2618 (PLD-28467) は,  $^{14}\text{C}$  年代が  $8380 \pm 30$   $^{14}\text{C}$  BP,  $2\sigma$  暦年代範囲が 7529-7423 cal BC (72.6%) および 7415-7356 cal BC (22.8%) であった。同じく試料 No. 2619 (PLD-28468) は,  $^{14}\text{C}$  年代が  $8390 \pm 30$   $^{14}\text{C}$  BP,  $2\sigma$  暦年代範囲が 7537-7447 cal BC (81.2%) および 7411-7360 cal BC (14.2%) であった。同じく試料 No. 2620 (PLD-28469) は,  $^{14}\text{C}$  年代が  $8425 \pm 30$   $^{14}\text{C}$  BP,  $2\sigma$  暦年代範囲が 7574-7466 cal BC (95.4%) であった。これらは, 新東 (2008), 八木澤 (2008), 小林 (2008), 工藤 (2012) を参照すると, 該当する時期のデータは少ないが縄文時代早期中葉頃にあたると思われる。

## 参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of

Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

藤尾慎一郎 (2009) 弥生時代の実年代. 西本豊弘編「新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代」: 9-54, 雄山閣.

小林謙一 (2008) 縄文時代の暦年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学 2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.

工藤雄一郎 (2012) 後氷期の考古編年と  $^{14}\text{C}$  年代. 旧石器・縄文時代の環境文化史, 212-229, 新泉社.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の  $^{14}\text{C}$  年代編集委員会編「日本先史時代の  $^{14}\text{C}$  年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haffidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

新東晃一 (2008) 早期南九州貝殻文系土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 186-193, アム・プロモーション.

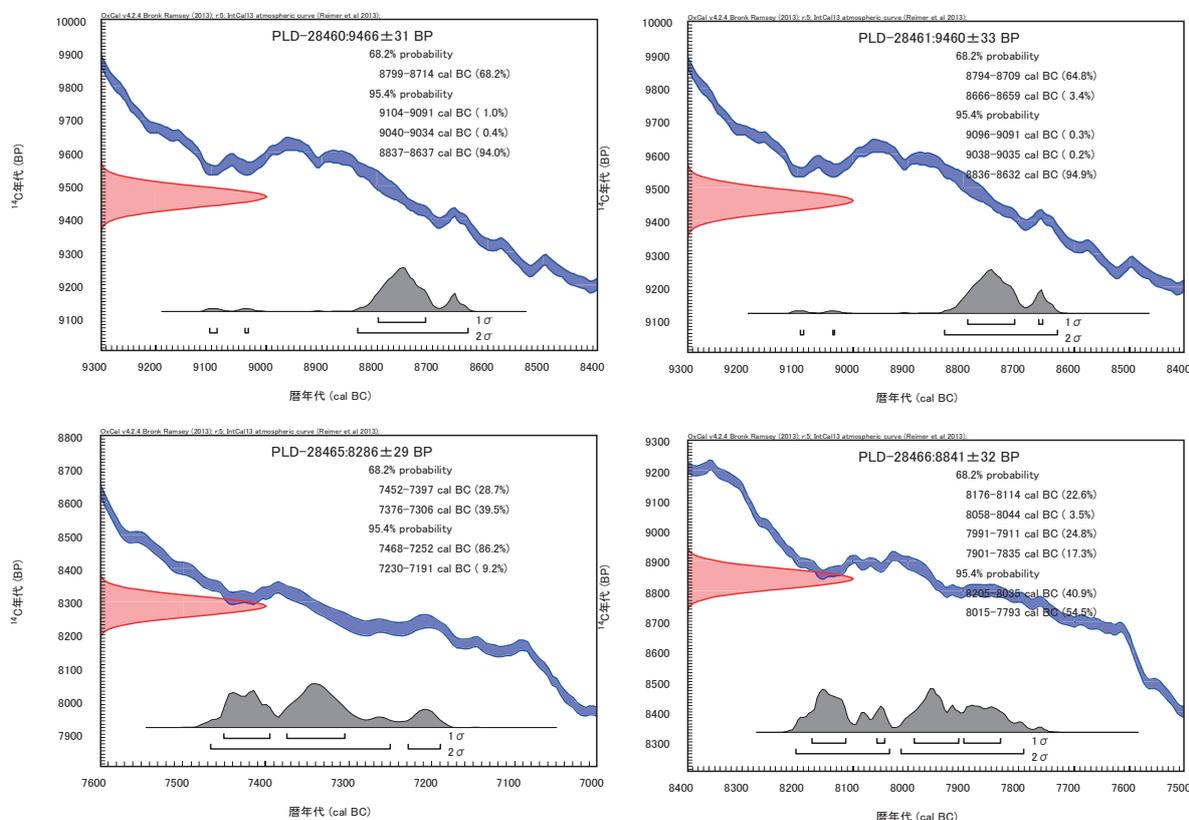
八木澤一郎 (2008) 平栴式・塞ノ神式土器. 小林達雄編「総覧縄文土器」: 194-201, アム・プロモーション.

第 121 表 測定試料及び処理

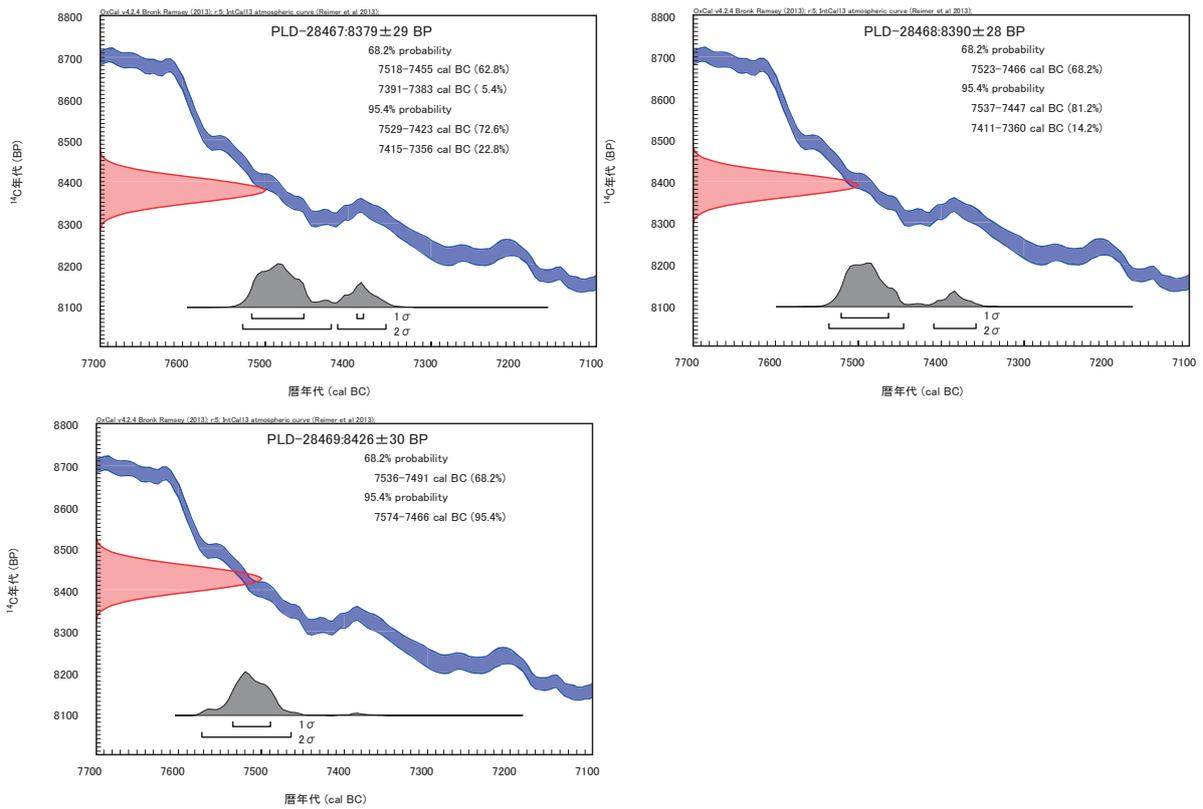
測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-28460	試料 No. 2611 遺構: 90号土坑 層位: 土坑内埋土 (VII層に近い色調) その他: VII層は縄文時代早期前半の遺物包含層、VIII層は薩摩火山灰層	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外部位不明 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-28461	試料 No. 2612 遺構: 90号土坑 層位: 土坑内埋土 (VII層に近い色調) その他: VII層は縄文時代早期前半の遺物包含層、VIII層は薩摩火山灰層	種類: 炭化材 試料の性状: 最終形成年輪以外部位不明 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-28465	試料 No. 2616 遺構: 61号土坑 層位: VIII層上面検出土坑の埋土 その他: VIII層は薩摩火山灰層	種類: 炭化種実 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-28466	試料 No. 2617 遺構: 79号土坑 層位: VIII層上面検出土坑の埋土 その他: VIII層は薩摩火山灰層	種類: 炭化種実 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-28467	試料 No. 2618 遺構: 1号集石遺構 層位: VIII層上面検出土坑の埋土 その他: VIII層は薩摩火山灰層	種類: 炭化種実 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-28468	試料 No. 2619 遺構: 1号集石遺構 層位: VIII層上面検出土坑の埋土 その他: VIII層は薩摩火山灰層	種類: 炭化種実 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-28469	試料 No. 2620 遺構: 1号集石遺構 層位: VIII層上面検出土坑の埋土 その他: VIII層は薩摩火山灰層	種類: 炭化種実 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)

第 122 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

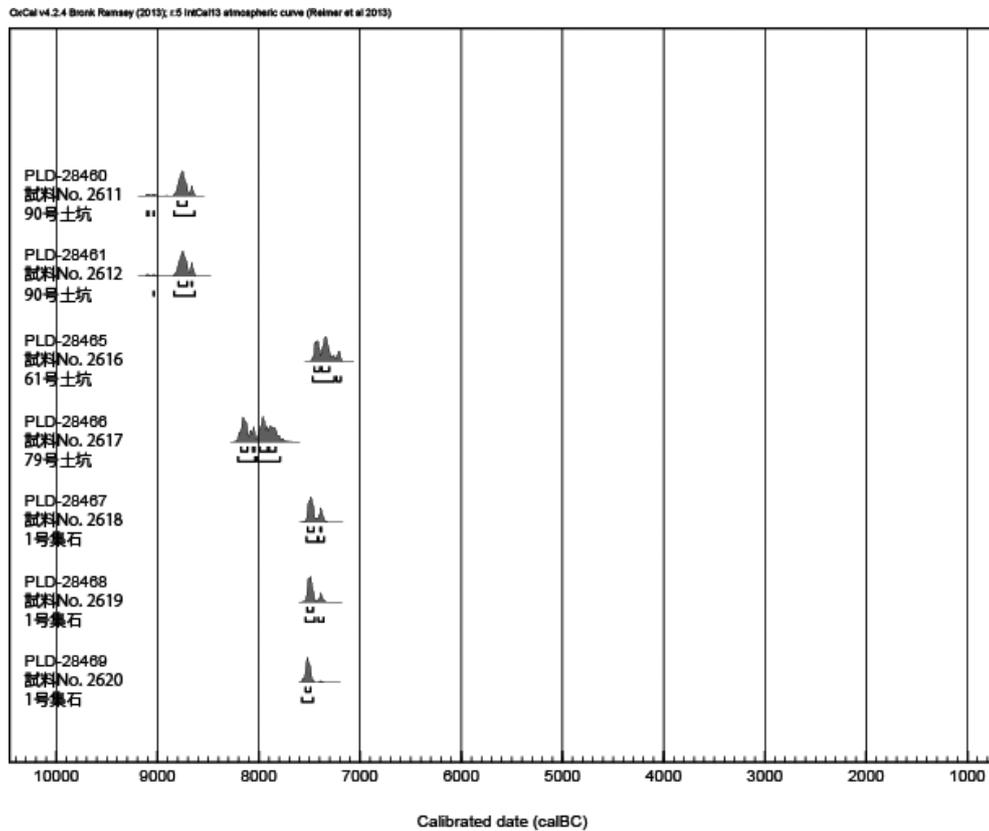
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-28460 試料 No. 2611 90 号土坑	-26.97 $\pm$ 0.18	9466 $\pm$ 31	9465 $\pm$ 30	8799-8714 cal BC (68.2%)	9104-9091 cal BC (1.0%) 9040-9034 cal BC (0.4%) 8837-8637 cal BC (94.0%)
PLD-28461 試料 No. 2612 90 号土坑	-27.54 $\pm$ 0.26	9460 $\pm$ 33	9460 $\pm$ 35	8794-8709 cal BC (64.8%) 8666-8659 cal BC (3.4%)	9096-9091 cal BC (0.3%) 9038-9035 cal BC (0.2%) 8836-8632 cal BC (94.9%)
PLD-28465 試料 No. 2616 61 号土坑	-25.23 $\pm$ 0.18	8286 $\pm$ 29	8285 $\pm$ 30	7452-7397 cal BC (28.7%) 7376-7306 cal BC (39.5%)	7468-7252 cal BC (86.2%) 7230-7191 cal BC (9.2%)
PLD-28466 試料 No. 2617 79 号土坑	-28.38 $\pm$ 0.28	8841 $\pm$ 32	8840 $\pm$ 30	8176-8114 cal BC (22.6%) 8058-8044 cal BC (3.5%) 7991-7911 cal BC (24.8%) 7901-7835 cal BC (17.3%)	8205-8035 cal BC (40.9%) 8015-7793 cal BC (54.5%)
PLD-28467 試料 No. 2618 1 号集石遺構	-24.70 $\pm$ 0.22	8379 $\pm$ 29	8380 $\pm$ 30	7518-7455 cal BC (62.8%) 7391-7383 cal BC (5.4%)	7529-7423 cal BC (72.6%) 7415-7356 cal BC (22.8%)
PLD-28468 試料 No. 2619 1 号集石遺構	-25.20 $\pm$ 0.17	8390 $\pm$ 28	8390 $\pm$ 30	7523-7466 cal BC (68.2%)	7537-7447 cal BC (81.2%) 7411-7360 cal BC (14.2%)
PLD-28469 試料 No. 2620 1 号集石遺構	-24.93 $\pm$ 0.22	8426 $\pm$ 30	8425 $\pm$ 30	7536-7491 cal BC (68.2%)	7574-7466 cal BC (95.4%)



第 612 図 暦年較正年代グラフ ( 1 )



第 613 図 暦年較正年代グラフ ( 2 )



第 614 図 暦年代の分布図

## (9) 放射性炭素年代測定9

### 1 測定対象試料

天神段遺跡は、鹿児島県曾於郡大崎町（北緯 31° 30′ 18″，東経 130° 55′ 48″）に所在する。測定対象試料は、土器付着炭化物 7 点である（第 123 表）。試料が採取された土器は、いずれも縄文土器の深鉢で、試料①～④、⑦は口縁部外面、⑤、⑥は胴部外面より採取された。炭化物が採取された土器は、試料①がXI類土器、試料②と③がVII類土器、試料④と⑤がIX類土器、試料⑥がXX類（白ヶ野式）土器、試料⑦がXI類土器である。

### 2 化学処理工程

- (1) メスを使い、土器片に付着した炭化物を採取する。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 123 表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

### 3 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 4 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (第 123 表)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C 年代は  $\delta^{13}\text{C}$  によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第 123 表に、補正していない値を参考値として

第 124・125 表に示した。<sup>14</sup>C 年代と誤差は、下一桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の <sup>14</sup>C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度の割合である。pMC が小さい (<sup>14</sup>C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (<sup>14</sup>C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$  によって補正する必要があるため、補正した値を第 123 表に、補正していない値を参考値として第 124・125 表に示した。

- (4) 暦年較正年代とは年代が既知の試料の <sup>14</sup>C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の <sup>14</sup>C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が <sup>14</sup>C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$  補正を行い、下一桁を丸めない <sup>14</sup>C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 124・125 表に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BP」または「cal BC/AD」という単位で表され、ここでは前者を第 124 表、第 615・616 図に、後者を第 125 表、第 617 図に示した。

### 5 測定結果

測定結果を第 123～125 表、第 615～617 図に示す。較正年代は、cal BP (第 124 表、第 615・616 図) と cal BC/AD (第 125 表、第 617 図) の 2 通りで算出した。

試料の <sup>14</sup>C 年代は、9010 ± 30yrBP (試料②) から 7070 ± 30yrBP (試料⑦) の間にある。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、古い方から順に試料②～⑤が縄文時代早期前葉頃、試料①、⑥が早期中葉頃、試料⑦が早期後葉頃に相当する (小林編 2008)。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

参考文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360  
 小林達雄編 2008 総覧縄文土器，総覧縄文土器刊行委員会，アム・プロモーション  
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13

radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887  
 Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

第 123 表 放射性炭素年代測定結果 (δ<sup>13</sup>C 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)	δ <sup>13</sup> C 補正あり			
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)	
IAAA-161254	天神段試料①	掲載番号 800 E-24区 VI層	土器付着炭化物	AaA	-24.71 ± 0.24	8,330 ± 30	35.45 ± 0.14		
IAAA-161255	天神段試料②	掲載番号 525 K-14区 VI層	土器付着炭化物	AaA	-22.91 ± 0.25	9,010 ± 30	32.58 ± 0.14		
IAAA-161256	天神段試料③	掲載番号 50 8号土坑出土他	土器付着炭化物	AaA	-23.50 ± 0.24	8,970 ± 30	32.72 ± 0.14		
IAAA-161257	天神段試料④	掲載番号 607 G-20区 VI層	土器付着炭化物	AaA	-26.58 ± 0.25	8,850 ± 30	33.23 ± 0.14		
IAAA-161258	天神段試料⑤	掲載番号 618 F-21区 VI層	土器付着炭化物	AaA	-25.10 ± 0.23	8,880 ± 30	33.10 ± 0.14		
IAAA-161259	天神段試料⑥	掲載番号 1504 F-17区 VI層	土器付着炭化物	AaA	-22.42 ± 0.26	8,240 ± 30	35.83 ± 0.15		
IAAA-161260	天神段試料⑦	掲載番号 1321 F-21区 VI層	土器付着炭化物	AaA	-24.32 ± 0.23	7,070 ± 30	41.50 ± 0.16		

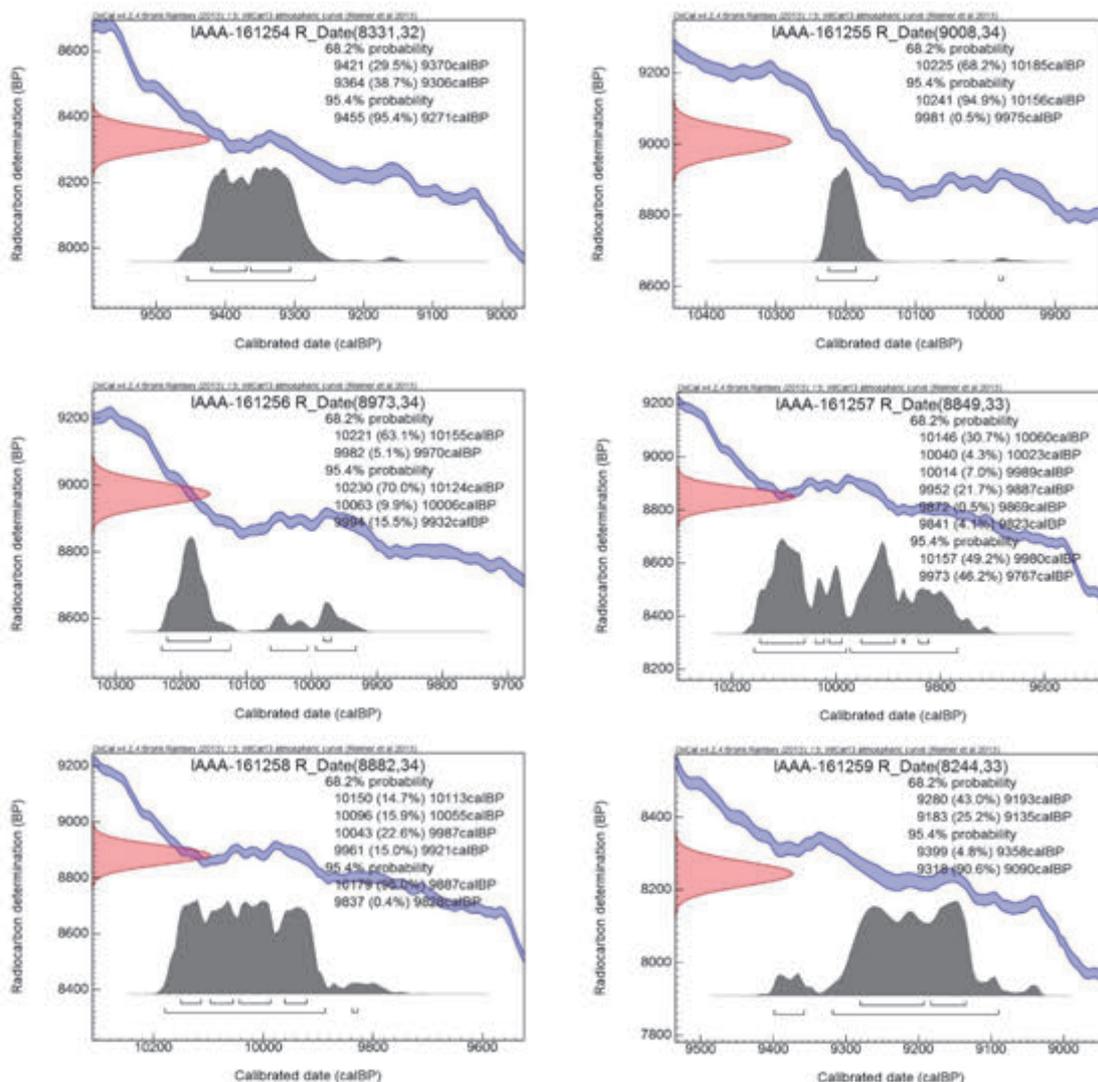
第 124 表 放射性炭素年代測定結果 (δ<sup>13</sup>C 未補正值, 暦年較正用<sup>14</sup>C年代, 較正年代 cal BP)

測定番号	δ <sup>13</sup> C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-161254	8,330 ± 30	35.47 ± 0.14	8,331 ± 32	9421calBP - 9370calBP (29.5%) 9364calBP - 9306calBP (38.7%)	9455calBP - 9271calBP (95.4%)
IAAA-161255	8,970 ± 30	32.72 ± 0.14	9,008 ± 34	10225calBP - 10185calBP (68.2%)	10241calBP - 10156calBP (94.9%) 9981calBP - 9975calBP (0.5%)
IAAA-161256	8,950 ± 30	32.82 ± 0.14	8,973 ± 34	10221calBP - 10155calBP (63.1%) 9982calBP - 9970calBP (5.1%)	10230calBP - 10124calBP (70.0%) 10063calBP - 10006calBP (9.9%) 9994calBP - 9932calBP (15.5%)
IAAA-161257	8,880 ± 30	33.12 ± 0.14	8,849 ± 33	10146calBP - 10060calBP (30.7%) 10040calBP - 10023calBP (4.3%) 10014calBP - 9989calBP (7.0%) 9952calBP - 9887calBP (21.7%) 9872calBP - 9869calBP (0.5%) 9841calBP - 9823calBP (4.1%)	10157calBP - 9980calBP (49.2%) 9973calBP - 9767calBP (46.2%)
IAAA-161258	8,880 ± 30	33.09 ± 0.14	8,882 ± 34	10150calBP - 10113calBP (14.7%) 10096calBP - 10055calBP (15.9%) 10043calBP - 9987calBP (22.6%) 9961calBP - 9921calBP (15.0%)	10179calBP - 9887calBP (95.0%) 9837calBP - 9828calBP (0.4%)
IAAA-161259	8,200 ± 30	36.02 ± 0.15	8,244 ± 33	9280calBP - 9193calBP (43.0%) 9183calBP - 9135calBP (25.2%)	9399calBP - 9358calBP (4.8%) 9318calBP - 9090calBP (90.6%)
IAAA-161260	7,050 ± 30	41.55 ± 0.16	7,065 ± 31	7943calBP - 7920calBP (22.8%) 7903calBP - 7860calBP (45.4%)	7959calBP - 7840calBP (95.4%)

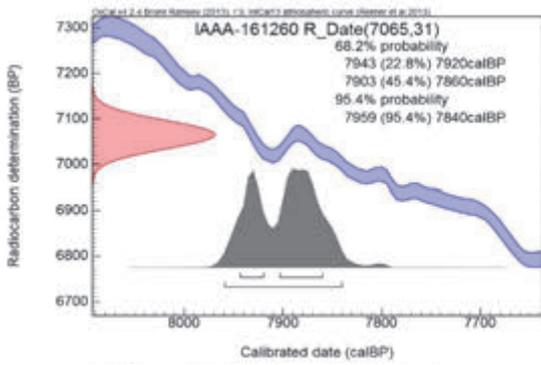


第 125 表 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$  未補正值, 暦年較正用  $^{14}\text{C}$  年代, 較正年代 cal BC/AD)

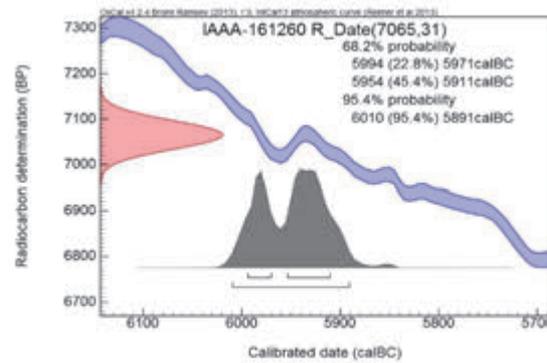
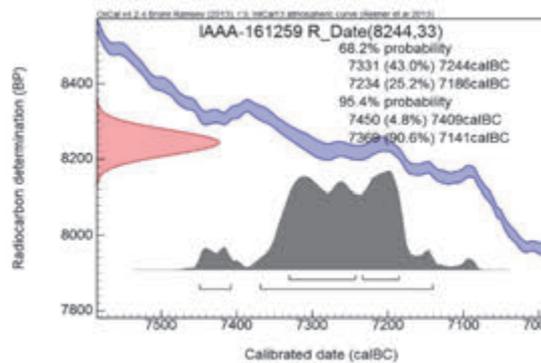
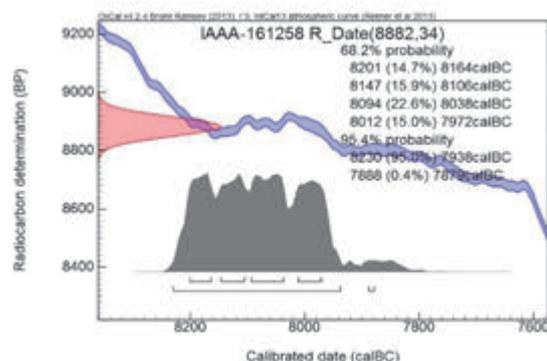
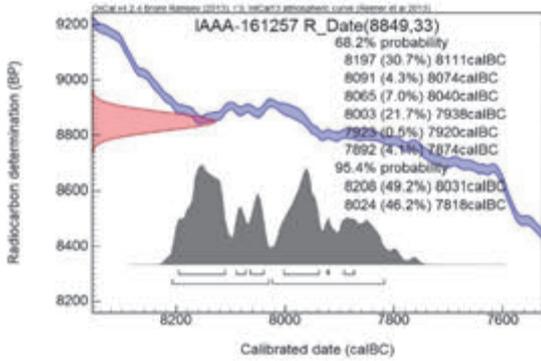
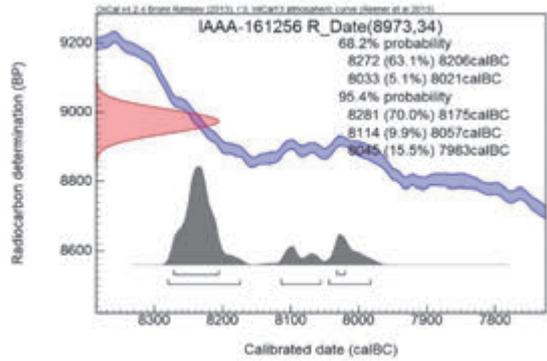
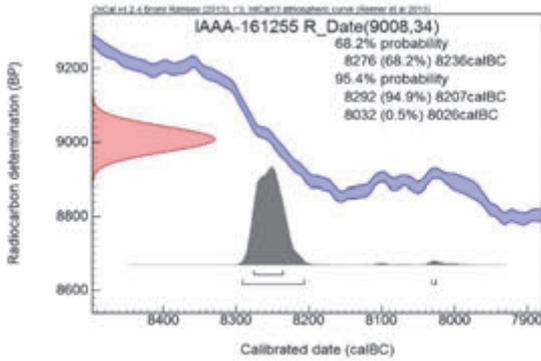
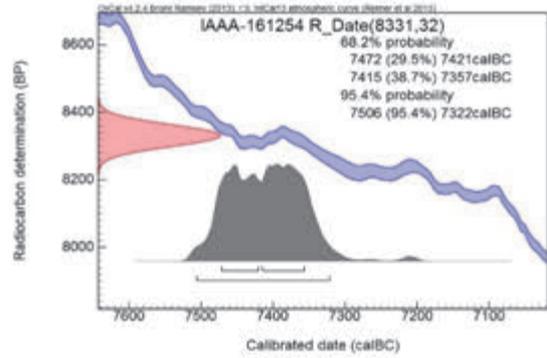
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-161254	8,330 $\pm$ 30	35.47 $\pm$ 0.14	8,331 $\pm$ 32	7472calBC - 7421calBC (29.5%) 7415calBC - 7357calBC (38.7%)	7506calBC - 7322calBC (95.4%)
IAAA-161255	8,970 $\pm$ 30	32.72 $\pm$ 0.14	9,008 $\pm$ 34	8276calBC - 8236calBC (68.2%)	8292calBC - 8207calBC (94.9%) 8032calBC - 8026calBC (0.5%)
IAAA-161256	8,950 $\pm$ 30	32.82 $\pm$ 0.14	8,973 $\pm$ 34	8272calBC - 8206calBC (63.1%) 8033calBC - 8021calBC (5.1%)	8281calBC - 8175calBC (70.0%) 8114calBC - 8057calBC (9.9%) 8045calBC - 7983calBC (15.5%)
IAAA-161257	8,880 $\pm$ 30	33.12 $\pm$ 0.14	8,849 $\pm$ 33	8197calBC - 8111calBC (30.7%) 8091calBC - 8074calBC (4.3%) 8065calBC - 8040calBC (7.0%) 8003calBC - 7938calBC (21.7%) 7923calBC - 7920calBC (0.5%) 7892calBC - 7874calBC (4.1%)	8208calBC - 8031calBC (49.2%) 8024calBC - 7818calBC (46.2%)
IAAA-161258	8,880 $\pm$ 30	33.09 $\pm$ 0.14	8,882 $\pm$ 34	8201calBC - 8164calBC (14.7%) 8147calBC - 8106calBC (15.9%) 8094calBC - 8038calBC (22.6%) 8012calBC - 7972calBC (15.0%)	8230calBC - 7938calBC (95.0%) 7888calBC - 7879calBC (0.4%)
IAAA-161259	8,200 $\pm$ 30	36.02 $\pm$ 0.15	8,244 $\pm$ 33	7331calBC - 7244calBC (43.0%) 7234calBC - 7186calBC (25.2%)	7450calBC - 7409calBC (4.8%) 7369calBC - 7141calBC (90.6%)
IAAA-161260	7,050 $\pm$ 30	41.55 $\pm$ 0.16	7,065 $\pm$ 31	5994calBC - 5971calBC (22.8%) 5954calBC - 5911calBC (45.4%)	6010calBC - 5891calBC (95.4%)



第 615 図 暦年較正年代グラフ (1)



第 616 図 暦年較正年代グラフ ( 2 )



第 617 図 暦年較正年代グラフ ( 3 )

## 第Ⅵ章 総括

### 第1節 遺構の時期について

縄文時代早期に属すると考えられる数多くの遺構が検出されたが、これらの遺構から得られる情報が少なく、詳細な時期を判断することが困難である。そこで、遺構から検出された炭化物の年代測定結果から得られる特徴をまとめることとする。なお、年代測定を実施した遺構検出の試料は、第126表の43点であった。

竪穴住居状遺構は7基から検出された炭化物の年代測定を行った。その結果、4号竪穴住居状遺構検出の炭化物の年代は縄文時代早期中葉、それ以外の竪穴住居状遺構から検出された炭化物の年代は8,800 - 8,200calBCの範囲に収まることから、縄文時代早期前葉から中葉に相当すると考えられる。1号竪穴住居状遺構からはⅢ類土器が出土し、4号竪穴住居状遺構からはⅤ類土器が出土しているが、それぞれに年代測定結果と符合すると考えられる。

連穴土坑は8基から検出された9点の炭化物の年代測定を行った。その結果はほぼ8,800 - 8,200calBCの範囲に収まることから、縄文時代早期前葉から中葉に相当すると考えられる。

土坑はⅧ層から検出された3基5点の炭化物の年代測定を行った。その結果はほぼ8,800 - 7,200calBCの範囲に収まることから、縄文時代早期前葉から中葉に相当すると考えられる。

集石遺構は19基から検出された22点の炭化物の年代測定を行った。110号集石遺構の炭化物の測定結果は、縄文時代早期前葉に相当する。1号集石遺構の3点と246号集石遺構の炭化物の測定結果は、ほぼ7,600 - 7,300calBCの範囲に収まることから縄文時代早期中葉に相当すると考えられる。121号・169号・170号集石遺構の炭化物の測定結果は、ほぼ9,300 - 8,500calBP及び7,044 - 6,750calBCとなることから縄文時代早期中葉から後葉に相当すると考えられる。上記以外の集石遺構から検出された炭化物の年代測定結果は、ほぼ6,200 - 5,650calBCと7,800 - 7,500calBPの範囲に収まることから、縄文時代早期後葉に相当すると考えられる。Ⅷ層から検出された集石遺構の炭化物の年代測定点数が少ないことから断定できないが、早期後葉の集石遺構が多い傾向にある。

竪穴住居状遺構、連穴土坑、土坑の年代測定結果は、早期前葉から中葉の範囲に収まる。Ⅷ層及びⅦ層で検出した集石遺構の炭化物の年代測定結果は、必ずしも検出した層位順を反映しているとは言えない。しかし、Ⅵ層で検出した集石遺構については15基のうち2基が早期中葉から後葉、13基が早期後葉に相当すると考えられる。

第126表 遺構検出の炭化物の年代測定結果

遺構名	測定結果
1号竪穴住居状遺構	8836-8630calBC
3号竪穴住居状遺構	8325-8210calBC
4号竪穴住居状遺構	7967-7677calBC
5号竪穴住居状遺構	8609-8340calBC
6号竪穴住居状遺構	8322-8240calBC
7号竪穴住居状遺構	8298-8183calBC
9号竪穴住居状遺構	8352-8254calBC
5号連穴土坑	8296-8236calBC
5号連穴土坑	8476-8291calBC
14号連穴土坑	8292-8235calBC
15号連穴土坑	8347-8249calBC
20号連穴土坑	8349-8250calBC
21号連穴土坑	8356-8283calBC
25号連穴土坑	8355-8271calBC
30号連穴土坑	8770-8599calBC
31号連穴土坑	8778-8600calBC
61号土坑	7457-7185calBC
61号土坑	7468-7252calBC
79号土坑	8015-7793calBC
90号土坑	8837-8637calBC
90号土坑	8836-8632calBC
1号集石遺構(Ⅷ層検出)	7529-7423calBC
1号集石遺構 "	7537-7447calBC
1号集石遺構 "	7574-7466calBC
110号集石遺構(Ⅶ層検出)	10444-10259calBP
121号集石遺構 "	9324-9128calBP
139号集石遺構 "	6391-6236calBC
169号集石遺構(Ⅵ層検出)	7044-6750calBC
170号集石遺構 "	8655-8545calBP
174号集石遺構 "	5989-5833calBC
186号集石遺構 "	6059-5973calBC
195号集石遺構 "	5891-5733calBC
206号集石遺構 "	5807-5659calBC
217号集石遺構 "	5988-5808calBC
223号集石遺構 "	5984-5787calBC
244号集石遺構 "	6018-5888calBC
246号集石遺構 "	7513-7304calBC
283号集石遺構 "	6089-5987calBC
298号集石遺構 "	5990-5836calBC
300号集石遺構 "	5882-5729calBC
304号集石遺構 "	6212-6029calBC
307号集石遺構 "	7590-7489calBP
307号集石遺構 "	7797-7671calBP

## 第2節 遺物について

### 1 石器

縄文時代早期の石器は、剥片石器及び礫石器ともに多量に出土した。Ⅶ・Ⅵ層とも調査区の北東側を中心に出土し、器種による出土分布の違いは見られなかった。器種ごとの使用する石材については、第62表のとおりである。剥片石器は黒曜石や安山岩、チャート、礫石器は多孔質な安山岩や砂岩を多く使用している。黒曜石の約半数が西北九州系であった。

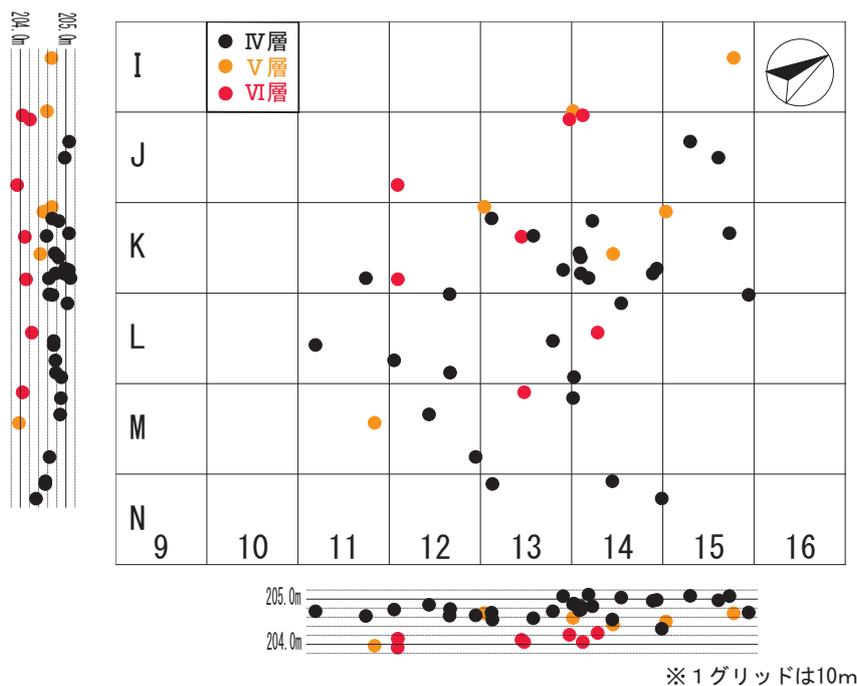
縄文時代早期土器はⅠ類～Ⅷ類土器がⅦ層（Ⅳ類土器は出土点数が少ないため除く）、Ⅷ類～Ⅹ類土器がⅥ層からの出土が多い傾向にある。それぞれの土器型式の出土層位の傾向から、Ⅶ層出土の石器は縄文時代早期前葉～中葉、Ⅵ層出土の石器は縄文時代早期後葉の時期に比定すると考えられる。

Ⅵ層出土の打製石鏃のⅣ類（五角形鏃）のうち、両側縁の上部に屈折部をもつ将棋の駒型を呈するものは、『天神段遺跡2』で報告した、Ⅴ・Ⅳ層出土の五角形鏃と形態的な特徴は類似する。県内では五角形鏃は縄文時代晩期に盛行するため、Ⅴ層出土の五角形鏃は「上層即ち、縄文時代晩期からの混入との判断を示した」と報告している。そこで、Ⅵ層出土の五角形鏃も上層から混入したものなのか、分布状況及び石材を比較した。第618図はⅥ・Ⅴ・Ⅳ層出土の五角形鏃の平面及び垂直方向からの

分布状況である。調査区は北側の標高が高く、南側にかけて緩やかに傾斜していく地形であるため、比較的平坦なグリッドのみで比較した。第618図からは平面での分布状況に差異は認められない。垂直方向ではⅣ層及びⅤ層の資料は近接するが、Ⅵ層の資料はⅣ層の資料の下部に分布する。Ⅴ層がアカホヤ火山灰層であることから、Ⅳ層とⅥ層では分布域に開きが認められる。次に、使用する石材については第127表に示した。Ⅳ層は黒曜石が3割を占め、安山岩やチャートなどの石材も同量程度使用する。黒曜石は腰岳産を多く使用し、同様に縄文時代晩期に腰岳産黒曜石が多く使用される例として、大坪遺跡（出水市）や桐木耳取遺跡（曾於市）、上水流遺跡（南さつま市）などがある。Ⅵ層はおよそ半数が黒曜石であり、次いで安山岩が4割を占める。黒曜石は姫島や針尾・淀姫産が多くなり、腰岳産はⅣ層に比べると少ない。このように石材選択についても、Ⅳ層とⅥ層では大きく異なる。出土点数はⅥ層が最も少なく、Ⅵ層出土の打製石鏃の中でも五角形鏃は1割未満と非常に少ない。以上のことから、Ⅵ層出土の五角形鏃が上層からの混入と断定することは困難である。なお、縄文時代早期の五角形鏃は高吉B遺跡（志布志市）や宮ヶ原遺跡（曾於市）、前原遺跡（鹿児島市）、桜谷遺跡（南さつま市）からも出土しており、本遺跡のⅥ層出土の五角形鏃も縄文時代早期の可能性はある。

第127表 天神段遺跡の五角形鏃

	OB5	OB6	OB7	OBその他	AN	CH	SH	HF	その他	計
Ⅳ層 (1346～1473)	31	2		9	30	25	7	7	16	127
Ⅴ層 (450～515)	8	5	4	7	10	17	3	1	11	66
Ⅵ層 (2963～3004)	3	7	8	2	17	4	1			42



第618図 五角形鏃の出土状況図

## 2 土器

天神段遺跡では、一括取り上げ遺物を含め、総点数35,656点の土器が出土した。I～XX類に分類した各類は第128表に示した土器型式に該当する。第128表には、各類ごとの出土数も示す。なお掲載点数とは、掲載された個体の破片数であり個体数でない。

第128表 天神段遺跡出土の土器型式分類と出土点数

類	土器型式	掲載点数	出土総数
I	水迫式土器	22	47
	岩本式土器		
	前平式土器(古)		
II	前平式土器(新)	226	824
III	志風頭式土器	113	532
	加栗山式土器		
IV	吉田式土器	28	63
V	石坂式土器	401	1,249
VI	下剥峯式土器	303	3,648
VII	辻タイプ	189	659
VIII	桑ノ丸式土器	118	481
IX	中原式土器	71	199
X	ナデ調整無文土器	119	607
XI	押型文土器	550	3,004
	縄文施文土器		
	(五十市式土器)		
	燃糸文土器 短枝回転施文土器		
XII	手向山式土器	253	670
XIII	妙見・天道ヶ尾式土器	65	307
XIV	平楯式土器	860	4,147
XV	塞ノ神A式土器	1,140	2,995
XVI	塞ノ神B式土器	1,249	3,943
XVII	苦浜式土器	207	522
XVIII	条痕文系土器	239	510
XIX	無文土器	202	5,546
XX	型式不明土器	199	5,342
合計		6,528	35,656

### 各類の特徴と出土状況について

第619図はD～L-22区の土器出土状況図(垂直分布)である。D～L-22区は北西から南東に向けて傾斜する地形である。早期前葉に該当するI～IV類土器が最も下位より、早期中葉に該当するV～XII類土器がその上位より、早期後葉に該当するXIII～XV類土器、早期後葉～末葉に該当するXVI～XVIII類土器がさらにその上位より概ね出土している状況である。ただし、それぞれの土器型式を層位的に区分することは困難であった。

I類土器は横位や斜位の浅い貝殻条痕文やナデを施す一群で、既存の土器型式を複数包括した分類となっている。

F～L-17～23区を中心に点在するように分布している。236～242は水迫式土器に該当する。横位の押し引き状の刺突文を施すことから水迫式II類土器(下山・鎌田1999)に該当する。243・244は内面にナデを施し口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を施すことから岩本式土器に類似するものと考えられる。ただし、岩本式土器に多く見られる小波状の口唇部や内面の稜は確認できないのが本遺跡出土土器の特徴である。245～247はホケノ頭遺跡III類土器に該当し、桑波田武志氏は岩本式土器と前平式土器の中間に位置する一群とした(桑波田2001)。前平式土器は型式概念が研究者によって異なるが、上杉彰紀氏・深野信之氏によって口縁部形態、施文方法、器面調整等より前平式土器、志風頭式土器が再定義、細分されている(上杉・深野2004)。上杉氏・深野氏の細分に基づくと245～247は前平I式土器に該当する。また、248～252は前平II式土器に該当し、前平式土器の古い段階に位置づけられる。

II群土器は横位の明瞭な貝殻条痕文を施す円筒形の一類である。D～N-13～25区を中心に調査区の北東側に分布が集中している。上杉氏・深野氏の設定した前平III・IV式土器に該当し、前平式土器の新しい段階に位置づけられる。276～283のように胴部外面に横位の貝殻条痕を施した後、縦位や斜位の浅い条痕や沈線を重ねて施文する一群は、III類土器に多く見られる2重施文に近い特徴を有している。また、260のような波状口縁をもつものは角筒形の祖形となる可能性が高い。

III類土器は口縁部外面に貝殻刺突線文を施す一群である。C～N-13～25区を中心に調査区の北東部に分布が集中しているが、II類土器に比べて分布の中心がやや北寄りである。306～308は口縁部上位に貝殻刺突文を施した後、その下位に横位の貝殻刺突線文を施す円筒形の土器である。上杉氏・深野氏の設定した志風頭式土器に該当する。同様の口縁部文様をもつ309～318の角筒形の土器に関しては、前平式土器段階に出現するとする見解(新東2008)と志風頭式土器の段階から出現するとする見解(上杉・深野2004)がある。309・311・313・318は角筒形を呈する中でも上角下円の器形になると考えられる。319～330は口縁部外面に横位の貝殻刺突線文を施し、胴部外面に2重施文を行う一群で加栗山式土器に該当する。331・333～335は小牧3Aタイプに該当し、前迫亮一氏は加栗山式土器から吉田式土器の間に位置づけている(前迫2000)が、上杉氏は吉田I式古段階に併行するとしている(上杉2003)。332は札ノ元VII類土器に該当する。黒川忠広氏は札ノ元VII類土器が南九州東南部に分布が限定することや、加栗山式土器後半から吉田式土器前半に併行することを指摘している(黒川2004)。永吉天神段遺跡など志布志湾沿岸地域を中心に類例が出土している。

IV類土器は吉田式土器に該当する。E～M-3～22区

の範囲に点在するように分布する。調査区の北側にややまとまって出土している箇所を確認できる。

V類土器は石坂式土器に該当する。D～G-14～17区を中心とした調査区の西側に分布が集中する。石坂式土器は前迫氏によって、口唇部、口縁部、胴部、底部の形態や文様により石坂Ⅰ式土器と石坂Ⅱ式土器に細分されている（前迫 2000）。357～405は石坂Ⅰ式土器に、406～412は石坂Ⅱ式土器に該当する。

VI類土器は貝殻刺突文を主な文様とする一群で下剥峯式土器に該当する。D～N-12～24区を中心に非常に多く出土している。下剥峯式土器とⅧ類土器に該当する桑ノ丸式土器は、器形や文様帯構成が複数の段階にわたり類似することから時期差ではなく、時間的に併行することが上杉氏・深野氏・松本茂氏によって指摘され（上杉・深野・松本 2005）、山下大輔氏によって細分と編年試案が行われている（山下 2005）。VI類土器・Ⅷ類土器に関しては、山下氏の細分を参考に分類を行った。440～464は口縁部と胴部の2帯に分けて施文する一群で、下剥峯式土器の古い段階に位置づけられる。465～495は口縁部から胴部まで1帯で施文する一群で新しい段階に位置づけられる。特に2帯に分けて施文する一群は口縁部が直口するものや波状を呈するものなど石坂Ⅱ式土器からの影響が想定できる。521はⅡ～Ⅲ類土器の底部の可能性も考えられる。

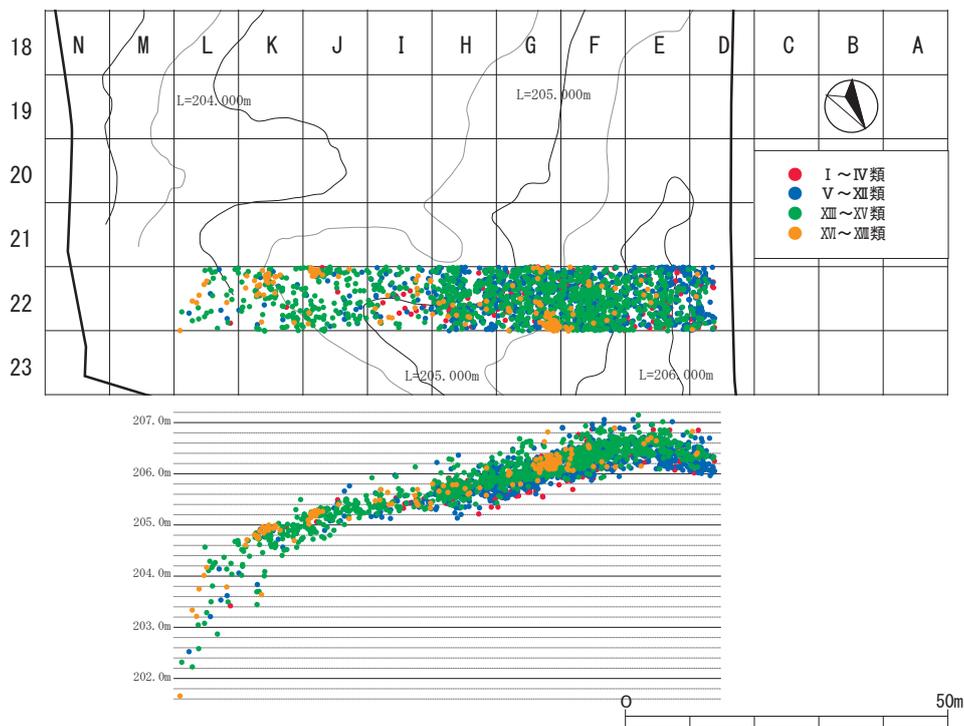
Ⅶ類土器は羽状に施文する短沈線を主な文様とする一群で辻タイプに該当する。D～N-12～24区を中心に調査区の北側より出土し、VI類土器と類似した出土状況

である。本遺跡出土の辻タイプの特徴として、出土量が非常に多いことや文様構成が多様である点が挙げられる。また、羽状に施文する短沈線に加えて同一個体にVI類土器の主な文様要素である貝殻刺突文を施す個体が多数みられる。破片資料で短沈線が見られず貝殻刺突文のみが確認できるものはVI類土器に分類したが、Ⅶ類土器の一部の可能性もある。

Ⅷ類土器は櫛歯状工具等により条線や沈線を施す一群で、桑ノ丸式土器に該当する。D～N-9～24区を中心に出土し、VI類土器に比べE～I-14～16区付近の出土が少なく、分布がやや北寄りである。VI類土器と同様に口縁部と胴部の2帯に分けて施文する一群と口縁部から胴部まで1帯で施文する一群があり、一定の年代幅を有していたと考えられる。

Ⅸ類土器はD～N-12～24区に点在するように分布している。口縁部～胴部上半に貝殻条痕文を施す一群で中原式土器に該当し、木崎康弘氏により中原Ⅰ式土器～中原Ⅴ式土器に細別されている（木崎 1996）。600～608、616は中原Ⅴ式土器に該当する。609～615は中原Ⅳ式土器に該当すると考えられるが、中原Ⅴ式土器の一部の可能性もある。胎土に長粒の角閃石を含むものが多く確認できる。

X類土器は器壁が非常に厚い無文土器で、ナデ、貝殻条痕などの器面調整を行う一群である。C～N-9～24区を中心に出土し、F～H-20～23区においてややまとまって出土している。ナデ調整無文土器（上杉 2005）には



第 619 図 D～L-22 区 土器出土状況図（垂直分布）

ば該当する。器壁厚は底部中心部で5～5.5 cm、胴部で2～2.5 cm、口縁部で1～2 cm程度と他類の土器と比較しても群を抜いている。646より底部は丸底と考えられる。

XI類土器は原体を回転し施文する一群である。押型文土器、縄文施文土器、撚糸文土器、変形撚糸文土器、短枝回転施文土器が該当する。D～N-3～25区の範囲で出土するものの、特にD～H-19～25区に、より集中して出土している。南九州における押型文土器に関しては山下氏による4段階13分類による編年案がある(山下2009)。南九州の押型文土器も基本的にはいわゆる大分編年に連動するように変遷すると考えられている。647～653, 658～660は小粒の楕円押型文を、718～733は山形押型文を帯状に施し、胎土に繊維を含むことから川原田式土器、稲荷山式土器に該当し第1段階に位置づけられる。734～736は第1段階の押型文土器に併行する無文土器の底部の可能性もある。次に外面に楕円、山形、連珠等の押型文を横位に施し、内面にナデを行う一群が第2段階に位置づけられる。内面に原体条痕を施すものもみられる。外面に大粒の楕円、山形、連珠等の押型文を斜位、縦位に施す一群は第3段階に位置づけられる。685～687, 750～752, 808は内面に横位の押型文を施し、内面に明瞭な稜を有し、稜より下にケズリを行う「白ヶ野類型」(山下・栗畑2007)に該当し、第3段階の後半から第4段階に位置づけられる。外面に異方向施文を行う一群や変形撚糸文、短枝回転施文等を行う一群は第4段階に位置づけられる。818～826は桑ノ丸式土器に類似する器形、内面調整に縄文を施す、いわゆる五十市式土器(山下2005)に該当する。

XII類土器は手向山式土器に該当する。D～N-4～24区を中心に点在するように分布している。手向山式土器は横手浩二郎氏によって1式～3式に細分が行われている(横手1998)。本遺跡出土の手向山式土器は口縁部から胴部下半まで山形押型文や撚糸文を施す1式やミミズバレ文や同心円文や沈線文等が新たに加わる2式が中心で、933～938のような口縁部外面に幅広の沈線を施し、屈曲部付近に粘土紐を貼り付け、浅い刻みを入れる3式に該当する資料は少ない。XI類土器に分類した撚糸文や変形撚糸文土器の一部は手向山式土器の時期まで下る可能性がある(山下大輔氏御教示)。

XIII類土器は外面に刻目突帯、沈線文、刺突文等を施す。文様は口縁部と胴部の2帯構成となる一群である。八木澤一郎氏の設定した妙見・天道ヶ尾式土器の第1群(八木澤2008)に該当する。F～L-20～23区において南北に帯状に分布するが、出土量自体は多くない。

XIV類土器は沈線文、刺突文等を施し、文様が口縁部、頸部、胴部の3帯構成となる一群である。平椀式土器に該当する。XV類土器、XVI類土器を除き、本遺跡で最も多く出土した土器型式である。口縁部形態に着目して新旧の

大別を行う。XIII類土器と型式学的に近い口縁部外端部が肥厚する一群を平椀式土器(古)、XIV類土器と型式学的に近い口縁部上位がやや肥厚する一群や口縁部が肥厚しないものの同様の施文を行う一群を平椀式土器(新)とする。第620図は、型式比定が可能なXIII類土器・XIV類土器の出土分布図である。全体的にD～L-19～24区の調査区の北側に弧状に分布している。妙見・天道ヶ尾式土器、平椀式土器(古)が弧の外側に多く分布しているのに対して、平椀式土器(新)は、一部分は重なりながらも弧の内側に分布している。また、壺形土器に関しては他の深鉢土器との明瞭な分布の差はみられなかった。壺形土器の多くは、口縁部外端部が肥厚するもので、深鉢形の平椀式土器(古)に伴うものと考えられる。

第129表 XIV類土器胴部縄文施文組成表

	破片数	割合(%)
0段0	11	1.7
1段L	13	2.0
2段LR	228	35.3
2段RL	24	3.7
結節(0)	1	0.2
結節(LR+RL)	150	23.2
結節(LR)	152	23.5
結節(RL)	54	8.4
結節のみ	13	2
計	646	100

第129表は、XIV類土器の胴部に施された縄文の組成を示したものである。2段LRと2段RLは、結節縄文の一部の可能性のあるものも含む。そうした点を加味するとXIV類土器の胴部は単節斜行縄文LRによる結節縄文か羽状縄文状の効果呈する単節斜行縄文LRとRLを結節したものが大半を占める。

XV類土器は口縁部がラップ状に外反し、胴部に地文として網目状撚糸文等を施す一群で塞ノ神A式土器に該当する。C～N-13～25区を中心とした調査区の北東側で多く出土し、弧状に分布するXIV類土器の西側を取り囲むように分布する。口縁部が屈曲する器形では、文様は口縁部、頸部、胴部の3帯構成となるが、大半は口縁部と胴部の2帯構成である。塞ノ神A式土器は河口貞徳氏により塞ノ神Aa式土器と塞ノ神Ab式土器に細分されている(河口1972)。河口氏の分類を参考に、胴部に縦位の網目状撚糸文を施すAa式と沈線で区画した内部に網目状撚糸文や縄文等を施すAb式に大別した。さらに口縁部の断面形態や口縁部文様で細分を行ったが、口縁部が屈曲し文様が3帯構成の一群は、平椀式土器に時間的に近似すると考えられる。特に1174～1177は上野原遺跡第10地点でまとまって出土した塞ノ神・微隆帯文土器に類似している。1294, 1295の壺形土器も微隆帯文を施すことからこれらの深鉢形土器に伴うものと考えられる。第130表はXIV類土器胴部の縄文施文の組成を示したものである。塞

ノ神A a 式土器の網目状捺糸文の原体は0段0の撚りを基調とし、1段Rが多く、絡条体への巻き方も右巻き後、左巻きが多い。ただし塞ノ神A b 式土器も0段0を基調とするものの、絡条帯への巻き方が左巻き後、右巻きのもので一定量存在する。

第130表 XV類土器胴部・縄文施文組成表

胴部・底部	塞ノ神A a	塞ノ神A b	破片数	割合(%)
網目状捺糸文0(右→左)	219	0	219	17.5
網目状捺糸文0(左→右)	43	69	112	9.0
網目状捺糸文r(右→左)	35	14	49	3.9
網目状捺糸文r(左→右)	2	1	3	0.2
網目状捺糸文L(右→左)	309	8	317	25.4
網目状捺糸文L(左→右)	9	4	13	1.0
網目状捺糸文R(右→左)	513	0	513	41.1
網目状捺糸文R(左→右)	0	23	23	1.8
合計	1130	119	1249	100
捺糸L	8	5	13	6.3
捺糸R	143	52	195	93.8
合計	151	57	208	100.0
1段R	0	8	8	30.8
2段LR	0	17	17	65.4
2段RL	0	1	1	3.8
合計	0	26	26	100.0
原体不明	5	0	5	0.3
合計	1286	202	1488	

XIII類土器は貝殻刺突文、貝殻条痕文を主な文様とする一群で塞ノ神B式土器に該当する。D～N-10～24区を中心に調査区の東側でまとまって出土している。塞ノ神B式土器は器形、文様ともに多様であるために器形による大別を行い、さらに口縁部文様の組み合わせや文様構成で細分した。近年、塞ノ神式B土器は栗畑光博氏によ

り3タイプに細分されている(栗畑2016)。本遺跡出土の塞ノ神B式土器は、栗畑氏の設定した古い段階の塞ノ神B1タイプも一定量存在するが、塞ノ神B2タイプや塞ノ神B3タイプが多い。特に口縁部がわずかに外傾する一群や直口気味に立ち上がる円筒形状の器形を呈するものは、苫浜式土器と器形、文様要素、調整等で類似する点が多く、時間的に近似すると考えられる。

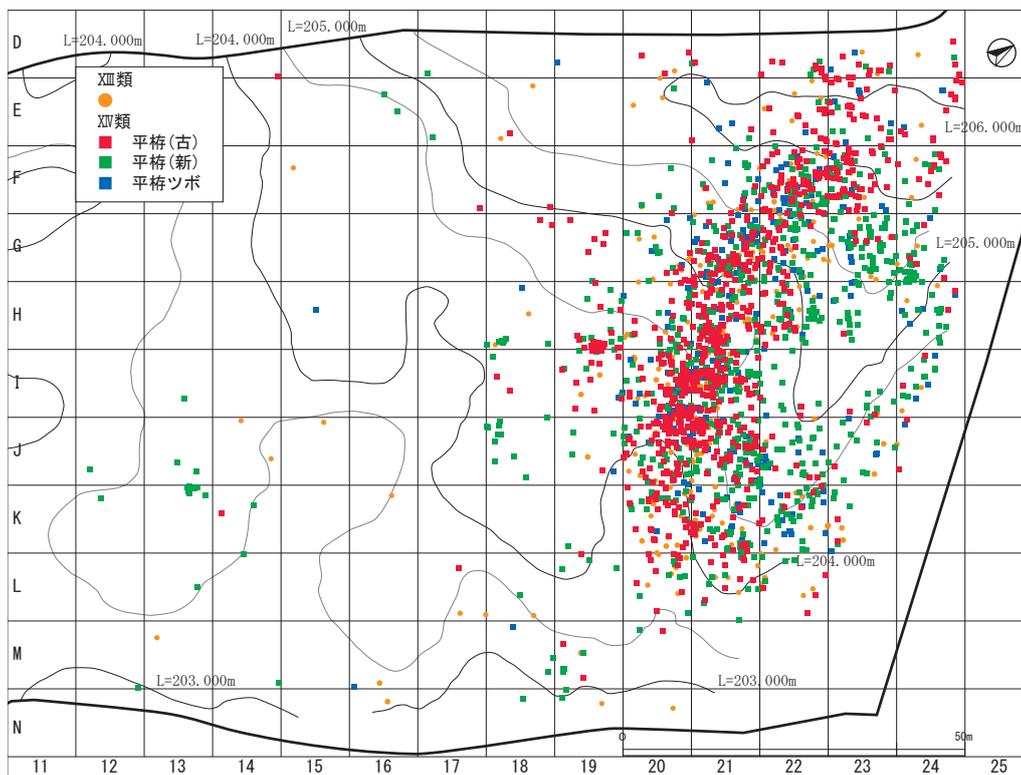
XIII類土器は外面に貝殻条痕文を施した後、刻目突帯を施す一群で苫浜式土器に該当する。出土量は少ないがC～N-13～24区を中心に調査区の東側より出土し、塞ノ神B式土器と分布が重なる。

XIII類土器は口唇部外端に刻目を入れ、外面に貝殻条痕文を施す一群で、条痕文系土器群に該当する(栗畑2016)。D～N-12～24区の範囲を中心に点在するように分布する。

XIII類土器はXIV～XVI土器に伴うものが多いと考えられる。分布も概ね重なる傾向にある。

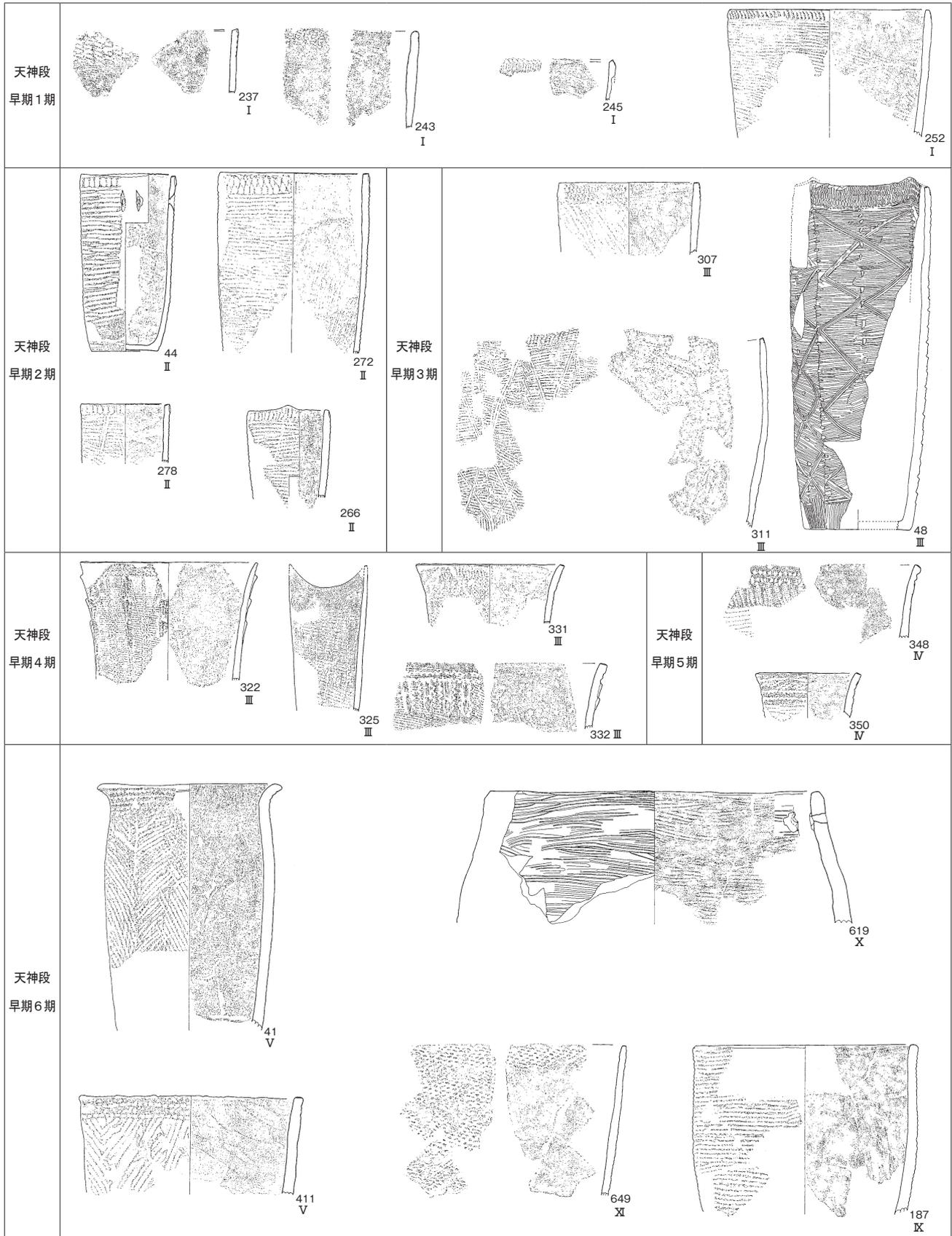
XIV類土器の1504～1507は白ヶ野式土器(岩永2006)に該当する。類例が田原迫ノ上遺跡より出土している。土器附着炭化物の年代測定の結果等から押型文土器の第3段階後半～第4段階に位置づけられると考えられる。

第621図～第624図は天神段遺跡出土縄文早期土器変遷図である。近年の編年研究等を参考に1～15期に細別した。6期～8期は複数の系統が併行するような状況である。系統間の併行関係に関しては山下大輔氏の研究(山下2015)を参考にした。



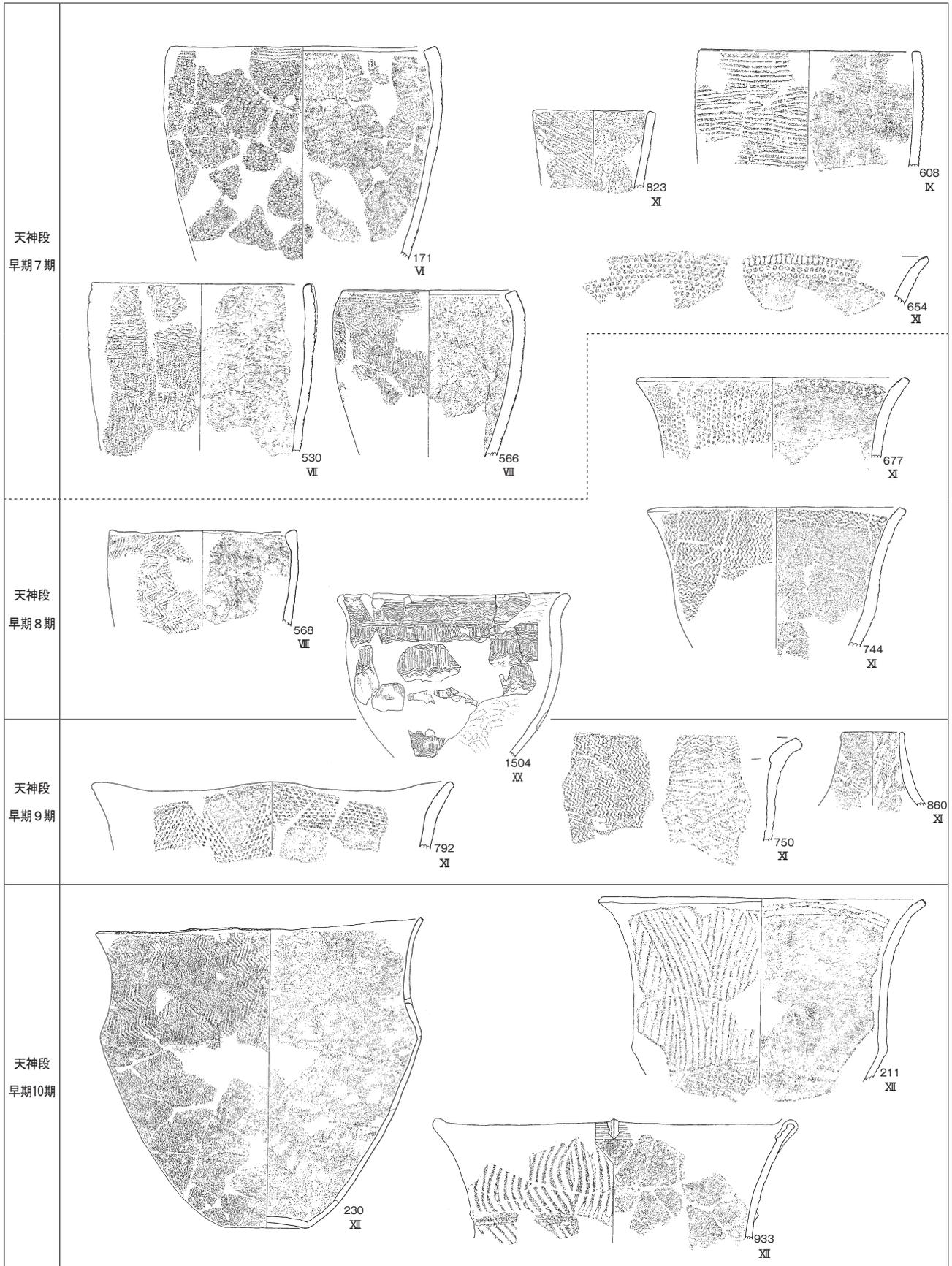
第620図 D～N-11～25区 XIII・XIV類土器出土状況図





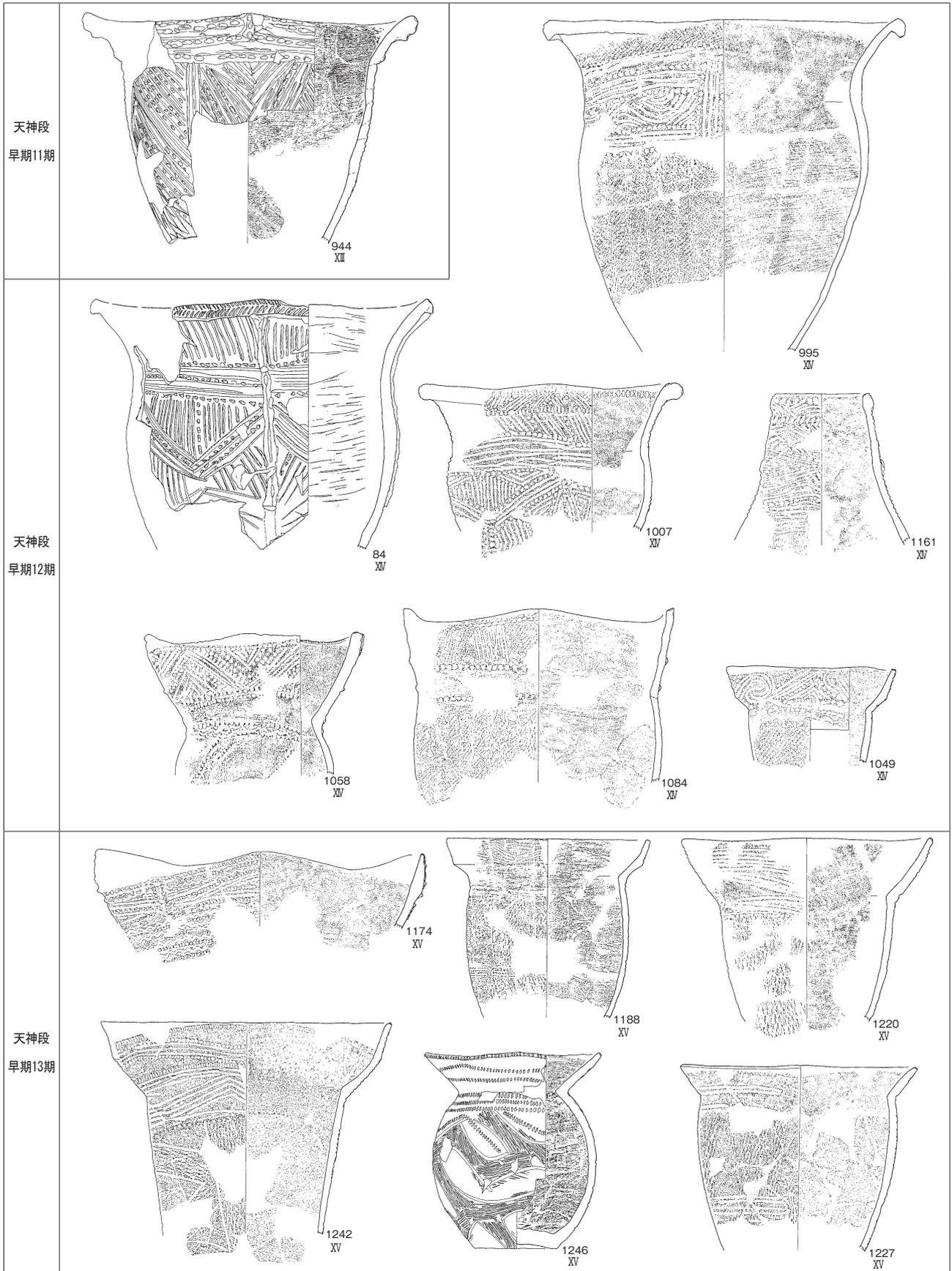
S = 1/6, 649 のみ S = 1/4

第 621 図 天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 ( 1 )



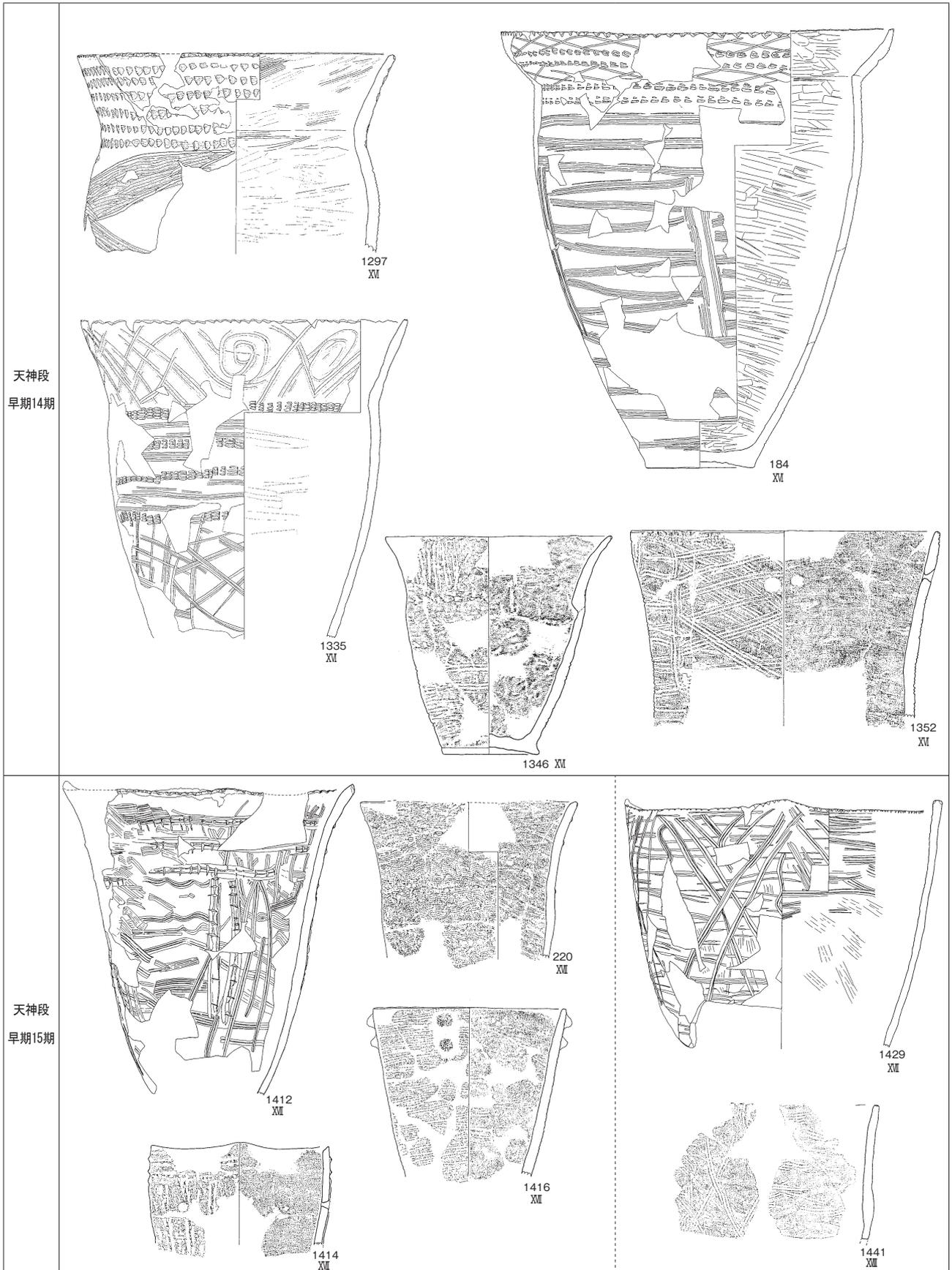
S = 1/6

第 622 図 天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 ( 2 )



S = 1/6

第 623 図 天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 (3)



S = 1/6

第 624 図 天神段遺跡出土縄文時代早期土器変遷図 ( 4 )

## 【引用・参考文献】

- 岩永哲夫 2006 「見慣れぬ土器のはなしー縄文時代早期『白ヶ野土器』の設定ー」『大河』8 pp. 167～177 大河同人
- 上杉彰紀 2003 「南九州の縄文時代早期前半期に関する覚書ー加栗山式土器段階を中心にー」『立命館大学考古学研究論集』pp. 1～14 立命館大学考古学研究論集刊行会
- 上杉彰紀・深野信之 2004 「前平式土器および志風頭式土器の検討」『南九州縄文通信』15 pp. 19～40 南九州縄文研究会
- 上杉彰紀・深野信之・松本茂 2004 「第IX章 まとめ 2 第VI・VII層の調査」『建昌城跡ー平成11～15年度発掘調査報告書ー』始良町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集 pp. 407～421 始良町教育委員会
- 上杉彰紀 2005 「『政所式土器』研究の現状と課題」『九州縄文早期研究ノート』3 pp. 11～23 九州縄文時代早期研究会
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2001 『上野原遺跡(第10地点)』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(28)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005 『大坪遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(79)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005 『桐木耳取遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(91)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2007 『前原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(107)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2007 『上水流遺跡1』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(113)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2009 『農業開発総合センター遺跡群VI(中尾遺跡・荒田遺跡・桜谷遺跡)』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(138)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2010 『定塚遺跡・稲村遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(153)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2012 『稻荷迫遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(169)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2012 『宮ヶ原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(173)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2014 『船迫遺跡・高吉B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(180)
- 鹿児島県教育委員会・公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2017 『永吉天神段遺跡2 第2地点-1』(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(13)
- 鹿児島県教育委員会・公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター 2017 『田原迫ノ上遺跡2』(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(15)
- 河口貞徳 1972 「塞ノ神式土器」『鹿児島考古』6 pp. 1～44 鹿児島県考古学会
- 木崎康弘 1996 「第V章 総括 2. 縄文時代早期土器群の編年学的研究ー中原式土器の設定ー」『蒲生・上の原遺跡ー県営農業基盤整備事業に伴う埋蔵文化財の調査』熊本県文化財報告書第158集 pp. 207～214 熊本県教育委員会
- 黒川忠広 2004 「南九州貝殻文系土器に見られる地域性について」『縄文の森から』2 pp. 11～18 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 桑波田武志 2001 「岩本式土器から前平式土器へー移行期の土器に着目してー」『鹿児島考古』35 pp. 11～26 鹿児島県考古学会
- 柴畑光博 2016 「鬼界アカホヤ噴火の九州縄文土器編年上での位置付けと土器型式の関係」『超巨大噴火が人類に与えた影響ー西南日本で起こった鬼界アカホヤ噴火を中心にー』pp. 64～68 雄山閣
- 小林謙一 2017 「2章 縄紋時代前半期の実年代 3節 縄紋時代早期の年代測定」『縄紋時代の実年代ー土器型式編年と炭素14年代ー』pp. 56～66 同成社
- 下山覚・鎌田洋昭 1999 「水迫式土器の設定ー南部九州の隆帯文土器から貝殻文系円筒土器への土器型式の変化についてー」『「ドキドキ縄文さきがけ展」図録』pp. 11～32 指宿市教育委員会
- 新東晃一 2008 「早期南九州貝殻文系土器」『総覧縄文土器』pp. 186～193 『総覧縄文土器』刊行委員会
- 前迫亮一 2000 「付篇 大隅半島中南部域における縄文時代早期前半期の変遷」『大中原遺跡』根占町埋蔵文化財報告書(10) pp. 245～250 根占町教育委員会
- 前迫亮一 2003 「石坂式土器再考」『縄文の森から』創刊号 pp. 43～50 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 南の縄文調査室 2016 「鹿児島県内の耳栓状土製品集成」『縄文の森から』9 pp. 61～64 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 八木澤一郎 2008 「平椀式・塞ノ神式土器」『総覧縄文土器』pp. 194～201 『総覧縄文土器』刊行委員会
- 山下大輔 2005 「所謂『五十市式土器』について」『九州縄文早期研究ノート』3 pp. 24～30 九州縄文時代早期研究会
- 山下大輔 2005 「下剝峯式および桑ノ丸式土器の再検討」『南九州縄文通信』16 pp. 53～72 南九州縄文研究会
- 山下大輔 2009 「南九州の押型文土器編年に関する一考察」『南の縄文・地域文化論考 新東晃一代表還暦記念論文集上巻』pp. 79～96 南九州縄文研究会 新東晃一代表還暦記念論文集刊行会
- 山下大輔 2015 「南九州における押型文土器研究の現状と課題」『貝殻文と押型文』pp. 1～18 宮崎考古学会南例会実行委員会
- 山下大輔・柴畑光博 2007 「南九州貝殻文円筒形土器と押型文土器の関係ー宮崎県における遺構内出土資料の検討からー」『縄文時代』18 pp. 185～203 縄文時代研究会
- 横手浩二郎 1998 「手向山式土器の細分と編年試案」『九州の押型文土器ー論攷編ー』pp. 59～83 九州縄文研究会

公益財団法人 鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 (18)  
東九州自動車道建設 (鹿屋串良 JCT ~ 曾於弥五郎 IC) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

## 天神段遺跡 3

(縄文時代早期編 第3分冊)

発行年月 2018年3月

編集・発行 鹿児島県教育委員会

公益財団法人 鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576

印刷所 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久620-1

TEL 0995-45-4880 FAX 0995-45-6979





鹿児島県